



共同訳聖書実行委員会

Executive Committee of The Common Bible Translation

[日本聖書協会](#)

Japan Bible Society

1987, 1988

聖書 新共同訳—新約聖書

Published by Japan Bible Society, Tokyo

The New Testament

The New Interconfessional Translation

電子書籍版 JBS-ed.1-2015

Cum approbatione ecclesiastica

制作・三省堂印刷

発行・日本聖書協会

聖書の原文は、旧約のほとんどがヘブライ語で、新約がギリシア語で書かれました。これを文字どおり人類の書とするために、古来、無数の翻訳が行われ、わが国においても昔から、各種の翻訳が行われてきました。

私たちは、今、このような形で、プロテスタント、カトリック両教会の共同事業として、「聖書 新共同訳」を公にすることができたことを深く感謝しています。カトリック教会とプロテスタント諸教会とは、歴史に明らかなように、教理上幾つかの点で主張を異にするものとして、相並んで存在してきました。ところが、しばらく前から、さまざまな見解の相違にもかかわらず、キリストを信じる者としての根本的な一致の認識が深まり、この認識に基づく両教会共同の作業としての聖書翻訳が、世界の各地で行われるようになりました。

わが国においても一九六九年に、聖書の共同翻訳に関する最初の会合が持たれて以来、その実現を目指して各種の委員会が設置されました。翻訳委員会が実際に、その作業を開始したのは三年後のことでしたが、一九七五年には「ルカスによる福音」、そして、一九七八年には全新約聖書の翻訳が完了し、刊行され、その後、引き続いて「詩編（抜粋）」「ルツ記」「ヨナ書」「ヨブ記」等、旧約の諸書が分冊として出版されました。聖書全巻の翻訳を待たないで、このような出版がされたのは、それによって読者の反響を待ち、これを全巻に反映させたいとの意図によるものでした。

翻訳を始めるにあたって、幾つかの基本方針を定めました。すなわち、できるかぎり、原文を完全に再現するために、忠実であり、正確であること、固有名詞表記も、原文の発音に近いものにするなどでした。しかし作業を進めて行く段階で、更に、聖書にふさわしい権威、品位を保持した文体であること、既に一般によく知られ、用い慣らされた用語などは、むしろそれを踏襲した方がよいのではないか等の反省も加味されるようになりました。

果たして完全な翻訳がありうるかと問われたならば、その答えは、否、でありましょう。ましてや、委員たちが直面したのは神の言葉である聖書であります。こうして翻訳は思わぬ時を費やし、刊行の期日は幾度も変更され、今日に至った次第です。

今回の「聖書 新共同訳」において特筆すべき点の一つは、神聖なるお方に対して敬語を用いたということ、今一つは、従来、日本聖書協会が発行してきた旧新約全巻としての聖書とともに、「旧約統編」をも入れた版と二種類の版を刊行したことであります。

旧約統編は従来、第二正典、アポクリファ、外典などと呼ばれてきたもので、紀元前三世紀以後、数世紀の間に、ユダヤ人によって書かれたものです。それらは、現在のヘブライ語の聖書の中には含まれていませんが、初期のキリスト教徒は、これをギリシア語を用いるユダヤ教徒から聖なる書物として受け継ぎました。この部分についてのカトリック教会の評価は定まっていますが、プロテスタント諸教会の間では必ずしも一定していません。

邦語訳聖書の歴史も、既にかかなりの歳月を経過しました。最初、一五四九年、イエズス会のフランシスコ・ザビエルが鹿児島に上陸した時、彼はラテン語の聖書とともに、日本語訳の「マタイ福音書」の一部分を持って来たと伝えられています。その後、一六一三年ころには、カトリックの宣教師たちによる邦訳新約全書が京都で刊行されたと記録されています。

プロテスタントの側としては一八三七年に刊行された、ギュツラフの「ヨハネ福音書」の「ハジマリニ カシコイモノゴザル」がよく知られています。幕末にいたってJ・C・ヘボン、S・R・ブラウン等が来日し、いずれも聖書の邦訳に努力しました。一八八〇年にはヘボンを中心とする「翻訳委員社中」による「新約聖書」が刊行されました。このほかにも、バプテスト教会版新約聖書、ハリストス正教会版新約聖書もあります。その後、聖書協会の改訳聖書を経て、戦後には各種の口語訳聖書が刊行されて現在に至っています。

日本聖書協会が一八八七年、最初の旧新約聖書を出版して満百年、奇しくも、この記念の年にプロテスタント、カトリック共同翻訳の聖書を、愛する同胞にお届けする運びとなりました。

なお私どもが、今回の翻訳をことさら「新共同訳」としたのには、次の三つの理由があります。第一は、新約聖書の部分が、一九七八年に出版した、「新約聖書 共同訳」に対し、全く新しい翻訳といえるほどに大幅改訂の加えられたものになったということです。第二は、旧・新約を通ずるすべての人名・地名の日本語表記に、新しい方式がとられたことであります。すなわち、固有名詞を、基本的には、「原音」で表記するという現代の方法を聖書にも導入しつつ、他方で一般の「慣用」が定着した一部の人名等については、これを尊重するという新しい方針を、一九八三年に取り決め、それによる表記を実施しました。第三に、原文と訳文との間のかかわり方や、日本語の文体など翻訳上の方針を、発足当初に志向したところから、教会での典礼や礼拝にも用いられるのにふさわしいものとする方向へと改め、その点にそって翻訳が行われた点でも、新しい共同訳聖書となったと考えています。

志を起こさせ、これを実現に導いてくださった神の御名を限りなく賛美たく存じます。終わりに、この「聖書 新共同訳」の刊行のために、祈りをもって関係者の全員を支え、また、貴い献げ物をもって、その実現を可能にくださったすべての方々

に心よりの感謝を申し上げます。

神が、いまここにささげられた聖書を祝福し、同胞の救いのために用いたまいますように。

凡 例

- 一・漢字には、数詞として使われている場合以外、振り仮名を付けることを原則とした。
- なお、訳語「洗礼」については、「せんれい」と読む場合のほか、「バプテスマ」と読む場合を考慮し、例外として〔バプテスマ〕の振り仮名を付した。
- 二・固有名詞表記は聖書訳語委員会が作成し、共同訳聖書実行委員会が、一九八四年二月にその改訂を承認した後の「日本語表記」によった。
- 三・章・節区分および使用した記号
- (1)章・節の区分は、各底本に従った。
- (2) ` ˘
- 新約聖書において、底本の字義どおり「霊」と訳した個所のうち、「聖霊」あるいは「神の霊」「主の霊」が意味されていると思われる場合には前後に ` ˘ を付けた。
- (3)†
- 底本に節が欠けていることを示す。新約聖書においては、この部分の異本による訳文を当該書の末尾に付した。
- (4)――
- 挿入と見るのが一般的とされている個所、および意味上、挿入句として読む方が理解しやすい個所などに用いた。
- (5)〔 〕
- 新約聖書において、後代の加筆と見られているが年代的に古く重要である個所を示す。
- 四・小見出し
- 本文の内容区分ごとの概括的な理解を助ける趣旨から、一部の書を除き、小見出しをゴシック体で示した。小見出しは本文ではない。なお、その下に（ ）がある場合、書の略語、章・節数字は、関連個所を示す。
- 五・度量衡および通貨については、元の単位を原語の発音に近い表記で表した。付録の「度量衡および通貨」を参照。
- 六・本聖書の底本は次のとおり。
- (1)旧約聖書
- 「ヒブリア・ヘブライカ・シュトットガルテンシア」（ドイツ聖書協会）
- (2)新約聖書「ギリシア語新約聖書（修正第三版）」（聖書協会世界連盟）

目 次

書 名	略語	章数
マタイによる福音書	マタ	28
マルコによる福音書	マコ	16
ルカによる福音書	ルカ	24
ヨハネによる福音書	ヨハ	21
使徒言行録	使	28
ローマの信徒への手紙	ロマ	16
一コリントの信徒への手紙一	一コリ	16
二コリントの信徒への手紙二	二コリ	13
ガラテヤの信徒への手紙	ガラ	6
エフェソの信徒への手紙	エフェ	6
フィリピの信徒への手紙	フィリ	4
コロサイの信徒への手紙	コロ	4
一テサロニケの信徒への手紙一	一テサ	5
二テサロニケの信徒への手紙二	二テサ	3
一テモテへの手紙一	一テモ	6
二テモテへの手紙二	二テモ	4
テトスへの手紙	テト	3
フィレモンへの手紙	フィレ	1
ヘブライ人への手紙	ヘブ	13
ヤコブの手紙	ヤコ	5
一ペトロの手紙一	一ペト	5
二ペトロの手紙二	二ペト	3
一ヨハネの手紙一	一ヨハ	5
二ヨハネの手紙二	二ヨハ	1
三ヨハネの手紙三	三ヨハ	1
ユダの手紙	ユダ	1
ヨハネの黙示録	黙	22

マタイによる福音書

- [1章](#) [2章](#) [3章](#) [4章](#) [5章](#)
- [6章](#) [7章](#) [8章](#) [9章](#) [10章](#)
- [11章](#) [12章](#) [13章](#) [14章](#) [15章](#)
- [16章](#) [17章](#) [18章](#) [19章](#) [20章](#)
- [21章](#) [22章](#) [23章](#) [24章](#) [25章](#)
- [26章](#) [27章](#) [28章](#)

[【戻る】](#)

ふくいんしよ
マタイによる福音書

けいず
イエス・キリストの系図

(ルカ3:23—38)

1
「アブラハムの子ダビデの子、イエス・キリストの系図。

「²アブラハムはイサクをもうけ、イサクはヤコブを、ヤコブはユダとその兄弟たちを、³ユダはタマルによってペレツとゼラを、ペレツはヘツロンを、ヘツロンはアラムを、⁴アラムはアミナダブを、アミナダブはナフションを、ナフションはサルモンを、⁵サルモンはラハブによってボアズを、ボアズはルツによってオベドを、オベドはエッサイを、⁶エッサイはダビデ王をもうけた。

ダビデはウリヤの妻によってソロモンをもうけ、⁷ソロモンはレハブアムを、レハブアムはアビヤを、アビヤはアサを、⁸アサはヨシャファトを、ヨシャファトはヨラムを、ヨラムはウジヤを、⁹ウジヤはヨタムを、ヨタムはアハズを、アハズはヒゼキヤを、¹⁰ヒゼキヤはマナセを、マナセはアモスを、アモスはヨシヤを、¹¹ヨシヤは、バビロンへ移住させられたころ、エコンヤとその兄弟たちをもうけた。

¹²バビロンへ移住させられた後、エコンヤはシャルティエルをもうけ、シャルティエルはゼルバベルを、¹³ゼルバベルはアビウドを、アビウドはエリアキムを、エリアキムはアゾルを、¹⁴アゾルはサドクを、サドクはアキムを、アキムはエリウドを、¹⁵エリウドはエレアザルを、エレアザルはマタンを、マタンはヤコブを、¹⁶ヤコブはマリアの夫ヨセフをもうけた。このマリアからメシアと呼ばれるイエスがお生まれになった。

¹⁷こうして、全部合わせると、アブラハムからダビデまで十四代、ダビデからバビロンへの移住まで十四代、バビロンへ移されてからキリストまでが十四代である。

たんじょう
イエス・キリストの誕生

(ルカ2:1—7)

¹⁸イエス・キリストの誕生の次第は次のようであつた。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒にになる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。¹⁹夫ヨセフは正しい人であつたので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。²⁰このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿つたのである。²¹マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」²²このすべてのことが起こつたのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであつた。

み おとこ こ う
よ、おとめが身ごもつて男の子を産む。

その名はインマヌエルと呼ばれる。」

この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。²⁴ヨセフは眠りから覚めると、主の天使が命じたとおり、妻を迎え入れ、²⁵男の子が生まれるまでマリアと関係することはなかった。そして、その子をイエスと名付けた。

せんせいじゆつ がくしや おとず
占星術の学者たちが訪れる

2
「イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった。そのとき、占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て、²言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」³これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であつた。⁴王は民の祭司長たちや律法学者たちを皆集めて、メシアはどこに生まれることになっているのかと問いただし、⁵彼らは言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者がこう書いています。

ち
「地の、ベツレヘムよ、
まえ しどうしや なか
お前はユダの指導者たちの中で
けつ ちい
決していちばん小さいものではない。
まえ しどうしや あらわ
お前から指導者が現れ、
たみ ぼくしや
わたしの民イスラエルの牧者となるからである。』」

⁷そこで、ヘロデは占星術の学者たちをひそかに呼び寄せ、星の現れた時期を確かめた。⁸そして、「行つて、その子のことを詳しく調べ、見つかったら知らせてくれ。わたしも行つて拝もう」と言つてベツレヘムへ送り出した。⁹彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立つて進み、ついに幼子のいる場所の上に止まつた。¹⁰学者たちはその星を見て喜びにあふれた。¹¹家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、¹²それからこのあ おうごん にゆうこう もつやく おく もの ささ かえ ゆめ つ べつ みち とお じぶん
宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。¹³ところが、「ヘロデのところへ帰るな」と夢でお告げがあつたので、別の道を通つて自分たちの国へ歸つて行つた。

エジプトに避難する

¹⁹ 占星術の学者たちが帰って行くと、主の天使が夢でヨセフに現れて言った。「起きて、子供とその母親を連れて、エジプトに逃げ、わたしが告げるまで、そこにとどまっていなさい。ヘロデが、この子を探し出して殺そうとしている。」¹⁴ヨセフは起きて、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトへ去り、¹⁵ヘロデが死ぬまでそこにいた。それは、「わたしは、エジプトからわたしの子を呼び出した」と、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。

ヘロデ、子供を皆殺しにする

¹⁶ さて、ヘロデは占星術の学者たちにだまされたと知つて、大いに怒った。そして、人を送り、学者たちに確かめておいた時期に基づいて、ベツレヘムとその周辺一帯にいた二歳以下の男の子を、一人残らず殺させた。¹⁷ こうして、預言者エレミヤを通して言われていたことが実現した。

マで声が聞こえた。

く嘆き悲しむ声だ。

ルは子供たちのことで泣き、

めてもらおうともしない、

またちがもういないから。」

エジプトから帰国する

¹⁹ ヘロデが死ぬと、主の天使がエジプトにいるヨセフに夢で現れて、²⁰ 言った。「起きて、子供とその母親を連れ、イスラエルの地に行きなさい。この子の命をねらっていた者どもは、死んでしまった。」²¹ そこで、ヨセフは起きて、幼子とその母を連れて、イスラエルの地へ帰って来た。²² しかし、アルケラオが父ヘロデの跡を継いでユダヤを支配していると聞き、そこに行くことを恐れた。ところが、夢でお告げがあったので、ガリラヤ地方に引きこもり、²³ ナザレという町に行って住んだ。「彼はナザレの人と呼ばれる」と、預言者たちを通して言われていたことが実現するためであった。

洗礼者ヨハネ、教えを宣べる

(マコ11—8、ルカ31—9、15—17、ヨハ119—28)

3

¹ そのころ、洗礼者ヨハネが現れて、ユダヤの荒れ野で宣べ伝え、² 「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言った。³ これは預言者イザヤによってこう言われてい

る人である。

れ野で叫ぶ者の声がする。

の道を整え、

道筋をまっすぐにせよ。』」

⁴ ヨハネは、らくだの毛衣を着、腰に革の帯を締め、いなごと野蜜を食べ物としていた。⁵ そこで、エルサレムとユダヤ全土から、また、ヨルダン川沿いの地方一帯から、人々がヨハネのもとに来て、⁶ 罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。

⁷ ヨハネは、ファリサイ派やサドカイ派の人々が大勢、洗礼を受けに来たのを見て、こう言った。「蝮の子らよ、差し迫った神の怒りを免れると、だれが教えたのか。⁸ 悔い改めにふさわしい実を結べ。『我々の父はアブラハムだ』などと思ってもみるな。言うておくが、神はこんな石からでも、アブラハムの子たちを造り出すことがおできになる。⁹ 斧は既に木の根元に置かれている。良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれる。''わたしは、悔い改めに導くために、あなたたちに水で洗礼を授けているが、わたしの後から来る方は、わたしよりも優れておられる。わたしは、その履物をお脱がせする値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。¹² そして、手に箕を持って、脱穀場を隔々まできれいにし、麦を集めて倉に入れ、穀を消費することのない火で焼き払われる。」

〔バプテスマ〕　う
イエス、　洗礼　を受ける

（マコ19—11、ルカ3 21—22）

¹²そのとき、イエスが、ガリラヤからヨルダン川^{がわ}のヨハネのところへ来^こられた。彼^{かれ}から　洗礼　を受けるためである。¹³ところが、ヨハネは、それを思^{おも}いとどませようとして言^いった。「わたしこそ、あなたから　洗礼　を受けるべきなのに、あなたが、わたしのところへ来^こられたのですか。」¹⁴しかし、イエスはお答^{こた}えになった。「今は、止めないでほしい。正しいことをすべて　行^いうのは、我々^{われわれ}にふさわしいことです。」そこで、ヨハネはイエスの言^いわれるとおりにした。¹⁵イエスは　〔バプテスマ〕　洗礼　を受けると、すぐ水の中から上^あがられた。そのとき、天^{てん}がイエスに向^むかって開^{ひら}いた。イエスは、神の霊^{れい}が鳩のように御自分^{ごらん}の上に降^{くだ}って来るのを御覧^みになった。¹⁶そのとき、「これはわたしの愛^{あい}する子^こ、わたしの　心^{こころ}に　適^{かな}う者^{もの}」と言う声^{こゑ}が、天^{てん}から聞^きこえた。

〔うわく〕　う
誘惑^{ゆうわく}を受ける

（マコ1 12—13、ルカ4 1—13）

4

¹さて、イエスは悪魔^{あくま}から誘惑^{ゆうわく}を受けるため、　〔霊〕　に　導^{れい}かれて荒^{みちび}れ野^あに行^いかれた。²そして四十日^{にちかん}間^{ひる}、昼^{よる}も夜^{だんじき}も断^{のち}食^{くうふく}した後^{おぼ}、空腹^{ゆう}を覚^めえられた。³すると、誘惑^{ゆう}する者^{もの}が来^きて、イエスに言^いった。「神の子なら、これら^{かみ}の石^こがパンになるように命^{めい}じたらどうだ。」⁴イエスはお答^{こた}えになった。

⁵人はパンだけで生^いきるものではない。

　　くち　で　ことば　い
り口^{くち}から出^でる一つ一つの言^{ことば}葉^いで生^いきる』
　　か　つぎ　あくま　せい　みやこ　つ　い　しんでん　や　ね　はし　た　い　かみ　こ　と　お
と書^かいてある。」⁶次に、悪魔^{あくま}はイエスを聖^{せい}なる　都^{みやこ}に連^つれて行^いき、神^{しん}殿^{でん}の屋根^{やね}の端^{はし}に立^たたせて、⁷言^いった。「神の子なら、飛^{かみ}び降^こりたらどうだ。

　　み　てんし　めい
申^みがあなたのため^{てんし}に天^{めい}使^したち^{めい}に命^{めい}じると、

　　あし　いし　う　あ
ゝたの足^{あし}が石^{いし}に打^うち当^あたることのないように、
　　てんし　て　ささ
天^{てんし}使^てたちは手^{ささ}であなたを支^{ささ}える』
　　か　かみ　しゅ　ため　か　い　さら　あくま　ひじょう　たか　やま　つ　い　よ
と書^かいてある。」⁹イエスは、「『あなたの神である主^{かみ}を試^{しゅ}してはならない』とも書^{かみ}いてある」と言^いわれた。⁸更に、悪魔^{あくま}はイエスを非^ひ常^{じょう}に高^{たか}い山^{やま}に連^つれて行^いき、世^よのすべ^{くにくに}ての国^{はんえい}々^みとその繁^ふ栄^{おが}ぶりを見^{おが}せて、⁹「もし、ひれ伏^ふしてわたしを拝^{おが}むなら、これ^{あた}をみんな与^いえよう」と言^いった。¹⁰すると、イエスは言^いわれた。「　退^{しりぞ}け、サタン^{しりぞ}。」

　　かみ　しゅ　おが
ゝなたの神^{かみ}である主^{しゅ}を拝^{おが}み、

　　しゅ　つか
ゝ主^{しゅ}に仕^{つか}えよ』
　　か　あくま　はな　さ　てんし　き　つか
と書^かいてある。」¹¹そこで、悪魔^{あくま}は離^{はな}れ去^さった。すると、天^{てんし}使^したちが来^きてイエスに仕^{つか}えた。

ガリラヤ^{でんどう}で伝^{はじ}道^{みち}を始^{はじ}める

（マコ1 14—15、ルカ4 14—15）

¹²イエスは、ヨハネが捕^とらえられたと聞^きき、ガリラヤに　退^{しりぞ}かれた。¹³そして、ナザレ^{はな}を離^{はな}れ、ゼブルン^{ちほう}とナフタリ^{こはん}の地^{まち}方^きにある湖^き畔^すの町^{まち}カファルナウ^きムに來^きて住^すまれた。¹⁴それは、預^{よげん}言^{しゃ}者^{とお}イザヤ^いを通^じして言^いわれていたことが実^{じつげん}現^{げん}するためであつた。

ブルン^ちの地^ちとナフタリ^ちの地^ち、

　　しりぞ　みち　がわ　ち
　　|　沿^{しりぞ}いの道^{みち}、ヨルダン川^{がわ}のかなた^ちの地^ち、

　　いほうじん
異邦^{いほうじん}人^{じん}のガリラヤ^{じん}、

　　な　す　たみ　おお　ひかり　み
　　|　住^なむ民^すは大きな光^{ひかり}を見^み、

かぜ　ち　す　もの　ひかり　さ　こ
陰の地に住む者に 光 が射し込んだ。」

く　あらた　てん　くに　ちか　い　の　つた　はじ
"そのときから、イエスは、「悔い 改 めよ。天の国は近づいた」と言って、宣べ伝え始められた。

にん　りょうし　でし
四人の 漁 師を弟子にする

(マコ116—20、ルカ51—11)

こ　ある　ふた　り　きょうだい　よ　きょうだい　みずうみ　あみ　う　ごらん
¹⁸イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、二人の 兄 弟、ペトロと呼ばれるシモンとその 兄 弟アンデレが、 湖 で網を打っているのを御覧に
なつた。彼らは 漁 師だった。¹⁹イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる 漁 師にしよう」と言われた。²⁰二人はすぐに網を捨てて 従 った。²¹そこから進
んで、別の二人の 兄 弟、ゼベダイの子ヤコブとその 兄 弟ヨハネが、父 親のゼベダイと一 緒に、舟の中で網の手入れをしているのを御覧になると、彼らをお呼
びになった。²²この二人もすぐに、舟と父 親とを残してイエスに 従 った。

びょうにん
おびただしい病 人をいやす

(ルカ617—19)

じゅう　まわ　しょうかいどう　おし　みに　ふくいん　の　つた　みんしゅう　びょうき　わずら　ひょう
²³イエスはガリラヤ 中 を回って、諸 会 堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、また、民 衆 のありとあらゆる 病 気や 患 いをいやされた。²⁴そこで、イエスの 評
判がシリア 中 に 広 まった。人々がイエスのところへ、いろいろな 病 気や苦しみに悩む者、悪霊に取りつかれた者、てんかんの者、 中 風 の者など、あらゆる
びょうにん　つ　き　ひとびと　なや　もの　あくれい　と　もの　ちゆうぶ　もの
病 人を連れて来たので、これらの人々をいやされた。²⁵こうして、ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤ、ヨルダン川の向こう側から、大勢の群 衆 が来
てイエスに 従 った。

さんじょう　せつきょう　はじ
山 上 の説 教（五—七章）を始める

5

ぐんしゅう　み　やま　のぼ　こし　お　でし　ちか　よ　き　くち　ひら　おし
¹イエスはこの群 衆 を見て、山に登られた。腰を下ろされると、弟子たちが近くに寄って来た。²そこで、イエスは口を開き、教えられた。

さいわ
幸 い

(ルカ620—23)

ろ　まず　ひとびと　さいわ
の貧しい人々は、 幸 いである、

てん　くに　ひと
天の国はその人たちのものである。

ひとびと　さいわ
む人々は、 幸 いである、

ひと　ながさ
その人たちは 慰 められる。

う　ひとびと　さいわ
[]な人々は、 幸 いである、

ひと　ち　う　つ
その人たちは地を受け継ぐ。

う　かわ　ひとびと　さいわ
饥え渴く人々は、 幸 いである、

ひと　み
その人たちは満たされる。

ふか　ひとびと　さいわ
み深い人々は、 幸 いである、

ひと あわ う
その人たちは憐れみを受ける。

きよ ひとびと さいわ
り清い人々は、幸いである、

ひと かみ み
その人たちは神を見る。

じつげん ひとびと さいわ
を実現する人々は、幸いである、

ひと かみ こ よ
その人たちは神の子と呼ばれる。

はくがい ひとびと さいわ
ために迫害される人々は、幸いである、

てん くに ひと
天の国はその人たちのものである。

はくがい み おぼ あつこう あ さいわ よろこ おお よろこ
"わたしのためにののしられ、迫害され、身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられるとき、あなたがたは幸いである。"¹² 喜びなさい。大いに喜びなさい。天には大きな報いがある。あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。」

ち しお よ ひかり
地の塩・世の光

（マコ9 50、ルカ14 34—35）

ち しお しお しおけ しお なに しおあじ つ なん やく た そと な す ひと
¹³「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。¹⁴あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。¹⁵また、ともし火をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。¹⁶そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」

りっぽう
律法について

き りっぽう よげんしゃ はいし おも はいし かんせい い
¹⁷「わたしが来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思つてはならない。廃止するためではなく、完成するためである。¹⁸はつきり言つておく。すべてのことが実現し、天地が消えうせるまで、律法の文字から一点一画も消え去ることはない。¹⁹だから、これらの最も小さな掟を一つでも破り、そうするようにと人に教える者は、天の国で最も小さい者と呼ばれる。しかし、それを守り、そうするようには教える者は、天の国で大いなる者と呼ばれる。²⁰言つておくが、あなたがたの義が律法学者やファリサイ派の人々の義にまさっていなければ、あなたがたは決して天の国に入ることができない。」

はら た
腹を立ててはならない

き むかし ひと ころ ひと ころ もの さば う めい い きょうだい はら た
²¹「あなたがたも聞いているとおり、昔の人は『殺すな。人を殺した者は裁きを受ける』と命じられている。²²しかし、わたしは言つておく。兄弟に腹を立てる者はだれでも裁きを受ける。兄弟に『ばか』と言う者は、最高法院に引き渡され、『愚か者』と言う者は、火の地獄に投げ込まれる。²³だから、あなたが祭壇に供え物を献げようとし、兄弟が自分に反感を持っているのをそこで思い出したなら、²⁴その供え物を祭壇の前に置き、まず行って兄弟と仲直りをし、それから帰つて来て、供え物を献げなさい。²⁵あなたを訴える人と一緒に道を行く場合、途中で早く和解しなさい。さもないと、その人はあなたを裁判官に引き渡し、裁判官は下役に引き渡し、あなたは牢に投げ込まれるにちがいない。²⁶はつきり言つておく。最後の一クアドランスを返すまで、決してそこから出ることはできない。」

かんいん
姦淫してはならない

き かんいん めい い おも たにん つま み もの すで ところ
²⁷「あなたがたも聞いているとおり、『姦淫するな』と命じられている。²⁸しかし、わたしは言つておく。みだらな思いで他人の妻を見る者はだれでも、既に心の中でその女を犯したのである。²⁹もし、右の目があなたをつまづかせるなら、えぐり出して捨ててしまいなさい。体の一部がなくなっても、全身が地獄に投げ込まれない方がましである。³⁰もし、右の手があなたをつまづかせるなら、切り取つて捨ててしまいなさい。体の一部がなくなっても、全身が地獄に落ちない方がましである。」

りえん
離縁してはならない

（マタ19 9、マコ10 11—12、ルカ16 18）

つま りえん もの りえんじょう わた めい い ふほう けつこん つま りえん もの おんな
³¹「『妻を離縁する者は、離縁状を渡せ』と命じられている。³²しかし、わたしは言つておく。不法な結婚でもないのに妻を離縁する者はだれでも、その女

に姦通の罪を犯させることになる。離縁された女を妻にする者も、姦通の罪を犯すことになる。」

誓ってはならない

「また、あなたがたも聞いているとおり、昔の人は、『偽りの誓いを立てるな。主に対して誓ったことは、必ず果たせ』と命じられている。³⁴しかし、わたしは言っておく。一切誓いを立ててはならない。天にかけて誓ってはならない。そこは神の玉座である。³⁵地にかけて誓ってはならない。そこは神の足台である。エルサレムにかけて誓ってはならない。そこは大王の都である。³⁶また、あなたの頭にかけて誓ってはならない。髪の毛一本すら、あなたは白くも黒くもできないからである。³⁷あなたがたは、『然り、然り』『否、否』と言いなさい。それ以上のはことは、悪い者から出るのである。」

復讐してはならない

(ルカ629—30)

「あなたがたも聞いているとおり、『目には目を、歯には歯を』と命じられている。³⁸しかし、わたしは言っておく。悪人に手向かつてはならない。だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。³⁹あなたを訴えて下着を取ろうとする者には、上着をも取らせなさい。⁴⁰だれかが、一ミリオン行くように強いるなら、一緒に二ミリオン行きなさい。⁴²求める者には与えなさい。あなたから借りようとする者に、背を向けてはならない。」

敵を愛しなさい

(ルカ627—28・32—36)

「あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。⁴³しかし、わたしは言っておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。⁴⁴あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。⁴⁶自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな報いがあるうか。徴税人でも、同じことをしているではないか。⁴⁷自分の兄弟にだけ挨拶したところで、どんな優れたことをしたことになろうか。異邦人でさえ、同じことをしているではないか。⁴⁸だから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」

施しをするときには

6

「見てもらおうとして、人の前で善行をしないように注意しなさい。さもないと、あなたがたの天の父のもとで報いをいただけないことになる。¹だから、あなたは施しをするときには、偽善者たちが人からほめられようと会堂や街角でするように、自分の前でラッパを吹き鳴らしてはならない。はつきりあなたがたに言っておく。彼らは既に報いを受けている。³施しをするときは、右の手のすることを左の手に知らせてはならない。⁴あなたの施しを人目につかせないためである。そうすれば、隠れたことを見ておられる父が、あなたに報いてくださる。」

祈るときには

(ルカ112—4)

「祈るときにも、あなたがたは偽善者のようであってはならない。偽善者たちは、人に見てもらおうと、会堂や大通りの角に立って祈りたがる。はつきり言っておく。彼らは既に報いを受けている。⁶だから、あなたが祈るときは、奥まった自分の部屋に入って戸を閉め、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる。⁷また、あなたがたが祈るときは、異邦人のようにくどくどと述べてはならない。異邦人は、言葉数が多いければ、聞き入れられると思い込んでいる。⁸彼らのまねをしてはならない。あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存じなのだ。⁹だから、こう祈りなさい。

に

に

に

が

が

が

に

てん　ち　うえ
天におけるように地の上にも。

ひつよう　かて　きょうあた
したちに必要な糧を今日与えてください。

お　め　ゆる
したちの負い目を赦してください、

じぶん　お　め　ひと
わたしたちも自分に負い目のある人を

ゆる
赦しましたように。

ゆうわく　あ
したちを誘惑に遭わせず、

わる　もの　すく
悪い者から救ってください。』

ひと　あやま　ゆる　てん　ちち　あやま　ゆる　ひと　ゆる　ちち　あやま
「もし人の　過　ちを赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたの　過　ちをお赦しになる。¹⁵しかし、もし人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの　過　ちをお赦しにならない。」

だんじき
断食するときには
だんじき　ぎ　ぜんしゃ　しず　かお　ぎ　ぜんしゃ　だんじき　ひと　み　かお　みぐる
¹⁶「断食するときには、あなたがたは偽善者のように沈んだ顔つきをしてはならない。偽善者は、断食しているのを人に見てもらおうと、顔を見苦しくする。
はつきりい　か　れ　す　で　むく　う　だんじき　あた　ま　あ　ぶ　ら　か　お　あ　ら　だんじき　ひと　き
はつきり言っておく。彼らは既に報いを受けている。」あなたは、断食するとき、頭　に　油　をつけ、顔を洗いなさい。¹⁸それは、あなたの断食が人に気づかれ
かく　かく　ちち　み　かく　み　ちち　むく
ず、隠れたところにおられるあなたの父に見ていただくためである。そうすれば、隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる。」

てん　とみ　つ
天に富を積みなさい

(ルカ12:33—34)
ちじょう　とみ　つ　むし　く　つ　ぬすびと　しの　こ　ぬす　だ　とみ　てん　つ
¹⁹「あなたがたは地　上　に富を積んではならない。そこでは、虫が食ったり、さび付いたりするし、また、盗人が忍び込んで盗み出したりする。²⁰富は、天に積み
むし　く　つ　ぬすびと　しの　こ　ぬす　だ　とみ　ころ
なさい。そこでは、虫が食うことも、さび付くこともなく、また、盗人が忍び込むことも盗み出すこともない。²¹あなたの富のあるところに、あなたの　心　もあるの
だ。」

からだ　び　め
体　の　ともし火は目
からだ　び　め　め　す　ぜんしん　あか　に　ご　ぜんしん　くら　なか　ひかり　き　くら
²²「　体　の　ともし火は目である。目が澄んでいれば、あなたの全身が明るいが、²³濁っていれば、全身が暗い。だから、あなたの中にある　光　が消えれば、その暗
さはどれほどであろう。」

かみ　とみ
神と富

(ルカ16:13)
ふたり　しゆじん　つか　いつぼう　にく　た　ほう　あい　いつぼう　した　た　ほう　かろ　かみ
²⁴「だれも、二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは、神と
とみ　つか
富とに仕えることはできない。」

おも　なや
思い悩むな

(ルカ12:22—32)
い　じぶん　いのち　なに　た　なに　の　じぶん　からだ　なに　き　おも　なや　いのち　た　もの　たいせつ
²⁵「だから、言っておく。自分の　命　のことで何を食べようか何を飲もうかと、また自分の　体　のことで何を着ようかと思い悩むな。　命　は食べ物よりも大切で
からだ　いふく　たいせつ　そ　ら　と　り　み　た　ね　ま　か　い　くら　お　さ　てん　ちち　と　り　やしな
あり、　体　は衣服よりも大切ではないか。²⁶空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を　養　つて
と　り　か　ち　おも　なや　じゆみよう　の
くださる。あなたがたは、鳥よりも価値あるものではないか。²⁷あなたがたのうちだれが、思い悩んだからといって、寿　命　をわずかでも延ばすことができよう
いふく　おも　なや　の　は　な　そ　だ　ちゆうい　み　は　たら　つ　む　い　えい　が　き　わ
か。²⁸なぜ、衣服のことで思い悩むのか。野の花がどのように育つのか、注　意　して見なさい。働　きもせず、紡ぎもしない。²⁹しかし、言っておく。栄華を極めた
は　な　き　か　ざ　き　ょう　は　あ　す　ろ　な　こ　の　く　さ　か　み　よ　そ　お
ソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。³⁰今日は生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように　装　つてくださる。ま
しんこう　う　す　もの　なに　た　なに　の　なに　き　い　おも　なや
して、あなたがたにはなおさらのことではないか、信　仰　の薄い者たちよ。³¹だから、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、思い悩む

な。³²それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである。³³何よりもまず、神のくに かみ ぎ もと てん ちち ひつよう ぞん なに かみ
国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。³⁴だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日 自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで 十 分である。」

ひと さば
人を裁くな

(ルカ6 37—38、41—42)

7

ひと さば さば
「人を裁くな。あなたがたも裁かれないようにするためである。²あなたがたは、自分の裁く裁きで裁かれ、自分の量る秤で量りと与えられる。³あなたは、兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか。⁴兄弟に向かって、『あなたの目からおが屑を取らせてください』と、どうして言えようか。自分の目に丸太があるではないか。⁵偽善者よ、まず自分の目から丸太を取り除け。そうすれば、はつきり見えるようになって、兄弟の目からおが屑と のぞ しんせい いぬ あた しんじゅ ぶた な あし ふ む なお
を取り除くことができる。⁶神聖なものを犬に与えてはならず、また、真珠を豚に投げてはならない。それを足で踏みじり、向き直ってあなたがたにかみついてくるだろう。」

もと
求めなさい

(ルカ11 9—13)

もと
「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。⁹だれでも、求める者は受け、探すものは み もん もの ひら ほ じぶん こども いし あた さかな ほ へび あた
者は見つけ、門をたたく者には開かれる。¹⁰あなたがたのだれが、パンを欲しがる自分の子供に、石を与えるだろうか。¹¹魚を欲しがるのに、蛇を与えるだろうか。¹²このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして、あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない。¹³だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である。」

せま もん
狭い門

(ルカ13 24)

せま もん はい ほろ つう もん ひろ みち ひろびろ はい もの おお いのち つう もん せま みち ほそ
「狭い門から入りなさい。滅びに通じる門は広く、その道も広々として、そこから入る者が多い。¹⁴しかし、命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだす者は少ない。」

み き し
実によって木を知る

(ルカ643—44)

15「偽預言者を警戒しなさい。彼らは羊の皮を身にまとしてあなたがたのところに来るが、その内側は貪欲な狼である。16あなたがたは、その実で彼らを見分ける。茨からぶどうが、あざみからいちじくが採れるだろうか。17すべて良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ。18良い木が悪い実を結ぶことはなく、また、悪い木が良い実を結ぶこともできない。19良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれる。20このように、あなたがたはその実で彼らを見分ける。」

あなたたちのことは知らない

(ルカ1325—27)

21「わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。わたしの天の父の御心を行う者だけが入るのである。22かの日には、大勢の者がわたしに、『主よ、主よ、わたしたちは御名によって預言し、御名によって悪霊を追い出し、御名によって奇跡をいろいろ行ったではありませんか』と言うであろう。23そのとき、わたしはきっぱりとこう言おう。『あなたたちのことは全然知らない。不法を働く者ども、わたしから離れ去れ。』」

家と土台

(ルカ647—49)

24「そこで、わたしのこれらの言葉を聞いて行う者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。25雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家を襲つても、倒れなかった。岩を土台としていたからである。26わたしのこれらの言葉を聞くだけで行わない者は皆、砂の上に家を建てた愚かな人に似ている。27雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家に襲いかかると、倒れて、その倒れ方がひどかった。」

28イエスがこれらの言葉を語り終えられると、群衆はその教えに非常に驚いた。29彼らの律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである。

重い皮膚病を患っている人をいやす

(マコ140—45、ルカ512—16)

8

イエスが山を下りられると、大勢の群衆が従った。すると、一人の重い皮膚病を患っている人がイエスに近寄り、ひれ伏して、「主よ、御心ならば、わたしを清くすることがおできになります」と言った。イエスが手を差し伸べてその人に触れ、「よろしい。清くなれ」と言われると、たちまち、重い皮膚病は清くなった。イエスはその人に言われた。「だれにも話さないように気をつけなさい。ただ、行って祭司に体を見せ、モーセが定めた供え物を献げて、人々に証明しなさい。」

百人隊長の僕をいやす

(ルカ71—10、ヨハ443—54)

さて、イエスがカファルナウムに入られると、一人の百人隊長が近づいて来て懇願し、「主よ、わたしの僕が中風で家に寝込んで、ひどく苦しんでいます」と言った。そこでイエスは、「わたしが行って、いやってあげよう」と言われた。すると、百人隊長は答えた。「主よ、わたしはあなたを自分の屋根の下にお迎えできるような者ではありません。ただ、ひと言おっしゃってください。そうすれば、わたしの僕はいやされます。わたしも権威の下にある者ですが、わたしの下には兵隊がおり、一人に『行け』と言えば行きますし、他の一人に『来い』と言えば来ます。また、部下に『これをしろ』と言えば、そのとおりにします。」10イエスはこれを聞いて感心し、従っていた人々に言われた。「はつきり言っておく。イスラエルの中でさえ、わたしはこれほどの信仰を見たことがない。11言っておくが、いつか、東や西から大勢の人が来て、天の国でアブラハム、イサク、ヤコブと共に宴会の席に着く。12だが、御国の子らは、外の暗闇に追いつられる。そこで泣きわめいて齒ざりするだろう。」13そして、百人隊長に言われた。「帰りなさい。あなたが信じたとおりになるように。」ちょうどそのとき、僕の病気はいやされた。

多くの病人をいやす

(マコ129—34、ルカ438—41)

イエスはペトロの家に行き、そのしゅうとめが熱を出して寝込んでいるのを御覧になった。15イエスがその手に触れられると、熱は去り、しゅうとめは起き上がった。イエスをもてなした。16夕方になると、人々は悪霊に取りつかれた者を大勢連れて来た。イエスは言葉で悪霊を追い出し、病人を皆いやされた。17それは、預言者イザヤを通して言われていたことが実現するためであった。

れ　　わ　　わ　　お
はわたしたちの 患　いを負い、

　　や　　に
したちの 病　を担った。」

で　　か　　こ
弟子の覚悟

（ルカ957—62）

¹⁸イエスは、自分を取り囲んでいる群　衆　を見て、弟子たちに向こう岸に行くように命じられた。¹⁹そのとき、ある律法学者が近づいて、「先生、あなたがおいでになる 所　なら、どこへでも 従　つて参ります」と言った。²⁰イエスは言われた。「　狐　には穴があり、空の鳥には巢がある。だが、人の子には 枕　する 所　もない。」²¹ほかに、弟子の一人がイエスに、「主よ、まず、父を　葬　りに行かせてください」と言った。²²イエスは言われた。「わたしに 従　いなさい。死んでいる者たちに、自分たちの死者を　葬　らせなさい。」

あ　　し　　し　　ず
嵐　を静める

（マコ435—41、ルカ822—25）

²³イエスが舟に乗り込まれると、弟子たちも 従　った。²⁴そのとき、　湖　に激しい 嵐　が起こり、舟は波にのまれそうになった。イエスは眠つておられた。²⁵弟子たちは近寄つて起こし、「主よ、助けてください。おぼれそうです」と言った。²⁶イエスは言われた。「なぜ怖がるのか。信仰の薄い者たちよ。」そして、起き上がつて風と　湖　とをお叱りになると、すっかり風になった。²⁷人々は 驚　いて、「いったい、この方はどういう方なのだろう。風や　湖　さえも 従　うではないか」と言った。

あ　　く　　れ　　い　　と　　
悪霊に取りつかれたガデラの人をいやす

（マコ51—20、ルカ826—39）

²⁸イエスが向こう岸のガデラ人の地方に着かれると、悪霊に取りつかれた者が二人、墓場から出てイエスのところにやって来た。二人は非　常　に 狂　暴で、だれもその辺りの道を通れないほどであった。²⁹突　然、彼らは叫んだ。「神の子、かまわないでくれ。まだ、その時ではないのにここに来て、我々を苦しめるのか。」³⁰はるかかなたで多くの豚の群れがえさをあさっていた。³¹そこで、悪霊どもはイエスに、「我　々　を追い出すのなら、あの豚の中にやってくれ」と願つた。³²イエスが、「行け」と言われると、悪霊どもは二人から出て、豚の中に入った。すると、豚の群れはみな崖を下つて　湖　にだれ込み、水の中で死んだ。³³豚飼いたちは逃げ出し、町に行つて、悪霊に取りつかれた者のことなど一切を知らせた。³⁴すると、町　中　の者がイエスに会おうとしてやって来た。そして、イエスを見ると、その地方から出て行つてもらいたいと言つた。

ち　　う　　ぶ　　ひ　　と
中　風の人をいやす

（マコ21—12、ルカ517—26）

9

¹イエスは舟に乗つて　湖　を渡り、自分の町に帰つて来られた。²すると、人々が中　風　の人を床に寝かせたまま、イエスのところへ連れて来た。イエスはその人たちの信仰を見て、中　風　の人に、「子よ、元気を出しなさい。あなたの罪は赦される」と言われた。³ところが、律法学者の中に、「この　男　は神を冒瀆している」と思う者がいた。⁴イエスは、彼らの　考　えを見抜いて言われた。「なぜ、心　の中で悪いことを　考　えているのか。⁵『あなたの罪は赦される』と言うのと、『起きて歩け』と言うのと、どちらが易しいか。⁶人の子が地　上　で罪を赦す権威を持っていることを知らせよう。」そして、中　風　の人に、「起き上がつて床を担ぎ、家に帰りなさい」と言われた。⁷その人は起き上がり、家に帰つて行つた。⁸群　衆　はこれを見て恐ろしくなり、人間にこれほどの権威をゆだねられた神を賛美した。

で　　し
マタイを弟子にする

（マコ213—17、ルカ527—32）

⁹イエスはそこをたち、通りがかりに、マタイという人が　収　税所に座つているのを見かけて、「わたしに 従　いなさい」と言われた。彼は立ち上がつてイエスに 従　った。¹⁰イエスがその家で　食　事をしておられた時のことである。徴　税　人や罪人も大勢やつて来て、イエスや弟子たちと同席していた。¹¹ファリサイ派の人々はこれを見て、弟子たちに、「なぜ、あなたたちの先生は　徴　税　人や罪人と一緒に　食　事をするのか」と言つた。¹²イエスはこれ聞いて言われた。「医者を必要とするのは、丈　夫　な人ではなく　病　人である。¹³『わたしが求めるのは憐れみであつて、いけにえではない』とはどういう意味か、行つて学びなさい。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。」

だ　ん　じ　　き　　も　ん　ど　う
断食についての問答

(マコ218—22、ルカ533—39)

14「^{でし}そのころ、^きヨハネの弟子たちがイエスのところに来て、「^はわたしたちと^{ひとびと}ファリサイ派の人々はよく^{だんじき}断食しているのに、なぜ、^{でし}あなたの弟子たちは^{だんじき}断食しないのですか^い」^いと言った。^い15イエスは言われた。「^{はなむこ}花婿が^{いつしょ}一緒にいる^{あいだ}間、^{こんれい}婚礼の^{きやく}客は^{かな}悲しむことができるだろうか。しかし、^{はなむこ}花婿が^{うば}奪い取られる^{とき}時が来る。そのとき、^{かれ}彼らは^{だんじき}断食することになる。16^おだれも、^{ぬの}織りたての布から^{ぬのぎ}布切れを取って、^と古い服に^と継ぎを^{ふる}当てたりはしない。^{ふく}新しい布切れが服を引き裂き、^{あたら}破れは^{ふく}いつそうひどくなるからだ。17^{あた}新しいぶどう酒を^{しゅ}古い革^{かわぶくろ}袋に入れる^い者はいない。そんなことをすれば、^{かわぶくろ}革袋は^{やぶ}破れ、ぶどう酒は^{しゅ}流れ出て、^{なが}革袋も^{かわぶくろ}だめになる。^{あた}新しいぶどう酒は、^{しゅ}新しい革袋に入れるものだ。そうすれば、^{なが}両方とも^{なが}長もちする。」

指導者の娘とイエスの服に触れる女

(マコ521—43、ルカ840—56)

18イエスがこのようなことを話しておられると、ある^{しどうしゃ}指導者がそばに来て、^きひれ伏して言った。「^{むすめ}わたしの^し娘が^てたつたいま死にました。でも、おいでになって手を^お置いて^いやってください。そうすれば、^い生き返るでしょう。」19そこで、イエスは^た立ち上がり、^あ彼について^{かれ}行かれた。弟子たちも^い一緒だった。20すると、そこへ^{でし}十二年間も^{いつしょ}患って^{ねん}出血が続いている^お女が^お近寄って来て、^お後ろからイエスの服の^い房に触れた。21「この方の服に触れさえすれば治してもらえる」と思ったからである。22イエスは振り向いて、彼女を見ながら言われた。「^ふ娘よ、^む元気になりなさい。あなたの^{かのじょ}信仰があなたを^み救った。」そのとき、彼女^いは治った。23イエスは^し指導者の家に行き、^し笛を吹く^し者たちや騒いでいる^し群衆を^し御覧になって、24言われた。「^しあちらへ^し行きなさい。^し少女は死んだのではない。眠っているのだ。」^し人々は^しイエスをあざ笑った。25群衆を外に出すと、イエスは家の中に入り、^し少女の手をお取りになった。すると、^し少女は起き上がった。26このうわさはその地方^し一帯に^し広まった。

二人の盲人をいやす

27イエスがそこから^でお出かけになると、二人の^{ふたり}盲人が^{もうじん}叫んで、「^{さけ}ダビデの子よ、わたしたちを^こ憐れんでください」と^{あわ}言いなが^いらついて来た。28イエスが家に入る^いと、盲人たちがそばに^き寄って来たので、「^いわたしにできると^い信じるのか」と^{ふたり}言われた。二人は、「はい、^{しゅ}主よ」と^い言った。29そこで、イエスが二人の^{ふたり}目に^め触り、「^しあなたがたの^し信じているとおりに^{かれ}なるように」と^し言われると、30二人は^し目が見えるようになった。イエスは、「このことは、^いだれにも^い知らせてはいけない」と^いと彼らに^き厳しく^いお命じになった。31しかし、二人は外へ^い出ると、その地方^い一帯にイエスのことを^い言い広めた。

口の利けない人をいやす

32二人が^{ふたり}出て行く^でと、^い悪霊に取りつかれて^{あぐれい}口の利けない^と人が、イエスのところに^{くち}連れられて来た。33^き悪霊が^{あぐれい}追い出されると、^お口の利けない^{くち}人が^きものを^{ひと}言い始めた^いので、^{はじ}群衆は^い驚嘆し、「こんなことは、^い今までイスラエルで^い起こったためしがない」と^い言った。34しかし、^はファリサイ派の人々は、「^いあの男は^い悪霊の^い頭の^い力で^い悪霊を^い追い出している」と^い言った。

群衆に同情する

35イエスは^{まち}町や村を残らず^{むら}回って、^の会堂で^{まわ}教え、^{かいどう}御国の福音を^{おし}宣べ伝え、^{みくに}ありとあらゆる^{ふくいん}病^の気や^{つた}患^{びようき}いを^{わす}いやされた。36また、^{ぐんしゅう}群衆が^か飼いの^{ぬし}主の^{ひつじ}いない^し羊のように^し弱り果て、^し打ちひしがれている^しのを見て、^し深く^し憐れまれた。37そこで、^し弟子たちに^し言われた。「^し収穫は^し多いが、^し働き手が^し少ない。38だから、^し収穫のため^しに^し働き手を送って^しくださるように、^し収穫の主に^し願いなさい。」

十二人を選ぶ

(マコ313—19、ルカ612—16)

10

1「^{にん}イエスは十二人の弟子を呼び寄せ、^{でし}汚れた^よ霊に対する^よ権能をお授けになった。^{けが}汚れた^{れい}霊を^{たい}追い出し、あらゆる^{けが}病^{れい}気や^お患^だいを^{びようき}いやすためであった。2十二使徒の^し名は次のとおりである。まず^しペトロと呼ばれる^しシモンとその^し兄弟^しアンデレ、^しゼベダイの子ヤコブとその^し兄弟^しヨハネ、3^しフィリポと^しバルトロマイ、^しトマスと^し徴税人^しのマタイ、^しアルファイの子ヤコブと^しタダイ、4^し熱心党の^しシモン、^しそれにイエスを^し裏切った^しイスカリオテの^しユダである。

十二人を派遣する

(マコ67—13、ルカ91—6)

5「^{にん}イエスはこの十二人を^{はけん}派遣するにあたり、次のように^{つぎ}命じられた。「^{めい}異邦人の^{いほうじん}道に行つてはならない。また、^{じん}サマリア人の^{まち}町に入つてはならない。6^いむしろ、^いイエスが^{うしな}失われた^{ひつじ}羊の^いところへ^い行きなさい。7^い行つて、『^い天の国は^{てん}近づいた』と^い宣べ伝えなさい。8^い病人を^いいやし、^い死者を^い生き返らせ、^い重い皮膚病を^い患っている人を^い清くし、^い悪霊を^い追い払いなさい。ただで^い受けたのだから、^いただで^い与えなさい。9^い帯の中に^い金貨も^い銀貨も^い銅貨も^い入れて^い行つてはならない。10^い旅には^い袋も^い二枚の下着も、^い履物も^い杖も^い持つて^い行つてはならない。^い働く者が^い食べ物を^い受けるのは^い当然である。11^い町や村に入ったら、^いそこで、^いふさわしい人は^いだれかを^いよく^い調べ、^い旅立つときまで、^いその人のもとにとどまりなさい。12^いその家に入ったら、『^い平和があるように』と^い挨拶しなさい。13^い家の人々が^いそれを受けるに^いふさわし

ければ、あなたがたの願う平和は彼らに与えられる。もし、ふさわしくなければ、その平和はあなたがたに返ってくる。¹⁴あなたがたを迎え入れもせず、あなたがたの言葉に耳を傾けようもしない者がいたら、その家や町を出て行くとき、足の埃を払い落としなさい。¹⁵はつきり言っておく。裁きの日には、この町よりもソドムやゴモラの地の方が軽い罰で済む。」

はくがい　まこく
迫害を予告する

（マコ139—13、ルカ21 12—17）

¹⁶「わたしはあなたがたを遣わす。それは、狼の群れに羊を送り込むようなものだ。だから、蛇のように賢く、鳩のように素直になりなさい。¹⁷人々を警戒しなさい。あなたがたは地方法院に引き渡され、会堂で鞭打たれるからである。¹⁸また、わたしのために総督や王の前に引き出されて、彼らや異邦人に証しをすることになる。¹⁹引き渡されたときは、何をどう言おうかと心配してはならない。そのときには、言うべきことは教えられる。²⁰実は、話すのはあなたがたではなく、あなたがたの中で語ってくださる、父の霊である。²¹兄弟は兄弟を、父は子を死に追いやり、子は親に反抗して殺すだろう。²²また、わたしの名のために、あなたがたはすべての人に憎まれる。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。²³一つの町で迫害されたときは、他の町へ逃げて行きなさい。はつきり言っておく。あなたがたがイスラエルの町を回り終わらないうちに、人の子は来る。²⁴弟子は師にまさるものではなく、僕は主人にまさるものではない。²⁵弟子は師のように、僕は主人のようになれば、それで十分である。家の主人がベルゼブルと言われるのなら、その家族の者をもっとひどく言われることだろう。」

おそ　もの
恐るべき者

（ルカ122—7）

²⁸「人々を恐れてはならない。覆われているもので現されないものはなく、隠されているもので知られずに済むものはないからである。²⁷わたしが暗闇であなたがたに言うことを、明るみで言いなさい。耳打ちされたことを、屋根の上で言い広めなさい。²⁸体は殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方を恐れなさい。²⁹二羽の雀が一アサリオンで売られているではないか。だが、その一羽さえ、あなたがたの父のお許しがなければ、地に落ちることはない。³⁰あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。³¹だから、恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている。」

なかま　い　あらわ
イエスの仲間であると言いつ

（ルカ128—9）

³²「だから、だれでも人々の前で自分をわたしの仲間であると言いつ表す者は、わたしも天の父の前で、その人をわたしの仲間であると言いつ表す。³³しかし、人々の前でわたしを知らないと言う者は、わたしも天の父の前で、その人を知らないと言う。」

へいわ　つるぎ
平和ではなく剣を

（ルカ1251—53、14 26—27）

³⁴「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思つてはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。³⁵わたしは敵対させるために来たからである。

ちち
とその父に、

はは
を母に、

しゅうとめに。

じぶん　かぞく　もの　てき
して、自分の家族の者が敵となる。

³⁷わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしくない。わたしよりも息子や娘を愛する者も、わたしにふさわしくない。³⁸また、自分の十字架を担つてわたしに従わない者は、わたしにふさわしくない。³⁹自分の命を得ようとする者は、それを失ひ、わたしのために命を失う者は、かえつてそれを得るのである。」

う　い　ひと　むく
受け入れる人の報い

（マコ941）

40「あなたがたを受け入れる人は、わたしを受け入れ、わたしを受け入れる人は、わたしを遣わされた方を受け入れるのである。41預言者を預言者として受け入れる人は、預言者と同じ報いを受け、正しい者を正しい者として受け入れる人は、正しい者と同じ報いを受ける。42はつきり言っておく。わたしの弟子だという理由で、この小さな者の一人に、冷たい水一杯でも飲ませてくれる人は、必ずその報いを受ける。」

11

1イエスは十二人の弟子に指図を与え終わると、そこを去り、方々の町で教え、宣教された。

せんれいしや
洗礼者ヨハネとイエス

(ルカ7 18—35)

2ヨハネは牢の中で、キリストのなされたことを聞いた。そこで、自分の弟子たちを送って、3尋ねさせた。「来るべき方は、あなたでしょうか。それとも、ほかの方を待たなければなりませんか。」4イエスはお答えになった。「行って、見聞きしていることをヨハネに伝えなさい。5目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。6わたしにつまずかない人は幸いである。」7ヨハネの弟子たちが帰ると、イエスは群衆にヨハネについて話し始められた。「あなたがたは、何を見に荒れ野へ行ったのか。風にそよぐ葦か。8では、何を見に行ったのか。しなやかな服を着た人か。しなやかな服を着た人なら王宮にいる。9では、何を見に行ったのか。預言者か。そうだ。言っておく。預言者以上の者である。

よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、

10たの前に道を準備せよう』

と書いてあるのは、この人のことだ。11はつきり言っておく。およそ女から生まれた者のうち、洗礼者ヨハネより偉大な者は現れなかった。しかし、天の国で最も小さな者でも、彼よりは偉大である。12彼が活動し始めたときから今に至るまで、天の国は力づくで襲われており、激しく襲う者がそれを奪い取ろうとしている。13すべての預言者と律法が預言したのは、ヨハネの時までである。14あなたがたが認めようとすれば分かることだが、実は、彼は現れるはずのエリヤである。15耳のある者は聞きなさい。

16今の時代を何にたとえたらよいか。広場に座って、ほかの者にこう呼びかけている子供たちに似ている。

ふ
を吹いたのに、

ってくれなかった。

き うた
式の歌をうたったのに、

んでくれなかった。』

18ヨハネが来て、食べも飲みもしないでいると、『あれは悪霊に取りつかれている』と言い、19人の子が来て、飲み食いすると、『見ろ、大食漢で大酒飲みだ。ちようぜいにん つみびと なかま い ち え ただ はたら しょうめい
徴税人や罪人の仲間だ』と言う。しかし、知恵の正しさは、その働きによって証明される。」

く あらた まち しか
悔い改めない町を叱る

(ルカ10 13—15)

20それからイエスは、数多くの奇跡の行われた町々が悔い改めなかったので、叱り始められた。21「コラジン、お前は不幸だ。ベトサイダ、お前は不幸だ。お前たちのところで行われた奇跡が、ティルスやシドンで行われていれば、これらの町はとうの昔に粗布をまとい、灰をかぶって悔い改めたにちがいない。22しかし、言っておく。裁きの日にはティルスやシドンの方が、お前たちよりまだ軽い罰で済む。23また、カファルナウム、お前は、

あ おも
こまで上げられるとでも思っているのか。

3にまで落とされるのだ。

お前のところでなされた奇跡が、ソドムで行われていれば、あの町は今日まで無事だったにちがいない。24しかし、言っておく。裁きの日にはソドムの地の方が、お前よりまだ軽い罰で済むのである。」

わたしのもとに来なさい

(ルカ1021—22)

25そのとき、イエスはこう言われた。「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者におし示になりました。26そうです、父よ、これは御心に適うことでした。27すべてのことは、父からわたしに任せられています。父のほかに子を知る者はなく、子と、子が示そうと思う者のほかには、父を知る者はいません。28疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。29わたしはにやうわけんぞんものくびきおまなやすえくびきおにかる柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。30わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」

あんそくびむぎほつ
安息日に麦の穂を摘む

(マコ223—28、ルカ61—5)

12

1そのころ、ある安息日にイエスは麦畑を通られた。弟子たちは空腹になったので、麦の穂を摘んで食べ始めた。2ファリサイ派の人々がこれを見て、イエスに、「御覧なさい。あなたの弟子たちは、安息日にしてはならないことをしている」と言った。3そこで、イエスは言われた。「ダビデが自分も供の者たちも空腹だったときに何をしたか、読んだことがないのか。4神の家に入り、ただ祭司のほかには、自分も供の者たちも食べてはならない供えのパンを食べたではないか。5安息日と神殿にいる祭司は、安息日の掟を破っても罪にならない、と律法にあるのを読んだことがないのか。6言っておくが、神殿よりも偉大なものがここにある。7もし、『わたしが求めるのは憐れみであって、いけにえではない』という言葉の意味を知っていれば、あなたたちは罪もない人たちをとがめなかったであろう。8人の子は安息日の主なのである。」

てなひと
手の萎えた人をいやす

(マコ31—6、ルカ66—11)

9イエスはそこを去って、会堂にお入りになった。10すると、片手の萎えた人がいた。人々はイエスを訴えようと思って、「安息日に病気を治すのは、律法で許されていますか」と尋ねた。11そこで、イエスは言われた。「あなたたちのうち、だれか羊を一匹持つていて、それが安息日に穴に落ちた場合、手で引き上げてやらない者がいるだろうか。12人間は羊よりもはるかに大切なものだ。だから、安息日に善いことをするのは許されている。」13そしてその人に、「手を伸ばしなさい」と言われた。伸ばすと、もう一方の手のように元どおり良くなった。14ファリサイ派の人々は出て行き、どのようにしてイエスを殺そうかと相談した。

かみえらしもべ
神が選んだ僕

15イエスはそれを知って、そこを立ち去られた。大勢の群衆が従った。イエスは皆の病気をいやして、16御自分のことを言いふらさないようにと戒められた。17それは、預言者イザヤを通して言われていたことが実現するためであった。

えらしもべ
よ、わたしの選んだ僕。

しころかなあいもの
：し心に適った愛する者。

しもべれいさず
：僕にわたしの霊を授ける。

いほうじんせいぎし
よ異邦人に正義を知らせる。

あらせけ
：争わず、叫ばず、

こえきものおおどお
：声を聞く者は大通りにはいない。

しょうりみちび
を勝利に導くまで、

きざあしお
よ傷ついた草を折らず、

とうしん け
ぶる灯心を消さない。

じん かれ な のぞ
人は彼の名に望みをかける。」

ろんそう
ベルゼブル論争

(マコ320—30、ルカ1114—23、1210)

22そのとき、悪霊に取りつかれて目が見えず口の利けない人が、イエスのところに連れられて来て、イエスがいやされると、ものが言え、目が見えるようになった。23群衆は皆驚いて、「この人はダビデの子ではないだろうか」と言った。24しかし、ファリサイ派の人々はこれ聞き、「悪霊の頭ベルゼブルの力によらなければ、この者は悪霊を追い出せはしない」と言った。25イエスは、彼らの考えを見抜いて言われた。「どんな国でも内輪で争えば、荒れ果ててしまい、どんな町でも家でも、内輪で争えば成り立って行かない。26サタンがサタンを追い出せば、それは内輪もめだ。そんなふうでは、どうしてその国が成り立って行くだろうか。27わたしがベルゼブルの力で悪霊を追い出すのなら、あなたたちの仲間は何の力で追い出すのか。だから、彼ら自身があなたたちを裁く者となる。28しかし、わたしが神の霊で悪霊を追い出しているのであれば、神の国はあなたたちのところに来ているのだ。29また、まず強い人を縛り上げなければ、どうしてその家に押し入って、家財道具を奪い取ることができるだろうか。まず縛ってから、その家を略奪するものだ。30わたしに味方しない者はわたしに敵対し、わたしと一緒に集めない者は散らしている。31だから、言うておく。人が犯す罪や冒瀆は、どんなものでも赦されるが、霊に対する冒瀆は赦されない。32人の子に言い逆らう者は赦される。しかし、聖霊に言い逆らう者は、この世でも後の世でも赦されることがない。」

き み
木とその実

(マタ716—20、ルカ643—45)

33「木が良ければその実も良いとし、木が悪ければその実も悪いとしなさい。木の良し悪しは、その結ぶ実で分かる。34蝮の子らよ、あなたたちは悪い人間であるのに、どうして良いことが言えようか。人の口からは、心にあふれていることが出て来るのである。35善い人は、良いものを入れた倉から良いものを取り出し、悪い人は、悪いものを入れた倉から悪いものを取り出して来る。36言うておくが、人は自分の話したつまらない言葉についてもすべて、裁きの日には責任を問われる。37あなたは、自分の言葉によって義とされ、また、自分の言葉によって罪ある者とされる。」

ひとびと ほ
人々はしるしを欲しがる

(マコ811—12、ルカ1129—32)

38すると、何人かの律法学者とファリサイ派の人々がイエスに、「先生、しるしを見せてください」と言った。39イエスはお答えになった。「よこしまで神に背いた時代の者たちはしるしを欲しがるが、預言者ヨナのしるしのほかに、しるしは与えられない。40つまり、ヨナが三日三晩、大魚の腹の中にいたように、人の子も三日三晩、大地の中にいることになる。41ニネベの人たちは裁きの時、今の時代の者たちと一緒に立ち上がり、彼らを罪に定めるであろう。ニネベの人々は、ヨナの説教を聞いて悔い改めたからである。ここに、ヨナにまさるものがある。42また、南の国の女王は裁きの時、今の時代の者たちと一緒に立ち上がり、彼らを罪に定めるであろう。この女王はソロモンの知恵を聞くために、地の果てから来たからである。ここに、ソロモンにまさるものがある。」

けが れい もど く
汚れた霊が戻って来る

(ルカ1124—26)

43「汚れた霊は、人から出て行くと、砂漠をうろつき、休む場所を探すが見つからない。44それで、『出て来たわが家に戻ろう』と言う。戻ってみると、空き家になっており、掃除をして、整えられていた。45そこで、出かけて行き、自分よりも悪いほかの七つの霊と一緒に連れて来て、中に入り込んで、住み着く。そうなると、その人の後の状態は前よりも悪くなる。この悪い時代の者たちもそのようになる。」

はは きょうだい
イエスの母、兄弟

(マコ331—35、ルカ819—21)

46イエスがなお群衆に話しておられるとき、その母と兄弟たちが、話したいことがあって外に立っていた。47そこで、ある人がイエスに、「御覧なさい。母上と御兄弟たちが、お話ししたいと外に立っておられます」と言った。48しかし、イエスはその人にお答えになった。「わたしの母とはだれか。わたしの兄弟とはだれか。」49そして、弟子たちの方を指して言われた。「見なさい。ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる。50だれでも、わたしの天の父の御心を行う人が、わたしの兄弟、姉妹、また母である。」

たね ま ひと
「種を蒔く人」のたとえ

（マコ41—9、ルカ84—8）

13

ひ いえ で みずうみ すわ おおぜい ぐんしゅう あつ き ふね の こし お ぐんしゅう
「その日、イエスは家を出て、 湖 のほとりに座っておられた。」すると、大勢の群衆がそばに集まって来たので、イエスは舟に乗って腰を下ろされた。群衆は
みなきしべ た もち かれ おお かた たね ま ひと たねま で い ま あいだ たね みちばた お
皆岸边に立っていた。⁹イエスはたとえを用いて彼らに多くのことを語られた。「種を蒔く人が種蒔きに出て行った。¹⁰蒔いている間に、ある種は道端に落ち、
とり き た たね いし つち すく ところ お つち あさ め だ ひ のほ や ね か
鳥が来て食べてしまった。¹¹ほかの種は、石だらけで土の少ない所に落ち、そこは土が浅いのですぐ芽を出した。¹²しかし、日が昇ると焼けて、根がないために枯
れてしまった。¹³ほかの種は 茨の間に落ち、 茨が伸びてそれをふさいでしまった。¹⁴ところが、ほかの種は、良い土地に落ち、実を結んで、あるものは百倍、ある
ものは六十倍、あるものは三十倍にもなった。¹⁵耳のある者は聞きなさい。」

もち はな りゆう
たとえを用いて話す理由

（マコ410—12、ルカ89—10）

でし ちかよ ひと もち はな い こた てん くに
¹⁰弟子たちはイエスに近寄って、「なぜ、あの人たちにはたとえを用いてお話しになるのですか」と言った。¹¹イエスはお答えになった。「あなたがたには天の国
の秘密を悟ることが許されているが、あの人たちには許されていないからである。¹²持っている人は更に与えられて豊かになるが、持っていない人は持っているも
のまでも取り上げられる。¹³だから、彼らにはたとえを用いて話すのだ。見ても見ず、聞いても聞かず、理解できないからである。¹⁴イザヤの預言は、彼らによって
じつげん
実現した。

き き けつ りかい
「なたたちは聞くには聞くが、決して理解せず、

み けつ みと
」には見るが、決して認めない。

たみ ころ にぶ
民の心は鈍り、

とお
は遠くなり、

と
は閉じてしまった。

かれ め み
」して、彼らは目で見ることなく、

みみ き
耳で聞くことなく、

りかい く あらた
で理解せず、悔い改めない。

かれ
」は彼らをいやさない。』

め み さいわ みみ き さいわ い おお よげんしゃ ただ ひと
¹⁰しかし、あなたがたの目は見えているから 幸いだ。あなたがたの耳は聞いているから 幸いだ。¹¹はつきり言っておく。多くの預言者や正しい人たちは、あなたが
み み み き き き
たが見ているものを見たかったが、見ることができず、あなたがたが聞いているものを聞きたかったが、聞けなかったのである。」

たね ま ひと せつめい
「種を蒔く人」のたとえの説明

（マコ413—20、ルカ811—15）

たね ま ひと き みくに ことば き さと わる もの き ころ なか ま うば と みちばた ま
¹⁰「だから、種を蒔く人のたとえを聞きなさい。¹⁰だれでも御国の言葉を聞いて悟らなければ、悪い者が来て、心の中に蒔かれたものを奪い取る。道端に蒔か
れたものとは、こういう人である。²⁰石だらけの所に蒔かれたものとは、御言葉を聞いて、すぐ喜んで受け入れるが、²¹自分には根がないので、しばらくは続いて
みことば かんなん はくがい お ひと いばら なか ま みことば き よ おも わずら とみ ゆうわく
も、御言葉のために艱難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまう人である。²² 茨の中に蒔かれたものとは、御言葉を聞くが、世の思い煩いや富の誘惑が
みことば おお みの ひと よ とち ま みことば き さと ひと ばい ばい
御言葉を覆いふさいで、実らない人である。²³良い土地に蒔かれたものとは、御言葉を聞いて悟る人であり、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十
ばい み むす
倍の実を結ぶのである。」

どくむぎ
「毒麦」のたとえ

「²⁴イエスは、別のたとえを持ち出して言われた。「天の国は次のようにたとえられる。ある人が良い種を畑に蒔いた。²⁵人々が眠っている間に、敵が来て、²⁶麦の中に毒麦を蒔いて行った。²⁸芽が出て、実つてみると、毒麦も現れた。²⁷僕たちが主人のところに来て言った。『だんなさま、畑には良い種をお蒔きになったではありませんか。どこから毒麦が入ったのでしょうか。』²⁸主人は、『敵の仕業だ』と言った。そこで、僕たちが、『では、行って抜き集めておきましょうか』と言うと、²⁹主人は言った。『いや、毒麦を集めるとき、麦まで一緒に抜くかもしれない。³⁰刈り入れまで、両方とも育つままにしておきなさい。刈り入れの時、「まず毒麦を集め、焼くために束にし、麦の方は集めて倉に入れなさい」と、刈り取る者に言いつけよう。』」

「からし種」と「パン種」のたとえ

（マコ4 30—32、ルカ13 18—21）

「³¹イエスは、別のたとえを持ち出して、彼らに言われた。「天の国はからし種に似ている。人がこれを取って畑に蒔けば、³²どんな種よりも小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる。」
³³また、別のたとえをお話しになった。「天の国はパン種に似ている。女がこれを取って三サトンの粉に混ぜると、やがて全体が膨れる。」

たとえを用いて語る

（マコ4 33—34）

「³⁴イエスはこれらのことをみな、たとえを用いて群衆に語られ、たとえを用いないでは何も語られなかった。³⁵それは、預言者を通して言われていたことが実現するためであった。
「わたしは口を開いてたとえを用い、
天地創造の時から隠されていたことを告げる。」

「毒麦」のたとえの説明

³⁶それから、イエスは群衆を後に残して家にお入りになった。すると、弟子たちがそばに寄って来て、「³⁷畑の毒麦のたとえを説明してください」と言った。³⁸「良い種を蒔く者は人の子、³⁹畑は世界、良い種は御国の子ら、毒麦は悪い者の子らである。⁴⁰毒麦を蒔いた敵は悪魔、刈り入れは世の終わりのことで、刈り入れる者は天使たちである。⁴¹だから、毒麦が集められて火で焼かれるように、世の終わりにもそうなるのだ。⁴²人の子は天使たちを遣わし、つまずきとなるものすべてと不法を行う者どもを自分の国から集めさせ、⁴³燃え盛る炉の中に投げ込ませるのである。彼らは、そこで泣きわめいて歯ざしりするだろう。⁴⁴そのとき、正しい人々はその父の国で太陽のように輝く。耳のある者は聞きなさい。」

「天の国」のたとえ

「⁴⁴天の国は次のようにたとえられる。畑に宝が隠されている。見つけた人は、そのまま隠しておき、喜びながら帰り、持ち物をすっかり売り払って、その畑を買う。」

「⁴⁵また、天の国は次のようにたとえられる。商人が良い真珠を探している。⁴⁶高価な真珠の一つ見つけると、出かけて行って持ち物をすっかり売り払い、それを買う。」

「⁴⁷また、天の国は次のようにたとえられる。網が湖に投げ降ろされ、いろいろな魚を集める。⁴⁸網がいつぱいになると、人々は岸に引き上げ、座って、良いものは器に入れ、悪いものは投げ捨てる。⁴⁹世の終わりにもそうなる。天使たちが来て、正しい人々の中にいる悪い者どもをより分け、⁵⁰燃え盛る炉の中に投げ込むのである。悪い者どもは、そこで泣きわめいて歯ざしりするだろう。」

天の国のことを学んだ学者

「⁵¹「あなたがたは、これらのことがみな分かったか。」弟子たちは、「分かりました」と言った。⁵²そこで、イエスは言われた。「だから、天の国のことを学んだ学者は皆、自分の倉から新しいものと古いものを取り出す一家の主人に似ている。」

ナザレで受け入れられない

（マコ6 1—6、ルカ4 16—30）

「⁵³イエスはこれらのたとえを語り終えると、そこを去り、故郷にお帰りになった。会堂で教えておられると、人々は驚いて言った。「この人は、このような知恵と奇跡を行う力をどこから得たのだろう。⁵⁵この人は大工の息子ではないか。母親はマリアといい、兄弟はヤコブ、ヨセフ、シモン、ユダではないか。⁵⁶姉妹たちは皆、我々と一緒に住んでいるではないか。この人はこんなことをすべて、いったいどこから得たのだろう。」⁵⁷このように、人々はイエスにつまずいた。イエスは、「預言者が敬われないのは、その故郷、家族の間だけである」と言い、⁵⁸人々が不信仰だったので、そこではあまり奇跡をなさらなかった。」

洗礼者ヨハネ、殺される

(マコ6 14—29、ルカ9 7—9)

14

1そのころ、領主ヘロデはイエスの評判を聞き、2家来たちにこう言った。「あれは洗礼者ヨハネだ。死者の中から生き返ったのだ。だから、奇跡を行う力が彼に働いている。」3実はヘロデは、自分の兄弟フィリポの妻ヘロディアのことでヨハネを捕らえて縛り、牢に入れていた。4ヨハネが、「あの女と結婚することは律法で許されていない」とヘロデに言ったからである。5ヘロデはヨハネを殺そうと思っていたが、民衆を恐れた。人々がヨハネを預言者と思っていたからである。6ところが、ヘロデの誕生日にヘロディアの娘が、皆の前で踊り、ヘロデを喜ばせた。7それで彼は娘に、「願うものは何でもやろう」と誓って約束した。8すると、娘は母親に唆されて、「洗礼者ヨハネの首を盆に載せて、この場でください」と言った。9王は心を痛めたが、誓ったことではあるし、また客の手前、それを与えるように命じ、10人を遣わして、牢の中でヨハネの首をはねさせた。11その首は盆に載せて運ばれ、少女に渡り、少女はそれを母親に持って行った。12それから、ヨハネの弟子たちが来て、遺体を引き取って葬り、イエスのところに行って報告した。

五千人に食べ物を与える

(マコ6 30—44、ルカ9 10—17、ヨハ6 1—14)

13イエスはこれを聞くと、舟に乗ってそこを去り、ひとり人里離れた所に退かれた。しかし、群衆はそのことを聞き、方々の町から歩いて後を追った。14イエスは舟から上がり、大勢の群衆を見て深く憐れみ、その中の病人をいやされた。15夕暮れになったので、弟子たちがイエスのそばに来て言った。「ここは人里離れた所で、もう時間もたちました。群衆を解散させてください。そうすれば、自分で村へ食べ物を買に行くでしょう。」16イエスは言われた。「行かせることはない。あなたがたが彼らに食べる物を与えなさい。」17弟子たちは言った。「ここにはパン五つと魚二匹しかありません。」18イエスは、「それをここに持って来なさい」と言い、19群衆には草の上に座するようにお命じになった。そして、五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで賛美の祈りを唱え、パンを裂いて弟子たちにお渡しになった。弟子たちはそのパンを群衆に与えた。20すべての人が食べて満腹した。そして、残ったパンの屑を集めると、十二の籠いっぱいになった。21食べた人は、女と子供を別にして、男が五千人ほどであった。

湖の上を歩く

(マコ6 45—52、ヨハ6 15—21)

22それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に寄せ、向こう岸へ先に行かせ、その間に群衆を解散させられた。23群衆を解散させてから、祈るためにひとり山にお登りになった。夕方になっても、ただひとりそこにおられた。24ところが、舟は既に陸から何スタディオンか離れており、逆風のために波に悩まされていた。25夜が明けるころ、イエスは湖の上を歩いて弟子たちのもとに行かれた。26弟子たちは、イエスが湖上を歩いておられるのを見て、「幽霊だ」と言っておびえ、恐怖のあまり叫び声をあげた。27イエスはすぐ彼らに話しかけられた。「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない。」28すると、ペトロが答えた。「主よ、あなたでしたら、わたしに命令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください。」29イエスが「来なさい」と言われたので、ペトロは舟から降りて水の上を歩き、イエスの方へ進んだ。30しかし、強い風に気がついて怖くなり、沈みかけたので、「主よ、助けてください」と叫んだ。31イエスはすぐに手を伸ばしてつかまえ、「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」と言われた。32そして、二人が舟に乗り込むと、風は静まった。33舟の中にいた人たちは、「本当に、あなたは神の子です」と言ってイエスを拝んだ。

ゲネサレトで病人をいやす

(マコ6 53—56)

34こうして、一行は湖を渡り、ゲネサレトという土地に着いた。35土地の人々は、イエスだと知って、付近にくまなく触れ回った。それで、人々は病人を皆イエスのところに連れて来て、36その服のすそにでも触れさせてほしいと願った。触れた者は皆いやされた。

昔の人の言い伝え

(マコ7 1—23)

15

1そのころ、ファリサイ派の人々と律法学者たちが、エルサレムからイエスのもとへ来て言った。2「なぜ、あなたの弟子たちは、昔の人の言い伝えを破るのですか。彼らは食事の前に手を洗いません。」3そこで、イエスはお答えになった。「なぜ、あなたたちも自分の言い伝えのために、神の掟を破っているのか。4神は、『父と母を敬え』と言い、『父または母をのしる者は死刑に処せられるべきである』とも言っておられる。5それなのに、あなたたちは言っている。『父または母に向かつて、『あなたに差し上げるべきものは、神への供え物にする』と言う者は、『父を敬わなくてもよい』と。こうして、あなたたちは、自分の言い伝えのために神の言葉を無にしている。偽善者たちよ、イザヤは、あなたたちのことを見事に預言したものだ。

民は口先ではわたしを敬うが、

ころ　　とお　　はな
 ）心　はわたしから遠く　離れている。

いまし　　おし　　おし
 の　戒　めを教えとして教え、

しくわたしをあがめている。』」

10それから、イエスは群　衆　を呼び寄せて言われた。「聞いて悟　りなさい。11口　に入るものは人を汚さず、口　から出て来るものが人を汚すのである。」12そのと
 き、弟子たちが近寄って来て、「ファリサイ派の人々がお言葉を聞いて、つまずいたのをぞんじですか」と言った。13イエスはお答えになった。「わたしの天の父
 がお植えにならなかった木は、すべて抜き取られてしまう。14“そのままにしておきなさい。彼らは盲人の道案内をする盲人だ。盲人が盲人の道案内をすれば、
 二人とも穴に落ちてしまう。」15するとペトロが、「そのたとえを説明してください」と言った。16イエスは言われた。「あなたがたも、まだ悟らないのか。17すべて
 口に入るものは、腹を通して外に出されることが分らないのか。18しかし、口から出て来るものは、心　から出て来るので、これこそ人を汚す。19悪意、殺意、
 姦淫、みだらな　行　い、盗み、偽　証、悪口などは、心　から出て来るからである。20これが人を汚す。しかし、手を洗わずに　食　事をしても、そのことは人を汚
 すものではない。」

おんな　しんこう
 カナンの女　の信仰

（マコ7 24—30）
 21イエスはそこをたち、ティルスとシドンの地方に行かれた。22すると、この地に生まれたカナンの　女　が出て来て、「主よ、ダビデの子よ、わたしを憐れんでくだ
 さい。娘　が悪霊にひどく　苦しめられています」と叫んだ。23しかし、イエスは何もお答えにならなかった。そこで、弟子たちが近寄って来て願った。「この　女
 を追い払ってください。叫びながらついて来ますので。」24イエスは、「わたしは、イスラエルの家　の　失　われた　羊　のところにしか遭わされていない」とお答えに
 なった。25しかし、女　は来て、イエスの前にひれ伏し、「主よ、どうかお助けください」と言った。26イエスが、「子供たちのパンを取って小犬にやってはいけな
 い」とお答えになると、27　女　は言った。「主よ、ごもつてもです。しかし、小犬も主人の　食　卓から落ちるパン屑はいただくのです。」28そこで、イエスはお答え
 になった。「婦人よ、あなたの信仰は立派だ。あなたの願いどおりになるように。」そのとき、娘　の　病　気はいやされた。

おおぜい　　びょうにん
 大勢の病　人をいやす

29イエスはそこを去って、ガリラヤ湖のほとりに行かれた。そして、山に登って座っておられた。30大勢の群　衆　が、足の不自由な人、目の見えない人、体　の
 不自由な人、口の利けない人、その他多くの　病　人を連れて来て、イエスの足もとに横たえたので、イエスはこれらの人々をいやされた。31群　衆　は、口の利け
 ない人が話すようになり、体　の不自由な人が治り、足の不自由な人が歩き、目の見えない人が見えるようになったのを見て　驚　き、イスラエルの神を賛美し
 た。

にん　　た　　もの　　あた
 四千人に食べ物を与える

（マコ8 1—10）
 32イエスは弟子たちを呼び寄せて言われた。「群　衆　がかわいそうだ。もう三日もわたしと一緒にいるのに、食べ物がない。空腹のままで解散させたくはない。
 途　中　で疲れきってしまうかもしれない。」33弟子たちは言った。「この人里離れた　所　で、これほど大勢の人に　十　分食べさせるほどのパンが、どこから手に入
 るでしょうか。」34イエスが「パンは幾つあるか」と言われると、弟子たちは、「七つあります。それに、小さい　魚　が少しばかり」と答えた。35そこで、イエスは地
 めん　すわ　　ぐんしゅう　　めい　　　さかな　　と　　かんしや　　いの　　とな　　　さ　　でし　　わた　　　でし　　　ぐんしゅう　　くば　　ひとびと　　みな
 面に座るように群　衆　に命じ、36七つのパンと　魚　を取り、感謝の祈りを唱えてこれを裂き、弟子たちにお渡しになった。弟子たちには群　衆　に配った。37人々　は皆
 、食べて満腹した。残ったパンの屑を集めると、七つの籠いっぱいになった。38食べた人は、女　と子供を別にして、男　が四千人であつた。39イエスは群　衆　を
 解散させ、舟に乗ってマガダン地方に行かれた。

ひとびと　　ほ
 人々はしるしを欲しがる

（マコ8 11—13、ルカ12 54—56）

16

は　　は　　ひとびと　　き　　　ため　　　てん　　　み　　　ねが　　　こた　　　　ゆうがた
 'ファリサイ派とサドカイ派の人々が来て、イエスを試そうとして、天からのしるしを見せてほしいと願った。2イエスはお答えになった。「あなたたちは、夕方
 には『夕焼けだから、晴れだ』と言い、3朝には『朝焼けで雲が低いから、今日は　嵐　だ』と言う。このように空模様を見分けることは知っているのに、時代のしる
 しは見ることができないのか。4よこしまで神に背いた時代の者たちはしるしを欲しがるが、ヨナのしるしのほかに、しるしは与えられない。」そして、イエスは
 彼らを後に残して立ち去られた。

は　　は　　ひとびと　　　だね
 ファリサイ派とサドカイ派の人々のパン種

（マコ8 14—21）

弟子たちは向こう岸に行ったが、パンを持って来るのを忘れていた。イエスは彼らに、「ファリサイ派とサドカイ派の人々のパン種によく注意なさい」と言われた。弟子たちは、「これは、パンを持って来なかったからだ」と論じ合っていた。イエスはそれに気づいて言われた。「信仰の薄い者たちよ、なぜ、パンを持っていないことで論じ合っているのか。まだ、分らないのか。覚えていないのか。パン五つを五千人に分けたとき、残りを幾籠に集めたか。また、パン七つを四千人に分けたときは、残りを幾籠に集めたか。パンについて言ったのではないことが、どうして分らないのか。ファリサイ派とサドカイ派の人々のパン種に注意なさい。」¹²そのときようやく、弟子たちは、イエスが注意を促されたのは、パン種のことでなく、ファリサイ派とサドカイ派の人々の教えのことだと悟った。

ペトロ、信仰を言い表す

（マコ8:27—30、ルカ9:18—21）

イエスは、フィリポ・カイサリア地方に行ったとき、弟子たちに、「人々は、人の子のことを何者だと言っているか」とお尋ねになった。¹³弟子たちは言った。「『洗礼者ヨハネだ』と言う人も、『エリヤだ』と言う人もいます。ほかに、『エレミヤだ』とか、『預言者の一人だ』と言う人もいます。」¹⁴イエスが言われた。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」¹⁵シモン・ペトロが、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えた。¹⁷すると、イエスはお答えになった。「シモン・バルヨナ、あなたは幸いだ。あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ。¹⁸わたしも言っておく。あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。陰府の力もこれに対抗できない。¹⁹わたしはあなたに天の国の鍵を授ける。あなたが地上でつなぐことは、天上でもつながれる。あなたが地上で解くことは、天上でも解かれる。」²⁰それから、イエスは、御自分がメシアであることをだれにも話さないように、と弟子たちに命じられた。

イエス、死と復活を予告する

（マコ8:31—9:1、ルカ9:22—27）

このときから、イエスは、御自分が必ずエルサレムに行つて、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受けて殺され、三日目に復活することになっている、と弟子たちに打ち明け始められた。²²すると、ペトロはイエスをわきへお連れして、いさめ始めた。「主よ、とんでもないことです。そんなことがあつてはなりません。」²³イエスは振り向いてペトロに言われた。「サタン、引き下がれ。あなたはわたしの邪魔をする者。神のことを思わず、人間のことを思っている。」²⁴それから、弟子たちに言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負つて、わたしに従いなさい。²⁵自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを得る。²⁶人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失つたら、何の得があろうか。自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。²⁷人の子は、父の栄光に輝いて天使たちと共に来るが、そのとき、それぞれの行いに応じて報いるのである。²⁸はつきり言っておく。ここに一緒にいる人々の中には、人の子がその国と共に来るのを見るまでは、決して死なない者がいる。」

イエスの姿が変わる

（マコ9:2—13、ルカ9:28—36）

17

六日の後、イエスは、ペトロ、それにヤコブとその兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。²イエスの姿が彼らの目の前で変わり、顔は太陽のように輝き、服は光のように白くなった。³見ると、モーセとエリヤが現れ、イエスと語り合っていた。⁴ペトロが口をはさんでイエスに言った。「主よ、わたしたちがここにいるのは、素晴らしいことです。お望みでしたら、わたしがここに仮小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのためです。」⁵ペトロがこう話しているうちに、光り輝く雲が彼らを覆った。すると、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者。これに聞け」という声が雲の中から聞こえた。⁶弟子たちはこれを聞いてひれ伏し、非常に恐れた。⁷イエスは近づき、彼らに手を触れて言われた。「起きなさい。恐れることはない。」⁸彼らが顔を上げて見ると、イエスのほかにだれもいなかった。⁹一同が山を下るとき、イエスは、「人の子が死者の中から復活するまで、今見たことをだれにも話してはならない」と弟子たちに命じられた。¹⁰彼らはイエスに、「なぜ、律法学者は、まずエリヤが来るはずだと言っているのでしょうか」と尋ねた。¹¹イエスはお答えになった。「確かにエリヤが来て、すべてを元どおりにする。」¹²言っておくが、エリヤは既に来たのだ。人々は彼を認めず、好きなようにあしらつたのである。人の子も、そのように人々から苦しめられることになる。」¹³そのとき、弟子たちは、イエスが洗礼者ヨハネのことを言われたのだと悟った。

悪霊に取りつかれた子をいやす

（マコ9:14—29、ルカ9:37—43a）

一同が群衆のところへ行くと、ある人がイエスに近寄り、ひざまずいて、¹⁴言った。「主よ、息子を憐れんでください。てんかんでひどく苦しんでいます。たびたびひなやみずのなかで倒れるのです。¹⁵お弟子たちのところに連れて来ましたが、治すことができませんでした。」¹⁷イエスはお答えになった。「なんと信仰のない、よこしまな時代なのか。いつまでわたしはあなたがたと共にいられようか。いつまで、あなたがたに我慢しなければならないのか。その子をここに、わたしのところに連れて来なさい。」¹⁸そして、イエスがお叱りになると、悪霊は出て行き、そのとき子供はいやされた。¹⁹弟子たちはひそかにイエスのところに来て、「なぜ、

あくれい お だ
わたしたちは悪霊を追い出せなかったのでしょうか」と言った。²⁰イエスは言われた。「信仰が薄いからだ。はっきり言うておく。もし、からし種一粒ほどの信仰
やま む うつ めい なに
があれば、この山に向かって、『ここから、あそこに移れ』と命じても、そのとおりになる。あなたがたにできないことは何もない。』」²¹

ふたた じぶん し ふつかつ よこく
再び自分の死と復活を予告する

(マコ930—32、ルカ943b—45)
いつこう あつ い ひと こ ひとびと て ひ わた ころ みつかめ ふつかつ でし
²²一行がガリラヤに集まったとき、イエスは言われた。「人の子は人々の手に引き渡されようとしている。²³そして殺されるが、三日目に復活する。」弟子たち
ひじょう かな
は非常に悲しんだ。

しんでんぜい おさ
神殿税を納める
いつこう き しんでんぜい あつ もの き せんせい しんでんぜい おさ い
²⁴一行がカファルナウムに来たとき、神殿税を集める者たちがペトロのところにきて、「あなたたちの先生は神殿税を納めないのか」と言った。²⁵ペトロは、
おさ い いえ はい ぼう い おも ちじょう おう ぜい みつ もの と た
「納めます」と言った。そして家に入ると、イエスの方から言いだされた。「シモン、あなたはどうか。地上の王は、税や貢ぎ物をだれから取り立てるの
じぶん こども ひとびと こた い こども おさ
か。自分の子供たちからか、それともほかの人々からか。」²⁶ペトロが「ほかの人々からです」と答えると、イエスは言われた。「では、子供たちは納めなくてよ
いわけだ。²⁷しかし、彼らをつまずかせないようにしよう。湖に行つて釣りをしなさい。最初に釣れた魚を取つて口を開けると、銀貨が一枚見つかるはずだ。
と ぶん おさ
それを取つて、わたしとあなたの分として納めなさい。」

てん くに えら もの
天の国でいちばん偉い者

(マコ933—37、ルカ946—48)

18

でし き てん くに えら い ひとり こども よ よ かれ
そのとき、弟子たちがイエスのところにきて、「いったいだれが、天の国でいちばん偉いのでしょうか」と言った。²そこで、イエスは一人の子供を呼び寄せ、彼ら
なか た い い ところ い か こども けつ てん くに はい じぶん ひく
の中に立たせて、言われた。「はっきり言うておく。心を入れ替えて子供のようにならなければ、決して天の国に入ることはできない。⁴自分を低くして、この
こども ひと てん くに えら な ひとり こども う い もの う い
子供のようになる人が、天の国でいちばん偉いのだ。⁵わたしの名のためにこのような一人の子供を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。」

つみ せうわく
罪への誘惑

(マコ942—48、ルカ171—2)

しん ちい もの ひとり もの おお いしうす くび か ふか うみ しず ほう よ ひと
。「しかし、わたしを信じるこれらの小さな者の一人をつまずかせる者は、大きな石臼を首に懸けられて、深い海に沈められる方がましである。⁷世は人をつま
ふこう さ もの ふこう かたほう て あし き す
ずかせるから不幸だ。つまずきは避けられない。だが、つまずきをもたらす者は不幸である。⁸もし片方の手が足があなたをつまずかせるなら、それを切つて捨てて
りょうて りょうあし えいえん ひ な こ かたて かたあし いのち ほう かたほう め
しまいなさい。両手両足がそろったまま永遠の火に投げ込まれるよりは、片手片足になつても命にあずかる方がよい。⁹もし片方の目があなたをつまずかせる
だ す りょうほう め ひ じごく な こ ひと め いのち ほう
なら、えぐり出して捨ててしまいなさい。両方の目がそろったまま火の地獄に投げ込まれるよりは、一つの目になつても命にあずかる方がよい。」

まよ で ひつじ
「迷い出た羊」のたとえ

(ルカ153—7)

ちい もの ひとり かる き い かれ てんし てん てん ちち みかお あお
¹⁰「これらの小さな者を一人でも軽んじないように気をつけなさい。言うておくが、彼らの天使たちは天でいつもわたしの天の父の御顔を仰いでいるのであ
おも ひと ひつじ ひきも ひき まよ で ひき やま のこ まよ で ひき さが い
る。¹¹あなたがたはどう思うか。ある人が羊を百匹持つていて、その一匹が迷い出たとすれば、九十九匹を山に残しておいて、迷い出た一匹を捜しに行かない
い み まよ ひき びき よろこ ちい もの ひと
だろうか。¹³はつきり言うておくが、もし、それを見つけたら、迷わずにいた九十九匹より、その一匹のことを喜ぶだろう。¹⁴そのように、これらの小さな者が一
り ぼろ てん ちち みころ
人でも滅びることは、あなたがたの天の父の御心ではない。」

きょうだい ちゆうこく
兄弟の忠告

(ルカ173)

きょうだい たい つみ おか い ふたり ちゆうこく い き い きょうだい え き い
¹⁵「兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行つて二人だけのところで忠告しなさい。言うことを聞き入れたら、兄弟を得たことになる。¹⁶聞き入れなけれ
ひとり ふたり いっしょ つ い ふたり にん しょうにん くち かくてい き い
ば、ほかに一人か二人、一緒に連れて行きなさい。すべてのことが、二人または三人の証人の口によって確定されるようになるためである。¹⁷それでも聞き入れ
きょうかい もう で きょうかい い き い ひと いほうじん ちょうぜいにん どうよう み
なければ、教会に申し出なさい。教会の言うことも聞き入れないなら、その人を異邦人か徴税人と同様に見なしなさい。
い ちじょう てんじょう と てんじょう と い
¹⁸はつきり言うておく。あなたがたが地上でつなぐことは、天上でもつながれ、あなたがたが地上で解くことは、天上でも解かれる。¹⁹また、はつきり言うて
ねが ごと ふたり ちじょう ころも と てん ちち ふたり にん
おくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。²⁰二人または三人がわ
な あつ なか
たしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。」

なかま ゆる けらい
「仲間を赦さない家来」のたとえ

²¹そのとき、ペトロがイエスのところに来て言った。「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか。」²²イエスは言われた。「あなたに言うておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。²³そこで、天の国は次のようにたとえられる。ある王が、家来たちに貸した金の決済をしようとした。²⁴決済し始めたところ、一万タラントン 借金している家来が、王の前に連れて来られた。²⁵しかし、返済できなかったので、主君はこの家来に、自分も妻も子も、また持ち物も全部売って返済するように命じた。²⁶家来はひれ伏し、『どうか待ってください。きつと全部お返しします』としきりに願った。²⁷その家来の主君は憐れに思って、彼を赦し、その借金を帳消しにしてやった。²⁸ところが、この家来は外に出て、自分に百デナリオンの借金をしている仲間に出会うと、捕まえて首を絞め、『借金を返せ』と言った。²⁹仲間はひれ伏して、『どうか待ってくれ。返すから』としきりに頼んだ。³⁰しかし、承認せず、その仲間を引っぱって行き、借金を返すまでと牢に入れた。³¹仲間たちは、事の次第を見て非常に心を痛め、主君の前に出て事件を残らず告げた。³²そこで、主君はその家来を呼びつけて言った。『不屈きな家来だ。お前が頼んだから、借金を全部帳消しにしてやったのだ。』³³わたしがお前を憐れんでやったように、お前も自分の仲間を憐れんでやるべきではなかったか。』³⁴そして、主君は怒って、借金をすっかり返済するまでと、家来を牢役人に引き渡した。³⁵あなたがたの一人一人が、心から兄弟を赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに同じようになさるであろう。」

リエン、おし
離縁について教える

(マコ10:11-12)

19

¹イエスはこれらの言葉を語り終えると、ガリラヤを去り、ヨルダン川の向こう側のユダヤ地方に行かれた。²大勢の群衆が従った。イエスはそこで人々の病気をいやされた。

³ファリサイ派の人々が近寄り、イエスを試そうとして、「何か理由があれば、夫が妻を離縁することは、律法に揃っているでしょうか」と言った。⁴イエスはこたえなかった。「あなたたちは誰んだことがないのか。創造主は初めから人を男と女とにお造りになった。」⁵そして、こうも言われた。「それゆえ、人は父母を離れてその妻と結ばれ、二人は一体となる。⁶だから、二人はもはや別々ではなく、一体である。従って、神が結び合わせてくださったものを、人は離してはならない。」⁷すると、彼らはイエスに言った。「では、なぜモーセは、離縁状を渡して離縁するように命じたのですか。」⁸イエスは言われた。「あなたたちの心が頑固なので、モーセは妻を離縁することを許したのであつて、初めからそうだったわけではない。⁹言うておくが、不法な結婚でもないのに妻を離縁して、他の女を妻にする者は、姦通の罪を犯すことになる。」¹⁰弟子たちは、「夫婦の間柄がそんなものなら、妻を迎えない方がましです」と言った。¹¹イエスは言われた。「だれもがこの言葉を受け入れるのではなく、恵まれた者だけである。¹²結婚できないように生まれついた者、人から結婚できないようにされた者もいるが、天の国のために結婚しない者もいる。これを受け入れることのできる人は受け入れなさい。」

こども、しゆくふく
子供を祝福する

(マコ10:13-16、ルカ18:15-17)

¹³そのとき、イエスに手を置いて祈っていたために、人々が子供たちを連れて来た。弟子たちはこの人々を叱った。¹⁴しかし、イエスは言われた。「子供たちを来させなさい。わたしのところに来るのを妨げてはならない。天の国はこのような者たちのものである。」¹⁵そして、子供たちに手を置いてから、そこを立ち去られた。

かわら、せいねん
金持ちの青年

(マコ10:17-31、ルカ18:18-30)

¹⁸さて、一人の男がイエスに近寄って来て言った。「先生、永遠の命を得るには、どんな善いことをすればよいのでしょうか。」¹⁷イエスは言われた。「なぜ、善いことについて、わたしに尋ねるのか。善い方はおひとりである。もし命を得たいのなら、掟を守りなさい。」¹⁸男が「どの掟ですか」と尋ねると、イエスは言われた。「『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、』¹⁹父母を敬え、また、隣人を自分のように愛しなさい。』」²⁰そこで、この青年は言った。「そういうことはみな守ってきました。まだ何か欠けているのでしょうか。」²¹イエスは言われた。「もし完全になりたいのなら、行って持ち物を売り払い、貧しいひとびとにばねを施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」²²青年はこの言葉を聞き、悲しみながら立ち去った。たくさんの財産を持っていたからである。

²³イエスは弟子たちに言われた。「はっきり言うておく。金持ちが天の国に入るのは難しい。²⁴重ねて言うが、金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。」²⁵弟子たちはこれを聞いて非常に驚き、「それでは、だれが救われるのだろうか」と言った。²⁶イエスは彼らを見つめて、「それは人間にできることではないが、神は何でもできる」と言われた。²⁷すると、ペトロがイエスに言った。「このとおり、わたしたちは何もかも捨ててあなたに従って参りました。では、わたしたちは何をいただけるのでしょうか。」²⁸イエスは一同に言われた。「はっきり言うておく。新しい世界になり、人の子が栄光の座に座るとき、あなたがたも、わたしに従って来たのだから、十二の座に座ってイスラエルの十二部族を治めることになる。」²⁹わたしの名のために、家、兄弟、姉妹、父、母、子供、畑を捨てた者は皆、その百倍もの報いを受け、永遠の命を受け継ぐ。³⁰しかし、先にいる多くの者が後になり、後にいる多くの者が先になる。」

えん、ろうどうしや
「ぶどう園の労働者」のたとえ

てん く に つぎ いえ しゅじん えん はたら ろうどうしゃ やと よ あ で い しゅじん にち
¹「天の国は次のようにたとえられる。ある家の主人が、ぶどう園で 働 く 労働者を雇うために、夜明けに出かけて行った。²主人は、一日につき一デナリオンのやくそく ろうどうしゃ えん おく じ い なに ひろば た ひとびと えん い 約束で、労働者をぶどう園に送った。³また、九時ごろ行ってみると、何もしないで広場に立っている人々がいたので、⁴『あなたたちもぶどう園に行きなさい。ふさわしい賃金を払ってやろう』と言った。⁵それで、その人たちは出かけて行った。主人は、十二時ごろと三時ごろにまた出て行き、同じようにした。⁶五時ごろにも行ってみると、ほかの人々が立っていたので、『なぜ、何もしないで一日 中 ここに立っているのか』と尋ねると、⁷彼らは、『だれも雇ってくれないのです』と言った。主人は彼らに、『あなたたちもぶどう園に行きなさい』と言った。⁸夕方になって、ぶどう園の主人は監督に、『労働者たちを呼んで、最後に来た者から始めて、最初に来た者まで 順 に賃金を払ってやりなさい』と言った。⁹そこで、五時ごろに雇われた人たちが来て、一デナリオンずつ受け取った。¹⁰最初に雇われた人たちが来て、もっと多くもらえるだろうと思っていた。しかし、彼らも一デナリオンずつであった。¹¹それで、受け取ると、主人に不平を言った。¹²『最後に来たこの連 中 は、一時間しか 働 きませんでした。まる一日、暑い中を辛抱して 働 いたわたしたちと、この連 中 とを同じ 扱 いにするとは。』¹³主人はその一人に答えた。『友よ、あなたに不当なことはしていない。あなたはわたしと一デナリオンの約束をしたではないか。¹⁴自分の分を受け取って帰るなさい。わたしはこの最後の者にも、あなたと同じように支払ってやりたいのだ。¹⁵自分のものを自分のしたいようにしては、いけないか。それとも、わたしの気前のよさをねたむのか。』¹⁶このように、後にいる者が先になり、先にいる者が後になる。」

イエス、三度死と復活を予告する

（マコ10:32—34、ルカ18:31—34）

のぼ い とちゆう にん でし よ よ い いま のぼ い ひと こ さいしちょう
¹⁷イエスはエルサレムへ上って行く途 中 、十二人の弟子だけを呼び寄せて言われた。¹⁸「今、わたしたちはエルサレムへ上って行く。人の子は、祭司 長 たちやりつぼうがくしゃ ひ わた くれ しけい せんごく いほうじん ひ わた ひと こ ぶじよく むちう じゅうじ か ひと こ みつ 律法学者たちに引き渡される。彼らは死刑を宣告して、¹⁹異邦人に引き渡す。人の子を侮 辱 し、鞭打ち、十 十字架につけるためである。そして、人の子は三日目に復活する。」

ヤコブとヨハネの母の願い

（マコ10:35—45）

むすこ はは ふたり むすこ いっしょ き ふ なに ねが なに のぞ い
²⁰そのとき、ゼベダイの息子たちの母が、その二人の息子と一緒にイエスのところに来て、ひれ伏し、何かを願おうとした。²¹イエスが、「何が望みか」と言われると、彼女は言った。「王座にお着きになるとき、この二人の息子が、一人はあなたの右に、もう一人は 左 に座れるとおっしゃってください。」²²イエスはおこた さいご き れんちゆう じかん はたら にち あつ なか しんぼう はたら れんちゆう おな あつか しゅじん 答えになった。「あなたがたは、自分が何を願っているか、分かっている。このわたしが飲もうとしている 杯 を飲むことができるか。」二人が、「できます」と言うのと、²³イエスは言われた。「確かに、あなたがたはわたしの 杯 を飲むことになる。しかし、わたしの右と 左 にだれが座るかは、わたしの決めることではない。それは、わたしの父によって定められた人々に許されるのだ。」²⁴ほかの十人の者はこれ聞いて、この二人の 兄 弟のことで腹を立てた。²⁵そこで、イエスはいちどう よ よ い し いほうじん あいだ しはいしゃ たみ しはい えら ひと けんりよく ふ は一同を呼び寄せて言われた。「あなたがたも知っているように、異邦人の 間 では支配者たちが民を支配し、偉い人たちが権 力を振るっている。²⁶しかし、あなたがたの 間 では、そうであってはならない。あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、²⁷いちばん上になりたい者は、皆の 僕 になりなさい。²⁸人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の 命 を献げるために来たのと同じように。」

ふたり もうじん
二人の盲人をいやす

（マコ10:46—52、ルカ18:35—43）

いっこう まち で おおぜい ぐんしゆう したが ふたり もうじん みちばた すわ とお き しゅ
²⁹一行がエリコの町を出ると、大勢の群 衆 がイエスに 従 った。³⁰そのとき、二人の盲人が道端に座っていたが、イエスがお通りと聞いて、「主よ、ダビデの子よ、わたしたちを憐れんでください」と叫んだ。³¹群 衆 は叫りつけて黙らせようとしたが、二人はますます、「主よ、ダビデの子よ、わたしたちを憐れんでください」と叫んだ。³²イエスは立ち止まり、二人を呼んで、「何をしてほしいのか」と言われた。³³二人は、「主よ、目を開けていただきたいのです」と言った。³⁴イエスが深く 憐れんで、その目に触れられると、盲人たちはすぐ見えるようになり、イエスに 従 った。

エルサレムに迎えらる

（マコ11:1—11、ルカ19:28—38、ヨハ12:12—19）

いっこう ちか やまぞ き ふたり でし つか だ い む むら い
¹一行がエルサレムに近づいて、オリーブ山沿いのベツファゲに來たとき、イエスは二人の弟子を使いに出そうとして、²言われた。「向こうの村へ行きなさい。するとすぐ、ろばが見つないであり、一緒に子ろばのいるのが見つかる。それをほどいて、わたしのところに引いて来なさい。³もし、だれかが何か言ったら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。すぐ渡してくれる。」⁴それは、預言者を通して言われていたことが実現するためであった。

むすめ つ
ソンの 娘 に告げよ。

「よ、お前の王がお前のところにおいでになる、

和な方で、ろばに乗り、

「負うろばの子、子ろばに乗って。』」

「弟子たちは行つて、イエスが命じられたとおりにし、ろばと子ろばを引いて来て、その上に服をかけると、イエスはそれにお乗りになった。大勢の群衆が自分の服を道に敷き、また、ほかの人々は木の枝を切つて道に敷いた。そして群衆は、イエスの前に行く者も後に従う者も叫んだ。

「ダビデの子にホサナ。
主の名によって来られる方に、祝福があるように。

「高きところにホサナ。」
「イエスがエルサレムに入られると、都中の者が、「いったい、これはどういう人だ」と言つて騒いだ。そこで群衆は、「この方は、ガリラヤのナザレから出た預言者イエスだ」と言つた。

神殿から商人を追い出す

（マコ11:15—19、ルカ19:45—48、ヨハ2:13—22）
「それから、イエスは神殿の境内に入り、そこで売り買いをしていた人々を皆追い出し、両替人の台や鳩を売る者の腰掛けを倒された。そして言われた。
「こう書いてある。
『わたしの家は、祈りの家と呼ばれるべきである。』

「ろが、あなたたちは

それを強盗の巢にしている。」
「境内では目の見えない人や足の不自由な人たちがそばに寄つて来たので、イエスはこれらの人々をいやされた。他方、祭司長たちや、律法学者たちは、イエスがなさつた不思議な業を見、境内で子供たちまで叫んで、「ダビデの子にホサナ」と言うのを聞いて腹を立て、イエスに言つた。「子供たちが何と言つてゐるか、聞こえるか。」イエスは言われた。「聞こえる。あなたたちこそ、『幼子や乳飲み子の口に、あなたは賛美を歌わせた』という言葉はまだ誑んだことがないのか。』」それから、イエスは彼らと別れ、都を出てベタニアに行き、そこにお泊りになった。

いちじくの木を呪う

（マコ11:12—14、20—24）
「朝早く、都に帰る途中、イエスは空腹を覚えられた。道端にいちじくの木があるのを見て、近寄られたが、葉のほかは何もなかった。そこで、「今から後いつまでも、お前には実がならないように」と言われると、いちじくの木はたちまち枯れてしまった。弟子たちはこれを見て驚き、「なぜ、たちまち枯れてしまったのですか」と言つた。イエスはお答えになった。「はつきり言つておく。あなたがたも信仰を持ち、疑わないならば、いちじくの木に起こつたようなことができるばかりでなく、この山に向かい、『立ち上がつて、海に飛び込め』と言つても、そのとおりになる。信じて祈るならば、求めるものは何でも得られる。」

権威についての問答

（マコ11:27—33、ルカ20:1—8）
「イエスが神殿の境内に入つて教えておられると、祭司長や民の長老たちが近寄つて来て言つた。「何の権威でこのようなことをしているのか。だれがその権威を与えたのか。」」イエスはお答えになった。「では、わたしも一つ尋ねる。それに答えるなら、わたしも、何の権威でこのようなことをするのか、あなたたちに言おう。ヨハネの洗礼はどこからのものだったか。天からのものか、それとも、人からのものか。」彼らは論じ合つた。「『天からのものだ』と言えば、『では、なぜヨハネを信じなかつたのか』と我々に言うだろう。『人からのものだ』と言えば、群衆が怖い。皆がヨハネを預言者と思つているから。」」そこで、彼らはイエスに、「分らない」と答えた。すると、イエスも言われた。「それなら、何の権威でこのようなことをするのか、わたしも言うまい。」

「二人の息子」のたとえ

「ところで、あなたたちはどう思うか。ある人に息子が二人いたが、彼は兄のところへ行き、『子よ、今日、ぶどう園へ行つて働きなさい』と言つた。兄は

『いやです』と答えたが、後で 考 え直して出かけた。³⁰ 弟 のところへも行つて、同じことを言うと、 弟 は『お父さん、 承 知しました』と答えたが、出かけなかつた。³¹この二人のうち、どちらが父 親の望みどおりにしたか。」彼らが「兄の方です」と言うと、イエスは言われた。「はつきり言うておく。 徴 税人や 娼 婦たちの方が、あなたたちより先に神の国に入るだろう。³²なぜなら、ヨハネが来て義の道を示したのに、あなたたちは彼を信ぜず、 徴 税人や 娼 婦たちは信じたからだ。あなたたちはそれを見ても、後で 考 え直して彼を信じようとしなかつた。」

「ぶどう園と農夫」のたとえ

(マコ12 1—12、ルカ20 9—19)

³³「もう一つのたとえを聞きなさい。ある家の主人がぶどう園を作り、垣を巡らし、その中に搾り場を掘り、見張りのやぐらを立て、これを農夫たちに貸してたび 旅に出た。³⁴さて、 収 穫の時が近づいたとき、 収 穫を受け取るために、 僕 たちを農夫たちのところへ送った。³⁵だが、農夫たちはこの 僕 たちを捕まえ、一人を 袋 だたきにし、一人を殺し、一人を石で打ち殺した。³⁶また、他の 僕 たちを前よりも多く送ったが、農夫たちは同じ目に遭わせた。³⁷そこで最後に、『わたしの息子なら 敬 ってくれるだろう』と言って、主人は自分の息子を送った。³⁸農夫たちは、その息子を見て話し合った。『これは跡取りだ。さあ、殺して、彼の相続財産を我々のものにしよう。』³⁹そして、息子をつままえ、ぶどう園の外にほうり出して殺してしまった。⁴⁰さて、ぶどう園の主人が帰って来たら、この農夫たちをどうするだろうか。」⁴¹彼らは言った。「その悪人どもをひどい目に遭わせて殺し、ぶどう園は、季節ごとに 収 穫を納めるほかの農夫たちに貸すにちがいない。」⁴²イエスは言われた。「聖書にこう書いてあるのを、まだ読んだことがないのか。

え た もの す いし
を建てる者の捨てた石、

すみ おやいし
が隅の親石となった。

しゅ
は、主がなさったことで、

め ふし ぎ み
したちの目には不思議に見える。』

⁴³だから、言うておくが、神の国はあなたたちから取り上げられ、それにふさわしい実を結ぶ民族に与えられる。⁴⁴この石の上に落ちる者は打ち砕かれ、この石がだれかの上に落ちれば、その人は押しつぶされてしまう。」

⁴⁵祭司 長 たちやファリサイ派の人々はこのたとえを聞いて、イエスが自分たちのことを言うておられると気づき、⁴⁶イエスを捕まえようとしたが、群 衆 を恐れた。群 衆 はイエスを預言者だと思っていたからである。

「^{こんえん}婚宴」のたとえ

(ルカ14 15—24)

22

「イエスは、また、たとえを用いて語られた。²『天の国は、ある王が王子のために婚宴を催したのに似ている。³王は家来たちを送り、婚宴に招いておいた人々と呼ばせたが、来ようとしなかった。⁴そこでまた、次のように言って、別の家来たちを使いに出した。『招いておいた人々にこう言いなさい。『食事の用意が整いました。牛や肥えた家畜を屠って、すっかり用意ができています。さあ、婚宴においでください。』』⁵しかし、人々はそれを無視し、一人は畑に、一人は商売に出かけ、⁶また、他の人々は王の家来たちを捕まえて乱暴し、殺してしまった。⁷そこで、王は怒り、軍隊を送って、この人殺しどもを滅ぼし、その町を焼き払った。⁸そして、家来たちに言った。『婚宴の用意はできているが、招いておいた人々は、ふさわしくなかった。⁹だから、町の大通りに出て、見かけた者はだれでも婚宴に連れて来なさい。』¹⁰そこで、家来たちは通りに出て行き、見かけた人は善人も悪人も皆集めて来たので、婚宴は客でいっぱいになった。¹¹王が客を見ようとして来ると、婚礼の礼服を着ていない者が一人いた。¹²王は、『友よ、どうして礼服を着ないでここに入って来たのか』と言った。この者が黙っていると、¹³王は側近の者たちに言った。『この男の手足を縛って、外の暗闇にほうり出せ。そこで泣きわめいて歯ざしりするだろう。』¹⁴招かれる人は多いが、選ばれる人は少ない。』

こうてい ぜいきん
皇帝への税金

(マコ12 13—17、ルカ20 20—26)

¹⁵それから、ファリサイ派の人々は出て行って、どのようにしてイエスの言葉じりをとらえて、罠にかけようかと相談した。¹⁶そして、その弟子たちをヘロデ派の
人々と一緒にイエスのところに遣わして尋ねさせた。「先生、わたしたちは、あなたが真実な方で、真理に基づいて神の道を教え、だれをもはばからない方
であることを知っています。人々を分け隔てなさらないからです。¹⁷ところで、どうお思いでしょうか、お教えください。皇帝に税金を納めるのは、律法に適っ
ているでしょうか、適っていないでしょうか。」¹⁸イエスは彼らの悪意に気づいて言われた。「偽善者たち、なぜ、わたしを試そうとするのか。¹⁹税金に納めるお
金を見せなさい。」彼らがデナリオン銀貨を持って来ると、²⁰イエスは、「これは、だれの肖像と銘か」と言われた。²¹彼らは、「皇帝のものです」と言った。す
ると、イエスは言われた。「では、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」²²彼らはこれを聞いて驚き、イエスをその場に残留して立ち去った。

ふっかつ もんどう
復活についての問答

(マコ12 18—27、ルカ20 27—40)

あゝその同じ日、復活はないと言っているサドカイ派の人々が、イエスに近寄つて来て尋ねた。²⁴「先生、モーセは言っています。『ある人が子でなくて死んだ場合、おとうと、あにまゝ けつこん あに あとつ 合、その 弟 は兄嫁と結婚して、兄の跡継ぎをもうけねばならない』と。²⁵さて、わたしたちのところに、七人の 兄 弟がいました。長 男は妻を迎えましたが死に、跡つ 弟は 兄嫁と結婚して、兄の跡継ぎをもうけねばならない』と。²⁵さて、わたしたちのところに、七人の 兄 弟がいました。長 男は妻を迎えましたが死に、跡継ぎがなかったので、その妻を 弟に残しました。²⁶次男も三男も、ついに七人とも同じようになりました。²⁷最後にその 女も死にました。²⁸すると復活の時、その 女は七人のうちのだれの妻になるのでしょうか。皆その 女を妻にしたのです。」²⁹イエスはお答えになった。「あなたたちは聖書も神の力も知らないから、思い違いをしている。³⁰復活の時には、めとることも嫁ぐこともなく、天使ようになるのだ。³¹死者の復活については、神があなたたちに言われたことばよ、思い違いをしている。³⁰復活の時には、めとることも嫁ぐこともなく、天使ようになるのだ。³¹死者の復活については、神があなたたちに言われた言葉を読んだことがないのか。³²『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』とあるではないか。神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神なのだ。』³³群衆はこれを聞いて、イエスの教えに驚いた。

もっと じゅうよう おきて
最も重要な掟

(マコ12 28—34、ルカ10 25—28)

は　ひとびと　は　ひとと　い　こ　き　いつしよ　あつ　ひと　り　りつほう　せんもん　か　ため
 36「ファリサイ派の人々は、イエスがサドカイ派の人々を言い込められたと聞いて、一緒に集まった。36そのうちの一人、律法の専門家が、イエスを試そうとし
 たず　せんせい　りつほう　なか　おきて　もつと　じゅうよう　い　こころ　つ　せいしん　つ　おも　つ　かみ
 て尋ねた。36「先生、律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」37イエスは言われた。『心　を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神
 しゅ　あい　もつと　じゅうよう　だい　おきて　だい　おな　じゅうよう　りんじん　じぶん　あい　りつほう　ぜん
 である主を愛しなさい。』38これが最も重要な第一の掟である。39第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』40律法全
 たい　よげんしゃ　おきて　もと
 体と預言者は、この二つの掟に基づいている。」

こ もんどう
ダビデの子についての問答

(マコ12 35—37、ルカ20 41—44)

「ファリサイ派の人々が集まっていたとき、イエスはお尋ねになった。⁴²「あなたたちはメシアのことをどう思うか。だれの子だろうか。」彼らが、「ダビデの子です」と言うと、⁴³イエスは言われた。「では、どうしてダビデは、霊を受けて、メシアを主と呼んでいるのだろうか。

⁴⁴『主は、わたしの主にお告げになった。

みぎ　さ　つ
わたしの右の座に着きなさい、

てき
しがあなたの敵を

あし　くつぶく
あなたの足もとに屈服させるときまで」と。』

こ　ひとり　こと　い　かえ　ひ
“このようにダビデがメシアを主と呼んでいるのであれば、どうしてメシアがダビデの子なのか。”“これにはだれ一人、ひとと言も言い返すことができず、その日から
しつもん　もの
は、もはやあえて質問する者はなかった。

りつぼうがくしゃ　は　ひとびと　ひ　なん
律法学者とファリサイ派の人々を非難する

(マコ12:38—40、ルカ11:37—52、20:45—47)

23

ぐんしゆう　で　し　はな　りつぼうがくしゃ　は　ひとびと　ざ　つ　かれ　い
“それから、イエスは群衆と弟子たちにお話しになった。”「律法学者たちやファリサイ派の人々は、モーセの座に着いている。³だから、彼らが言うことは、すべ
おこな　まも　かれ　おこな　み　なら　い　じつこう　かれ　せ　お　おもに　ひと　かた
て行い、また守りなさい。しかし、彼らの行いは、見做ってはならない。言うだけで、実行しないからである。⁴彼らは背負いきれない重荷をまとめ、人の肩
の　じぶん　うご　ゆび　ぼんか　ひと　み　せいく　はい　こぼこ　おお　いふく
に載せるが、自分ではそれを動かすために、指一本貸そうともしない。⁵そのすることは、すべて人に見せるためである。聖句の入った小箱を大きくしたり、衣服
ふさ　なが　えんかい　じょうざ　かいどう　じょうせき　すわ　この　ひろば　あいさつ　せんせい　よ　この
の房を長くしたりする。⁶宴会では上座、会堂では上席に座ることを好み、⁷また、広場で挨拶されたり、『先生』と呼ばれたりすることを好む。⁸だが、あ
な　が　た　は　『先生』と呼ばれてはならない。あなたがたの師は一人だけで、あとは皆兄弟なのだ。⁹また、地上の者を『父』と呼んではならない。あなたがたの
ち　てん　ち　きょうし　よ　きょうし　ひとり　みなきょうだい　ちじょう　もの　ち　よ
父は天の父おひとりだけだ。¹⁰『教師』と呼ばれてもいけない。あなたがたの教師はキリスト一人だけである。¹¹あなたがたのうちでいちばん偉い人は、仕える
もの　たか　もの　ひく　もの　たか
者になりなさい。¹²だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。

りつぼうがくしゃ　は　ひとびと　ざ　ぜんしや　ふ　こう　かいしゅうしゃ　ひとり　うみ　りく　めぐ　ある　かいしゅうしゃ　じぶん　はい　ひと　はい
“律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。人々の前で天の国を閉ざすからだ。自分が入らないばかりか、入ろうとする人をも入
らせない。”

りつぼうがくしゃ　は　ひとびと　ざ　ぜんしや　ふ　こう　かいしゅうしゃ　ひとり　うみ　りく　めぐ　ある　かいしゅうしゃ　じぶん
“律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。改宗者を一人つくろうとして、海と陸を巡り歩くが、改宗者ができると、自分より
はい　わる　じ　ごく　こ
倍も悪い地獄の子にになってしまうからだ。

み　あんないにん　ふ　こう　しんてん　ちか　ちか　む　こう　しんてん　おうごん　ちか　は
“ものの見えない案内人、あなたたちは不幸だ。あなたたちは、『神殿にかけて誓えば、その誓いは無効である。だが、神殿の黄金にかけて誓えば、それは果
い　おろ　み　もの　おうごん　おうごん　きよ　しんてん　とうと　さいだん　ちか　ちか　む
たさねばならない』と言う。¹⁷愚かで、ものの見えない者たち、黄金と、黄金を清める神殿と、どちらが尊いか。¹⁸また、『祭壇にかけて誓えば、その誓いは無
こう　うえ　そな　もの　ちか　は　い　み　もの　そな　もの　きよ　さいだん　とうと
効である。その上の供え物にかけて誓えば、それは果たさねばならない』と言う。¹⁹ものの見えない者たち、供え物と、供え物を清くする祭壇と、どちらが尊
さいだん　ちか　もの　さいだん　うえ　ちか　しんてん　ちか　もの　しんてん　なか　す　かた　ちか
いか。²⁰祭壇にかけて誓う者は、祭壇とその上のすべてのものにかけて誓うのだ。²¹神殿にかけて誓う者は、神殿とその中に住んでおられる方にかけて誓うの
てん　ちか　もの　かみ　ぎよくざ　すわ　かた　ちか
だ。²²天にかけて誓う者は、神の玉座とそれに座っておられる方にかけて誓うのだ。

りつぼうがくしゃ　は　ひとびと　ざ　ぜんしや　ふ　こう　は　つか　ういきょう　ぶん　ささ　りつぼう　なか　も　つと　じゅうよう　せいぎ　じ　ひ
“律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。薄荷、いのんど、茴香の十分の一は献げるが、律法の中で最も重要な正義、慈悲
せいじつ　おこな　ぶん　ささ　もの　み　あんないにん
、誠実はないがしろにしているからだ。これこそ行うべきことである。もとより、十分の一の献げ物もないがしろにしてはならないが。²⁴ものの見えない案内人
びき　こ　のぞ　の　こ
、あなたたちはぶよ一匹さえも漉して除くが、らくだは飲み込んでいる。

りつぼうがくしゃ　は　ひとびと　ざ　ぜんしや　ふ　こう　さ　かずき　さら　そとがわ　うちがわ　ごうよく　ほうじゅう　み
“律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。杯や皿の外側はきれいにするが、内側は強欲と放縦で満ちているからだ。²⁸ものの
み　は　ひとびと　さ　かずき　うちがわ　そとがわ
見えないファリサイ派の人々、まず、杯の内側をきれいにせよ。そうすれば、外側もきれいになる。

りつぼうがくしゃ　は　ひとびと　ざ　ぜんしや　ふ　こう　しろ　ぬ　は　かに　そとがわ　うつく　み　うちがわ　し　しゃ　ほね
“律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。白く塗った墓に似ているからだ。外側は美しく見えるが、内側は死者の骨やあらゆる
けが　み　そとがわ　ひと　ただ　み　うちがわ　ぎ　ぜん　ふ　ほう　み
汚れて満ちている。²⁸このようにあなたたちも、外側は人に正しいように見えながら、内側は偽善と不法で満ちている。

りつぼうがくしゃ　は　ひとびと　ざ　ぜんしや　ふ　こう　よ　げんしや　は　か　た　ただ　ひと　き　ねん　ひ　かざ
“律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。預言者の墓を建てたり、正しい人の記念碑を飾ったりしているからだ。³⁰そして、『もし
せんぞ　じ　たい　い　よ　げんしや　ち　なが　が　わ　い　じ　ぶん　よ　げんしや　ころ　もの　し　そん　み　ず　か
先祖の時代に生きていても、預言者の血を流す側にはつかなかったであろう』などと言う。³¹こうして、自分が預言者を殺した者たちの子孫であることを、自
しょうめい　せんぞ　は　じ　あく　じ　し　あ　へ　び　ま　む　し　こ　じ　ごく　ば　つ　ま　ぬ　か
ら証明して生る。³²先祖が始めた悪事の仕上げをしたらどうだ。³³蛇よ、蝮の子らよ、どうしてあなたたちは地獄の罰を免れることができようか。³⁴だから、わ
よ　げんしや　ち　しゃ　が　く　しゃ　つか　なか　もの　ころ　じゅう　じ　か　もの　かい　どう　む　ちう　まち　まち　お　ま　わ
たしは預言者、知者、学者をあなたたちに遣わすが、あなたたちはその中のある者を殺し、十字架につけ、ある者を会堂で鞭打ち、町から町へと追い回して
は　く　がい　ただ　ひと　ち　せい　じ　よ　さい　だん　あい　だ　ころ　こ　ち　いた　ち　じょう　なが　ただ　ひと
迫害する。³⁵こうして、正しい人アベルの血から、あなたたちが聖所と祭壇の間で殺したバラキアの子ゼカルヤの血に至るまで、地上に流された正しい人の
ち　い　け　つか　いま　じ　たい　もの
血はすべて、あなたたちにふりかかってくる。³⁶はつきり言うておく。これらのことの結果はすべて、今の時代の者たちにふりかかってくる。」

な　げ
エルサレムのために嘆く

(ルカ13:34—35)
よ　げんしや　ころ　じ　ぶん　つか　ひとびと　い　し　う　ころ　もの　どり　ひ　な　は　ね　した　あ　つ　まえ　こ
“「エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、自分に遣わされた人々を石で打ち殺す者よ、めん鳥が雛を羽の下に集めるように、わたしはお前の子らを
なん　ど　あ　つ　まえ　おう　み　まえ　いえ　み　す　あ　は　い　まえ　し　ゆ　な
何度集めようとしたことか。だが、お前たちは応じようとしなかった。³⁸見よ、お前たちの家は見捨てられて荒れ果てる。³⁹言うておくが、お前たちは、『主の名に
こ　か　た　し　ゆ　く　ふ　く　い　いま　の　ち　け　つ　み
よって来られる方に、祝福があるように』と言うときまで、今から後、決してわたしを見ることがない。」

しんでん ほうかい よこく
神殿の崩壊を予告する

(マコ13 1—2、ルカ21 5—6)

24

しんでん けいだい で い でし ちかよ き しんでん たてもの ゆび い もの み
'イエスが神殿の境内を出て行かれると、弟子たちが近寄って来て、イエスに神殿の建物を指さした。'そこで、イエスは言われた。「これらすべての物を見ない
のか。はつきり言うておく。一つの石もここで崩されずに他の石の上に残ることはない。」

しゅうまつ しるし
終末の徴

(マコ13 3—13、ルカ21 7—19)

イエスがオリーブ山で座っておられると、弟子たちがやって来て、ひそかに言った。「おっしゃってください。そのことはいつ起こるのですか。また、あなたが来
られて世の終わるときには、どんな 徴があるのですか。」'イエスはお答えになった。「人に惑わされないように気をつけなさい。'わたしの名を名乗る者が大勢
現れ、『わたしがメシアだ』と言って、多くの人を惑わすだろう。'戦争の騒ぎや戦争のうわさを聞くだろうが、慌てないように気をつけなさい。そういうこと
は起こるに決まっているが、まだ世の終わりではない。'民は民に、国は国に敵対して立ち上がり、方々に飢饉や地震が起こる。'しかし、これらはすべて産みの
苦しみの始まりである。'そのとき、あなたがたは苦しみを受け、殺される。また、わたしの名のために、あなたがたはあらゆる民に憎まれる。'そのとき、多くの
人がつまずき、互いに裏切り、憎み合うようになる。'偽預言者も大勢現れ、多くの人を惑わす。'不法がはびこるので、多くの人の愛が冷える。'しかし、
最後まで耐え忍ぶ者は救われる。'14そして、御国のこの福音はあらゆる民への証しとして、全世界に宣べ伝えられる。それから、終わりが来る。」

おお くるん よこく
大きな苦難を予告する

(マコ13 14—23、ルカ21 20—24)

15「預言者ダニエルの言った憎むべき破壊者が、聖なる場所に立つのを見たら―読者は悟れ―、'そのとき、ユダヤにいる人々は山に逃げなさい。'17屋上に
いる者は、家にある物を取り出そうとして下に降りてはならない。'18畑にいる者は、上着を取りに帰ってはならない。'19それらの日には、身重の女と乳飲み子を
持つ女は不幸だ。'20逃げるのが冬や安息日にならないように、祈りなさい。'21そのときには、世界の初めから今までなく、今後も決してないほどの大きな苦難が
来るからである。'22神がその期間を縮めてくださらなければ、だれ一人救われない。しかし、神は選ばれた人たちのために、その期間を縮めてくださるであろ
う。'23そのとき、『見よ、ここにメシアがいる』『いや、ここだ』と言う者がいても、信じてはならない。'24偽メシアや偽預言者が現れて、大きなしるしや不思議
な業を行い、できれば、選ばれた人たちをも惑わそうとするからである。'25あなたがたには前もって言うておく。'26だから、人が『見よ、メシアは荒野にいる』
と言っても、行ってはならない。また、『見よ、奥の部屋にいる』と言っても、信じてはならない。'27稲妻が東から西へひらめき渡るように、人の子も来るからで
ある。'28死体のある所には、はげ鷹が集まるものだ。」

ひと こく
人の子が来る

(マコ13 24—27、ルカ21 25—28)

くるん ひび のち
の苦難の日々の後、たちまち

う くら
場は暗くなり、

ひかり はな
よ光を放たず、

そら お
よ空から落ち、

い ゆ うご
本は揺り動かされる。

30そのとき、人の子の徴が天に現れる。そして、そのとき、地上のすべての民族は悲しみ、人の子が大いなる力と栄光を帯びて天の雲に乗って来るのを見
る。'31人の子は、大きなラッパの音を合図にその天使たちを遣わす。天使たちは、天の果てから果てまで、彼によって選ばれた人たちを四方から呼び集める。」

き おし
いちじくの木の教え

(マコ13 28—31、ルカ21 29—33)

32「いちじくの木から教えを学びなさい。枝が柔らかくなり、葉が伸びると、夏の近づいたことが分かる。'33それと同じように、あなたがたは、これらすべてのこ

とを見たら、人の子が戸口に近づいていると悟りなさい。³⁴はつきり言うておく。これらのことがみな起こるまでは、この時代は決して滅びない。³⁵天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない。」

め　　さ
目を覚ましていなさい

(マコ13 32—37、ルカ12 39—40、17 26—30、34—35)

36「その日、その時は、だれも知らない。天使たちも知らない。ただ、父だけが存じである。37人の子が来るのは、ノアの時と同じだからである。38洪水に
なる前は、ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていた。39そして、洪水が襲って来て一人残らずさうまで、何も気
がつかなかった。人の子が来る場合も、このようである。40そのとき、畑に二人の男がいれば、一人は連れて行かれ、もう一人は残される。41二人の女が臼を
ひいていれば、一人は連れて行かれ、もう一人は残される。42だから、目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からな
いからである。43このことをわきまえていなさい。家の主人は、泥棒が夜のいつごろやって来るかを知っていたら、目を覚ましていて、みすみす自分の家に押し入
らせはしないだろう。44だから、あなたがたも用意していなさい。人の子は思いがけない時に来るからである。」

ちゅうじつ しもべ わる しもべ
忠実な僕と悪い僕

(ルカ1241—48)

⁴⁵「主人がその家の使用人たちの上に立てて、時間どおり彼らに食事を与えさせることにした忠実で賢い僕は、いつたいたれであらうか。⁴⁶主人が帰つて来たとき、言われたとおりにしているのを見られる僕は幸いである。⁴⁷はつきり言うておくが、主人は彼に全財産を管理させるにちがいない。⁴⁸しかし、それわるしもべしゅじんおそおもなまなぐはじさけのいつしょたの
 が悪い僕で、主人は遅いと思い、⁴⁹仲間を殴り始め、酒飲みどもと一緒に食べたり飲んだりしているとする。⁵⁰もしそうなら、その僕の主人は予想しない日、思いがけない時に帰つて来て、⁵¹彼を厳しく罰し、偽善者たちと同じ目に遭わせる。そこで泣きわめいて歯ざしりするだろう。」

「^{にん}十人のおとめ」のたとえ

25

「^{てん}そ^{くに}こ^{つぎ}で、天の国は次のようにた^{にん}と^びえ^もられる。十人のおと^{はなむこ}め^{むか}がそれぞれと^でし^い火^{にん}を持^{にん}つて、花婿^{かしこ}を迎えに出^{おろ}て行く。^{にん}2そのうちの五人は愚^{かしこ}か^{おろ}で、五人は賢^{かしこ}かつた。愚^{おろ}かなおと^びめ^{あぶら}たちは、と^{うい}もし火^{かしこ}は持^{あぶら}っていたが、油^いの用意^もをしてい^もなかつた。^い4賢^いいおと^{あぶら}め^わたちは、それぞれのと^いもし火^いと一^{あぶら}緒^きに、壺^{あぶら}に油^いを入^いれて持^いつていた。^い5ところが、花婿^{あぶら}の来^{あぶら}るのが遅^{あぶら}れたので、皆^{あぶら}眠^{あぶら}気がさ^{あぶら}して眠^{あぶら}り込^{あぶら}んでしま^{あぶら}った。^{あぶら}6真^{あぶら}夜^{あぶら}中に『花婿^{あぶら}だ。迎^{あぶら}えに出^{あぶら}なさい』と叫^{あぶら}ぶ声^{あぶら}がした。^{あぶら}7そ^{あぶら}こ^{あぶら}で、おと^{あぶら}め^{あぶら}たちは皆^{あぶら}起^{あぶら}きて、それぞ^{あぶら}れのと^{あぶら}もし火^{あぶら}を^{あぶら}整^{あぶら}えた。^{あぶら}8愚^{あぶら}かなおと^{あぶら}め^{あぶら}たちは、賢^{あぶら}いおと^{あぶら}め^{あぶら}たち^{あぶら}に言^{あぶら}った。^{あぶら}9『油^{あぶら}を分^{あぶら}けてく^{あぶら}ださい。わたしたちのと^{あぶら}もし火^{あぶら}は消^{あぶら}えそう^{あぶら}です。』賢^{あぶら}いおと^{あぶら}め^{あぶら}たちは答^{あぶら}えた。『分^{あぶら}けてあ^{あぶら}げるほ^{あぶら}どはあ^{あぶら}りま^{あぶら}せん。それよ^{あぶら}り、店^{あぶら}に行^{あぶら}つて、自^{あぶら}分の分^{あぶら}を買^{あぶら}つて来^{あぶら}なさい。』愚^{あぶら}かなおと^{あぶら}め^{あぶら}たちが買^{あぶら}いに行^{あぶら}つてい^{あぶら}る間^{あぶら}に、花婿^{あぶら}が到^{あぶら}着^{あぶら}して、用意^{あぶら}のできてい^{あぶら}る五人は、花婿^{あぶら}と一^{あぶら}緒^{あぶら}に婚^{あぶら}宴^{あぶら}の席^{あぶら}に入^{あぶら}り、戸^{あぶら}が閉^{あぶら}め^{あぶら}られた。^{あぶら}10その後^{あぶら}で、ほ^{あぶら}かのおと^{あぶら}め^{あぶら}たちも来^{あぶら}て、『御^{あぶら}主人^{あぶら}様^{あぶら}、御^{あぶら}主人^{あぶら}様^{あぶら}、開^{あぶら}けてく^{あぶら}ださい』と言^{あぶら}った。^{あぶら}11しかし主^{あぶら}人は、『は^{あぶら}つ^{あぶら}き^{あぶら}り言^{あぶら}つてお^{あぶら}く。わたしは^{あぶら}お前^{あぶら}たちを^{あぶら}知^{あぶら}らな^{あぶら}い』と答^{あぶら}えた。^{あぶら}12だから、目^{あぶら}を覚^{あぶら}まし^{あぶら}てい^{あぶら}なさい。あ^{あぶら}なたが^{あぶら}たは、そ^{あぶら}の^{あぶら}日^{あぶら}、そ^{あぶら}の^{あぶら}時^{あぶら}を^{あぶら}知^{あぶら}らな^{あぶら}い^{あぶら}の^{あぶら}だ^{あぶら}から。」

「タラントン」のたとえ

(ルカ19 11—27)

14「天の国はまた次のようにたとえられる。ある人が旅行に出かけるとき、僕たちを呼んで、自分の財産を預けた。15それぞれの力に応じて、一人には五タ
 ラントン、一人には二タラントン、もう一人には一タラントンを預けて旅に出かけた。早速、16五タラントン預かった者は出て行き、それで商売をして、ほかに
 五タラントンをもうけた。17同じように、二タラントン預かった者も、ほかに二タラントンをもうけた。18しかし、一タラントン預かった者は、出て行って穴を掘
 り、主人の金を隠しておいた。19さて、かなり日がたつてから、僕たちの主人が帰って来て、彼らと清算を始めた。20まず、五タラントン預かった者が進み出
 て、ほかの五タラントンを差し出して言った。『御主人様、五タラントンお預けになりましたが、御覧ください。ほかに五タラントンもうけました。』21主人は言
 った。『忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であつたから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』22次に、二タラ
 ントン預かった者も進み出て言った。『御主人様、二タラントンお預けになりましたが、御覧ください。ほかに二タラントンもうけました。』23主人は言った。『
 忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であつたから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』24ところで、一タラント
 ン預かった者も進み出て言った。『御主人様、あなたは時かない所から刈り取り、散らさない所からかき集められる厳しい方だと知っていましたので、25恐ろ
 しくなり、出かけて行って、あなたのタラントンを地の中に隠しておきました。御覧ください。これがあなたのお金です。』26主人は答えた。『怠け者の悪い僕
 だ。わたしが時かない所から刈り取り、散らさない所からかき集めることを知っていたのか。27それなら、わたしの金を銀行に入れておくべきであつた。そうし
 ておけば、帰って来たとき、利息付きで返してもらえたのに。28さあ、そのタラントンをこの男から取り上げて、十タラントン持っている者にとえよ。29だれでも持
 っている人は更に与えられて豊かになるが、持っていない人は持っているものまでも取り上げられる。30この役に立たない僕を外の暗闇に追い出せ。そこで泣き
 わめいて歯ぎしりするだろう。』」

すべての民族を救く
ひと こ えいこう かがや てんし みなしたが く えいこう ざ つ くに たみ まえ あつ ひつじ か ひつじ や
³¹「人の子は、栄光に 輝いて天使たちを皆 従えて来るとき、その栄光の座に着く。³²そして、すべての国の民がその前に集められると、羊 飼いが 羊 と山
ぎ わ かれ わ ひつじ みぎ や ぎ ひだり お おう みぎがわ ひと い ちち しゆくふく ひと てん ち
羊を分けるように、彼らをより分け、³³ 羊 を右に、山羊を 左 に置く。³⁴そこで、王は右側にいる人たちに言う。『さあ、わたしの父に 祝 福された人たち、天地
そうぞう と き まえ ようい くに う つ まえ う た かわ の たび
創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。³⁵お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渴いていたときに飲ませ、旅をし
ていたときに宿を貸し、³⁶ 裸 のときに着せ、病 気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。』³⁷すると、正しい人たちが王に答える。『主よ、いつ
う み た もの さ あ かわ み の もの さ あ たび み やど
わたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物差し上げ、のどが渴いておられるのを見て飲み物を差し上げたでしょうか。³⁸いつ、旅をしておられるのを見てお宿
か はだか み き びようき ろう み たず おう こた
を貸し、裸 でおられるのを見てお着せしたでしょうか。³⁹いつ、病 気をなさったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたでしょうか。』⁴⁰そこで、王は答え
る。『はつきり言うておく。わたしの 兄 弟であるこの 最 も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』
おう ひだりがわ ひと い のろ もの はな さ あくま てした ようい えいえん ひ はい まえ
⁴¹それから、王は 左 側にいる人たちにも言う。『呪われた者ども、わたしから離れ去り、悪魔とその手下のために用意してある永遠の火に入れ。⁴²お前たち
う いた りん かわ の たび き びようき ろう
は、わたしが飢えていたときに食べさせず、のどが渴いたときに飲ませず、⁴³旅をしていたときに宿を貸さず、裸 のときに着せず、病 気のとき、牢にいたとき
たず かわ こた しゆ う かわ たび はだか びようき
に、訪ねてくれなかったからだ。』⁴⁴すると、彼らも答える。『主よ、いつわたしたちは、あなたが飢えたり、渴いたり、旅をしたり、裸 であつたり、病 気で
ろう み せ わ おう こた い もつと ちい もの ひとり
あつたり、牢におられたりするのを見て、お世話をしなかったでしょうか。』⁴⁵そこで、王は答える。『はつきり言うておく。この 最 も小さい者の一人にしなかつ
もの えいえん ばつ う ただ ひと えいえん いのち
たのは、わたしにしてくれなかったことなのである。』⁴⁶こうして、この者どもは永遠の罰を受け、正しい人たちは永遠の 命 にあずかるのである。」

ころ けいりやく
イエスを殺す計 略

（マコ14 1—2、ルカ22 1—2、ヨハ11 45—53）

26

ことば かた お でし い し ふつか ご すぎこしさい ひと こ じゅうじ か
¹イエスはこれらの言葉をすべて語り終えると、弟子たちに言われた。²「あなたがたも知っているとおり、二日後は過 越 祭である。人の子は、十 字 架につけられる
ひ わた い さいし ちょう たみ ちようろう だいさいし やしき あつ けいりやく もち と ころ そう
ために引き渡される。」³そのころ、祭司 長 たちや民の 長 老たちは、カイアファという大祭司の屋敷に集まり、⁴計 略 を用いてイエスを捕らえ、殺そうと相
だん かれ みんしゆう なか さわ お まつ あいだ い
談した。⁵しかし彼らは、「民 衆 の中に騒ぎが起こるといけないから、祭りの 間 はやめておこう」と言っていた。

こうゆ そそ
ベタニアで香油を注がれる

（マコ14 3—9、ヨハ12 1—8）

おち ひ ふびよう ひと いえ ひとり おんな きわ こうか こうゆ はい せつこう つぼ も ちかよ しょくじ せき
⁶さて、イエスがベタニアで重い皮膚 病 の人シモンの家におられたとき、⁷一人の 女 が、極めて高価な香油の入った石 膏 の壺を持って近寄り、食 事 の席に
つ あたま こうゆ そそ でし み ふんがい い む だづか たか う まず ひとびと
着いておられるイエスの 頭 に香油を注ぎかけた。⁸弟子たちはこれを見て、憤 慨して言った。「なぜ、こんな無駄遣いをするのか。⁹高く売って、貧しい人々に
ほどこ し い ひと こま よ み まず ひとびと
施 すことができたのに。」¹⁰イエスはこれを知って言われた。「なぜ、この人を困らせるのか。わたしに良いことをしてくれたのだ。¹¹貧しい人々はいつもあなたが
いつしょ いたしよ ひと からだ こうゆ そそ ほうむ じゅんぴ い
たと一緒にいるが、わたしはいつも一 緒 にいるわけではない。¹²この人はわたしの 体 に香油を注いで、わたしを 葬 る 準 備をしてくれた。¹³はつきり言うてお
せ かいじゆう ふくいん の つた ところ ひと きねん かた つた
く。世界 中 どこでも、この福音が宣べ伝えられる 所 では、この人のしたことも記念として語り伝えられるだろう。」

ユダ・裏切りを企てる

(マコ14 10—11、ルカ22 3—6)

14そのとき、十二人の一人で、イスカリオテのユダという者が、祭司長たちのところへ行き、15「あの男をあなたたちに引き渡せば、幾らくれますか」と言った。そこで、彼らは銀貨三十枚を支払うことにした。16そのときから、ユダはイエスを引き渡そうと、良い機会をねらっていた。

過ぎ越しの食事をする

(マコ14 12—21、ルカ22 7—14、21—23、ヨハ13 21—30)

17除酵祭の第一日に、弟子たちがイエスのところに来て、「どこに、過ぎ越しの食事をなさる用意をいたしましょうか」と言った。18イエスは言われた。「都のあの人のところに行つてこう言いなさい。『先生が、「わたしの時が近づいた。お家で弟子たちと一緒に過ぎ越しの食事をする」と言っています。』」19弟子たちは、イエスに命じられたとおりにして、過ぎ越しの食事を準備した。20夕方になると、イエスは十二人と一緒に食事の席に着かれた。21一同が食事をしているとき、イエスは言われた。「はっきり言っておくが、あなたがたのうちの一人がわたしを裏切ろうとしている。」22弟子たちは非常に心を痛めて、「主よ、まさかわたしのことでは」と代わる代わる言い始めた。23イエスはお答えになった。「わたしと一緒に手で鉢に食べ物を浸した者が、わたしを裏切る。24人の子は、聖書に書いてあるとおりに、去って行く。だが、人の子を裏切るその者は不幸だ。生まれなかった方が、その者のためによかった。」25イエスを裏切ろうとしていたユダが口をはさんで、「先生、まさかわたしのことでは」と言うと、イエスは言われた。「それはあなたの言ったことだ。」

主の晩餐

(マコ14 22—26、ルカ22 15—20、一コリ11 23—25)

26一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えながら言われた。「取って食べなさい。これはわたしの体である。」27また、杯を取り、感謝の祈りを唱え、彼らに渡して言われた。「皆、この杯から飲みなさい。28これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。29言っておくが、わたしの父の国であなたがたと共に新たに飲むその日まで、今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。」30一同は賛美の歌をうたってから、オリーブ山へ出かけた。

ペトロの離反を予告する

(マコ14 27—31、ルカ22 31—34、ヨハ13 36—38)

31そのとき、イエスは弟子たちに言われた。「今夜、あなたがたは皆わたしにつまずく。『わたしは羊飼いを打つ。すると、羊の群れは散ってしまう』と書いてあるからだ。32しかし、わたしは復活した後、あなたがたより先にガリラヤへ行く。」33するとペトロが、「たとえ、みんながあなたにつまずいても、わたしは決してつまずきません」と言った。34イエスは言われた。「はっきり言っておく。あなたは今夜、鶏が鳴く前に、三度わたしのことを知らないと言うだろう。」35ペトロは、「たとえ、御一緒に死なねばならなくなっても、あなたのことを知らないなどとは決して申しません」と言った。弟子たちも皆、同じように言った。

ゲツセマネで祈る

(マコ14 32—42、ルカ22 39—46)

36それから、イエスは弟子たちと一緒にゲツセマネという所に来て、「わたしが向こうへ行つて祈っている間、ここに座っていなさい」と言われた。37ペトロおよびゼベダイの子二人を伴われたが、そのとき、悲しみもだえ始められた。38そして、彼らに言われた。「わたしは死ぬばかりに悲しい。ここを離れず、わたしと共に目を覚ましていなさい。」39少し進んで行って、うつ伏せになり、祈って言われた。「父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに。」40それから、弟子たちのところへ戻って御覧になると、彼らは眠っていたので、ペトロに言われた。「あなたがたはこのように、わずか一時もわたしと共に目を覚ましていられなかったのか。41誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていなさい。心は燃えても、肉体は弱い。」42更に、二度目に向こうへ行つて祈られた。「父よ、わたしが飲まないかぎりこの杯が過ぎ去らないのでしたら、あなたの御心が行われますように。」43再び戻って御覧になると、弟子たちは眠っていた。ひどく眠ったのである。44そこで、彼らを離れ、また向こうへ行つて、三度目も同じ言葉で祈られた。45それから、弟子たちのところに戻って来て言われた。「あなたがたはまだ眠っている。休んでいる。時が近づいた。人の子は罪人たちの手に引き渡される。46立て、行こう。見よ、わたしを裏切る者が来た。」

裏切られ、逮捕される

(マコ14 43—50、ルカ22 47—53、ヨハ18 3—12)

「イエスがまだ話しておられると、十二人の一人であるユダがやって来た。祭司 長 たちや民の 長 老たちの遭わした大勢の群 衆 も、 剣 や棒を持って一緒
に来た。」⁴⁰イエスを裏切ろうとしていたユダは、「わたしが接吻するのが、その人だ。それを捕まえろ」と、前もって合図を決めていた。⁴⁰ユダはすぐイエスに近寄
り、「先生、こんばんは」と言って接吻した。⁴⁰イエスは、「友よ、しようとしていることをするがよい」と言われた。すると人々は進み寄り、イエスに手をかけ
て捕らえた。⁴¹そのとき、イエスと一緒にいた者の一人が、手を伸ばして 剣 を抜き、大祭司の手下に打ちかかって、片 方の耳を切り落とした。⁴²そこで、イエス
は言われた。「 剣 をさやに納めなさい。 剣 を取る者は皆、 剣 で滅びる。」⁴³わたしが父にお願いできないとも思うのか。お願いすれば、父は十二軍団以 上
の天使を今すぐ送ってくださるであろう。⁴⁴しかしそれでは、 必 ずこうなると書かれている聖書の言葉がどうして実現されよう。」⁴⁵またそのとき、群 衆 に言わ
れた。「まるで強盗にでも向かうように、 剣 や棒を持って捕らえに来たのか。わたしは毎日、神 殿の境内に座って教えていたのに、あなたたちはわたしを捕ら
えなかった。」⁴⁶このすべてのことが起こったのは、預言 者たちの書いたことが実現するためである。」このとき、弟子たちは皆、イエスを見捨てて逃げてしまった。

最高法院で裁判を受ける

（マコ14 53—65、ルカ22 54—55、63—71、ヨハ18 13—14、19—24）

⁴⁷人々はイエスを捕らえると、大祭司カイアファのところへ連れて行った。そこには、律法学者たちや 長 老たちが集まっていた。⁴⁸ペトロは遠く離れてイエス
に 従い、大祭司の屋敷の中庭まで行き、事の成り行きを見ようと、中に入って、下役たちと一緒に座っていた。⁴⁹さて、祭司 長 たちと最高法院の全員
は、死刑にしようとしてイエスにとって不利な偽 証 を求めた。⁵⁰偽 証 人は何人も 現 れたが、 証 拠は得られなかった。最後に二人の者が来て、⁵¹「この 男
は、『神の神殿を打ち倒し、三日あれば建てることができる』と言いました」と告げた。⁵²そこで、大祭司は立ち上がり、イエスに言った。「何も答えないのか、
この者たちがお前に不利な 証 言をしているが、どうなのか。」⁵³イエスは黙り続けておられた。大祭司は言った。「生ける神に誓って我々に答えよ。お前は神
の子、メシアなのか。」⁵⁴イエスは言われた。「それは、あなたが言ったことです。しかし、わたしは言うておく。

。わたしはやがて、

人の子が全能の神の右に座り、
天の雲に乗って来るのを見る。」

⁵⁵そこで、大祭司は服を引き裂きながら言った。「神を冒 瀆した。これでもまだ 証 人が必要だろうか。諸君は今、冒 瀆の言葉を聞いた。⁵⁶どう思うか。」人
々は、「死刑にすべきだ」と答えた。⁵⁷そして、イエスの顔に唾を吐きかけ、こぶしで殴り、ある者は平手で打ちながら、⁵⁸「メシア、お前を殴ったのはだれか。
言い当ててしろ」と言った。

ペトロ、イエスを知らないと言う

（マコ14 66—72、ルカ22 56—62、ヨハ18 15—18、25—27）

⁶⁰ペトロは外にいて中庭に座っていた。そこへ一人の女 中 が近寄って来て、「あなたもガリラヤのイエスと一緒にいた」と言った。⁷⁰ペトロは皆の前でそれを
打ち消して、「何のことを言っているのか、わたしには分からない」と言った。⁷¹ペトロが門の方に行くと、ほかの女 中 が彼に目を留め、居合わせた人々に、「こ
の人はナザレのイエスと一緒にいました」と言った。⁷²そこで、ペトロは 再 び、「そんな人は知らない」と誓って打ち消した。⁷³しばらくして、そこにいた人々が
近寄って来てペトロに言った。「確かに、お前もあの連 中 の仲間だ。言葉遣いでそれが分かる。」⁷⁴そのとき、ペトロは呪いの言葉さえ口にしながら、「そんな
人は知らない」と誓い始めた。するとすぐ、 鶏 が鳴いた。⁷⁵ペトロは、「 鶏 が鳴く 前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」と言われたイエスの言
葉を思い出した。そして外に出て、激しく泣いた。

ピラトに引き渡される

（マコ15 1、ルカ23 1—2、ヨハ18 28—32）

27

「夜が明けると、祭司 長 たちと民の 長 老たち一同は、イエスを殺そうと相談した。」²そして、イエスを縛って引いて行き、総 督ピラトに渡した。

ユダ、自殺する

（使徒1 18—19）

³そのころ、イエスを裏切ったユダは、イエスに有罪の判決が下ったのを知って後悔し、銀貨三十枚を祭司 長 たちや 長 老たちに返そうとして、「わたしは
罪のない人の血を売り渡し、罪を犯しました」と言った。しかし彼らは、「我々の知ったことではない。お前の問題だ」と言った。⁴そこで、ユダは銀貨を神殿
に投げ込んで立ち去り、首をつって死んだ。⁵祭司 長 たちは銀貨を拾い上げて、「これは血の代金だから、神殿の 収 入にするわけにはいかない」と言い、⁶相
談のうえ、その金で「陶器 職 人の 畑 」を買い、外国人の墓地にすることにした。⁷このため、この 畑 は今日まで「血の 畑 」と言われている。⁸こうして、預
言 者エレミヤを通して言われていたことが実現した。「彼らは銀貨三十枚を取った。それは、値踏みされた者、すなわち、イスラエルの子らが値踏みした者の

あたい しゅ めい かね どう きしよくにん はたけ か と
価 である。¹⁰主がわたしにお命じになったように、彼らはこの金で陶器 職 人の 畑 を買い取った。」

じんもん
ピラトから尋問される

(マコ15:2—5、ルカ23:3—5、ヨハ18:33—38)

“さて、イエスは総 督の 前に立たれた。総 督がイエスに、「お前がユダヤ人の王なのか」と尋問すると、イエスは、「それは、あなたが言っていることです」と
い さいし ちょう ちょうろう うった あいだ なに こた
言われた。¹²祭司 長 たちや 長 老たちから 訴 えられている 間、これには何もお答えにならなかった。¹³するとピラトは、「あのようにお前に不利な 証 言をして
き
いるのに、聞こえないのか」と言った。¹⁴それでも、どんな 訴 えにもお答えにならなかったので、総 督は非 常 に不思議に思った。

しけい はんけつ う
死刑の判決を受ける

(マコ15:6—15、ルカ23:13—25、ヨハ18:39—19:16)

¹⁵ところで、祭りの度ごとに、総 督は民 衆 の希望する 囚 人を一人 釈 放することにしていた。¹⁶そのころ、バラバ・イエスという 評 判の 囚 人がいた。¹⁷ピ
ラトは、人々が集まって来たときに言った。「どちらを 釈 放してほしいのか。バラバ・イエスか。それともメシアといわれるイエスか。」¹⁸人 々がイエスを引き渡
したのは、ねたみのためだと分かっていたからである。¹⁹一方、ピラトが裁 判の席に着いているときに、妻から伝言があった。「あの正しい人に関係しないでく
ださい。その人のことで、わたしは昨夜、夢で随分苦しまれました。」²⁰しかし、祭司 長 たちや 長 老たちは、バラバを 釈 放して、イエスを死刑に処しても
らうようにと群 衆 を説得した。²¹そこで、総 督が、「二人のうち、どちらを 釈 放してほしいのか」と言うと、人 々は、「バラバを」と言った。²²ピラトが、「で
は、メシアといわれているイエスの方は、どうしたらよいか」と言うと、皆は、「十 字架につけろ」と言った。²³ピラトは、「いったいどんな悪事を 働 いたとい
うのか」と言ったが、群 衆 はますます激しく、「十 字架につけろ」と叫び続けた。²⁴ピラトは、それ以 上 言っても無駄なばかりか、かえって騒動が起こりそうな
のを見て、水を持って来させ、群 衆 の前で手を洗って言った。「この人の血について、わたしには責任がない。お前たちの問 題だ。」²⁵民はこぞって答えた。
「その血の責任は、我々と子孫にある。」²⁶そこで、ピラトはバラバを 釈 放し、イエスを鞭打ってから、十 字架につけるために引き渡した。

へいし おじょく
兵士から侮辱 される

(マコ15:16—20、ヨハ19:2—3)

²²それから、総 督の兵士たちは、イエスを総 督官 邸に連れて行き、部隊の全 員をイエスの周りに集めた。²³そして、イエスの着ている物をはぎ取り、赤い外套
を着せ、²⁴茨 で 冠 を編んで 頭 に載せ、また、右手に葦の棒を持たせて、その前にひざまずき、「ユダヤ人の王、万歳」と言って、侮 辱 した。³⁰また、唾を
吐きかけ、葦の棒を取り上げて 頭 をたたき続けた。³¹このようにイエスを侮 辱 したあげく、外套を脱がせて元の服を着せ、十 字架につけるために引いて行っ
た。

じゅうじ か
十 字架につけられる

(マコ15:21—32、ルカ23:26—43、ヨハ19:17—27)

³²兵士たちは出て行くと、シモンという名前のキレネ人に出会ったので、イエスの 十 字架を無理に担がせた。³³そして、ゴルゴタという 所、すなわち「されこう
べの場所」に着くと、³⁴苦いものを混ぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、イエスはなめただけで、飲もうとされなかった。³⁵彼らはイエスを 十 字架につけると、く
じを引いてその服を分け合い、³⁶そこに座って見張りをしていた。³⁷イエスの 頭 の上には、「これはユダヤ人の王イエスである」と書いた罪 状 書きを掲げた。³⁸
折から、イエスと一緒に二人の強盗が、一人は右にもう一人は 左 に、十 字架につけられていた。³⁹そこを通りかかった人 々は、 頭 を振りながらイエスをのの
しって、⁴⁰言った。「神 殿を打ち倒し、三日で建てる者、神の子なら、自分を救ってみろ。そして 十 字架から降りて来い。」⁴¹同じように、祭司 長 たちも律法
学者たちや 長 老たちと一緒に、イエスを侮 辱 して言った。⁴²「他人は救ったのに、自分は救えない。イスラエルの王だ。今すぐ 十 字架から降りるがいい。そ
うすれば、信じてやろう。⁴³神に頼っているが、神の御 心 ならば、今すぐ救ってもらえ。『わたしは神の子だ』と言っていたのだから。」⁴⁴一緒に 十 字架につけ
られた強盗たちも、同じようにイエスをののしった。

し
イエスの死

(マコ15:33—41、ルカ23:44—49、ヨハ19:28—30)

⁴⁵さて、昼の十二時に、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。⁴⁶三時ごろ、イエスは大 声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神
、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。⁴⁷そこに居合わせた人 々のうちには、これを聞いて、「この人はエリヤを呼んでいる」と言
う者もいた。⁴⁸そのうちの一人が、すぐに走り寄り、海綿を取って酸いぶどう酒を含ませ、葦の棒に付けて、イエスに飲ませようとした。⁴⁹ほかの人々は、「待
て、エリヤが彼を救いに来るかどうか、見ていよう」と言った。⁵⁰しかし、イエスは 再 び大 声で叫び、息を引き取られた。⁵¹そのとき、神 殿の垂れ幕が上から下
まで真つ二つに裂け、地震が起こり、岩が裂け、⁵²墓が開いて、眠りにっていた多くの聖なる者たちの 体 が生き返った。⁵³そして、イエスの復活の後、墓か
ら出て来て、聖なる 都 に入り、多くの人々に 現 れた。⁵⁴百 人 隊 長 や一緒にイエスの見張りをしていた人たちは、地震やいろいろの出来事を見て、非 常 に
恐れ、「本当に、この人は神の子だった」と言った。⁵⁵またそこでは、大勢の婦人たちが遠くから見守っていた。この婦人たちは、ガリラヤからイエスに 従 って

きて世話をしていた人々である。⁵⁶その中には、マグダラのマリア、ヤコブとヨセフの母マリア、ゼベダイの子らの母がいた。

墓に葬られる

（マコ15 42—47、ルカ23 50—56、ヨハ19 38—42）

⁵⁷夕方になると、アリマタヤ出身の金持ちでヨセフという人が来た。この人もイエスの弟子であつた。⁵⁸この人がピラトのところに行って、イエスの遺体を渡してくるようになり、お願いした。そこでピラトは、渡すようにと命じた。⁵⁹ヨセフはイエスの遺体を受け取ると、きれいな亜麻布に包み、⁶⁰岩に掘った自分の新しい墓の中に納め、墓の入り口には大きな石を転がしておいて立ち去った。⁶¹マグダラのマリアともう一人のマリアとはそこに残り、墓の方を向いて座っていた。

番兵、墓を見張る

⁶²明るく日、すなわち、準備の日の翌日、祭司長たちとファリサイ派の人々は、ピラトのところに集まって、⁶³こう言った。「閣下、人を惑わすあの者がまだ生きていたとき、『自分は三日後に復活する』と言っていたのを、わたしたちは思い出しました。⁶⁴ですから、三日目まで墓を見張るように命令してください。そうでないと、弟子たちが来て死体を盗み出し、『イエスは死者の中から復活した』などと民衆に言いふらすかもしれません。そうすると、人々は前よりもひどく惑わされることになります。」⁶⁵ピラトは言った。「あなたたちには、番兵がいるはずだ。行って、しっかりと見張らせるがよい。」⁶⁶そこで、彼らは行って墓の石に封印をし、番兵をおいた。

復活する

（マコ16 1—8、ルカ24 1—12、ヨハ20 1—10）

28

¹さて、安息日が終わって、週の初めの日の明け方に、マグダラのマリアともう一人のマリアが、墓を見に行つた。²すると、大きな地震が起こつた。主の天使が天から降って近寄り、石をわきへ転がし、その上に座つたのである。³その姿は稲妻のように輝き、衣は雪のように白かつた。⁴番兵たちは、恐ろしさのあまり震え上がり、死人のようになった。⁵天使は婦人たちに言った。「恐れることはない。十字架につけられたイエスを捜しているのだろうが、⁶あの方は、ここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なさつたのだ。さあ、遺体の置いてあつた場所を見なさい。⁷それから、急いで行って弟子たちにこう告げなさい。『あの方は死者の中から復活された。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれる。そこでお目にかかる。』確かに、あなたがたに伝えました。」⁸婦人たちは、恐れながらも大いに喜び、急いで墓を立ち去り、弟子たちに知らせるために走って行つた。⁹すると、イエスが行く手に立っていて、「おはよう」と言われたので、婦人たちは近寄り、イエスの足を抱き、その前にひれ伏した。¹⁰イエスは言われた。「恐れることはない。行って、わたしの兄弟たちにガリラヤへ行くように言いなさい。そこでわたしに会うことになる。」

番兵、報告する

¹¹婦人たちが行き着かないうちに、数人の番兵は都に帰り、この出来事をすべて祭司長たちに報告した。¹²そこで、祭司長たちは長老たちと集まって相談し、兵士たちに多額の金を与えて、¹³言つた。「『弟子たちが夜中にやって来て、我々の寝ている間に死体を盗んで行つた』と言いなさい。¹⁴もしこのことがそうとくみみ、はい、そうとくせつとく、しんばい、へいし、かね、うと、おし、総督の耳に入っても、うまく総督を説得して、あなたがたには心配をかけないようにしよう。」¹⁵兵士たちは金を受け取つて、教えられたとおりにした。この話は、今日に至るまでユダヤ人の間に広まっている。

弟子たちを派遣する

（マコ16 14—18、ルカ24 36—49、ヨハ20 19—23、使徒16—8）

¹⁶さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示しておかれた山に登つた。¹⁷そして、イエスに会い、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた。¹⁸イエスは、近寄つて来て言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。¹⁹だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、²⁰あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

底本に節が欠けている個所の異本による訳文

¹⁷ ²¹しかし、この種のもの、は、祈りと断食によらなければ出て行かない。

¹⁸ ¹¹人の子は、失われたものを救うために来た。

²³ ¹⁴律法学者とファリサイ派の人々、あなたがた偽善者は不幸だ。やもめの家を食物にし、見せかけの長い祈りをする。だからあなたがたは、人一倍厳しい裁きを受けることになる。

マルコによる福音書

- [1章](#) [2章](#) [3章](#) [4章](#) [5章](#)
- [6章](#) [7章](#) [8章](#) [9章](#) [10章](#)
- [11章](#) [12章](#) [13章](#) [14章](#) [15章](#)
- [16章](#)

[【戻る】](#)

ふくいんしよ
マルコによる福音書

せんれいしや おし の
洗礼者ヨハネ、教えを宣べる

(マタ3 1—12、ルカ3 1—9、15—17、ヨハ1 19—28)

1
かみ こ ふくいん はじ
¹神の子イエス・キリストの福音の初め。
よげんしや しよ か
²預言者イザヤの書にこう書いてある。

い さき ししや つか
1よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、

みち じゆんぴ
2たの道を準備させよう。

り さけ もの こえ
野で叫ぶ者の声がする。

ゆ みち ととの
3の道を整え、

みちすじ
4道筋をまっすぐにせよ。』」
せんれいしや あ の あらわ つみ ゆる え く あらた 〔バプテスマ〕 の つた ぜん ちほう じゅうみん みな
そのとおり、⁴洗礼者ヨハネが荒れ野に現れて、罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた。⁵ユダヤの全地方とエルサレムの住民は皆、ヨ
ハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。⁶ヨハネはらくだの毛衣を着、腰に革の帯を締め、いなごと野蜜を食べていた。⁷彼は
こう宣べ伝えた。「わたしよりも優れた方が、後から来られる。わたしは、かがんでその方の履物のひもを解く値打ちもない。⁸わたしは水であなたたちに
〔バプテスマ〕さず かた せいれい 〔バプテスマ〕 さず
洗礼を授けたが、その方は聖霊で洗礼をお授けになる。」

〔バプテスマ〕 う
イエス、洗礼を受ける

(マタ3 13—17、ルカ3 21—22)
⁹そのころ、イエスはガリラヤのナザレから来て、ヨルダン川でヨハネから洗礼を受けられた。¹⁰水の中から上がるとすぐ、天が裂けて、霊が鳩のように御
自分以降つて来るのを、御覧になった。¹¹すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。

ゆうわく う
誘惑を受ける

(マタ4 1—11、ルカ4 1—13)
¹²それから、霊はイエスを荒れ野に送り出した。¹³イエスは四十日間そこにとどまり、サタンから誘惑を受けられた。その間、野獣と一緒におられたが、
天使たちが仕えていた。

でんどう はじ
ガリラヤで伝道を始める

(マタ4 12—17、ルカ4 14—15)
と のち い かみ ふくいん の つた ととき み かみ くに ちか く あらた ふくいん しん い
¹⁴ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、¹⁵「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と言われた。

にん りょうし でし
四人の漁師を弟子にする

(マタ4 18—22、ルカ5 1—11)
こ ある きょうだい みずうみ あみ う ごらん かれ りょうし
¹⁶イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。¹⁷イ
エスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。¹⁸二人はすぐに網を捨てて従った。¹⁹また、少し進んで、ゼベダイの子ヤコブとそ
の兄弟ヨハネが、舟の中で網の手入れをしているのを御覧になると、²⁰すぐに彼らをお呼びになった。この二人も父ゼベダイを雇い人たちと一緒に舟に残し
て、イエスの後について行った。

けが れい と おとこ
汚れた霊に取りつかれた 男 をいやす

(ルカ431—37)
いっこう つ あんそくび かいどう はい おし はじ ひとびと おし ひじょう おどろ りっぼうがくしゃ けん
21 一行はカファルナウムに着いた。イエスは、安息日に会堂に入って教え始められた。22 人々はその教えに非常に驚いた。律法学者のようにではなく、権
威ある者としてお教えになったからである。23 そのとき、この会堂に汚れた霊に取りつかれた 男 がいて叫んだ。24 「ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を
ほろ き しょうたい わ かみ せいじゃ だま ひと で い しか けが れい ひと お
減ばしに来たのか。正 体は分かっている。神の聖者だ。」25 イエスが、「黙れ。この人から出て行け」とお叱りになると、26 汚れた霊はその人にけいれんを起こ
させ、大声をあげて出て行った。27 人々は皆驚いて、論じ合った。「これはいったいどういうことなのだ。権威ある 新 しい教えだ。この人が汚れた霊に命じ
ると、その言うことを聴く。」28 イエスの 評判は、たちまちガリラヤ地方の隅々にまで広まった。

おお ひょうにん
多くの病 人をいやす

(マタ814—17、ルカ438—41)
いっこう かいどう で いえ い いっしょ ねつ だ ね ひとびと さつそく
29 すぐに、一行は会堂を出て、シモンとアンデレの家に行った。ヤコブとヨハネも一緒にあった。30 シモンのしゅうとめが熱を出して寝ていたので、人々は早速
、彼女のことをイエスに話した。31 イエスがそばに行き、手を取って起こされると、熱は去り、彼女は一同をもてなした。32 夕方になって日が沈むと、人々は、
病 人や悪霊に取りつかれた者を皆、イエスのもとに連れて来た。33 町 中 の人が、戸口に集まった。34 イエスは、いろいろな 病 気にかかっている大勢の人たち
をいやし、また、多くの悪霊を追い出して、悪霊にものを言うことをお許しにならなかった。悪霊はイエスを知っていたからである。

じゆんかい せんきょう
巡 回して宣 教する

(ルカ442—44)
あさはや くら お ひとざとはな ところ で い いの なか ま あと お み
35 朝早くまだ暗いうちに、イエスは起きて、人里離れた 所 へ出て行き、そこで祈っておられた。36 シモンとその仲間はイエスの後を追い、37 見つけると、「みんな
が捜しています」と言った。38 イエスは言われた。「近くのほかの町や村へ行こう。そこでも、わたしは宣 教 する。そのためにわたしは出て来たのである。」39 そ
して、ガリラヤ 中 の会堂に行き、宣 教 し、悪霊を追い出された。

おも ひ ふびょう わずら ひと
重い皮膚 病 を 患 っている人をいやす

(マタ81—4、ルカ512—16)
おも ひ ふびょう わずら ひと き ねが みこころ きよ い
40 さて、重い皮膚 病 を 患 っている人が、イエスのところに来てひざまずいて願い、「御 心 ならば、わたしを清くすることがおできになります」と言った。41
イエスが深く憐れんで、手を差し伸べてその人に触れ、「よろしい。清くなれ」と言われると、42 たちまち重い皮膚 病 は去り、その人は清くなった。43 イエスはすぐ
にその人を立ち去らせようとし、厳しく 注 意して、「言われた。「だれにも、何も話さないように気をつけなさい。ただ、行って祭司に 体 を見せ、モーセが定め
たものを清めのために献げて、人々に 証 明しなさい。」44 しかし、彼はそこを立ち去ると、大いにこの出来事を人々に告げ、言い広め始めた。それで、イエス
はもはや公然と町に入ることができず、町の外の人はいない 所 におられた。それでも、人々は四方からイエスのところに集まって来た。

ちゆうふ ひと
中 風の人をいやす

(マタ91—8、ルカ517—26)

2
すうじつご ふたた こ いえ し わた おおぜい ひと あつ とぐち あた
1 数日後、イエスが 再 びカファルナウムに来られると、家におられることが知れ渡り、2 大勢の人が集まったので、戸口の辺りまですきまもないほどになった。イ
エスが御言葉を語っておられると、4 四人の 男 が 中 風の人を運んで来た。41 しかし、群 衆 に阻まれて、イエスのもとに連れて行くことができなかったので、イエ
スがおられる辺りの屋根をはがして穴をあけ、病 人の寝ている床をつり降ろした。5 イエスはその人たちの信仰を見て、中 風の人に、「子よ、あなたの罪は赦
される」と言われた。6 ところが、そこに律法学者が数人座っていて、心 の中であれこれと 考 えた。7 「この人は、なぜこういうことを口にするのか。神を冒
瀆している。神おひとりのほかに、いったいだれが、罪を赦すことができるだろうか。」8 イエスは、彼らが 心 の中で 考 えていることを、御自分の霊の 力 です
ぐに知って言われた。「なぜ、そんな 考 えを 心 に抱くのか。9 中 風の人に『あなたの罪は赦される』と言うのと、『起きて、床を担いで歩け』と言うのと、ど
ちらが易しいか。10 人の子が地 上 で罪を赦す権威を持っていることを知らせよう。」そして、中 風の人に言われた。11 「わたしはあなたに言う。起き上がり、床
を担いで家に帰りなさい。」12 その人は起き上がり、すぐに床を担いで、皆の见ている前を出て行った。人々は皆 驚 き、「このようなことは、今まで見たこと
がない」と言って、神を賛美した。

でし
レビを弟子にする

(マタ99—13、ルカ527—32)
ふたた みずうみ で い ぐんしゅう みな あつ き おし とお こ しゅう
13 イエスは、再 び 湖 のほとりに出て行かれた。群 衆 が皆そばに集まって来たので、イエスは教えられた。14 そして通りがかりに、アルファイの子レビが 収
税所に座っているのを見かけて、「わたしに 従 いなさい」と言われた。彼は立ち上がってイエスに 従 った。15 イエスがレビの家で 食 事の席に着いておられたと

きのことである。多くの徴税人や罪人もイエスや弟子たちと同席していた。実に大勢の人がいて、イエスに従っていたのである。¹⁸ファリサイ派の律法学者は、イエスが罪人と一緒に食事をされるのを見て、弟子たちに、「どうして彼は徴税人や罪人と一緒に食事をするのか」と言った。¹⁹イエスはこれを聞いて言われた。「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。」

断食についての問答

（マタ9 14—17、ルカ5 33—39）

¹⁸ヨハネの弟子たちとファリサイ派の人々は、断食していた。そこで、人々はイエスのところに来て言った。「ヨハネの弟子たちとファリサイ派の弟子たちは断食しているのに、なぜ、あなたの弟子たちは断食しないのですか。」¹⁹イエスは言われた。「花婿が一緒にいるのに、婚礼の客は断食できるだろうか。花婿と一緒にいるかぎり、断食はできない。²⁰しかし、花婿が奪い取られる時が来る。その日には、彼らは断食することになる。²¹だれも、織りたての布から布切れを取って、古い服に縫いを当てたりはしない。そんなことをすれば、新しい布切れが古い服を引き裂き、破れはいつそうひどくなる。²²また、だれも、新しいぶどう酒を古い革袋に入れたりはしない。そんなことをすれば、ぶどう酒は革袋を破り、ぶどう酒も革袋もだめになる。新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ。」

安息日に麦の穂を摘む

（マタ12 1—8、ルカ6 1—5）

²³ある安息日に、イエスが麦畑を通って行かれると、弟子たちは歩きながら麦の穂を摘み始めた。²⁴ファリサイ派の人々がイエスに、「御覧なさい。なぜ、彼らは安息日にしてはならないことをするのか」と言った。²⁵イエスは言われた。「ダビデが、自分も供の者たちも、食べ物がなく空腹だったときに何をしたか、一度も読んだことがないのか。²⁶アビアタルが大祭司であったとき、ダビデは神の家に入り、祭司のほかにはだれも食べてはならない供えのパンを食べ、一緒にいた者たちにも与えたではないか。」²⁷そして更に言われた。「安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない。²⁸だから、人の子は安息日の主でもある。」

手の萎えた人をいやす

（マタ12 9—14、ルカ6 6—11）

3

¹イエスはまた会堂にお入りになった。そこに片手の萎えた人がいた。²人々はイエスを訴えようと思って、安息日にこの人の病気をいやされるかどうか、注目していた。³イエスは手の萎えた人に、「真ん中に立ちなさい」と言われた。⁴そして人々にこう言われた。「安息日に律法で許されているのは、善を行うことか、悪を行うことか。命を救うことか、殺すことか。」彼らは黙っていた。⁵そこで、イエスは怒って人々を見回し、彼らのかたくなな心を悲しみながら、その人に、「手を伸ばしなさい」と言われた。伸ばすと、手は元どおりになった。⁶ファリサイ派の人々は出て行き、早速、ヘロデ派の人々と一緒に、どのようにしてイエスを殺そうかと相談し始めた。

湖の岸辺の群衆

¹イエスは弟子たちと共に湖の方へ立ち去られた。ガリラヤから来たおびたしい群衆が従った。また、ユダヤ、エルサレム、イドマヤ、ヨルダン川の向こう側、ティルスやシドンの辺りからもおびたしい群衆が、イエスのしておられることを残らず聞いて、そばに集まって来た。²そこで、イエスは弟子たちに小舟を用意してほしいと言われた。群衆に押しつぶされないためである。³イエスが多くの病人をいやされたので、病気に悩む人たちが皆、イエスに触れようとしたり、そばに押し寄せたからであった。⁴汚れた霊どもは、イエスを見るとひれ伏して、「あなたは神の子だ」と叫んだ。⁵イエスは、自分のことを言いふらさないようにと霊どもを厳しく戒められた。

十二人を選ぶ

（マタ10 1—4、ルカ6 12—16）

¹³イエスが山に登って、これと思う人々を呼び寄せられると、彼らはそばに集まって来た。¹⁴そこで、十二人を任命し、使徒と名付けられた。彼らを自分のそばに置くため、また、派遣して宣教させ、¹⁵悪霊を追い出す権能を持たせるためであった。¹⁶こうして十二人を任命された。シモンにはペトロという名を付けられた。¹⁷ゼベダイの子ヤコブとヤコブの兄弟ヨハネ、この二人にはボアネルゲス、すなわち、「雷の子ら」という名を付けられた。¹⁸アンデレ、フィリポ、バルトロマイ、マタイ、トマス、アルファイの子ヤコブ、タダイ、熱心党のシモン、¹⁹それに、イスカリオテのユダ。このユダがイエスを裏切ったのである。

ベルゼブル論争

（マタ12 22—32、ルカ11 14—23、12 10）

イエスが家に帰られると、群衆がまた集まって来て、一同は食事をする暇もないほどであった。²¹身内の人たちはイエスのことを聞いて取り押さえに来了。「あの男は気が変になっている」と言われていたからである。²²エルサレムから下って来た律法学者たちも、「あの男はベルゼブルに取りつかれている」と言い、また、「悪霊の頭の力で悪霊を追い出している」と言っていた。²³そこで、イエスは彼らを呼び寄せて、たとえを用いて語られた。「どうして、サタンがサタンを追い出せよう。²⁴国が内輪で争えば、その国は成り立たない。²⁵家が内輪で争えば、その家は成り立たない。²⁶同じように、サタンが内輪もめして争えば、立ち行かず、滅びてしまう。²⁷また、まず強い人を縛り上げなければ、だれも、その人の家に押し入って、家財道具を奪い取ることはできない。まず縛ってから、その家を略奪するものだ。²⁸はつきり言っておく。人の子らが犯す罪やどんな冒瀆の言葉も、すべて赦される。²⁹しかし、聖霊を冒瀆する者は永遠に赦されず、永遠に罪の責めを負う。」³⁰イエスがこう言われたのは、「彼は汚れた霊に取りつかれている」と人々が言っていたからである。

イエスの母、兄弟

（マタ12:46—50、ルカ8:19—21）

イエスの母と兄弟たちが来て外に立ち、人をやってイエスを呼ばせた。³²大勢の人が、イエスの周りに座っていた。「御覧なさい。母上と兄弟姉妹がたが外であなたを捜しておられます」と知らされると、³³イエスは、「わたしの母、わたしの兄弟とはだれか」と答え、³⁴周りに座っている人々を見回して言われた。「見なさい。ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる。³⁵神の御心を行う人こそ、わたしの兄弟、姉妹、また母なのだ。」

「種を蒔く人」のたとえ

（マタ13:1—9、ルカ8:4—8）

4

イエスは、再び湖のほとりで教え始められた。おびたしい群衆が、そばに集まって来た。そこで、イエスは舟に乗って腰を下ろし、湖の上におられたが、群衆は皆、湖畔にいた。²イエスはたとえでいろいろと教えられ、その中で次のように言われた。³「よく聞きなさい。種を蒔く人が種蒔きに出て行った。⁴蒔いている間に、ある種は道端に落ち、鳥が来て食べてしまった。⁵ほかの種は、石だらけで土の少ない所に落ち、そこは土が浅いのですぐ芽を出した。⁶しかし、日が昇ると焼けて、根がないために枯れてしまった。⁷ほかの種は茨の中に落ちた。すると茨が伸びて覆いふさいだので、実を結ばなかった。⁸また、ほかの種は良い土地に落ち、芽生え、育って実を結び、あるものは三十倍、あるものは六十倍、あるものは百倍にもなった。」⁹そして、「聞く耳のある者は聞きなさい」と言われた。

たとえを用いて話す理由

（マタ13:10—17、ルカ8:9—10）

¹⁰イエスがひとりになられたとき、十二人と、イエスの周りにいた人たちが、たとえについて尋ねた。¹¹そこで、イエスは言われた。「あなたがたには神の国の秘密が打ち明けられているが、外の人々には、すべてがたとえで示される。¹²それは、

それが見るには見るが、認めず、

には聞くが、理解できず、

そして、立ち帰って赦されることがない』
ようになるためである。」

「種を蒔く人」のたとえの説明

（マタ13:18—23、ルカ8:11—15）

¹³また、イエスは言われた。「このたとえが分からないのか。では、どうしてほかのたとえが理解できるだろうか。¹⁴種を蒔く人は、神の言葉を蒔くのである。¹⁵道端のものととは、こういう人たちである。そこに御言葉が蒔かれ、それを聞いても、すぐにサタンが来て、彼らに蒔かれた御言葉を奪い去る。¹⁶石だらけの所に蒔かれるものととは、こういう人たちである。御言葉を聞くとすぐ喜んで受け入れるが、¹⁷自分には根がないので、しばらくは続いても、後で御言葉のために艱難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまう。¹⁸また、ほかの人たちは茨の中に蒔かれるものである。この人たちは御言葉を聞くが、¹⁹この世の思い煩いや富の誘惑、その他いろいろな欲望が心に入り込み、御言葉を覆いふさいで実らない。²⁰良い土地に蒔かれたものととは、御言葉を聞いて受け入れる人たちであり、ある者は三十倍、ある者は六十倍、ある者は百倍の実を結ぶのである。」

「ともし火」と「秤」のたとえ

(ルカ8 16—18)

²¹また、イエスは言われた。「^{ひ も く}ともし火を持って来るのは、^{ます}升の下や^{した しんだい}寝台の下に置くためだろうか。^{しよくだい}燭台の上に置くためではないか。^{かく}^ひ隠れているもので、あらわにならないものはなく、^{おおやけ}秘められたもので、^{き みみ}公にならないものはない。^{もの き}^き聞く耳のある者は聞きなさい。」

²⁴また、彼らに言われた。「^{かれ い}何を聞いているかに^{なに き}注意^{ちゆうい}なさい。あなたがたは自分の量る^{じぶん はか}秤^{はかり}で量り与えられ、^{はか}更にたくさん与えられる。^{あた}^も^{ひと}^{さら}^{あた}持っている人は更に与えられ、^{あた も}持っていない人は持っているものまでも取り上げられる。」

「^{せいちよう たね}成長する種」のたとえ

²⁸また、イエスは言われた。「^い神の国は次のようなものである。^{ひと つち たね ま}人が土に種を蒔いて、^{よるひる}^{ね お}^{たね め}^だ^{せいちよう}^{たね}種は芽を出して成^{せいちよう}長^{せいちよう}するが、どうして

そうなるのか、その人は知らない。^{ひと し}^{つち}^{み むす}^{くき}^{つぎ}^ほ^{ゆた}^み^み^{じゆく}^{さつそく}^{かま}^い^{しゆうかく}^{とき}^き^き土はひとりでに実を結ばせるのであり、まず^{しゆうかく}茎、次に^{とき}穂、そしてその穂には豊かな実ができる。^き^{しゆうかく}実が^き熟すと、^{しゆうかく}早速、^き鎌を入れる。^{しゆうかく}収^{しゆうかく}穫^{しゆうかく}の時^{しゆうかく}が来たからである。」

「^{たね}からし種」のたとえ

(マタ13 31—32、ルカ13 18—19)

³⁰更に、イエスは言われた。「^{さら}神の国を^い何に^{かみ}たとえようか。^{くに}どのような^なたとえで^{しめ}示^{しめ}そうか。^{たね}それは、^{つち ま}からし種^{ちじょう}のようなものである。^{ちじょう}土に蒔くときには、^{つち}地上^{ちじょう}の

どんな種よりも小さいが、^{たね}蒔くと、^{ちい}成^{せいちよう}長^{せいちよう}してどんな野菜よりも大きくなり、^{おお}葉の陰に^は空の鳥が^は巢^かを作れるほど大きな^は枝^{えだ}を張る。」

^{もち}^{かた}たとえを用いて語る

(マタ13 34—35)

³³イエスは、^{ひとびと}人々の^き聞く^{ちから}力^{おう}に応じて、このように^{おお}多くの^{みことば}たとえ^{かた}で^{もち}御^{かた}言^ご葉^{じぶん}を^{でし}語^{でし}られた。^ごたとえを用いずに^ご語る^{じぶん}ことは^{でし}なかったが、^ご御^{じぶん}自^{でし}分の^{でし}弟子^ごたち^{じぶん}には^{でし}ひそかに^{でし}すべてを^{でし}説^{せつめい}明^{めい}された。

^{とつふう}^{しず}突風を静める

(マタ8 23—27、ルカ8 22—25)

35その日の夕方になって、イエスは、「向こう岸に渡ろう」と弟子たちに言われた。36そこで、弟子たちは群衆を後に残し、イエスを舟に乗せたまま漕ぎ出した。ほかの舟も一緒に一緒であった。37激しい突風が起こり、舟は波をかぶって、水浸しになるほどであった。38しかし、イエスは艫の方で枕をして眠っておられた。弟子たちはイエスを起こして、「先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか」と言った。39イエスは起き上がって、風を叱り、湖に、「黙れ。静まれ」と言われた。すると、風はやみ、すっかり凪になった。40イエスは言われた。「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか。」41弟子たちは非常に恐れて、「いったい、この方はどなたなのだろう。風や湖さえも従うではないか」と互いに言った。

悪霊に取りつかれたゲラサの人をいやす

(マタ8 28—34、ルカ8 26—39)

51一行は、湖の向こう岸にあるゲラサ人の地方に着いた。2イエスが舟から上がられるとすぐに、汚れた霊に取りつかれた人が墓場からやって来た。3この人は墓場を住まいとしており、もはやだれも、鎖を用いてさえつなぎとめておくことはできなかった。4これまでも度々足枷や鎖で縛られたが、鎖は引きちぎり足枷は砕いてしまい、だれも彼を縛っておくことはできなかったのである。5彼は昼も夜も墓場や山で叫んだり、石で自分を打ちたたいたりしていた。6イエスをとおり、みえ、走り寄ってひれ伏し、7大声で叫んだ。「いと高き神の子イエス、かまわないでくれ。後生だから、苦しめないでほしい。」8イエスが、「汚れた霊、この人から出て行け」と言われたからである。9そこで、イエスが、「名は何というのか」とお尋ねになると、「名はレギオン。大勢だから」と言った。10そして、自分たちをこの地方から追い出さないと、イエスにしきりに願った。

11ところで、その辺りの山で豚の大群がえさをあさっていた。12汚れた霊どもはイエスに、「豚の中に送り込み、乗り移らせてくれ」と願った。13イエスがお許しになったので、汚れた霊どもは出て、豚の中に入った。すると、二千匹ほどの豚の群れが崖を下って湖になだれ込み、湖の中で次々とおぼれ死んだ。14豚飼いたちは逃げ出し、町や村にこのことを知らせた。人々は何が起こったのかと見に来た。15彼らはイエスのところ来ると、レギオンに取りつかれていた人が服を着、正気になって座っているのを見て、恐ろしくなった。16成り行きを見ていた人たちは、悪霊に取りつかれた人の身に起こったことと豚のことを人々に語った。17そこで、人々はイエスにその地方から出て行ってもらいたいと言いだした。18イエスが舟に乗られると、悪霊に取りつかれていた人が、一緒に行きたいと願った。19イエスはそれを許さないで、こう言われた。「自分の家に帰りなさい。そして身内の人に、主があなたを憐れみ、あなたにしてくださったことをことごとく知らせなさい。」20その人は立ち去り、イエスが自分にしてくださったことをことごとくデカポリス地方に言い広め始めた。人々は皆驚いた。

ヤイロの娘とイエスの服に触れる女

(マタ9 18—26、ルカ8 40—56)

21イエスが舟に乗って再び向こう岸に渡られると、大勢の群衆がそばに集まって来た。イエスは湖のほとりにおられた。22会堂長の一人でヤイロという名の人が来て、イエスを見ると足もとにひれ伏して、23しきりに願った。「わたしの幼い娘が死にそうです。どうか、おいでになって手を置いてやってください。そうすれば、娘は助かり、生きるでしょう。」24そこで、イエスはヤイロと一緒に出かけに行かれた。大勢の群衆も、イエスに従い、押し迫って来た。25さて、ここに十二年間も出血の止まらない女がいた。26多くの医者にかかって、ひどく苦しめられ、ぜんざいさんつかはなんやくたわるきぐんしゅうなかまぎこうしふくふ全財産を使い果たしても何の役にも立たず、ますます悪くなるだけであった。27イエスのことを聞いて、群衆の中に紛れ込み、後ろからイエスの服に触れた。28「この方の服にでも触れればいやしていただける」と思ったからである。29すると、すぐ出血が全く止まって病気がいやされたことを体感じた。30イエスは、自分の内から力が出て行ったことに気づいて、群衆の中で振り返り、「わたしの服に触れたのはだれか」と言われた。31そこで、弟子たちは言った。「ぐんしゅうおせまわふものみ群衆があなたに押し迫っているのがお分かりでしょう。それなのに、『だれがわたしに触れたのか』とおっしゃるのですか。」32しかし、イエスは、触れた者を見つけようと、辺りを見回しておられた。33女は自分の身に起こったことを知って恐ろしくなり、震えながら進み出てひれ伏し、すべてをありのまま話した。34イエスは言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。もうその病気にかからず、元気に暮らさなさい。」

35イエスがまだ話しておられるときに、会堂長の家から人々が来て言った。「お嬢さんは亡くなりました。もう、先生を煩わすには及ばないでしょう。」36イエスはその話をそばで聞いて、「恐れることはない。ただ信じなさい」と会堂長に言われた。37そして、ペトロ、ヤコブ、またヤコブの兄弟ヨハネのほかは、だれもついて来ることをお許しにならなかった。38一行は会堂長の家に着いた。イエスは人々が大声で泣きわめいて騒いでいるのを見て、39家の中に入り、人々に言われた。「なぜ、泣き騒ぐのか。子供は死んだのではない。眠っているのだ。」40人々はイエスをあざ笑った。しかし、イエスは皆を外に出し、子供の両親と三人の弟子だけを連れて、子供のいる所へ入って行かれた。41そして、子供の手を取って、「タリタ、クム」と言われた。これは、「少女よ、わたしはあなたに言う。起きなさい」という意味である。42少女はすぐに起き上がって、歩きだした。もう十二歳になっていたからである。それを見るや、人々は驚きのあまり我を忘れた。43イエスはこのことをだれにも知らせないようにと厳しく命じ、また、食べ物を少女に与えるようにと言われた。

ナザレで受け入れられない

(マタ13 53—58、ルカ4 16—30)

イエスはそこを去って故郷にお帰りになったが、弟子たちも従った。²安息日になったので、イエスは会堂で教え始められた。多くの人々はそれを聞いて、驚いて言った。「この人は、このようなことをどこから得たのだろう。この人が授かった知恵と、その手で行われるこのような奇跡はいったい何か。」この人は、大工ではないか。マリアの息子で、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄弟ではないか。姉妹たちは、ここで我々と一緒に住んでいるではないか。」このように、人々はイエスにつまずいた。⁴イエスは、「預言者が敬われないのは、自分の故郷、親戚や家族の間だけである」と言われた。⁵そこでは、ごくわずかの病人に手を置いていやされただけで、そのほかは何も奇跡を行うことがおできにならなかった。⁶そして、人々の不信仰に驚かれた。

十二人を派遣する

(マタ101・5-15、ルカ91-6)

それから、イエスは付近の村を巡り歩いてお教えになった。⁷そして、十二人を呼び寄せ、二人ずつ組にして遣わすことにされた。その際、汚れた霊に対する権能を授け、⁸旅には杖一本のほか何も持たず、パンも、袋も、また帯の中に金も持たず、⁹ただ履物は履くように、そして「下着は二枚着てはならない」と命じられた。¹⁰また、こうも言われた。「どこでも、ある家に入ったら、その土地から旅立つときまで、その家にとどまりなさい。¹¹しかし、あなたがたを迎え入れず、あなたがたに耳を傾けようとしもない所があったら、そこを出ていくとき、彼らへの証しとして足の裏の埃を払い落としなさい。」¹²十二人は出かけて行って、悔い改めさせるために宣教した。¹³そして、多くの悪霊を追い出し、油を塗って多くの病人をいやした。

洗礼者ヨハネ、殺される

(マタ141-12、ルカ97-9)

「イエスの名が知れ渡ったので、ヘロデ王の耳にも入った。人々は言っていた。「洗礼者ヨハネが死者の中から生き返ったのだ。だから、奇跡を行う力が彼に働いている。」¹⁵そのほかにも、「彼はエリヤだ」と言う人もいれば、「昔の預言者のような預言者だ」と言う人もいた。¹⁶ところが、ヘロデはこれ聞いて、「わたしが首をはねたあのヨハネが、生き返ったのだ」と言った。¹⁷実は、ヘロデは、自分の兄弟フィリポの妻ヘロディアと結婚しており、そのことで人をやってヨハネを捕らえさせ、牢につないでいた。¹⁸ヨハネが、「自分の兄弟の妻と結婚することは、律法で許されていない」とヘロデに言ったからである。¹⁹そこで、ヘロディアはヨハネを恨み、彼を殺そうと思っていたが、できないでいた。²⁰なぜなら、ヘロデが、ヨハネは正しい聖なる人であることを知って、彼を恐れ、保護し、また、その教えを聞いて非常に当惑しながらも、なお喜んで耳を傾けていたからである。²¹ところが、良い機会が訪れた。ヘロデが、自分の誕生日の祝いに高官や将校、ガリラヤの有力者などを招いて宴会を催すと、²²ヘロディアの娘が入って来て踊りをおどり、ヘロデとその客を喜ばせた。そこで、王は少女に、「欲しいものがあれば何でも言いなさい。お前にやろう」と言い、²³更に、「お前が願うなら、この国の半分でもやろう」と固く誓ったのである。²⁴少女が座を外して、母親に、「何を願いましょうか」と言うと、母親は、「洗礼者ヨハネの首を」と言った。²⁵早速、少女は大急ぎで王のところに行き、「今すぐに洗礼者ヨハネの首を盆に載せて、いただきとうございます」と願った。²⁶王は非常に心に痛めたが、誓ったことではあるし、また客の手前、少女の願いを退けられなかった。²⁷そこで、王は衛兵を遣わし、ヨハネの首を持って来るようにと命じた。衛兵は出て行き、牢の中でヨハネの首をはね、²⁸盆に載せて持って来て少女に渡し、少女はそれを母親に渡した。²⁹ヨハネの弟子たちはこのことを聞き、やって来て、遺体を引き取り、墓に納めた。

五千人に食べ物を与える

(マタ1413-21、ルカ910-17、ヨハ61-14)

³⁰さて、使徒たちはイエスのところに集まって来て、自分たちが行ったことや教えたことを残らず報告した。³¹イエスは、「さあ、あなたがただけで人里離れた所へ行行って、しばらく休むがよい」と言われた。出入りする人が多くて、食事をする暇もなかったからである。³²そこで、一同は舟に乗って、自分たちだけで人里離れた所へ行行った。³³ところが、多くの人々は彼らが出かけて行くのを見て、それと気づき、すべての町からそこへ一斉に駆けつけ、彼らより先に着いた。³⁴イエスは舟から上がり、大勢の群衆を見て、飼い主のいない羊のような有様を深く憐れみ、いろいろと教え始められた。³⁵そのうち、時もだいぶたつたので、弟子たちがイエスのそばに来て言った。「ここは人里離れた所で、時間もだいぶたちました。³⁶人々を解散させてください。そうすれば、自分で周りの里や村へ、何か食べる物を買っていくでしょう。」³⁷これに対してイエスは、「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい」とお答えになった。弟子たちは、「わたしたちが二百デナリオンものパンを買って来て、みんなに食べさせるのですか」と言った。³⁸イエスは言われた。「パンは幾つあるのか。見て来なさい。」弟子たちは確かめて来て、言った。「五つあります。それに魚が二匹です。」³⁹そこで、イエスは弟子たちに、皆を組に分けて、青草の上に座らせるようにお命じになった。⁴⁰人々は、百人、五十人ずつまとまって腰を下ろした。⁴¹イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで賛美の祈りを唱え、パンを裂いて、弟子たちに渡しては配らせ、二匹の魚も皆に分配された。⁴²すべての人が食べて満腹した。⁴³そして、パンの屑と魚の残りを集めると、十二の籠にいっぱいになった。⁴⁴パンを食べた人は男が五千人であった。

湖の上を歩く

(マタ1422-33、ヨハ615-21)

⁴⁵それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗せ、向こう岸のベトサイダへ先に行かせ、その間に御自分は群衆を解散させられた。⁴⁶群衆と別れてから、祈るために山へ行かれた。⁴⁷夕方になると、舟は湖の真ん中に出ていたが、イエスだけは陸地におられた。⁴⁸ところが、逆風のために弟子たちが漕ぎ悩ん

み　　よ　あ　　みずうみ　うゑ　ある　　でし　　い　　とお　す　　でし　　こじょう　ある
でいるのを見て、夜が明けるころ、　湖　の上を歩いて弟子たちのところに行き、そばを通り過ぎようとされた。⁴⁹弟子たちは、イエスが湖　上　を歩いておられるのを見　　ゆうれい　　おも　　おおごゑ　　さけ　　みな　　み　　かれ　　はな　　はじ　　あんしん　　おそ
見て、幽霊だと思い、大声で叫んだ。⁵⁰皆はイエスを見ておびえたのである。しかし、イエスはすぐ彼らと話し始めて、「安　心しなさい。わたした。恐れること　　い　　ふね　　の　　こ　　かぜ　　しず　　でし　　ところ　　なか　　ひじょう　　おどろ　　で　　きごと　　りかい　　ところ　　にぶ
はない」と言われた。⁵¹イエスが舟に乗り込まれると、風は静まり、弟子たちは　心　の中で非　常　に　驚　いた。⁵²パンの出来事を理解せず、　心　が鈍くなっていたからである。

びょうにん
ゲネサレトで病　人をいやす

（マタ14 34—36）
　　いっこう　みずうみ　わた　　とち　　つ　　ふね　　いっこう　ふね　　あ　　ひとびと　　し　　ちほう
⁵³こうして、一行は　湖　を渡り、ゲネサレトという土地に着いて舟をつないだ。⁵⁴一行が舟から上がると、すぐに人　々はイエスと知って、⁵⁵その地方をくまなく　　はし　　まわ　　き　　びょうにん　　とこ　　の　　はこ　　はじ　　むら　　まち　　さと　　はい　　い　　びょうにん　　ひろば　　お
走り回り、どこでもイエスがおられると聞けば、そこへ　病　人を床に乗せて運び始めた。⁵⁶村でも町でも里でも、イエスが入って行かれると、　病　人を広場に置　　ふく　　ふ　　ねが　　ふ　　もの　　みな
き、せめてその服のすそにでも触れさせてほしいと願った。触れた者は皆いやされた。

むかし　ひと　　い　　つた
昔　の人の言い伝え

（マタ15 1—20）
7
　　は　　ひとびと　　すうにん　　りっぼうがくしゃ　　き　　あつ　　でし　　なか　　けが　　て　　あら　　て
「ファリサイ派の人々と数人の律法学者たちが、エルサレムから来て、イエスのもとに集まった。²そして、イエスの弟子たちの中に汚れた手、つまり洗わない手　　しょくじ　　もの　　み　　は　　ひとびと　　じん　　みな　　むかし　　ひと　　い　　つた　　かた　　まも　　ねんい　　て　　あら　　しょくじ
で　食　事をする者がいるのを見た。³—ファリサイ派の人々をはじめユダヤ人は皆、　昔　の人の言い伝えを固く守って、念入りに手を洗ってからでないと　食　事を　　いちば　　かえ　　み　　きよ　　しょくじ　　さかずき　　はち　　どう　　うつわ　　しんだい　　あら　　むかし　　う　　つ　　かた
せず、⁴また、市場から帰ったときには、身を清めてからでないと　食　事をしない。そのほか、　杯　、鉢、銅の　器　や寝台を洗うことなど、　昔　から受け継いで固　　まも　　は　　ひとびと　　りっぼうがくしゃ　　たず　　でし　　むかし　　ひと　　い　　つた　　したが　　あゆ
く守っていることがたくさんある。—そこで、ファリサイ派の人々と律法学者たちが尋ねた。「なぜ、あなたの弟子たちは　昔　の人の言い伝えに　従　って歩ま　　けが　　て　　しょくじ　　い　　ぎぜんしゃ　　みごと　　よげん　　かれ　　か
ず、汚れた手で　食　事をするのですか。」⁵イエスは言われた。「イザヤは、あなたたちのような偽善者のことを見事に預言したものだ。彼はこう書いている。

　　たみ　　くちさき　　うやま
「民は口　先ではわたしを　敬　うが、

　　ところ　　とお　　はな
」心　はわたしから遠く離れている。

　　いまし　　おし
の　戒　めを教えとしておしえ、

　　しくわたしをあがめている。」
　　かみ　　おきて　　す　　にんげん　　い　　つた　　かた　　まも　　さら　　い　　じぶん　　い　　つた　　だいじ　　かみ　　おきて
「あなたたちは神の　掟　を捨てて、人間の言い伝えを固く守っている。」⁶更に、イエスは言われた。「あなたたちは自分の言い伝えを大事にして、よくも神の　掟　　をないがしろにしたものである。¹⁰モーセは、『父と母を　敬　え』と言い、『父または母をののしる者は死刑に処せられるべきである』とも言っている。¹¹それなのに、あなたたちは言っている。『もし、だれかが父または母に対して、「あなたに差し上げるべきものは、何でもコルバン、つまり神への供え物です」と言え　　ひと　　ちち　　はは　　たい　　なに　　す　　う　　つ　　い　　つた　　かみ　　ことば　　む
ば、¹²その人はもはや父または母に対して何もしないで済むのだ』と。¹³こうして、あなたたちは、受け継いだ言い伝えで神の言葉を無にしている。また、これと　　おな　　おこな
同じようなことをたくさん　行　っている。」

　　ふたた　　ぐんしゅう　　よ　　よ　　い　　みな　　い　　き　　さと　　そと　　ひと　　からだ　　はい　　ひと　　けが
「それから、イエスは　再　び群　衆を呼び寄せて言われた。「皆、わたしの言うことを聞いて悟りなさい。¹⁴外から人の　体　に入るもので人を汚すことができるも　　なに　　ひと　　なか　　で　　く　　ひと　　けが　　ぐんしゅう　　わか　　いえ　　はい　　でし　　たず
のは何もなく、人の中から出て来るものが、人を汚すのである。」¹⁷イエスが群　衆と別れて家に入られると、弟子たちはこのたとえについて尋ねた。¹⁸イエスは　　い　　もの　　わ　　る　　そと　　ひと　　からだ　　はい　　ひと　　けが　　わ　　ひと
言われた。「あなたがたも、そんなに物分りが悪いのか。すべて外から人の　体　に入るものは、人を汚すことができないことが分らないのか。¹⁹それは人の　　ところ　　なか　　はい　　はら　　なか　　はい　　そと　　だ　　た　　もの　　きよ　　さら　　つぎ　　い　　ひと　　で　　く
心　の中にいるのではなく、腹の中に入り、そして外に出される。こうして、すべての食べ物　は清められる。」²⁰更に、次のように言われた。「人から出て来るも　　ひと　　けが　　なか　　にんげん　　ところ　　わる　　おも　　で　　く　　おこな　　ぬす　　さつい　　かんいん　　どんよく　　あくい　　さ　　ぎ　　こうしよく
のこそ、人を汚す。²¹中から、つまり人間の　心　から、悪い思いが出て来るからである。みだらな　行　い、盗み、殺意、²²姦淫、貪欲、悪意、詐欺、好　色　、ね　　あつこう　　ごうまん　　むふんべつ　　あく　　なか　　で　　き　　ひと　　けが
たみ、悪口、傲慢、無分別など、²³これらの悪はみな中から出て来て、人を汚すのである。」

おんな　しんこう
シリア・フェニキアの女　の信仰

（マタ15 21—28）
　　た　　さ　　ちほう　　い　　いえ　　はい　　し　　おも　　ひとびと　　き　　けが　　れい
²⁴イエスはそこを立ち去って、ティルスの方に行かれた。ある家に入り、だれにも知られたくないと思っておられたが、人　々に気づかれてしまった。²⁵汚れた　霊　　と　　おさな　　むすめ　　も　　おんな　　き　　き　　あし　　ふ　　おんな　　じん　　う
に取りつかれた　幼　い　娘　を持つ　女　が、すぐにイエスのことを聞きつけ、来てその足もとにひれ伏した。²⁶女　はギリシア人でシリア・フェニキアの生まれであつた　　むすめ　　あくれい　　お　　だ　　たの　　い　　こども　　じゅうぶんた　　こども　　と　　こいぬ
が、　娘　から悪霊を追い出してくださいて頼んだ。²⁷イエスは言われた。「まず、子供たちに　十　分食べさせなければならない。子供たちのパンを取って、小犬に　　おんな　　こた　　い　　しゆ　　しょうたく　　した　　こいぬ　　こども　　くず　　い
やってはいけない。」²⁸ところが、女　は答えて言った。「主よ、しかし、　食　卓の下の小犬も、子供のパン屑はいただきます。」²⁹そこで、イエスは言われた。　　い　　いえ　　かえ　　あくれい　　むすめ　　で　　おんな　　いえ　　かえ　　こ　　とこ　　うえ　　ね　　あくれい
「それほど言うなら、よろしい。家に帰りなさい。悪霊はあなたの　娘　からもう出てしまった。」³⁰女　が家に帰ってみると、その子は床の上に寝ており、悪霊は　　で
出てしまっていた。

みみ き した まわ ひと
耳が聞こえず舌の回らない人をいやす

31それからまた、イエスはティルスちほう さの地方を去り、シドンへを経てデカポリス地方を通り抜け、ガリラヤ湖へやって来られた。32人々ちほう とお ぬ こ こは耳が聞こえず舌の回らない人ひと つ き うえ て おを連れて来て、その上に手を置いてくださるようにと願った。33そこで、イエスはこの人だけを群衆ひと ぐんしゅう なか つ だの中から連れ出し、指をその両耳ゆび りょうみみ さ いに差し入れ、それから唾をつけてその舌に触れられた。34そして、天を仰いで深く息をつき、その人に向かって、「エッフアタ」と言われた。これは、「開け」という意味である。35すると、たちまち耳が開き、舌のもつれが解け、はっきり話することができるようになった。36イエスは人々に、だれにもこのことを話してはいけない、と口止めをされた。しかし、イエスが口止めをされればされるほど、人々みみ き ひと きはかえってますます言い広めた。37そして、すっかり驚いて言った。「この方のなさったことはすべて、すばらしい。耳の聞こえない人を聞こえるようにし、口の利けない人を話せるようにしてください。」

にん た もの あた
四千人に食べ物を与える

(マタ15 32—39)

8

1'そのころ、また群衆ぐんしゅう おおぜいが大勢いて、何も食べる物がなかったので、イエスは弟子たちを呼び寄せて言われた。2「群衆ぐんしゅうがかわいそうだ。もう三日もわたしと一緒にいるのに、食べ物がない。3空腹のまま家に帰らせると、途中とちゅうで疲れきってしまうだろう。中には遠くから来ている者もいる。」4弟子たちは答えた。「こんな人里離れた所ひとざとはな ところで、いったいどこからパンを手に入れて、これだけの人に十分食べさせることができるでしょうか。」5イエスが「パンは幾つあるか」とお尋ねになると、弟子たちは、「七つあります」と言った。6そこで、イエスは地面に座するように群衆に命じ、七つのパンを取り、感謝の祈りを唱えてこれを裂き、人々に配るようにと弟子たちにお渡しになった。弟子たちは群衆ぐんしゅうに配った。7また、小さい魚さかなが少しあったので、賛美の祈りを唱えて、それも配るようにと言われた。8人々は食べて満腹したが、残ったパンの屑を集めると、七籠かごになった。9およそ四千人の人がいた。イエスは彼らを解散させられた。10それからすぐに、弟子たちと共に舟に乗って、ダルマヌタの地方に行かれた。

ひとびと ほ
人々はしるしを欲しがる

(マタ16 1—4)

11ファリサイ派の人々が来て、イエスを試そうとして、天からのしるしを求め、議論をしかけた。12イエスは、心こころの中で深く嘆いて言われた。「どうして、今の時代の者たちはしるしを欲しがるのだろう。はっきり言うておく。今の時代の者たちには、決してしるしは与えられない。」13そして、彼らをそのままにして、また舟に乗って向こう岸へ行かれた。

は ひとびと だね
ファリサイ派の人々とヘロデのパン種

(マタ16 5—12)

14弟子たちはパンを持って来るのを忘れ、舟の中には一つのパンしか持ち合わせていなかった。15そのとき、イエスは、「ファリサイ派の人々のパン種は ひとびと だねとヘロデのパン種だね きによく気をつけなさい」と戒められた。16弟子たちは、これは自分たちがパンを持っていないからなのだと論じ合っていた。17イエスはそれに気づいて言われた。「なぜ、パンを持っていないことで議論するのか。まだ、分らないのか。悟らないのか。心こころがかたくなになっているのか。18目があっても見えないのか。耳があっても聞こえないのか。覚えていないのか。19わたしが五千人に五つのパンを裂いたとき、集めたパンの屑でいっぱいになった籠は、幾つあったか。」弟子たちは、「十二です」と言った。20「七つのパンを四千人に裂いたときには、集めたパンの屑でいっぱいになった籠は、幾つあったか。」「七つです」と言うと、21イエスは、「まだ悟らないのか」と言われた。

もうじん
ベトサイダで盲人をいやす

22一行はベトサイダに着いた。人々が一人の盲人をイエスのところに連れて来て、触れていただきたいと願った。23イエスは盲人の手を取って、村の外に連れ出し、その目に唾をつけ、両手ふたてをその人の上に置いて、「何か見えるか」とお尋ねになった。24すると、盲人は見えるようになって、言った。「人が見えます。木のようですが、歩いているのが分かります。」25そこで、イエスがもう一度両手ふたてをその目に当てられると、よく見えてきていやされ、何でもはっきり見えるようになった。26イエスは、「この村に入ってはいけない」と言って、その人を家に帰された。

しんこう い あらわ
ペトロ、信仰を言い表す

(マタ16 13—20、ルカ9 18—21)

27イエスは、弟子たちとフィリポ・カイサリア地方の方々の村にお出かけになった。その途中とちゅう、弟子たちに、「人々は、わたしのことを何者だと言っているか」と言われた。28弟子たちは言った。「『洗礼者ヨハネだ』と言っています。ほかに、『エリヤだ』と言う人も、『預言者の一人だ』と言う人もいます。」29そこでイエスがお尋ねになった。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」ペトロが答えた。「あなたは、メシアです。」30するとイエスは、御自分のことをだれにも話さないようにと弟子たちを戒められた。

イエス、死と復活を予告する

(マタ16 21—28、ルカ9 22—27)

31それからイエスは、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日の後に復活することになっている、と弟子たちに教え始められた。32しかも、そのことをはっきりとお話しになった。すると、ペトロはイエスをわきへお連れして、いさめ始めた。33イエスは振り返って、弟子たちを見ながら、ペトロを叱って言われた。「サタン、引き下がれ。あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている。」34それから、群衆を弟子たちと共に呼び寄せて言われた。「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。35自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのため、また福音のために命を失う者は、それを救うのである。36人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか。37自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。38神に背いたこの罪深い時代に、わたしとわたしの言葉を恥じる者は、人の子もまた、父の栄光に輝いて聖なる天使たちと共に来るときに、その者を恥じる。」

9また、イエスは言われた。「はっきり言うておく。ここに一緒にいる人々の中には、神の国が力にあふれて現れるのを見るまでは、決して死なない者がいる。」

イエスの姿が変わる

(マタ17 1—13、ルカ9 28—36)

2六日の後、イエスは、ただペトロ、ヤコブ、ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。イエスの姿が彼らの目の前で変わり、3服は真っ白に輝き、この世のどんなさらし職人の腕も及ばぬほど白くなった。4エリヤがモーセと共に現れて、イエスと語り合っていた。5ペトロが口をはさんでイエスに言った。「先生、わたしたちがここにるのは、すばらしいことです。仮小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのためです。」6ペトロは、どう言えばよいのか、分からなかった。弟子たちは非常に恐れていたのである。7すると、雲が現れて彼らを覆い、雲の中から声がした。「これはわたしの愛する子。これに聞け。」8弟子たちは急いで辺りを見回したが、もはやだれも見えず、ただイエスだけが彼らと一緒におられた。9一同が山を下るとき、イエスは、「人の子が死者の中から復活するまでは、今見たことをだれにも話してはいけない」と弟子たちに命じられた。10彼らはこの言葉を心に留めて、死者の中から復活するとはどういうことかと論じ合った。11そして、イエスに、「なぜ、律法学者は、まずエリヤが来るはずだと言っているのでしょうか」と尋ねた。12イエスは言われた。「確かに、まずエリヤが来て、すべてを元どおりにする。それなら、人の子は苦しみを重ね、辱めを受けると聖書に書いてあるのはなぜか。13しかし、言うておく。エリヤは来たが、彼について聖書に書いてあるように、人々は好きなようにあしらったのである。」

けが、れい と
汚れた霊に取りつかれた子をいやす

(マタ17 14—20、ルカ9 37—43a)

14一同がほかの弟子たちのところに来てみると、彼らは大勢の群衆に取り囲まれて、律法学者たちと議論していた。15群衆は皆、イエスを見つけて非常に驚き、駆け寄って来て挨拶した。16イエスが、「何を議論しているのか」とお尋ねになると、17群衆の中のある者が答えた。「先生、息子をおそばに連れて参りました。この子は霊に取りつかれて、ものが言えません。18霊がこの子に取りつくと、所かまわず地面に引き倒すのです。すると、この子は口から泡を出し、歯ぎしりして体をこわばらせてしまいます。この霊を追い出してくださいようにお弟子たちに申しましたが、できませんでした。」19イエスはお答えになった。「なんしんこうじだいと信仰のない時代なのか。いつまでわたしはあなたがたと共にいられようか。いつまで、あなたがたに我慢しなければならないのか。その子をわたしのところに連れて来なさい。」20人々は息子をイエスのところに連れて来た。霊は、イエスを見ると、すぐにその子を引きつけさせた。その子は地面に倒れ、転び回って泡を吹いた。21イエスは父親に、「このようになったのは、いつごろからか」とお尋ねになった。父親は言った。「幼い時からです。22霊は息子を殺そうとして、もうなんどひなかみ親ななこ何度も火の中や水の中に投げ込みました。おできになるなら、わたしどもを憐れんでお助けください。」23イエスは言われた。「『できれば』と言うか。信じる者には何でもできる。」24その子の父親はすぐに叫んだ。「信じます。信仰のないわたしをお助けください。」25イエスは、群衆が走り寄って来るのを見ると、汚れた霊をお叱りになった。「ものも言わず、耳も聞こえさせない霊、わたしの命令だ。この子から出て行け。二度とこの子の中に入るな。」26すると、霊は叫びごえひでいこしおおものしお声あげ、ひどく引きつけさせて出て行った。その子は死んだようになって、多くの者が、「死んでしまった」と言った。27しかし、イエスが手を取って起こされると、立ち上がった。28イエスが家の中に入れると、弟子たちはひそかに、「なぜ、わたしたちはあの霊を追い出せなかったのでしょうか」と尋ねた。29イエスは、「この種のものは、祈りによらなければ決して追い出すことはできないのだ」と言われた。

ふたたびぶんし、ふつかつ、よこく
再び自分の死と復活を予告する

(マタ17 22—23、ルカ9 43b—45)

30一行はそこを去って、ガリラヤを通って行った。しかし、イエスは人に気づかれるのを好まなかった。31それは弟子たちに、「人の子は、人々の手に引き渡され、殺される。殺されて三日の後に復活する」と言うておられたからである。32弟子たちはこの言葉が分からなかったが、怖くて尋ねられなかった。

いちばん偉い者

(マタ18 1—5、ルカ9 46—48)

³³一行はカファルナウムに came。家に着いてから、イエスは弟子たちに、「途中 で何を議論していたのか」とお尋ねになった。³⁴彼らは黙っていた。途中 でだれがいちばん偉いかと議論し合っていたからである。³⁵イエスが座り、十二人を呼び寄せて言われた。「いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい。」³⁶そして、一人の子供の手を取って彼らの真ん中に立たせ、抱き上げて言われた。³⁷「わたしの名のためにこのような子供の一人を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。わたしを受け入れる者は、わたしではなくて、わたしをお遣わしになった方を受け入れるのである。」

逆らわない者は味方

(ルカ9 49—50)

³⁸ヨハネがイエスに言った。「先生、お名前を使って悪霊を追い出している者を見ましたが、わたしたちに 従わないので、やめさせようと思いました。」³⁹イエスは言われた。「やめさせてはならない。わたしの名を使って奇跡を行 い、そのすぐ後で、わたしの悪口は言えまい。⁴⁰わたしたちに逆らわない者は、わたしたちの味方なのである。⁴¹はつきり言うておく。キリストの弟子だという理由で、あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる者は、必ずその報いを受ける。」

罪への誘惑

(マタ18 6—9、ルカ17 1—2)

⁴²「わたしを信じるこれらの小さな者の一人をつまずかせる者は、大きな石臼を首に懸けられて、海に投げ込まれてしまう方がはるかによい。⁴³もし片 方の方があなたをつまずかせるなら、切り捨ててしまいなさい。両 手がそろったまま地獄の消えない火の中に落ちるよりは、片手になっても 命にあずかる方がよい。⁴⁴もし片 方の足があなたをつまずかせるなら、切り捨ててしまいなさい。両 足がそろったまま地獄に投げ込まれるよりは、片足になっても 命にあずかる方がよい。⁴⁵もし片 方の目があなたをつまずかせるなら、えぐり出しなさい。両 方の目がそろったまま地獄に投げ込まれるよりは、一つの目になっても神の国に入る方がよい。⁴⁶地獄では蛆が尽きることも、火が消えることもない。⁴⁷人は皆、火で塩味を付けられる。⁴⁸塩は良いものである。だが、塩に塩気がなくなれば、あなたがたは何によって塩に味を付けるのか。自分自身の内に塩を持ちなさい。そして、互いに平和に過ごしなさい。」

離縁について教える

(マタ19 1—12)

10

¹イエスはそこを立ち去って、ユダヤ地方とヨルダン川の向こう側に行かれた。群 衆 がまた集まって来たので、イエスは 再びいつものように教えておられた。²ファリサイ派の人々が近寄って、「夫 が妻を離縁することは、律法に 適しているでしょうか」と尋ねた。イエスを試そうとしたのである。³イエスは、「モーセはあなたたちに何と命じたか」と問い返された。⁴彼らは、「モーセは、離縁 状 を書いて離縁することを許しました」と言った。⁵イエスは言われた。「あなたがたの 心 が頑固なので、このような 掟 をモーセは書いたのだ。⁶しかし、天地創造の初めから、神は人を 男 と 女 とにお造りになった。⁷それゆえ、人は父母を離れてその妻と結ばれ、⁸二人は一体となる。だから二人はもはや別々ではなく、一体である。⁹従 って、神が結び合わせてくださったものを、人は離してはならない。」¹⁰家に戻ってから、弟子たちがまたこのことについて尋ねた。¹¹イエスは言われた。「妻を離縁して他の 女 を妻にする者は、妻に対して姦通の罪を犯すことになる。¹²夫 を離縁して他の 男 を夫 にする者も、姦通の罪を犯すことになる。」

子供を祝福する

(マタ19 13—15、ルカ18 15—17)

¹³イエスに触れていただくために、人々が子供たちを連れて来た。弟子たちはこの人々を叱った。¹⁴しかし、イエスはこれを見て 憤 り、弟子たちに言われた。「子供たちをわたしのところにこ させなさい。妨 げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。¹⁵はつきり言うておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。」¹⁶そして、子供たちを抱き上げ、手を置いて 祝福された。

（マタ19 16—30、ルカ18 18—30）

「イエスが旅に出ようとされると、ある人が走り寄って、ひざまずいて尋ねた。「善い先生、永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいでしょうか。」¹⁸イエスは言われた。「なぜ、わたしを『善い』と言うのか。神おひとりのほかに、善い者はだれもない。¹⁹『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、奪い取るな、父母を敬え』という掟をあなたは知っているはずだ。」²⁰すると彼は、「先生、そういうことはみな、子供の時から守ってきました」と言った。²¹イエスは彼を見つめ、慈しんで言われた。「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」²²その人はこの言葉に気を落とし、悲しみながら立ち去った。たくさんの方を持っていたからである。²³イエスは弟子たちを見回して言われた。「財産のある者が神の国に入るのは、なんと難しいことか。」²⁴弟子たちはこの言葉を聞いて驚いた。イエスは更に言葉を続けた。「子たちよ、神の国に入るのは、なんと難しいことか。²⁵金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。」²⁶弟子たちはますます驚いて、「それでは、だれが救われるのだろうか」と互いに言った。²⁷イエスは彼らを見つめて言われた。「人間にできることではないが、神にはできる。神は何でもできるからだ。」²⁸ペトロがイエスに、「このとおり、わたしたちは何もかも捨ててあなたに従って参りました」と言いだした。²⁹イエスは言われた。「はっきり言うておく。わたしのためまた福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子供、畑を捨てた者はだれでも、³⁰今この世で、迫害も受けるが、家、兄弟、姉妹、母、子供、畑も百倍受け、後の世では永遠の命を受ける。³¹しかし、先にいる多くの者が後になり、後にいる多くの者が先になる。」

イエス、三度自分の死と復活を予告する

（マタ20 17—19、ルカ18 31—34）

³²一行がエルサレムへ上って行く途中、イエスは先頭に立って進んで行かれた。それを見て、弟子たちは驚き、従う者たちは恐れた。イエスは再び十二人を呼び寄せて、自分の身に起ころうとしていることを話し始められた。³³「今、わたしたちはエルサレムへ上って行く。人の子は祭司長たちや律法学者たちに引き渡される。彼らは死刑を宣告して異邦人に引き渡す。³⁴異邦人は人の子を侮辱し、唾をかけ、鞭打ったうえで殺す。そして、人の子は三日の後に復活する。」

ヤコブとヨハネの願い

（マタ20 20—28）

³⁵ゼバダイの子ヤコブとヨハネが進み出て、イエスに言った。「先生、お願いすることをかなえていただきたいのですが。」³⁶イエスが、「何をしてほしいのか」と言われると、³⁷二人は言った。「栄光をお受けになるとき、わたしどもの一人をあなたの右に、もう一人を左に座らせてください。」³⁸イエスは言われた。「あなたがたは、自分が何を願っているか、分かっている。このわたしが飲む杯を飲み、このわたしが受ける洗礼を受けることができるか。」³⁹彼らが、「できます」と言うとき、イエスは言われた。「確かに、あなたがたはわたしが飲む杯を飲み、わたしが受ける洗礼を受けることになる。⁴⁰しかし、わたしの右や左にだれが座るかは、わたしの決めることではない。それは、定められた人々に許されるのだ。」⁴¹ほかの十人の者はこれ聞いて、ヤコブとヨハネのことで腹を立て始めた。⁴²そこで、イエスは一同を呼び寄せて言われた。「あなたがたも知っているように、異邦人の間では、支配者と見なされている人々が民を支配し、偉い人たちが権力を振るっている。⁴³しかし、あなたがたの間では、そうではない。あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、⁴⁴いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。⁴⁵人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。」

盲人バルティマイをいやす

（マタ20 29—34、ルカ18 35—43）

⁴⁶一行はエリコの町に着いた。イエスが弟子たちや大勢の群衆と一緒に、エリコを出て行こうとされたとき、ティマイの子で、バルティマイという盲人が道端に座って物乞いをしていた。⁴⁷ナザレのイエスだと聞くと、叫んで、「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」と言い始めた。⁴⁸多くの人々が叱りつけて黙らせようとしたが、彼はますます、「ダビデの子よ、わたしを憐れんでください」と叫び続けた。⁴⁹イエスは立ち止まって、「あの男を呼んで来なさい」と言われた。人々は盲人を呼んで言った。「安心しなさい。立ちなさい。お呼びだ。」⁵⁰盲人は上着を脱ぎ捨て、躍り上がってイエスのところに来た。⁵¹イエスは、⁵²「何をしてほしいのか」と言われた。盲人は、「先生、目が見えるようになりたいのです」と言った。⁵³そこで、イエスは言われた。「行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」盲人は、すぐ見えるようになり、なお道を進まれるイエスに従った。

エルサレムに迎えらるる

（マタ21 1—11、ルカ19 28—40、ヨハ12 12—19）

「一行がエルサレムに近づいて、オリーブ山のふもとにあるベトファゲとベタニアにさしかかったとき、イエスは二人の弟子を使いに出そうとして、言われた。「向

この村へ行きなさい。村に入るとすぐ、まだだれも乗ったことのない子ろばのつないであるのが見つかる。それをほどいて、連れて来なさい。³もし、だれかが、『なぜ、そんなことをするのか』と言ったら、『主がお入り用なのです。すぐここにお返しになります』と言いなさい。」⁴二人は、出かけて行くと、表通りの戸口に子ろばのつないであるのを見つけたので、それをほどいた。⁵すると、そこに居合わせたある人々が、「その子ろばをほどいてどうするのか」と言った。⁶二人が、イエスの言われたとおり話すと、許してくれた。⁷二人が子ろばを連れてイエスのところに戻って来て、その上に自分の服をかけると、イエスはそれにお乗りになった。⁸多くの人が自分の服を道に敷き、また、ほかの人々は野原から葉の付いた枝を切って来て道に敷いた。⁹そして、前に行く者も後に従う者も叫んだ。

「サナ。」

7名によって来られる方に、

祝福があるように。

の父ダビデの来るべき国に、

祝福があるように。

：高きところにホサナ。」

¹¹こうして、イエスはエルサレムに着いて、神殿の境内に入り、辺りの様子を見て回った後、もはや夕方になったので、十二人を連れてベタニアへ出て行かれた。

いちじくの木を呪う

（マタ21 18—19）
¹²翌日、一行がベタニアを出るとき、イエスは空腹を覚えられた。¹³そこで、葉の茂ったいちじくの木を遠くから見て、実がなっていないかと近寄られたが、葉のほかは何もなかった。いちじくの季節ではなかったからである。¹⁴イエスはその木に向かって、「今から後いつまでも、お前から実を食べる者がないように」と言われた。弟子たちはこれを聞いていた。

神殿から商人を追い出す

（マタ21 12—17、ルカ19 45—48、ヨハ2 13—22）
¹⁵それから、一行はエルサレムに来た。イエスは神殿の境内に入り、そこで売り買っていた人々を追い出し始め、両替人の台や鳩を売る者の腰掛けをひっくり返された。¹⁶また、境内を通って物を運ぶこともお許しにならなかった。¹⁷そして、人々に教えて言われた。「こう書いてあるではないか。

）たしの家は、すべての国の人の

祈りの家と呼ばれるべきである。』

：ろが、あなたたちは

それを強盗の巣にしまった。」
²⁰祭司長たちや律法学者たちはこれを聞いて、イエスをどのようにして殺そうかと謀った。群衆が皆その教えに打たれていたもので、彼らはイエスを恐れたからである。¹⁹夕方になると、イエスは弟子たちと都の外に出て行かれた。

枯れたいちじくの木
の教訓

（マタ21 20—22）
²⁰翌朝早く、一行は通りがかりに、あのいちじくの木が根元から枯れているのを見た。²¹そこで、ペトロは思い出してイエスに言った。「先生、御覧ください。あなたが呪われたいちじくの木が、枯れています。」²²そこで、イエスは言われた。「神を信じなさい。²³はつきり言うておく。だれでもこの山に向かい、『立ち上

うみ と こ い すこ うたが じぶん い しん いの もと すで
がって、海に飛び込め』』と言い、少しも 疑 わず、自分の言うとおりになると 信じるならば、そのとおりになる。²⁴だから、言っておく。祈り求めるものはすべて既
え しん
に得られたと 信じなさい。そうすれば、そのとおりになる。²⁵また、立つて 祈るとき、だれかに対して何か恨みに思うことがあれば、赦してあげなさい。そうすれ
ば、あなたがたの天の父も、あなたがたの 過 ちを赦してくださる。」[†]

けんい もんどう
権威についての問答

（マタ21 23—27、ルカ20 1—8）

いっこう き しん でん けいだい ある さいし ちょう りつぼうがくしゃ ちょうろう き い なん けんい
²⁷一行はまたエルサレムに came。イエスが神 殿の境 内を歩いておられると、祭司 長、律法 学者、長 老たちがやって来て、²⁸言った。「何の権威で、このよ
うなことをしているのか。だれが、そうする権威を与えたのか。」²⁹イエスは言われた。「では、一つ尋ねるから、それに答えなさい。そうしたら、何の権威でこの
ようなことをするのか、あなたがたに言おう。³⁰ヨハネの 洗礼 は天からのものだったか、それとも、人からのものだったか。答えなさい。」³¹彼らは論じ合っ
た。「『天からのものだ』』と言えば、『では、なぜヨハネを信じなかったのか』』と言うだろう。³²しかし、『人からのものだ』』と言えば……。」³³彼らは群 衆 が怖
かった。皆が、ヨハネは本当に預言 者だと思っていたからである。³³そこで、彼らはイエスに、「分からない」と答えた。すると、イエスは言われた。「それな
ら、何の権威でこのようなことをするのか、わたしも言うまい。」

えん のうふ
「ぶどう園と農夫」のたとえ

（マタ21 33—46、ルカ20 9—19）

12

かれ はな はじ ひと えん つく かき めぐ しば ぼ ぼ み は た のうふ か たび で
イエスは、たとえて彼らに話し 始められた。「ある人がぶどう園を作り、垣を巡らし、搾り場を掘り、見張りのやぐらを立て、これを農夫たちに貸して旅に出
しゅうかく とし えん しゅうかく う と しもべ のうふ おく のうふ しもべ つか ふくろ
た。²収 穫の時にになったので、ぶどう園の 収 穫を受け取るために、僕 を農夫たちのところへ送った。³だが、農夫たちは、この 僕 を捕まえて 袋 だたきにし、
なに も かえ た しもべ おく のうふ あたま なぐ ぶじよく さら ひとり おく こんど ころ
何も持たせないで帰した。⁴そこでまた、他の 僕 を送ったが、農夫たちはその 頭 を殴り、侮 辱 した。⁵更に、もう一人を送ったが、今度は殺した。そのほかに
おお しもべ おく もの なぐ もの ころ ひとり あい むすこ むすこ うやま い さいご むすこ
多くの 僕 を送ったが、ある者は殴られ、ある者は殺された。⁶まだ一人、愛する息子がいた。『わたしの息子なら 敬 ってくれるだろう』』と言って、最後に息子
おく のうふ はな あ あとと ころ そうぞくさいさん われわれ むすこ つか ころ
を送った。⁷農夫たちは話し合った。『これは跡取りだ。さあ、殺してしまおう。そうすれば、相続財産は我 々のものになる。』⁸そして、息子を捕まえて殺し、
えん そと た えん しゅじん もと き のうふ ころ えん ひと あた
ぶどう園の外にほうり出してしまった。⁹さて、このぶどう園の主人は、どうするだろうか。戻って来て農夫たちを殺し、ぶどう園をほかの人たちに与えるにちが
いない。¹⁰聖 書にこう書いてあるのを讀んだことがないのか。

え た もの す いし
を建てる者の捨てた石、

すみ おやいし
いが隅の親石となった。

しゅ
は、主がなさったことで、

め ふしぎ み
したちの目には不思議に見える。』」

かれ じぶん あ はな き と ぐんしゅう おそ ぼ のこ
¹²彼らは、イエスが自分たちに当てつけてこのたとえを話されたと気づいたので、イエスを捕らえようとしたが、群 衆 を恐れた。それで、イエスをその場に 残し
た き
て立ち去った。

こうてい ぜいきん
皇帝への税金

（マタ22 15—22、ルカ20 20—26）

ひとびと ことば おとしい は は ひと すうにん つか くれ き い
¹²さて、人々は、イエスの言葉じりをとらえて 陥 れようとして、ファリサイ派やヘロデ派の人を数人イエスのところに遣わした。¹⁴彼らは来て、イエスに言っ
た。「先生、わたしたちは、あなたが真 実な方で、だれをもはばからない方であることを知っています。人々を分け隔てせず、真理に基づいて神の道を教えて
おられるからです。ところで、皇 帝に税金を納めるのは、律法に 適 っているでしょうか、 適 っていないでしょうか。納めるべきでしょうか、納めてはならないの
でしょうか。」¹⁵イエスは、彼らの下 心 を見抜いて言われた。「なぜ、わたしを試そうとするのか。デナリオン銀貨を持って来て見せなさい。」¹⁶彼らがそれを持っ
く しょうぞう めい い くれ こうてい い しょうぞう かい
て来ると、イエスは、「これは、だれの 肖 像と銘か」と言われた。彼らが、「皇 帝のものです」と言うと、¹⁷イエスは言われた。「皇 帝のものは皇 帝に、神のも
かみ かえ くれ こた おどろ い
のは神に返しなさい。」¹⁸彼らは、イエスの答えに 驚 き入った。

ふつかつ もんどう
復活についての問答

（マタ22 23—33、ルカ20 27—40）

ふつかつ い は ひとびと き たず せんせい か ひと あに し つま
¹⁸復活はないと言っているサドカイ派の人々が、イエスのところへ来て尋ねた。¹⁹「先生、モーセはわたしたちのために書いています。『ある人の兄が死に、妻

あと のこ こ ば あい おとうと あによめ けっこん あに あとつ を後に残して子がない場合、その 弟 は兄 嫁と結 婚して、兄の跡継ぎをもうけねばならない』と。²⁰ところで、七人の 兄 弟がいました。長 男が妻を迎えましたが、跡継ぎを残さないで死にました。²¹次男がその 女 を妻にしましたが、跡継ぎを残さないで死に、三男も同様でした。²²こうして、七人とも跡継ぎを残しませんでした。最後にその 女 も死にました。²³復活の時、彼らが復活すると、その 女 はだれの妻になるのでしょうか。七人ともその 女 を妻にしたのです。
」²⁴イエスは言われた。「あなたたちは聖 書も神の 力 も知らないから、そんな思い 違いをしているのではないか。²⁵死者の中から復活するときには、めとることもとつ てんし ししや ふつかつ しよ しば かしよ かみ い よ 嫁ぐこともなく、天使のようになるのだ。²⁶死者が復活することについては、モーセの書の『柴』の個所で、神がモーセにどう言われたか、読んだことがないのか。『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』とあるではないか。²⁷神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神なのだ。あなたたちは大 変な思い 違いをしている。」

もつと じゅうよう おきて 最 も 重 要な 掟

（マタ22 34—40、ルカ10 25—28）

²⁸彼らの議論を聞いていた一人の律法学者が進み出、イエスが立派にお答えになったのを見て、尋ねた。「あらゆる 掟 のうちで、どれが第一でしょうか。
」²⁹イエスはお答えになった。「第一の 掟 は、これである。『イスラエルよ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である。³⁰心 を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力 を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』³¹第二の 掟 は、これである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる 掟 はほかにない。」³²律法学者はイエスに言った。「先生、おっしゃるとおりです。『神は唯一である。ほかに神はない』とおっしゃったのは、本当です。³³そして、『心 を尽くし、知恵を尽くし、力 を尽くして神を愛し、また隣人を自分のように愛する』ということは、どんな焼き尽くす 献げ物やいけにえよりも優れています。』³⁴イエスは律法学者が適切な答えをしたのを見て、「あなたは、神の国から遠くない」と言われた。もはや、あえて質問する者はなかった。

ダビデの子についての問答

（マタ22 41—46、ルカ20 41—44）

³⁵イエスは神殿の境内で教えていたとき、こう言われた。「どうして律法学者たちは、『メシアはダビデの子だ』と言うのか。³⁶ダビデ自身が聖 霊を受けて言っている。

主は、わたしの主にお告げになった。

わたしの右の座に着きなさい。

主があなたの敵を

あなたの足もとに屈服させるときまで」と。

³⁷このようにダビデ自身がメシアを主と呼んでいるのに、どうしてメシアがダビデの子なのか。」大勢の群 衆 は、イエスの教えに 喜 んで耳を 傾 けた。

律法学者を非難する

（マタ23 1—36、ルカ20 45—47）

³⁸イエスは教えの中でこう言われた。「律法学者に気をつけなさい。彼らは、長い 衣 をまとって歩き回ることや、広場で挨拶されること、³⁹会堂では 上 席、宴会では 上 座に座することを望み、⁴⁰また、やもめの家を食べ物にし、見せかけの長い祈りをする。このような者たちは、人一倍 厳しい裁きを受けることになる。」

やもめの献金

（ルカ21 1—4）

⁴¹イエスは賽 銭 箱の向かいに座つて、群 衆 がそれに金を入れる様子を見ておられた。大 勢の金持ちがたくさん入れていた。⁴²ところが、一人の貧しいやもめが来て、レプトン銅貨二枚、すなわち一クアドランスを入れた。⁴³イエスは、弟子たちを呼び寄せて言われた。「はつきり言っておく。この貧しいやもめは、賽 銭 箱に入れている人の中で、だれよりもたくさん入れた。⁴⁴皆は有り余る中から入れたが、この人は、乏しい中から自分の持っている物をすべて、生活費を全部入れたからである。」

神殿の崩壊を予告する

（マタ24 1—2、ルカ21 5—6）

ことば けつ ほろ
びるが、わたしの言葉は決して滅びない。」

め さ
目を覚ましていなさい

(マタ24 36—44)

³²「その日、その時は、だれも知らない。天使たちも子も知らない。父だけがご存じである。³³気をつけて、目を覚ましていなさい。その時がいつなのか、あなたがたには分からないからである。³⁴それは、ちょうど、家を後に旅に出る人が、僕 たちに仕事を割り当てて責任を持たせ、門番には目を覚ましているようにと、言いつけておくようなものだ。³⁵だから、目を覚ましていなさい。いつ家の主人が帰って来るのか、夕方か、夜中か、鶏 の鳴くころか、明け方か、あなたがたには分からないからである。³⁶主人が突然 帰って来て、あなたがたが眠っているのを見つけるかもしれない。³⁷あなたがたに言うことは、すべての人に言うのだ。目を覚ましていなさい。」

ころ けいりやく
イエスを殺す計 略

(マタ26 1—5、ルカ22 1—2、ヨハ11 45—53)

14

¹さて、過越祭と除酵祭の二日前になった。祭司 長 たちや律法学者たちは、なんとか計 略 を用いてイエスを捕らえて殺そうと 考 えていた。²彼らは、「民衆 が騒ぎだすといけなから、祭りの 間 はやめておこう」と言っていた。

こうゆ そそ
ベタニアで香油を注がれる

(マタ26 6—13、ヨハ12 1—8)

³イエスがベタニアで重い皮膚 病 の人シモンの家にて、食 事の席に着いておられたとき、一人の 女 が、純 粋 で非 常 に高価なナルドの香油の人った石 膏の壺を持って来て、それを壊し、香油をイエスの 頭 に注ぎかけた。⁴そこにいた人の何人かが、憤 慨して互いに言った。「なぜ、こんなに香油を無駄遣いしたのか。⁵この香油は三百デナリオン以 上 に売って、貧しい人々に 施 すことができたのに。」そして、彼女を厳しくとがめた。⁶イエスは言われた。「するまにさせておきなさい。なぜ、この人を困らせるのか。わたしに良いことをしてくれたのだ。⁷貧しい人 々はいつもあなたがたと一 緒にいるから、したいときに良いことをしてやれる。しかし、わたしはいつも一 緒にいるわけではない。⁸この人はできるかぎりのことをした。つまり、前もってわたしの 体 に香油を注ぎ、埋葬の 準備をしてくれた。⁹はつきり言っておく。世界 中 どこでも、福音が宣べ伝えられる 所 では、この人のしたことも記念として語り伝えられるだろう。」

うらぎ くれだ
ユダ、裏切りを企 てる

(マタ26 14—16、ルカ22 3—6)

¹⁰十二人の一人イスカリオテのユダは、イエスを引き渡そうとして、祭司 長 たちのところへ出かけて行つた。¹¹彼らはそれを聞いて 喜 び、金を与える約束をした。そこでユダは、どうすれば折よく イエスを引き渡せるかとねらっていた。

すぎこし しょくじ
過越の食 事をする

(マタ26 17—25、ルカ22 7—14、21—23、ヨハ13 21—30)

¹²除酵祭の第一日、すなわち過越の小 羊 を屠る日、弟子たちがイエスに、「過越の食 事をなさるのに、どこへ行って用意いたしましょうか」と言った。¹³そこで、イエスは次のように言って、二人の弟子を使いに出された。「都 へ行きなさい。すると、水がめを運んでいる 男 に出会う。その人について行きなさい。¹⁴その人が入って行く家の主人にはこう言いなさい。『先生が、「弟子たちと一緒に過越の食 事をするわたしの部屋はどこか」と言っています。』¹⁵すると、席が 整 って用意のできた二階の広間を見せてくれるから、そこにわたしたちのために 準備をしておきなさい。」¹⁶弟子たちは出かけて 都 に行ってみると、イエスが言われたとおりだったので、過越の食 事を 準備した。¹⁷夕方になると、イエスは十二人と一 緒にそこへ行かれた。¹⁸一同が席に着いて 食 事をしているとき、イエスは言われた。「はつきり言っておくが、あなたがたのうちの一人で、わたしと一緒に 食 事をしている者が、わたしを裏切ろうとしている。」¹⁹弟子たちは 心 を痛めて、「まさかわたしのことでは」と代わる代わる言い始めた。²⁰イエスは言われた。「十二人のうちの一人で、わたしと一緒に鉢に食べ物を浸している者がそれだ。²¹人の子は、聖 書に書いてあるとおりに、去って行く。だが、人の子を裏切るその者は不幸だ。生まれなかつた方が、その者のためによかつた。」

しゅ ばんさん
主の晩餐

(マタ26 26—30、ルカ22 15—20、一コリ11 23—25)

²²一同が 食 事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取りなさい。これはわたしの 体 である。」²³また、杯 を取り、感謝の祈りを唱えて、彼らにお渡しになった。彼らは皆その 杯 から飲んだ。²⁴そして、イエスは言われた。「これは、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。²⁵はつきり言っておく。神の国で新たに飲むその日まで、ぶどうの実から作ったものを飲むことはもう決してあるま

いちどうさんびうたやま
い。」²⁸一同は賛美の歌をうたってから、オリーブ山へ出かけた。

りはんよこく
ペトロの離反を予告する

(マタ26 31—35、ルカ22 31—34、ヨハ13 36—38)
でし
「イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたは皆わたしにつまずく。

ひつじか
わたしは羊飼いを打つ。

ひつじち
と、羊は散ってしまう』
か
と書いてあるからだ。²⁸しかし、わたしは復活した後、あなたがたより先にガリラヤへ行く。」²⁹するとペトロが、「たとえ、みんながつまずいても、わたしはつまずきません」と言った。³⁰イエスは言われた。「はっきり言うておくが、あなたは、今日、今夜、鶏が二度鳴く前に、三度わたしのことを知らないと言うだろう。」³¹ペトロは力を込めて言い張った。「たとえ、御一緒に死なねばならなくなっても、あなたのことを知らないなどとは決して申しません。」皆の者も同じように言った。

いの
ゲツセマネで祈る

(マタ26 36—46、ルカ22 39—46)
いちどう
³²一同がゲツセマネという所に来ると、イエスは弟子たちに、「わたしが祈っている間、ここに座っていなさい」と言われた。³³そして、ペトロ、ヤコブ、ヨハネを伴われたが、イエスはひどく恐れてもたえ始め、³⁴彼らに言われた。「わたしは死ぬばかりに悲しい。ここを離れず、目を覚ましていなさい。」³⁵少し進んで行って地面にひれ伏し、できることなら、この苦しみの時が自分から過ぎ去るようにと祈り、³⁶こう言われた。「アッパ、父よ、あなたは何でもおできになります。この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしが願うのではなく、御心に適うことが行われますように。」³⁷それから、戻って御覧になると、弟子たちは眠っていたので、ペトロに言われた。「シモン、眠っているのか。わずか一時も目を覚ましていられなかったのか。³⁸誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていなさい。心は燃えても、肉体は弱い。」³⁹更に、向こうへ行って、同じ言葉で祈られた。⁴⁰再び戻って御覧になると、弟子たちは眠っていた。ひどく眠ったのである。彼らは、イエスにどう言えばよいのか、分からなかった。⁴¹イエスは三度目に戻って来て言われた。「あなたがたはまだ眠っている。休んでいる。もうこれでいい。時が来た。人の子は罪人たちの手に引き渡される。」⁴²立て、行こう。見よ、わたしを裏切る者が来た。」

うらぎ
裏切られ、逮捕される

(マタ26 47—56、ルカ22 47—53、ヨハ18 3—12)
はな
⁴³さて、イエスがまだ話しておられると、十二人の一人であるユダが進み寄って来た。祭司長、律法学者、長老たちの遣わした群衆も、剣や棒を持つて一緒に来た。⁴⁴イエスを裏切ろうとしていたユダは、「わたしが接吻するのが、その人だ。捕まえて、逃がさないように連れて行け」と、前もって合図を決めていた。⁴⁵ユダはやって来るとすぐに、イエスに近寄り、「先生」と言って接吻した。⁴⁶人々は、イエスに手をかけて捕らえた。⁴⁷居合わせた人々のうちのある者が、剣を抜いて大祭司の手下に打ってかかり、片方の耳を切り落とした。⁴⁸そこで、イエスは彼らに言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持つて捕らえに来たのか。⁴⁹わたしは毎日、神殿の境内で一緒にいて教えていたのに、あなたたちはわたしを捕らえなかった。しかし、これは聖書の言葉が実現するためである。」⁵⁰弟子たちは皆、イエスを見捨てて逃げてしまった。

ひとりわかの
一人の若者、逃げる
ひとりわかの
⁵¹一人の若者が、素肌に亜麻布をまとってイエスについて来ていた。人々が捕らえようとすると、⁵²亜麻布を捨てて裸で逃げてしまった。

さいこうほういん
最高法院で裁判を受ける

(マタ26 57—68、ルカ22 54—55、63—71、ヨハ18 13—14、19—24)
ひとびと
⁵³人々は、イエスを大祭司のところへ連れて行った。祭司長、長老、律法学者たちが皆、集まって来た。⁵⁴ペトロは遠く離れてイエスに従い、大祭司の屋敷の中庭まで入って、下役たちと一緒に座って、火にあたっていた。⁵⁵祭司長たちと最高法院の全員は、死刑にするためイエスにとって不利な証言を求めたが、得られなかった。⁵⁶多くの者がイエスに不利な偽証をしたが、その証言は食い違っていたからである。⁵⁷すると、数人の者が立ち上がって、イエスに不利な偽証をした。⁵⁸「この男が、『わたしは人間の手で造ったこの神殿を打ち倒し、三日あれば、手で造らない別の神殿を建ててみせる』と言うのを、わたしたちは聞きました。」⁵⁹しかし、この場合も、彼らの証言は食い違った。⁶⁰そこで、大祭司は立ち上がり、真ん中に進み出て、イエスに尋ねた。「何も答えないのか、この者たちがお前に不利な証言をしているが、どうなのか。」⁶¹しかし、イエスは黙り続け何もお答えにならなかった。そこで、重ねて大祭司は尋ね、「お前はほむべき方の子、メシアなのか」と言った。⁶²イエスは言われた。「そうです。

あなたたちは、人の子が全能の神の右に座り、
天の雲に囲まれて来るのを見る。」
大祭司は、衣を引き裂きながら言った。「これでもまだ証人が必要だろうか。諸君は冒瀆の言葉を聞いた。どう考えるか。」一同は、死刑にすべきだと決議した。⁶⁵それから、ある者はイエスに唾を吐きかけ、目隠しをしてこぶしで殴りつけ、「言い当ててしろ」と言い始めた。また、下役たちは、イエスを平手で打った。

ペトロ、イエスを知らないと言う

(マタ26 69—75、ルカ22 56—62、ヨハ18 15—18、25—27)

ペトロが下の中庭にいたとき、大祭司に仕える女中の一人が来て、ペトロが火にあたっているのを目にすると、じっと見つめて言った。「あなたも、あのナザレのイエスと一緒にいた。」⁶⁸しかし、ペトロは打ち消して、「あなたが何のことを言っているのか、わたしには分からないし、見当もつかない」と言った。そして、出口の方へ出て行くと、鶏が鳴いた。⁶⁹女中はペトロを見て、周りの人々に、「この人は、あの人たちの仲間です」とまた言いだした。⁷⁰ペトロは、再び打ち消した。しばらくして、今度は、居合わせた人々がペトロに言った。「確かに、お前はあの連中の仲間だ。ガリラヤの者だから。」⁷¹すると、ペトロは呪いの言葉さえ口にしながら、「あなたがたの言っているそんな人は知らない」と誓い始めた。⁷²するとすぐ、鶏が再び鳴いた。ペトロは、「鶏が二度鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」とイエスが言われた言葉を思い出して、いきなり泣きだした。

ピラトから尋問される

(マタ27 1—2、11—14、ルカ23 1—5、ヨハ18 28—38)

15

夜が明けるとすぐ、祭司長たちは、長老や律法学者たちと共に、つまり最高法院全体で相談した後、イエスを縛って引いて行き、ピラトに渡した。²ピラトがイエスに、「お前がユダヤ人の王なのか」と尋問すると、イエスは、「それは、あなたが言っていることです」と答えられた。³そこで祭司長たちが、いろいろとイエスを訴えた。⁴ピラトが再び尋問した。「何も答えないのか。彼らがあのようにお前を訴えているのに。」⁵しかし、イエスがもはや何もお答えにならなかったのので、ピラトは不思議に思った。

死刑の判決を受ける

(マタ27 15—26、ルカ23 13—25、ヨハ18 39—19 16)

ところで、祭りの度ごとに、ピラトは人々が願ひ出る囚人を一人釈放していた。⁷さて、暴動のとき人殺しをして投獄されていた暴徒たちの中に、バラバという男がいた。⁸群衆が押しかけて来て、いつものようにしてほしいと要求し始めた。⁹そこで、ピラトは、「あのユダヤ人の王を釈放してほしいのか」と言った。¹⁰祭司長たちがイエスを引き渡したのは、ねたみのためだと分かっていたからである。¹¹祭司長たちは、バラバの方を釈放してもらうように群衆を扇動した。¹²そこで、ピラトは改めて、「それでは、ユダヤ人の王とお前たちが言っているあの者は、どうしてほしいのか」と言った。¹³群衆はまた叫んだ。「十字架につけろ。」¹⁴ピラトは言った。「いったいどんな悪事を働いたのか。」群衆はますます激しく、「十字架につけろ」と叫び立てた。¹⁵ピラトは群衆を満足させようと思って、バラバを釈放した。そして、イエスを鞭打ってから、十字架につけるために引き渡した。

兵士から侮辱される

(マタ27 27—31、ヨハ19 2—3)

兵士たちは、官邸、すなわち総督官邸の中に、イエスを引いて行き、部隊の全員を呼び集めた。¹⁷そして、イエスに紫の服を着せ、茨の冠を編んでかぶらせ、¹⁸「ユダヤ人の王、万歳」と言って敬礼し始めた。¹⁹また何度も、葦の棒で頭をたたき、唾を吐きかけ、ひざまずいて拝んだりした。²⁰このようにイエスを侮辱したあげく、紫の服を脱がせて元の服を着せた。そして、十字架につけるために外へ引き出した。

十字架につけられる

(マタ27 32—44、ルカ23 26—43、ヨハ19 17—27)

そこへ、アレクサンドロとルフォスとの父でシモンというキレネ人が、田舎から出て来て通りかかったので、兵士たちはイエスの十字架を無理に担がせた。²²そして、イエスをゴルゴタという所——その意味は「されこうべの場所」——に連れて行った。²³没薬を混ぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、イエスはお受けにならなかった。²⁴それから、兵士たちはイエスを十字架につけて、

服を分け合った、

だれが何を取るかをくじ引きで決めてから。

²⁵イエスを 十字架につけたのは、午前九時であった。²⁶罪 状 書きには、「ユダヤ人の王」と書いてあった。²⁷また、イエスと一緒に二人の強盗を、一人は右にもひとり ひだり じゅうじ か とお ひとびと あたま ふ い いっしょ ふたり ごとう ひとり みぎ う一人は 左 に、 十字架につけた。²⁸そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスをののしって言った。「おやおや、神殿を打ち倒し、三日で建てる者じゅうじ か お じぶん すく おな さいしちょう りつぼうがくしゃ いっしょ か が ぶじょく い たにん すく、³⁰ 十字架から降りて自分を救ってみろ。」³¹同じように、祭司長たちも律法学者たちと一緒になつて、代わる代わるイエスを侮辱して言った。「他人は救ったのに、自分は救えない。³²メシア、イスラエルの王、今すぐ 十字架から降りるがいい。それを見たら、信じてやろう。」一緒に 十字架につけられた者たちも、イエスをののしった。

イエスの死

（マタ27 45—56、ルカ23 44—49、ヨハ19 28—30）

³³昼の十二時になると、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。³⁴三時にイエスは大声で叫ばれた。「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神の、わが神、なげわたしをお見捨てになつたのですか」という意味である。³⁵そばに居合わせた人々のうちには、これを聞いて、「そら、エリヤを呼んでいる」と言う者がいた。³⁶ある者が走り寄り、海綿に酸いぶどう酒を含ませて葦の棒に付け、「待て、エリヤが彼を降ろしに来るかどうか、見ていよう」と言いながら、イエスの飲ませようとした。³⁷しかし、イエスは大声を出して息を引き取られた。³⁸すると、神殿の垂れ幕が上から下まで真つ二つに裂けた。³⁹百人隊長がイエスの方を向いて、そばに立っていた。そして、イエスがこのように息を引き取られたのを見て、「本当に、この人は神の子だった」と言った。⁴⁰また、婦人たちも遠くから見守っていた。その中には、マグダラのマリア、小ヤコブとヨセの母マリア、そしてサロメがいた。⁴¹この婦人たちは、イエスがガリラヤにおられたとき、イエスに従つて来て世話をしていた人々である。なおそのほかにも、イエスと共にエルサレムへ上つて来た婦人たちが大勢いた。

墓に葬られる

（マタ27 57—61、ルカ23 50—56、ヨハ19 38—42）

⁴³既に夕方になった。その日は準備の日、すなわち安息日の前日であつたので、⁴⁴アリマタヤ出身で身分の高い議員ヨセフが来て、勇気を出してピラトのところへ行き、イエスの遺体を渡してくれるようにと願ひ出た。この人も神の国を待ち望んでいたのである。⁴⁵ピラトは、イエスがもう死んでしまったのかと不思議に思い、百人隊長を呼び寄せて、既に死んだかどうかを尋ねた。⁴⁶そして、百人隊長に確かめたうえ、遺体をヨセフに下げ渡した。⁴⁷ヨセフは亜麻布を買い、イエスを十字架から降ろしてその布で巻き、岩を掘つて作つた墓の中に納め、墓の入り口には石を転がしておいた。⁴⁸マグダラのマリアとヨセの母マリアとは、イエスの遺体を納めた場所を見つめていた。

復活する

（マタ28 1—8、ルカ24 1—12、ヨハ20 1—10）

16

¹安息日が終わると、マグダラのマリア、ヤコブの母マリア、サロメは、イエスに油を塗りに行くために香料を買つた。²そして、週の初めの日の朝ごく早く、ひで はか い かのじよ はか い ぐち いし ごろ はな あ め あ み いし 日が出るとすぐ墓に行つた。³彼女たちは、「だれが墓の入り口からあの石を転がしてくれるでしょうか」と話し合つていた。⁴ところが、目を上げて見ると、石はすで ころ いし ひじょう おお はか なか はい しろ なが ころも き わかもの みぎて すわ み ふじん 既にわきへ転がしてあつた。石は非常に大きかつたのである。⁵墓の中に入ると、白い長い衣を着た若者が右手に座っているのが見えたので、婦人たちはひどく驚いた。⁶若者は言つた。「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているが、あの方は復活なさつて、ここにはおられない。御覧なさい。お納めした場所である。⁷さあ、行つて、弟子たちとベトロに告げなさい。『あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて言われたとおり、そこでお目にかかれる』と。」⁸婦人たちは墓を出て逃げ去つた。震え上がり、正気を失つていた。そして、だれにも何も言わなかつた。恐ろしかったからである。

結び —

マグダラのマリアに現れる

（マタ28 9—10、ヨハ20 11—18）

〔⁹イエスは週の初めの日の朝早く、復活して、まずマグダラのマリアに御自身を現された。このマリアは、以前イエスに七つの悪霊を追い出していただいた婦人である。¹⁰マリアは、イエスと一緒にいた人々が泣き悲しんでいるところへ行つて、このことを知らせた。¹¹しかし彼らは、イエスが生きておられること、そしてマリアがそのイエスを見たことを聞いても、信じなかつた。

二人の弟子に現れる

（ルカ24 13—35）

¹²その後、彼らのうちの二人が田舎の方へ歩いて行く途中、イエスが別の姿で御自身を現された。¹³この二人も行つて残りの人たちに知らせたが、彼らは二人の言うことも信じなかつた。

でし　はけん
弟子たちを派遣する

(マタ28 16—20、ルカ24 36—49、ヨハ20 19—23、使徒1 6—8)

のち　にん　しょくじ　あらわ　ふしんこう　こころ　ふつかつ　み　ひとびと　い　しん
14その後、十一人が食事をしているとき、イエスが現れ、その不信仰とかたくなな心をおとがめになった。復活されたイエスを見た人々の言うことを、信
じなかったからである。15それから、イエスは言われた。「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。16信じて洗礼を受ける者は救わ
れるが、信じない者は滅びの宣告を受ける。17信じる者には次のようなしるしが伴う。彼らはわたしの名によって悪霊を追い出し、新しい言葉を語る。18手で
へび　どく　の　けつ　がい　う　びょうにん　て　お　なお
蛇をつかみ、また、毒を飲んでも決して害を受けず、病人に手を置けば治る。」

てん　あ
天に上げられる

(ルカ24 50—53、使徒1 9—11)

しゅ　でし　はな　のち　てん　あ　かみ　みぎ　ざ　つ　いつぼう　でし　で　い　いた　せんきょう　しゅ　かれ　とも
19主イエスは、弟子たちに話した後、天に上げられ、神の右の座に着かれた。20一方、弟子たちは出かけて行って、至るところで宣教した。主は彼らと共に
はたら　かれ　かた　ことば　しんじつ　ともな　しめ
働き、彼らの語る言葉が真実であることを、それに伴うしるしによってはっきりとお示しになった。]

むす　二
結び　ふじん　めい　なかま　てみじか　つた　のち　ごじしん　ひがし　にし　かれ　とお　えいえん　すく　かん
〔婦人たちは、命じられたことをすべてペトロとその仲間たちに手短に伝えた。その後、イエス御自身も、東から西まで、彼らを通して、永遠の救いに関
する聖なる朽ちることのない福音を広められた。アーメン。〕

底本に節が欠けている個所の異本による訳文

き　みみ　もの　き
7 16　聞く耳のある者は聞きなさい。

じごく　うじ　つ　ひ　き
9 44　地獄では蛆が尽きることも、火が消えることもない。

じごく　うじ　つ　ひ　き
9 46　地獄では蛆が尽きることも、火が消えることもない。

ゆる　てん　ちち　あやま　ゆる
11 26　もし赦さないなら、あなたがたの天の父も、あなたがたの過ちをお赦しにならない。

ひと　はんざいにん　ひとり　かぞ　せいしよ　ことば　じつげん
15 28　こうして、「その人は犯罪人の一人に数えられた」という聖書の言葉が実現した。

ルカによる福音書

- [1章](#) [2章](#) [3章](#) [4章](#) [5章](#)
- [6章](#) [7章](#) [8章](#) [9章](#) [10章](#)
- [11章](#) [12章](#) [13章](#) [14章](#) [15章](#)
- [16章](#) [17章](#) [18章](#) [19章](#) [20章](#)
- [21章](#) [22章](#) [23章](#) [24章](#)

[【戻る】](#)

ふくいんしよ
レカによる福音書

けんてい　ことば
献呈の言葉

1

わたしたちの間で実現した事柄について、最初から目撃して御言葉のために働いた人々がわたしたちに伝えたとおりで、物語を書き連ねようと、多くの人々が既に手を着けています。そこで、敬愛するテオフィロさま、わたしもすべての事を初めから詳しく調べていますので、順序正しく書いてあなたに献呈するのがよいと思いました。お受けになった教えが確実なものであることを、よく分かっていたきたいのであります。

せんれいしよ　たんじょう　よこく
洗礼者ヨハネの誕生、予告される

ユダヤの王ヘロデの時代、アビヤ組の祭司にザカリアという人がいた。その妻はアロン家の娘の一人で、名をエリサベトといった。二人とも神の前に正しい人で、主の掟と定めをすべて守り、非のうちどころがなかった。しかし、エリサベトは不妊の女だったので、彼らには、子供がなく、二人とも既に年をとっていた。さて、ザカリアは自分の組が当番で、神の御前で祭司の務めをしていたとき、祭司職のしきたりによってくじを引いたところ、主の聖所に入って香をたくことになった。香をたいている間、大勢の民衆が皆外で祈っていた。すると、主の天使が現れ、香壇の右に立った。ザカリアはそれを見て不安になり、恐怖の念に襲われた。天使は言った。「恐れることはない。ザカリア、あなたの願いは聞き入れられた。あなたの妻エリサベトは男の子を産む。その子をヨハネと名付けなさい。その子はあなたにとって喜びとなり、楽しみとなる。多くの人もその誕生を喜ぶ。彼は主の御前に偉大な人になり、ぶどう酒や強い酒を飲まず、既に母の胎にいるときから聖霊に満たされていて、イスラエルの多くの子らをその神である主のもとに立ち帰らせる。彼はエリヤの霊と力で主に先立つて行き、父の心を子に向けさせ、逆らう者に正しい人の分別を持たせて、準備のできた民を主のために用意する。」そこで、ザカリアは天使に言った。「何によって、わたしはそれを知ることができるのでしょうか。わたしは老人ですし、妻も年をとっています。」天使は答えた。「わたしはガブリエル、神の前に立つ者。あなたに話しかけて、この喜ばしい知らせを伝えるために遣わされたのである。あなたは口が利けなくなり、この事の起こる日まで話すことができなくなる。時が来れば実現するわたしの言葉を信じなかったからである。」

民衆はザカリアを待っていた。そして、彼が聖所で手間取るのを、不思議に思っていた。ザカリアはやつと出て来たけれども、話すことができなかった。そこで、人々は彼が聖所で幻を見たのだと悟った。ザカリアは身振りで示すだけで、口が利けないままだった。やがて、務めの期間が終わって自分の家に帰った。その後、妻エリサベトは身ごもって、五か月の間身を隠していた。そして、こう言った。「主は今こそ、こうして、わたしに目を留め、人々の間からわたしの恥を取り去ってくださいました。」

たんじょう　よこく
イエスの誕生が予告される

六か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。天使は、彼女のところに来て言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。すると、天使は言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。あなたは今身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」マリアは天使に言った。「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしはおとこひとし、聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六か月になっている。神にできないことは何一つない。」マリアは言った。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」そこで、天使は去って行った。

たずねる
マリア、エリサベトを訪ねる

そのころ、マリアは出かけて、急いで山里に向かい、ユダの町に行った。そして、ザカリアの家に入ってエリサベトに挨拶した。マリアの挨拶をエリサベトが聞いたとき、その胎内の子がおどった。エリサベトは聖霊に満たされて、声高らかに言った。「あなたは女の中で祝福された方です。胎内のお子さまも祝福されています。わたしの主のお母さまがわたしのところに来てくださるとは、どういうわけでしょう。あなたの挨拶のお声をわたしが耳にしたとき、胎内の子は喜んでおどりました。主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いです。」

さんか
マリアの賛歌

い
こで、マリアは言った。

たましい　しゆ
わたしの魂は主をあがめ、

れのい　すく　ぬし　かみ　よろこ
しの霊は救い主である神を　喜　びたえます。

ひく　しゅ
の低い、この主のはしためにも

め　と
目を留めてくださったからです。

のち　よ　ひと
から後、いつの世の人も

さいわ　もの　い
わたしを　幸　いな者と言うでしょう、

かた
ある方が、

いだい
わたしに偉大なことをなさいましたから。

み　な　とうと
)御名は　尊　く、

あわ　よ　よ　かぎ
憐れみは代々に限りなく、

おそ　もの　およ
を畏れる者に及びます。

うで　ちから　ふ
)その腕で　力　を振るい、

あ　もの　う　ち
)上がる者を打ち散らし、

よく　もの　ざ　ひ　お
)ある者をその座から引き降ろし、

ん　ひく　もの　たか　あ
)の低い者を高く上げ、

ひと　よ　もの　み
た人を良い物で満たし、

もの　くうふく　お　かえ
)る者を空腹のまま追い返されます。

しもべ　う　い
僕　イスラエルを受け入れて、

わす
れみをお忘れになりません、

せんぞ
したちの先祖におっしゃったとおり、

し　そん　たい
「ラハムとその子孫に対してとこしえに。」

げつ　たいざい　じ　ぶん　いえ　かえ
58 マリアは、三か月ほどエリサベトのところに滞在してから、自分の家に帰った。

せんれいしや　たんじょう
洗礼者ヨハネの誕生

つ き み おとこ こ う きんじょ ひとびと しんるい しゅ おとこ おお いつく き よろこ あ ようかめ こ
77 さて、月が満ちて、エリサベトは 男 の子を産んだ。78 近所の人々や親類は、主がエリサベトを大いに 慈 しまれたと聞いて 喜 び合った。79 八日目に、その子
かつれい ほどこ き ひとびと ちち な と なづ はは な い
に割礼を 施 すために来た人々は、父の名を取ってザカリアと名付けようとした。80 ところが、母は、「いいえ、名はヨハネとしなければなりません」と言っ
ひとびと しんるい な つ ひと い ちちおや こ なん な つ てぶ たず ちち
た。81 しかし人々は、「あなたの親類には、そういう名の付いた人はだれもない」と言い、82 父親に、「この子に何と名を付けたいか」と手振りで尋ねた。83 父
おや じ か いた だ こ な か ひとびと みなおどろ くち ひら した かみ さんび はじ
親は字を書く板を出させて、「この子の名はヨハネ」と書いたので、人々は皆 驚 いた。84 すると、たちまちザカリアは口が開き、舌がほどけ、神を賛美し始め
きんじょ ひとびと みなおそ かん やまざとじゅう わだい き ひとびと みな ところ と こ
た。85 近所の人々は皆恐れを感じた。そして、このことすべてが、ユダヤの山里 中 で話題になった。86 聞いた人々は皆これを 心 に留め、「いったい、この子は
ひと い こ しゅ ちから およ
どんな人になるのだろうか」と言った。この子には主の 力 が及んでいたのである。

よげん
ザカリアの預言

せいれい み よげん
ザカリアは聖霊に満たされ、こう預言した。

かみ しゅ
めたたえよ、イスラエルの神である主を。

たみ おとず かいほう
はその民を 訪 れて解放し、

すく つの
のために救いの角を、

いえ お
ダビデの家から起こされた。

せい よげんしゃ くち とお
から聖なる預言 者たちの口を通して

かた
語られたとおりに。

われ てき
は、我らの敵、

われ にく もの て すく
て我らを憎む者の手からの救い。

われ せんぞ あわ
我らの先祖を憐れみ、

せい けいやく おほ
聖なる契約を覚えていてくださる。

われ ちち た ちか
は我らの父アブラハムに立てられた誓い。

われ
して我らは、

て すく
手から救われ、

しゅ つか
なく主に仕える、

がい しゅ みまえ きよ ただ
涯、主の御前に清く正しく。

ご まえ たか かた よげんしゃ よ
子よ、お前はいと高き方の預言 者と呼ばれる。

さきだ い みち ととの
こ先立つて行き、その道を 整 え、

たみ つみ ゆる すく
'民に罪の赦しによる救いを

し
知らせるからである。

われ かみ あわ ところ
は我らの神の憐れみの 心 による。

あわ
'憐れみによって、

たか ところ ひかり われ おとず
高い 所 からあけぼのの 光 が我らを 訪 れ、

と死の陰に座している者たちを照らし、
われ あゆ へいわ みち みちび
我らの歩みを平和の道に 導 く。」
おさなご み ところ すこ そだ ひとびと まえ あらわ あ の
幼 子は身も 心 も健やかに育ち、イスラエルの人々の前に 現 れるまで荒れ野にいた。

たんじょう
イエスの誕生

(マタ118—25)
2
そのころ、皇帝アウグストゥスから全 領 土の 住 民に、登録をせよとの 勅 令が出た。²これは、キリニウスがシリア 州 の総 督であったときに 行 われた最初
の 住 民登録である。³人々は皆、登録するためにおの自分の町へ旅立った。⁴ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレか
ら、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。⁵身ごもっていた、いいなずけのマリアと一緒に登録するためである。⁶ところが、彼らがベツレヘムに
いるうちに、マリアは月が満ちて、⁷初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。

羊 飼いと天使
⁸その地方で 羊 飼いたちが野 宿 をしながら、夜通し 羊 の群れの番をしていた。⁹すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非 常
に恐れた。¹⁰天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな 喜 びを告げる。」今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれに
なった。この方こそ主メシアである。¹²あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。
」¹³すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。
¹⁴「いと高きところには栄光、神にあれ、
地には平和、御 心 に適う人にあれ。」
¹⁵天使たちが離れて天に去ったとき、 羊 飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合っ
た。¹⁶そして急いで行って、マリアとヨセフ、また飼い葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。¹⁷その光 景を見て、 羊 飼いたちは、この 幼 子について天使が
話してくれたことを人々に知らせた。¹⁸聞いた者は皆、 羊 飼いたちの 話 を不思議に思った。¹⁹しかし、マリアはこれらの出来事をすべて 心 に納めて、思い巡ら
していた。²⁰ 羊 飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。
²¹八日たつて割 礼 の日を迎えたとき、 幼 子はイエスと名付けられた。これは、胎 内 に宿る前に天使から示された名である。

神殿で献げられる
²²さて、モーセの律法に定められた彼らの清めの期間が過ぎたとき、 両 親はその子を主に献げるため、エルサレムに連れて行った。²³それは主の律法に、「初
めて生まれる男子は皆、主のために聖 別 される」と書いてあるからである。²⁴また、主の律法に言われているとおりに、山 鳩 一つがい、家 鳩 の雛二羽をいけに
えとして献げるためであった。
²⁵そのとき、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい人で信仰があつく、イスラエルの 慰 められるのを待ち望み、聖 霊 が彼にとどまってい
た。²⁶そして、主が遣わすメシアに会うまでは決して死なない、とのお告げを聖 霊 から受けていた。²⁷シメオンが「 霊 々に 導 かれて神殿の境内に入って来たと
き、 両 親は、 幼 子のために律法の規定どおりにいけにえを 献 げようとして、イエスを連れて来た。²⁸シメオンは 幼 子を腕に抱き、神をたたえて言った。
²⁹「主よ、今こそあなたは、お言葉どおり

しもべ やす さ
僕 を安らかに去らせてくださいます。

め すく み
しはこの目であなたの救いを見たからです。

ばんみん とのの すく
は万民のために 整 えてくださった救いで、

じん て けいじ ひかり
人を照らす啓示の 光 、

たみ ほま
わたの民イスラエルの誉れです。」
ちち はは おさなご い おどろ かれ しゆくふく ははおや い ごらん こ
33父と母は、 幼 子についてこのように言われたことに 驚 いていた。³⁴シメオンは彼らを 祝 福し、母親のマリアに言った。「御覧なさい。この子は、イスラエル
のおお ひと たお た あ さだ はんたい う さだ じしん つるぎ こころ さ つらぬ
の多くの人を倒したり立ち上がらせたりするために定められ、また、反 対を受けるしるしとして定められています。³⁵—あなた自身も 剣 で 心 を刺し 貫 かれ
ます—多くの人の 心 にある思いがあらわにされるためです。」
ぞく むすめ おんなよげんしや ひじょう とし わか とつ ねんかんおつと とも く おつと
36また、アシェル族のファヌエルの 娘 で、アンナという 女 預言 者がいた。非 常 に年をとっていて、若いとき嫁いってから七年間 夫 と共に暮らしたが、³⁷ 夫
し わか さい かのじょ しんでん はな だんじき いの よる ひる かみ つか ちか き かみ さんび
に死に別れ、八十四歳になっていた。彼女は神殿を離れず、断食したり祈ったりして、夜も昼も神に仕えていたが、³⁸そのとき、近づいて来て神を賛美し、エ
るusalemの救いを待ち望んでいる人々 皆に 幼 子のことを話した。

かえ
ナザレに帰る
おや こ しゅ りつぼう さだ お じぶん まち かえ おさなご そだ ち え み かみ めぐ つつ
39親子は主の律法で定められたことをみな終えたので、自分たちの町であるガリラヤのナザレに帰った。⁴⁰ 幼 子はたくましく 育 ち、知恵に満ち、神の恵みに包
まれていた。

しんでん しょうねん
神殿での 少 年イエス
りょうしん すぎこしさい まいとし たび さい りょうしん まつ かんしゅう したが みやこ のぼ まつ きかん お
41さて、 両 親は過越祭には毎年エルサレムへ旅をした。⁴²イエスが十二歳になったときも、 両 親は祭りの慣 習 に 従 って 都 に上った。⁴³祭りの期間が終
きろ しょうねん のこ りょうしん き みちづ なか おも にちぶん みち
わって帰路についたとき、 少 年イエスはエルサレムに残っておられたが、 両 親はそれに気づかなかった。⁴⁴イエスが道連れの中にいるものと思い、一日分の道
い しんるい ちじん あいだ さが まわ み さが ひ かえ みつか のち しんでん
のりを行ってしまい、それから、親類や知人の 間 を 捜し 回ったが、⁴⁵見つからなかったので、捜しながらエルサレムに引き返した。⁴⁶三日の後、イエスが神 殿の
けいだい がくしゃ ま なか すわ はなし き しつもん み き ひと みな かしこ う こた おどろ りょうしん
境内で学者たちの真ん中に座り、 話 を聞いたり質問したりしておられるのを見つけた。⁴⁷聞いている人は皆、イエスの 賢 い受け答えに 驚 いていた。⁴⁸ 両 親
み おどろ はは い ごらん とう しんばい さが い
はイエスを見て 驚 き、母が言った。「なぜこんなことをしてくれたのです。御覧なさい。お父さんもわたしも心配して捜していたのです。」⁴⁹すると、イエスは言
われた。「どうしてわたしを捜したのですか。わたしが自分の父の家にいるのは当たり前だということを、知らなかったのですか。」⁵⁰しかし、 両 親にはイエスの
ことば い み わ いっしょ くだ い かえ りょうしん つか く はは こころ おさ
言葉の意味が分からなかった。⁵¹それから、イエスは一 緒に下って行き、ナザレに帰り、 両 親に仕えてお暮らしになった。母はこれらのことをすべて 心 に納め
ていた。⁵²イエスは知恵が増し、背丈も伸び、神と人ともに愛された。

せんらいしや おし の
洗礼者ヨハネ、教えを宣べる

(マタ3 1—12、マコ1 1—8、ヨハ1 19—28)

3
こうてい ちせい だい ねん そうとく りょうしゅ きょうだい ちほう りょうしゅ
'皇 帝ティベリウスの治世の第十五年、ポンティオ・ピラトがユダヤの総 督 、ヘロデがガリラヤの 領 主、その 兄 弟フィリボがイトラヤとトラコン地方の 領 主
りょうしゅ だいさいし かみ ことば あ の こ くだ がわ
、リサニアがアビレネの 領 主、²アンナスとカイアファが大 祭司であつたとき、神の言葉が荒れ野でザカリヤの子ヨハネに降った。³そこで、ヨハネはヨルダン川
ぞ ちほういつたい い つみ ゆる え く あらた 〔バプテスマ〕 の つた よげんしや しょ か
沿いの地方一 帯に行って、罪の赦しを得させるために悔い 改 めの 洗礼 を宣べ伝えた。⁴これは、預言 者イザヤの書に書いてあるとおりである。

の さけ もの こえ
荒野で叫ぶ者の声がする。

ゆ みち とのの
Eの道を 整 え、

みちすじ
)道筋をまっすぐにせよ。

う
すべて埋められ、

おか ひく
と丘はみな低くされる。

みち
つた道はまっすぐに、

みち たい
ぼこの道は平らになり、

みな かみ すく あお み
皆、神の救いを仰ぎ見る。』」

〔バプテスマ〕 さず
そこでヨハネは、 洗礼 を授けてもらおうとして出て来た群 衆 に言った。「 蝮 の子らよ、差し 迫った神の怒りを 免 れると、だれが教えたのか。悔い 改
め にふさわしい実を結 べ。『我々の父はアブラハムだ』などという 考 えを起こすな。言っておくが、神はこんな石ころからでも、アブラハムの子たちを造り出す
ことがおできになる。斧は既に木の根元に置かれている。良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれる。』¹⁰そこで群 衆 は、「では、わたしたちは
どうすればよいのですか」¹¹と尋ねた。「ヨハネは、「下着を二枚持っている者は、一枚も持たない者に分けてやれ。食べ物を持っている者も同じようにせよ」と答
えた。¹²徴 税 人 も 洗礼 を受けるために来て、「先生、わたしたちはどうすればよいのですか」と言った。¹³ヨハネは、「規定以 上 のものは取り立てるな」と
言った。へいし も、「このわたしたちはどうすればよいのですか」と尋ねた。ヨハネは、「だれからも金をゆすり取ったり、だまし取ったりするな。自分の 給 料
で満足せよ」と言った。

みなしゆう ま のぞ
¹⁵民 衆 はメシアを待ち望んでいて、ヨハネについて、もしかしたら彼がメシアではないかと、皆 心 の中で 考 えていた。¹⁶そこで、ヨハネは皆に向かって言っ
た。「わたしはあなたたちに水で 洗礼 を授けるが、わたしよりも優れた方が来られる。わたしは、その方の履物のひもを解く値打ちもない。その方は、聖 霊
と火であなたたちに 洗礼 をお授けになる。¹⁷そして、手に箕を持って、脱 穀場を隅々まできれいにし、麦を集めて倉に入れ、穀を消えることのない火で焼き
払われる。』」¹⁸ヨハネは、ほかにもさまざまな勧めをして、民 衆 に福音を告げ知らせた。¹⁹ところで、領 主ヘロデは、自分の 兄 弟の妻ヘロディアとのことにつ
いて、また、自分の 行 ったあらゆる悪事について、ヨハネに責められたので、²⁰ヨハネを牢に閉じ込めた。こうしてヘロデは、それまでの悪事にもう一つの悪事を
くわ 加えた。

〔バプテスマ〕 う
イエス、 洗礼 を受ける

（マタ3**13—17**、マコ1**9—11**）

みなしゆう みな〔バプテスマ〕 う
²¹民 衆 が皆 洗礼 を受け、イエスも 洗礼 を受けて祈っておられると、天が開け、²²聖 霊が鳩のように目に見える 姿 でイエスの上に降って来た。する
と、「あなたはわたしの愛する子、わたしの 心 に 適う者」という声が、天から聞こえた。

けいず
イエスの系図

（マタ**11—17**）

せんきょう はじ
²³イエスが宣 教 を始められたときはおよそ三十歳であった。イエスはヨセフの子と思われていた。ヨセフはエリの子、それからさかのぼると、²⁴マタト、レビ、メ
ルキ、ヤナイ、ヨセフ、²⁵マタティア、アモス、ナウム、エスリ、ナガイ、²⁶マハト、マタティア、セメイン、ヨセク、ヨダ、²⁷ヨハナン、レサ、ゼルバベル、シャル
ティエル、ネリ、²⁸メルキ、アディ、コサム、エルマダム、エル、²⁹ヨシュア、エリエゼル、ヨリム、マタト、レビ、³⁰シメオン、ユダ、ヨセフ、ヨナム、エリアキ
ム、³¹メレア、メンナ、マタタ、ナタン、ダビデ、³²エッサイ、オベド、ボアズ、サラ、ナフション、³³アミナダブ、アドミン、アルニ、ヘツロン、ベレツ、ユダ、³⁴ヤコ
ブ、イサク、アブラハム、テラ、ナホル、³⁵セルグ、レウ、ベレグ、エベル、シェラ、³⁶カイナム、アルバクシャド、セム、ノア、レメク、³⁷メトシェラ、エノク、イエ
レド、マハラルエル、ケナン、³⁸エノシュ、セト、アダム。そして神に至る。

ゆうわく う
誘惑を受ける

（マタ4**1—11**、マコ1**12—13**）

4

さて、イエスは聖 霊に満ちて、ヨルダン川からお帰りになった。そして、荒野の中を“霊”によって引き回され、⁴⁰四十日間、悪魔から誘 惑を受けられた。そ
の 間、何も食わず、その期間が終わると空腹を覚えられた。⁹そこで、悪魔はイエスに言った。「神の子なら、この石にパンになるように命じたらどうだ。」¹⁰イ
エスは、「『人はパンだけで生きるものではない』と書いてある」とお答えになった。¹¹更に、悪魔はイエスを高く引き上げ、一 瞬 のうちに世界のすべての国々
を見せた。¹²そして悪魔は言った。「この国々の一切の権 力 と繁栄とを与えよう。それはわたしに任ざれていて、これと思う人に与えることができるから
だ。¹³だから、もしわたしを拝むなら、みんなあなたのものになる。」¹⁴イエスはお答えになった。

かみ しゅ おが
『あなたの神である主を拝み、

しゅ つか
主に仕えよ』

と書いてある。」⁹そこで、悪魔はイエスをエルサレムに連れて行き、神 殿の屋根の端に立たせて言った。「神の子なら、ここから飛び降りたらどうだ。」¹⁰というのは、こう書いてあるからだ。

主はあなたのために天使たちに命じて、

あなたをしっかりと守らせる。』

、

あなたの足が石に打ち当たることのないように、

使たちは手であなたを支える。』」

¹²イエスは、「『あなたの神である主を試してはならない』と言われている」とお答えになった。¹³悪魔はあらゆる誘惑を終えて、時が来るまでイエスを離れた。

ガリラヤで伝道を始める

(マタ4 12—17、マコ1 14—15)

¹⁴イエスは“霊”の力に満ちてガリラヤに帰られた。その評判が周りの地方一帯に広まった。¹⁵イエスは諸会堂で教え、皆から尊敬を受けられた。

ナザレで受け入れられない

(マタ13 53—58、マコ6 1—6)

¹⁶イエスはお育ちになったナザレに来て、いつものとおり安息日に会堂に入り、聖書を朗読しようとしてお立ちになった。¹⁷預言者イザヤの巻物が渡され、お開きになると、次のように書いてある個所が目にとまった。

の霊がわたしの上におられる。

人に福音を告げ知らせるために、

がわたしに油を注がれたからである。

がわたしを遣わされたのは、

ゝわれている人に解放を、

が見えない人に視力の回復を告げ、

自されている人を自由にし、

恵みの年を告げるためである。」

²⁰イエスは巻物を巻き、係の者に返して席に座られた。会堂にいるすべての人の目がイエスに注がれていた。²¹そこでイエスは、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と話し始められた。²²皆はイエスをほめ、その口から出る恵み深い言葉に驚いて言った。「この人はヨセフの子ではないか。」²³イエスは言われた。「きつと、あなたがたは、『医者よ、自分自身を治せ』ということわざを引いて、『カファルナウムでいろいろなことをしたと聞いたが、郷里のここでもしてくれ』と言うにちがいない。」²⁴そして、言われた。「はつきり言っておく。預言者は、自分の故郷では歓迎されないものだ。²⁵確かに言っておく。エリヤの時代に三年六か月の間、雨が降らず、その地方一帯に大飢饉が起こったとき、イスラエルには多くのやもめがいたが、²⁶エリヤはその中のだれのもとにも遣わされないで、シドン地方のサレプタのやもめのもとにだけ遣わされた。²⁷また、預言者エリシャの時代に、イスラエルには重い皮膚病を患っ

ひと おお じん きよ き かいどうない ひとびと みなふんがい そうだ まち そと
ている人が多くいたが、シリア人ナアマンのほかはだれも清くされなかった。」²⁸これを聞いた会堂内の人々は皆憤慨し、²⁹総立ちになって、イエスを町の外へ
おだまちた やまがけ つ い つ お ひとびと あいだ とおぬ た さ
追い出し、町が建っている山の崖まで連れて行き、突き落とそうとした。³⁰しかし、イエスは人々の間を通り抜けて立ち去られた。

けが れい と おとこ
汚れた霊に取りつかれた男をいやす

(マコ121—28)
³¹イエスはガリラヤの町カファルナウムに下って、安息日には人々を教えておられた。³²人々はその教えに非常に驚いた。その言葉には權威があったからで
ある。³³ところが会堂に、汚れた悪霊に取りつかれた男がいて、大声で叫んだ。³⁴「ああ、ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正
体は分かっている。神の聖者だ。」³⁵イエスが、「黙れ。この人から出て行け」とお叱りになると、悪霊はその男を人々の中に投げ倒し、何の傷も負わせずに
出て行った。³⁶人々は皆驚いて、互いに言った。「この言葉はいったい何だろう。權威と力とをもって汚れた霊に命じると、出て行くとは。」³⁷こうして、イ
エスのうわさは、辺り一帯に広まった。

おお びょうにん
多くの病人をいやす

(マタ814—17、マコ129—34)
³⁸イエスは会堂を立ち去り、シモンの家にお入りになった。シモンのしゅうとめが高い熱に苦しんでいたので、人々は彼女のことをイエスに頼んだ。³⁹イエスが
まくら た ねつ しか ねつ さ かのじょ お あ いちどう ひ く びょうき くる もの かか ひと
枕もとに立って熱を叱りつけられると、熱は去り、彼女はすぐに起き上がって一同をもてなした。⁴⁰日が暮れると、いろいろな病気で苦しむ者を抱えている人
が皆、病人たちをイエスのもとに連れて来た。イエスはその一人一人に手を置いていやされた。⁴¹悪霊もわめき立て、「お前は神の子だ」と言いながら、多くの
ひとびと で い あくれい いまし い ゆる あくれい し
人々から出て行った。イエスは悪霊を戒めて、ものを言うことをお許しにならなかった。悪霊は、イエスをメシアだと知っていたからである。

じゅんがい せんきよう
巡回して宣教する

(マコ135—39)
⁴²朝になると、イエスは人里離れた所へ出て行かれた。群衆はイエスを捜し回ってそのそばまで来ると、自分たちから離れて行かないようにと、しきりに引
き止めた。⁴³しかし、イエスは言われた。「ほかの町にも神の国の福音を告げ知らせなければならない。わたしはそのために遣わされたのだ。」⁴⁴そして、ユダヤの
しょかいどう い せんきよう
諸会堂に行つて宣教された。

りょうし でし
漁師を弟子にする

(マタ418—22、マコ116—20)

5

1 イエスがゲネサレト湖畔に立つておられると、神の言葉を聞こうとして、群衆がその周りに押し寄せて来た。²イエスは、二そうの舟が岸にあるのを御覧になつ
た。漁師たちは、舟から上がって網を洗っていた。³そこでイエスは、そのうちの一そうであるシモンの持ち舟に乗り、岸から少し漕ぎ出すようにお頼みになつ
た。そして、腰を下ろして舟から群衆に教え始められた。⁴話し終わつたとき、シモンに、「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をなさい」と言われた。⁵シモン
は、「先生、わたしたちは、夜通し苦労しましたが、何もとれませんでした。しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」と答えた。⁶そして、漁師たち
がそのとおりにすると、おびたしい魚がかり、網が破れそうになった。⁷そこで、もう一そうの舟にいる仲間に合図して、来て手を貸してくれるように頼ん
だ。彼らは来て、二そうの舟を魚でいっぱいにしたので、舟は沈みそうになった。⁸これを見たシモン・ペトロは、イエスの足もとにひれ伏して、「主よ、わたし
から離れてください。わたしは罪深い者なのです」と言った。⁹とれた魚にシモンも一緒にいた者も皆驚いたからである。¹⁰シモンの仲間、ゼバダイの子のヤコ
ブもヨハネも同様だった。すると、イエスはシモンに言われた。「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。」¹¹そこで、彼らは舟を陸に
引き上げ、すべてを捨ててイエスに従った。

おも ひ ふびょう わずら ひと
重い皮膚病を患っている人をいやす

(マタ81—4、マコ140—45)

¹²イエスがある町におられたとき、そこに、全身重い皮膚病にかかった人がいた。この人はイエスを見てひれ伏し、「主よ、御心ならば、わたしを清くする
ことがおできになります」と願つた。¹³イエスが手を差し伸べてその人に触れ、「よろしい。清くなれ」と言われると、たちまち重い皮膚病は去つた。¹⁴イエスは厳
しくお命じになった。「だれにも話してはいけない。ただ、行つて祭司に体を見せ、モーセが定めたとおりに清めの献げ物をし、人々に証明しなさい。」¹⁵し
かし、イエスのうわさはますます広まつたので、大勢の群衆が、教えを聞いたり病気をいやしていただいたりするために、集まつて来た。¹⁶だが、イエスは人
ざとはな ところ しりぞ いの
里離れた所に退いて祈つておられた。

ちゅうぶ ひと
中風の人をいやす

(マタ9 1―8、マコ2 1―12)

ある日のこと、イエスが教えておられると、ファリサイ派の人々と律法の教師たちがそこに座っていた。この人々は、ガリラヤとユダヤのすべての村、そしてエルサレムから来たのである。主の力が働いて、イエスは病気をいやしておられた。¹⁸すると、男たちが中風を患っている人を床に乗せて運んで来て、家の中に入れてイエスの前に置こうとした。¹⁹しかし、群衆に阻まれて、運び込む方法が見つからなかったので、屋根に上って瓦をはがし、人々の真ん中のイエスの前に、病人を床ごとつり降ろした。²⁰イエスはその人たちの信仰を見て、「人よ、あなたの罪は赦された」と言われた。²¹ところが、律法学者たちやファリサイ派の人々はあれこれと考え始めた。「神を冒瀆するこの男は何者だ。ただ神のほかには、いったいだれが、罪を赦すことができるだろうか。」²²イエスは、彼らの考えを知って、お答えになった。「何を心の中で考えているのか。²³『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて歩け』と言うのと、どちらが易しいか。²⁴人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを知らせよう。」そして、中風の人に、「わたしはあなたに言う。起き上がり、床を担いで家に帰りなさい」と言われた。²⁵その人はすぐさま皆の前で立ち上がり、寝ていた台を取り上げ、神を賛美しながら家に帰って行った。²⁶人々は皆大変驚き、神を賛美し始めた。そして、恐れに打たれて、「今日、驚くべきことを見た」と言った。

レビを弟子にする

(マタ9 9―13、マコ2 13―17)

その後、イエスは出て行って、レビという徴税人が収税所に座っているのを見て、「わたしに従いなさい」と言われた。²⁸彼は何もかも捨てて立ち上がり、イエスに従った。²⁹そして、自分の家でイエスのために盛大な宴会を催した。そこには徴税人やほかの人々が大勢いて、一緒に席に着いていた。³⁰ファリサイ派の人々やその派の律法学者たちはつぶやいて、イエスの弟子たちに言った。「なぜ、あなたたちは、徴税人や罪人などと一緒に飲んだり食べたりするのか。」³¹イエスはお答えになった。「医者が必要とするのは、健康な人ではなく病人である。³²わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである。」

断食についての問答

(マタ9 14―17、マコ2 18―22)

ひとびとの
人々はイエスに言った。「ヨハネの弟子たちは度々断食し、祈りをし、ファリサイ派の弟子たちも同じようにしています。しかし、あなたの弟子たちは飲んだり食べたりしています。」³⁴そこで、イエスは言われた。「花婿と一緒にいるのに、婚礼の客に断食させることがあなたがたにできようか。³⁵しかし、花婿が奪い取られる時が来る。その時には、彼らは断食することになる。」³⁶そして、イエスはたとえを話された。「だれも、新しい服から布切れを破り取って、古い服に継ぎを当てたりはしない。そんなことをすれば、新しい服も破れるし、新しい服から取った継ぎ切れも古いものには合わないだろう。³⁷また、だれも、新しいぶどう酒を古い革袋に入れたりはしない。そんなことをすれば、新しいぶどう酒は革袋を破って流れ出し、革袋もだめになる。³⁸新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れねばならない。³⁹また、古いぶどう酒を飲めば、だれも新しいものを欲しがらない。『古いものの方がよい』と言うのである。」

あんそくび　むぎ　ほ　つ
安息日に麦の穂を摘む

(マタ1211—8、マコ223—28)

6

あんそくび　むぎばたけ　とお　い　でし　むぎ　ほ　つ　て　た　は　ひとびと　あんそくび
ある安息日に、イエスが麦畑を通して行かれると、弟子たちは麦の穂を摘み、手でもんで食べた。²ファリサイ派のある人々が、「なぜ、安息日にしてはならないことを、あなたたちはするのか」と言った。³イエスはお答えになった。「ダビデが自分も供の者たちも空腹だったときに何をしたか、読んだことがないのか。⁴神の家に入り、ただ祭司のほかにはだれも食べてはならない供えのパンを取って食べ、供の者たちにも与えたではないか。」⁵そして、彼らに言われた。「人の子は安息日の主である。」

て　な　ひと
手の萎えた人をいやす

(マタ129—14、マコ31—6)

あんそくび　かいどう　はい　おし　ひとり　ひと　みぎて　な　りつぼうがくしゃ　は　ひとびと
⁶また、ほかの安息日に、イエスは会堂に入って教えておられた。そこに一人の人がいて、その右手が萎えていた。⁷律法学者たちやファリサイ派の人々は、うったこうじつ　み　あんそくび　びょうき　ちゅうもく　かれ　かなが　みぬ　て　な　ひと　た
訴える口実を見つけようとして、イエスが安息日に病気をいやされるかどうか、注目していた。⁸イエスは彼らの考えを見抜いて、手の萎えた人に、「立て、真ん中に出なさい」と言われた。その人は身を起こして立った。⁹そこで、イエスは言われた。「あなたたちに尋ねたい。安息日に律法で許されているのは、ぜん　おこな　あく　おこな　いのち　すく　ほろ　かれ　いちどう　みまわ　ひと　て　の　い　い
善を行ふことか、悪を行ふことか。命を救うことか、滅ぼすことか。」¹⁰そして、彼ら一同を見回して、その人に、「手を伸ばしなさい」と言われた。言われたようにすると、手は元どおりになった。¹¹ところが、彼らは怒り狂って、イエスを何とかしようと話し合った。

にん　えら
十二人を選ぶ

(マタ101—4、マコ313—19)

いの　やま　い　かみ　いの　よ　あ　あさ　でし　よ　あつ　なか　にん　えら　し　と　なづ
¹²そのころ、イエスは祈るために山に行き、神に祈って夜を明かされた。¹³朝になると弟子たちを呼び集め、その中から十二人を選んで使徒と名付けられた。¹⁴それは、イエスがペトロと名付けられたシモン、その兄弟アンデレ、そして、ヤコブ、ヨハネ、フィリポ、バルトロマイ、¹⁵マタイ、トマス、アルファイの子ヤコブ、ねっしんとう　よ　こ　のち　うらぎ　もの
熱心党と呼ばれたシモン、¹⁶ヤコブの子ユダ、それに後に裏切り者となったイスカリオテのユダである。

びょうにん
おびただしい病人をいやす

(マタ423—25)

かれ　いつしょ　やま　お　たい　ところ　た　おおぜい　でし　みんしゅう　ぜん　ど
¹⁷イエスは彼らと一緒に山から下りて、平らな所にお立ちになった。大勢の弟子とおびただしい民衆が、ユダヤ全土とエルサレムから、また、ティルスやシドンの海岸地方から、¹⁸イエスの教えを聞くため、また病気をいやしていただくために来ていた。汚れた霊に悩まされていた人々もいやしていただいた。¹⁹群衆は皆、何とかしてイエスに触れようとした。イエスから力が出て、すべての人の病気をいやしていたからである。

さいわ　ふこう
幸いと不幸

(マタ51—12)

²⁰さて、イエスは目を上げ弟子たちを見て言われた。

ず　ひとびと　さいわ
喜しい人々は、幸いである、

くに
り国はあなたがたのものである。

ひとびと　さいわ
えている人々は、幸いである、

あなたがたは満たされる。

立っている人々は、幸いである、

あなたがたは笑うようになる。

22 人々に憎まれるとき、また、人の子のために追い出され、ののしられ、汚名を着せられるとき、あなたがたは幸いである。23 その日には、喜び踊りなさい。天には大きな報いがある。この人々の先祖も、預言者たちに同じことをしたのである。

し、富んでいるあなたがたは、不幸である、

あなたがたはもう慰めを受けている。

し腹している人々、あなたがたは、不幸である、

あなたがたは飢えるようになる。

笑っている人々は、不幸である、

あなたがたは悲しみ泣くようになる。

26 すべての人にほめられるとき、あなたがたは不幸である。この人々の先祖も、偽預言者たちに同じことをしたのである。」

敵を愛しなさい

(マタ5:38—48・7:12a)

27 「しかし、わたしの言葉を聞いているあなたがたに言っておく。敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にせよ。28 悪口を言う者に祝福を祈り、あなたがたを侮辱する者のために祈りなさい。29 あなたの頬を打つ者には、もう一方の頬をも向けなさい。上着を奪い取る者には、下着をも拒んではならない。30 求める者には、だれにでも与えなさい。あなたの持ち物を奪う者から取り返そうとしてはならない。31 人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。32 自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな恵みがあろうか。罪人でも、愛してくれる人を愛している。33 また、自分によくしてくれる人に善いことをしたところで、どんな恵みがあろうか。罪人でも同じことをしている。34 返してもらうことを当てにして貸したところで、どんな恵みがあろうか。罪人さえ、同じものを返してもらおうとして、罪人に貸すのである。35 しかし、あなたがたは敵を愛しなさい。人に善いことをし、何も当てにしないで貸しなさい。そうすれば、たくさんの報いがあり、いと高き方の子となる。いと高き方は、恩を知らない者にも悪人にも、情け深いからである。36 あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。」

人を裁くな

(マタ7:1—5)

37 「人を裁くな。そうすれば、あなたがたも裁かれることがない。人を罪人だと決めるな。そうすれば、あなたがたも罪人だと決められることがない。赦しなさい。そうすれば、あなたがたも赦される。38 与えなさい。そうすれば、あなたがたにも与えられる。押し入れ、揺すり入れ、あふれるほどに量りをよくして、ふところに入れてもらえる。あなたがたは自分の量り秤で量り返されるからである。」39 イエスはまた、たとえを話された。「盲人が盲人の道案内をすることができようか。二人とも穴に落ち込みはしないか。40 弟子は師にまさるものではない。しかし、だれでも、十分に修行を積めば、その師のようになれる。41 あなたは、兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか。42 自分の目にある丸太を見ないで、兄弟に向かって、『さあ、あなたの目にあるおが屑を取らせてください』と、どうして言えるだろうか。偽善者よ、まず自分の目から丸太を取り除け。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目にあるおが屑を取り除くことができる。」

実によって木を知る

(マタ7:16—20・12:34b—35)

43 「悪い実を結ぶ良い木はなく、また、良い実を結ぶ悪い木はない。44 木は、それぞれ、その結ぶ実によって分かる。茨からいちじくは採れないし、野ばらからぶ

どうは集められない。⁴⁶善い人は良いものを入れた 心 の倉から良いものを出し、悪い人は悪いものを入れた倉から悪いものを出す。人の口は、 心 からあふれ出ることを語るのである。」

いえ どだい
家と土台

(マタ724—27)

⁴⁶「わたしを『主よ、主よ』と呼びながら、なぜわたしの言うことを 行 わないのか。⁴⁷わたしのものに来て、わたしの言葉を聞き、それを 行 う人が皆、どんな人に似ているかを示そう。⁴⁸それは、地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を置いて家を建てた人に似ている。洪水になって川の水がその家に押し寄せたが、しっかり建ててあったので、揺り動かすことができなかった。⁴⁹しかし、聞いても 行 わない者は、土台なしで地面に家を建てた人に似ている。川の水が押し寄せると、家はたちまち倒れ、その壊れ方がひどかった。」

ひやくにんたいちょう しもべ
百人隊長の僕をいやす

(マタ85—13、ヨハ443—54)

7

¹イエスは、民 衆 にこれらの言葉をすべて話し終えてから、カファルナウムに入られた。²ところで、ある 百 人隊 長 に重んじられている部下が、病 気で死にかかっていた。³イエスのことを聞いた 百 人隊 長 は、ユダヤ人の 長 老たちを使いによつて、部下を助けに来てくださるように頼んだ。⁴長 老たちはイエスのもとに来て、熱 心に願った。「あの方は、そうしていただくのにふさわしい人です。⁵わたしたちユダヤ人を愛して、自 ら会堂を建ててくれたのです。」⁶そこで、イエスは一緒に出かけられた。ところが、その家からほど遠からぬ 所 まで来たとき、百 人隊 長 は友達を使いによつて言わせた。「主よ、御足労には及びません。わたしはあなたを自分の屋根の下にお迎えできるような者ではありません。⁷ですから、わたしの方からお 伺 いするのさえふさわしくないと思いました。ひと言おっしゃってください。そして、わたしの 僕 をいやしてください。⁸わたしも権威の下に置かれている者ですが、わたしの下には兵隊がおり、一人に『行け』といえれば行きますし、他の一人に『来い』と言えば来ます。また部下に『これをしろ』と言えば、そのとおりにします。」⁹イエスはこれを聞いて感心し、従 っていた 群 衆 の方を振り向いて言われた。「言っておくが、イスラエルの中でさえ、わたしはこれほどの信仰を見たことがない。」¹⁰使いに行つた人たちが家に帰つてみると、その部下は元気になっていた。

むすこ い かえ
やもめの息子を生き返らせる

¹¹それから間もなく、イエスはナインという町に行かれた。弟子たちや大勢の群 衆 も一緒にあつた。¹²イエスが町の門に近づかれると、ちょうど、ある母親の一人息子が死んで、棺が担ぎ出されるところだった。その母親はやもめであつて、町の人が大勢そばに付き添っていた。¹³主はこの母親を見て、憐れに思い、「もう泣かなくともよい」と言われた。¹⁴そして、近づいて棺に手を触れられると、担いでいる人たちは立ち止まった。イエスは、「若 者よ、あなたに言う。起きなさい」と言われた。¹⁵すると、死人は起き上がつてものを言い始めた。イエスは息子をその母親にお返しになった。¹⁶人々は皆恐れを抱き、神を賛美して、「大預言者が我々の 間 に 現 れた」と言い、また、「神はその民を 心 にかけてくださった」と言つた。¹⁷イエスについてのこの 話 は、ユダヤの全土と周りの地方一帯に広まつた。

せんれいしや
洗礼者ヨハネとイエス

(マタ112—19)

¹⁸ヨハネの弟子たちが、これらすべてのことについてヨハネに知らせた。そこで、ヨハネは弟子の中から二人を呼んで、¹⁹主のもとに送り、こう言わせた。「来るべき方は、あなたでしょうか。それとも、ほかの方を待たなければなりませんか。」²⁰二人はイエスのもとに来て言つた。「わたしたちは洗礼 者ヨハネからの使いの者ですが、『来るべき方は、あなたでしょうか。それとも、ほかの方を待たなければなりませんか』とお尋ねするようにとのことです。」²¹そのとき、イエスは病 気や苦しみや悪霊に悩んでいる多くの人々をいやし、大勢の盲人を見えるようにしておられた。²²それで、二人にこうお答えになった。「行つて、見聞きしたことをヨハネに伝えなさい。目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚 病 を 患 っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。²³わたしにつまずかない人は 幸 いである。」²⁴ヨハネの使いが去つてから、イエスは群 衆 に向かってヨハネについて話し始められた。「あなたがたは何を見に荒れ野へ行つたのか。風にそよぐ 葦 か。²⁵では、何を見に行つたのか。しなやかな服を着た人か。華やかな 衣 を 着て、ぜいたくに暮らす人なら 宮 殿にいる。²⁶では、何を見に行つたのか。預言 者か。そうだ、言っておく。預言 者以上 の者である。

さき ししや つか
よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、

またの前に道を 準 備させよう』

と書いてあるのは、この人のことだ。²⁸言っておくが、およそ 女 から生まれた者のうち、ヨハネより偉大な者はいない。しかし、神の国で 最 も小さな者でも、彼よりは偉大である。」²⁹民 衆 は皆ヨハネの教えを聞き、徴 税 人さえもその 洗礼 を受け、神の正しさを認めた。³⁰しかし、ファリサイ派の人々や律法の

せんもん か かれ 〔バプテスマ〕 う しぶん たい かみ みこころ こぼ
専門家たちは、彼から 洗礼 を受けないで、自分に対する神の御 心 を拒んだ。
³¹「では、今の時代の人たちは何にたとえたらよいか。彼らは何に似ているか。³²広場に座って、互いに呼びかけ、こう言っている子供たちに似ている。

え ふ
旨を吹いたのに、

つてくれなかった。

き うた
武の歌をうたったのに、

いてくれなかった。』
³³洗 礼 者 ヨハネが来て、パンも食べずぶどう酒も飲まずにいと、あなたがたは、『あれは悪霊に取りつかれている』と言い、³⁴人の子が来て、飲み食いすると、『
み たいしよくかん おおぎけの ちょうぜいにん つみびと なか ま い ち え ただ したが ひと しょうめい
見ろ、大 食 漢 で大酒飲みだ。 徴 税 人や罪人の仲間だ』と言う。³⁵しかし、知恵の正しさは、それに 従 うすべての人によって 証 明される。」

つみだか おんな ゆる
罪深い女を赦す

³⁶さて、あるファリサイ派の人が、一緒に 食 事をしてほしいと願ったので、イエスはその家に入って 食 事の席に着かれた。³⁷この町に一人の罪深い女 がい
た。イエスがファリサイ派の人の家に入って 食 事の席に着いておられるのを知り、香油の入った石 膏の壺を持って来て、³⁸後ろからイエスの足もとに近寄り、
な あし なみだ はじ じぶん かみ け あし せつぶん こうゆ ぬ しょうたい は ひと み
泣きながらその足を 涙 でぬらし始め、自分の髪の毛でぬぐい、イエスの足に接吻して香油を塗った。³⁹イエスを 招 待したファリサイ派の人はこれを見て、「こ
ひと よげんしゃ じぶん ふ おんな ひと わ つみぶか おんな おも ひと む
の人がもし預言者なら、自分に触れている 女 がだれで、どんな人か分かるはずだ。罪深い 女 なのに」と思った。⁴⁰そこで、イエスがその人に向かって、「シモ
ン、あなたに言いたいことがある」と言われると、シモンは、「先生、おっしゃってください」と言った。⁴¹イエスはお話しになった。「ある金貸しから、二人の人
かね か ひとり ひとり ふたり かね かねか りょうほう しゃつきん ちょうけ
が金を借りていた。一人は五百デナリオン、もう一人は五十デナリオンである。⁴²二人には返す金がなかったので、金貸しは 両 方の 借 金を 帳 消しにしてやつ
た。二人のうち、どちらが多くその金貸しを愛するだろうか。」⁴³シモンは、「帳 消しにしてもらった額の多い方だと思います」と答えた。イエスは、「そのと
おりだ」と言われた。⁴⁴そして、女の方を振り向いて、シモンに言われた。「この人を見ないか。わたしがあなたの家に入ったとき、あなたは足を洗う水もくれな
ひと なみだ あし かみ け せつぶん あいさつ ひと はい き
かったが、この人は 涙 でわたしの足をぬらし、髪の毛でぬぐってくれた。⁴⁵あなたはわたしに接吻の挨拶もしなかったが、この人はわたしが入って来てから、わ
あし せつぶん あたま ゆ ぬ ひと あし こうゆ ぬ い ひと おお
たしの足に接吻してやまなかった。⁴⁶あなたは 頭 にオリーブ油を塗ってくれなかったが、この人は足に香油を塗ってくれた。⁴⁷だから、言うておく。この人が多く
つみ ゆる しめ あい おお わ ゆる すく もの あい すく おんな つみ
の罪を赦されたことは、わたしに示した愛の大きさで分かる。赦されることの少ない者は、愛することも少ない。」⁴⁸そして、イエスは 女 に、「あなたの罪は
ゆる い どうせき ひと つみ ゆる ひと なにもの かんが はじ おんな しんこう すく
赦された」と言われた。⁴⁹同席の人たちは、「罪まで赦すこの人は、いったい何者だろう」と 考 え始めた。⁵⁰イエスは 女 に、「あなたの信仰があなたを救つ
あんしん い い
た。安心して行きなさい」と言われた。

ふじん ほうし
婦人たち、奉仕する

8
のち かみ くに の つた ふくいん つ し まち むら めぐ たび つづ にん いっしょ あくれい お だ びょうき
すぐその後、イエスは神の国を宣べ伝え、その福音を告げ知らせながら、町や村を巡って旅を続けられた。十二人も一緒だった。²悪霊を追い出して 病 気を
なんにん ふじん あくれい お だ おんな よ かれい つま
いやしていただいた何人かの婦人たち、すなわち、七つの悪霊を追い出していただいたマグダラの 女 と呼ばれるマリヤ、³ヘロデの家令クザの妻ヨハナ、それにス
おお ふじん いっしょ かのじょ じぶん も もの だ あ いっこう ほうし
サンナ、そのほか多くの婦人たちも一緒であった。彼女たちは、自分の持ち物を出し合って、一行に奉仕していた。

たね ま ひと
「種を蒔く人」のたとえ

（マタ131—9、マコ41—9）
おおぜい ぐんしゆう あつ ほうほう まち ひとびと き もち はな たね ま ひと たねま で い ま
⁴大 勢の群 衆 が集まり、方々の町から人々がそばに來たので、イエスはたとえを用いてお話しになった。⁵「種を蒔く人が種蒔きに出て行つた。蒔いている
あいた たね みちばた お ひと ふ そら とり た たね いしじ お め で みすけ か たね
間 に、ある種は道端に落ち、人に踏みつけられ、空の鳥が食べてしまった。⁶ほかの種は石地に落ち、芽は出たが、水気がないので枯れてしまった。⁷ほかの種は
いばら なか お いばら いっしょ の お たね よ とち お は で ばい み むす はな
茨 の中に落ち、茨 も一緒に伸びて、押しつぶさってしまった。⁸また、ほかの種は良い土地に落ち、生え出て、百倍の実を結んだ。」イエスはこうに話し
き みみ もの き おおごえ い
て、「聞く 耳のある者は聞きなさい」と大声で言われた。

もち はな りゆう
たとえを用いて話す理由

（マタ1310—17、マコ410—12）
でし い み たず い かみ くに ひみつ さと ゆる た ひとびと もち
⁹弟子たちは、このたとえはどんな意味かと 尋ねた。¹⁰イエスは言われた。「あなたがたには神の国の秘密を悟ることが許されているが、他の人々にはたとえを用
はな
いて話すのだ。それは、

れ　　み　　み
変らが見ても見えず、

りかい
いても理解できない』

「なるためである。」

「種を蒔く人」のたとえの説明

(マタ13 18—23、マコ4 13—20)

「このたとえの意味はこうである。種は神の言葉である。①道端のものとは、御言葉を聞くが、信じて救われることのないように、後から悪魔が来て、その心から御言葉を奪い去る人たちである。②石地のものとは、御言葉を聞くが喜んで受け入れるが、根がないので、しばらくは信じていても、試練に遭うと身を引いてしまう人たちのことである。③そして、茨の中に落ちたのは、御言葉を聞くが、途中で人生の思い煩いや富や快楽に覆いふさがれて、実が熟するまでに至らない人たちである。④良い土地に落ちたのは、立派な善い心で御言葉を聞き、よく守り、忍耐して実を結ぶ人たちである。」

「ともし^び火」のたとえ

(マコ4 21—25)

16 「^ひともし^{うつわ}火をと^{おほ}もして、それを^{かく}器で^{しんだい}覆^{した}い隠したり、^お寝^{ひと}台の下に^{はい}置^くいたりする人は^{ひかり}いない。入^みつて来る人に^{しよくだい}光^{うえ}が見^おえるように、^{かく}燭^し台の上に^お置^{かく}く。」隠れて

いるもので、あらわにならないものではなく、秘められたもので、人に知られず、公にならないものはない。^ひ16だから、どう聞^ひくべきかに^{ひと}注^{おほ}意^{しんだい}しなさい。^{した}持^おっている

^{ひと}人は^{さら}更^{あた}に与^もえられ、持^{ひと}っていない人は持^{おも}っていると思^とうものまでも取^あり上げられる。」

イエスの母、兄弟

(マタ12 46—50、マコ3 31—35)

¹⁹さて、イエスのところに母と兄弟たちが来たが、群衆のために近づくことができなかった。²⁰そこでイエスに、「母上と御兄弟たちが、お会いしたいと外に立っておられます」との知らせがあった。²¹するとイエスは、「わたしの母、わたしの兄弟とは、神の言葉を聞いて行う人たちのことである」とお答えになった。

とつふう しず
突風を静める

(マタ8 23—27、マコ4 35—41)

ある日のこと、イエスが弟子たちと一緒に舟に乗り、「湖」の向こう岸に渡ろうと言われたので、船出した。²³ 渡って行くうちに、イエスは眠ってしまった。突風が「湖」に吹き降ろして来て、彼らは水をかぶり、危なくなつた。²⁴ 弟子たちは近寄ってイエスを起こし、「先生、先生、おぼれそうです」と言った。イエスが起き上がって、風と荒波とをお叱りになると、静まって風になつた。²⁵ イエスは、「あなたがたの信仰はどこにあるのか」と言われた。弟子たちは恐れ驚いて、「いったい、この方はどなたなのだろう。命じれば風も波も従うではないか」と互いに言った。

あぐれい と ひと
悪霊に取りつかれたゲラサの人をいやす

(マタ8 28—34、マコ5 1—20)

いっこう む ぎし じん ちほう つ りく あ まち もの あくれい と おとこ き
 28 一行は、ガリラヤの向こう岸にあるゲラサ人の地方に着いた。27イエスが陸に上がられると、この町の者で、悪霊に取りつかれている 男 がやって来た。この
 おとこ なが あいだ いふく み つ いえ す はかば す み たか かみ こ
 男 は長い 間、衣服を身に着けず、家に住まないで墓場を住まいとしていた。28イエスを見ると、わめきながらひれ伏し、大声で言った。「いと 高き神の子イエ
 たの くる けが れい おとこ で めい ひと なんかい けが れい と
 ス、かまわなideくれ。頼むから苦しめないでほしい。」29イエスが、汚れた霊に 男 から出るように命じられたからである。この人は何回も汚れた霊に取りつか
 くさり あしかせ かんし ひ あくれい あ の か た な なん
 れたので、鎖 でつながれ、足枷をはめられて監視されていたが、それを引きちぎっては、悪霊によって荒野へと駆り立てられていた。30イエスが、「名は何とい
 たず い あくれい おとこ はい あくれい そこ ふち い めいれい じぶん
 うか」とお尋ねになると、「レギオン」と言った。たくさん悪霊がこの 男 に入っていたからである。31そして悪霊どもは、底なしの淵へ行けという命令を自分
 た だ ねが
 たちに出さないようにと、イエスに願った。

³² ところで、その辺りの山で、たくさんの豚の群れがえさをあさっていた。悪霊どもが豚の中に入る許しを願うと、イエスはお許しになった。³³ 悪霊どもはその人から出て、豚の中に入った。すると、豚の群れは崖を下って 湖 になだれ込み、おぼれ死んだ。³⁴ この出来事を見た豚飼いたちは逃げ出し、町や村にこのことを知らせた。³⁵ そこで、人々はその出来事を見ようとしてやって来た。彼らはイエスのところ来ると、悪霊どもを追い出してもらった人が、服を着、正気になってイエスの足もとに座っているのを見て、恐ろしくなった。³⁶ 成り行きを見ていた人たちは、悪霊に取りつかれていた人の救われた次第を人々に知らせた。³⁷ そこで、ゲラサ地方の人々は皆、自分たちのところから出て行ってもらいたいと、イエスに願った。彼らはすっかり恐れに取りつかれていたのである。そこで、イエスは舟に乗って帰ろうとされた。³⁸ 悪霊どもを追い出してもらった人が、お供したいとしきりに願ったが、イエスはこう言ってお帰しになった。³⁹ 「自分

いえ かえ かみ いえ はな き ひと た さ じぶん
の家に帰りなさい。そして、神があなたになさったことをことごとく話して聞かせなさい。」その人は立ち去り、イエスが自分にしてくださったことをことごとく
まちゆう い ひろ
町 中 に言い広めた。

むすめ ふく ふ おんな
ヤイロの娘とイエスの服に触れる女

(マタ9 18—26、マコ5 21—43)

40イエスが帰って来られると、群衆は喜んで迎えた。人々は皆、イエスを待っていたからである。41そこへ、ヤイロという人が来た。この人は会堂長であった。彼はイエスの足もとにひれ伏して、自分の家に来てくださるようにと願った。42十二歳ぐらいの一人娘がいたが、死にかけていたのである。

イエスがそこに行かれる途中、群衆が周りに押し寄せて来た。43ときに、十二年このかた出血が止まらず、医者に全財産を使い果たしたが、だれからも治してもらえない女がいた。44この女が近寄って来て、後ろからイエスの服の房に触れると、直ちに出血が止まった。45イエスは、「わたしに触れたのはだれか」と言われた。人々は皆、自分ではないと答えたので、ペトロが、「先生、群衆があなたを取り巻いて、押し合っているのです」と言った。46しかし、イエスは、「だれかがわたしに触れた。わたしから力が出て行ったのを感じたのだ」と言われた。47女は隠しきれないと知って、震えながら進み出てひれ伏し、触れた理由とたちまちいやされた次第とを皆の前で話した。48イエスは言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。」

49イエスがまだ話しておられるときに、会堂長の家から人が来て言った。「お嬢さんは亡くなりました。この上、先生を煩わすことはありません。」50イエスは、これを聞いて会堂長に言われた。「恐れることはない。ただ信じなさい。そうすれば、娘は救われる。」51イエスはその家に着くと、ペトロ、ヨハネ、ヤコブ、それに娘の父母のほかには、だれも一緒にいることをお許しにならなかった。52人々は皆、娘のために泣き悲しんでいた。そこで、イエスは言われた。「泣くな。死んだのではない。眠っているのだ。」53人々は、娘が死んだことを知っていたので、イエスをあざ笑った。54イエスは娘の手を取り、「娘よ、起きなさい」と呼びかけられた。55すると娘は、その霊が戻って、すぐに起き上がった。イエスは、娘に食べ物を与えるように指図をされた。56娘の両親は非常に驚いた。イエスは、この出来事をだれにも話さないようにとお命じになった。

にん はけん
十二人を派遣する

(マタ10 1・5—15、マコ6 7—13)

9

1イエスは十二人を呼び集め、あらゆる悪霊に打ち勝ち、病気をいやす力と権能をお授けになった。2そして、神の国を宣べ伝え、病人をいやすために遣わすにあたり、3次のように言われた。「旅には何も持って行つてはならない。杖も袋もパンも金も持つてはならない。4下着も二枚は持つてはならない。5どこかの家に入ったら、そこにとどまって、その家から旅立ちなさい。6だれもあなたがたを迎え入れないなら、その町を出ていくとき、彼らへの証しとして足についた埃を払い落としなさい。」7十二人は出かけて行き、村から村へと巡り歩きながら、至るところで福音を告げ知らせ、病気をいやした。

とまど
ヘロデ、戸惑う

(マタ14 1—12、マコ6 14—29)

7ところで、領主ヘロデは、これらの出来事をすべて聞いて戸惑った。というのは、イエスについて、「ヨハネが死者の中から生き返ったのだ」と言う人もいれば、8「エリヤが現れたのだ」と言う人もいて、更に、「だれか昔の預言者が生き返ったのだ」と言う人もいたからである。9しかし、ヘロデは言った。「ヨハネなら、わたしが首をはねた。いったい、何者だろう。耳に入ってくるこんなうわさの主は。」そして、イエスに会ってみたいと思った。

にん た もの あた
五千人に食べ物を与える

(マタ14 13—21、マコ6 30—44、ヨハ6 1—14)

10使徒たちは帰って来て、自分たちの行ったことをみなイエスに告げた。イエスは彼らを連れ、自分たちだけでベトサイダという町に退かれた。11群衆はそのことを知ってイエスの後を追った。イエスはこの人々を迎え、神の国について語り、治療の必要な人々をいやしておられた。12日が傾きかけたので、十二人はそばに来てイエスに言った。「群衆を解散させてください。そうすれば、周りの村や里へ行つて宿をとり、食べ物を見つけるでしょう。わたしたちはこんな人ざとではなところいひとさかなにん
里離れた所にいるのです。」13しかし、イエスは言われた。「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい。」彼らは言った。「わたしたちにはパン五つと魚二匹しかありません、このすべての人々のために、わたしたちが食べ物を買に行かないかぎり。」14というのは、男が五千人ほどいたからである。イエスは弟子たちひとさかなとに、「人々を五十人ぐらいずつ組にして座らせなさい」と言われた。15弟子たちは、そのようにして皆を座らせた。16すると、イエスは五つのパンと二匹の魚を取てんあおさんびいのとなさでしわたぐんしゆうくばひとたまんぶくのこくずり、天を仰いで、それらのために賛美の祈りを唱え、裂いて弟子たちに渡しては群衆に配らせた。17すべての人が食べて満腹した。そして、残ったパンの屑を集めると、十二籠もあった。

しんこう い あらわ
ペトロ、信仰を言い表す

(マタ16 13—19、マコ8 27—29)

18イエスがひとりで祈っておられたとき、弟子たちは共にいた。そこでイエスは、「群衆は、わたしのことを何者だと言っているか」とお尋ねになった。19弟子

私たちは答えた。「『洗礼者ヨハネだ』と言っています。ほかに、『エリヤだ』と言う人も、『だれか 昔の預言者が生き返ったのだ』と言う人もいます。」²⁰イエスが言われた。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」ペトロが答えた。「神からのメシアです。」

イエス、死と復活を予告する

（マタ16 20—28、マコ8 30—9 1）

²¹イエスは弟子たちを戒め、このことをだれにも話さないように命じて、²²次のように言われた。「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日目に復活することになっている。」²³それから、イエスは皆に言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。²⁴自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを救うのである。²⁵人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の身を滅ぼしたり、失ったりしては、何の得があろうか。²⁶わたしとわたしの言葉を恥じる者は、人の子も、自分と父と聖なる天使たちとの栄光に輝いて来るときに、その者を恥じる。²⁷確かに言うておく。ここに一緒にいる人々の中には、神の国を見るまでは決して死なない者がいる。」

イエスの姿が変わる

（マタ17 1—8、マコ9 2—8）

²⁸この話をしてから八日ほどたつたとき、イエスは、ペトロ、ヨハネ、およびヤコブを連れて、祈るために山に登られた。²⁹祈っておられるうちに、イエスの顔の様子が変わり、服は真っ白に輝いた。³⁰見ると、二人の人がイエスと語り合っていた。モーセとエリヤである。³¹二人は栄光に包まれて現れ、イエスがエルサレムで遂げようとしておられる最期について話していた。³²ペトロと仲間は、ひどく眠かったが、じつとこらえていると、栄光に輝くイエスと、そばに立っている二人の人が見えた。³³その二人がイエスから離れようとしたとき、ペトロがイエスに言った。「先生、わたしたちがここにいるのは、素晴らしいことです。仮小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのためです。」ペトロは、自分でも何を言っているのか、分からなかったのである。³⁴ペトロがこう言っていると、雲が現れて彼らを覆った。彼らが雲の中に包まれていくので、弟子たちは恐れた。³⁵すると、「これはわたしの子、選ばれた者。これに聞け」と言う声が雲の中から聞こえた。³⁶その声がしたとき、そこにはイエスだけがおられた。弟子たちは沈黙を守り、見たことを当時だれにも話さなかった。

悪霊に取りつかれた子をいやす

（マタ17 14—18、マコ9 14—27）

³⁷翌日、一同が山を下りると、大勢の群衆がイエスを出迎えた。³⁸そのとき、一人の男が群衆の中から大声で言った。「先生、どうかわたしの子を見てやってください。一人息子です。³⁹悪霊が取りつくとき、この子は突然叫びだします。悪霊はこの子にけいれんを起こさせて泡を吹かせ、さんざん苦しめて、なかなか離れません。⁴⁰この霊を追い出してくださいとお弟子たちに頼みましたが、できませんでした。」⁴¹イエスはお答えになった。「なんと信仰のない、よこしまな時代なのか。いつまでわたしは、あなたがたと共にいて、あなたがたに我慢しなければならないのか。あなたの子供をここに連れて来なさい。」⁴²その子が来る途中でも、悪霊は投げ倒し、引きつけさせた。イエスは汚れた霊を叱り、子供をいやして父親にお返しになった。⁴³人々は皆、神の偉大さに心を打たれた。

再び自分の死を予告する

（マタ17 22—23、マコ9 30—32）

イエスがなさったすべてのことに、皆が驚いていると、イエスは弟子たちに言われた。⁴⁴「この言葉をよく耳に入れておきなさい。人の子は人々の手に引き渡されようとしている。」⁴⁵弟子たちはその言葉が分からなかった。彼らには理解できないように隠されていたのである。彼らは、怖くてその言葉について尋ねられなかった。

いちばん偉い者

（マタ18 1—5、マコ9 33—37）

⁴⁶弟子たちの間で、自分たちのうちだれがいちばん偉いかという議論が起きた。⁴⁷イエスは彼らの心の内を見抜き、一人の子供の手を取り、御自分のそばに立たせて、「わたしの名のためにこの子供を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。わたしを受け入れる者は、わたしをお遣わしになった方を受け入れるのである。あなたがた皆の中で最も小さい者こそ、最も偉い者である。」

逆らわない者は味方

（マコ9 38—40）

⁴⁸そこで、ヨハネが言った。「先生、お名前を使って悪霊を追い出している者を見ましたが、わたしたちと一緒にあなたに従わないので、やめさせようと思いました。」⁴⁹イエスは言われた。「やめさせてはならない。あなたがたに逆らわない者は、あなたがたの味方なのである。」

サマリア人から歓迎されない

「イエスは、天に上げられる時期が近づくと、エルサレムに向かう決意を固められた。⁸²そして、先に使いの者を出された。彼らは行って、イエスのために準備しようとして、サマリア人の村に入った。⁸³しかし、村人はイエスを歓迎しなかった。イエスがエルサレムを目指して進んでおられたからである。⁸⁴弟子のヤコブとヨハネはそれを見て、「主よ、お望みなら、天から火を降らせて、彼らを焼き滅ぼしましょうか」と言った。⁸⁵イエスは振り向いて二人を戒められた。⁸⁶そして、一行は別の村に行った。

弟子の覚悟

(マタ8 19—22)

⁸⁷一行が道を進んで行くと、イエスに対して、「あなたがおいでになる所なら、どこへでも従って参ります」と言う人がいた。⁸⁸イエスは言われた。「狐に穴があり、空の鳥には巢がある。だが、人の子には枕する所もない。」⁸⁹そして別の人に、「わたしに従いなさい」と言われたが、その人は、「主よ、まず、父を葬りに行かせてください」と言った。⁹⁰イエスは言われた。「死んでいる者たちに、自分たちの死者を葬らせなさい。あなたは行って、神の国を言い広めなさい。」⁹¹また、別の人も言った。「主よ、あなたに従います。しかし、まず家族にいとまごに行かせてください。」⁹²イエスはその人に、「鋤に手をかけながら後ろを顧みる者は、神の国にふさわしくない」と言われた。

七十二人を派遣する

10

その後、主はほかに七十二人を任命し、御自分が行くつもりすべての町や村に二人ずつ先に遣わされた。²そして、彼らに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい。³行きなさい。わたしはあなたがたを遣わす。それは、狼の群れに小羊を送り込むようなものだ。⁴財布も袋も履物も持って行くな。途中でだれにも挨拶をするな。⁵どこかの家に入ったら、まず、『この家に平和があるように』と言いなさい。⁶平和の子がそこにいるなら、あなたがたの願う平和はその人にとどまる。もし、いなければ、その平和はあなたがたに戻ってくる。⁷その家に泊まって、そこで出される物を食べ、また飲みなさい。働く者が報酬を受けるのは当然だからである。家から家へと渡り歩くな。⁸どこかの町に入り、迎え入れられたら、出される物を食べ、⁹その町の病人をいやし、また、『神の国はあなたがたに近づいた』と言いなさい。¹⁰しかし、町に入っても、迎え入れられなければ、広場に出てこう言いなさい。¹¹『足についたこの町の埃さえも払い落として、あなたがたに返す。しかし、神の国が近づいたことを知れ』と。¹²言っておくが、かの日には、その町よりまだソドムの方が軽い罰で済む。」

悔い改めない町を叱る

(マタ11 20—24)

¹³「コラジン、お前は不幸だ。ベトサイダ、お前は不幸だ。お前たちのところでなされた奇跡がティルスやシドンで行われていれば、これらの町はとうの昔に粗布をまとい、灰の中に座って悔い改めたにちがいない。¹⁴しかし、裁きの時には、お前たちよりまだティルスやシドンの方が軽い罰で済む。¹⁵また、カファルナウム、お前は、

これまで上げられるとでも思っているのか。

子にまで落とされるのだ。

¹⁶あなたがたに耳を傾ける者は、わたしに耳を傾け、あなたがたを拒む者は、わたしを拒むのである。わたしを拒む者は、わたしを遣わされた方を拒むのである。」

七十二人、帰って来る

¹⁷七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。「主よ、お名前を使うと、悪霊さえもわたしたちに屈服します。」¹⁸イエスは言われた。「わたしは、サタンがいなずまの稲妻のように天から落ちるのを見ていた。¹⁹蛇やさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ權威を、わたしはあなたがたに授けた。だから、あなたがたに害を加えるものは何一つない。²⁰しかし、悪霊があなたがたに服従するからといって、喜んではいらない。むしろ、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」

喜びにあふれる

(マタ11 25—27、13 16—17)

²¹そのとき、イエスは聖霊によって喜びにあふれて言われた。「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠

マルタとマリヤ

38 一行が歩いて行くうち、イエスはある村にお入りになった。すると、マルタという女が、イエスを家に迎え入れた。39 彼女にはマリヤという姉妹がいた。マリヤは主の足もとに座って、その話に聞き入っていた。40 マルタは、いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていたが、そばに近寄って言った。「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。」41 “主はお答えになった。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。42 しかし、必要なことはただ一つだけである。マリヤは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」

いの祈るときには

(マタ69—15・77—11)

11

1 イエスはある所で祈っておられた。祈りが終わると、弟子の一人がイエスに、「主よ、ヨハネが弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈りを教えてください」と言った。2 そこで、イエスは言われた。「祈るときには、こう言いなさい。

ちよ、

： あが
が崇められますように。

に き
が来ますように。

3 わたしたちに必要な糧を毎日与えてください。

ちよ、

。わたしの罪を赦してください、

： したちも自分に負い目のある人を

みなゆる
皆赦しますから。

わたしたちを誘惑に遭わせないでください。』」

4 また、弟子たちに言われた。「あなたがたのうちのだれかに友達がいて、真夜中にその人のところに行き、次のように言ったとしよう。『友よ、パンを三つ貸してください。6 旅行中の友達がわたしのところに立ち寄ったが、何も出すものがないのです。』7 すると、その人は家の中から答えるにちがいない。『面倒をかけるな。もう戸は閉めたし、子供たちはわたしのそばで寝ています。起きてあなたに何かをあげるわけにはいきません。』8 しかし、言っておく。その人は、友達だからということでは起きて何か与えるようなことはなくても、しつように頼めば、起きて来て必要なものは何でも与えるであろう。9 そこで、わたしは言っておく。求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。10 だれでも、求める者は受け、さがすものは見つけ、門をたたく者には開かれる。11 あなたがたの中に、魚を欲しがる子供に、魚の代わりに蛇を与える父親がいるだろうか。12 また、卵を欲しがるのに、さそりを与える父親がいるだろうか。13 このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして天の父は求める者に聖霊を与えてくださる。」

ベルゼブル論争

(マタ12 22—30、マコ3 20—27)

14 イエスは悪霊を追い出しておられたが、それは口を利けなくする悪霊であった。悪霊が出て行くと、口の利けない人がものを言い始めたので、群衆は驚嘆した。15 しかし、中には、「あの男は悪霊の頭ベルゼブルの力で悪霊を追い出している」と言う者や、16 イエスを試そうとして、天からのしるしを求める者がいた。17 しかし、イエスは彼らの心を見抜いて言われた。「内輪で争えば、どんな国でも荒れ果て、家は重なり合って倒れてしまう。18 あなたたちは、わたしがベルゼブルの力で悪霊を追い出していると言うけれども、サタンが内輪もめすれば、どうしてその国は成り立って行くだろうか。19 わたしがベルゼブルの力で悪霊を追い出すのなら、あなたたちの仲間は何の力で追い出すのか。だから、彼ら自身があなたたちを裁く者となる。20 しかし、わたしが神の指で悪霊を追いつけているのであれば、神の国はあなたたちのところに来ているのだ。21 強い人が武装して自分の屋敷を守っているときには、その持ち物は安全である。22 しかし、もつと強い者が襲って来てこの人に勝つと、頼みの武具をすべて奪い取り、分捕り品を分配する。23 わたしに味方しない者はわたしに敵対し、わたしと一緒に集めない者は散らしている。」

けが れい もど く
汚れた霊が戻って来る

(マタ1243—45)
24「汚れた霊は、人から出て行くと、砂漠をうろつき、休む場所を探すが、見つからない。それで、『出て来たわが家に戻ろう』と言う。25そして、戻ってみると、家は掃除をして、整えられていた。26そこで、出かけて行き、自分よりも悪いほかの七つの霊を連れて来て、中に入り込んで、住み着く。そうすると、その人の後の状態は前よりも悪くなる。」

しん さいわ
真の幸い
27イエスがこれらのことを話しておられると、ある女が群衆の中から声高らかに言った。「なんと幸いなことでしょう、あなたを宿した胎、あなたが吸った乳房は。」28しかし、イエスは言われた。「むしろ、幸いなのは神の言葉を聞き、それを守る人である。」

ひとびと は
人々はしるしを欲しがる
(マタ1238—42、マコ812)
29群衆の数がますます増えてきたので、イエスは話し始められた。「今の時代の者たちはよこしまだ。しるしを欲しがるが、ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられない。30つまり、ヨナがニネベの人々に対してしるしとなったように、人の子も今の時代の者たちに対してしるしとなる。31南の国の女王は、裁きの時、今の時代の者たちと一緒に立ち上がり、彼らを罪に定めるであろう。この女王はソロモンの知恵を聞くために、地の果てから来たからである。ここに、ソロモンにまさるものがある。32また、ニネベの人々は裁きの時、今の時代の者たちと一緒に立ち上がり、彼らを罪に定めるであろう。ニネベの人々は、ヨナの説教を聞いて悔い改めたからである。ここに、ヨナにまさるものがある。」

からだ び め
体のともし火は目
(マタ515、622—23)
33「ともし火をともして、それを穴蔵の中や、升の下に置く者はいない。入って来る人に光が見えるように、燭台の上に置く。34あなたの体のともし火は目である。目が澄んでいれば、あなたの全身が明るいが、濁っていれば、体も暗い。35だから、あなたの中にある光が消えていないか調べなさい。36あなたの全身が明るく、少しも暗いところがなければ、ちょうど、ともし火がその輝きであなたを照らすときにように、全身は輝いている。」

は ひとびと りつぼう せんもんか ひなん
ファリサイ派の人々と律法の専門家とを非難する

(マタ231—36、マコ1238—40、ルカ2045—47)
37イエスはこうに話しておられたとき、ファリサイ派の人から食事の招待を受けたので、その家に入って食事の席に着かれた。38ところがその人は、イエスが食事の前にまず身を清められなかったのを見て、不審に思った。39主は言われた。「実に、あなたたちファリサイ派の人々は、杯や皿の外側はきれいにするが、自分の内側は強欲と悪意に満ちている。40愚かな者たち、外側を造られた神は、内側もお造りになったではないか。41ただ、器の中にある物を人に施せ。そうすれば、あなたたちにはすべてのものが清くなる。42それにしても、あなたたちファリサイ派の人々は不幸だ。薄荷や芸香やあらゆる野菜の十分の一は献げるが、正義の実行と神への愛はおろそかにしているからだ。これこそ行うべきことである。もとより、十分の一の献げ物もおろそかにしてはならない。43あなたたちファリサイ派の人々は不幸だ。会堂では上席に着くこと、広場では挨拶されることを好むからだ。44あなたたちは不幸だ。人目につかない墓のようなものである。その上を歩く人は気づかない。」

45そこで、律法の専門家の一人が、「先生、そんなことをおっしゃれば、わたしたちをも侮辱することになります」と言った。46イエスは言われた。「あなたたち律法の専門家も不幸だ。人には背負いきれない重荷を負わせながら、自分では指一本もその重荷に触れようとしないからだ。47あなたたちは不幸だ。自分の先祖が殺した預言者たちの墓を建てているからだ。48こうして、あなたたちは先祖の仕業の証人となり、それに賛成している。先祖は殺し、あなたたちは墓を建てているからである。49だから、神の知恵もこう言っている。『わたしは預言者や使徒たちを遣わすが、人々はその中のある者を殺し、ある者を迫害する。』50こうして、天地創造の時から流されたすべての預言者の血について、今の時代の者たちが責任を問われることになる。51それは、アベルの血から、祭壇と聖所の間で殺されたゼカルヤの血にまで及ぶ。そうだ。言うておくが、今の時代の者たちはその責任を問われる。52あなたたち律法の専門家は不幸だ。知識の鍵を取り上げ、自分が入らないばかりか、入ろうとする人々をも妨げてきたからだ。」53イエスがそこを出て行かれると、律法学者やファリサイ派の人々は激しい敵意を抱き、いろいろの問題でイエスに質問を浴びせ始め、54何か言葉じりをとらえようとねらっていた。

ぎぜん き
偽善に気をつけさせる

12

1とかくするうちに、数えきれないほどの群衆が集まって来て、足を踏み合うほどになった。イエスは、まず弟子たちに話し始められた。「ファリサイ派の人々のパン種に注意しなさい。それは偽善である。覆われているもので現されないものではなく、隠されているもので知られずに済むものはない。2だから、あなたがた

くらやみ い あか き おく ま みみ や ね うえ い ひろ
が暗闇で言ったことはみな、明るみで聞かれ、奥の間に耳にささやいたことは、屋根の上で言い広められる。」

おそ もの
恐るべき者

(マタ10 28—31)

「友⁴人であるあなたがたに言うておく。体⁵を殺しても、その後、それ以上何もできない者どもを恐れてはならない。⁶だれを恐れるべきか、教えよう。それは、殺した後で、地獄に投げ込む権威を持つている方だ。そうだ。言うておくが、この方を恐れなさい。⁷五羽⁸の雀が二アサリオンで売られているではないか。だが、その一羽さえ、神がお忘れになるようなことはない。⁹それどころか、あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。恐れるな。あなたがたは、たくさん¹⁰の雀よりもはるかにまさっている。」

イエスの仲間であると言い表す

(マタ10 32—33、12 32、10 19—20)

「言うておくが、だれでも人々の前で自分をわたしの仲間であると言い表す者は、人の子も神の天使たちの前で、その人を自分の仲間であると言い表す。¹しかし、人々の前でわたしを知らないと言う者は、神の天使たちの前で知らないと言われる。²人の子の悪口を言う者は皆赦される。しかし、聖霊を冒瀆する者は赦されない。³会堂や役人、権力者のところに連れて行かれたときは、何をどう言い訳しようか、何を言おうかなどと心配してはならない。⁴言うべきことは、聖霊がそのときに教えてくださる。」

「愚かな金持ち」のたとえ

群衆¹の一人が言った。「先生、わたしにも遺産を分けてくれるように兄弟に言うてください。」²イエスは那人に言われた。「だれがわたしを、あなたがたの裁判官や調停人に任命したのか。」³そして、一同に言われた。「どんな貪欲にも注意を払い、用心しなさい。有り余るほど物を持っていても、人の命は財産によってどうすることもできないからである。」⁴それから、イエスはたとえを話された。「ある金持ちの畑が豊作だった。⁵金持ちは、『どうしよう。作物をしまっておく場所がない』と思い巡らしたが、⁶やがて言った。『こうしよう。倉を壊して、もっと大きいのを建て、そこに穀物や財産をみなしまい、⁷こう自分に言うてやるのだ。『さあ、これから先何年も生きて行くだけの蓄えができたぞ。ひと休みして、食べたり飲んだりして楽しめ』と。』⁸しかし神は、『愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。お前が用意した物は、いったいだれのものになるのか』と言われた。⁹自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならない者はこのとおりだ。」

思い悩むな

(マタ6 25—34、19—21)

それから、イエスは弟子たちに言われた。「だから、言うておく。命¹のことで何を食べようか、体²のことで何を着ようかと思い悩むな。³命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切だ。⁴鳥のことを考えてみなさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、納屋も倉も持たない。だが、神は鳥を養⁵ってくださる。あなたがたは、鳥よりもどれほど価値があることか。⁶あなたがたのうちのだれが、思い悩んだからといって、寿命⁷をわずかでも延ばすことができるか。⁸こんなごく小さな事さえできないのに、なぜ、ほかの事まで思い悩むのか。⁹野原の花がどのように育つかを¹⁰考えてみなさい。働きもせず紡ぎもしない。しかし、言うておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾¹¹ってはいなかった。¹²今日は野にあって、明日は炉に投げ込まれる草でさえ、神はこのように装¹³ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことである。信仰の薄い者たちよ。¹⁴あなたがたも、何を食べようか、何を飲もうかと¹⁵考えてはならない。また、思い悩むな。¹⁶それはみな、世の異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの父は、これらのものがあなたがたに必要なことをご存じである。¹⁷ただ、神の国を求めなさい。そうすれば、これらのものは加えて与えられる。¹⁸小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜¹⁹んで神の国をくださる。²⁰自分の持ち物を売り払って施²¹しなさい。擦り切れることのない財布を作り、尽きることのない富を天に積みなさい。そこは、盗人も近寄らず、虫も食い荒らさない。²²あなたがたの富のあるところに、あなたがたの心²³もあるのだ。」

目を覚ましている僕

(マタ24 45—51)

「腰¹に帯を締め、ともし火をともしていなさい。²主人が婚宴から帰って来て戸をたたくとき、すぐに開けよう³と待っている人のようにしていなさい。⁴主人が帰⁵って来たとき、目を覚ましているのを見られる僕たちは幸⁶いだ。はつきり言うておくが、主人は帯を締めて、この僕たちを食事の席に着かせ、そばに来て給⁷仕してくれる。⁸主人が真夜中に帰っても、夜明けに帰っても、目を覚ましているのを見られる僕たちは幸⁹いだ。¹⁰このことをわきまえていなさい。家の主人は、泥棒がいつやって来るかを知っていたら、自分の家に押し入らせはしないだろう。¹¹あなたがたも用意していなさい。人の子は思いがけない時に来るからである。」

「そこでペトロが、「主よ、このたとえはわたしたちのために話しておられるのですか。それとも、みんなのためですか」と言うと、²主は言われた。「主人が召し使いたちの上に立てて、時間どおりに食べ物³を分配させることにした忠実で賢い管理人は、いったいだれであらうか。⁴主人が帰⁵って来たとき、言われた

み しもべ さいわ たし い しゅじん かれ ぜんざいさん かん り しもべ しゅじん かい
とおりにしているのを見られる 僕は 幸いである。⁴⁴確かに言っておくが、主人は彼に全財産を管理させるにちがいない。⁴⁵しかし、もしその 僕が、主人の婦
おく おも げなん じょちゆう なぐ た の よ しもべ しゅじん よそう ひ おも とき かい き
りは遅れると思い、下男や女中を殴ったり、食べたり飲んだり、酔うようなことになるならば、⁴⁶その 僕の主人は予想しない日、思いがけない時に帰って来
かれ きび ばつ ふちゆうじつ もの おな め あ しゅじん おも し なに じゅんぴ しゅじん おも しもべ
て、彼を厳しく罰し、不忠実な者たちと同じ目に遭わせる。⁴⁷主人の思いを知りながら何も 準備せず、あるいは主人の思いどおりにしなかった 僕は、ひど
むちう し むちう もの う すこ す おお あた もの おお もと おお まか もの
く鞭打たれる。⁴⁸しかし、知らずにいて鞭打たれるようなことをした者は、打たれても少しで済む。すべて多く与えられた者は、多く求められ、多く任された者
さら おお ようきゆう
は、更に多く要求される。」

ぶんれつ
分裂をもたらす

(マタ1034—36)
き ちじょう ひ とう ひ すで も ねが う
⁴⁹「わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである。その火が既に燃えていたらと、どんなに願っていることか。⁵⁰しかし、わたしには受けねばならない
「バプテスマ」がある。それが終わるまで、わたしはどんなに苦しむことだろう。⁵¹あなたがたは、わたしが地上に平和をもたらすために来たと思うのか。そうではな
い。言っておくが、むしろ分裂だ。⁵²今から後、一つの家に五人いるならば、三人は二人と、二人は三人と対立して分かれるからである。

こ こ ちち
子と、子は父と、

むすめ むすめ はは
ま娘と、娘は母と、

よめ よめ
うとめは嫁と、嫁はしゅうとめと、

ゝつ わ
立して分かれる。」

とき みわ
時を見分ける

(マタ162—3)
ぐんしゆう い くも にし で み あめ い じっさい みなみかぜ ふ
⁵⁴イエスはまた群衆にも言われた。「あなたがたは、雲が西に出るのを見るとすぐに、『にわか雨になる』と言う。実際そのとおりになる。⁵⁵また、南風が吹
いていみると、『暑くなる』と言う。事実そうなる。⁵⁶偽善者よ、このように空や地の模様を見分けることは知っているのに、どうして今の時を見分けるこ
とを知らないのか。」

うった ひと なかなお
訴える人と仲直りする

(マタ525—26)
うった ひと いっしょ やくにん い とちゆう ひと なかなお
⁵⁷「あなたがたは、何が正しいかを、どうして自分で判断しないのか。⁵⁸あなたを訴える人と一緒に役人のところに行くときには、途中でその人と仲直りす
るように努めなさい。さもないと、その人はあなたを裁判官のもとに連れて行き、裁判官は看守に引き渡し、看守は牢に投げ込む。⁵⁹言っておくが、最後の一
レプトンを返すまで、決してそこから出ることはできない。」

く あらた ほろ
悔い改めなければ滅びる

13

なんにん ひと き じん ち かれ ま つ こた じん
'ちようどそのとき、何人かの人に来て、ピラトがガリラヤ人の血を彼らのいけにえに混ぜたことをイエスに告げた。²イエスはお答えになった。「そのガリラヤ人
さいなん あ じん じん つみぶか もの おも けつ く あらた
たちがそのような災難に遭ったのは、ほかのどのガリラヤ人よりも罪深い者だったからだと思うのか。³決してそうではない。言っておくが、あなたがたも悔い改
めなければ、皆同じように滅びる。⁴また、シロアムの塔が倒れて死んだあの十八人は、エルサレムに住んでいたほかのどの人々よりも、罪深い者だったと思う
のか。⁵決してそうではない。言っておくが、あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる。」

み き
「実のならないいちじくの木」のたとえ
つぎ はな ひと えん き う み さが き み えんてい い
⁶そして、イエスは次のたとえを話された。「ある人がぶどう園にいちじくの木を植えておき、実を探しに来たが見つからなかった。⁷そこで、園丁に言った。
ねん あいだ き み さが き み き たお とち えんてい こた
『もう三年もの間、このいちじくの木に実を探しに来ているのに、見つけたためしがない。だから切り倒せ。なぜ、土地をふさがせておくのか。』⁸園丁は答え
た。『御主人様、今年もこのままにしておいてください。木の周りを掘って、肥やしをやってみます。⁹そうすれば、来年は実がなるかもしれません。もしそれでも
き たお
だめなら、切り倒してください。』」

あんそくび こし ま ふじん
安息日に、腰の曲がった婦人をいやす

あんそくび
10安息日に、イエスはある会堂で教えておられた。11そこに、十八年間も病の靈に取りつかれている女がいた。腰が曲がったまま、どうしても伸ばすことができなかった。12イエスはその女を見て呼び寄せ、「婦人よ、病気は治った」と言って、13その上に手を置かれた。女は、たちどころに腰がまっすぐになり、神を賛美した。14ところが会堂長は、イエスが安息日に病人をいやされたことに腹を立て、群衆に言った。「働くべき日は六日ある。その間に來て治してもらうがよい。安息日はいけない。」15しかし、主は彼に答えて言われた。「偽善者たちよ、あなたたちはだれでも、安息日にも牛やろばを飼い葉桶から解いて、水を飲ませに引いて行くではないか。16この女はアブラハムの娘なのに、十八年もの間サタンに縛られていたのだ。安息日であっても、その束縛から解いてやるべきではなかったのか。」17こう言われると、反対者は皆恥じ入ったが、群衆はこぞつて、イエスがなさった数々のすばらしい行いを見て喜んだ。

「からし種」と「パン種」のたとえ

(マタ13 31—33、マコ4 30—32)

18そこで、イエスは言われた。「神の国は何に似ているか。何にたとえようか。19それは、からし種に似ている。人がこれを取って庭に蒔くと、成長して木になり、その枝には空の鳥が巢を作る。」

20また言われた。「神の国は何にたとえようか。21パン種に似ている。女がこれを取って三サトンの粉に混ぜると、やがて全体が膨れる。」

せま とぐち
狭い戸口

(マタ7 13—14、21—23)

22イエスは町や村を巡って教えながら、エルサレムへ向かって進んでおられた。23すると、「主よ、救われる者は少ないのでしょうか」と言う人がいた。イエスは一同に言われた。24「狭い戸口から入るように努めなさい。言っておくが、入ろうとしても入れない人が多いのだ。25家の主人が立ち上がって、戸を閉めてしまつてからでは、あなたがたが外に立って戸をたたき、『御主人様、開けてください』と言つても、『お前たちがどこの者か知らない』という答えが返ってくるだけである。26そのとき、あなたがたは、『御一緒に食べたり飲んだりしましたし、また、わたしたちの広場でお教えを受けたのです』と言いだすだろう。27しかし主人は、『お前たちがどこの者か知らない。不義を行う者ども、皆わたしから立ち去れ』と言うだろう。28あなたがたは、アブラハム、イサク、ヤコブやすべての預言者たちが神の国に入っているのに、自分は外に投げ出されることになり、そこで泣きわめいて歯ざしりする。29そして人々は、東から西から、また南から北から来て、神の国で宴会の席に着く。30そこでは、後の人で先になる者があり、先の人で後になる者もある。」

エルサレムのために嘆く

(マタ23 37—39)

31ちょうどそのとき、ファリサイ派の人々が何人か近寄って来て、イエスに言った。「ここを立ち去ってください。ヘロデがあなたを殺そうとしています。」32イエスは言われた。「行つて、あの狐に、『今日も明日も、悪霊を追い出し、病気をいやし、三日目にすべてを終える』とわたしが言ったと伝えなさい。33だが、わたしは今日も明日も、その次の日も自分の道を進まねばならない。預言者がエルサレム以外の所で死ぬことは、ありえないからだ。34エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、自分に遭わされた人々を石で打ち殺す者よ、めん鳥が雛を羽の下に集めるように、わたしはお前の子らを何度集めようとしたことか。だが、お前たちは応じようとしなかった。35見よ、お前たちの家は見捨てられる。言っておくが、お前たちは、『主の名によって来られる方に、祝福があるように』と言う時が来るまで、決してわたしを見ることがない。」

あんそくび すいしゆ ひと
安息日に水腫の人をいやす

14

1安息日のことだった。イエスは食事のためにファリサイ派のある議員の家にお入りになったが、人々はイエスの様子をうかがっていた。2そのとき、イエスの前に水腫を患っている人がいた。3そこで、イエスは律法の専門家たちやファリサイ派の人々に言われた。「安息日に病気を治すことは律法で許されているか、いないか。」4彼らは黙っていた。すると、イエスは病人の手を取り、病気をいやしてお帰しになった。5そして、言われた。「あなたたちの中に、自分の息子か牛が井戸に落ちたら、安息日だからといって、すぐに引き上げてやらない者がいるだろうか。」6彼らは、これに対して答えることができなかった。

きやく しょうたい もの きょうくん
客と招待する者への教訓

7イエスは、招待を受けた客が上席を選ぶ様子に気づいて、彼らにたとえを話された。8「婚宴に招待されたら、上席に着いてはならない。あなたよりも身分の高い人が招かれており、9あなたやその人を招いた人が来て、『この方に席を譲ってください』と言うかもしれない。そのとき、あなたは恥をかいて末席に着くことになる。10招待を受けたら、むしろ末席に行つて座りなさい。そうすると、あなたを招いた人が来て、『さあ、もっと上席に進んでください』と言うだろう。そのときは、同席の人みんなの前で面目を施すことになる。11だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。」12また、イエスは招いてくれた人にも言われた。「昼食や夕食の会を催すときには、友人も、兄弟も、親類も、近所の金持ちも呼んではならない。その人たちも、あなたを招いてお返しをするかも知れないからである。13宴会を催すときには、むしろ、貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人を招きなさい。14そうすれば、その人たちはお返しができないから、あなたは幸いだ。正しい者たちが復活するとき、あなたは報われる。」

だいえんかい
「大宴会」のたとえ

(マタ22 1—10)

15食事を共にしていた客の一人は、これを聞いてイエスに、「神の国で食事をする人は、なんと幸いなことでしょう」と言った。16そこで、イエスは言われた。「ある人が盛大な宴会を催そうとして、大勢の人を招き、17宴会の時刻になったので、僕を送り、招いておいた人々に、『もう用意ができましたから、おいでください』と言わせた。18すると皆、次々に断つた。最初の人とは、『畑を買つたので、見に行かねばなりません。どうか、失礼させてください』と言つた。19ほかの人は、『牛を二頭ずつ五組買ったので、それを調べに行くところです。どうか、失礼させてください』と言つた。20また別の人は、『妻を迎えたばかりなので、行くことができません』と言つた。21僕は帰つて、このことを主人に報告した。すると、家の主人は怒つて、僕に言つた。『急いで町の広場や路地へ出て行き、貧しい人、体の不自由な人、目の見えない人、足の不自由な人をここに連れて来なさい。』22やがて、僕が、『御主人様、仰せのとおり

にいたしましたが、まだ席があります』と言うと、²³主人は言った。『通りや小道に出て行き、無理にでも人々を連れて来て、この家をいっぱいにしてくれ。』²⁴言うておくが、あの招かれた人たちの中で、わたしの食事を味わう者は一人もいない。』

弟子の条件

(マタ10:37—38)

²⁵大勢の群衆が一緒にいて来たが、イエスは振り向いて言われた。²⁶「もし、だれかがわたしのものに来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更に自分の命であろうとも、これを憎まないなら、わたしの弟子ではありえない。²⁷自分の十字架を背負ってついて来る者でなければ、だれであれ、わたしの弟子ではありえない。²⁸あなたがたのうち、塔を建てようとするとき、造り上げるのに十分な費用があるかどうか、まず腰をすえて計算しない者がいるだろうか。²⁹そうしないと、土台を築いただけで完成できず、見ていた人々は皆あざけて、³⁰『あの人は建て始めたが、完成することはできなかった』と言うだろう。³¹また、どんな王でも、ほかの王と戦いに行こうとするときは、二万の兵を率いて進軍して来る敵を、自分の一万の兵で迎え撃つことができるかどうか、まず腰をすえて考えてみないだろうか。³²もしできないと分かれば、敵はまだ遠方にいる間に使節を送って、和を求めるだろう。³³だから、同じように、自分の持ち物を一切捨てないならば、あなたがたのだれ一人としてわたしの弟子ではありえない。」

塩気のなくなった塩

(マタ5:13、マコ9:50)

³⁴「確かに塩は良いものだ。だが、塩も塩気がなくなれば、その塩は何によって味が付けられようか。³⁵畑にも肥料にも、役立たず、外に投げ捨てられるだけだ。聞く耳のある者は聞きなさい。」

「見失った羊」のたとえ

(マタ18:12—14)

15

¹徴税人や罪人が皆、話を聞こうとしてイエスに近寄って来た。²すると、ファリサイ派の人々や律法学者たちは、「この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている」と不平を言いました。³そこで、イエスは次のたとえを話された。⁴「あなたがたの中に、百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を野原に残して、見失った一匹を見つけ出すまで捜し回らないだろうか。⁵そして、見つけたら、喜んでその羊を担いで、⁶家に帰り、ともだち、きんじょ、ひとびと、よ、あつ、みうしな、ひつじ、み、いっしょ、よろこ、い、い、く、あらた、ひとり友達や近所の人々を呼び集めて、『見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください』と言うであろう。⁷言うておくが、このように、悔い改める一人の罪人については、悔い改める必要のない九十九人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にある。」

「無くした銀貨」のたとえ

。「あるいは、ドラクメ銀貨を十枚持っている女がいて、その一枚を無くしたとすれば、ともし火をつけ、家を掃き、見つけるまで念を入れて捜さないだろうか。⁹そして、見つけたら、友達や近所の女たちを呼び集めて、『無くした銀貨を見つけましたから、一緒に喜んでください』と言うであろう。¹⁰言うておくが、このように、一人の罪人が悔い改めれば、神の天使たちの間に喜びがある。」

「放蕩息子」のたとえ

「また、イエスは言われた。「ある人に息子が二人いた。¹²弟の方が父親に、『お父さん、わたしが頂くことになっている財産の分け前をください』と言った。それで、父親は財産を二人に分けてやった。¹³何日もたたないうちに、下の息子は全部を金に換えて、遠い国に旅立ち、そこで放蕩の限りを尽くして、財産を無駄遣いしてしまった。¹⁴何もかも使い果たしたとき、その地方にひどい飢饉が起こって、彼は食べるにも困り始めた。¹⁵それで、その地方に住むある人のところに身を寄せたところ、その人は彼を畑にやって豚の世話をさせた。¹⁶彼は豚の食べるいなご豆を食べても腹を満たしたかったが、食べ物をくれる人はだれもいなかった。¹⁷そこで、彼は我に返って言った。『父のところでは、あんなに大勢の雇い人に、有り余るほどパンがあるのに、わたしはここで飢え死にしそうだ。¹⁸ここをたち、父のところに行って言おう。『お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。¹⁹もう息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にしてください。』と。²⁰そして、彼はそこをたち、父親のもとに行った。ところが、まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、あわおもはしよくびだせつぶんむすこいと、とうてんたいとうつみおかむすこよしかく、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。²¹息子は言った。『お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。』²²しかし、父親は僕たちに言った。『急いでいちばん良い服を持って来て、この子に着せ、手に指輪をはめてやり、足に履物を履かせなさい。²³それから、肥えた子牛を連れて来て屠りなさい。食べて祝おう。²⁴この息子は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったからだ。』そして、祝宴を始めた。」

²⁵ところで、兄の方は畑にいたが、家の近くに來ると、音楽や踊りのざわめきが聞こえてきた。²⁶そこで、僕の一人を呼んで、これはいったい何事かと尋ねた。²⁷僕は言った。『弟さんが帰って来られました。無事な姿で迎えたというので、お父上が肥えた子牛を屠られたのです。』²⁸兄は怒って家に入ろうとはせず、父親が出て来てなだめた。²⁹しかし、兄は父親に言った。『このとおり、わたしは何年もお父さんに仕えています。言いつけに背いたことは一度もありません。』

ん。それなのに、わたしが友達と宴会をするために、子山羊一匹すらくれなかったではありませんか。³⁰ところが、あなたのあの息子が、娼婦どもと一緒にあなたの身上を食いつぶして帰って来ると、肥えた子牛を屠っておやりになる。³¹すると、父親は言った。『子よ、お前はいつもわたしと一緒にいる。わたしのものは全部お前のものだ。³²だが、お前のあの弟は死んでいたのに生き返った。いなくなっていたのに見つかったのだ。祝宴を開いて楽しみ喜ぶのは当たり前ではないか。』」

「不正な管理人」のたとえ

16

イエスは、弟子たちにも次のように言われた。「ある金持ちに一人の管理人がいた。この男が主人の財産を無駄遣いしていると、告げ口をする者があつた。²そこで、主人は彼を呼びつけて言った。『お前について聞いていることがあるが、どうなのか。会計の報告を出しなさい。もう管理を任せておくわけにはいかない。』³管理人は考えた。『どうしようか。主人はわたしから管理の仕事を取り上げようとしている。土を掘る力もないし、物乞いをするのも恥ずかしい。』⁴そうだ。こうしよう。管理の仕事をやめさせられても、自分を家に迎えてくれるような者たちを作ればいいのだ。⁵そこで、管理人は主人に借りのある者にひとりひとりよさしいしよさいしよと、管理の仕事をやめさせられても、自分を家に迎えてくれるような者たちを作ればいいのだ。⁶そこで、管理人は主人に借りのある者を一人一人呼んで、まず最初の人に、『わたしの主人にいくら借りがあるのか』と言った。⁷『油百バトス』と言うと、管理人は言った。『これがあなたの証文だ。急いで、腰を掛けて、五十バトスと書き直しなさい。』⁸また別の人には、『あなたは、いくら借りがあるのか』と言った。『小麦百コロス』と言うと、管理人は言った。『これがあなたの証文だ。八十コロスと書き直しなさい。』⁹主人は、この不正な管理人の抜け目のないやり方をほめた。この世の子どもは、自分の仲間に対して、光の子よりも賢くふるまっている。¹⁰そこで、わたしは言っておくが、不正にまみれた富で友達を作りなさい。そうしておけば、金がなくなつたとき、あなたがたは永遠の住まいに迎え入れてもらえる。¹¹ごく小さな事に忠実な者は、大きな事にも忠実である。ごく小さな事に不忠実な者は、大きな事にも不忠実である。¹²だから、不正にまみれた富について忠実でなければ、だれがあなたがたに本当に価値あるものを任せらるうか。¹³また、他人のものについて忠実でなければ、だれがあなたがたのものを与えてくれるだろうか。¹⁴どんな召し使いも二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。」

律法と神の国

(マタ11 12—13)

¹⁴金に執着するファリサイ派の人々が、この一部始終を聞いて、イエスをあざ笑つた。¹⁵そこで、イエスは言われた。「あなたたちは人に自分の正しさを見せびらかすが、神はあなたたちの心をご存じである。人に尊ばれるものは、神には忌み嫌われるものだ。¹⁶律法と預言者は、ヨハネの時までである。それ以来、神の国の福音が告げ知らされ、だれもが力づくでそこに入ろうとしている。¹⁷しかし、律法の文字の一文画がなくなるよりは、天地の消えうせる方が易しい。¹⁸つまりえんたおんなつまものかんつうつみおかりえんおんなつまものかんつうつみおか妻を離縁して他の女を妻にする者はだれでも、姦通の罪を犯すことになる。離縁された女を妻にする者も姦通の罪を犯すことになる。」

金持ちとラザロ

¹⁹「ある金持ちがいた。いつも紫の衣や柔らかい麻布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。²⁰この金持ちの門前に、ラザロというできものだらけの貧しい人が横たわり、²¹その食卓から落ちる物で腹を満たしたいものだと思っていた。犬もやって来ては、そのできものをなめた。²²やがて、この貧しい人は死んで、天使たちによって宴席にいるアブラハムのすぐそばに連れて行かれた。金持ちも死んで葬られた。²³そして、金持ちは陰府でさいなまれながら目を上げると、宴席でアブラハムとそのすぐそばにいるラザロとが、はるかかなたに見えた。²⁴そこで、大声で言った。『父アブラハムよ、わたしを憐れんでください。ラザロをよこして、指先を水に浸し、わたしの舌を冷やさせてください。わたしはこの炎の中でもだえ苦しんでいます。』²⁵しかし、アブラハムは言った。『子よ、思い出してみるがよい。お前は生きている間に良いものをもらっていたが、ラザロは反対に悪いものをもらっていた。今は、ここで彼は慰められ、お前はまだえ苦しむのだ。²⁶そればかりか、わたしたちとお前たちの間には大きな淵があつて、ここからお前たちの方へ渡ろうとしてもできないし、そこからわたしたちの方に越えて来ることもできない。』²⁷金持ちは言った。『父よ、ではお願いです。わたしの父親の家にラザロを遣わしてください。』²⁸わたしには兄弟が五人います。あの者たちまで、こんな苦しい場所に来ることのないように、よく言い聞かせてください。』²⁹しかし、アブラハムは言った。『お前の兄弟たちにはモーセと預言者がいる。彼らに耳を傾けるがよい。』³⁰金持ちは言った。『いいえ、父アブラハムよ、もし、死んだ者の中からだれかが兄弟のところに行つてやれば、悔い改めるでしょう。』³¹アブラハムは言った。『もし、モーセと預言者に耳を傾けないのなら、たとえ死者の中から生き返る者があつても、その言うことを聞き入れはしないだろう。』」

赦し、信仰、奉仕

(マタ18 6—7、21—22、マコ9 42)

17

イエスは弟子たちに言われた。「つまずきは避けられない。だが、それをもたらす者は不幸である。²そのような者は、これらの小さい者の一人をつまずかせるよりも、首にひき白を懸けられて、海に投げ込まれてしまう方がましである。³あなたがたも気をつけなさい。もし兄弟が罪を犯したら、戒めなさい。そして、悔い改めれば、赦してやりなさい。⁴一日に七回あなたに対して罪を犯しても、七回「悔い改めます」と言つてあなたのところに来るなら、赦してやりなさい。」⁵使徒たちが、「わたしどもの信仰を増してください」と言つたとき、⁶主は言われた。「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、この桑の木に、『

ぬだ　うみ　ね　お　い　い　き
抜け出して海に根を下ろせ』と言っても、言うことを聞くであろう。

　　'あなたがたのうちだれかに、畑を耕すか羊を飼うかする僕がいる場合、その僕が畑から帰って来たとき、『すぐ来て食事の席に着きなさい』と言う者がいるだろうか。むしろ、『夕食の用意をしてくれ。腰に帯を締め、わたしが食事を済ますまで給仕してくれ。お前はその後で食事をしなさい』と言うのではなからうか。*命じられたことを果たしたからといって、主人は僕に感謝するだろうか。*あなたがたも同じことだ。自分に命じられたことをみな果たしたら、『わたしどもは取るに足りない僕です。しなければならぬことをしただけです』と言いなさい。」

おも　ひふびょう　わすら　　にん　ひと
重い皮膚病を患っている十人の人をいやす

　　"イエスはエルサレムへ上る途中、サマリアとガリラヤの間を通られた。ある村に入ると、重い皮膚病を患っている十人の人が出迎え、遠くの方に立ち止まったまま、"声を張り上げて、「イエスさま、先生、どうか、わたしたちを憐れんでください」と言った。"イエスは重い皮膚病を患っている人たちを見て、「祭司たちのところに行って、体を見せなさい」と言われた。彼らは、そこへ行く途中で清くされた。"その中の一人は、自分がいやされたのを知って、大声で神を賛美しながら戻って来た。"そして、イエスの足もとにひれ伏して感謝した。この人はサマリア人だった。"そこで、イエスは言われた。「清くされたのは十人ではなかったか。ほかの九人はどこにいるのか。"この外国人のほかに、神を賛美するために戻って来た者はいないのか。」"それから、イエスはその人に言われた。「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」

かみ　くに　く
神の国が来る

（マタ2423—28、37—41）

　　"ファリサイ派の人々が、神の国はいつ来るのかと尋ねたので、イエスは答えて言われた。「神の国は、見える形では来ない。"『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ。」"それから、イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたが、人の子の日を一日だけでも見たいと望む時が来る。しかし、見ることはできないだろう。"『見よ、あそこだ』『見よ、ここだ』と人々は言うだろうが、出て行つてはならない。また、その人々の後を追いかけてもいけない。"稲妻がひらめいて、大空の端から端へと輝くように、人の子もその日に現れるからである。"しかし、人の子はまず必ず、多くの苦しみを受け、今の時代の者たちから排斥されることになっている。"ノアの時代にあったようなことが、人の子が現れるときにも起こるだろう。"ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていたが、洪水が襲って来て、一人残らず滅ぼしてしまった。"ロトの時代にも同じようなことが起こった。人々は食べたり飲んだり、買ったり売ったり、植えたり建てたりしていたが、"ロトがソドムから出て行つたその日に、火と硫黄が天から降ってきて、一人残らず滅ぼしてしまった。"人の子が現れる日にも、同じことが起こる。"その日には、屋上にいる者は、家の中に家財道具があっても、それを取り出そうとして下に降りてはならない。同じように、畑にいる者も帰ってはならない。"ロトの妻のことを思い出さなさい。"自分の命を生かそうと努める者は、それを失い、それを失う者は、かえって保つのである。"言っておくが、その夜一つの寝室に二人の男が寝ていれば、一人は連れて行かれ、他の一人は残される。"二人の女が一緒に白をひいていれば、一人は連れて行かれ、他の一人は残される。」十　　"そこで弟子たちが、「主よ、それはどこで起こるのですか」と言った。イエスは言われた。「死体のある所には、はげ鷹も集まるものだ。」

「やもめと裁判官」のたとえ

18

　　"イエスは、気を落とさずに絶えず祈らなければならないことを教えるために、弟子たちにたとえを話された。"「ある町に、神を畏れず人を人とも思わない裁判官がいた。"ところが、その町に一人のやもめがいて、裁判官のところに来ては、『相手を裁いて、わたしを守ってください』と言っていた。"裁判官は、しばらくの間は取り合おうとしなかった。しかし、その後には考えた。『自分は神など畏れないし、人を人とも思わない。"しかし、あのやもめは、うるさくてかなわないから、彼女のために裁判をしてやろう。さもないと、ひっきりなしにやって来て、わたしをさんざんな目に遭わすにちがいない。』"それから、主は言われた。「この不正な裁判官の言いぐさを聞きなさい。"まして神は、昼も夜も叫び求めている選ばれた人たちのために裁きを行わずに、彼らをいつまでもほうっておかれることがあろうか。"言っておくが、神は速やかに裁いてくださる。しかし、人の子が来るとき、果たして地上に信仰を見いだすだろうか。」

「ファリサイ派の人と徴税人」のたとえ

　　"自分は正しい人間だとうぬぼれて、他人を見下している人々に対しても、イエスは次のたとえを話された。"「二人の人が祈るために神殿に上った。一人はファリサイ派の人で、もう一人は徴税人だった。"ファリサイ派の人は立って、心の中でこのように祈った。『神様、わたしはほかの人たちのように、奪いとものふせいのものかんとうおかものちょうぜいにんものかんしやしゅうどだんじきぜんしゅうにゅうぶん取る者、不正な者、姦通を犯す者でなく、また、この徴税人のような者でもないことを感謝します。"わたしは週に二度断食し、全収入の十分の一を献げています。』"ところが、徴税人は遠くに立って、目を天に上げようとせず、胸を打ちながら言った。『神様、罪人のわたしを憐れんでください。』"言っておくが、義とされて家に帰ったのは、この人であって、あのファリサイ派の人ではない。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。」

こども　しゅくふく
子供を祝福する

（マタ1913—15、マコ1013—16）

　　"イエスに触れていただくために、人々は乳飲み子までも連れて来た。弟子たちは、これを見て叱った。"しかし、イエスは乳飲み子たちを呼び寄せて言われた。「

こども　こ　さまた　かみ　くに　もの　い　こども　かみ　くに　う　い
子供たちをわたしのところに来させなさい。妨　げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。』はつきり言っておく。子供のように神の国を受け入れ
ひと　けっ　はい
る人でなければ、決してそこに入ることはできない。」

かねち　ぎ　いん
金持ちの議員

(マタ19 16—30、マコ10 17—31)

18ある議員がイエスに、「善い先生、何をすれば永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか」と尋ねた。19イエスは言われた。「なぜ、わたしを『善い』と言
うのか。神おひとりのほかに、善い者はだれもいない。20『姦淫するな、殺すな、盗むな、偽証するな、父母を敬え』という掟をあなたは知っているはずだ。
』21すると議員は、「そういうことはみな、子供の時から守ってきました」と言った。22これを聞いて、イエスは言われた。「あなたに欠けているものがまだ一つあ
る。持っている物をすべて売り払い、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」23しかし、その
ひと　き　ひじょう　かな　たいへん　かねち
人はこれを聞いて非　常に悲しんだ。大変な金持ちだったからである。

24イエスは、議員が非　常に悲しむのを見て、言われた。「財産のある者が神の国に入るのは、なんと難　しいことか。25金持ちが神の国に入るよりも、らくだ
が針の穴を通る方がまだ易しい。」26これを聞いた人々が、「それでは、だれが救われるのだろうか」と言うのと、27イエスは、「人間にはできないことも、神には
できる」と言われた。28するとペトロが、「このとおり、わたしたちは自分の物を捨ててあなたに従　って参りました」と言った。29イエスは言われた。「はつきり言
っておく。神の国のために、家、妻、兄　弟、両　親、子供を捨てた者はだれでも、30この世ではその何倍もの報いを受け、後の世では永遠の命　を受ける。」

どし　ふっかつ　よこく
イエス、三度死と復活を予告する

(マタ20 17—19、マコ10 32—34)

31イエスは、十二人を呼び寄せて言われた。「今、わたしたちはエルサレムへ上　て行く。人の子について預言者が書いたことはみな実　現する。32人の子は異邦
人に引き渡されて、侮　辱され、乱暴な仕打ちを受け、唾をかけられる。33彼らは人の子を、鞭打ってから殺す。そして、人の子は三日目に復　活する。」34十二
人はこれらのことが何も分からなかった。彼らにはこの言葉の意味が隠されていて、イエスの言われたことが理解できなかったのである。

ちか　もうじん
エリコの近くで盲人をいやす

(マタ20 29—34、マコ10 46—52)

35イエスがエリコに近づかれたとき、ある盲人が道端に座　って物乞いをしていた。36群　衆が通　て行くのを耳にして、「これは、いったい何事ですか」と尋ね
た。37「ナザレのイエスのお通りだ」と知らせると、38彼は、「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」と叫んだ。39先に行く人々が叱りつけて黙らせよ
うとしたが、ますます、「ダビデの子よ、わたしを憐れんでください」と叫び続けた。40イエスは立ち止まって、盲人をそばに連れて来るように命じられた。彼が
近づくと、イエスはお尋ねになった。41「何をしてほしいのか。」盲人は、「主よ、目が見えるようになりたいのです」と言った。42そこで、イエスは言われた。「
見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救った。」43盲人はたちまち見えるようになり、神をほめたたえながら、イエスに従　った。これを見た民　衆は、こ
ぞって神を賛美した。

ちょうぜいにん
徴　税人ザアカイ

「イエスはエリコに入り、町を通っておられた。¹そこにザアカイという人がいた。この人は徴税人の頭で、金持ちであった。²イエスがどんな人か見ようとしたが、背が低かったので、群衆に遮られて見る事ができなかった。³それで、イエスを見るために、走って先回りし、いちじく桑の木に登った。そこを通り過ぎようとしておられたからである。⁴イエスはその場所に来ると、上を見上げて言われた。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」⁵「ザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。⁶これを見た人たちは皆つぶやいた。「あの人は罪深い男のところに行行って宿をとった。」⁷しかし、ザアカイは立ち上がって、主に言った。「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します。」⁸イエスは言われた。「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。⁹人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」

「ムナ」のたとえ

(マタ25 14—30)

「人々がこれらのことに聞き入っているとき、イエスは更に一つのたとえを話された。エルサレムに近づいておられ、それに、人々が神の国はすぐにも現れるものと思っていたからである。¹²イエスは言われた。「ある立派な家柄の人が、王の位を受けて帰るために、遠い国へ旅立つことになった。¹³そこで彼は、十人の僕を呼んで十ムナの金を渡し、『わたしが帰って来るまで、これで商売をなさい』と言った。¹⁴しかし、国民は彼を憎んでいたので、後から使者を送り、『我々はこの人を王にいただきたくない』と言わせた。¹⁵さて、彼は王の位を受けて帰って来ると、金を渡しておいた僕を呼んで来させ、どれだけ利益を上げたかを知ろうとした。¹⁶最初の者が進み出て、『御主人様、あなたの一ムナで十ムナうけました』と言った。¹⁷主人は言った。『良い僕だ。よくやった。お前はごく小さな事に忠実だったから、十の町の支配権を授けよう。』¹⁸二番目の者が来て、『御主人様、あなたの一ムナで五ムナ稼ぎました』と言った。¹⁹主人は、『お前は五つの町を治めよ』と言った。²⁰また、ほかの者が来て言った。『御主人様、これがあなたの一ムナです。布に包んでしまっておきました。』²¹あなたは預けないものも取り立て、蒔かないものも刈り取られる厳しい方なので、恐ろしかったのです。』²²主人は言った。『悪い僕だ。その言葉のゆえにお前を裁こう。わたしが預けなかったものも取り立て、蒔かなかったものも刈り取る厳しい人間だと知っていたのか。』²³ではなぜ、わたしの金を銀行に預けなかったのか。そうしておけば、帰って来たとき、利息付きでそれを受け取れたのに。』²⁴そして、そばに立っていた人々に言った。『その一ムナをこの男から取り上げて、十ムナも持っている者に与えよ。』²⁵僕たちが、『御主人様、あの人は既に十ムナ持っています』と言うと、²⁶主人は言った。『言っておくが、だれでも持っている人は、更に与えられるが、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられる。』²⁷ところで、わたしが王になるのを望まなかったあの敵どもを、ここに引き出して、わたしの目の前で打ち殺せ。』」

エルサレムに迎えらるる

(マタ21 1—11、マコ11 1—11、ヨハ12 12—19)

²⁸イエスはこうに話してから、先に立つて進み、エルサレムに上って行かれた。²⁹そして、「オリブ畑」と呼ばれる山のふもとにあるベトファゲとベタニアに近づいたとき、二人の弟子を使いに出そうとして、³⁰言われた。「向こうの村へ行きなさい。そこに入ると、まだだれも乗ったことのない子ろばのつないであるのが見つかる。それをほどいて、引いて来なさい。³¹もし、だれかが、『なぜほどくのか』と尋ねたら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。」³²使いに出された者たちが出發けて行くと、言われたとおりであった。³³ろばの子をほどいていると、その持ち主たちが、「なぜ、子ろばをほどくのか』と言った。³⁴二人は、「主がお入り用なのです』と言った。³⁵そして、子ろばをイエスのところに引いて来て、その上に自分の服をかけ、イエスをお乗せした。³⁶イエスが進んで行かれると、人々は自分の服を道に敷いた。

³⁷イエスがオリブ山の下り坂にさしかかれたとき、弟子の群れはこぞつて、自分の見たあらゆる奇跡のことで喜び、声高らかに神を賛美し始めた。

の名によって来られる方、王に、

福があるように。

これは平和、

:高きところには栄光。」

³⁸すると、ファリサイ派のある人々が、群衆の中からイエスに向かって、「先生、お弟子たちを叱ってください』と言った。⁴⁰イエスはお答えになった。「言っておくが、もしこの人たちが黙れば、石が叫びだす。」

⁴¹エルサレムに近づき、都が見えたとき、イエスはその都のために泣いて、『言われた。「もしこの日に、お前も平和への道をわきまえていたなら……。しかし今は、それがお前には見えない。⁴²やがて時が来て、敵が周りに堡壘を築き、お前を取り巻いて四方から攻め寄せ、『お前とそこにいるお前の子らを地にたたきつけ、お前の中の石を残らず崩してしまうだろう。それは、神の訪れてくださる時をわきまえなかったからである。』

神殿から 商 人を追い出す

(マタ21 12—17、マコ11 15—19、ヨハ2 13—22)

それから、イエスは神殿の境内に入り、そこで 商 売をしていた人々を追い出し始めて、⁴⁶彼らに言われた。「こう書いてある。

『わたしの家は、祈りの家でなければならない。』

ところが、あなたたちはそれを強盗の巢にした。」

⁴⁷毎日、イエスは境内で教えておられた。祭司 長、律法学者、民の指導者たちは、イエスを殺そうと謀ったが、⁴⁸どうすることもできなかった。民 衆 が皆

、夢 中 になってイエスの 話 に聞き入っていたからである。

権威についての問答

(マタ21 23—27、マコ11 27—33)

20

ある日、イエスが神殿の境内で民 衆 に教え、福音を告げ知らせておられると、祭司 長 や律法学者たちが、長 老たちと一緒に近づいて来て、言った。「

我々に言いなさい。何の権威でこのようなことをしているのか。その権威を与えたのはだれか。」¹イエスはお答えになった。「では、わたしも一つ尋ねるから、

それに答えなさい。²ヨハネの 洗礼 は、天からのものだったか、それとも、人からのものだったか。」³彼らは相談した。「『天からのものだ』と言えば、『で

は、なぜヨハネを信じなかったのか』と言うだろう。」「⁴人からのものだ』と言えば、民 衆 はこそつて我々を石で殺すだろう。ヨハネを預言者だと信じ込んでい

るのだから。」⁵そこで彼らは、「どこからか、分からない」と答えた。⁶すると、イエスは言われた。「それなら、何の権威でこのようなことをするのか、わたしも

言うまい。」

「ぶどう園と農夫」のたとえ

(マタ21 33—46、マコ12 1—12)

⁷イエスは民 衆 にこのたとえを話し始められた。「ある人がぶどう園を作り、これを農夫たちに貸して長い旅に出た。⁸収 穫の時になったので、ぶどう園の

収 穫を納めさせるために、 僕 を農夫たちのところへ送った。ところが、農夫たちはこの 僕 を 袋 だたきにして、何も持たせないで追い返した。⁹そこでまた、

ほかの 僕 を送ったが、農夫たちはこの 僕 をも 袋 だたきにし、侮 辱 して何も持たせないで追い返した。¹⁰更に三人目の 僕 を送ったが、これにも傷を負わせて

ほうり出した。¹¹そこで、ぶどう園の主人は言った。『どうしようか。わたしの愛する息子を送ってみよう。この子ならたぶん 敬 ってくれるだろう。』¹²農夫たち

は息子を見て、互いに論じ合った。『これは跡取りだ。殺してしまおう。そうすれば、相続財産は我々のものになる。』¹³そして、息子をぶどう園の外にほうり

出して、殺してしまった。さて、ぶどう園の主人は農夫たちをどうするだろうか。¹⁴戻って来て、この農夫たちを殺し、ぶどう園をほかの人たちに与えるにちが

いない。」彼らはこれを聞いて、「そんなことがあつてはなりません」と言った。¹⁵イエスは彼らを見つめて言われた。「それでは、こう書いてあるのは、何の意味

か。

え た もの す いし
を建てる者の捨てた石、

すみ おやいし
が隅の親石となった。」

¹⁶その石の上に落ちる者はだれでも打ち砕かれ、その石がだれかの上に落ちれば、その人は押しつぶされてしまう。」¹⁷そのとき、律法学者たちや祭司 長 たち

は、イエスが自分たちに当てつけてこのたとえを話されたと気づいたので、イエスに手を下そうとしたが、民 衆 を恐れた。

こうてい ぜいきん
皇帝への税金

(マタ22 15—22、マコ12 13—17)

²⁰そこで、機会をねらっていた彼らは、正しい人を 装 う回し者を遣わし、イエスの言葉じりをとらえ、総 督の支配と権 力にイエスを渡そうとした。²¹回し

者らはイエスに尋ねた。「先生、わたしたちは、あなたがおっしゃることも、教えてくださることも正しく、また、えこひいきなしに、真理に基づいて神の道を

教えておられることを知っています。²²ところで、わたしたちが皇帝に税 金を納めるのは、律法に 適 っているでしょうか、適 っていないでしょうか。」²³イエスは

彼らのたくらみを見抜いて言われた。²⁴「デナリオン銀貨を見せなさい。そこには、だれの 肖 像と銘があるか。」彼らが「 皇 帝のものです」と言うと、²⁵イエスは

言われた。「それならば、 皇 帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」²⁶彼らは民 衆 の前でイエスの言葉じりをとらえることができず、その答に

驚 いて黙ってしまった。

ふっかつ もんどう
復活についての問答

(マタ22 23—33、マコ12 18—27)

ふつかつ ひてい は ひとびと なんにん ちかよ き たず せんせい か ひと
さして、復活があることを否定するサドカイ派の人々が何人か近寄って来て、イエスに尋ねた。²⁸「先生、モーセはわたしたちのために書いています。『ある人
あに つま こ し ば あい おとうと あによめ けっこん あに あとつ にん きょうだい ちょうなん
の兄が妻をめとり、子がなくて死んだ場合、その 弟 は兄嫁と結婚して、兄の跡継ぎをもうけねばならない』と。²⁹ところで、七人の 兄 弟がいました。長 男
つま むか こ し じなん なん つぎつぎ おんな つま にん おな こども のこ し さいご
が妻を迎えましたが、子がないまま死にました。³⁰次男、³¹三男と次々にこの 女 を妻にしましたが、七人とも同じように子供を残さないで死にました。³²最後に
その 女 も死にました。³³すると復活の時、その 女 はだれの妻になるのでしょうか。七人ともその 女 を妻にしたのです。」³⁴イエスは言われた。「この世の子らは
めとったり嫁いだりするが、³⁵次の世に入って死者の中から復活するのにふさわしいとされた人々は、めとることも嫁ぐこともない。³⁶この人たちは、もはや死ぬ
ことがない。天使に等しい者であり、復活にあずかる者として、神の子だからである。³⁷死者が復活することは、モーセも『柴』の個所で、主をアブラハムの神
、イサクの神、ヤコブの神と呼んで、示している。³⁸神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神なのだ。すべての人は、神によって生きているからである。
」³⁹そこで、律法学者の中には、「先生、立派なお答えです」と言う者もいた。⁴⁰彼らは、もはや何もあえて尋ねようとはしなかった。

こ もんどう
ダビデの子についての問答

（マタ22 41—46、マコ12 35—37）

かれ い ひとびと こ い じしん しへん なか い
“イエスは彼らに言われた。「どうして人々は、『メシアはダビデの子だ』と言うのか。⁴²ダビデ自身が詩編の中で言っている。

ゆ しゅ つ
は、わたしの主におおげになった。

みぎ ざ つ
わたしの右の座に着きなさい。

でき
しがあなたの敵を

あしだい
あなたの足台とするときまで」と。』

しゆ よ こ
“このようにダビデがメシアを主と呼んでいるのに、どうしてメシアがダビデの子なのか。」

りっぽうがくしゃ ひなん
律法学者を非難する

（マタ23 1—36、マコ12 38—40、ルカ11 37—54）

みんしゆう みな き で し い りっぽうがくしゃ き かれ なが ころも ある まわ ひろば あいさつ
⁴⁵民衆が皆聞いているとき、イエスは弟子たちに言われた。⁴⁶「律法学者に気をつけなさい。彼らは長い衣をまとして歩き回りたがり、また、広場で挨拶さ
れること、会堂では上席、宴会では上座に座ることを好む。⁴⁷そして、やもめの家を食べ物にし、見せかけの長い祈りをする。このような者たちは、人一倍
きび しば う
厳しい裁きを受けることになる。」

けんきん
やもめの献金

（マコ12 41—44）

21

め あ かね も さいせんばこ けんきん い み まず どうか まい い み い
‘イエスは目を上げて、金持ちたちが賽銭箱に献金を入れるのを見ておられた。²そして、ある貧しいやもめがレプトン銅貨二枚を入れるのを見て、³言われた。「
たし い まず い かね も みな あ あま なか けんきん ひと とぼ なか も
確かに言っておくが、この貧しいやもめは、だれよりもたくさん入れた。⁴あの金持ちたちは皆、有り余る中から献金したが、この人は、乏しい中から持っている
せいかつひ ぜんぶ い
生活費を全部入れたからである。」

しんでん ほうかい よこく
神殿の崩壊を予告する

（マタ24 1—2、マコ13 1—2）

ひと しんでん みごと いし ほうのうぶつ かざ はな い もの み いし
⁵ある人たちが、神殿が見事な石と奉納物で飾られていることを話していると、イエスは言われた。⁶「あなたがたはこれらの物に見とれているが、一つの石も
くず た いし うえ のこ ひく
崩されずに他の石の上に残ることのない日が来る。」

しゅうまつ しるし
終末の徴

（マタ24 3—14、マコ13 3—13）

かれ たず せんせい お お しるし い
⁷そこで、彼らはイエスに尋ねた。「先生、では、そのことはいつ起こるのですか。また、そのことが起こるときには、どんな徴があるのですか。」⁸イエスは言
われた。「惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名乗る者が大勢現れ、『わたしがそれだ』とか、『時が近づいた』とか言うが、ついて行ってはな
せんそう ほうどう き おお き よ お こ
らない。⁹戦争とか暴動のことを聞いても、おびえてはならない。こういうことがまず起こるに決まっているが、世の終わりはすぐには来ないからである。」¹⁰そして

さらに、言われた。「民は民に、国は国に敵対して立ち上がる。」「そして、大きな地震があり、方々に飢饉や疫病が起り、恐ろしい現象や著しい徴が天に現れる。」「しかし、これらのことがすべて起こる前に、人々はあなたがたに手を下して迫害し、会堂や牢に引き渡し、わたしの名のために王や総督の前に引っ張って行く。」「それはあなたがたにとって証しをする機会となる。」「だから、前もって弁明の準備をするまいと、心に決めなさい。」「どんな反対者でも、対抗も反論もできないような言葉と知恵を、わたしがあなたがたに授けるからである。」「あなたがたは親、兄弟、親族、友人にまで裏切られる。中には殺されるものもある。」「また、わたしの名のために、あなたがたはすべての人に憎まれる。」「しかし、あなたがたの髪の毛の一本も決してなくならない。」「忍耐によって、あなたがたは命をかり取りなさい。」

エルサレムの滅亡を予告する

（マタ24 15—21、マコ13 14—19）

「エルサレムが軍隊に囲まれるのを見たら、その滅亡が近づいたことを悟りなさい。」「そのとき、ユダヤにいた人々は山に逃げなさい。」「都の中にいる人々は、そこから立ち退きなさい。」「田舎にいた人々は都に入ってはならない。」「書かれていることがことごとく実現する報復の日だからである。」「それらの日には、身重の女と乳飲み子を持つ女は不幸だ。この地には大きな苦しみがあり、この民には神の怒りが下るからである。」「人々は剣の刃に倒れ、捕虜となってあらゆる国に連れて行かれる。」「異邦人の時代が完了するまで、エルサレムは異邦人に踏み荒らされる。」

人の子が来る

（マタ24 29—31、マコ13 24—27）

「それから、太陽と月と星に徴が現れる。」「地上では海がどよめき荒れ狂うので、諸国の民は、なすすべを知らず、不安に陥る。」「人々は、この世界に何が起こるのかとおびえ、恐ろしさのあまり気を失うだろう。」「天体が揺り動かされるからである。」「そのとき、人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを、人々は見る。」「このようなことが起こり始めたら、身を起こして頭を上げなさい。」「あなたがたの解放の 때가近いからだ。」

「いちじくの木」のたとえ

（マタ24 32—35、マコ13 28—31）

「それから、イエスはたとえを話された。」「いちじくの木や、ほかのすべての木を見なさい。」「葉が出始めると、それを見て、既に夏の近づいたことがおのずと分かる。」「それと同じように、あなたがたは、これらのことが起こるのを見たら、神の国が近づいていると悟りなさい。」「はつきり言うておく。すべてのことが起こるまでは、この時代は決して滅びない。」「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない。」

目を覚ましていなさい

「放縦や深酒や生活の煩いで、心が鈍くならないように注意しなさい。」「さもないと、その日が不意に畏のようにあなたがたを襲うことになる。」「その日は、地の表のあらゆる所に住む人々すべてに襲いかかるからである。」「しかし、あなたがたは、起ころうとしているこれらすべてのことから逃れて、人の子の前に立つことができるように、いつも目を覚まして祈りなさい。」

「それからイエスは、日中は神殿の境内で教え、夜は出て行って「オリーブ畑」と呼ばれる山で過ごされた。」「民衆は皆、話を聞こうとして、神殿の境内にいたイエスのもとに朝早くから集まって来た。」

イエスを殺す計略

（マタ26 1—5、14—16、マコ14 1—2、10—11、ヨハ11 45—53）

22

「さて、逾越祭と言われている除酵祭が近づいていた。」「祭司長たちや律法学者たちは、イエスを殺すにはどうしたらよいかと考えていた。」「彼らは民衆を恐れていたのである。」「しかし、十二人の中の一人で、イスカリオテと呼ばれるユダの中に、サタンが入った。」「ユダは祭司長たちや神殿守衛長たちのもとに行き、どのようにしてイエスを引き渡そうかと相談をもちかけた。」「彼らは喜び、ユダに金を与えることに決めた。」「ユダは承諾して、群衆のいないときにイエスを引き渡そうと、良い機会をねらっていた。」

過越の食事を準備させる

（マタ26 17—19、マコ14 12—16）

「過越の小羊を屠るべき除酵祭の日が来た。」「イエスはペトロとヨハネとを使いに出そうとして、「行って過越の食事ができるように準備しなさい」と言われた。」「二人が、「どこに用意いたしましょうか」と言うと、」「イエスは言われた。「都に入ると、水がめを運んでいる男に出会う。その人が入る家までついて行き、」「家の主人にはこう言いなさい。『先生が、「弟子たちと一緒に過越の食事をする部屋はどこか」とあなたがたに言っています。』」すると、席の整った二

かい ひろ ま み じゅん び ふた り い い すぎこし しよくし じゅん び
階の広間を見せてくれるから、そこに 準 備をしておきなさい。」¹³二人が行ってみると、イエスが言われたとおりだったので、過 越の 食 事を 準 備した。

しゆ ばんさん
主の晩餐

(マタ26 26—30、マコ14 17—26、ヨハ13 21—30、一コリ11 23—25)

じこく しよくし せき つ し と いつしょ い くる う まえ とも すぎこし しよく
¹⁴時刻になったので、イエスは 食 事の席に着かれたが、使徒たちも一 緒だった。¹⁵イエスは言われた。「苦しみを受ける前に、あなたがたと共にこの過 越の 食
じ せつ ねが い かみ くに すぎこし な と けつ すぎこし しよくし
事をしたいと、わたしは切に願っていた。¹⁶言っておくが、神の国で過 越が成し遂げられるまで、わたしは決してこの過 越の 食 事をとることはない。」¹⁷そして、
さかずき と あ かんしゃ いの と な い と たが まわ の い かみ くに く こんご
イエスは 杯 を取り上げ、感謝の祈りを唱えてから言われた。「これを取り、互いに回して飲みなさい。¹⁸言っておくが、神の国が来るまで、わたしは今後ど
み つく の けつ と かんしゃ いの と な さ しと あた い
うの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。」¹⁹それから、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒たちに与えて言われた。「これ
は、あなたがたのために与えられるわたしの 体 である。わたしの記念としてこのように 行 いなさい。」²⁰ 食 事を終えてから、 杯 も同じようにして言われた。
さかずき なが ち あたら けいやく しよくし せき つ ひと きゆうじ もの えら しよくし せき つ ひと
「この 杯 は、あなたがたのために流される、わたしの血による 新 しい契約である。²¹しかし、見よ、わたしを裏切る者が、わたしと一緒に手を 食 卓に置いて
ひと こ さだ さ い ひと こ うらぎ もの ふこう しと じぶん
いる。²²人の子は、定められたとおり去って行く。だが、人の子を裏切るその者は不幸だ。」²³そこで使徒たちは、自分たちのうち、いったいだれが、そんなことを
しようとしているのかと互いに議論をし始めた。

えら もの
いちばん偉い者

し と あいだ じぶん えら ぎろん お い いほうじん あいだ おう たみ
²⁴また、使徒たちの 間 に、自分たちのうちでだれがいちばん偉いだろうか、という議論 も起こった。²⁵そこで、イエスは言われた。「異邦人の 間 では、王が民
しはい たみ うえ けんりよく ふ もの しゅごしや よ なか えら ひと わか
を支配し、民の上に権 力を振るう者が守護者と呼ばれている。²⁶しかし、あなたがたはそれではいけない。あなたがたの中でいちばん偉い人は、いちばん若い
もの うえ た ひと つか もの しよくし せき つ ひと きゆうじ もの えら しよくし せき つ ひと
者のようになり、上に立つ人は、仕える者のようになりなさい。²⁷ 食 事の席に着く人と 給 仕する者とは、どちらが偉いか。 食 事の席に着く人ではないか。し
なか きゆうじ もの しゅじゅ しれん あ た かつ かつ
かし、わたしはあなたがたの中で、いわば 給 仕する者である。²⁸あなたがたは、わたしが種 々の試練に遭ったとき、絶えずわたしと一緒に踏みとどまってくれ
ちち しはいけん くに しよくし せき
た。²⁹だから、わたしの父がわたしに支配権をゆだねてくださったように、わたしもあなたがたにそれをゆだねる。³⁰あなたがたは、わたしの国でわたしの 食 事の席
つ の く とお ううざ すわ ぶぞく おさ
に着いて飲み食いを共にし、王座に座ってイスラエルの十二部族を治めることになる。」

りはん よこく
ペトロの離反を予告する

(マタ26 31—35、マコ14 27—31、ヨハ13 36—38)

こむぎ かみ ねが き い しんこう な
³¹「シモン、シモン、サタンはあなたがたを、小麦のようにふるいにかけることを神に願って聞き入れられた。³²しかし、わたしはあなたのために、信 仰が無くな
いの た なお きようだい ちから しゅ ごいつしょ ろう はい し
らないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄 弟たちを 力 づけてやりなさい。」³³するとシモンは、「主よ、御一緒になら、牢に入っても死んでも
かくご い い きよう にわとり な ど し い
よいと覚悟しております」と言った。³⁴イエスは言われた。「ペトロ、言っておくが、あなたは今日、 鶏 が鳴くまでに、三度わたしを知らないと言うだろう。」

さいふ ふくろ つるぎ
財布と袋と剣

し と い さいふ ふくろ はきもの も つか なに ふそく かれ
³⁵それから、イエスは使徒たちに言われた。「財布も 袋 も履物も持たせずにあなたがたを遣わしたとき、何か不足したものがあつたか。」彼らが、「いいえ、
なに い い いま さいふ もの も い つるぎ もの
何もありませんでした」と言うと、³⁶イエスは言われた。「しかし今は、財布のある者は、それを持って行きなさい。 袋 も同じようにしなさい。 剣 のない者は、
ふく う か い ひと はんざいにん ひとり かぞ か み かなら じつげん
服を売ってそれを買いなさい。³⁷言っておくが、『その人は犯罪人の一人に数えられた』と書かれていることは、わたしの身に 必 ず実現する。わたしにかかわる
じつげん つかれ しゅ つるぎ ふたふ い い
ことは実現するからである。」³⁸そこで彼らが、「主よ、 剣 なら、このとおりここに二振りあります」と言うと、イエスは、「それでよい」と言われた。

やま いの
オリーブ山で祈る

(マタ26 36—46、マコ14 32—42)

で やま い でし したが ばしょ く でし ゆうわく おちい
³⁹イエスがそこを出て、いつものようにオリーブ山に行かされると、弟子たちも 従 った。⁴⁰いつもの場所に来ると、イエスは弟子たちに、「誘惑に 陥 らないように
いの い じぶん いし な とど ところ はな いの ちち みころ さかずき と
祈りなさい」と言われた。⁴¹そして自分は、石を投げて届くほどの 所 に離れ、ひざまずいてこう祈られた。⁴²「父よ、御 心 なら、この 杯 をわたしから取りのけ
ねが みころ おこな てんし てん あらわ ちから くる
てください。しかし、わたしの願ひではなく、御 心 のままに 行 ってください。」〔⁴³すると、天使が天から 現 れて、イエスを 力 づけた。⁴⁴イエスは苦しみもだ
え、いよいよ切に祈られた。汗が血の 滴 るように地面に落ちた。〕⁴⁵イエスが祈り終わって立ち上がり、弟子たちのところに戻って御覧になると、彼らは悲しみ
は ねむ こ い ねむ ゆうわく おちい お いの
の果てに眠り込んでいた。⁴⁶イエスは言われた。「なぜ眠っているのか。誘惑に 陥 らぬよう、起きて祈っていなさい。」

うらぎ
裏切られる

(マタ26 47—56、マコ14 43—50、ヨハ18 3—11)

はな ぐんしゅう あらわ にん ひとり もの せんとう た せつぶん ちか
⁴⁷イエスがまだ話しておられると、群 衆 が 現 れ、十二人の一人でユダという者が先頭に立って、イエスに接吻をしようと近づいた。⁴⁸イエスは、「ユダ、あ
せつぶん ひと こ うらぎ い まわ ひとびと こと な ゆ み と しゅ つるぎ き い
なたは接吻で人の子を裏切るのか」と言われた。⁴⁹イエスの周りにいた人々 は事の成り行きを見て取り、「主よ、 剣 で切りつけましょうか」と言った。⁵⁰そのうち
もの だいさいし てした う みぎ みみ き お い みみ ふ
のある者が大祭司の手下に打ちかかって、その右の耳を切り落とした。⁵¹そこでイエスは、「やめなさい。もうそれでよい」と言い、その耳に触れていやされ
お よ き さいしちょう しんでんしゅえいちょう ちょうろう い ごうとう む つるぎ ぼう も き
た。⁵²それからイエスは、押し寄せて来た祭司 長、神殿守衛 長、長 老たちに言われた。「まるで強盗にでも向かうように、 剣 や棒を持ってやって来たの

まいにち しんでん けいだい いっしょ て くだ いま とき やみ ちから ふ か。⁹³わたしは毎日、神殿の境内で一緒にいたのに、あなたたちはわたしに手を下さなかった。だが、今はあなたたちの時で、闇が力を振るっている。」

たいほ イエス、逮捕される

し い ペトロ、イエスを知らないと言う

(マタ26 57—58、69—75、マコ14 53—54、66—72、ヨハ18 12—18、25—27)

⁹⁴人々はイエスを捕らえ、引いて行き、大祭司の家に連れて入った。ペトロは遠く離れて 従った。⁹⁵人々が屋敷の中庭の中央に火をたいて、一緒に座っていたので、ペトロも中に混じって腰を下ろした。⁹⁶するとある女中が、ペトロがたき火に照らされて座っているのを目にして、じっと見つめ、「この人も一緒にいました」と言った。⁹⁷しかし、ペトロはそれを打ち消して、「わたしはあの人を知らない」と言った。⁹⁸少したってから、ほかの人がペトロを見て、「お前もあの連中の仲間だ」と言うのと、ペトロは、「いや、そうではない」と言った。⁹⁹—時間ほどたつと、また別の人が、「確かにこの人も一緒だった。ガリラヤの者だから」と言い張った。¹⁰⁰だが、ペトロは、「あなたの言うことは分からない」と言った。まだこう言い終わらないうちに、突然 鶏が鳴いた。¹⁰¹主は振り向いてペトロを見つめられた。ペトロは、「今日、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」と言われた主の言葉を思い出した。¹⁰²そして外に出て、激しく泣いた。

ほうこう う 暴行を受ける

(マタ26 67—68、マコ14 65)

¹⁰³さて、見張りをしていた者たちは、イエスを侮辱したり殴ったりした。¹⁰⁴そして目隠しをして、「お前を殴ったのはだれか。言い当ててみる」と尋ねた。¹⁰⁵そのほか、さまざまなことを言ってイエスをののしった。

さいこうほういん さいばん う 最高法院で裁判を受ける

(マタ26 59—66、マコ14 55—64、ヨハ18 19—24)

¹⁰⁶夜が明けると、民の長老会、祭司長たちや律法学者たちが集まった。そして、イエスを最高法院に連れ出して、¹⁰⁷「お前がメシアなら、そうだと言うがよい」と言った。イエスは言われた。「わたしが言っても、あなたたちは決して信じないだろう。¹⁰⁸わたしが尋ねても、決して答えないだろう。¹⁰⁹しかし、今から後、人の子は全能の神の右に座る。」¹¹⁰そこで皆の者が、「では、お前は神の子か」と言うと、イエスは言われた。「わたしがそうだとは、あなたたちが言っている。」¹¹¹人々は、「それでもまだ証言が必要だろうか。我々は本人の口から聞いたのだ」と言った。

じんもん ピラトから尋問される

(マタ27 1—2、11—14、マコ15 1—5、ヨハ18 28—38)

23

¹そこで、全会衆が立ち上がり、イエスをピラトのもとに連れて行った。²そして、イエスをこう訴え始めた。「この男はわが民族を惑わし、皇帝に税を納めるのを禁じ、また、自分が王たるメシアだと言っていることが分かりました。」³そこで、ピラトがイエスに、「お前がユダヤ人の王なのか」と尋問すると、イエスは、「それは、あなたが言っていることです」とお答えになった。⁴ピラトは祭司長たちと群衆に、「わたしはこの男に何の罪も見いだせない」と言った。⁵しかし彼らは、「この男は、ガリラヤから始めてこの都に至るまで、ユダヤ全土で教えながら、民衆を扇動しているのです」と言い張った。

じんもん ヘロデから尋問される

⁶これを聞いたピラトは、この人はガリラヤ人かと尋ね、⁷ヘロデの支配下にあることを知ると、イエスをヘロデのもとに送った。ヘロデも当時、エルサレムに滞在していたのである。⁸彼はイエスを見ると、非常に喜んだ。というのは、イエスのうわさを聞いて、ずっと以前から会いたいと思っていたし、イエスが何かしるしを行うのを見たいと望んでいたからである。⁹それで、いろいろと尋問したが、イエスは何もお答えにならなかった。¹⁰祭司長たちと律法学者たちはそこにいて、イエスを激しく訴えた。¹¹ヘロデも自分の兵士たちと一緒にイエスをあざけり、侮辱したあげく、派手な衣を着せてピラトに送り返した。¹²この日、ヘロデとピラトは仲がよくなった。それまでは互いに敵対していたのである。

しけい はんけつ う 死刑の判決を受ける

(マタ27 15—26、マコ15 6—15、ヨハ18 39—19 16)

¹³ピラトは、祭司長たちと議員たちと民衆を呼び集めて、¹⁴言った。「あなたたちは、この男を民衆を惑わす者としてわたしのところに連れて来た。わたしはあなたたちの前で取り調べたが、訴えているような犯罪はこの男には何も見つからなかった。¹⁵ヘロデととも同じであった。それで、我々のもとに送り返してきたのだが、この男は死刑に当たるようなことは何もしていない。¹⁶だから、鞭で懲らしめて釈放しよう。」¹⁷しかし、人々は一斉に、「その男を殺せ。バラバを釈放しろ」と叫んだ。¹⁸このバラバは、都に起こった暴動と殺人のかどで投獄されていたのである。¹⁹ピラトはイエスを釈放しようと思っ

あらた よ ひとびと じゅうじ か じゅうじ か さけ つづ どめ い あくじ はたら い
改 めて呼びかけた。²¹しかし人々は、「十字架につける、十字架につける」と呼び続けた。²²ピラトは三度目に言った。「いったい、どんな悪事を働いたと言
うのか。この男には死刑に当たる犯罪は何も見つからなかった。だから、鞭で懲らしめて釈放しよう。」²³ところが人々は、イエスを十字架につけるようにあ
くまでも大声で要求し続けた。その声はますます強くなった。²⁴そこで、ピラトは彼らの要求をいれる決定を下した。²⁵そして、暴動と殺人のかどで投獄さ
れていたバラバを要求どおりに釈放し、イエスの方は彼らに引き渡して、好きなようにさせた。

じゅうじ か
十字架につけられる

(マタ27:32—44、マコ15:21—32、ヨハ19:17—27)

ひと々と　ひ　とちゆう　いなか　で　き　じん　つか　じゅうじか　せお　うし　はこ　みんしゆう　なげ　かな
ひと々はイエスを引いて行く途中、田舎から出て来たシモンというキレネ人を捕まえて、十字架を背負わせ、イエスの後から運ばせた。²⁷民衆と嘆き悲しむ婦人たちが大きな群れを成して、イエスに従った。こうイエスは婦人たちの方を振り向いて言われた。「エルサレムの娘たち、わたしのために泣くな。むしろ、自分と自分の子供たちのために泣け。²⁸人々が、『子を産めない女、産んだことのない胎、乳を飲ませたことのない乳房は幸いだ』と言う日が来る。

ひとびと やま む
とき、人々は山に向かっては、

れわれ　うえ　くず　お　　　　　　　　　　　い
『戈々の上に崩れ落ちてくれ』と言ひ、

む
こ向かつては、

れわれ おお い はじ
戈々を覆ってくれ』と言い始める。

31 『生の木』 さえこうされるのなら、『枯れた木』はいったいどうなるのだろうか。」

32 ほかに、二人の犯罪人が、イエスと一緒に死刑にされるために、引かれて行った。³³「されこうべ」と呼ばれている所に来ると、そこで人々はイエスを十字架につけた。犯罪人も、一人は右に一人は左に、十字架につけた。³⁴「そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのかわからないのです。」」人々はくじを引いて、イエスの服を分け合った。³⁵民衆は立って見つめていた。議員たちも、あざ笑って言った。「他人を救ったのだ。もし神からのメシアで、選ばれた者なら、自分を救うがよい。」³⁶兵士たちもイエスに近寄り、酸いぶどう酒を突きつけながら侮辱して、³⁷言った。「お前がユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ。」³⁸イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王」と書いた札も掲げてあった。

39 十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののしった。「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ。」⁴⁰すると、もう一人の方がたしなめた。「お前は神をも恐れないのか、同じ刑罰を受けているのに。」⁴¹我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」⁴²そして、「イエスよ、あなたの御園においでになるときには、わたしを思い出してください」と言った。⁴³するとイエスは、「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。

イエスの^し死

(マツ27:45-56、マコ15:33-41、ヨハ19:28-30)

すで ひる じ ぜんち くら じ つつ たいよう ひかり うしな しんでん た まく ま なか さ おおごえ
“既に昼の十二時ごろであつた。全地は暗くなり、それが三時まで続いた。”⁴⁶太陽は 光 を失 つていた。神 殿の垂れ幕が真ん中から裂けた。⁴⁸イエスは大声で
さけ ちち れい みで いき ひ と ひやくにんたいちよう で き こと み ほんとう ひと ただ ひと
叫ばれた。「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」こう言つて息を引き取られた。⁴⁷百 人 隊 長 はこの出来事を見て、「本当に、この人は正しい人だつ
い かみ さんび けんぶつ あつ ぐんしゆう みな で き こと み わね う かえ い し ひと
た」と言つて、神を賛美した。⁴⁸見物に集まっていた群 衆 も皆、これらの出来事を見て、胸を打ちながら帰つて行つた。⁴⁹イエスを知つていたすべての人たち
したが き ふじん とお た み
と、ガリラヤから 従 つて来た婦人たちは遠くに立つて、これらのことを見ていた。

はか ほうむ
墓に 葬 られる

(マタ27:57—61、マコ15:42—47、ヨハ19:38—42)

⁵⁰さて、ヨセフという議員がいたが、善良な正しい人で、⁵¹同僚の決議や行動には同意しなかった。ユダヤ人の町アリマタヤの出身で、神の国を待ち望んでいたのである。⁵²この人がピラトのところにいき、イエスの遺体を渡してくれるようにお願い出て、⁵³遺体を十字架から降ろして亜麻布で包み、まだれも葬られたことのない、岩に掘った墓の中に納めた。⁵⁴その日は準備の日であり、安息日が始まろうとしていた。⁵⁵イエスと一緒にガリラヤから来た婦人たちは、ヨセフの後について行き、墓と、イエスの遺体が納められている有様とを見届け、⁵⁶家に帰って、香料と香油を準備した。

ふっかつ
復活する

(マタ28 1—10、マコ16 1—8、ヨハ20 1—10)

ふじん あんそくび おきて したが やす
婦人たちは、安息日には 掟 に 従 っ て 休んだ。

24そして、週 の初めの日の明け方早く、準 備しておいた香 料 を持って墓に行った。²見ると、石が墓のわきに転がしてあり、³中に入っても、主イエスの遺体が見当たらなかった。⁴そのため途方に暮れていると、輝 く 衣 を着た二人の人がそばに 現 れた。⁵婦人たちが恐れて地に顔を伏せると、二人は言った。「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。⁶あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出しなさい。⁷人の子は 必 ず、罪 人の手に渡され、十 字架につけられ、三日目に復活することになっている、と言われたではないか。」⁸そこで、婦人たちはイエスの言葉を思い出した。⁹そして、墓から帰って、十一人とほかの人皆に一部始 終 を知らせた。¹⁰それは、マグダラのマリア、ヨハナ、ヤコブの母マリア、そして一 緒にいた他の婦人たちであった。婦人たちはこれらのことを使徒たちに話したが、¹¹使徒たちは、この 話 がたわ言のように思われたので、婦人たちを信じなかった。¹²しかし、ペトロは立ち上がって墓へ走り、身をかがめて中をのぞくと、亜麻布しかなかったので、この出来事に 驚 きながら家に帰った。

エマオで現れる

（マコ16 12—13）

¹³ちょうどこの日、二人の弟子が、エルサレムから六十スタディオン離れたエマオという村へ向かって歩きながら、¹⁴この一切の出来事について話し合っていた。¹⁵話し合い論じ合っていると、イエス御自身が近づいて来て、一 緒に歩き始められた。¹⁶しかし、二人の目は 遮 られていて、イエスだとは分からなかった。¹⁷イエスは、「歩きながら、やり取りしているその 話 は何のことですか」と言われた。二人は暗い顔をして立ち止まった。¹⁸その一人のクレオパという人が答えた。「エルサレムに滞在しているながら、この数日そこで起こったことを、あなたただはご存じなかったのですか。」¹⁹イエスが、「どんなことですか」と言われると、二人は言った。「ナザレのイエスのことです。この方は、神と民全体の前で、行 いにも言葉にも 力 のある預言者でした。²⁰それなのに、わたしたちの祭司長 たちや議員たちは、死刑にするため引き渡して、十 字架につけてしまったのです。²¹わたしたちは、あの方こそイスラエルを解放してくださると望みをかけていました。しかも、そのことがあってから、もう今日で三日目になります。²²ところが、仲間の婦人たちがわたしたちを 驚 かせました。婦人たちは朝早く墓へ行きましたが、²³遺体を見つけずに戻って来ました。そして、天使たちが 現 れ、『イエスは生きておられる』と告げたと言うのです。²⁴仲間の者が何人か墓へ行ってみたのですが、婦人たちが言ったとおりで、あの方は見当たりませんでした。」²⁵そこで、イエスは言われた。「ああ、物分かりが悪く、心 が鈍く預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち、²⁶メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのではないか。」²⁷そして、モーセとすべての預言 者から始めて、聖書全体にわたって、御自分について書かれていることを説明された。

²⁸一行は目指す村に近づいたが、イエスはなおも先へ行こうとされる様子だった。²⁹二人が、「一 緒にお泊まりください。そろそろ夕方になりますし、もう日も傾 いていきますから」と言って、無理に引き止めたので、イエスは共に泊まるため家に入られた。³⁰一 緒に 食 事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。³¹すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その 姿 は見えなくなった。³²二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心 は燃えていたではないか」と語り合った。³³そして、時を移さず 出 発して、エルサレムに戻ってみると、十一人とその仲間が集まって、³⁴本当に主は復活して、シモンに 現 れたと言っていた。³⁵二人も、道で起こったことや、パンを裂いてくださったときにイエスだと分かった次第を話した。

弟子たちに現れる

（マタ28 16—20、マコ16 14—18、ヨハ20 19—23、使徒16—8）

³⁶こういうことを話していると、イエス御自身が彼らの真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。³⁷彼らは恐れおののき、亡 霊を見ているのだと思った。³⁸そこで、イエスは言われた。「なぜ、うろたえているのか。どうして 心 に 疑 いを起こすのか。³⁹わたしの手や足を見なさい。まさしくわたした。さわ み ぼうれい にく ぼね み い て あし み かれ 触ってよく見なさい。亡 霊には肉も骨もないが、あなたがたに見えるとおりの、わたしにはそれがある。」⁴⁰こう言って、イエスは手と足をお見せになった。⁴¹彼らが喜びのあまりまだ信じられず、不思議がっているので、イエスは、「ここに何か食べ物があるか」と言われた。⁴²そこで、焼いた 魚 を一切れ差し出すと、⁴³イエスはそれを取って、彼らの前で食べられた。

⁴⁴イエスは言われた。「わたしについてモーセの律法と預言 者の書と詩編に書いてある事柄は、必 ずすべて実現する。これこそ、まだあなたがたと一 緒にい たころ、言っておいたことである。」⁴⁵そしてイエスは、聖書を悟らせるために彼らの 心 の目を開いて、⁴⁶言われた。「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。』⁴⁷また、罪の赦しを得させる悔い 改 めが、その名によってあらゆる国の人 々に宣べ伝えられる』と。エルサレムから始めて、⁴⁸あなたがたはこれらのことの 証 人となる。⁴⁹わたしは、父が約束されたものをあなたがたに送る。高い 所 からの 力 に覆われるまでは、都 にとど まっていなさい。」

天に上げられる

（マコ16 19—20、使徒19—11）

⁵⁰イエスは、そこから彼らをベタニアの辺りまで連れて行き、手を上げて 祝 福された。⁵¹そして、祝 福しながら彼らを離れ、天に上げられた。⁵²彼らはイエスを伏し拝んだ後、大 喜 びでエルサレムに帰り、⁵³絶えず神殿の境内にいて、神をほめたたえていた。

17 ³⁶ はたけ ふたり おとこ ひとり つ い た ひとり のこ
畑 に二人の 男 がいれば、一人は連れて行かれ、他の一人は残される。

23 ¹⁷ まつ たび しゅうじん ひとり かれ しゃくほう
祭りの度ごとに、ピラトは、囚 人を一人彼らに 釈 放してやらなければならなかった。

ヨハネによる福音書

- [1章](#) [2章](#) [3章](#) [4章](#) [5章](#)
- [6章](#) [7章](#) [8章](#) [9章](#) [10章](#)
- [11章](#) [12章](#) [13章](#) [14章](#) [15章](#)
- [16章](#) [17章](#) [18章](#) [19章](#) [20章](#)
- [21章](#)

[【戻る】](#)

ふくいんしよ
ヨハネによる福音書

ことば にく
言 が肉 となった

1 はじ ことば ことば かみ とも ことば かみ ことば はじ かみ とも ばんぶつ ことば な な ことば
'初めに 言 があつた。言 は神と共にあつた。言 は神であつた。この 言 は、初めに神と共にあつた。万物は 言 によつて成つた。成つたもので、言 によら
ずに成つたものは何一つなかつた。言 の内に 命 があつた。命 は人間を照らす 光 であつた。光 は暗闇の中で 輝 いている。暗闇は 光 を理解しなかつ
た。

かみ つか ひとり ひと な かれ あか き ひかり あか ひと かれ しん
神から遣わされた一人の人がいた。その名はヨハネである。彼は証しをするために来た。光 について証しをするため、また、すべての人が彼によつて信じる
ようになるためである。彼は 光 ではなく、光 について証しをするために来た。その 光 は、まことの 光 で、世に来てすべての人を照らすのである。言 は世に
あつた。世は 言 によつて成つたが、世は 言 を認めなかつた。言 は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかつた。しかし、言 は、自分を受け入れた
ひと な しん ひとびと かみ こ しかく あた ひとびと ち にく よく ひと よく かみ
人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。この人々は、血によつてではなく、肉の欲によつてではなく、人の欲によつてでもなく、神によつて
う
生まれたのである。

ことば にく あいだ やど えいこう み ちち ひと ご えいこう めぐ しん り み
言 は肉となつて、わたしたちの 間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であつて、恵みと真理とに満ちていた。ヨ
ハネは、この方について証しをし、声を張り上げて言った。「『わたしの後から来られる方は、わたしより優れている。わたしよりも先におられたからである』と
わたしが言つたのは、この方のことである。』わたしたちは皆、この方の満ちあふれる豊かさの中から、恵みの上に、更に恵みを受けた。律法はモーセを通し
て与えられたが、恵みと真理はイエス・キリストを通して 現 れたからである。いまだかつて、神を見た者はいない。父のふところにいる独り子である神、この
かた かみ しめ
方が神を示されたのである。

せんれいしや あか
洗礼者ヨハネの証し

(マタ31—12、マコ12—8、ルカ315—17)

あか じん さいし びと つか しつもん
さて、ヨハネの証しはこうである。エルサレムのユダヤ人たちが、祭司やレビ人たちはヨハネのもとへ遣わして、「あなたは、どなたですか」と質問させたと
き、彼は公言して隠さず、「わたしはメシアではない」と言い 表 した。彼らがまた、「では何ですか。あなたはエリヤですか」と尋ねると、ヨハネは、「違
う」と言つた。更に、「あなたは、あの預言者なのですか」と尋ねると、「そうではない」と答えた。そこで、彼らは言つた。「それではいったい、だれなので
す。わたしたちを遣わした人々に返事をしなければなりません。あなたは自分を何だと言うのですか。」ヨハネは、預言者イザヤの言葉を用いて言つた。
「わたしは荒れ野で叫ぶ声である。
『主の道をまっすぐにせよ』と。」

つか ひと は そく かれ たず によげんしや 〔バプテスマ〕
遣わされた人たちはファリサイ派に属していた。彼らがヨハネに尋ねて、「あなたはメシアでも、エリヤでも、またあの預言者でもないのに、なぜ、 洗礼 を
授けるのですか」と言うと、ヨハネは答えた。「わたしは水で 洗礼 を授けるが、あなたがたの中には、あなたがたの知らない方がおられる。その人はわたし
の後から来られる方で、わたしはその履物のひもを解く資格もない。」これは、ヨハネが 洗礼 を授けていたヨルダン川の向こう側、ベタニアでの出来事で
あつた。

さいしよ だし
最初の弟子たち

よくじつ ふたり だし いっしよ ある み み かみ こひつじ い ふたり だし き
その翌日、ヨハネは二人の弟子と一緒にいた。そして、歩いておられるイエスを見つめて、「見よ、神の小羊だ」と言つた。二人の弟子はそれを聞
いて、イエスに従つた。イエスは振り返り、彼らが 従 つて来るのを見て、「何を求めているのか」と言われた。彼らが、「ラビ——『先生』という意味——どこ
に泊まっておられるのですか」と言うと、イエスは、「来なさい。そうすれば分かる」と言われた。そこで、彼らはついて行つて、どこにイエスが泊まっておられる
かを見た。そしてその日は、イエスのもとに泊まった。午後四時ごろのことである。ヨハネの言葉を聞いて、イエスに従つた二人のうちの一人は、シモン・ペトロ
の兄 弟アンデレであつた。彼は、まず自分の兄 弟シモンに会つて、「わたしたちはメシア——『油 を注がれた者』——という意味——に出会つた」と言つた。そして
、シモンをイエスのところに連れて行つた。イエスは彼を見つめて、「あなたはヨハネの子シモンであるが、ケファ——『岩』——という意味——と呼ぶことにする」と
言われた。

フィリポとナタナエル、弟子となる

⁴³その翌日、イエスは、ガリラヤへ行こうとしたときに、フィリポに出会って、「わたしに従いなさい」と言われた。⁴⁴フィリポは、アンデレとペトロの町、ベトサイダの出身であった。⁴⁵フィリポはナタナエルに出会って言った。「わたしたちは、モーセが律法に記し、預言者たちも書いている方に出会った。それはナザレの人で、ヨセフの子イエスだ。」⁴⁶するとナタナエルが、「ナザレから何か良いものが出るだろうか」と言ったので、フィリポは、「来て、見なさい」と言った。⁴⁷イエスは、ナタナエルが御自分の方へ来るのを見て、彼のことをこう言われた。「見なさい。まことのイスラエル人だ。この人には偽りが無い。」⁴⁸ナタナエルが、「どうしてわたしを知っておられるのですか」と言うと、イエスは答えて、「わたしは、あなたがフィリポから話しかけられる前に、いちじくの木の下にいるのを見た」と言われた。⁴⁹ナタナエルは答えた。「ラビ、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です。」⁵⁰イエスは答えて言われた。「いちじくの木の下にあなたがいるのを見たと言ったので、信じるのか。もっと偉大なことをあなたは見ることになる。」⁵¹更に言われた。「はつきり言っておく。天が開け、神の天使たちが人の子の上に昇り降りするのを、あなたがたは見ることになる。」

カナでの婚礼

2

¹三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があって、イエスの母がそこにいた。²イエスも、その弟子たちも婚礼に招かれた。³ぶどう酒が足りなくなったので、母がイエスに、「ぶどう酒がなくなりました」と言った。⁴イエスは母に言われた。「婦人よ、わたしとどんなかわりがあるのです。わたしの時はまだ来ていません。」⁵しかし、母は召し使いたちに、「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」と言った。⁶そこには、ユダヤ人が清めに用いる石の水がめが六つ置いてあった。いずれも二ないし三メトレテス入りのものである。⁷イエスが、「水がめに水をいっぱい入れなさい」と言われると、召し使いたちは、かめの縁まで水を満たした。⁸イエスは、「さあ、それをくんで宴会の世話役のところへ持って行きなさい」と言われた。召し使いたちは運んで行った。⁹世話役はぶどう酒に変わった水の味見をした。このぶどう酒がどこから来たのか、水をくんだ召し使いたちは知っていたが、世話役は知らなかったので、花婿を呼んで、¹⁰言った。「だれでも初めに良いぶどう酒を出し、酔いがまわったところに劣ったものを出すものですが、あなたは良いぶどう酒を今まで取って置かれました。」¹¹イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行って、その栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。
¹²この後、イエスは母、兄弟、弟子たちとカファルナウムに下って行き、そこに幾日か滞在された。

神殿から商人を追い出す

(マタ21 12—13、マコ11 15—17、ルカ19 45—46)

¹³ユダヤ人の過越祭が近づいたので、イエスはエルサレムへ上って行かれた。¹⁴そして、神殿の境内で牛や羊や鳩を売っている者たちと、座って両替をしている者たちを御覧になった。¹⁵イエスは縄で鞭を作り、羊や牛をすべて境内から追い出し、両替人の金をまき散らし、その台を倒し、¹⁶鳩を売る者たちに言われた。「このような物はここから運び出せ。わたしの父の家を商売の家としてはならない。」¹⁷弟子たちは、「あなたの家を思う熱意がわたしを食い尽くす」と書いてあるのを思い出した。¹⁸ユダヤ人たちはイエスに、「あなたは、こんなことをするからには、どんなしるしをわたしたちに見せるつもりか」と言った。¹⁹イエスは答えて言われた。「この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる。」²⁰それでユダヤ人たちは、「この神殿は建てるのに四十六年もかかったのに、あなたは三日で建て直すのか」と言った。²¹イエスの言われる神殿とは、御自分の体のことだったのである。²²イエスが死者の中から復活されたとき、弟子たちは、イエスがこう言われたのを思い出し、聖書とイエスの語られた言葉とを信じた。

イエスは人間の心を知っておられる

²³イエスは過越祭の間、エルサレムにおられたが、そのなさったしるしを見て、多くの人がイエスの名を信じた。²⁴しかし、イエス御自身は彼らを信用されなかった。それは、すべての人のことを知っておられ、²⁵人間についてだれからも証ししてもらう必要がなかったからである。イエスは、何が人間の心の中にあるかをよく知っておられたのである。

イエスとニコデモ

3

¹さて、ファリサイ派に属する、ニコデモという人がいた。ユダヤ人たちの議員であった。²ある夜、イエスのもとに来て言った。「ラビ、わたしどもは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神が共におられるのでなければ、あなたのなさるようなしるしを、だれも行うことはできないからです。」³イエスは答えて言われた。「はつきり言っておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」⁴ニコデモは言った。「年をとった者が、どうして生まれることができます。もう一度母親の胎内に入って生まれることができますでしょうか。」⁵イエスはお答えになった。「はつきり言っておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。⁶肉から生まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である。⁷『あなたがたは新たに生まれねばならない』とあなたがたに言ったことに、驚いてはならない。⁸風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである。」⁹するとニコデモは、「どうして、そんなことがありえましょうか」と言った。¹⁰イエスは答えて言われた。「あなたはイスラエルの教師でありながら、こんなことが分からないのか。」¹¹はつきり言っておく。わたしたちは知っていることを語り、見たことを証ししているのに、あなたがたはわたしたちの証しを受け入れない。¹²わたしが地上のことを話しても信じないとすれば、天上のことを話したところで、どうして信じるだろう。¹³天

から降って来た者、すなわち人の子のほかには、天に上った者はだれもない。14そして、モーセが荒れ野で蛇を上げたように、人の子も上げられねばならぬ。15それは、信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るためである。

16神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。17神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。18御子を信じる者は裁かれぬ。信じない者は既に裁かれている。神の独り子の名を信じていないからである。19光が世に來たのに、人々はその行いが悪いので、光よりも闇の方を好んだ。それが、もう裁きになっている。20悪を行う者は皆、光を憎み、その行いが明るみに出されるのを恐れて、光の方に来ないからである。21しかし、真理を行う者は光の方に来る。その行いが神に導かれてなされたということが、明らかにするために。」

イエスと洗礼者ヨハネ

22その後、イエスは弟子たちとユダヤ地方に行って、そこに一緒に滞在し、洗礼を授けておられた。23他方、ヨハネは、サリムの近くのアイノンで洗礼を授けていた。そこは水が豊かであったからである。人々は来て、洗礼を受けていた。24ヨハネはまだ投獄されていなかったのである。25ところがヨハネの弟子たちと、あるユダヤ人との間で、清めのことで論争が起こった。26彼らはヨハネのもとに来て言った。「ラビ、ヨルダン川の向こう側であなたと一緒にいた人、あなたが証しされたあの人が、洗礼を受けています。みんながあの人の方へ行っています。」27ヨハネは答えて言った。「天から与えられなければ、人は何も受けることができない。28わたしは、『自分はメシアではない』と言い、『自分はあの方の前に遣わされた者だ』と言ったが、そのことについては、あなたたち自身証ししてくれる。29花嫁を迎えるのは花婿だ。花婿の介添え人はそばに立って耳を傾け、花婿の声が聞こえると大いに喜ぶ。だから、わたしは喜びで満たされている。30あの方は栄え、わたしは衰えねばならない。」

天から来られる方

31「上から来られる方は、すべてのものの上におられる。地から出る者は地に属し、地に属する者として語る。天から来られる方は、すべてのものの上におられる。32この方は、見たこと、聞いたことを証しされるが、だれもその証しを受け入れない。33その証しを受け入れる者は、神が真実であることを確認したことになる。34神がお遣わしになった方は、神の言葉を話される。神が『霊』を限りなくお与えになるからである。35御父は御子を愛して、その手にすべてをゆだねられた。36御子を信じる人は永遠の命を得ているが、御子に従わない者は、命にあずかることがないばかりか、神の怒りがその上にとどまる。」

イエスとサマリアの女

4

1さて、イエスがヨハネよりも多くの弟子をつくり、洗礼を授けておられるということが、ファリサイ派の人々の耳に入った。イエスはそれを知ると、2——洗礼を授けていたのは、イエス御自身ではなく、弟子たちである——ユダヤを去り、再びガリラヤへ行かれた。4しかし、サマリアを通らねばならなかった。5それで、ヤコブがその子ヨセフに与えた土地の近くにある、シカルというサマリアの町に来られた。6そこにはヤコブの井戸があった。イエスは旅に疲れて、そのまま井戸のそばに座っておられた。正午ごろのことである。

7サマリアの女が水をくみに来た。イエスは、「水を飲ませてください」と言われた。8弟子たちは食べ物を買うために町に行っていた。9すると、サマリアの女は、「ユダヤ人のあなたがサマリアの女のわたしに、どうして水を飲ませてほしいと頼むのですか」と言った。ユダヤ人はサマリア人とは交際しないからである。10イエスは答えて言われた。「もしあなたが、神の賜物を知っており、また、『水を飲ませてください』と言ったのがだれであるか知っていたならば、あなたの方からその人に頼み、その人はあなたに生きた水を与えたことであろう。」11女は言った。「主よ、あなたはくむ物をお持ちでないし、井戸は深いのです。どこからその生きた水を手にお入れになるのですか。12あなたは、わたしたちの父ヤコブよりも偉いのですか。ヤコブがこの井戸をわたしたちに与え、彼自身も、その子どもや家畜も、この井戸から水を飲んだのです。」13イエスは答えて言われた。「この水を飲む者はだれでもまた渇く。14しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」15女は言った。「主よ、渇くことがないように、また、ここにくみに来なくてもいいように、その水をください。」

16イエスが、「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい」と言われると、17女は答えて、「わたしには夫はいません」と言った。イエスは言われた。「『夫はいません』とは、まさにそのとおりだ。18あなたには五人の夫がいたが、今連れ添っているのは夫ではない。あなたは、ありのままを言ったわけだ。」19女は言った。「主よ、あなたは預言者だとお見受けします。20わたしどもの先祖はこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムにあると言っています。」21イエスは言われた。「婦人よ、わたしを信じなさい。あなたがたが、この山でもエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。22あなたがたは知らないものを礼拝しているが、わたしたちは知っているものを礼拝している。救いはユダヤ人から来るからだ。23しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。今がその時である。なぜなら、父はこうに礼拝する者を求めておられるからだ。24神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない。」25女が言った。「わたしは、キリストと呼ばれるメシアが来られることは知っています。その方が来られるとき、わたしたちに一切のことを知らせてくださいます。」26イエスは言われた。「それは、あなたと話をしているこのわたしである。」

27ちょうどそのとき、弟子たちが帰って来て、イエスが女のひと話をしておられるのに驚いた。しかし、「何か御用ですか」とか、「何をこの人と話しておられるのですか」と言う者はいなかった。28女は、水がめをそこに置いたまま町に行き、人々に言った。29「さあ、見に来てください。わたしが行ったことをすべて、言い当てた人がいます。もしかしたら、この方がメシアかもしれません。」30人々は町を出て、イエスのもとへやって来た。

31その間に、弟子たちが「ラビ、食事をどうぞ」と勧めると、32イエスは、「わたしにはあなたがたの知らない食べ物がある」と言われた。33弟子たちは、「だれ

た もの も き たが い い た もの つか かた みころ おこな わざ な
かが食べ物を持って来たのだらうか」と互いに言った。³⁴イエスは言われた。「わたしの食べ物とは、わたしをお遣わしになった方の御心を行い、その業を成し
と
遂げることである。³⁵あなたがたは、『刈り入れまでまだ四か月もある』と言っているではないか。わたしは言っておく。目を上げて畑を見るがよい。色づいて刈り
い ま すで か い ひと ほうしゅう う えいえん いのち いた み あつ たね ま ひと か ひと とも よろこ
入れを待っている。既に、³⁶刈り入れる人は報酬を受け、永遠の命に至る実を集めている。こうして、種を蒔く人も刈る人も、共に喜ぶのである。³⁷そこ
ひとり たね ま べつ ひと か い じぶん ろうく かい
で、『一人が種を蒔き、別の人が刈り入れる』ということわざのとおりになる。³⁸あなたがたが自分では労苦しなかったものを刈り入れるために、わたしはあなたが
つか た ひとびと ろうく ろうく みの
たを遣わした。他の人々が労苦し、あなたがたはその労苦の実りにあずかっている。」
39 さて、その町の多くのサマリア人は、「この方が、わたしの行ったことをすべて言い当てました」と証言した女の言葉によって、イエスを信じた。⁴⁰そこ
じん まち おお じん じん かた おこな い あ しょうげん おんな ことば しん
で、このサマリア人たちはイエスのもとにやって来て、自分たちのところにとどまるようにと頼んだ。イエスは、二日間そこに滞在された。⁴¹そして、更に多くの
ひとびと ことば き しん かれ おんな い しん はな じぶん き
人々が、イエスの言葉を聞いて信じた。⁴²彼らは女に言った。「わたしたちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。わたしたちは自分で聞い
かた ほんとう よ すく ぬし わ
て、この方が本当に世の救い主であると分かったからです。」

やくにん むすこ
役人の息子をいやす

(マタ85—13、ルカ71—10)

ふつか ご しゅつぱつ い みずか よげんしゃ じぶん こきょう うやま い
⁴³二日後、イエスはそこを出発して、ガリラヤへ行かれた。⁴⁴イエスは自ら、「預言者は自分の故郷では敬われないものだ」とはつきり言われたことがあ
つ ひと かんげい かれ まつ い み
る。⁴⁵ガリラヤにお着きになると、ガリラヤの人たちはイエスを歓迎した。彼らも祭りに行ったので、そのときエルサレムでイエスがなされたことをすべて、見てい
たからである。
ふたた い まえ みず しゅ か ところ おう やくにん むすこ
⁴⁶イエスは、再びガリラヤのカナに行かれた。そこは、前にイエスが水をぶどう酒に変えられた所である。さて、カファルナウムに王の役人がいて、その息子
びょうき ひと こ き い くだ き むすこ
が病気であった。⁴⁷この人は、イエスがユダヤからガリラヤに来られたと聞き、イエスのもとに行き、カファルナウムまで下って来て息子をいやしてくださるように
たの むすこ し やくにん ふしぎ わざ み けつ しん い やくにん
頼んだ。息子が死にかかっていたからである。⁴⁸イエスは役人に、「あなたがたは、しるしや不思議な業を見なければ、決して信じない」と言われた。⁴⁹役人は、
しゅ 子ども し い かい むすこ い ひと い ことば
「主よ、子供が死なないうちに、おいでください」と言った。⁵⁰イエスは言われた。「帰りなさい。あなたの息子は生きる。」その人は、イエスの言われた言葉を
しん かえ い くだ い とちゅう しもべ むか き こ い つ むすこ びょうき よ じごく たず
信じて帰って行った。⁵¹ところが、下って行く途中、僕たちが迎えに来て、その子が生きていることを告げた。⁵²そこで、息子の病気が良くなった時刻を尋ね
しもべ しもべ ごご じ ねつ き い むすこ い おな じごく
ると、僕たちは、「きのうの午後一時に熱が下がりました」と言った。⁵³それは、イエスが「あなたの息子は生きる」と言われたのと同じ時刻であることを、この
ちちおや し かれ かぞく しん き かいめ
父親は知った。そして、彼もその家族もこそぞって信じた。⁵⁴これは、イエスがユダヤからガリラヤに来てなされた、二回目のしるしである。

いけ びょうにん
ベトザタの池で病人をいやす

5

のち じん まつ のぼ ひつじ もん かたわ ご よ いけ
¹その後、ユダヤ人の祭りがあったので、イエスはエルサレムに上られた。²エルサレムには羊の門の傍らに、ヘブライ語で「ベトザタ」と呼ばれる池があり、そ
こには五つの回廊があった。³この回廊には、病気の人、目の見えない人、足の不自由な人、体の麻痺した人などが、大勢横たわっていた。⁴さて、そこに
ねん びょうき くる ひと ひと よこ なが あいだびょうき し よ い
三十八年も病気で苦しんでいる人がいた。⁵イエスは、その人が横たわっているのを見、また、もう長い間病気であるのを知って、「良くなりたいか」と言わ
びょうにん こた しゅ みず うご いけ なか い ひと い ひと さき お い
れた。⁶病人は答えた。「主よ、水が動くとき、わたしを池の中に入れてくれる人がいないのです。わたしが行くうちに、ほかの人が先に降りて行くのです。
い お あ どこ かつ ある ひと よ ところ かつ ある
」⁷イエスは言われた。「起き上がりなさい。床を担いで歩きなさい。」⁸すると、その人はすぐに良くなって、床を担いで歩きだした。
ひ あんそくび ひと じん びょうき ひと い きょう あんそくび どこ かつ りつほう ゆる
その日は安息日であった。⁹そこで、ユダヤ人たちは病気をいやしていただいた人に言った。「今日は安息日だ。だから床を担ぐことは、律法で許されてい
ない。」¹⁰しかし、その人は、「わたしをいやしてくださった方が、『床を担いで歩きなさい』と言われたのです」と答えた。¹¹彼らは、「お前に『床を担いで歩
きなさい』と言ったのはだれだ」と尋ねた。¹²しかし、病気をいやしていただいた人は、それがだれであるか知らなかった。イエスは、群衆がそこにいる間に、
た さ のち しんでん けいだい ひと であ い よ つみ おか
立ち去られたからである。¹³その後、イエスは、神殿の境内でこの人に会って言われた。「あなたは良くなったのだ。もう、罪を犯してはいけない。さもない
と、もっと悪いことが起こるかもしれない。」¹⁴この人は立ち去って、自分をいやしたのはイエスだと、ユダヤ人たちに知らせた。¹⁵そのために、ユダヤ人たちはイ
はくがい はじ あんそくび こた ちち いま はたら
エスを迫害し始めた。イエスが、安息日にこのようなことをしておられたからである。¹⁶イエスはお答えになった。「わたしの父は今もなお働いておられる。だ
はたら
から、わたしも働くのだ。」¹⁷このために、ユダヤ人たちは、ますますイエスを殺そうとねらうようになった。イエスが安息日を破るだけでなく、神を御自分の
ちち よ ごじしん かみ ひと もの
父と呼んで、御自身を神と等しい者とされたからである。

み こ けんい
御子の権威

18 さて、イエスは彼らに言われた。「はつきり言っておく。子は、父のなさることを見なければ、自分からは何事もできない。父がなさることはなんでも、子も
ちち こ あい ごじぶん しめ おお わざ こ しめ
そのとおりにする。¹⁹父は子を愛して、御自分のなさることをすべて子に示されるからである。また、これらのことよりも大きな業を子にお示しになって、あなた
おどろ ちち ししゃ ふつかつ いのち あた こ あた おも もの いのち あた ちち さば
たちが驚くことになる。²⁰すなわち、父が死者を復活させて命をお与えになるように、子も、与えたいと思う者に命を与える。²¹また、父はだれをも裁か
さば いっさいこ まか ひと ちち うやま こ うやま こ うやま もの こ つか ちち
ず、裁きは一切子に任せられる。²²すべての人が、父を敬うように、子をも敬うようになるためである。子を敬わない者は、子をお遣わしになった父を
うやま うやま い ことば き つか かん しん もの えいえん いのち え さば し いのち
も敬わない。²³はつきり言っておく。わたしの言葉を聞いて、わたしをお遣わしになった方を信じる者は、永遠の命を得、また、裁かれることなく、死から命
うつ い し もの かみ こ こえ き とさく いま とさく こえ き もの い ちち ごじしん うち いのち も
へと移っている。²⁴はつきり言っておく。死んだ者が神の子の声を聞く時が来る。今やその時である。その声を聞いた者は生きる。²⁵父は、御自身の内に命を持
こ じぶん うち いのち も さば おこな けんのう こ あた こ ひと こ
っておられるように、子にも自分の内に命を持つようにしてくださったからである。²⁶また、裁きを行う権能を子にお与えになった。子は人の子だからであ
おどろ とさく はか なか もの みな ひと こ こえ き ぜん おこな もの ふつかつ いのち う あく おこな もの ふつかつ
る。²⁷驚いてはならない。時が来ると、墓の中にいる者は皆、人の子の声を聞き、²⁸善を行った者は復活して命を受けるために、悪を行った者は復活し
さば う で く
て裁きを受けるために出て来るのだ。

わたしは自分では何もできない。ただ、父から聞くままに裁く。わたしの裁きは正しい。わたしは自分の意志ではなく、わたしをお遣わしになった方の御心を
行おうとするからである。」

イエスについての証し

「もし、わたしが自分自身について証しをするなら、その証しは真実ではない。わたしについて証しをなさる方は別におられる。そして、その方がわたしについてなさる証しは真実であることを、わたしは知っている。あなたたちはヨハネのもとへ人を送ったが、彼は真理について証しをした。わたしは、人間による証しは受けない。しかし、あなたがたが救われるために、これらのことを言うておく。ヨハネは、燃えて輝くともし火であった。あなたがたは、しばらくの間その光のもとで喜び楽しもうとした。しかし、わたしにはヨハネの証しにまさる証しがある。父がわたしに成し遂げるようにお与えになった業、つまり、わたしが行っている業そのものが、父がわたしをお遣わしになったことを証している。また、わたしをお遣わしになった父が、わたしについて証しをしてくださる。あなたがたは、まだ父のお声を聞いたこともなければ、お姿を見たこともない。また、あなたがたは、自分の内に父のお言葉をとどめていない。父がお遣わしになった者を、あなたがたは信じないからである。あなたがたは聖書の中に永遠の命があると考えて、聖書を研究している。ところが、聖書はわたしについて証しをするものだ。それなのに、あなたがたは、命を得るためにわたしのところへ来ようとしなない。わたしは、人からの誉れは受けない。しかし、あなたがたの内には神への愛がないことを、わたしは知っている。わたしは父の名によって来たのに、あなたがたはわたしを受け入れない。もし、ほかの人が自分の名によって来れば、あなたがたは受け入れる。互いに相手からの誉れは受けるのに、唯一の神からの誉れは求めようとしなないあなたがたには、どうして信じることができようか。わたしが父にあなたがたを訴えるなどと、考えてはならない。あなたがたを訴えるのは、あなたがたが頼りにしているモーセなのだ。あなたがたは、モーセを信じたのであれば、わたしをも信じたはずだ。モーセは、わたしについて書いているからである。しかし、モーセの書いたことを信じないのであれば、どうしてわたしが語ることを信じることができようか。」

五千人に食べ物を与える

(マタ14 13—21、マコ6 30—44、ルカ9 10—17)

6

その後、イエスはガリラヤ湖、すなわちティベリアス湖の向こう岸に渡られた。大勢の群衆が後を追った。イエスが病人たちになさったしるしを見たからである。イエスは山に登り、弟子たちと一緒にそこにお座りになった。ユダヤ人の祭りである過越祭が近づいていた。イエスは目を上げ、大勢の群衆が御自分の方へ来るのを見て、フィリポに、「この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいだろうか」と言われたが、こう言ったのはフィリポを試みるためであって、御自分では何をしようとしているか知っておられたのである。フィリポは、「めいめいが少しずつ食べるためにも、二百デナリオン分のパンでは足りないでしょう」と答えた。弟子の一人で、シモン・ペトロの兄弟アンデレが、イエスに言った。「ここに大麥のパン五つと魚二匹を持っている少年がいます。けれども、こんなに大勢の人では、何の役に立たないでしょう。」イエスは、「人々を座らせなさい」と言われた。そこには草がたくさん生えていた。男たちはそこに座ったが、その数はおよそ五千人であった。さて、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えてから、座っている人々に分け与えられた。また、魚も同じようにして、欲しいだけ分け与えられた。人々が満腹したとき、イエスは弟子たちに、「少しも無駄にならないように、残ったパンの屑を集めなさい」と言われた。集めると、人々が五つの大麥パンを食べて、なお残ったパンの屑で、十二の籠がいっぱいになった。そこで、人々はイエスのなさったしるしを見て、「まさにこの人こそ、世に來られる預言者である」と言った。イエスは、人々が来て、自分を王にするために連れて行こうとしているのを知り、ひとりでまた山に退かれた。

湖の上を歩く

(マタ14 22—27、マコ6 45—52)

夕方方になったので、弟子たちは湖畔へ下りて行った。そして、舟に乗り、湖の向こう岸のカファルナウムに行こうとした。既に暗くなっていたが、イエスはまだ彼らのところには来ておられなかった。強い風が吹いて、湖は荒れ始めた。二十五ないし三十スタディオンばかり漕ぎ出したところ、イエスが湖の上を歩いて舟に近づいて來られるのを見て、彼らは恐れた。イエスは言われた。「わたしだ。恐れることはない。」そこで、彼らはイエスを舟に迎え入れようとした。すると間もなく、舟は目指す地に着いた。

イエスは命のパン

その翌日、湖の向こう岸に残っていた群衆は、そこには小舟が一そうしかなかったこと、また、イエスは弟子たちと一緒に舟に乗り込まれず、弟子たちだけが出かけたことに気づいた。ところが、ほかの小舟が数そうティベリアスから、主が感謝の祈りを唱えられた後に人々がパンを食べた場所へ近づいて来た。群衆は、イエスも弟子たちもそこにいないと知ると、自分たちもそれらの小舟に乗り、イエスを捜し求めてカファルナウムに來た。そして、湖の向こう岸でイエスを見つけると、「ラビ、いつ、ここにおいでになったのですか」と言った。イエスは答えて言われた。「はつきり言うておく。あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからだ。朽ちる食べ物のためではなく、いつまでもなくならないで、永遠の命に至る食べ物のために。働きなさい。これこそ、人の子があなたがたに与える食べ物である。父である神が、人の子を認証されたからである。」そこで彼らが、「神の業を行うためには、何をしたらよいでしょうか」と言うと、イエスは答えて言われた。「神がお遣わしになった者を信じること、それが神の業である。」そこで、彼らは

い
言った。「それでは、わたしたちが見てあなたを信じることができるように、どんなしるしを 行 ってくださいますか。どのようなことをじてくださいますか。」³¹わた
せんぞ あ の た てん かれ あた た か い
したちの先祖は、荒野でマンナを食べました。『天からのパンを彼らに与えて食べさせた』と書いてあるとおりです。」³²すると、イエスは言われた。「はつきり
い てん あた ちち てん あた かみ てん くだ き よ
言っておく。モーセが天からのパンをあなたがたに与えたのではなく、わたしの父が天からのまことのパンをお与えになる。³³神のパンは、天から降って来て、世
いのち あた
に 命 を与えるものである。」

³⁴そこで、彼らが、「主よ、そのパンをいつもわたしたちにください」と言うとき、³⁵イエスは言われた。「わたしが 命 のパンである。わたしのもに來る者は決し
う しん もの けつ かわ まえ い み しん ちち
て飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない。³⁶しかし、前にも言ったように、あなたがたはわたしを見ているのに、信じない。³⁷父がわたしに
あた ひと みな く く ひと けつ お だ き てん くだ き じぶん いし おこな
お与えになる人は皆、わたしのところに来る。わたしのもに來る人を、わたしは決して追い出さない。³⁸わたしが天から降って來たのは、自分の意志を 行 うた
めではなく、わたしをお遣わしになった方の御 心 を 行 うためである。³⁹わたしをお遣わしになった方の御 心 とは、わたしに与えてくださった人を一人も 失 わ
お ひ ふつかつ ちち みころ こ み しん もの みなえいえん いのち え ひと お ひ ふつかつ
ないで、終わりの日に復活させることである。⁴⁰わたしの父の御 心 は、子を見て信じる者が皆永遠の 命 を得ることであり、わたしがその人を終わりの日に復活
させることだからである。」

⁴¹ユダヤ人たちは、イエスが「わたしは天から降って來たパンである」と言われたので、イエスのことでつぶやき始め、⁴²こう言った。「これはヨセフの息子の子
じん てん くだ き い はじ い むすこ
エスではないか。我々はその父も母も知っている。どうして今、『わたしは天から降って來た』などと言うのか。」⁴³イエスは答えて言われた。「つぶやき合うの
われわれ ちち はは し いま てん くだ き い こた い あ
はやめなさい。⁴⁴わたしをお遣わしになった父が引き寄せてくださらなければ、だれもわたしのもとへ來ることはできない。わたしはその人を終わりの日に復活させ
よげんしゃ しょ かれ みな かみ おし か ちち き まな もの みな く ちち み もの ひとり し かみ
る。⁴⁵預言者の書に、『彼らは皆、神によつて教えられる』と書いてある。父から聞いて学んだ者は皆、わたしのもに來る。⁴⁶父を見た者は一人もいない。神
き もの ちち み い しん もの えいえん いのち え いのち
のものとから來た者だけが父を見たのである。⁴⁷はつきり言っておく。信じる者は永遠の 命 を得ている。⁴⁸わたしは 命 のパンである。⁴⁹あなたたちの先祖は荒野で
た し てん くだ き た もの し てん くだ き い
マンナを食べたが、死んでしまった。⁵⁰しかし、これは、天から降って來たパンであり、これを食べる者は死なない。⁵¹わたしは、天から降って來た生きたパンであ
た ひと えいえん い あた よ い にく
る。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生かすためのわたしの肉のことである。」

⁵²それで、ユダヤ人たちは、「どうしてこの人は自分の肉を我々に食べさせることができるのか」と、互いに激しく議論し始めた。⁵³イエスは言われた。「はつ
じん ひと じぶん にく われわれ た たが はげ ぎろん はじ い
きり言っておく。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に 命 はない。⁵⁴わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の 命 を得、わたし
ひと お ひ ふつかつ にく た もの ち の もの にく た ち の もの
はその人を終わりの日に復活させる。⁵⁵わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである。⁵⁶わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、い
うち ひと うち い ちち つか ちち い た
つもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。⁵⁷生きておられる父がわたしをお遣わしになり、またわたしが父によつて生きるように、わたしを食
もの い てん くだ き せんぞ た し ちが た もの えいえん い
べる者もわたしによつて生きる。⁵⁸これは天から降って來たパンである。先祖が食べたのに死んでしまったようなものとは違う。このパンを食べる者は永遠に生き
る。」⁵⁹これらは、イエスがカファルナウムの会堂で教えていたときに話されたことである。

「^①ところで、弟子たちの多くの者はこれを聞いて言った。「^②実にひどい話だ。だが、こんな話を聞いていられようか。」^③イエスは、弟子たちがこのことについてつぶやいているのに気づいて言われた。「あなたがたはこのことにつまずくのか。^④それでは、人の子がもといた所に上るのを見るならば……。^⑤命を与えるのは「霊」である。肉は何の役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、命である。^⑥しかし、あなたがたのうちには信じない者たちもある。」イエスは最初から、信じない者たちがだれであるか、また、御自分を裏切る者がだれであるかを知っておられたのである。^⑦そして、言われた。「こういうわけで、わたしはあなたがたに、『父からお許しをなければ、だれもわたしのもとに来ることはできない』と言ったのだ。」

「^⑧このために、弟子たちの多くが離れ去り、もはやイエスと共に歩まなくなった。^⑨そこで、イエスは十二人に、「あなたがたも離れて行きたいか」と言われた。^⑩シモン・ペトロが答えた。「主よ、わたしたちはだれのところへ行きますようか。あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。^⑪あなたこそ神の聖者である」と、わたしたちは信じ、また知っています。」^⑫すると、イエスは言われた。「あなたがた十二人は、わたしが選んだのではないか。ところが、その中の一人は悪魔だ。」^⑬イスカリオテのシモンの子ユダのことを言われたのである。このユダは、十二人の一人でありながら、イエスを裏切ろうとしていた。

イエスの兄 弟たちの不信仰

その後、イエスはガリラヤを巡っておられた。ユダヤ人が殺そうとねらっていたので、ユダヤを巡ろうとは思われなかった。^①ときに、ユダヤ人の仮庵祭が近づいていた。^②イエスの兄 弟たちが言った。「ここを去ってユダヤに行き、あなたのしている業を弟子たちにも見せてやりなさい。」^③公に知られようとしながら、ひそかに行動するような人はいない。こういうことをしているからには、自分を世にはっきり示しなさい。」^④兄 弟たちも、イエスを信じていなかったのである。^⑤そこで、イエスは言われた。「わたしの時はまだ来していない。しかし、あなたがたの時はいつも備えられている。^⑥世はあなたがたを憎むことができないが、わたしを憎んでいる。わたしが、世の行っている業は悪いと証ししているからだ。^⑦あなたがたは祭りに上って行くがよい。わたしはこの祭りには上って行かない。まだ、わたしの時が来っていないからである。」^⑧こう言って、イエスはガリラヤにとどまられた。

仮庵祭でのイエス

「^⑨しかし、兄 弟たちが祭りに上って行ったとき、イエス御自身も、人目を避け、隠れるようにして上って行かれた。^⑩祭りのときユダヤ人たちはイエスを捜し、「あの男はどこにいるのか」と言っていた。^⑪群衆の間では、イエスのことがいろいろとささやかれていた。「良い人だ」と言う者もいれば、「いや、群衆を惑わしている」と言う者もいた。^⑫しかし、ユダヤ人たちを恐れて、イエスについて公然と語る者はいなかった。^⑬祭日も既に半ばになったころ、イエスは神殿の境内に上って行って、教え始められた。^⑭ユダヤ人たちが驚いて、「この人は、学問をしたわけでもないのに、どうして聖書をこんなによく知っているのだろう」と言うと、^⑮イエスは答えて言われた。「わたしの教えは、自分の教えではなく、わたしをお遣わしになった方の教えである。^⑯この方の御心を行おうとする者は、わたしの教えが神から出たものか、わたしが勝手に話しているのか、分かるはずである。^⑰自分勝手に話す者は、自分の栄光を求める。しかし、自分をお遣わしになった方の栄光を求める者は真実な人であり、その人には不義がない。^⑱モーセはあなたたちに律法を与えたではないか。ところが、あなたたちはだれもその律法を守らない。なぜ、わたしを殺そうとするのか。」^⑳群衆が答えた。「あなたは悪霊に取りつかれている。だがあなたがたを殺そうというのか。」^㉑イエスは答えて言われた。「わたしが一つの業を行ったというので、あなたたちは皆驚いている。^㉒しかし、モーセはあなたたちに割礼を命じた。――もつとも、これはモーセからではなく、族長たちから始まったのだが――だから、あなたたちは安息日にも割礼を施している。^㉓モーセの律法を破らないようにと、人は安息日であっても割礼を受けるのに、わたしが安息日に全身をいやしたからといって腹を立てるのか。」^㉔うわべだけで裁くのをやめ、正しい裁きをしなさい。」

この人はメシアか

「^㉕さて、エルサレムの人々の中には次のように言う者たちがいた。「これは、人々が殺そうとねらっている者ではないか。^㉖あんなに公然と話しているのに、何も言われない。議員たちは、この人がメシアだということを、本当に認めたのではなかろうか。^㉗しかし、わたしたちは、この人がどこの出身かを知っている。メシアが来られるときは、どこから来られるのか、だれも知らないはずだ。」^㉘すると、神殿の境内で教えていたイエスは、大声で言われた。「あなたたちはわたしのことを知っており、また、どこの出身かも知っている。わたしは自分勝手に来たのではない。わたしをお遣わしになった方は真実であるが、あなたたちはその方を知らない。^㉙わたしはその方を知っている。わたしはその方のもとから来た者であり、その方がわたしをお遣わしになったのである。」^㉚人々はイエスを捕らえようとしたが、手をかける者はいなかった。イエスの時はまだ来いなかったからである。^㉛しかし、群衆の中にはイエスを信じる者が大勢いて、「メシアが来られても、この人よりも多くのしるしをなさるだろうか」と言った。

下役たち、イエスの逮捕に向かう

「^㉜ファリサイ派の人々は、群衆がイエスについてこのようにささやいているのを耳にした。祭司長たちとファリサイ派の人々は、イエスを捕らえるために下役たちを遣わした。^㉝そこで、イエスは言われた。「今しばらく、わたしはあなたたちと共にいる。それから、自分をお遣わしになった方のもとへ帰る。^㉞あなたたちは、わたしを捜しても、見つけることがない。わたしのいる所に、あなたたちは来ることができない。」^㉟すると、ユダヤ人たちが互いに言った。「わたしたちが見つけることはないとは、いったい、どこへ行くつもりだろう。ギリシア人の間に離散しているユダヤ人のところへ行って、ギリシア人に教えるともいうのか。」^㊱「あなたたちは、わたしを捜しても、見つけることがない。わたしのいる所に、あなたたちは来ることができない」と彼は言ったが、その言葉はどういう意味なのか。」

い みず なが
生きた水の流れ

まつ もつと せいだい いわ お ひ た あ おおごえ い かわ ひと き の
「³⁷祭りが 最 も盛大に 祝われる 終わりの 日に、イエスは 立ち上 がって 大 声で 言われた。「 渴 いている 人は だれでも、わたしの ところ に来て 飲みなさい。³⁸わたしを
しん もの せいしょ か ひと うち い みず かわ なが で ご じぶん しん ひとびと う
信 じる 者は、聖 書に 書いて ありと おり、その 人の 内から 生きた 水が 川と なって 流れ 出る ようになる。」³⁹イエスは、御 自分を 信 じる 人 々が 受けよう としている 〴〵
れい い えいこう う れい くだ
霊⁴⁰」について 言われた のである。イエスは まだ 栄 光を 受けて おられ なかった ので、〴〵 霊⁴¹」が まだ 降 ってい なかった から である。

ぐんしゅう あいだ たいりつ しょう
群 衆 の 間 に 対 立 が 生 じ る

ことば き ぐんしゅう なか ひと ほんとう よげんしゃ い もの ひと い もの い もの
「⁴⁰この 言葉 を 聞 いて、群 衆 の 中 には、「この 人は、本 当 に あの 預 言 者 だ」と 言う 者 や、⁴¹「この 人は メシア だ」と 言う 者 が いた が、この ように 言う 者 も いた。
で しぞん むら で せいしょ か
「メシア は ガリラヤ から 出る だろ う か。⁴²メシア は ダビデ の 子 孫 で、ダビデ の いた 村 ベツレヘム から 出ると、聖 書 に 書いて あり ではない か。」⁴³こ う して、イエス の こ
ぐんしゅう あいだ たいりつ しょう なか と おも もの て もの
と で 群 衆 の 間 に 対 立 が 生 じ た。「そ の 中 には イエス を 捕 ら え よう と 思 う 者 も いた が、手 を かけ る 者 は な かつ た。

じんし どうしや ふしんこう
ユダヤ 人 指 導 者 たち の 不 信 仰

さいし ちょう は ひとびと したやく もど き おとこ つ こ い したやく いま
「⁴⁴さて、祭 司 長 たち や ファリサイ 派 の 人 々 は、下 役 たち が 戻 っ て 来 た と き、「どう して、あ の 男 を 連 れ て 来 な かつ た の か」と 言 っ た。⁴⁵下 役 たち は、「今 ま
ひと はな ひと こた は ひとびと い まえ まど ぎいん は ひとびと
で、あ の 人 の よう に 話 した 人 は い ませ ん」と 答 え た。⁴⁶す る と、ファリサイ 派 の 人 々 は 言 っ た。「お 前 たち ま で も 惑 わ さ れ た の か。⁴⁷議 員 や ファリサイ 派 の 人 々 の
なか おとこ しん もの りつぼう し ぐんしゅう のろ くれ なか ひとり いぜん たず
中 に、あ の 男 を 信 じ た 者 が いる だろ う か。⁴⁸だ が、律 法 を 知 ら ない この 群 衆 は、呪 わ れ て いる。」⁴⁹彼 ら の 中 の 一 人 で、以 前 イエス を 訪 ね た こ と の あ る ニコデ
い われわれ りつぼう ほんにん じじょう き なに たし はんけつ くだ
モ が 言 っ た。⁵¹「我 々 の 律 法 に よ れ ば、ま ず 本 人 から 事 情 を 聞 き、何 を し た か を 確 か め た う え で な け れ ば、判 決 を 下 し て は な ら ない こ と に な っ て いる で は な い
かれ こた い しゅつしん しら よげんしゃ で わ
か。」⁵²彼 ら は 答 え て 言 っ た。「あ な た も ガリラヤ 出 身 な の か。よ く 調 べ て み な さ い。ガリラヤ か ら は 預 言 者 の 出 ない こ と が 分 か る。」

つみ きた
わ た し も あ な た を 罪 に 定 め な い

ひとびと いえ かえ い やま い あさはや ふたた しんでん けいだい はい じんしゅう みな ごじぶん
「⁵³人 々 は お の お の 家 へ 帰 っ て 行 っ た。⁵⁴イエス は オリーブ 山 へ 行 か れ た。⁵⁵朝 早 く、再 び 神 殿 の 境 内 に 入 れ る と、民 衆 が 皆、御 自 分 の と こ ろ に や っ て
き すわ おし はじ りつぼうがくしゃ は ひとびと かんつう げんば と おんな つ き ま なか た
来 た の で、座 っ て 教 え 始 め ら れ た。⁵⁶そ こ へ、律 法 学 者 たち や ファリサイ 派 の 人 々 が、姦 通 の 現 場 で 捕 ら え ら れ た 女 を 連 れ て 来 て、真 ん 中 に 立 た せ、⁵⁷イエス に
い せんせい おんな かんつう つか おんな いし う ころ りつぼう なか めい
言 っ た。「先 生、こ の 女 は 姦 通 を し て いる と き に 捕 ま り ま し た。⁵⁸こ う い う 女 は 石 で 打 ち 殺 せ と、モーセ は 律 法 の 中 で 命 じ て い ま す。と こ ろ で、あ な た は ど う
かんが ため うった こうじつ え い こ ゆび じめん なに か はじ
お 考 え に な り ま す か。」⁵⁹イエス を 試 し て、訴 え る 口 実 を 得 る た め に、こ う 言 っ た の で あ る。イエス は か が み 込 み、指 で 地 面 に 何 か 書 き 始 め ら れ た。⁶⁰し か し、
かれ と つづ み お い なか つみ おか もの おんな いし な
彼 ら が し つ こ く 問 い 続 け る の で、イエス は 身 を 起 こ し て 言 わ れ た。「あ な た たち の 中 で 罪 を 犯 し た こ と の な い 者 が、ま ず、こ の 女 に 石 を 投 げ な さ い。」⁶¹そ し て ま
み じめん か つづ き もの ねんちょうしゃ はじ ひとり ひと た さ
た、身 を か が め て 地 面 に 書 き 続 け ら れ た。⁶²こ れ を 聞 い た 者 は、年 長 者 か ら 始 ま っ て、一 人 ま た 一 人 と、立 ち 去 っ て し ま い、イエス ひと り と、真 ん 中 に いた 女
の こ み お い ふじん ひと つみ さだ おんな しゅ
が 残 っ た。⁶³イエス は、身 を 起 こ し て 言 わ れ た。「婦 人 よ、あ の 人 たち は ど こ に いる の か。だ れ も あ な た を 罪 に 定 め な かつ た の か。」⁶⁴女 が、「主 よ、だ れ も」と
い い つみ さだ い つみ おか
言 う と、イエス は 言 わ れ た。「わ た し も あ な た を 罪 に 定 め な い。行 き な さ い。こ れ か ら は、も う 罪 を 犯 し て は な ら ない。」

よ ひかり
イエス は 世 の 光

ふたた い よ ひかり したが もの くらやみ なか ある いのち ひかり も は ひとびと い
「⁶⁵イエス は 再 び 言 わ れ た。「わ た し は 世 の 光 で あ る。わ た し に 従 う 者 は 暗 闇 の 中 を 歩 か ず、命 の 光 を 持 つ。」⁶⁶そ れ で、ファリサイ 派 の 人 々 が 言 っ た。
じぶん あか あか しんじつ こた い じぶん あか あか
「あ な た は 自 分 に つ い て 証 し を し て いる。そ の 証 し は 真 実 で は な い。」⁶⁷イエス は 答 え て 言 わ れ た。「た と え わ た し が 自 分 に つ い て 証 し を す る と し て も、そ の 証 し
しんじつ じぶん き い し き い し
は 真 実 で あ る。自 分 が ど こ か ら 来 た の か、そ し て ど こ へ 行 く の か、わ た し は 知 っ て いる か ら だ。し か し、あ な た たち は、わ た し が ど こ か ら 来 て ど こ へ 行 く の か、知 ら
なく したが さば さば さば しんじつ
ない。⁶⁸あ な た たち は 肉 に 従 っ て 裁 く が、わ た し は だ れ を も 裁 か ない。⁶⁹し か し、も し わ た し が 裁 く と す れ ば、わ た し の 裁 き は 真 実 で あ る。な ぜ な ら わ た し は ひと
つか ちち とも りつぼう ふたた おこな あか しんじつ か じぶん
り で は な く、わ た し を お 遣 わ し に な っ た 父 と 共 に いる か ら である。⁷⁰あ な た たち の 律 法 に は、二 人 が 行 う 証 し は 真 実 で あ る と 書 い て あ る。⁷¹わ た し は 自 分 に つ い
あか つか ちち ちち し し ちち し しん でん けい だ い おし
て 証 し を し て お り、わ た し を お 遣 わ し に な っ た 父 も わ た し に つ い て 証 し を し て く だ さ る。」⁷²彼 ら が「あ な た の 父 は ど こ に いる の か」と 言 う と、イエス は お 答 え に
な っ た。「あ な た たち は、わ た し も わ た し の 父 も 知 ら ない。も し、わ た し を 知 っ て い た ら、わ た し の 父 を も 知 る は ず だ。」⁷³イエス は 神 殿 の 境 内 で 教 え て お ら れ た
ほうもつでん ちか はな と とき き
と き、宝 物 殿 の 近 く で こ れ ら の こ と を 話 さ れ た。し か し、だ れ も イエス を 捕 ら え な かつ た。イエス の 時 が ま だ 来 て い な かつ た から である。

い とこ
わ た し の 行 く 所 に あ な た たち は 来 る こ と が で き な い

い さ い さが じぶん つみ し い
「⁷⁴そ こ で、イエス は ま た 言 わ れ た。「わ た し は 去 っ て 行 く。あ な た たち は わ た し を 捜 す だ ろ う。だ が、あ な た たち は 自 分 の 罪 の う ち に 死 ぬ こ と に な る。わ た し の 行
ところ く じん い とこ
く 所 に、あ な た たち は 来 る こ と が で き な い。」⁷⁵ユダヤ 人 たち が、「『わ た し の 行 く 所 に、あ な た たち は 来 る こ と が で き な い』と 言 っ て いる が、自 殺 で も す る つも
はな くれ ぞく うえ ぞく
り な の だ ろ う か」と 話 し て いる と、⁷⁶イエス は 彼 ら に 言 わ れ た。「あ な た たち は 下 の も の に 属 し て いる が、わ た し は 上 の も の に 属 し て いる。あ な た たち は こ の 世 に
ぞく よ ぞく じぶん つみ し い
属 し て いる が、わ た し は こ の 世 に 属 し て い ない。⁷⁷だ か ら、あ な た たち は 自 分 の 罪 の う ち に 死 ぬ こ と に な る と、わ た し は 言 っ た の で あ る。『わ た し は あ る』と い う こ
しん じぶん つみ し くれ い い
と を 信 じ ない な ら ば、あ な た たち は 自 分 の 罪 の う ち に 死 ぬ こ と に な る。」⁷⁸彼 ら が、「あ な た は、い っ た い、ど な た で す か」と 言 う と、イエス は 言 わ れ た。「そ れ は
はじ はな い さば つか かた しんじつ
初 め か ら 話 し て いる で は な い か。⁷⁹あ な た たち に つ い て は、言 う べ き こ と、裁 く べ き こ と が た く さ ん あ る。し か し、わ た し を お 遣 わ し に な っ た 方 は 真 実 で あ り、わ
かた き よ む はな くれ おんちち はな さと い
た し は そ の 方 か ら 聞 い た こ と を、世 に 向 か っ て 話 し て いる。」⁸⁰彼 ら は、イエス が 御 父 に つ い て 話 し て お ら れ る こ と を 悟 ら な かつ た。⁸¹そ こ で、イエス は 言 わ れ た。
ひと こ あ はじ じぶんか へ な ちち おし はな
「あ な た たち は、人 の 子 を 上 げ た と き に 初 め て、『わ た し は あ る』と い う こ と、ま た、わ た し が、自 分 勝 手 に は 何 も せ ず、た だ、父 に 教 え ら れ た と お り に 話 し て い
わ つか かた とも ちち おし はな
る こ と が 分 か る だ ろ う。⁸²わ た し を お 遣 わ し に な っ た 方 は、わ た し と 共 に い て く だ さ る。わ た し を ひと り に し て は お か れ ない。わ た し は、い つ も こ の 方 の 御 心 に 適

うことを 行 うからである。」³⁰これらのことを語られたとき、多くの人々がイエスを信じた。

真理はあなたたちを自由にする

³¹イエスは、御自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「わたしの言葉にとどまるならば、あなたたちは本当にわたしの弟子である。³²あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」³³すると、彼らは言った。「わたしたちはアブラハムの子孫です。今までだれかの奴隷になったことはありません。『あなたたちは自由になる』とどうして言われるのですか。」³⁴イエスはお答えになった。「はっきり言うておく。罪を犯す者はだれでも罪の奴隷である。³⁵奴隷は家にいつまでもいるわけにはいかないが、子はいつまでもいる。³⁶だから、もし子があなたたちを自由にすれば、あなたたちは本当に自由になる。³⁷あなたたちがアブラハムの子孫だということは、分かっている。だが、あなたたちはわたしを殺そうとしている。わたしの言葉を受け入れないからである。³⁸わたしは父のもとで見たことを話している。ところが、あなたたちは父から聞いたことを 行 っている。」

反対者たちの父

³⁹彼らが答えて、「わたしたちの父はアブラハムです」と言うと、イエスは言われた。「アブラハムの子なら、アブラハムと同じ業をするはずだ。⁴⁰ところが、今、あなたたちは、神から聞いた真理をあなたたちに語っているこのわたしを、殺そうとしている。アブラハムはそんなことはしなかった。⁴¹あなたたちは、自分の父と同じ業をしている。」そこで彼らが、「わたしたちは姦淫によって生まれたのではありません。わたしたちにはただひとりの父がいます。それは神です」と言うと、⁴²イエスは言われた。「神があなたたちの父であれば、あなたたちはわたしを愛するはずである。なぜなら、わたしは神のもとから来て、ここにいるからだ。わたしは自分勝手に来たのではなく、神がわたしをお遣わしになったのである。⁴³わたしの言っていることが、なぜ分からないのか。それは、わたしの言葉を聞くことができないからだ。⁴⁴あなたたちは、悪魔である父から出た者であって、その父の欲望を満たしたいと思っている。悪魔は最初から人殺しであって、真理をよりどころとしていない。彼の内には真理がないからだ。悪魔が 偽 りを言うときは、その本性から言っている。自分が 偽 り者であり、その父だからである。⁴⁵しかし、わたしが真理を語るから、あなたたちはわたしを信じない。⁴⁶あなたたちのうち、いったいだれが、わたしに罪があると責めることができるのか。わたしは真理を語っているのに、なぜわたしを信じないのか。⁴⁷神に属する者は神の言葉を聞く。あなたたちが聞かないのは神に属していないからである。」

アブラハムが生まれる前から「わたしはある」

⁴⁸ユダヤ人たちが、「あなたはサマリア人で悪霊に取りつかれていると、我々が言うのも当然ではないか」と言い返すと、⁴⁹イエスはお答えになった。「わたしは悪霊に取りつかれてはいない。わたしは父を重んじているのに、あなたたちはわたしを重んじない。⁵⁰わたしは、自分の栄光は求めていない。わたしの栄光を求め、裁きをなさる方が、ほかにおられる。⁵¹ははっきり言うておく。わたしの言葉を守るなら、その人は決して死ぬことがない。」⁵²ユダヤ人たちは言った。「あなたが悪霊に取りつかれていることが、今はっきりした。アブラハムは死んだし、預言者たちも死んだ。ところが、あなたは、『わたしの言葉を守るなら、その人は決して死を味わうことがない』と言う。⁵³わたしたちの父アブラハムよりも、あなたは偉大なのか。彼は死んだではないか。預言者たちも死んだ。いったい、あなたは自分を何者だと思っているのか。」⁵⁴イエスはお答えになった。「わたしが自分自身のために栄光を求めようとしているのであれば、わたしの栄光はむなし。わたしに栄光を与えてくださるのはわたしの父であって、あなたたちはこの方について、『我々の神だ』と言っている。⁵⁵あなたたちはその方を知らないが、わたしは知っている。わたしがその方を知らないと言えば、あなたたちと同じくわたしも 偽 り者になる。しかし、わたしはその方を知っており、その言葉を守っている。⁵⁶あなたたちの父アブラハムは、わたしの日を見るのを楽しみにしていた。そして、それを見て、喜んだのである。」⁵⁷ユダヤ人たちが、「あなたは、まだ五十歳にもならないのに、アブラハムを見たのか」と言うと、⁵⁸イエスは言われた。「はっきり言うておく。アブラハムが生まれる前から、『わたしはある。』」⁵⁹すると、ユダヤ人たちは、石を取り上げ、イエスに投げつけようとした。しかし、イエスは身を隠して、神殿の境内から出て行かれた。

生まれつきの盲人をいやす

¹さて、イエスは通りすがりに、生まれつき目の見えない人を見かけられた。²弟子たちがイエスに尋ねた。「ラビ、この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか。」³イエスはお答えになった。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に 現 れるためである。『わたしたちは、わたしをお遣わしになった方の業を、まだ日のあるうちに 行 わねばならない。だれも 働くことのできない夜が来る。』わたしは、世にいる 間、世の 光 である。」⁴こう言うてから、イエスは地面に唾をし、唾で土をこねてその人の目にお塗りになった。⁵そして、「シロアム——『遣わされた者』という意味——の池に行って洗いなさい」と言われた。そこで、彼は行って洗い、目が見えるようになって、帰って来た。⁶近所の人々や、彼が物乞いをしていたのを前に見ていた人々が、「これは、座って物乞いをしていた人ではないか」と言った。⁷「その人だ」と言う者もいれば、「いや違う。似ているだけだ」と言う者もいた。本人は、「わたしがそうなのです」と言った。⁸そこで人々が、「では、お前の目はどのようにして開いたのか」と言うと、⁹彼は答えた。「イエスという方が、土をこねてわたしの目に塗り、『シロアムに行って洗いなさい』と言われました。そこで、行って洗ったら、見えるようになったのです。」¹²人々が「その人はどこにいるのか」と言うと、彼は「知りません」と言った。

ファリサイ派の人々、事情を調べる

¹³人々は、前に盲人であった人をファリサイ派の人々のところへ連れて行った。¹⁴イエスが土をこねてその目を開けられたのは、安息日のことであつた。¹⁵そこ

で、ファリサイ派の人々も、どうして見えるようになったのかと尋ねた。彼は言った。「あの方が、わたしの目にこねた土を塗りました。そして、わたしが洗うと、見えるようになったのです。」¹⁶ファリサイ派の人々の中には、「その人は、安息日を守らないから、神のもとから来た者ではない」と言う者もいれば、「どうして罪のある人間が、こんなしるしを行 うことができるだろうか」と言う者もいた。こうして、彼らの間で意見が分かれた。¹⁷そこで、人々は盲人であった人に再び言った。「目を開けてくれたということだが、いったい、お前はあの人をどう思うのか。」彼は「あの方は預言者です」と言った。

¹⁸それでも、ユダヤ人たちはこの人について、盲人であったのに目が見えるようになったということを信じなかった。ついに、目が見えるようになった人の両親を呼び出して、¹⁹尋ねた。「この者はあなたたちの息子で、生まれつき目が見えなかったと言うのか。それが、どうして今は目が見えるのか。」²⁰両親は答えて言った。「これがわたしどもの息子で、生まれつき目が見えなかったことは知っています。²¹しかし、どうして今、目が見えるようになったかは、分かりません。だれが目を開けてくれたのかも、わたしどもは分かりません。本人にお聞きください。もう大人ですから、自分のことは自分で話すでしょう。」²²両親がこう言ったのは、ユダヤ人たちを恐れていたからである。ユダヤ人たちは既に、イエスをメシアであると公に言い表す者がいれば、会堂から追放すると決めていたのである。²³両親が、「もう大人ですから、本人にお聞きください」と言ったのは、そのためである。

²⁴さて、ユダヤ人たちは、盲人であった人をもう一度呼び出して言った。「神の前で正直に答えなさい。わたしたちは、あの者が罪ある人間だと知っているのだ。」²⁵彼は答えた。「あの方が罪人かどうか、わたしには分かりません。ただ一つ知っているのは、目の見えなかったわたしが、今は見えるということです。」²⁶すると、彼らは言った。「あの者はお前にどんなことをしたのか。お前の目をどうやって開けたのか。」²⁷彼は答えた。「もうお話ししたのに、聞いてくださいませんでした。なぜまた、聞こうとなさるのですか。あなたがたもあの方の弟子になりたいのですか。」²⁸そこで、彼らはののしって言った。「お前はあの者の弟子だが、我々はモーセの弟子だ。²⁹我々は、神がモーセに語られたことは知っているが、あの者がどこから来たのかは知らない。」³⁰彼は答えて言った。「あの方がどこから来られたか、あなたがたがご存じないとは、実に不思議です。あの方は、わたしの目を開けてくださったのに。」³¹神は罪人の言うことはお聞きにならないと、わたしたちは承知しています。しかし、神をあがめ、その御心を行 う人の言うことは、お聞きになります。³²生まれつき目が見えなかった者の目を開けた人があるということなど、これまで一度も聞いたことがありません。³³あの方が神のもとから来られたのであれば、何もおできにならなかったはずです。」³⁴彼らは、「お前は全く罪の中に生まれたのに、我々に教えようというのか」と言い返し、彼を外に追い出した。

ファリサイ派の人々の罪

³⁵イエスは彼が外に追い出されたことをお聞きになった。そして彼に出会うと、「あなたは人の子を信じるか」と言われた。³⁶彼は答えて言った。「主よ、その方はどんな人ですか。その方を信じたいのですが。」³⁷イエスは言われた。「あなたは、もうその人を見ている。あなたと話しているのが、その人だ。」³⁸彼が、「主よ、信じます」と言って、ひざまずくと、³⁹イエスは言われた。「わたしがこの世に来たのは、裁くためである。こうして、見えない者は見えるようになり、見える者は見えなくなる。」

⁴⁰イエスと一緒に居合わせたファリサイ派の人々は、これらのことを聞いて、「我々も見えないということか」と言った。⁴¹イエスは言われた。「見えなかったのであれば、罪はなかったであろう。しかし、今、『見える』とあなたたちは言っている。だから、あなたたちの罪は残る。」

「羊の囲い」のたとえ

10

¹「はつきり言っておく。羊の囲いに入るのに、門を通らないでほかの所を乗り越えて来る者は、盗人であり、強盗である。²門から入る者が羊飼いである。³門番は羊飼いは門を開き、羊はその声を聞き分ける。羊飼いは自分の羊の名を呼んで連れ出す。⁴自分の羊をすべて連れ出すと、先頭に立って行く。羊はその声を知っているので、ついて行く。⁵しかし、ほかの者には決してついて行かず、逃げ去る。ほかの者たちの声を知らないからである。」⁶イエスは、このたとえをファリサイ派の人々に話されたが、彼らはその話は何のことか分からなかった。

イエスは良い羊飼いの

⁷イエスはまた言われた。「はつきり言っておく。わたしは羊の門である。⁸わたしより前に来た者は皆、盗人であり、強盗である。しかし、羊は彼らの言うことを聞かなかった。⁹わたしは門である。わたしを通して入る者は救われる。その人は、門を出入りして牧草を見つかる。¹⁰盗人が来るのは、盗んだり、屠ったり、滅ぼしたりするためにほかならない。わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。¹¹わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。¹²羊飼いでなく、自分の羊を持たない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして逃げる。――狼は羊を奪い、また追い散らす。――¹³彼は雇い人で、羊のことを心にかけていないからである。¹⁴わたしは良い羊飼いである。わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。¹⁵それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。わたしは羊のために命を捨てる。¹⁶わたしには、この囲いに入っていないほかの羊もいる。その羊をも導かなければならない。その羊もわたしの声を聞き分ける。こうして、羊は一人の羊飼いに導かれ、一つの群れになる。¹⁷わたしは命を、再び受けるために、捨てる。それゆえ、父はわたしを愛してくださる。¹⁸だれもわたしから命を奪い取ることはできない。わたしは自分でそれを捨てる。わたしは命を捨てることもでき、それを再び受けることもできる。これは、わたしが父から受けた掟である。」

¹⁹この話をめぐって、ユダヤ人たちの間にまた対立が生じた。²⁰多くのユダヤ人は言った。「彼は悪霊に取りつかれて、気が変になっている。なぜ、あなたたちは彼の言うことに耳を貸すのか。」²¹ほかの者たちは言った。「悪霊に取りつかれた者は、こういうことは言えない。悪霊に盲人の目が開けられようか。」

22そこ^{しん でん ほう けん き わん さい おこな}ろ、エルサレムで神殿奉獻記念祭が^{ふゆ}行^いわれた。冬であつた。23イエスは、神殿の境内でソロモンの回廊^{しん でん けい だ い}を歩いておられた。24すると、ユダヤ人たちがイエスを取り囲^{と か ん}んで言^いつた。「いつまで、わたしたちに氣をもませるのか。もしメシアなら、はつきりそう言いなさい。」25イエスは答^{こた}えられた。「わたしは言^いつたが、あなたたちは信^{しん}じない。わたしが父の名によつて行^いう業^{わざ}が、わたしについて証^{あか}しをしている。26しかし、あなたたちは信^{しん}じない。わたしの羊^{しん ひつじ}ではないからである。27わたしの羊^{ひつじ}はわたしの声^{こえ}を聞き分ける。わたしは彼らを知^しつており、彼らはわたしに從^{したが}う。28わたしは彼らに永遠^{かれ えい えん いのち}の命^{あた}を与える。彼らは決して滅^{かれ けつ}びず、だれも彼らをわたしの手から奪^{ちち}うことはできない。29わたしの父がわたしにくださったものは、すべてのものより偉大であり、だれも父の手から奪^{ちち}うことはできない。30わたしと父とは一つである。」

31ユダヤ人たちは、イエスを石で打ち殺^{しん いし う ごろ}そうとして、また石を取り上げた。32すると、イエスは言^{いし と あ}われた。「わたしは、父が与^{おお}えてくださった多くの善^よい業^{わざ}をあなたたちに示^{しめ}した。その中のどの業^{しん な}のために、石で打ち殺^{なか わざ いし う ごろ}そうとするのか。」33ユダヤ人たちは答^{あか}えた。「善^よい業^{わざ}のことで、石で打ち殺^{いし う ごろ}すのではない。神を冒^{かみ}瀆^{ぼうとく}したからだ。あなたは、人間なのに、自分を神^{かみ}としているからだ。」34そこで、イエスは言^いわれた。「あなたたちの律法^{りつぽう}に、『わたしは言^いう。あなたたちは神々^{かみがみ}である』と書^かいてあるではないか。35神の言葉^よを受けた人たちが、『神々^{かみ}』と言^いわれている。そして、聖書^{せいしょ}が廢れることはありえない。36それなら、父から聖^{ちち}なる者とされて世^{ちち わざ おこな}に遣^{ちち}わされたわたしが、『わたしは神の子である』と言^いつたからとて、どうして『神を冒^{かみ}瀆^{ぼうとく}している』と言^いうのか。37もし、わたしが父の業^{かみ}を行^いつていないのであれば、わたしを信^{しん}じなくてもよい。38しかし、行^いつているのであれば、わたしを信^{しん}じなくても、その業^{わざ}を信^{しん}じなさい。そうすれば、父がわたしの内^{ちち}におられ、わたしが父の内^{うち}にいることを、あなたたちは知^しり、また悟^{さと}るだろう。」39そこで、ユダヤ人たちはまたイエスを捕^{しん}らえようとしたが、イエスは彼らの手^とを逃^かれて、去^さつて行^いかれた。

40イエスは、再^{ふた}びヨルダンの向^むこう側^{がわ}、ヨハネが最^{さいしよ}初^{はつ}に洗^{さいしよ}禮^{れい}を受け^{さず}ていた所^{ところ}に行^いつて、そこに滞^{たいざい}在^{ざい}された。41多くの人がイエスのもとに來^{おお}て言^{ひと}つた。「ヨハネは何^{なん}のしるしも行^{おこな}わなかつたが、彼がこ^かの方^{かた}について話^{はな}したことは、すべて本^{ほん}当^{とう}だつた。」42そこでは、多くの人がイエスを信^{おお}じた。

ラザロの死

11ある病^{びょうにん}人^しがいた。マリアとその姉妹^{しまい}マルタの村^{むら}、ベタニアの出^{しゅつしん}身^{しん}で、ラザロといつた。2このマリアは主^{しゅ}に香油^{こうゆ}を塗^ぬり、髪^{かみ}の毛^けで主^{しゅ}の足^{あし}をぬぐつた女^{おんな}である。その兄^{きょうだい}弟^{てい}ラザロが病^{びょうき}氣^きであつた。姉妹^{しまい}たちはイエスのもとに人^{ひと}をやつて、「主^{しゅ}よ、あなた^{あい}の愛^{あい}しておられる者^{もの}が病^{びょうき}氣^きなのです」と言^いわせた。4イエスは、それ^きを聞^きいて言^いわれた。「この病^{びょうき}氣^きは死^しで終^しわるものではない。神の栄^{かみ}光^{えいこう}のためである。神の子^{かみ こ}がそれによつて栄^{かみ}光^{えいこう}を受け^うるのである。」5イエスは、マルタとその姉妹^{しまい}とラザロを愛^{あい}しておられた。6ラザロが病^{びょうき}氣^きだと聞^きいてからも、なお二日間^{ふつか}同^{かん}じ所^{おな}に滞^{たいざい}在^{ざい}された。7それから、弟^{てい}子^したちに言^いわれた。「もう一度^ど、ユダヤ^いに行^いこう。」8弟子^{でし}たちは言^いつた。「ラビ、ユダヤ人^{いん}たちがつ^いいこの間^{あいだ}もあなた^{いし}を石^{いし}で打ち殺^うそうとしたのに、またそこへ行^いかれるのですか。」9イエスは答^{こた}えに言^いつた。「昼間^{ひるま}は十二時間^{じふにかん}あるではないか。昼^{ひる}のうちに歩^{ある}けば、つまずくことはない。この世^よの光^{ひかり}を見^みているからだ。10しかし、夜^よ歩^{ひかり}けば、つまずく。その人^{ひと}の内^{うち}に光^{ひかり}がないからである。」11こうお話し^{はな}になり、また、その後^{あと}で言^いわれた。「わたしたちの友^{とも}ラザロが眠^{ねむ}っている。しかし、わたしは彼^{かれ}を起^おこしに行^いく。」12弟子^{でし}たちは、「主^{しゅ}よ、眠^{ねむ}っているのであれば、助^{たす}かるでしょう」と言^いつた。13イエスはラザロの死^しについて話^{はな}されたのだが、弟子^したちは、ただ眠^{ねむ}りについて話^{はな}されたものと思^{おも}つたのである。14そこでイエスは、はつきりと言^いわれた。「ラザロは死^しんだのだ。15わたしがその場^{ばい}に居^い居^あわせなかつたのは、あなた^あがたにとつてよかつた。あな^{しん}がたが信^かじるようになるためである。さあ、彼^{かれ}のところ^いへ行^いこう。」16すると、ディディモと呼ば^よれるトマスが、仲間^{なかま}の弟子^{でし}たちに、「わたしたちも行^いつて、一^{いっ}緒^{しよ}に死^しのうではないか」と言^いつた。

イエスは復活と命

17さて、イエスが行^いつて御^ご覧^{らん}になると、ラザロは墓^{はか}に葬^{ほうむ}られて既^{すで}に四^{よつ}日もたつていた。18ベタニアはエルサレムに近^{ちか}く、十五^{じふご}スタディオンほどのところにあつた。19マルタとマリアのところには、多くのユダヤ人^{おお}が、兄^{きん}弟^{てい}ラザロのこ^{きょうだい}で慰^{なぐさ}め^きに來^きていた。20マルタは、イエスが來^こられたと聞^きいて、迎^{むか}え^いに行^いつたが、マリアは家^{いえ}の中^{なか}に座^{すわ}つていた。21マルタはイエスに言^いつた。「主^{しゅ}よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄^い弟^{てい}は死^しななかつたでしょうに。22しかし、あなたが神^{かみ}にお願い^{ねが}になることは何でも神^{なん}はかなえてくださると、わたしは今^{いま}でも承^{しょう}知^ちしています。」23イエスが、「あなた^{きょうだい}の兄^い弟^{てい}は復^ふ活^{かつ}する」と言^いわれると、24マルタは、「終^おわり^ひの日^{ふつかつ}の復^ふ活^{かつ}の時^{とき}に復^{せん}活^{かつ}することは存^いじております」と言^いつた。25イエスは言^いわれた。「わたしは復^ふ活^{かつ}であり、命^{いのち}である。わたしを信^{しん}じる者^{もの}は、死^しんでも生^いきる。26生^{しん}きていてわたしを信^{しん}じる者^{もの}はだれも、決^{けつ}して死^{しん}ぬことはない。このことを信^{しん}じるか。」27マルタは言^いつた。「はい、主^{しゅ}よ、あなたが世^よに來^こられるはか^{かみ}の神^この子^{しん}、メシアであるとわたしは信^{しん}じております。」

イエス、涙を流す

28マルタは、こう言^いつてから、家^{いえ}に歸^{かえ}つて姉妹^{しまい}のマリアを呼^よび、「先生^{せんせい}がい^よらして、あなた^よをお呼^{みみう}びです」と耳^き打^たちした。29マリアはこれ^あを聞^きくと、すぐ^たに立^あち上^あがり、イエスのもと^いに行^いつた。30イエスはまだ村^{むら}には入^{はい}らず、マルタが出^で迎^{むか}えた場所^{ばしょ}におられた。31家^{いえ}の中^{なか}でマリアと一^{いっ}緒^{しょ}にいて、慰^{なぐさ}め^{きん}ていたユダヤ人^{いん}たちは、か^かのじよ^{きゆう}に急^たに立^あち上^あがつて出^でて行^いく^みのを見^みて、墓^{はか}に泣^なき^なに行^いくのだらうと思^いひ、後^{あと}を追^おつた。32マリアはイエスのおられ^おる所^{ところ}に來^きて、イエスを見^みるなり足^{あし}もとにひ^ふれ伏^{しゆ}し、「主^{しゅ}よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄^い弟^{てい}は死^しななかつたでしょうに」と言^いつた。33イエスは、彼女^{かのじよ}が泣^なき、一^{いっ}緒^{しょ}に來^きたユダヤ人^{いん}たちも泣^な泣^ないているのを見^みて、心^{こころ}に憤^{いきどお}りを覚^{おぼ}え、興^{こう}奮^{ふん}して、34言^いわれた。「どこに葬^{ほうむ}つたのか。」彼^{かれ}らは、「主^{しゅ}よ、來^きて、御^ご覧^{らん}ください」と言^いつた。35イエスは涙^{なみだ}を流^{なが}された。36ユダヤ人^{いん}たちは、「御^ご覧^{らん}なさい、どんなにラザロを愛^{あい}しておられたことか」と言^いつた。37しかし、中^{なか}には、「盲^め人の目^めを開^あけたこの人^{ひと}も、ラザロが死^しなな^いいようにはできなかつたのか」と言^いう者^{もの}もいた。

イエス、ラザロを生き返らせる

³⁸イエスは、再び心に憤りを覚えて、墓に来られた。墓は洞穴で、石でふさがれていた。³⁹イエスが、「その石を取りのけなさい」と言われると、死んだラザロの姉妹マルタが、「主よ、四日もたっていますから、もうにおいます」と言った。⁴⁰イエスは、「もし信じるなら、神の栄光が見られると、言っておいたではないか」と言われた。⁴¹人々が石を取りのけると、イエスは天を仰いで言われた。「父よ、わたしの願いを聞き入れてくださって感謝します。⁴²わたしの願いをいつも聞いてくださることを、わたしは知っています。しかし、わたしがこう言うのは、周りにいる群衆のためです。あなたがわたしをお遣わしになったことを、彼らに信じさせるためです。」⁴³こう言うってから、「ラザロ、出て来なさい」と大声で叫ばれた。⁴⁴すると、死んでいた人が、手と足を布で巻かれたまま出て来た。顔は覆いで包まれていた。イエスは人々に、「ほどいてやって、行かせなさい」と言われた。

イエスを殺す計画

(マタ26 1—5、マコ14 1—2、ルカ22 1—2)

⁴⁵マリアのところに来て、イエスのなさったことを目撃したユダヤ人の多くは、イエスを信じた。⁴⁶しかし、中には、ファリサイ派の人々のもとへ行き、イエスのなさったことを告げる者もいた。⁴⁷そこで、祭司長たちとファリサイ派の人々は最高法院を召集して言った。「この男は多くのしるしを行っているが、どうすればよいか。⁴⁸このままにしておけば、皆が彼を信じるようになる。そして、ローマ人が来て、我々の神殿も国民も滅ぼしてしまうだろう。」⁴⁹彼らの中のひとりとしだいさいしに、なにわひとり、にんげん、たみ、か、し、こくみんぜんたい、ほろ、す、ほう一人で、その年の大祭司であったカイアフアが言った。「あなたがたは何も分かっていない。⁵⁰一人の人間が民の代わりに死に、国民全体が滅びないで済む方が、あなたがたに好都合だとは考えないのか。」⁵¹これは、カイアフアが自分の考えから話したのではない。その年の大祭司であったので預言して、イエスがこくみん、し、い、こくみん、ち、かみ、こ、あつ、し、い、ひ、かれ国民のために死ぬ、と言ったのである。⁵²国民のためばかりでなく、散らされている神の子たちを一つに集めるためにも死ぬ、と言ったのである。⁵³この日から、彼らはイエスを殺そうとたくらんだ。

⁵⁴それで、イエスはもはや公然とユダヤ人たちの間を歩くことはなく、そこを去り、荒野に近い地方のエフライムという町に行き、弟子たちとそこに滞在された。

⁵⁵さて、ユダヤ人の過越祭が近づいた。多くの人が身を清めるために、過越祭の前に地方からエルサレムへ上った。⁵⁶彼らはイエスを捜し、神殿の境内で互いに言った。「どう思うか。あの人はこの祭りには来ないのだろうか。」⁵⁷祭司長たちとファリサイ派の人々は、イエスの居どころが分かれば届け出よと、命令を出していた。イエスを逮捕するためである。

こゆ そそ
ベタニアで香油を注がれる

(マタ266—13、マコ143—9)

12

すぎこさい むいか まえ い ししゃ なか ゆうしよく ようい
¹過越祭の六日前に、イエスはベタニアに行かれた。そこには、イエスが死者の中からよみがえらせたラザロがいた。²イエスのためにそこで夕食が用意され、マ
ルタは給仕をしていた。ラザロは、イエスと共に食事の席に着いた人々の中にいた。³そのとき、マリアが純粹で非常に高価なナルドの香油を一トラ持つ
て来て、イエスの足に塗り、自分の髪でその足をぬぐった。家は香油の香りでいっぱいになった。⁴弟子の一人で、後にイエスを裏切るイスカリオテのユダが言っ
た。⁵「なぜ、この香油を三百デナリオンで売って、貧しい人々に施さなかったのか。」⁶彼がこう言ったのは、貧しい人々のことを心にかけていたからではな
い。彼は盗人であって、金入れを預かっていながら、その中身をごまかしていたからである。⁷イエスは言われた。「この人のするままにさせておきなさい。わたし
の葬りの日のために、それを取って置いたのだから。⁸貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいるが、わたしはいつも一緒にいるわけではない。」

たい いんぼう
ラザロに対する陰謀

⁹イエスがそこにおられるのを知って、ユダヤ人の大群衆がやって来た。それはイエスだけが目当てではなく、イエスが死者の中からよみがえらせたラザロを見
るためでもあった。¹⁰祭司長たちはラザロをも殺そうと謀った。¹¹多くのユダヤ人がラザロのことで離れて行って、イエスを信じるようになったからである。

むか
エルサレムに迎えられる

(マタ211—11、マコ111—11、ルカ1928—40)

よくじつ まつ き おおぜい ぐんしゆう こ き えだ も むか で さけ つづ
¹²その翌日、祭りに来ていた大勢の群衆は、イエスがエルサレムに来られると聞き、¹³なつめやしの枝を持って迎えに出た。そして、叫び続けた。
「ホサナ。
しゅ な かた しゆくふく
主の名によって来られる方に、祝福があるように、
おう
イスラエルの王に。」
こ み の つぎ か
¹⁴イエスはろばの子を見つけて、お乗りになった。次のように書いてあるとおりである。
むすめ おそ
¹⁵「シオンの娘よ、恐れるな。
み まえ おう
見よ、お前の王がおいでになる、
こ の
ろばの子に乗って。」
でし さいしょ わ えいこう う か ひとびと
¹⁶弟子たちは最初これらのことが分からなかったが、イエスが栄光を受けられたとき、それがイエスについて書かれたものであり、人々がそのとおりにイエスにした
というのを思い出した。¹⁷イエスがラザロを墓から呼び出して、死者の中からよみがえらせたとき一緒にいた群衆は、その証しをしていた。¹⁸群衆がイエスを
でむか は ひとびと たが い み なに むだ よ
出迎えたのも、イエスがこのようなしるしをなさったと聞いていたからである。¹⁹そこで、ファリサイ派の人々は互いに言った。「見よ、何をしても無駄だ。世をあ
げてあの男について行ったではないか。」

じん あ く
ギリシア人、イエスに会いに来る

まつ れいはい のぼ き ひとびと なか なんにん じん かれ しゅつしん
²⁰さて、祭りのとき礼拝するためにエルサレムに上って来た人々の中に、何人かのギリシア人がいた。²¹彼らは、ガリラヤのベトサイダ出身のフィリポのもと
へ来て、「お願いします。イエスにお目にかかりたいのです」と頼んだ。²²フィリポは行ってアンデレに話し、アンデレとフィリポは行って、イエスに話した。²³イエス
はこうお答えになった。「人の子が栄光を受ける時が来た。²⁴はつきり言うておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、
おお み むす じぶん いのち あい もの うしな よ じぶん いのち にく ひと たも えいえん いのち いた つか もの
多くの実を結ぶ。²⁵自分の命を愛する者は、それを失うが、この世で自分の命を憎む人は、それを保って永遠の命に至る。²⁶わたしに仕えようとする者
は、わたしに従え。そうすれば、わたしのいるところに、わたしに仕える者もいることになる。わたしに仕える者がいれば、父はその人を大切にしてくださる。
」

ひと こ あ
人の子は上げられる

いま こころさわ なん い ちち ととき すく い ととき き ちち
²⁷「今、わたしは心騒ぐ。何と言おうか。『父よ、わたしをこの時から救ってください』と言おうか。しかし、わたしはまさにこの時のために来たのだ。²⁸父
よ、御名の栄光を現してください。』すると、天から声が聞こえた。「わたしは既に栄光を現した。再び栄光を現そう。」²⁹そばにいた群衆は、これを
き かみなり な い もの でんし ひと はな い こた い こえ き
聞いて、「雷が鳴った」と言い、ほかの者たちは「天使がこの人に話しかけたのだ」と言った。³⁰イエスは答えて言われた。「この声が聞こえたのは、わたしの
ためではなく、あなたがたのためだ。³¹今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。³²わたしは地上から上げられるとき、すべての人を自
分のもとへ引き寄せよう。」³³イエスは、御自分がどのような死を遂げるかを示そうとして、こう言われたのである。³⁴すると、群衆は言葉を返した。「わたした
りつぼう えいえん き ひと こ あ い い
ちは律法によって、メシアは永遠にいつもおられると聞いていました。それなのに、人の子は上げられなければならない、とどうして言われるのですか。その『人
の子』とはだれのことですか。」³⁵イエスは言われた。「光は、いましばらく、あなたがたの間にある。暗闇に追いつかれないように、光のあるうちに歩きな
さい。暗闇の中を歩く者は、自分がどこへ行くのか分からない。³⁶光の子となるために、光のあるうちに、光を信じなさい。」

しん もの
イエスを信じない者たち

イエスはこれらのことを話してから、立ち去って彼らから身を隠された。³⁷このように多くのしるしを彼らの目の前で 行 われたが、彼らはイエスを信じなかった。³⁸預言 者 イザヤの言葉が実現するためであった。彼はこう言っている。

「よ、だれがわたしたちの知らせを信じましたか。」

「御腕は、だれに示されましたか。」

³⁹彼らが信じるができなかった理由を、イザヤはまた次のように言っている。

「は彼らの目を見えなくし、

「心 をかたくなにされた。

「して、彼らは目で見ることなく、

「で悟らず、立ち帰らない。

「しは彼らをいやさない。」

「イザヤは、イエスの栄光を見たので、このように言い、イエスについて語ったのである。⁴²とはいえ、議員の中にもイエスを信じる者は多かった。ただ、会堂から追放されるのを恐れ、ファリサイ派の人々をはばかって 公 に言い表 さなかった。⁴³彼らは、神からの誉れよりも、人間からの誉れの方を好んだのである。

イエスの言葉による裁き

「イエスは叫んで、こう言われた。「わたしを信じる者は、わたしを信じるのではなくて、わたしを遣わされた方を信じるのである。⁴⁴わたしを見る者は、わたしを遣わされた方を見るのである。⁴⁵わたしを信じる者が、だれも暗闇の中にとどまることのないように、わたしは 光 として世に来た。⁴⁶わたしの言葉を聞いて、それを守らない者がいても、わたしはその者を裁かない。わたしは、世を裁くためではなく、世を救うために来たからである。⁴⁷わたしを拒み、わたしの言葉を受け入れない者に対しては、裁くものがある。わたしの語った言葉が、終わりの日にその者を裁く。⁴⁸なぜなら、わたしは自分勝手に語ったのではなく、わたしをお遣わしになった父が、わたしの言うべきこと、語るべきことをお命じになったからである。⁴⁹父の命令は永遠の命 であることを、わたしは知っている。だから、わたしが語ることは、父がわたしに命じられたままに語っているのである。」

弟子の足を洗う

13

「さて、過越祭の前のことである。イエスは、この世から父のもとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。²夕食のときであった。すでに、悪魔は、イスカリオテのシモンの子ユダに、イエスを裏切る考 えを抱かせていた。³イエスは、父がすべてを御自分の手にゆだねられたこと、また、御自分が神のもとから来て、神のもとに帰ろうとしていることを悟り、⁴食事の席から立ち上がって上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわせた。⁵それから、たらいに水をくんで弟子たちの足を洗い、腰にまとった手ぬぐいでふき始められた。⁶シモン・ペトロのところに来ると、ペトロは、「主よ、あなたがわたしの足を洗ってくださるのですか」と言った。⁷イエスは答えて、「わたしのしていることは、今あなたには分かるまいが、後で、分かるようになる」と言われた。⁸ペトロが、「わたしの足など、決して洗わないでください」と言うのと、イエスは、「もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたしと何のかかわりもないことになる」と答えられた。⁹そこでシモン・ペトロが言った。「主よ、足だけでなく、手も頭も。」¹⁰イエスは言われた。「既に 体を洗った者は、全身清いのだから、足だけ洗えばよい。あなたがたは清いのだが、皆が清いわけではない。」¹¹イエスは、御自分を裏切ろうとしている者がだれであるかを知っておられた。それで、「皆が清いわけではない」と言われたのである。

¹²さて、イエスは、弟子たちの足を洗ってしまおうと、上着を着て、再び席に着いて言われた。「わたしがあなたがたにしたことが分かるか。¹³あなたがたは、わたしを『先生』とか『主』とか呼ぶ。そのように言うのは正しい。わたしはそうである。¹⁴ところで、主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。¹⁵わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである。¹⁶はつきり言うておく。僕は主人にまさらず、遣わされた者は遣わした者にまさりはしない。¹⁷このことが分かり、そのとおりに実行するなら、幸いである。¹⁸わたしは、あなたがた皆について、こう言っているのではない。わたしは、どのような人々を選び出したが分かっている。しかし、『わたしのパンを食べている者が、わたしに逆らった』という聖書の言葉は実現しなければならない。¹⁹事の起こる前に、今、言うておく。事が起こったとき、『わたしはある』ということ、あなたがたが信じるようになるためである。²⁰はつきり言うておく。わたしの遣わす者を受け入れる人は、わたしを受け入れ、わたしを受け入れる人は、わたしをお遣わしになっ

かた う い
た方を受け入れるのである。」

うらぎ よこく
裏切りの予告

(マタ26 20—25、マコ14 17—21、ルカ22 21—23)

²¹イエスはこう話し終えると、心 を騒がせ、断言された。「はっきり言うておく。あなたがたのうちの一人がわたしを裏切ろうとしている。」²²弟子たちは、だれについて言うておられるのか察しかねて、顔を見合わせた。²³イエスのすぐ 隣 には、弟子たちの一人で、イエスの愛しておられた者が 食 事 の席に着いていた。²⁴シモン・ペトロはこの弟子に、だれについて言うておられるのかと 尋ねるように合図した。²⁵その弟子が、イエスの胸もとに寄りかかったまま、「主よ、それはだれのことですか」と言うのと、²⁶イエスは、「わたしがパン切れを浸して与えるのがその人だ」と答えられた。それから、パン切れを浸して取り、イスカリオテのシモンの子ユダにお与えになった。²⁷ユダがパン切れを受け取ると、サタンが彼の中に入った。そこでイエスは、「しようとしていることを、今すぐ、しなさい」と彼に言われた。²⁸座に着いていた者はだれも、なぜユダにこう言われたのか分からなかった。²⁹ある者は、ユダが金入れを預かっていたので、「祭りに必要な物を買いなさい」とか、貧しい人に何か 施 すようにと、イエスが言われたのだと思っていた。³⁰ユダはパン切れを受け取ると、すぐ出て行った。夜であった。

あたら おきて
新しい掟

³¹さて、ユダが出て行くと、イエスは言われた。「今や、人の子は栄光を受けた。神も人の子によって栄光をお受けになった。³²神が人の子によって栄光をお受けになったのであれば、神も御自身によって人の子に栄光をお与えになる。しかも、すぐにお与えになる。³³子たちよ、いましばらく、わたしはあなたがたと共にいる。あなたがたはわたしを捜すだろう。『わたしが行く 所 にあなたがたは来ることができない』とユダヤ人たちに言ったように、今、あなたがたにも同じことをい 言 っ て お く 。³⁴あなたがたに 新 しい 掟 を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。³⁵互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。」

りはん よこく
ペトロの離反を予告する

(マタ26 31—35、マコ14 27—31、ルカ22 31—34)

³⁶シモン・ペトロがイエスに言った。「主よ、どこへ行かれるのですか。」イエスが答えられた。「わたしの行く 所 に、あなたは今ついて来ることができないが、後でついて来ることになる。」³⁷ペトロは言った。「主よ、なぜ今ついて行けないのですか。あなたのためなら 命 を捨てます。」³⁸イエスは答えられた。「わたしのために 命 を捨てると言うのか。はっきり言うておく。 鶏 が鳴くまでに、あなたは三度わたしのことを知らないと言うだろう。」

あち いた みち
イエスは父に至る道

14

¹「心 を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい。²わたしの父の家には住む 所 がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。³行つてあなたがたのために場所を用意したら、戻つて来て、あなたがたをわたしのもとのに迎える。こうして、わたしのいる 所 に、あなたがたもいることになる。⁴わたしがどこへ行くのか、その道をあなたがたは知っている。」⁵トマスが言った。「主よ、どこへ行かれるのか、わたしたちには分かりません。どうして、その道を知ることができるでしょうか。」⁶イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、 命 である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。⁷あなたがたがわたしを知っているなら、わたしの父をも知ることになる。今から、あなたがたは父を知る。いや、既に父を見ている。」⁸フィリポが「主よ、わたしたちに御父をお示してください。そうすれば満足できます」と言うのと、⁹イエスは言われた。「フィリポ、こんなに長い 間 一緒にいるのに、わたしが分かっているのか。わたしを見た者は、父を見たのだ。なぜ、『わたしたちに御父をお示してください』と言うのか。¹⁰わたしが父の内におり、父がわたしの内におられることを、信じないのか。わたしがあなたがたに言う言葉は、自分から話しているのではない。わたしの内におられる父が、その業を行 っ ておられるのである。¹¹わたしが父の内におり、父がわたしの内におられると、わたしが言うのを信じなさい。もしそれを信じないなら、業そのものによって信じなさい。¹²はっきり言うておく。わたしを信じる者は、わたしが 行 う業を行 い、また、もつと大きな業を行 うようになる。わたしが父のもとへ行くからである。¹³わたしの名によって願うことは、何でもかなえてあげよう。こうして、父は子によって栄光をお受けになる。¹⁴わたしの名によってわたしに何かを願うならば、わたしがかなえてあげよう。」

せいれい あた やくそく
聖霊を与える約束

¹⁵「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの 掟 を守る。¹⁶わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。¹⁷この方は、真理の霊である。世は、この霊を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない。しかし、あなたがたはこの霊を知っている。この霊があなたがたと共におり、これから、あなたがたの内にいるからである。¹⁸わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻つて来る。¹⁹しばらくすると、世はもうわたしを見なくなるが、あなたがたはわたしを見る。わたしが生きているので、あなたがたも生きるようになる。²⁰かの日には、わたしが父の内におり、あなたがたがわたしの内におり、わたしもあなたがたの内にいることが、あなたがたに分かる。²¹わたしの 掟 を受け入れ、それを守る人は、わたしを愛する者である。わたしを愛する人は、わたしの父に愛される。わたしもその人を愛して、その人にわたし自身を 現 す。」²²イスカリオテでない方のユダが、「主よ、わたしたちには御自分を 現 そうとなさるのに、世にはそうなさらないのは、なぜでしょうか」と言った。²³イエスはこう答

えて言われた。「わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。わたしの父はその人を愛され、父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む。」²⁴わたしを愛さない者は、わたしの言葉を守らない。あなたがたが聞いている言葉はわたしのものではなく、わたしをお遣わしになった父のものである。

²⁵わたしは、あなたがたといたときに、これらのことを話した。²⁶しかし、弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる。²⁷わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。²⁸『わたしは去って行くが、また、あなたがたのところへ戻って来る』と言ったのをあなたがたは聞いた。わたしを愛しているなら、わたしが父のもとに行くのを喜んでくれるはずだ。父はわたしよりも偉大な方だからである。²⁹事が起こったときに、あなたがたが信じるようにと、今、その事の起こる前に話しておく。³⁰もはや、あなたがたと多くを語るまい。世の支配者が来るからである。だが、彼はわたしをどうすることもできない。³¹わたしが父を愛し、父がお命じになったとおりに行っていることを、世は知るべきである。さあ、立て。ここから出かけよう。」

イエスはまことのぶどうの木

15

¹「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。²わたしにつながっているながら、実を結ばない枝はみな、父が取り除かれる。しかし、実を結ぶものはみな、いよいよ豊かに実を結ぶように手入れをなさる。³わたしの話した言葉によって、あなたがたは既に清くなっている。⁴わたしにつながっていないさい。わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながっていないければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながっていないければ、実を結ぶことができない。⁵わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。⁶わたしにつながっていない人がいれば、枝のように外に投げ捨てられて枯れる。そして、集められ、火に投げ入れられて焼かれてしまう。⁷あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたの内にいつもあるならば、望むものを何でも願いなさい。そうすればかなえられる。⁸あなたがたが豊かに実を結び、わたしの弟子となるなら、それによって、わたしの父は栄光をお受けになる。⁹父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい。¹⁰わたしが父の掟を守り、その愛にとどまっているように、あなたがたも、わたしの掟を守るなら、わたしの愛にとどまっていることになる。

¹¹これらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたの内にあり、あなたがたの喜びが満たされるためである。¹²わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。¹³友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。¹⁴わたしの命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。¹⁵もはや、わたしはあなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人が何をしているか知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼ぶ。父から聞いたことをすべてあなたがたに知らせたからである。¹⁶あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行つて実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。¹⁷互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である。」

はくがい まこく
迫害の予告

¹⁸「世があなたがたを憎むなら、あなたがたを憎む前にわたしを憎んでいたことを覚えなさい。¹⁹あなたがたが世に属していたなら、世はあなたがたを身内として愛したはずである。だが、あなたがたは世に属していない。わたしがあなたがたを世から選び出した。だから、世はあなたがたを憎むのである。²⁰『僕は主人にまさはりはない』と、わたしが言った言葉を思い出しなさい。人々がわたしを迫害したのであれば、あなたがたをも迫害するだろう。わたしの言葉を守ったのであれば、あなたがたの言葉をも守るだろう。²¹しかし人々は、わたしの名のゆえに、これらのことをみな、あなたがたにするようになる。わたしをお遣わしになった方を知らないからである。²²わたしが来て彼らに話さなかったなら、彼らに罪はなかったであろう。だが、今は、彼らは自分の罪について弁解の余地がない。²³わたしを憎む者は、わたしの父をも憎んでいる。²⁴だれも行つたことのない業を、わたしが彼らの間で行わなかったなら、彼らに罪はなかったであろう。だが今は、その業を見たうえで、わたしとわたしの父を憎んでいる。²⁵しかし、それは、『人々は理由もなく、わたしを憎んだ』と、彼らの律法に書いてある言葉が実現するためである。

²⁶わたしが父のもとからあなたがたに遣わそうとしている弁護者、すなわち、父のもとから出る真理の霊が来るとき、その方がわたしについて証しをなさるはずである。²⁷あなたがたも、初めからわたしと一緒にいたのだから、証しをするのである。

16

¹これらのことを話したのは、あなたがたをつまずかせないためである。²人々はあなたがたを会堂から追放するだろう。しかも、あなたがたを殺す者が皆、自分は神に奉仕していると考える時が来る。³彼らがこういうことをするのは、父をもわたしをも知らないからである。⁴しかし、これらのことを話したのは、その時が来たときに、わたしが語ったということをあなたがたに思い出させるためである。」

せいれい はたら
聖霊の働き

⁵「初めからこれらのことを言わなかったのは、わたしがあなたがたと一緒にいたからである。⁶今わたしは、わたしをお遣わしになった方のもとに行こうとしているが、あなたがたはだれも、『どこへ行くのか』と尋ねない。⁷むしろ、わたしがこれらのことを話したので、あなたがたの心は悲しみで満たされている。⁸しかし、実を言うと、わたしが去って行くのは、あなたがたのためになる。わたしが去って行かなければ、弁護者はあなたがたのところに来ないからである。わたしが行けば、弁護者をあなたがたのところに送る。⁹その方が来れば、罪について、義について、また、裁きについて、世の誤りを明らかにする。¹⁰罪についてとは、彼らがわたしを信じないこと、¹¹義についてとは、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなること、¹²また、裁きについてとは、この世の支配者

が断罪されることである。

「¹²言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。¹³しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。¹⁴その方はわたしに栄光を与える。わたしのものを受けて、あなたがたに告げるからである。¹⁵父が持つておられるものはすべて、わたしのものである。だから、わたしは、『その方がわたしのものを受けて、あなたがたに告げる』と言ったのである。」

悲しみが喜びに変わる

「¹⁶「しばらくすると、あなたがたはもうわたしを見なくなるが、またしばらくすると、わたしを見るようになる。」¹⁷そこで、弟子たちのある者は互いに言った。「『しばらくすると、あなたがたはわたしを見なくなるが、またしばらくすると、わたしを見るようになる』とか、『父のもとに行く』とか言っておられるのは、何のことだろう。」「¹⁸また、言った。「『しばらくすると』と言っておられるのは、何のことだろう。何を話しておられるのか分からない。」「¹⁹イエスは、彼らが尋ねたがっているのを知って言われた。「『しばらくすると、あなたがたはわたしを見なくなるが、またしばらくすると、わたしを見るようになる』と、わたしが言ったことについて、論じ合っているのか。²⁰はつきり言っておく。あなたがたは泣いて悲嘆に暮れるが、世は喜ぶ。あなたがたは悲しむが、その悲しみは喜びに変わる。²¹女は子供を産むとき、苦しむものだ。自分の時が来たからである。しかし、子供が生まれると、一人の人間が世に生まれ出た喜びのために、もはやその苦痛を思い出さない。²²ところで、今はあなたがたも、悲しんでいる。しかし、わたしは再びあなたがたと会い、あなたがたは心から喜ぶことになる。その喜びをあなたがたから奪い去る者はいない。²³その日には、あなたがたはもはや、わたしに何も尋ねない。はつきり言っておく。あなたがたがわたしの名によって何かを父に願うならば、父はお与えになる。²⁴今までは、あなたがたはわたしの名によっては何も願わなかった。願いなさい。そうすれば与えられ、あなたがたは喜びで満たされる。」

イエスは既に勝っている

「²⁵「わたしはこれらのことを、たとえを用いて話してきた。もはやたとえによらず、はつきり父について知らせる時が来る。²⁶その日には、あなたがたはわたしの名によって願うことになる。わたしがあなたがたのために父に願ってあげる、とは言わない。²⁷父御自身が、あなたがたを愛しておられるのである。あなたがたが、わたしを愛し、わたしが神のもとから出て来たことを信じたからである。²⁸わたしは父のもとから出て、世に來たが、今、世を去って、父のもとに行く。」²⁹弟子たちは言った。「今は、はつきりとお話しになり、少しもたとえを用いられません。³⁰あなたが何でもご存じで、だれもお尋ねする必要のないことが、今、分かりました。これによって、あなたが神のもとから來られたと、わたしたちは信じます。」³¹イエスはお答えになった。「今ようやく、信じるようになったのか。³²だが、あなたがたが散らされて自分の家に帰ってしまい、わたしをひとりきりにする時が来る。いや、既に來ている。しかし、わたしはひとりではない。父が、共にいてくださるからだ。³³これらのことを話したのは、あなたがたがわたしによって平和を得るためである。あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。」

イエスの祈り

17

「イエスはこれらのことを話してから、天を仰いで言われた。「父よ、時が來ました。あなたの子があなたの栄光を現すようになるために、子に栄光を与えてください。²あなたは子にすべての人を支配する権能をお与えになりました。そのために、子はあなたからゆだねられた人すべてに、永遠の命を与えることができるのです。³永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。⁴わたしは、行うようにとあなたが与えてくださった業を成し遂げて、地上であなたの栄光を現しました。⁵父よ、今、御前でわたしに栄光を与えてください。世界が造られる前に、わたしがみもとで持つていたあの栄光を。」

「⁶世から選び出してわたしに与えてくださった人々に、わたしは御名を現しました。彼らはあなたのものでしたが、あなたはわたしに与えてくださいました。彼らは、御言葉を守りました。⁷わたしに与えてくださったものはみな、あなたからのものであることを、今、彼らは知っています。⁸なぜなら、わたしはあなたから受けた言葉を彼らに伝え、彼らはそれを受け入れて、わたしがみもとから出て來たことを本当に知り、あなたがわたしをお遣わしになったことを信じたからです。⁹彼らのためにお願いします。世のためではなく、わたしに与えてくださった人々のためにお願いします。彼らはあなたのものだからです。¹⁰わたしのものはすべてあなたのもの、あなたのものはわたしのものです。わたしは彼らによって栄光を受けました。¹¹わたしは、もはや世にはいません。彼らは世に残りますが、わたしはみもとに参ります。聖なる父よ、わたしに与えてくださった御名によって彼らを守ってください。わたしたちのように、彼らも一つとなるためです。¹²わたしは彼らと一緒にいる間、あなたが与えてくださった御名によって彼らを守りました。わたしが保護したので、滅びの子のほかは、だれも滅びませんでした。聖書が実現するためです。¹³しかし、今、わたしはみもとに参ります。世にいる間に、これらのことを語るのは、わたしの喜びが彼らの内に満ちあふれるようになるためです。¹⁴わたしは彼らに御言葉を伝えましたが、世は彼らを憎みました。わたしが世に属していないように、彼らも世に属していないからです。¹⁵わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです。¹⁶わたしが世に属していないように、彼らも世に属していないのです。¹⁷真理によって、彼らを聖なる者としてください。あなたの御言葉は真理です。¹⁸わたしを世にお遣わしになったように、わたしも彼らを世に遣わしました。¹⁹彼らのために、わたしは自分自身をささげます。彼らも、真理によってささげられた者となるためです。」

また、彼らのためだけでなく、彼らの言葉によってわたしを信じる人々のためにも、お願いします。²¹父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人々を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。そうすれば、世は、あなたがわたしをお遣わしになったことと、信じるようになります。²²あなたがくださった栄光を、わたしは彼らに与えました。わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためです。²³わたしが彼らの内におり、あなたがわたしの内におられるのは、彼らが完全に一つになるためです。こうして、あなたがわたしをお遣わしになったこと、また、わたしを愛しておられたように、彼らをも愛しておられたことを、世が知るようにします。²⁴父よ、わたしに与えてくださった人々を、わたしのいる所に、共におらせてください。それは、天地創造の前からわたしを愛して、与えてくださったわたしの栄光を、彼らに見せるためです。²⁵正しい父よ、世はあなたを知りませんが、わたしはあなたを知っており、この人々はあなたがわたしを遣わされたことを知っています。²⁶わたしは御名を彼らに知らせました。また、これからも知らせます。わたしに対するあなたの愛が彼らの内にあり、わたしも彼らの内になるようになるためです。」

裏切られ、逮捕される

（マタ26 47—56、マコ14 43—50、ルカ22 47—53）

18

こう話し終えると、イエスは弟子たちと一緒に、キドロン谷の向こうへ出て行かれた。そこには園があり、イエスは弟子たちとその中に入られた。²イエスを裏切ろうとしていたユダも、その場所を知っていた。イエスは、弟子たちと共に度々ここに集まっておられたからである。³それでユダは、一隊の兵士と、祭司長たちやファリサイ派の人々の遣わした下役たちを引き連れて、そこにやって来た。松明やもし火や武器を手にしていた。⁴イエスは御自分の身に起こることを何もかも知っておられ、進み出て、「だれを捜しているのか」と言われた。⁵彼らが「ナザレのイエスだ」と答えると、イエスは「わたしである」と言われた。イエスを裏切ろうとしていたユダも彼らと一緒にいた。⁶イエスが「わたしである」と言われたとき、彼らは後ずさりして、地に倒れた。⁷そこで、イエスが「だれを捜しているのか」と重ねてお尋ねになると、彼らは「ナザレのイエスだ」と言った。⁸すると、イエスは言われた。「『わたしである』と言ったではないか。わたしを捜しているのなら、この人々は去らせなさい。」⁹それは、「あなたが与えてくださった人を、わたしは一人も失いませんでした」と言われたイエスの言葉が実現するためであった。¹⁰シモン・ペトロは剣を持っていたので、それを抜いて大祭司の手下に打ってかかり、その右の耳を切り落とした。手下の名はマルコスであった。¹¹イエスはペトロに言われた。「剣をさやに納めなさい。父がお与えになった杯は、飲むべきではないか。」

イエス、大祭司のもとに連行される

（マタ26 57—58、マコ14 53—54、ルカ22 54）

¹²そこで一隊の兵士と千人隊長、およびユダヤ人の下役たちは、イエスを捕らえて縛り、¹³まず、アンナスのところへ連れて行った。彼が、その年の大祭司カイアファのしゅうとだったからである。¹⁴一人の人間が民の代わりに死ぬ方が好都合だと、ユダヤ人たちに助言したのは、このカイアファであった。

ペトロ、イエスを知らないと言う

（マタ26 69—70、マコ14 66—68、ルカ22 55—57）

¹⁵シモン・ペトロともう一人の弟子は、イエスに従った。この弟子は大祭司の知り合いだったので、イエスと一緒に大祭司の屋敷の中庭に入ったが、¹⁶ペトロは門の外に立っていた。大祭司の知り合いである、そのもう一人の弟子は、出て来て門番の女に話し、ペトロを中に入れた。¹⁷門番の女中はペトロに言った。「あなたも、あの人の弟子の一人ではありませんか。」ペトロは、「違う」と言った。¹⁸僕や下役たちは、寒かったので炭火をおこし、そこに立って火にあたっていた。ペトロも彼らと一緒に立って、火にあたっていた。

大祭司、イエスを尋問する

（マタ26 59—66、マコ14 55—64、ルカ22 66—71）

¹⁹大祭司はイエスに弟子のことや教えについて尋ねた。²⁰イエスは答えられた。「わたしは、世に向かって公然と話した。わたしはいつも、ユダヤ人が皆集まる会堂や神殿の境内で教えた。ひそかに話したことは何もない。²¹なぜ、わたしを尋問するのか。わたしが何を話したかは、それを聞いた人々に尋ねるがよい。その人々がわたしの話したことを知っている。」²²イエスがこう言われると、そばにいた下役の一人が、「大祭司に向かって、そんな返事のしかたがあるか」と言っって、イエスを平手で打った。²³イエスは答えられた。「何か悪いことをわたしが言ったのなら、その悪いところを証明しなさい。正しいことを言ったのなら、なぜわたしを打つのか。」²⁴アンナスは、イエスを縛ったまま、大祭司カイアファのもとに送った。

ペトロ、重ねてイエスを知らないと言う

（マタ26 71—75、マコ14 69—72、ルカ22 58—62）

²⁵シモン・ペトロは立って火にあたっていた。人々が、「お前もあの男の弟子の一人ではないのか」と言うと、ペトロは打ち消して、「違う」と言った。²⁶大祭司の僕の人で、ペトロに片方の耳を切り落とされた人の身内の者が言った。「園であの男と一緒にいるのを、わたしに見られたではないか。」²⁷ペトロは、再び打ち消した。するとすぐ、鶏が鳴いた。

じんもん
ピラトから尋問される

(マタ27 1—2、11—14、マコ15 1—5、ルカ23 1—5)

28人々は、イエスをカイファのところから総督官邸に連れて行った。明け方であった。しかし、彼らは自分では官邸に入らなかった。汚れないで過越の食事をするためである。29そこで、ピラトが彼らのところへ出て来て、「どういう罪でこの男を訴えるのか」と言った。30彼らは答えて、「この男が悪いことをしていなかったら、あなたに引き渡しはしなかったでしょう」と言った。31ピラトが、「あなたたちが引き取って、自分たちの律法に従って裁け」と言うのと、ユダヤ人たちは、「わたしたちには、人を死刑にする権限がありません」と言った。32それは、御自分がどのような死を遂げるかを示そうとして、イエスの言われた言葉が実現するためであった。33そこで、ピラトはもう一度官邸に入り、イエスを呼び出して、「お前がユダヤ人の王なのか」と言った。34イエスはお答えになった。「あなたは自分の考えで、そう言うのですか。それとも、ほかの者がわたしについて、あなたにそう言ったのですか。」35ピラトは言い返した。「わたしはユダヤ人なのか。お前の同胞や祭司長たちが、お前をわたしに引き渡したのだ。いったい何をしたのか。」36イエスはお答えになった。「わたしの国は、この世には属していない。もし、わたしの国がこの世に属していれば、わたしがユダヤ人に引き渡されないように、部下が戦ったことだろう。しかし、実際、わたしの国はこの世には属していない。」37そこでピラトが、「それでは、やはり王なのか」と言うのと、イエスはお答えになった。「わたしが王だとは、あなたが言っていることです。わたしは真理について証しをするために生まれ、そのためにこの世に来了。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く。」38ピラトは言った。「真理とは何か。」

しけい　はんけつ　う
死刑の判決を受ける

(マタ27 15—31、マコ15 6—20、ルカ23 13—25)

ピラトは、こう言うてからもう一度、ユダヤ人たちの前に出て来て言った。「わたしはあの男に何の罪も見いだせない。39ところで、過越祭にはだれか一人をあなたたちに釈放するのが慣例になっている。あのユダヤ人の王を釈放してほしいか。」40すると、彼らは、「その男ではない。バラバを」と大声で言い返した。バラバは強盗であった。

19

41そこで、ピラトはイエスを捕らえ、鞭で打たせた。42兵士たちは茨で冠を編んでイエスの頭に載せ、紫の服をまとうせ、43そばにやって来ては、「ユダヤ人の王、万歳」と言って、平手で打った。44ピラトはまた出て来て、言った。「見よ、あの男をあなたたちのところへ引き出そう。そうすれば、わたしが彼に何の罪も見いだせないわけが分かるだろう。」45イエスは茨の冠をかぶり、紫の服を着けて出て来られた。ピラトは、「見よ、この男だ」と言った。46祭司長たちや下役たちは、イエスを見ると、「十字架につけろ。十字架につけろ」と叫んだ。ピラトは言った。「あなたたちが引き取って、十字架につけるがよい。わたしはこの男に罪を見いだせない。」47ユダヤ人たちは答えた。「わたしたちには律法があります。律法によれば、この男は死罪に当たります。神の子と自称したからです。」

48ピラトは、この言葉を聞いてますます恐れ、49再び総督官邸の中に入って、「お前はどこから来たのか」とイエスに言った。しかし、イエスは答えようとされなかった。50そこで、ピラトは言った。「わたしに答えないのか。お前を釈放する権限も、十字架につける権限も、このわたしにあることを知らないのか。」51「イエスは答えられた。「神から与えられていなければ、わたしに対して何の権限もないはずだ。だから、わたしをあなたに引き渡した者の罪はもっと重い。」52そこで、ピラトはイエスを釈放しようと努めた。しかし、ユダヤ人たちは叫んだ。「もし、この男を釈放するなら、あなたは皇帝の友ではない。王と自称する者は皆、皇帝に背いています。」

53ピラトは、これらの言葉を聞くと、イエスを外に連れ出し、ヘブライ語でガバタ、すなわち「敷石」という場所で、裁判の席に着かせた。54それは過越祭の準備の日の、正午ごろであった。ピラトがユダヤ人たちに、「見よ、あなたたちの王だ」と言うのと、55「彼らは叫んだ。「殺せ。殺せ。十字架につけろ。」ピラトが、「あなたたちの王をわたしが十字架につけるのか」と言うのと、祭司長たちは、「わたしたちには、皇帝のほかには王はありません」と答えた。56そこで、ピラトは、十字架につけるために、イエスを彼らに引き渡した。

じゅうじか
十字架につけられる

(マタ27 32—44、マコ15 21—32、ルカ23 26—43)

こうして、彼らはイエスを引き取った。57イエスは、自ら十字架を背負い、いわゆる「されこうべの場所」、すなわちヘブライ語でゴルゴタという所へ向かわれた。58そこで、彼らはイエスを十字架につけた。また、イエスと一緒にほかの二人をも、イエスを真ん中にして両側に、十字架につけた。59ピラトは罪状書きを書いて、十字架の上に掛けた。それには、「ナザレのイエス、ユダヤ人の王」と書いてあった。60イエスが十字架につけられた場所は都に近かったのだ、多くのユダヤ人がその罪状書きを読んだ。それは、ヘブライ語、ラテン語、ギリシア語で書かれていた。61ユダヤ人の祭司長たちがピラトに、『「ユダヤ人の王」と書かず、『この男は「ユダヤ人の王」と自称した』と書いてください』と言った。62しかし、ピラトは、「わたしが書いたものは、書いたままにしておけ」と答えた。

63兵士たちは、イエスを十字架につけてから、その服を取り、四つに分け、各自に一つずつ渡すようにした。下着も取ってみたが、それには縫い目がなく、上から下まで一枚織りであった。64そこで、「これは裂かないで、だれのものになるか、くじ引きで決めよう」と話し合った。それは、

「ラボニ」と言った。「先生」という意味である。¹⁷イエスは言われた。「わたしにすがりつくのはよしなさい。まだ父のもとへ上っていないのだから。わたしの兄 弟たちのところへ行って、こう言いなさい。『わたしの父であり、あなたがたの父である方、また、わたしの神であり、あなたがたの神である方のところへわたしは上る』と。」¹⁸マグダラのマリアは弟子たちのところへ行って、「わたしは主を見ました」と告げ、また、主から言われたことを伝えた。

イエス、弟子たちに 現れる

(マタ28 16—20、マコ16 14—18、ルカ24 36—49)

¹⁹その日、すなわち 週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。²⁰そう言っ、手とわき腹とをお見せになった。弟子たちは、主を見て 喜んだ。²¹イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」²²そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。²³だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」

イエスとトマス

²⁴十二人の一人でディディモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。²⁵そこで、ほかの弟子たちが、「わたしたちは主を見た」と言うと、トマスは言った。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」²⁶さて八日の後、弟子たちはまた家の中におり、トマスも一緒にいた。戸にはみな鍵がかけてあったのに、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。²⁷それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」²⁸トマスは答えて、「わたしの主、わたしの神よ」と言った。²⁹イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」

本書の目的

³⁰このほかにも、イエスは弟子たちの前で、多くのしるしをなさったが、それはこの書物に書かれていない。³¹これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により 命を受けるためである。

イエス、七人の弟子に 現れる

21

¹その後、イエスはティベリアス湖畔で、また弟子たちに御自身を 現された。その次第はこうである。²シモン・ペトロ、ディディモと呼ばれるトマス、ガリラヤのカナ 出身のナタナエル、ゼベダイの子たち、それに、ほかの二人の弟子と一緒にいた。³シモン・ペトロが、「わたしは 漁に行く」と言うと、彼らは、「わたしたちも一緒に行こう」と言った。彼らは出て行って、舟に乗り込んだ。しかし、その夜は何もとれなかった。⁴既に夜が明けたころ、イエスが岸に立っておられた。だが、弟子たちは、それがイエスだとは分からなかった。⁵イエスが、「子たちよ、何か食べる物があるか」と言われると、彼らは、「ありません」と答えた。⁶イエスは言われた。「舟の右側に網を打ちなさい。そうすればとれるはずだ。」そこで、網を打つと、魚 があまり多くて、もはや網を引き上げることができなかった。⁷イエスの愛しておられたあの弟子がペトロに、「主だ」と言った。シモン・ペトロは「主だ」と聞くと、裸 同然だったので、上着をまとい 湖 に飛び込んだ。⁸ほかの弟子たちは 魚 のかかった網を引いて、舟で戻って来た。陸から二百ペキスばかりしか離れていなかったのである。⁹さて、陸に上がってみると、炭火がおこしてあった。その上に 魚 がのせてあり、パンもあった。¹⁰イエスが、「今とった 魚 を何匹か持って来なさい」と言われた。¹¹シモン・ペトロが舟に乗り込んで網を陸に引き上げると、百五十三匹もの大きな 魚 でいっぱいであった。それほど多くとれたのに、網は破れていなかった。¹²イエスは、「さあ、来て、朝の 食事をしなさい」と言われた。弟子たちはだれも、「あなたはどなたですか」と問いたがそうとはしなかった。主であることを知っていたからである。¹³イエスは来て、パンを取って弟子たちに与えられた。 魚 も同じようにされた。¹⁴イエスが死者の中から復活した後、弟子たちに 現れたのは、これでもう三度目である。

イエスとペトロ

¹⁵食事が終わると、イエスはシモン・ペトロに、「ヨハネの子シモン、この人たち以上 にわたしを愛しているか」と言われた。ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの小 羊 を飼いなさい」と言われた。¹⁶二度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの 羊 の世話をしなさい」と言われた。¹⁷三度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」ペトロは、イエスが三度目も、「わたしを愛しているか」と言われたので、悲しくなった。そして言った。「主よ、あなたは何かもご存じです。わたしがあなたを愛していることを、あなたはよく知っておられます。」イエスは言われた。「わたしの 羊 を飼いなさい。」¹⁸はつきり言うておく。あなたは、若いときは、自分で帯を締めて、行きたいところへ行っていた。しかし、年をとると、 両手を伸ばして、他の人に帯を締められ、行きたくないところへ連れて行かれる。」¹⁹ペトロがどのような死に方で、神の栄光を 現すようになるかを示そうとして、イエスはこう言われたのである。このように話してから、ペトロに、「わたしに 従いなさい」と言われた。

イエスとその愛する弟子あい だし

²⁰ペトロが振り向くと、イエスの愛しておられた弟子がついて来るのが見えた。この弟子は、あの夕食ゆうしょくのとき、イエスの胸もとに寄りかかったまま、「主よ、裏しゅ うらぎ切るのはだれですか」と言った人である。²¹ペトロは彼を見て、「主よ、この人はどうなるのでしょうか」と言った。²²イエスは言われた。「わたしの来るときまでい彼がい生きていることを、わたしが望んだとしても、あなたに何の關係があるか。あなたは、わたしに従したがいなさい。」²³それで、この弟子は死なないというわさがく兄弟たちの間のぞに広まった。しかし、イエスは、彼は死なないと言われたのではない。ただ、「わたしの来るときまで彼が生きていることを、わたしが望んだとしても、あなたに何の關係があるか」と言われたのである。

²⁴これらのことについて証しをし、それを書いたのは、この弟子である。わたしたちは、彼の証しが真実であることを知っている。

²⁵イエスのなさったことは、このほかにも、まだたくさんある。わたしは思う。その一つ一つを書くならば、世界もその書かれた書物を収めきれないであろう。

底本に節が欠けている個所の異本による訳文

^{5 3b-4} 彼らは、水が動くのを待っていた。それは、主の使いがときどき池に降りて来て、水が動くことがあり、水が動いたとき、真つ先に水に入る者は、どんな病びょうき気にかかっている、いやされたからである。

使徒言行録

- [1章](#) [2章](#) [3章](#) [4章](#) [5章](#)
- [6章](#) [7章](#) [8章](#) [9章](#) [10章](#)
- [11章](#) [12章](#) [13章](#) [14章](#) [15章](#)
- [16章](#) [17章](#) [18章](#) [19章](#) [20章](#)
- [21章](#) [22章](#) [23章](#) [24章](#) [25章](#)
- [26章](#) [27章](#) [28章](#)

[【戻る】](#)

シ と げんこうろく
使徒言行録

はしがき

1

¹⁻²テオフィロさま、わたしは先に第一巻を 著 して、イエスが 行 い、また教え始めてから、お 選 びになった使徒たちに 聖 霊を通して 指 図を与え、天に上げられ た日までのすべてのことについて書き記しました。

やくそく せいれい
約束の聖霊

³イエスは苦 難を受けた後、御自分が生きていることを、数 多 くの 証 拠をもって使徒たちに示し、四十日にわたって彼らに 現 れ、神の国について話され た。⁴そして、彼らと 食 事を共にしていたとき、こう命じられた。「エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約 束されたものを待ちなさい。⁵ヨハネは 水で 洗 礼 を授けたが、あなたがたは間もなく 聖 霊による 洗 礼 を授けられるからである。」

イエス、天に上げられる

⁶さて、使徒たちは集まって、「主よ、イスラエルのために国を建て直してくださるのは、この時ですか」と尋ねた。⁷イエスは言われた。「父が御自分の権威を もってお定めになった時や時期は、あなたがたの知るところではない。⁸あなたがたの上に 聖 霊が降ると、あなたがたは 力 を受ける。そして、エルサレムばかりで なく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの 証 人となる。」⁹こう話し終わると、イエスは彼らが見ているうちに天に上げられたが、 雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。¹⁰イエスが離れ去って行かれるとき、彼らは天を見つめていた。すると、白い服を着た二人の人がそばに立って、¹¹言 った。「ガリラヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのか。あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有 様 で、またおいでになる。」

マティアの選 出

¹²使徒たちは、「オリーブ 畑」と呼ばれる山からエルサレムに戻って来た。この山はエルサレムに近く、安息日にも歩くことが許される距離の 所 にある。¹³ 彼らは 都 に入ると、泊まっていた家の上の部屋に上がった。それは、ペトロ、ヨハネ、ヤコブ、アンデレ、フィリポ、トマス、バルトロマイ、マタイ、アルファイ こ ねつしんとう ねつしん どのの子ヤコブ、熱心 党のシモン、ヤコブの子ユダであった。¹⁴彼らは皆、婦人たちやイエスの母マリア、またイエスの 兄 弟たちと 心 を合わせて熱心に祈っていた。

¹⁵そのころ、ペトロは 兄 弟たちの中に立って言った。百二十人ほどの人々が一つになっていた。¹⁶「兄 弟たち、イエスを捕らえた者たちの手引きをしたあのユ ダについては、聖 霊がダビデの口を通して預言しています。この聖 書の言葉は、実 現しなければならなかったのです。¹⁷ユダはわたしたちの仲間の一人であり、 おな にんむ わ あ ふせい はたら え ほうしゅう とち か じめん お からだ ま なか 同じ 任務を割り当てられていました。¹⁸ところで、このユダは不正を 働 いて得た報 酬 で土地を買ったのですが、その地面にまっさかさまに落ちて、体 が真ん中 から裂け、はらわたがみな出てしまいました。¹⁹このことはエルサレムに住むすべての人に知れ 渡り、その土地は彼らの言葉で『アケルゲマ』、つまり、『血の土地 』と呼ばれるようになりました。²⁰詩編にはこう書いてあります。

す あ は
の住まいは荒れ果てよ、
す もの
そこに住む者はいなくなれ。
また、

つと ひと ひ う
の務めは、ほかの人が引き受けるがよい。』

²¹⁻²²そこで、主イエスがわたしたちと共に生活されていた 間、つまり、ヨハネの 洗 礼 のときから始まって、わたしたちを離れて天に上げられた日まで、い つ いっしょ もの なか ひとり くわ しゅ ふつかつ しょうにん ひとびと よ ²³も一緒にいた者の中からだれか一人が、わたしたちに加わって、主の復 活の 証 人になるべきです。」²⁴そこで人々は、バルサバと呼ばれ、ユストともいうヨセ フと、マティアの二人を立てて、²⁵次のように祈った。「すべての人の 心 をご存じである主よ、この二人のうちのどちらをお 選 びになったかを、お示してくさ い。²⁶ユダが自分の行くべき 所 に行くために離れてしまった、使徒としてのこの 任務を継がせるためです。」²⁷二人のことでくじを引くと、マティアに当たったの で、この人が十一人の使徒の仲間に加えられることになった。

せいれい くだ
聖霊が降る

2

ごじゅんさい ひ き いちどう あつ とつぜん はげ かぜ ふ く おと てん き かれ すわ いえじゅう ひび ¹五 旬 祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、²突 然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家 中 に響いた。³そし ぼのお した わ わ あらわ ひとりひとり うえ いちどう せいれい み れい かた くにくに ことば はな て、 災 のような舌が分かれ分かれに 現 れ、一人一人の上にとどまった。⁴すると、一同は聖 霊に満たされ、`霊 が語らせるままに、ほかの国 々の言葉で話 したした。

⁵さて、エルサレムには天下のあらゆる国から帰って来た、信心 深いユダヤ人が住んでいたが、⁶この物 音に大勢の人が集まって来た。そして、だれもかれも、

自分じぶんの故郷こきょうの言葉ことばが話はなされているのを聞いて、あつけにとられてしまった。⁷人々ひとびとは驚おどろき怪あやしんで言った。「話はなしをしているこの人たちは、皆みなガリラヤの人ではないか。⁸どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷きょうの言葉ことばを聞くのだろうか。⁹わたしたちの中には、バルティア、メディア、エラムからの者ものがおり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、¹⁰フリギア、パンフィリア、エジプト、キレネに接するリビア地方などに住む者もいる。また、ローマから来て滞在中たいざいちゆうの者もの、¹¹ユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者きんしゆうもおり、クレタ、アラビアから来た者もいるのに、彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語かたっているのを聞こうとは。」¹²人々は皆驚きき、とまどい、「いったい、これはどういうことなのか」と互たがいに言った。¹³しかし、「あの人たちは、新しいぶどう酒しゆうに酔よっているのだ」と言って、あざける者もいた。

ペトロせつきようの説教せつきよう

¹⁴すると、ペトロは十一人と共に立つて、声を張り上げ、話し始めた。「ユダヤの方々、またエルサレムに住むすべての人たち、知っていただきたいことがあります。わたしの言葉に耳を傾かたむけてください。¹⁵今は朝の九時ですから、この人たちは、あなたがたが考かんがえているように、酒に酔っているわけではありません。¹⁶そ

うではなく、これこそ預言者ヨエルを通して言われていたことなのです。

い
は言われる。

とき
りの時に、

れい　ひと　そそ
しの霊をすべての人に注ぐ。

むすこ　むすめ　よげん
と、あなたたちの息子と娘は預言し、

の　まほろし　み　ろうじん　ゆめ　み
者は幻を見、老人は夢を見る。

しもべ
しの僕やはしためにも、

れい　そそ
ときには、わたしの霊を注ぐ。

かれ　よげん
と、彼らは預言する。

てん　ふしぎ　わざ
は、天に不思議な業を、

ち　しるし　しめ
では、地に徴を示そう。

ひ　た　けむり
火と立ちこめる煙が、それだ。

いだい　かがや　ひ　く　まえ
偉大な輝かしい日が来る前に、

こう　くら
場は暗くなり、

ち　あか
は血のように赤くなる。

な　よ　もと　もの　みな　すく
名を呼び求める者は皆、救われる。』

²²イスラエルの人たち、これから話すことを聞いてください。ナザレの人イエスこそ、神から遣わされた方です。神は、イエスを通してあなたがたの間で行あいた　おこなわれた奇跡と、不思議な業と、しるしとによって、そのことをあなたがたに証しょうめい明めいなさいました。あなたがた自身が既に知っているとおりです。²³このイエスを神

は、お定めになった計画により、あらかじめご存じのうで、あなたがたに引き渡されたのですが、あなたがたは律法を知らない者たちの手を借りて、十字架につけて殺してしまったのです。²⁴しかし、神はこのイエスを死の苦しみから解放して、復活させられました。イエスが死に支配されたままでおられるなどということとは、ありえなかったからです。²⁵ダビデは、イエスについてこう言っています。

わたしは、いつも目の前に主を見ていた。

がわたしの右におられるので、

しは決して動揺しない。

ら、わたしの心は楽しみ、

は喜びたたえる。

も希望のうちに生きるであろう。

たは、わたしの魂を陰府に捨てておかず、

わたの聖なる者を

朽ち果てるままにしておかれない。

たは、命に至る道をわたしに示し、

ににいるわたしを喜びで満たしてくださる。』

²⁹兄弟たち、先祖ダビデについては、彼は死んで葬られ、その墓は今でもわたしたちのところにあり、はつきり言えます。³⁰ダビデは預言者だったので、彼から生まれる子孫の一人をその王座に着かせると、神がはつきり誓ってくださったことを知っていました。³¹そして、キリストの復活について前もって知り、

は陰府に捨てておかれず、

）体は朽ち果てることのない』

と語りました。³²神はこのイエスを復活させられたのです。わたしたちは皆、そのことの証人です。³³それで、イエスは神の右に上げられ、約束された聖霊を御父から受けて注いでくださいました。あなたがたは、今このことを見聞きしているのです。³⁴ダビデは天に昇りませんでしたが、彼自身こう言っています。

『主は、わたしの主にお告げになった。

わたしの右の座に着け。

しがあなたの敵を

あなたの足台とするときまで。』』

³⁶だから、イスラエルの全家は、はつきり知らなくてはなりません。あなたがたが十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、またメシアとなさったのです。」³⁷ひとびと、きこえて大いに心を打たれ、ペトロとほかの使徒たちに、「兄弟たち、わたしたちはどうしたらよいのですか」と言った。³⁸すると、ペトロは彼らに言った。「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けま

やくそく　こども　とお　ひと　かみ　しゅ　まね　もの
す。³⁹この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子供にも、遠くにいるすべての人にも、つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、
あた　はなし　ちからづよ　あか　じゃあく　し　だい　すく　すす
与えられているものなのです。」⁴⁰ペトロは、このほかにいろいろな話をして、力強く証しをし、「邪悪なこの時代から救われなさい」と勧めていた。⁴¹ペトロ
ことば　う　い　ひとびと　〔バプテスマ〕　う　ひ　にん　なかま　くわ　かれ　し　おし　そうご　まじ　さ　いの　ねっしん
の言葉を受け入れた人々は、洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった。⁴²彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心で
あった。

しんじや　せいけつ　信者の生活
ひと　おそ　しょう　し　と　おお　ふし　ぎ　わざ　おこな　しんじや　みな　もの　きょうゆう
⁴³すべての人に恐れが生じた。使徒たちによって多くの不思議な業としるしが行われていたのである。⁴⁴信者たちは皆一つになって、すべての物を共に
ざいさん　も　もの　う　ひつよう　おう　みな　わ　あ　まいにち　ところ　しんでん　まい　いえ　あつ
し、⁴⁵財産や持ち物売り、おのおの必要に応じて、皆がそれを分け合った。⁴⁶そして、毎日ひたすら心一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを
さ　よろこ　まごころ　いっしょ　しょくじ　かみ　さんび　みんしゅうぜんたい　こうい　よ　ある　しゅ　すく　ひとびと　ひびな　なかま　くわ
裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、⁴⁷神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え
一つにされたのである。

あし　ふじゆう　おとこ　ペトロ、足の不自由な男をいやす
3　　ご　ご　じ　いの　とき　しんでん　のぼ　い　う　あし　ふじゆう　おとこ　はこ　き　しんでん　けいだい　はい　ひと　ほどこ　こ
'ペトロとヨハネが、午後三時の祈りの時に神殿に上って行った。²すると、生まれながら足の不自由な男が運ばれて来た。神殿の境内に入る人に施しを乞う
ため、毎日「美しい門」という神殿の門のそばに置いてもらっていたのである。³彼はペトロとヨハネが境内に入ろうとするのを見て、施しを乞うた。⁴ペトロ
いっしょ　かれ　み　み　い　おとこ　なに　おも　ふたり　み　い
はヨハネと一緒に彼をじつと見て、「わたしたちを見なさい」と言った。⁵その男が、何かもらえんと思つて二人を見つめっていると、⁶ペトロは言った。「わたしに
きん　ぎん　も　ひと　な　た　あ　みぎて　と　かれ　た　あ
は金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」⁷そして、右手を取つて彼を立ち上がらせ
た。すると、たちまち、その男は足やくるぶしがしっかりして、⁸躍り上がつて立ち、歩きだした。そして、歩き回つたり躍つたりして神を賛美し、二人と一緒
けいだい　はい　い　みんしゅう　みな　かれ　ある　まわ　かみ　さんび　み　かれ　しんでん　うつく　もん　すわ　ほどこ　こ
に境内に入つて行った。⁹民衆は皆、彼が歩き回り、神を賛美しているのを見た。¹⁰彼らは、それが神殿の「美しい門」のそばに座つて施しを乞うていた
もの　き　み　お　われ　わす　おどろ
者だと気づき、その身に起こったことに我を忘れるほど驚いた。

しんでん　せつぎょう　ペトロ、神殿で説教する
おとこ　つ　みんしゅう　みな　ひじょう　おどろ　かいろう　よ　ところ　かれ　ほう　いっせい　あつ
"さて、その男がペトロとヨハネに付きまといつて、民衆は皆非常に驚いて、「ソロモンの回廊」と呼ばれる所にいる彼らの方へ、一斉に集まつて
き　み　みんしゅう　い　ひと　おどろ　じぶん　ちから　しんじん
来た。¹²これを見たペトロは、民衆に言った。「イスラエルの人たち、なぜこのことに驚くのですか。また、わたしたちがまるで自分の力や信心によって、こ
ひと　ある　み　かみ　かみ　せんぞ　かみ　しもべ　えい
の人を歩かせたかのように、なぜ、わたしたちを見つめるのですか。¹³アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、わたしたちの先祖の神は、その僕イエスに栄
こう　あた　ひ　わた　しゃくほう　き　めんぜん　かた　こぼ　せい　ただ
光をお与えになりました。ところが、あなたがたはこのイエスを引き渡し、ピラトが釈放しようと決めていたのに、その面前でこの方を拒みました。¹⁴聖なる正
かた　こぼ　ひとごころ　おとこ　ゆる　ようきゅう　いのち　みちび　て　かた　ころ　かみ　かた　ししや　なか
しい方を拒んで、人殺しの男を赦すように要求したのです。¹⁵あなたがたは、命への導き手である方を殺してしまいましたが、神はこの方を死者の中から
ふつかつ　しょうにん　み　し　ひと　な　つよ　な　しん
復活させてくださいました。わたしたちは、このことの証人です。¹⁶あなたがたの見て知っているこの人を、イエスの名が強くしました。それは、その名を信じる
しんこう　しんこう　いちどう　まえ　ひと　かんぜん　きょうだい　くる
信仰によるものです。イエスによる信仰が、あなたがた一同の前でこの人を完全にいやしたのです。¹⁷ところで、兄弟たち、あなたがたがあんなことをしてし
しどうしや　どうよう　む　ち　わ　かみ　よげんしや　くち　とお　よこく　くる
まつたのは、指導者たちと同様に無知のためであつたと、わたしには分かっています。¹⁸しかし、神はすべての預言者の口を通して予告しておられたメシアの苦
しみを、この
じつげん　じぶん　つみ　け　さ　く　あらた　た　かえ　しゅ　なぐさ　とき　おとず　しゅ
ようにして実現なされたのです。¹⁹だから、自分の罪が消し去られるように、悔い改めて立ち帰りなさい。²⁰こうして、主のもとから慰めの時が訪れ、主はあ
なたがたのために前もつて決めておられた、メシアであるイエスを遣わしてくさるのです。²¹このイエスは、神が聖なる預言者たちの口を通して昔から語られ
ばんぶつ　あたら　とき　かなら　てん　い　かみ　しゅ　どうほう　なか
た、万物が新しくなるその時まで、必ず天にとどまることになっています。²²モーセは言いました。『あなたがたの神である主は、あなたがたの同胞の中か
ら、わたしのような預言者をあなたがたのために立てられる。彼が語りかけることには、何でも聞き従え。²³この預言者に耳を傾けない者は皆、民の中から
ほろ　た　よげんしや　みな　のち　よげん　もの　いま　とき　つ　よげんしや　しそん　かみ
減ばし絶やされる。』²⁴預言者は皆、サムエルをはじめその後には預言した者も、今の時について告げています。²⁵あなたがたは預言者の子孫であり、神があなた
せんぞ　むす　けいやく　こ　ちじょう　みんぞく　う　もの　しゆくふく　う　かみ　い
がたの先祖と結ばれた契約の子です。『地上のすべての民族は、あなたから生まれる者によって祝福を受ける』と、神はアブラハムに言われました。²⁶それ
かみ　こ　じぶん　しもべ　た　つか　ひと　り　ひと　り　あく　はな　しゆくふく
で、神は御自分の僕を立て、まず、あなたがたのもとに遣わしてくださつたのです。それは、あなたがた一人一人を悪から離れさせ、その祝福にあずからせる
ためでした。」

ぎかい　と　しら　う　ペトロとヨハネ、議会で取り調べを受ける
4　　みんしゅう　はなし　さいし　しんでんしゅえいちょう　は　ひとびと　ちか　き　ふたり　みんしゅう　おし　お　ししや　なか
'ペトロとヨハネが民衆に話をして、祭司たち、神殿守衛長、サドカイ派の人々が近づいて来た。²二人が民衆に教え、イエスに起こつた死者の中
ふつかつ　の　た　かれ　ふたり　と　よくじつ　ろう　い　すで　ひぐ　ふたり　かた　ことば　き
からの復活を宣傳えているので、彼らはいらだち、³二人を捕らえて翌日まで牢に入れた。既に日暮れだつたからである。⁴しかし、二人の語つた言葉を聞いて
しん　ひと　おお　おとこ　かず　にん
信じた人は多く、男の数が五千人ほどになった。
つぎ　ひ　ぎいん　ちやうろう　りつぼうがくしや　あつ　だいさいし　だいいさいし　いちぞく　あつ
⁵次の日、議員、長老、律法学者たちがエルサレムに集まつた。⁶大祭司アンナスとカイアフアとヨハネとアレクサンドロと大祭司一族が集まつた。⁷そし
し　と　ま　なか　た　まえ　なん　けんい　な　せいれい　み
て、使徒たちを真ん中に立たせて、「お前たちは何の権威によって、だれの名によってあいうことをしたのか」と尋問した。⁸そのとき、ペトロは聖霊に満たさ
い　たみ　ぎいん　ちやうろう　かたがた　きやう　と　しら　う　びょうにん　たい　よ　おこな　ひと　なに
れて言った。「民の議員、また長老の方々、⁹今日わたしたちが取り調べを受けているのは、病人に対する善い行いと、その人が何によつていやされたかと
いうことについてであるならば、¹⁰あなたがたもイスラエルの民全体も知つていただきたい。この人が良くなって、皆さんの前に立っているのは、あなたがたが十
じ　か　ころ　かみ　ししや　なか　ふつかつ　ひと　な　かた
字架につけて殺し、神が死者の中から復活させられたあのナザレの人、イエス・キリストの名によるものです。¹¹この方こそ、

あなたがた家を建てる者に捨てられたが、

の親石となった石』

です。¹²ほかのだれによっても、救いは得られません。わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです。」¹³議員や他の者たちは、ペトロとヨハネの大胆な態度を見、しかも二人が無学な普通の人であることを知って驚き、また、イエスと一緒にいた者であるということも分かった。¹⁴しかし、足をいやしていただいた人がそばに立っているのを見ては、ひと言も言い返せなかった。¹⁵そこで、二人に議場を去るように命じてから、相談して、¹⁶言った。「あの者たちをどうしたらよいだろう。彼らが行った目覚ましいしるしは、エルサレムに住むすべての人に知れ渡っており、それを否定することはできない。¹⁷しかし、このことがこれ以上民衆の間に広まらないように、今後あの名によってだれにも話すなと脅しておこう。」¹⁸そして、二人を呼び戻し、決してイエスの名によって話したり、教えたりしないようにと命令した。¹⁹しかし、ペトロとヨハネは答えた。「神に従わないであなたがたに従うことが、神の前に正しいかどうか、考えてください。²⁰わたしたちは、見たことや聞いたことを話さないではいられないのです。」²¹議員や他の者たちは、二人を更に脅してから釈放した。皆の者がこの出来事について神を賛美していたので、民衆を恐れて、どう処罰してよいか分からなかったからである。²²このしるしによっていやしていただいた人は、四十歳を過ぎていた。

信者たちの祈り

²³さて二人は、釈放されると仲間のところへ行き、祭司長たちや長老たちの言ったことを残らず話した。²⁴これを聞いた人たちは心を一つにし、神に向かって声をあげて言った。「主よ、あなたは天と地と海と、そして、そこにあるすべてのものを造られた方です。²⁵あなたの僕であり、また、わたしたちの父であるダビデの口を通し、あなたは聖霊によってこうお告げになりました。

なぜ、異邦人は騒ぎ立ち、

国の民はむなしいことを企てるのか。

の王たちはこそぞって立ち上がり、

導者たちは団結して、

とそのメシアに逆らう。』

²⁷事実、この都でヘロデとポンティオ・ピラトは、異邦人やイスラエルの民と一緒にあって、あなたが油を注がれた聖なる僕イエスに逆らいました。²⁸そして、実現するようにと御手と御心によってあらかじめ定められていたことを、すべて行ったのです。²⁹主よ、今こそ彼らの脅しに目を留め、あなたの僕たちが、思い切って大胆に御言葉を語ることができるようにしてください。³⁰どうか、御手を伸ばし聖なる僕イエスの名によって、病気がいやされ、しるし不思議な業が行われるようにしてください。」³¹祈りが終わると、一同の集まっていた場所が揺れ動き、皆、聖霊に満たされて、大胆に神の言葉を語りだした。

持ち物を共有する

³²信じた人々の群れは心も思いも一つにし、一人として持ち物を自分のものだという者はなく、すべてを共有していた。³³使徒たちは、大いなる力をもって主イエスの復活を証し、皆、人々から非常に好意を持たれていた。³⁴信者の中には、一人も貧しい人がいなかった。土地や家を持っている人が皆、それを売って代金を持ち寄り、³⁵使徒たちの足もとに置き、その金は必要に応じて、おのおのに分配されたからである。³⁶たとえば、レビ族の人で、使徒たちからバルナバ―「慰めの子」という意味―と呼ばれていた、キプロス島生まれのヨセフも、³⁷持っていた畑を売り、その代金を持って来て使徒たちの足もとに置いた。

アナニアとサフィラ

5

ところが、アナニアという男は、妻のサフィラと相談して土地を売り、²妻も承知のうえで、代金をごまかし、その一部を持って来て使徒たちの足もとに置いた。³すると、ペトロは言った。「アナニア、なぜ、あなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺いて、土地の代金をごまかしたのか。⁴売らないでおけば、あなたのものだったし、また、売っても、その代金は自分の思いどおりになったのではないか。どうして、こんなことをする気になったのか。あなたは人間を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。」⁵この言葉を聞くと、アナニアは倒れて息が絶えた。そのことを耳にした人々は皆、非常に恐れた。⁶若者たちが立ち上がって死体を包み、運び出して葬った。

それから三時間ほどたって、アナニアの妻がこの出来事を知らずに入ってきた。ペトロは彼女に話しかけた。「あなたたちは、あの土地をこれこれの値段で売ったのか。言いなさい。」彼女は、「はい、その値段です」と言った。ペトロは言った。「二人で示し合わせて、主の霊を試すとは、何としたことか。見なさい。あなたの夫を葬りに行った人たちが、もう入り口まで来ている。今度はあなたを担ぎ出すだろう。」すると、彼女はたちまちペトロの足もとに倒れ、息が絶えた。青年たちは入って来て、彼女の死んでいるのを見ると、運び出し、夫のそばに葬った。教会全体とこれを聞いた人は皆、非常に恐れた。

使徒たち、多くの奇跡を行う

使徒たちの手によって、多くのしるしと不思議な業とが民衆の間で行われた。一同は心一つにしてソロモンの回廊に集まっていたが、ほかの者はだれ一人、あえて仲間に加わろうとはしなかった。しかし、民衆は彼らを称賛していた。そして、多くの男女が主を信じ、その数はますます増えていった。人々は病人を大通りに運び出し、担架や床に寝かせた。ペトロが通りかかるとき、せめてその影だけでも病人のだれかにかかるようにした。また、エルサレム付近の町からも、群衆が病人や汚れた霊に悩まされている人々を連れて集まって来たが、一人残らずいやしてもらった。

使徒たちに対する迫害

そこで、大祭司とその仲間のサドカイ派の人々は皆立ち上がり、ねたみに燃えて、使徒たちを捕らえて公の牢に入れた。ところが、夜中に主の天使が牢の戸を開け、彼らを外に連れ出し、行って神殿の境内に立ち、この命の言葉を残らず民衆に告げなさい」と言った。これを聞いた使徒たちは、夜明けごろ境内に入って教え始めた。一方、大祭司とその仲間が集まり、最高法院、すなわちイスラエルの子らの長老会全体を召集し、使徒たちを引き出すために、人を牢に差し向けた。下役たちが行ってみると、使徒たちは牢にいなかった。彼らは戻って来て報告した。牢にははっきり鍵がかかっていたうえに、戸の前には番兵が立っていました。ところが、開けてみると、中にはだれもいませんでした。」この報告を聞いた神殿守衛長と祭司長たちは、どうなることかと、使徒たちのことで思い惑った。そのとき、人が来て、「御覧ください。あなたがたが牢に入れた者たちが、境内にいて民衆に教えています」と告げた。守衛長は下役を率いて出て行き、使徒たちを引き立てて来た。しかし、民衆に石を投げつけられるのを恐れて、手荒なことはしなかった。彼らが使徒たちを引いて来て最高法院の中に立たせると、大祭司が尋問した。「あの名によって教えてはならないと、厳しく命じておいたではないか。それなのに、お前たちはエルサレムに自分の教えを広め、あの男の血を流した責任を我々に負わせようとしている。」ペトロとほかの使徒たちは答えた。「人間に従うよりも、神に従わなくてはなりません。わたしたちの先祖の神は、あなたがたが木につけて殺したイエスを復活させられました。神はイスラエルを悔い改めさせ、その罪を赦すために、この方を導き手とし、救い主として、御自分の右に上げられました。わたしたちはこの事実の証人であり、また、神が御自分に従う人々にお与えになった聖霊も、このことを証ししておられます。」

これを聞いた者たちは激しく怒り、使徒たちを殺そうと考えた。ところが、民衆全体から尊敬されている律法の教師で、ファリサイ派に属するガマリエルという人が、議場に立って、使徒たちをしばらく外に出すように命じ、それから、議員たちにこう言った。「イスラエルの人たち、あの者たちの取り扱いを慎重にしない。以前にもテウダが、自分を何か偉い者のように言って立ち上がり、その数四百人くらいの男が彼に従ったことがあった。彼は殺され、従っていた者は皆散らされて、跡形もなくなった。その後、住民登録の時、ガリラヤのユダが立ち上がり、民衆を率いて反乱を起こしたが、彼も滅び、つき従った者も皆、ちりちりにさせられた。そこで今、申し上げたい。あの者たちから手を引きなさい。ほうっておくがよい。あの計画や行動が人間から出たものなら、自滅するだろうし、神から出たものであれば、彼らを滅ぼすことはできない。もしかしたら、諸君は神に逆らう者となるかもしれないのだ。」一同はこの意見に従い、使徒たちを呼び入れて鞭で打ち、イエスの名によって話してはならないと命じたうえ、釈放した。それで使徒たちは、イエスの名のために辱めを受けるほどの者にされたことを喜び、最高法院から出て行き、毎日、神殿の境内や家々で絶えず教え、メシア・イエスについて福音を告げ知らせていた。

ステファノたち七人の選出

6

そのころ、弟子の数が増えてきて、ギリシア語を話すユダヤ人から、ヘブライ語を話すユダヤ人に対して苦情が出た。それは、日々の分配のことで、仲間のやもめたちが軽んじられていたからである。そこで、十二人は弟子をすべて呼び集めて言った。「わたしたちが、神の言葉をないがしろにして、食事の世話をするのは好ましくない。それで、兄弟たち、あなたがたの中から、`霊」と知恵に満ちた評判の良い人を七人選びなさい。彼らにその仕事を任せよう。わたしたちは、祈りと御言葉の奉仕に専念することにします。」一同はこの提案に賛成し、信仰と聖霊に満ちている人ステファノと、ほかにフィリポ、プロコロ、ニカノル、ティモン、パルメナ、アンテオキア出身の改宗者ニコラオを選んで、使徒たちの前に立たせた。使徒たちは、祈って彼らの上に手を置いた。こうして、神の言葉はますます広まり、弟子の数はエルサレムで非常に増えていき、祭司も大勢この信仰に入った。

ステファノの逮捕

さて、ステファノは恵みと力に満ち、すばらしい不思議な業としるしを民衆の間で行っていた。ところが、キレネとアレクサンドリアの出身者で、いわゆる「解放された奴隷の会堂」に属する人々、またキリキア州とアジア州出身の人々などのある者たちが立ち上がり、ステファノと議論した。しかし、彼が知恵と`霊」とによって語るので、齒が立たなかった。そこで、彼らは人々を唆して、「わたしたちは、あの男がモーセと神を冒瀆する言葉を吐くのきいて聞いた」と言わせた。また、民衆、長老たち、律法学者たちを扇動して、ステファノを襲って捕らえ、最高法院に引いて行った。そして、偽証人を立てて、次のように訴えさせた。「この男は、この聖なる場所と律法をけなして、一向にやめようとしません。わたしたちは、彼がこう言っているのを聞いて

ひと　　ばしよ　はかい　　われわれ　つた　かんしゅう　か　　さいこうほういん　せき　つ　　もの　みな
います。『あのナザレの人イエスは、この場所を破壊し、モーセが我々に伝えた慣習を変えるだろう。』」¹⁵最高法院の席に着いていた者は皆、ステファノに
ちゅうもく　　かお　　てんし　　かお　　み
注目したが、その顔はさながら天使の顔のように見えた。

せつきょう
ステファノの説教

7

だいさいし　　うつた　　たず　　い　　きょうだい　　ちち　　みな　　き　　ちち
'大祭司が、「訴えのとおりか」と尋ねた。²そこで、ステファノは言った。「兄弟であり父である皆さん、聞いてください。わたしたちの父アブラハムがメソポ
タミアにいて、まだハランに住んでいなかったとき、栄光の神が現れ、³『あなたの土地と親族を離れ、わたしが示す土地に行け』と言われました。⁴それで、アブ
ラハムはカルデア人の土地を出て、ハランに住みました。神はアブラハムを、彼の父が死んだ後、ハランから今あなたがたの住んでいる土地にお移しになりました
が、⁵そこでは財産を何もお与えになりませんでした、一步の幅の土地さえも。しかし、そのとき、まだ子供のいなかったアブラハムに対して、『いつかその土地を
しゅうち　　あた　　し　　ご　　し　　ぞん　　そうぞく　　やくぞく　　かみ　　い　　かれ　　し　　ぞん　　がいこく　　いじゅう　　ねん　　あいだ　　どれい
所有地として与え、死後には子孫たちに相続させる』と約束なさったのです。⁶神はこう言われました。『彼の子孫は、外国に移住し、四百年の間、奴隷に
されて虐げられる。』⁷更に、神は言われました。『彼らを奴隷にする国民は、わたしが裁く。その後、彼らはその国から脱出し、この場所であたしを礼拝
する。』⁸そして、神はアブラハムと割礼による契約を結ばれました。こうして、アブラハムはイサクをもうけて八日目に割礼を施し、イサクはヤコブを、ヤコ
ブは十二人の族長をもうけて、それぞれ割礼を施したのです。

ぞくちょう　　う　　かみ　　はな　　く　　なん　　たず　　だ　　おう
⁹この族長たちはヨセフをねたんで、エジプトへ売ってしまいました。しかし、神はヨセフを離れず、¹⁰あらゆる苦難から助け出して、エジプト王ファラオのもと
めぐ　　ち　　え　　さず　　かれ　　おう　　いえぜんたい　　だいじん　　にんめい　　ぜん
で恵みと知恵をお授けになりました。そしてファラオは、彼をエジプトと王の家全体とをつかさどる大臣に任命したのです。¹¹ところが、エジプトとカナン
ど　　き　　きん　　お　　お　　く　　なん　　お　　そ　　せん　　ぞ　　し　　よくり　　よう　　て　　い　　こくもつ　　き
土に飢饉が起り、大きな苦難が襲い、わたしたちの先祖は食糧を手に入れることができなくなりました。¹²ヤコブはエジプトに穀物があると聞いて、まずわた
したちの先祖をそこへ行かせました。¹³二度目のとき、ヨセフは兄弟たちに自分の身の上を明かし、ファラオもヨセフの一族のことを知りました。¹⁴そこで、ヨセ
ひと　　つか　　ちち　　にん　　しんぞく　　いちどう　　よ　　よ　　くだ　　い　　かれ　　せん　　ぞ　　し　　うつ
フは人を遣わして、父ヤコブと七十五人の親族一同を呼び寄せました。¹⁵ヤコブはエジプトに下って行き、やがて彼もわたしたちの先祖も死んで、¹⁶シケムに移さ
れ、かつてアブラハムがシケムでハモルの子らから、幾らかの金で買っていた墓に葬られました。

「神がアブラハムになさった約束の実現する時が近づくにつれ、民は増え、エジプト中に広がりました。¹⁸それは、ヨセフのことを知らない別の王が、エジプトの支配者となるまでのことでした。¹⁹この王は、わたしたちの同胞を欺き、先祖を虐待して乳飲み子を捨てさせ、生かしておかないようにしました。²⁰このとき、モーセが生まれたのです。神の目に適った美しい子で、三か月の間、父の家で育てられ、²¹その後、捨てられたのをファラオの王女が拾い上げ、自分の子として育てたのです。²²そして、モーセはエジプト人のあらゆる教育を受け、すばらしい話や行いをする者になりました。

²³四十歳になったとき、モーセは兄弟であるイスラエルの子らを助けようと思い立ちました。²⁴それで、彼らの一人が虐待されているのを見て助け、相手のエジプト人を打ち殺し、ひどい目に遭っていた人のあだを討ったのです。²⁵モーセは、自分の手を通して神が兄弟たちを救おうとしておられることを、彼らが理解してくれると思いました。しかし、理解してくれませんでした。²⁶次の日、モーセはイスラエル人が互いに争っているところに来合わせたので、仲直りをさせようとして言いました。『君たち、兄弟どうしではないか。なぜ、傷つけ合うのだ。』²⁷すると、仲間を痛めつけていた男は、モーセを突き飛ばして言いました。『だれが、お前を我々の指導者や裁判官にしたのか。²⁸きのうエジプト人を殺したように、わたしを殺そうとするのか。』²⁹モーセはこの言葉を聞いて、逃げ出し、そして、ミディアン地方に身を寄せている間に、二人の男の子をもうけました。

³⁰四十年たったとき、シナイ山に近い荒れ野において、柴の燃える炎の中で、天使がモーセの前に現れました。³¹モーセは、この光景を見て驚きました。もっとよく見ようとして近づくと、主の声が聞こえました。³²『わたしは、あなたの先祖の神、アブラハム、イサク、ヤコブの神である』と。モーセは恐れおののいて、それ以上見ようとはしませんでした。³³そのとき、主はこう仰せになりました。『履物を脱げ。あなたの立っている所は聖なる土地である。³⁴わたしは、エジプトにいるわたしの民の不幸を確かに見届け、また、その嘆きを聞いたので、彼らを救うために降って来た。さあ、今あなたをエジプトに遣わそう。』³⁵人々が、『だれが、お前を指導者や裁判官にしたのか』と言って拒んだこのモーセを、神は柴の中に現れた天使の手を通して、指導者また解放者としてお遣わしになったのです。³⁶この人がエジプトの地でも紅海でも、また四十年の間、荒れ野でも、不思議な業としるしを行って人々を導き出しました。³⁷このモーセがまた、イスラエルの子らにこう言いました。『神は、あなたがたの兄弟の中から、わたしのような預言者をあなたがたのために立てられる。』³⁸この人が荒れ野の集会において、シナイ山で彼に語りかけた天使とわたしたちの先祖との間に立って、命の言葉を受け、わたしたちに伝えてくれたのです。³⁹けれども、先祖たちはこの人に従おうとせず、彼を退け、エジプトをなつかしく思い、⁴⁰アロンに言いました。『わたしたちの先に立って導いてくれる神々を造ってください。エジプトの地から導き出してくれたあのモーセの身の上に、何が起こったのか分からないからです。』⁴¹彼らが若い雄牛の像を造ったのはそのころで、この偶像にいけにえを献げ、自分たちの手で造ったものをまつて楽しんでいました。⁴²そこで神は顔を背け、彼らが天の星を拝むままにしておかれました。それは預言者の書にこう書いてあるとおりです。

「イスラエルの家よ、

私たちは荒れ野にいた四十年の間、

：しにいけにえと供え物を

ささ
献げたことがあったか。

たちは拝むために造った偶像、

くの御輿やお前たちの神ライファンの星を

まわ
ぎ回ったのだ。

「ら、わたしはお前たちを

：ロンのかなたへ移住させる。』

“わたしたちの先祖には、荒れ野に証しの幕屋がありました。これは、見たままの形に造るようにとモーセに言われた方のお命じになったとおりのものでした。⁴⁵この幕屋は、それを受け継いだ先祖たちが、ヨシュアに導かれ、目の前から神が追ひ払ってくださった異邦人の土地を占領するとき、運び込んだもので、ダビデの時代までそこにありました。⁴⁶ダビデは神の御心に適い、ヤコブの家のために神の住まいが欲しいと願っていましたが、⁴⁷神のために家を建てたのはソロモンでした。⁴⁸けれども、いと高き方は人の手で造ったようなものにはお住みになりません。これは、預言者も言っているとおりです。

は言われる。

ん おうご
天はわたしの王座、

あしだい
わたしの足台。

え
私たちは、わたしに

いえ た い
どんな家を建ててくれると言うのか。

いこ　ばしょ
としの鵜う場所はどこにあるのか。

らはすべて、

わたくしの手が造ったものではないか。」』

⁹¹かたくなで、心と耳に割礼を受けていない人たちが、あなたがたは、いつも聖霊に逆らっています。あなたがたの先祖が逆らったように、あなたがたもそうしているのです。⁹²いったい、あなたがたの先祖が迫害しなかった預言者が、一人でもいたでしょうか。彼らは、正しい方が来られることを預言した人々を殺しました。そして今や、あなたがたがその方を裏切る者、殺す者となった。⁹³天使たちを通して律法を受けた者なのに、それを守りませんでした。」

じゆんきょう
 ステファノの殉教

ひとびと き はげ いか む は
せいれい み てん み かみ えいこう かみ みぎ た
54 人々 はこれを聞いて激しく怒り、ステファノに向かって歯ざしりした。⁵⁵ステファノは聖霊に満たされ、天を見つめ、神の栄光と神の右に立つておられるイエ

ス
と
を
見
て
、
56
「
天
が
開
い
て
、
人
の
子
が
神
の
右
に
立
っ
て
お
ら
れ
る
の
が
見
え
る
」
と
言
っ
た
。
57
人
々
は
大
声
で
叫
び
な
が
ら
耳
を
手
で
ふ
さ
ぎ
、
ス
テ
フ
ア
ノ
目
が
け
て
一
斉
に

お
そ
お
そ
襲
い
か
か
り
、
58
都
の
外
に
引
き
ず
り
出
て
石
を
投
げ
始
め
た
。
証
人
た
ち
は
、
自
分
の
着
て
い
る
物
を
サ
ウ
ロ
と
い
う
若
者
の
足
も
と
に
置
い
た
。
59
人
々
が
石
を
投
げ
つ
け
て
い
る

あ
い
だ
間
、
ス
テ
フ
ア
ノ
は
主
に
呼
び
か
け
て
、
「
主
イ
エ
ス
よ
、
わ
た
し
の
霊
を
お
受
け
く
だ
さ
い
」
と
言
っ
た
。
60
そ
れ
か
ら
、
ひ
ざ
ま
ず
い
て
、
「
主
よ
、
こ
の
罪
を
彼
ら
に
負
わ
せ
な
い
で
く

だ
さ
い
」
と
大
声
で
叫
ん
だ
。
ス
テ
フ
ア
ノ
は
こ
う
言
っ
て
、
眠
り
に
つ
い
た
。

エルサレムの 教 会 に対する 迫害

ひ きょうがい たい だいはくが い お し と みな ちほう ち い しんこうぶか ひとびと

その日、エルサレムの 教 会 に対して大迫害が起こり、使徒たちのほかは皆、ユダヤとサマリアの地方に散って行った。²しかし、信 仰 深 い 人 々 がステファノを

ほうむ かれ おも たいへんかな いっほう いえ いえ お い きょうがい あ だんじょう と ひだ らう おく

葬 り、彼のことを思っ大 変 悲 しんだ。³一 方、サウロは家から家へと押し入って 教 会 を荒らし、男 女 を問わ ず 引 き出 して 牢 に送 っ て いた。

サマ^{ふくいん}リアで福^つ音^しが告^ちげ知^いらさ^{ひと}れる

‘さて、散^{ふくいん}って行^つった人^し々^{ある}は、福^{まち}音^{くだ}を告^{ひと}げ知^とら^のせながら巡^のり歩^{つた}いた。’フィリボはサマ^{ぐんしゅう}リアの町^{ぐんしゅう}に下^{ぐんしゅう}って、人^{ぐんしゅう}々にキリス^{ぐんしゅう}トを宣^{ぐんしゅう}べ伝^{ぐんしゅう}えた。’群^{ぐんしゅう}衆^{ぐんしゅう}は、フィリボの

行^{おこな}うし^みを見^み聞^きかして^はいたので、こ^はそ^はて^はその^は話^いに聞^きき入^いった。’実^じ際^じ、汚^{けが}れた^{れい}霊^とに取^おりつ^おか^おれた多^{れい}くの^お人^おた^おち^おは^おは、そ^おの^お霊^おが^お大^お声^おで^お叫^おび^おな^おが^おら^お出^おて^お行^おく、多^おくの^お中^お風^お患^お者^おや^お足^おの^お不^お自^お由^おな^お人^おも^おい^おや^おし^おて^おも^おら^おった。’町^おの人^お々^おは^お大^お変^お喜^おん^おだ。

’と^おこ^おろ^おで、この^お町^おに^お以^お前^おから^おシモ^おンと^おい^おう^お人^おが^おい^おて、魔^お術^おを使^おって^おサマ^おリア^おの人^お々^おを^お驚^おか^おせ、偉^お大^おな^お人^お物^おと^お自^お称^おし^おて^おいた。’^おそ^おれ^おで、小^おさ^おな^お者^おから^お大^おき

な^お者^おに^お至^おる^おま^おで^お皆^お、「この^お人^おこ^おそ^お偉^お大^おな^おもの^おと^おい^おわ^おれる^お神^おの^お力^おだ」と^お言^おって^お注^お目^おして^おいた。’人^お々^おが^お彼^おに^お注^お目^おした^おのは、長^おい^お間^おその^お魔^お術^おに^お心^おを^お奪^おわれ

て^おいた^おか^おら^おで^おあ^おる。’^おし^おかし、フィリボ^おが^お神^おの^お国^おと^おイエ^おス・キリス^おト^おの名^おにつ^おいて^お福^お音^おを^お告^おげ^お知^おら^おせ^おる^おの^お人^お々^おは^お信^おじ、男^おも^お女^おも^お洗^お礼^おを受^おけた。’^おシモ^おン自^お身^おも^お信^おじて^お洗^お礼^おを受^おけ、い^おつ^おも^おフィリボ^おにつ^おき^おき^お從^おい、す^おば^おら^おしい^おし^おる^おし^おと^お奇^お跡^おが^お行^おわ^おれる^おの^おを^お見^おて^お驚^おいて^おいた。

エルサレムにいた使徒たちは、サマリアの人々が神の言葉を受け入れたと聞き、ペトロとヨハネをそこへ行かせた。¹⁶二人はサマリアに下って行き、聖霊を受けようにとその人々のために祈った。¹⁶人々は主イエスの名によって洗礼を受けていただけで、聖霊はまだだれの上にも降っていなかったからである。¹⁷ペトロとヨハネが人々の上に手を置くと、彼らは聖霊を受けた。¹⁸シモンは、使徒たちが手を置くことで、「霊」が与えられるのを見、金を持って来て、¹⁹言った。「わたしが手を置けば、だれでも聖霊が授けられるように、わたしにもその力を授けてください。」²⁰すると、ペトロは言った。「この金は、お前と一緒に滅びてしまうがよい。神の賜物を金で手に入れられると思っているからだ。²¹お前はこのことに何のかかわりもなければ、権利もない。お前の心が神の前に正しくないからだ。²²この悪事を悔い改め、主に祈れ。そのような心の思いでも、赦していただけるかもしれないからだ。²³お前は腹黒い者であり、悪の縄目に縛られていることが、わたしには分かっている。」²⁴シモンは答えた。「おっしゃったことが何一つわたしの身に起こらないように、主に祈ってください。」

²⁵このように、ペトロとヨハネは、主の言葉を力強く証して語った後、サマリアの多くの村で福音を告げ知らせ、エルサレムに帰って行った。

フィリポとエチオピアの高官

²⁶さて、主の天使はフィリポに、「ここをたつて南に向かい、エルサレムからガザへ下る道に行け」と言った。そこは寂しい道である。²⁷フィリポはすぐ出かけて行った。折から、エチオピアの女王カンダケの高官で、女王の全財産の管理をしていたエチオピア人の宦官が、エルサレムに礼拝に来て、²⁸帰る途中であった。彼は、馬車に乗って預言者イザヤの書を朗読していた。²⁹すると、³⁰霊がフィリポに、「追いかけて、あの馬車と一緒に行け」と言った。³¹フィリポが走り寄ると、預言者イザヤの書を朗読しているのが聞こえたので、「読んでいることがお分かりになりますか」と言った。³²宦官は、「手引きしてくれる人がなければ、どうして分かりましょう」と言い、馬車に乗ってそばに座るようにフィリポに頼んだ。³³彼が朗読していた聖書の箇所はこれである。

彼は、羊のように屠り場に引かれて行った。

刈る者の前で黙している小羊のように、

口を開かない。

められて、その裁きも行われなかった。

が、その子孫について語れるだろう。

命は地上から取り去られるからだ。」

³⁴宦官はフィリポに言った。「どうぞ教えてください。預言者は、だれについてこう言っているのでしょうか。自分についてですか。だれかほかの人についてですか。」³⁵そこで、フィリポは口を開き、聖書のこの箇所から説きおこして、イエスについて福音を告げ知らせた。³⁶道を進んで行くうちに、彼らは水のある所に来た。宦官は言った。「ここに水があります。洗礼を受けるのに、何か妨げがあるでしょうか。」³⁷そして、車を止めさせた。フィリポと宦官は二人とも水の中に入って行き、フィリポは宦官に洗礼を授けた。³⁸彼らが水の中から上がると、主の霊がフィリポを連れ去った。宦官はもはやフィリポの姿を見なかったが、喜びにあふれて旅を続けた。³⁹フィリポはアゾトに姿を現した。そして、すべての町を巡りながら福音を告げ知らせ、カイサリアまで行った。

サウロの回心

(使徒22 6—16、26 12—18)

9

¹さて、サウロはなおも主の弟子たちを脅迫し、殺そうと意気込んで、大祭司のところへ行き、²ダマスコの諸会堂あての手紙を求めた。それは、この道に従うものを見つけ出したら、男女を問わず縛り上げ、エルサレムに連行するためであった。³ところが、サウロが旅をしてダマスコに近づいたとき、突然、天からの光が彼の周りを照らした。⁴サウロは地に倒れ、「サウル、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか」と呼びかける声を聞いた。⁵「主よ、あなたはどなたですか」というと、答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。⁶起きて町に入れ。そうすれば、あなたのなすべきことが知らされる。」⁷同行していた人たちは、声は聞こえても、だれの姿も見えないので、ものも言えず立っていた。⁸サウロは地面から起き上がって、目を開けたが、何も見えなかった。人々は彼の手を引いてダマスコに連れて行った。⁹サウロは三日間、目が見えず、食べも飲みもしなかった。

¹⁰ところで、ダマスコにアナニアという弟子がいた。幻の中で主が、「アナニア」と呼びかけると、アナニアは、「主よ、ここにおります」と言った。¹¹すると、主は言われた。「立って、『直線通り』と呼ばれる通りへ行き、ユダの家にいるサウロという名の、タルソス出身の者を訪ねよ。今、彼は祈っている。」¹²アナニアという人が入って来て自分の上に手を置き、元どおり目が見えるようにしてくれるのを、幻で見たのだ。」¹³しかし、アナニアは答えた。「主よ、わたしは、その人がエルサレムで、あなたの聖なる者たちに対してどんな悪事を働いたか、大勢の人から聞きました。」¹⁴ここでも、御名を呼び求める人をすべて捕らえるため、祭司長たちから権限を受けています。」¹⁵すると、主は言われた。「行け。あの者は、異邦人や王たち、またイスラエルの子らにわたしの名を伝えるために、わたしが選んだ器である。」¹⁶わたしの名のためにどんなに苦しまなくてはならないかを、わたしは彼に示そう。」¹⁷そこで、アナニアは出かけて行ってユダの家に入り、サウロの上に手を置いて言った。「兄弟サウル、あなたがここへ来る途中に現れてくださった主イエスは、あなたが元どおり目が見えるようになり、また、聖霊で満たされるようにと、わたしをお遣わしになったのです。」¹⁸すると、たちまち目からうろこのようなものが落ち、サウロは元どおり見えるようになった。そこで、身を起こして洗礼を受け、¹⁹食事をして元気を取り戻した。

サウロ、ダマスコで福音を告げ知らせる

サウロは数日の間、ダマスコの弟子たちと一緒にいて、²⁰すぐあちこちの会堂で、「この人こそ神の子である」と、イエスのことを宣べ伝えた。²¹これを聞いたひとびとは皆、非常に驚いて言った。「あれは、エルサレムでこの名を呼び求める者たちを滅ぼしていた男ではないか。また、ここへやって来たのも、彼らを縛り上げ、祭司長たちのところへ連行するためではなかったか。」²²しかし、サウロはますます力を得て、イエスがメシアであることを論証し、ダマスコに住んでいるユダヤ人をうろたえさせた。

サウロ、命をねらう者たちの手から逃れる

²³かなりの日数がたって、ユダヤ人はサウロを殺そうとたくらんだが、²⁴この陰謀はサウロの知るところとなった。しかし、ユダヤ人は彼を殺そうと、昼も夜も町の門で見張っていた。²⁵そこで、サウロの弟子たちは、夜の間に彼を連れ出し、籠に乗せて町の城壁づたいにつり降ろした。

サウロ、エルサレムで使徒たちと会う

²⁶サウロはエルサレムに着き、弟子の仲間に加わろうとしたが、皆は彼を弟子だとは信じないで恐れた。²⁷しかしバルナバは、サウロを連れて使徒たちのところへ案内し、サウロが旅の途中で主に出会い、主に語りかけられ、ダマスコでイエスの名によって大胆に宣教した次第を説明した。²⁸それで、サウロはエルサレムで使徒たちと自由に行き来し、主の名によって恐れずに教えるようになった。²⁹また、ギリシア語を話すユダヤ人と語り、議論もしたが、彼らはサウロを殺そうとねらっていた。³⁰それを知った兄弟たちは、サウロを連れてカイサリアに下り、そこからタルソスへ出發させた。

³¹こうして、教会はユダヤ、ガリラヤ、サマリアの全地方で平和を保ち、主を恐れ、聖霊の慰めを受け、基礎が固まって発展し、信者の数が増えていった。

ペトロ、アイネアをいやす

³²ペトロは方々を巡り歩き、リダに住んでいる聖なる者たちのところへも下って行った。³³そしてそこで、中風で八年前から床についていたアイネアという人に会った。³⁴ペトロが、「アイネア、イエス・キリストがいやしてくださる。起きなさい。自分で床を整えなさい」と言うと、アイネアはすぐ起き上がった。³⁵リダとシャロンに住む人は皆アイネアを見て、主に立ち帰った。

ペトロ、タビタを生き返らせる

³⁶ヤッファにタビタ―訳して言えばドルカス、すなわち「かもしか」―と呼ばれる婦人の弟子がいた。彼女はたくさんの善い行いや施しをしていた。³⁷ところが、そのころ病気になるって死んだので、人々は遺体を清めて階上の部屋に安置した。³⁸リダはヤッファに近かったので、弟子たちはペトロがリダにいと聞いて、二人の人を送り、「急いでわたしたちのところへ来てください」と頼んだ。³⁹ペトロはそこをたつて、その二人と一緒に出かけた。人々はペトロが到着すると、階上の部屋に案内した。やもめたちは皆そばに寄って来て、泣きながら、ドルカスが一緒にいたときに作ってくれた数々の下着や上着を見せた。⁴⁰ペトロが皆を外に出し、ひざまずいて祈り、遺体に向かって、「タビタ、起きなさい」と言うと、彼女は目を開き、ペトロを見て起き上がった。「ペトロは彼女に手を貸して立たせた。そして、聖なる者たちとやもめたちを呼び、生き返ったタビタを見せた。」⁴²このことはヤッファ中に知れ渡り、多くの人が主を信じた。⁴³ペトロはしばらくの間、ヤッファで皮なめし職人のシモンという人の家に滞在した。

コルネリウス、カイサリアで幻を見る

10

さて、カイサリアにコルネリウスという人がいた。「イタリア隊」とと呼ばれる部隊の百人隊長で、²信仰心あつく、一家そろって神を恐れ、民に多くの施しをし、絶えず神に祈っていた。³ある日の午後三時ごろ、コルネリウスは、神の天使が入って来て「コルネリウス」と呼びかけるのを、幻ではっきりと見た。⁴彼は天使を見つめていたが、怖くなって、「主よ、何でしょうか」と言った。すると、天使は言った。「あなたの祈りと施しは、神の前に届き、覚えられた。」⁵今、ヤッファへ人を送って、ペトロと呼ばれるシモンを招きなさい。⁶その人は、皮なめし職人シモンという人の客になっている。シモンの家は海岸にある。⁷天使がこう話して立ち去ると、コルネリウスは二人の召し使いと、側近の部下で信仰心のあつい一人の兵士とを呼び、⁸すべてのことを話してヤッファに送った。

ペトロ、ヤッファで幻を見る

⁹翌日、この三人が旅をしてヤッファの町に近づいたころ、ペトロは祈るため屋上に上がった。昼の十二時ごろである。¹⁰彼は空腹を覚え、何か食べたいと思つた。人々が食事の準備をしているうちに、ペトロは我を忘れたようになり、¹¹天が開き、大きな布のような入れ物が、四隅でつるされて、地上に下りて来るのを見た。¹²その中には、あらゆる獣、地を這うもの、空の鳥が入っていた。¹³そして、「ペトロよ、身を起こし、屠って食べなさい」と言う声がした。¹⁴しかし、ペトロは言った。「主よ、とんでもないことです。清くない物、汚れた物は何一つ食べたことはありません。」¹⁵すると、また声が聞こえてきた。「神が清めた物を、清くないなどと、あなたは言ってはならない。」¹⁶こういうことが三度あり、その入れ物は急に天に引き上げられた。

¹⁷ペトロが、今見た幻はいったい何だろうかと、ひとりで思案に暮れていると、コルネリウスから差し向けられた人々が、シモンの家を探し当てて門口に立ち、¹⁸声をかけて、「ペトロと呼ばれるシモンという方が、ここに泊まっておられますか」と尋ねた。¹⁹ペトロがなおも幻について考え込んでいると、「霊」がこう言った。「三人の者があなたを探しに来ている。²⁰立って下に行き、ためらわないで一緒に出發しなさい。わたしがあの者たちをよこしたのだ。」²¹ペトロ

は、その人々のところへ降りて行って、「あなたがたが探しているのは、このわたしです。どうして、ここへ来られたのですか」と言った。²²すると、彼らは言った。「百人隊長の**コルネリウス**は、正しい人で神を畏れ、すべてのユダヤ人に評判の良い人ですが、あなたを家に招いて話を聞くようにと、聖なる天使からお告げを受けたのです。」²³それで、ペトロはその人たちを迎え入れ、泊ませた。

翌日、ペトロはそこをたち、彼らと出かけた。ヤッファの兄弟も何人か一緒に行った。²⁴次の日、一行はカイサリアに到着した。コルネリウスは親類や親しい友人を呼び集めて待っていた。²⁵ペトロが来ると、コルネリウスは迎えに出て、足もとにひれ伏して拝んだ。²⁶ペトロは彼を起こして言った。「お立ちください。わたしただの人間です。」²⁷そして、話しながら家に入ってみると、大勢の人が集まっていたので、²⁸彼らに言った。「あなたがたもご存じのとおり、ユダヤ人が外国人と交際したり、外国人を訪問したりすることは、律法で禁じられています。けれども、神はわたしに、どんな人をも清くない者とか、汚れている者とか言ってはならないと、お示しになりました。²⁹それで、お招きを受けたと、すぐ来たのです。お尋ねしますが、なぜ招いてくださったのですか。」³⁰すると、コルネリウスが言った。「四日前の今ごろのことです。わたしが家で午後三時の祈りをしていますと、輝く服を着た人がわたしの前に立って、³¹言うのです。『コルネリウス、あなたの祈りは聞き入れられ、あなたの施しは神の前で覚えられた。』ヤッファに人を送って、ペトロと呼ばれるシモンを招きなさい。その人は、海岸にある皮なめし職人シモンの家に泊まっている。』³²それで、早速あなたのところに人を送ったのです。よくおいでくださいました。今わたしたちは皆、主があなたにお命じになったことを残らず聞こうとして、神の前にいるのです。」

ペトロ、コルネリウスの家で福音を告げる

³³そこで、ペトロは口を開きこう言った。「神は人を分け隔てなさないことが、よく分かりました。³⁵どんな国の人でも、神を畏れて正しいことを行う人は、神に受け入れられるのです。³⁶神がイエス・キリストによって—この方こそ、すべての人の主です—平和を告げ知らせ、イスラエルの子らに送ってくださった御言葉を、³⁷あなたがたはご存じでしょう。ヨハネが「洗礼」を宣べ伝えた後に、ガリラヤから始まってユダヤ全土に起きた出来事です。³⁸つまり、ナザレのイエスのことです。神は、聖霊と力によってこの方を油注がれた者となさいました。イエスは、方々を巡り歩いて人々を助け、悪魔に苦しめられている人々をすべていやされたのですが、それは、神が御一緒だったからです。³⁹わたしたちは、イエスがユダヤ人の住む地方、特にエルサレムでなされたことすべての証人です。人々はイエスを木にかけて殺してしまいましたが、⁴⁰神はこのイエスを三日目に復活させ、人々の前に現してくださいました。⁴¹しかし、それは民全体に對してではなく、前もって神に選ばれた証人、つまり、イエスが死者の中から復活した後、御一緒に食事をしたわたしたちに対してです。⁴²そしてイエスは、御自分が生きている者と死んだ者との審判者として神から定められた者であることを、民に宣べ伝え、力強く証しするようにと、わたしたちにお命じになりました。⁴³また預言者も皆、イエスについて、この方を信じる者はだれでもその名によって罪の赦しを受けられる、と証しています。」

異邦人も聖霊を受ける

⁴⁴ペトロがこれらのことをなおも話し続けていると、御言葉を聞いている一同の上に聖霊が降った。⁴⁵割礼を受けている信者で、ペトロと一緒に来た人は皆、聖霊の賜物が異邦人の上にも注がれるのを見て、大いに驚いた。⁴⁶異邦人が異言を話し、また神を賛美しているのを、聞いたからである。そこでペトロは、⁴⁷「わたしたちと同様に聖霊を受けたこの人たちが、水で「洗礼」を受けるのを、いったいだれが妨げることができますか」と言った。⁴⁸そして、イエス・キリストの名によって「洗礼」を受けるようにと、その人たちに命じた。それから、コルネリウスたちは、ペトロになお数日滞在するようにと願った。

ペトロ、エルサレムの教会に報告する

さて、使徒たちとユダヤにいる兄弟たちは、異邦人も神の言葉を受け入れたことを耳にした。²ペトロがエルサレムに上って来たとき、割礼を受けている者たちは彼を非難して、³「あなたは割礼を受けていない者たちのところへ行き、一緒に食事をした」と言った。⁴そこで、ペトロは事の次第を順序正しく説明し始めた。⁵「わたしがヤッファの町にいて祈っていると、我を忘れたようになって幻を見ました。大きな布のような入れ物が、四隅でつるされて、天からわたしのところまで下りて来たのです。⁶その中をよく見ると、地上の獣、野獣、這うもの、空の鳥などが入っていました。⁷そして、『ペトロよ、身を起こし、屠って食べなさい』と言う声を聞きましたが、⁸わたしは言いました。『主よ、とんでもないことです。清くない物、汚れた物は口にしないことがあります。』⁹すると、『神が清めた物を、清くないなどと、あなたは言うてはならない』と、再び天から声が返って来ました。¹⁰こういうことが三度あって、また全部の物が天に引き上げられてしまいました。¹¹そのとき、カイサリアからわたしのところに差し向けられた三人の人が、わたしたちのいた家に到着しました。¹²すると、『**「霊」**がわたしに、『ためらわないで一緒に行きなさい』と言われました。ここにいる六人の兄弟も一緒に来て、わたしたちはその人の家に入ったのです。¹³彼は、自分の家に天使が立っているのを見たこと、また、その天使が、こう告げたことを話してくれました。『ヤッファに人を送って、ペトロと呼ばれるシモンを招きなさい。¹⁴あなたが家族の者すべてを救う言葉をあなたに話してくれる。』¹⁵わたしが話したすと、聖霊が最初わたしたちの上に降ったように、彼らの上にも降ったのです。¹⁶そのとき、わたしは、『ヨハネは水で「洗礼」を授けたが、あなたがたは聖霊によって「バプテスマ」ういて、¹⁷清く、¹⁸神がそうなさるのをどうして妨げることができたでしょうか。』¹⁹この言葉を聞いて人々は静まり、「それでは、神は異邦人をも悔い改めさせ、命を与えてくださったのだ」と言って、神を賛美した。

アンティオキアの教会

19 ステファノの事件をきっかけにして起こった迫害のために散らされた人々は、フェニキア、キプロス、アンティオキアまで行ったが、ユダヤ人以外のだれにもみことばを語らなかつた。20 しかし、彼らの中にキプロス島やクレネから来た者がいて、アンティオキアへ行き、ギリシア語を話す人々にも語りかけ、主イエスについて福音を告げ知らせた。21 主がこの人々を助けられたので、信じて主に立ち帰った者の数は多かった。22 このうわさがエルサレムにある教会にも聞こえてきたので、教会はバルナバをアンティオキアへ行くように派遣した。23 バルナバはそこに到着すると、神の恵みが与えられた有様を見て喜び、そして、固い決意をもって主から離れることのないようにと、皆に勧めた。24 バルナバは立派な人物で、聖霊と信仰とに満ちていたからである。こうして、多くの人が主へと導かれた。25 それから、バルナバはサウロを捜しにタルソスへ行き、26 見つけ出してアンティオキアに連れ帰った。二人は、丸一年の間、その教会と一緒にいて多くの人を教えた。このアンティオキアで、弟子たちが初めてキリスト者と呼ばれるようになったのである。

27 そのころ、預言する人々がエルサレムからアンティオキアに下って来た。28 その中の一人のアガボという者が立って、大飢饉が世界中に起こると、霊によって予告したが、果たしてそれはクラウディウス帝の時に起こった。29 そこで、弟子たちはそれぞれの力に応じて、ユダヤに住む兄弟たちに援助の品を送ることに決めた。30 そして、それを実行し、バルナバとサウロに託して長老たちに届けた。

ヤコブの殺害とペトロの投獄

1 そのころ、ヘロデ王は教会のある人々に迫害の手を伸ばし、2 ヨハネの兄弟ヤコブを剣で殺した。3 そして、それがユダヤ人に喜ばれるのを見て、更にペトロをも捕らえようとした。それは、除酵祭の時期であった。4 ヘロデはペトロを捕らえて牢に入れ、四人一組の兵士四組に引き渡して監視させた。過越祭の後で民衆の前に引き出すつもりであった。5 こうして、ペトロは牢に入れられていた。教会では彼のために熱心な祈りが神にささげられていた。

ペトロ、牢から救い出される

6 ヘロデがペトロを引き出そうとしていた日の前夜、ペトロは二本の鎖でつながれ、二人の兵士の間で眠っていた。番兵たちは戸口で牢を見張っていた。7 すると、主の天使がそばに立ち、光が牢の中を照らした。天使はペトロのわき腹をつついて起こし、「急いで起き上がらなさい」と言った。すると、鎖が彼の手から外れ落ちた。8 天使が、「帯を締め、履物を履きなさい」と言ったので、ペトロはそのとおりにした。また天使は、「上着を着て、ついて来なさい」と言った。9 それで、ペトロは外に出てついて行ったが、天使のしていることが現実のこととは思われなかった。幻を見ているのだと思った。10 第一、第二の衛兵所を過ぎ、町に通じる鉄の門の所まで来ると、門がひとりでに開いたので、そこを出て、ある通りを進んで行くと、急に天使は離れ去った。11 ペトロは我に返って言った。「今、初めて本当のことが分かった。主が天使を遣わして、ヘロデの手から、またユダヤ民衆のあらゆるもろみから、わたしを救い出してくださったのだ。」12 こう分かんるとペトロは、マルコと呼ばれていたヨハネの母マリアの家に行った。そこには、大勢の人が集まって祈っていた。13 門の戸をたたくと、ロデという女中が取り次ぎに出て来た。14 ペトロの声だと分かると、喜びのあまり門を開けもしないで家に駆け込み、ペトロが門の前に立っていると告げた。15 人々は、「あなたは気が変になっているのだ」と言ったが、ロデは、本当だと言い張った。彼らは、「それはペトロを守る天使だろう」と言い出した。16 しかし、ペトロは戸をたたき続けた。彼らが開けてみると、そこにペトロがいたので非常に驚いた。17 ペトロは手で制して彼らを静かにさせ、主が牢から連れ出してくださった次第を説明し、「このことをヤコブと兄弟たちに伝えなさい」と言った。そして、そこを出てほかの所へ行った。

18 夜が明けると、兵士たちの間で、ペトロはいったいどうなったのだろうと、大騒ぎになった。19 ヘロデはペトロを捜しても見つからないので、番兵たちを取り調べたうえで死刑にするように命じ、ユダヤからカイサリアに下って、そこに滞在していた。

ヘロデ王の急死

20 ヘロデ王は、ティルスとシドンの住民にひどく腹を立てていた。そこで、住民たちはそろって王を訪ね、その侍従ブラストに取り入って和解を願い出た。かれらの地方が、王の国から食糧を得ていたからである。21 定められた日に、ヘロデが王の服を着けて座に着き、演説をすると、22 集まった人々は、「神の声だ。人間の声ではない」と叫び続けた。23 するとたちまち、主の天使がヘロデを撃ち倒した。神に栄光を帰さなかったからである。ヘロデは、蛆に食い荒らされて息絶えた。

24 神の言葉はますます栄え、広がって行った。25 バルナバとサウロはエルサレムのための任務を果たし、マルコと呼ばれるヨハネを連れて帰って行った。

バルナバとサウロ、宣教旅行に出发する

1 アンティオキアでは、その教会にバルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、クレネ人のルキオ、領主ヘロデと一緒に育ったマナエン、サウロなど、預言する者や教師たちがいた。2 彼らが主を礼拝し、断食していると、聖霊が告げた。「さあ、バルナバとサウロをわたしのために選び出しなさい。わたしが前もって二人に決めておいた仕事に当たらせるために。」3 そこで、彼らは断食して祈り、二人の上に手を置いて出発させた。

キプロス宣教

4 聖霊によって送り出されたバルナバとサウロは、セレウキアに下り、そこからキプロス島に向け船出し、5 サラミスに着くと、ユダヤ人の諸会堂で神の言葉を告げ知らせた。二人は、ヨハネを助手として連れていた。6 島全体を巡ってパフォスまで行くと、ユダヤ人の魔術師で、バルイエスという一人の偽預言者に会

おとこ　ちほうそうとく　けんめい　じんぶつ　こうさい　そうとく　まね　かみ　ことば　き　まじゆつし
った。この　男　は、地方総督セルギウス・パウルスという賢明な人物と交際していた。総督はバルナバとサウロを招いて、神の言葉を聞こうとした。魔術師
かれ　なまえ　まじゆつし　い　み　ふたり　たいこう　ちほうそうとく　しんこう　とお　よ　せいらい　み
エリマ―彼の名前は魔術師という意味である―は二人に対抗して、地方総督をこの信仰から遠ざけようとした。パウロとも呼ばれていたサウロは、聖霊に満
まじゆつし　い　いつわ　あざむ　み　もの　あくま　こ　せいぎ　てき　まえ　しゆ　みち
たされ、魔術師をにらみつけて、¹⁰言った。「ああ、あらゆる偽りと欺きに満ちた者、悪魔の子、すべての正義の敵、お前は主のまっすぐな道をどうしてもゆ
がめようとするのか。」¹¹今こそ、主の御手はお前の上に下る。お前は目が見えなくなって、時が来るまで日の光を見ないだろう。」するとたちまち、魔術師は目
み　ある　まわ　て　ひ　ひと　さが　そうとく　できごと　み　しゆ　おし　ひじょう　おどろ　しんこう
がかすんできて、すっかり見えなくなり、歩き回りながら、だれか手を引いてくれる人を探した。¹²総督はこの出来事を見て、主の教えに非常に驚き、信仰に
はい
入った。

しゅう
ピシディア州のアンティオキアで
いっこう　ふなで　しゅう　き　いっこう　わか　かえ
¹³パウロとその一行は、パフォスから船出してパンフィリア州のベルゲに來たが、ヨハネは一行と別れてエルサレムに帰ってしまった。¹⁴パウロとバルナバはペ
すす　しゅう　とうちやく　あんそくび　かいどう　はい　せき　つ　りつぼう　よげんしゃ　しよ　ろうどく　のち　かいどうちよう
ルゲから進んで、ピシディア州のアンティオキアに到着した。そして、安息日に会堂に入って席に着いた。¹⁵律法と預言者の書が朗読された後、会堂長
か　いま　しゆ　みて　まえ　うえ　くだ　まえ　め　み　とき　く　ひ　ひかり　み　まじゆつし　め
たちが人をよこして、「兄弟たち、何か会衆のために励ましのお言葉があれば、話してください」と言わせた。¹⁶そこで、パウロは立ち上がり、手で人々を制
い
して言った。

ひと　かみ　おそ　かたがた　き　たみ　かみ　せんぞ　えら　だ　たみ　ち　す
「イスラエルの人たち、ならびに神を畏れる方々、聞いてください。¹⁷この民イスラエルの神は、わたしたちの先祖を選び出し、民がエジプトの地に住んでいる
あいだ　きょうだい　たか　あ　み　うで　みちび　だ　かみ　ねん　あいだ　あ　の　かれ　おこな　た　しの
間に、これを強大なものとし、高く上げた御腕をもってそこから導き出してくださいました。¹⁸神はおよそ四十年の間、荒れ野で彼らの行いを耐え忍
ち　みんぞく　ぼろ　と　ち　かれ　そうぞく　やく　ねん　ぞく　もの　こ　あた　よげんしゃ
び、¹⁹カナン之地では七つの民族を滅ぼし、その土地を彼らに相続させてくださったのです。²⁰これは、約四百五十年にわたることでした。その後、神は預言者サ
じだい　さば　もの　にんめい　のち　ひとびと　おう　もと　かみ　ねん　あいだ　ぞく　もの　こ　あた
ムエルの時代まで、裁く者たちを任命なさいました。²¹後に人々が王を求めたので、神は四十年の間、ベニヤミン族の者で、キシユの子サウルをお与えにな
しりぞ　おう　くらい　かれ　つぎ　せんげん　こ　こころ　かな　もの
り、²²それからまた、サウルを退けてダビデを王の位につけ、彼について次のように宣言なさいました。『わたしは、エッサイの子でわたしの心に適う者、ダ
み　かれ　おも　おこな　かみ　やくそく　したが　し　そん　すく　ぬし　おく
ビデを見いだした。彼はわたしの思うところをすべて行う。』²³神は約束に従って、このダビデの子孫からイスラエルに救い主イエスを送ってくださったので
す。²⁴ヨハネは、イエスがおいでになる前に、イスラエルの民全体に悔い改めの洗礼を宣べ伝えました。²⁵その生涯を終えようとするとき、ヨハネはこう言
なにも　おも　お　き　たい　もの　かた　あと　こ　あし
いました。『わたしを何者だと思っているのか。わたしは、あなたたちが期待しているような者ではない。その方はわたしの後から來られるが、わたしはその足の
はきもの　ぬ　ね　う
履物をお脱がせする値打ちもない。』

きょうだい　し　そん　かたがた　なか　かみ　おそ　ひと　すく　ことば　おく　す
²⁶兄弟たち、アブラハムの子孫の方々、ならびにあなたがたの中にいて神を畏れる人たち、この救いの言葉はわたしたちに送られました。²⁷エルサレムに住む
ひとびと　しどうしゃ　みと　あんそくび　よ　よげんしゃ　ことば　りかい　つみ　さだ　ことば　じつげん
人々やその指導者たちは、イエスを認めず、また、安息日ごとに読まれる預言者の言葉を理解せず、イエスを罪に定めることによって、その言葉を実現させた
し　あ　りゆう　なに　み　しけい　もと　か
のです。²⁸そして、死に当たる理由は何も見いだせなかったのに、イエスを死刑にするようにとピラトに求めました。²⁹こうして、イエスについて書かれていることが
じつげん　のち　ひとびと　き　お　はか　ほうむ　かみ　ししや　なか　ふつかつ　こじ
すべて実現した後、人々はイエスを木から降ろし、墓に葬りました。³⁰しかし、神はイエスを死者の中から復活させてくださったのです。³¹このイエスは、御自
ぶん　いっしょ　のぼ　ひとびと　いくにち　すがた　あらわ　ひと　いま　たみ　たい　しょうにん
分と一緒にガリヤからエルサレムに上った人々に、幾日にもわたって姿を現されました。その人たちは、今、民に対してイエスの証人となっていま
せんぞ　あた　やくそく　ふくいん　つ　し　かみ　ふつかつ　し　そん
す。³²わたしたちも、先祖に与えられた約束について、あなたがたに福音を告げ知らせています。³³つまり、神はイエスを復活させて、わたしたち子孫のためにそ
やくそく　は　し　へん　だい　へん
の約束を果たしてくださいました。それは詩編の第二編にも、

こ
「あなたはわたしの子、

きょう　う
「しは今日あなたを産んだ」
か　ししや　なか　ふつかつ　く　は
と書いてあるとおりです。³⁴また、イエスを死者の中から復活させ、もはや朽ち果てることがないようになさったことについては、

やくそく
「わたしは、ダビデに約束した

せい　たし　しゆくふく　あた
聖なる、確かな祝福をあなたたちに与える』
い　かしよ
と言っておられます。³⁵ですから、ほかの個所にも、

あなたが、あなたの聖なる者を

朽ち果てるままにしてはおかれない』

と言われています。³⁶ダビデは、彼の時代に神の計画に仕えた後、眠りについて、祖先の列に加えられ、朽ち果てました。³⁷しかし、神が復活させたこの方は、朽ち果てることがなかったのです。³⁸だから、兄弟たち、知っていただきたい。この方による罪の赦しは告知られ、また、あなたがたがモーセの律法では義とされえなかったのに、³⁹信じる者は皆、この方によって義とされるのです。⁴⁰それで、預言者の書に言われていることが起こらないように、警戒しなさい。

⁴¹『見よ、侮る者よ、驚け。滅び去れ。』

主は、お前たちの時代に一つの事を 行 う。

が詳しく説明しても、

お前たちにはとうてい信じられない事を。』」

⁴²パウロとバルナバが会堂を出るとき、人々は次の安息日にも同じことを話してくれるようにと頼んだ。⁴³集會が終わってから、多くのユダヤ人と神をあがめる改宗者がついて来たので、二人は彼らと語り合い、神の恵みの下に生き続けるように勧めた。

⁴⁴次の安息日になると、ほとんど町中の人々が主の言葉を聞こうとして集まって来た。⁴⁵しかし、ユダヤ人はこの群衆を見てひどくねたみ、口汚くののしつて、パウロの話すことに反対した。⁴⁶そこで、パウロとバルナバは勇敢に語った。「神の言葉は、まずあなたがたに語られるはずでした。だがあなたがたはそれを拒み、自分自身を永遠の命を得るに値しない者にしている。見なさい、わたしたちは異邦人の方に行く。⁴⁷主はわたしたちにこう命じておられるからです。

わたしは、あなたを異邦人の光と定めた、

あなたが、地の果てにまでも

救いをもたらすために。』」

⁴⁸異邦人たちはこれを聞いて喜び、主の言葉を賛美した。そして、永遠の命を得るように定められている人は皆、信仰に入った。⁴⁹こうして、主の言葉はその地方全体に広まった。⁵⁰ところが、ユダヤ人は、神をあがめる貴婦人たちや町のおもだった人々を扇動して、パウロとバルナバを迫害させ、その地方から二人を追い出した。⁵¹それで、二人は彼らに対して足の塵を払い落とし、イコニオンに行った。⁵²他方、弟子たちは喜びと聖霊に満たされていた。

イコニオンで

14

イコニオンでも同じように、パウロとバルナバはユダヤ人の会堂に入って話をしたが、その結果、大勢のユダヤ人やギリシア人が信仰に入った。²ところが、信じようとしないユダヤ人たちは、異邦人を扇動し、兄弟たちに対して悪意を抱かせた。³それでも、二人はそこに長くどまり、主を頼みとして勇敢に語った。主は彼らの手を通してしと不思議な業を行い、その恵みの言葉を証しされたのである。⁴町の人々は分裂し、ある者はユダヤ人の側に、ある者は使徒の側についた。⁵異邦人とユダヤ人が、指導者と一緒になって二人に乱暴を働き、石を投げつけようとしたとき、⁶二人はこれに気づいて、リカオニア州の町であるリストラとデルベ、またその近くの地方に難を避けた。⁷そして、そこでも福音を告知らせていた。

リストラで

⁸リストラに、足の不自由な男が座っていた。生まれつき足が悪く、まだ一度も歩いたことがなかった。⁹この人が、パウロの話を聞いていた。パウロは彼を見つめ、いやされるのにふさわしい信仰があるのを認め、¹⁰「自分の足でまっすぐに立ちなさい」と大声で言った。すると、その人は躍り上がって歩きだした。¹¹群衆はパウロの行ったことを見て声を張り上げ、リカオニアの方言で、「神々が人間の姿をとって、わたしたちのところに降りになった」と言った。¹²そして、バルナバを「ゼウス」と呼び、またおもに話す者であることから、パウロを「ヘルメス」と呼んだ。¹³町の外にあったゼウスの神殿の祭司が、家の門の所まで雄牛数頭と花輪を運んで来て、群衆と一緒にになって二人にいけにえを献げようとした。¹⁴使徒たち、すなわちバルナバとパウロはこのことを聞くのと、服を裂いて群衆の中へ飛び込んで行き、叫んで¹⁵言った。「皆さん、なぜ、こんなことをするのですか。わたしたちも、あなたがたと同じ人間にすぎません。あなたがたが、このような偶像を離れて、生ける神に立ち帰るように、わたしたちは福音を告知らせているのです。この神こそ、天と地と海と、そしてその中にあるすべてのものを造られた方です。¹⁶神は過ぎ去った時代には、すべての国の人が思い思いの道を行くままにしておかれました。¹⁷しかし、神は御自分の

あか　　めぐ　　てん　　あめ　ふ　　みの　　きせつ　　あた　　しょくもつ　　ほどこ　　ところ　　よろこ　　み
ことを証ししないでおられたわけではありません。恵みをくださり、天からの雨を降らせて実りの季節を与え、食　物を　施　して、あなたがたの　心　を　喜　びで満
　　い　　ふたり　　ぐんしゅう　　じぶん　　ささ
たしてくださっているのです。」¹⁸こう言って、二人は、群　衆　が自分たちにいけにえを献げようとするのを、やっつとやめさせることができた。
　　じん
　¹⁹ところが、ユダヤ人たちがアンティオキアとイコニオンからやって来て、群　衆　を抱き込み、パウロに石を投げつけ、死んでしまったものと思つて、町の外へ引
　　だ　　でし　　まわ　　と　　かこ　　お　　あ　　まち　　はい　　い　　いほうじん　　よくじつ　　もん　　ひら　　いつしよ　　む
きざり出した。²⁰しかし、弟子たちが周りを取り囲むと、パウロは起き上がって町に入つて行つた。そして翌日、バルナバと一緒にデルベへ向かつた。

パウロたち、シリア　州のアンティオキアに戻る
　　ふたり　　まち　　ふくいん　　つ　　し　　おお　　ひと　　でし
　²¹二人はこの町で福　音を告げ知らせ、多くの人を弟子にしてから、リストラ、イコニオン、アンティオキアへと引き返しなが、²²弟子たちを　力　づけ、「わたし
　　かみ　　くに　　はい　　おお　　くる　　へ　　い　　しんこう　　ふ　　はげ　　でし　　きょうかい　　ちやうろう
たちが神の国に入るには、多くの苦しみを経なくてはならない」と言つて、信仰に踏みとどまるように励ました。²³また、弟子たちのため　教　会ごとに　長　老たち
　　にんめい　　だんじき　　いの　　かれ　　しん　　しゅ　　まか　　ふたり　　しゅう　　とお　　しゅう　　いた　　みことば　　かた　　のち
を任　命し、断食して祈り、彼らをその信ずる主に任せた。²⁴それから、二人はビシディア　州　を通り、パンフィリア　州　に至り、²⁵ベルゲで御言葉を語つた後、
　　くだ　　でし　　まわ　　と　　かこ　　お　　あ　　まち　　はい　　い　　いほうじん　　よくじつ　　もん　　ひら　　いつしよ　　む
アタリヤに下り、²⁶そこからアンティオキアへ向かつて船出した。そこは、二人が今成し遂げた　働　きのために神の恵みにゆだねられて送り出された　所　である。²⁷
　　とうちやく　　きょうかい　　ひとびと　　あつ　　い　　かみ　　じぶん　　とも　　おこな
到　着　するとすぐ　教　会の人々を集めて、神が自分たちと共にいて　行　われたすべてのことと、異邦人に信仰の門を開いてくださったことを報告した。²⁸そし
　　あいだ　　でし　　とも　　す
て、しばらくの　間　、弟子たちと共に過ごした。

エルサレムの使徒會議

15

　　ひとびと　　くだ　　き　　かんしゅう　　したが　　かつれい　　う　　すく　　きょうだい　　おし
ある人々がユダヤから下つて来て、「モーセの慣　習　に従つて割　礼を受けなければ、あなたがたは救われない」と　兄　弟たちに教えていた。²それで、パウロや
　　ひと　　あいだ　　はげ　　いけん　　たいりつ　　ろんそう　　しやう　　けん　　し　　と　　ちやうろう　　きやうぎ　　すう
バルナバとその人たちとの　間　に、激しい意見の対立と論争が生　じた。この件について使徒や　長　老たちと　協　議するために、パウロとバルナバ、そのほか数
　　めい　　もの　　のぼ　　き　　いつこう　　きょうかい　　ひとびと　　おく　　だ　　ちほう　　とお　　みち　　きやうだい　　いほうじん
名の者がエルサレムへ上ることに決まつた。³さて、一行は　教　会の人々から送り出されて、フェニキアとサマリア地方を通り、道すがら、　兄　弟たちに異邦人
　　かいしゅう　　しだい　　くわ　　つた　　みな　　おお　　よろこ　　とうちやく　　かれ　　きやうかい　　ひとびと　　し　　と　　ちやうろう　　かんげい　　かみ　　じぶん
が改　宗　した次第を詳しく伝え、皆を大いに　喜　べせた。⁴エルサレムに到　着　すると、彼らは　教　会の人々、使徒たち、　長　老たちに歓迎され、神が自分たち
　　とも　　おこな　　ほうこく　　は　　しんじや　　ひと　　すうめいた　　いほうじん　　かつれい　　う　　りつ
と共にいて　行　われたことを、ことごとく報告した。⁵ところが、ファリサイ派から信者になつた人が数名立つて、「異邦人にも割　礼を受けさせて、モーセの律
　　ぼう　　まも　　めい　　い
法を守るように命じるべきだ」と言つた。

　　し　　と　　ちやうろう　　もんだい　　きやうぎ　　あつ　　ぎろん　　かさ　　のち　　た　　かれ　　い　　きやうだい　　ぞん
そこで、使徒たちと　長　老たちは、この問題について　協　議するために集まつた。⁷議論を重ねた後、ペトロが立つて彼らに言つた。「　兄　弟たち、ご存じのと
おり、ずっと以前に、神はあなたがたの　間　でわたしをお選びになりました。それは、異邦人が、わたしの口から福　音の言葉を聞いて信じるようになるため
　　ひと　　ところ　　みとお　　かみ　　あた　　いほうじん　　せいれい　　あた　　かれ　　う　　い　　しやうめい
す。⁸人の　心　をお見通しになる神は、わたしたちに与えてくださったように異邦人にも聖霊を与えて、彼らをも受け入れられたことを　証　明なさつたのです。⁹ま
　　かれ　　ところ　　しんこう　　きよ　　かれ　　あいだ　　なん　　さべつ　　いま　　せん　　ぞ　　お
た、彼らの　心　を信仰によって清め、わたしたちと彼らとの　間　に何の差別をもなさいませんでした。¹⁰それなのに、なぜ今あなたがたは、先祖もわたしたちも負
　　くびき　　でし　　くび　　か　　かみ　　ところ　　しゅ　　めぐ　　すく　　しん
いきれなかつた　軛　を、あの弟子たちの首に懸けて、神を　試　みようとするのですか。¹¹わたしたちは、主イエスの恵みによって救われると信じているのですが、こ
　　かれ　　いほうじん　　おな
れは、彼ら異邦人も同じことです。」

　　ぜんかいしゅう　　しず　　じぶん　　とお　　かみ　　いほうじん　　あいだ　　おこな　　ふし　　ぎ　　わざ　　はな　　き
　¹²すると全会　衆　は静かになり、バルナバとパウロが、自分たちを通して神が異邦人の　間　で　行　われた、あらゆるしるしと不思議な業について話すのを聞いて
　　ふたり　　はなし　　お　　こた　　きやうだい　　き　　かみ　　はじ　　ところ　　くば　　いほうじん　　なか　　ごじぶん　　な　　しん　　たみ　　えら　　だ
いた。¹³二人が　話　を終えると、ヤコブが答えた。「　兄　弟たち、聞いてください。¹⁴神が初めに　心　を配られ、異邦人の中から御自分の名を信じる民を選び出そ
　　しだい　　はな　　よげんしゃ　　い　　いつ　　ち　　つぎ　　か
うとなさつた次第については、シメオンが話してくれました。¹⁵預　言　者たちの言つたことも、これと一致しています。次のように書いてあるとおりです。

　　ご　　もど　　き
その後、わたしは戻つて来て、

　　まくや　　た　　なお
　¹たダビデの幕屋を建て直す。

　　はい　　ところ　　た　　なお
)破壊された　所　を建て直して、

じおりにする。

　　ひとびと　　のこ　　もの
れは、人々のうちの残つた者や、

　　な　　よ　　いほうじん　　みな
:しの名で呼ばれる異邦人が皆、

　　もと
を求めるようになるためだ。」

　　し　　おこな　　しゅ
から知らされていたことを　行　う主は、

こう言われる。』

¹⁹それで、わたしはこう判断します。神に立ち帰る異邦人を悩ませてはなりません。²⁰ただ、偶像に供えて汚れた肉と、みだらな行いと、絞め殺した動物の肉と、血とを避けるようにと、手紙を書くべきです。²¹モーセの律法は、昔からどの町にも告知知らせる人がいて、安息日ごとに会堂で読まれているからです。」

使徒会議の決議

²²そこで、使徒たちと長老たちは、教会全体と共に、自分たちの中から人を選んで、パウロやバルナバと一緒にアンティオキアに派遣することを決定した。選ばれたのは、バルサバと呼ばれるユダおよびシラスで、兄弟たちの中で指導的な立場にいた人たちである。²³使徒たちは、次の手紙を彼らに託した。「使徒と長老たちが兄弟として、アンティオキアとシリア州とキリキア州に住む、異邦人の兄弟たちに挨拶いたします。²⁴聞くところによると、わたしたちのうちの者がそちらへ行き、わたしたちから何の指示もないのに、いろいろなことを言っ、あなたがたを騒がせ動揺させたとのことです。²⁵それで、人を選び、わたしたちの愛するバルナバとパウロとに同行させて、そちらに派遣することを、わたしたちは満場一致で決定しました。²⁶このバルナバとパウロは、わたしたちの主イエス・キリストの名のために身を献げている人たちです。²⁷それで、ユダとシラスを選んで派遣しますが、彼らは同じことを口頭でも説明するでしょう。²⁸聖霊とわたしたちは、次の必要な事柄以外、一切あなたがたに重荷を負わせないことに決めました。²⁹すなわち、偶像に献げられたものと、血と、絞め殺した動物の肉と、みだらな行いとを避けることです。以上を慎めばよいのです。健康を祈ります。」

³⁰さて、彼ら一同は見送りを受けて出発し、アンティオキアに到着すると、信者全体を集めて手紙を手渡した。³¹彼らはそれを読み、励ましに満ちた決定を知って喜んだ。³²ユダとシラスは預言する者でもあったので、いろいろと話をして兄弟たちを励まし力づけ、³³しばらくここに滞在した後、兄弟たちから送別の挨拶を受けて見送られ、自分たちを派遣した人々のところへ帰って行った。† ³⁴しかし、パウロとバルナバはアンティオキアにとどまって教え、他の多くの人と一緒に主の言葉の福音を告知知らせた。

パウロ、バルナバとは別に宣教を開始する

³⁶数日の後、パウロはバルナバに言った。「さあ、前に主の言葉を宣べ伝えたすべての町へもう一度行って兄弟たちを訪問し、どのようにしているかを見て来ようではないか。」³⁷バルナバは、マルコと呼ばれるヨハネも連れて行きたいと思った。³⁸しかしパウロは、前にパンフィリア州で自分たちから離れ、宣教に一緒に行かなかったような者は、連れて行くべきでないと考えた。³⁹そこで、意見が激しく衝突し、彼らはついに別行動をとるようになって、バルナバはマルコを連れてキプロス島へ向かって船出したが、⁴⁰一方、パウロはシラスを選び、兄弟たちから主の恵みにゆだねられて、出発した。⁴¹そして、シリア州やキリキア州を回って教会を力づけた。

テモテ、パウロに同行する

16

¹パウロは、デルベにもリストラにも行った。そこに、信者のユダヤ婦人の子で、ギリシア人を父親に持つ、テモテという弟子がいた。²彼は、リストラとイコニオンの兄弟の間で評判の良い人であった。³パウロは、このテモテと一緒に連れて行きたかったので、その地方に住むユダヤ人の手前、彼に割礼を授けた。父親がギリシア人であることを、皆が知っていたからである。⁴彼らは方々の町を巡回して、エルサレムの使徒と長老たちが決めた規定を守るようにと、人々に伝えた。⁵こうして、教会は信仰を強められ、日ごとに人数が増えていった。

マケドニア人の幻

⁶さて、彼らはアジア州で御言葉を語ることが聖霊から禁じられたので、フリギア・ガラテヤ地方を通って行った。⁷ミシア地方の近くまで行き、ピティニア州に入ろうとしたが、イエスの霊がそれを許さなかった。⁸それで、ミシア地方を通ってトロアスに下った。⁹その夜、パウロは幻を見た。その中で一人のマケドニア人が立って、「マケドニア州に渡って来て、わたしたちを助けてください」と言っ、パウロに願った。¹⁰パウロがこの幻を見たとき、わたしたちはすぐにマケドニアへ向けて出発することにした。マケドニア人に福音を告知知らせるために、神がわたしたちを召されているのだと、確信するに至ったからである。

フィリピで

¹¹わたしたちはトロアスから船出してサモトラケ島に直航し、翌日ネアポリスの港に着き、¹²そこから、マケドニア州第一区の都市で、ローマの植民都市であるフィリピに行った。そして、この町に数日間滞在した。¹³安息日に町の門を出て、祈りの場所があると思われる川岸に行った。そして、わたしたちもそこに座って、集まっていた婦人たちに話をした。¹⁴ティアティラ市出身の紫布を商う人で、神をあがめるリディアという婦人も話を聞いていたが、主が彼女の心を開かれたので、彼女はパウロの話を注意深く聞いた。¹⁵そして、彼女も家族の者も洗礼を受けたが、そのとき、「私が主を信じる者だ」とお思いでしたら、どうぞ、私の家に来てお泊まりください」と言っ、わたしたちを招待し、無理に承知させた。

パウロたち、投獄される

¹⁶わたしたちは、祈りの場所に行く途中、占いの霊に取りつかれている女奴隷に出会った。この女は、占いをして主人たちに多くの利益を得させてい

た。17彼女は、パウロやわたしたちの後ろについて来てこう叫ぶのであった。「この人たちは、いと高き神の 僕 で、皆さんに救いの道を宣べ伝えているのです。」
18彼女がこんなことを幾日も繰り返すので、パウロはたまりかねて振り向き、その霊に言った。「イエス・キリストの名によって命じる。この 女 から出て行け。」
すると即座に、霊が彼女から出て行った。19ところが、この 女 の主人たちは、金もうけの望みがなくなってしまったことを知り、パウロとシラスを捕らえ、役人に引き渡すために広場へ引き立てて行った。20そして、二人を高官たちに引き渡してこう言った。「この者たちはユダヤ人で、わたしたちの町を混乱させてお

ります。21ローマ帝国の市民であるわたしたちが受け入れることも、実行することも許されない風 習 を宣伝しております。」22群 衆 も一緒になって二人を責め立てたので、高官たちは二人の衣服をはぎ取り、「鞭で打て」と命じた。23そして、何度も鞭で打ってから二人を牢に投げ込み、看守に厳 重に見張るように命じた。24この命令を受けた看守は、二人をいちばん奥の牢に入れて、足には木の足枷をはめておいた。

25真夜中ごろ、パウロとシラスが賛美の歌をうたって神に祈っていると、ほかの 囚 人たちはこれに聞き入っていた。26突然、大地震が起こり、牢の土台が揺れ動いた。たちまち牢の戸がみな開き、すべての 囚 人の 鎖 も外れてしまった。27目を覚ました看守は、牢の戸が開いているのを見て、囚 人たちが逃げしまつたと思い込み、剣を抜いて自殺しようとした。28パウロは大声で叫んだ。「自害してはいけない。わたしたちは皆ここにいる。」29看守は、明かりを持って来させて牢の中に飛び込み、パウロとシラスの前に震えながらひれ伏し、30二人を外へ連れ出して言った。「先生方、救われるためにはどうすべきでしょうか。」31二人は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」32そして、看守とその家の人たちが全部に主の言葉を語った。33まだ真夜中であったが、看守は二人を連れて行って打ち傷を洗ってやり、自分も家族の者も皆すぐに 洗礼 を受けた。34この後、二人を自分の家に案内して 食 事を出し、神を信じる者になったことを家族ともども 喜 んだ。

35朝になると、高官たちは下役たちを差し向けて、「あの者どもを 釈 放せよ」と言わせた。36それで、看守はパウロにこの言葉を伝えた。「高官たちが、あなた

がたを 釈 放するようにと、言ってよしました。さあ、牢から出て、安心して行きなさい。」37ところが、パウロは下役たちに言った。「高官たちは、ローマ帝国の市民権を持つわたしたちを、裁判にもかけずに公 衆 の 面 前 で鞭打ってから投獄したのに、今ひそかに 釈 放しようとするのか。いや、それはいけな

い。高官たちが自分でここへ来て、わたしたちを連れ出すべきだ。」38下役たちは、この言葉を高官たちに報告した。高官たちは、二人がローマ帝国の市民権を持つ者であると聞いて恐れ、39出向いて来てわびを言い、二人を牢から連れ出し、町から出て行くように頼んだ。40牢を出た二人は、リディアの家に行つて 兄 弟たちに会い、彼らを励ましてから 出 発した。

テサロニケでの騒動

17

1パウロとシラスは、アンフィポリスとアポロニアを経てテサロニケに着いた。ここにはユダヤ人の会堂があった。2パウロはいつものように、ユダヤ人の集まってい

るところへ入って行き、三回の安息日にわたって聖書を引用して論じ合い、3「メシアは 必 ず 苦しみを受け、死者の中から復活することになっていた」と、また、「このメシアはわたしが伝えているイエスである」と説明し、論 証 した。4それで、彼らのうちのある者は信じて、パウロとシラスに 従 った。神をあがめる多くのギリシア人や、かなりの数のおもだった婦人たちも同じように二人に 従 った。5しかし、ユダヤ人たちはそれをねたみ、広場にたむろしているならず者を何人か抱き込んで暴動を起こし、町を混乱させ、ヤソンの家を襲い、二人を民 衆 の前に引き出そうとして搜した。6しかし、二人が見つからなかったので、ヤソンと数人の 兄 弟を町の当 局 者たちのところへ引き立てて行って、大声で言った。「世界 中 を騒がせてきた連 中 が、ここにも来ています。7ヤソンは彼らをかくまっているのです。彼らは皇帝の 勅 令に背いて、『イエスという別の王がいる』と言っています。」8これを聞いた群 衆 と町の当 局 者たちは動揺した。9当 局 者たちは、ヤソンやほかの者たちから保 証 金を取ったうえで彼らを 釈 放した。

ベレアで

10兄 弟たちは、直ちに夜のうちにパウロとシラスをベレアへ送り出した。二人はそこへ到 着 すると、ユダヤ人の会堂に入った。11このユダヤ人たちは、テサロニケのユダヤ人よりも素直で、非 常 に熱心に御言葉を受け入れ、そのとおりかどうか、毎日、聖書を調べていた。12そこで、そのうちの多くの人が信じ、ギリシア人の上 流 婦人や 男 たちも少なからず信仰に入

し せかい なか ばんぶつ つく かみ てんち しゆ て つく しんでん
んでいるもの、それをわたしはお知らせしましょう。²⁴世界とその中の万物とを造られた神が、その方です。この神は天地の主ですから、手で造った神殿などにはお住みになりません。²⁵また、何か足りないことでもあるかのように、人の手によって仕えてもらう必要ありません。すべての人に 命 と 息 と、その他すべてのものを与えてくださるのは、この神だからです。²⁶神は、一人の人からすべての民族を造り出して、地 上 の至るところに住ませ、季節を決め、彼らの居 住 地の 境 界をお決めになりました。²⁷これは、人に神を求めさせるためであり、また、彼らが探し求めさえすれば、神を見いだすことができるようにということなのです。実際、神はわたしたち一人一人から遠く 離れてはおられません。²⁸皆さんのうちのある詩人たちも、

れ かみ なか い うご そんざい
えらは神の中に生き、動き、存在する』

れ しそん
えらもその子孫である』と、

い かみ しそん かみ かた にんげん わざ かんが つく きん ぎん いし ぞう おな かんが
言っているとおりです。²⁹わたしたちは神の子孫なのですから、神である方を、人間の技や 考 え て 造 っ た 金、銀、石などの像と同じものと 考 え て は な り ま せ ん。³⁰さて、神はこのような無知な時代を、大目に見てくださいましたが、今はどこにいる人でも皆悔い 改 め る ようにと、命じておられます。³¹それは、先にお選 びになった一人の方によって、この世を正しく 裁く日をお決めになったからです。神はこの方を死者の中から復活させて、すべての人にそのことの確 証 をお与えになったのです。」

ししや ふつかつ き もの わら もの き い
³²死者の復活ということを聞くと、ある者はあざ笑い、ある者は、「それについては、いずれまた聞かせてもらうことにしよう」と言った。³³それで、パウロはそ ば た さ かれ い しんこう はい もの なんにん なか ぎいん ふじん た
の場を立ち去った。³⁴しかし、彼について行って信仰に入った者も、何人かいた。その中にはアレオパゴスの議員ディオニシオ、またダマリスという婦人やその他 の人々もいた。

コリントで

18

のち さ い しゆうしゆうつしん じん つま で あ てい ぜん
¹その後、パウロはアテネを去ってコリントへ行った。²ここで、ポントス 州 出 身のアキラというユダヤ人とその妻プリスキラに出会った。クラウドィウス帝が全 ュダヤ人をローマから退去させるようにと命 令 したので、最近イタリアから来たのである。パウロはこの二人を訪ね、³職 業 が同じであつたので、彼らの家に 住み込んで、一緒に仕事をした。その 職 業 はテント造りであつた。⁴パウロは安息日ごとに会堂で論じ、ユダヤ人やギリシア人の説得に努めていた。

しゆう く みことば かた せんねん じん たい ちからづよ あか
⁵シラスとテモテがマケドニア 州 からやって来ると、パウロは御言葉を語ることに専念し、ユダヤ人に対してメシアはイエスであると 力 強く証しした。⁶しか かれ はんこう くちぎたな ふく ちり ふ ばら い ち あたま ふ せきにん
し、彼らが反抗し、口 汚 くののしつたので、パウロは服の塵を振り払って言った。「あなたたちの血は、あなたたちの 頭 に降りかかれ。わたしには責任がな い。今後、わたしは異邦人の方へ行く。」「パウロはそこを去り、神をあがめるティティオ・ユストという人の家に移った。彼の家は会堂の 隣 にあつた。⁷会堂 ちょう いかつ しゆう しん おお ひとびと ことば き しん 〔バプテスマ〕 う よ しゆ
長 の クリスポは、一家をあげて主を信じるようになった。また、コリントの多くの人々も、パウロの言葉聞いて信じ、 洗 礼 を受けた。⁸ある夜のこと、主 は 幻 の中でパウロにこう言われた。「恐れるな。語り続けよ。黙っているな。⁹わたしがあなたと共にいる。だから、あなたを襲って危害を加える者はない。 この町には、わたしの民が大勢いるからだ。」¹⁰パウロは一年六か月の 間 ここにとどまって、人々に神の言葉を教えた。

いはん はん かい ひとびと そのか い はな はじ じん む い
¹¹ガリオンがアカイア 州 の地方総督であつたときのことである。ユダヤ人たちが一団となつてパウロを襲い、法廷に引き立てて行って、¹²「この 男 は、律法 に違反するようなしかたで神をあがめるようにと、人々を 唆 しております」と言った。¹³パウロが話し 始めようとしたとき、ガリオンはユダヤ人に向かって言っ た。「ユダヤ人諸君、これが不正な行為とか悪質な犯罪とかであるならば、当然諸君の 訴 えを受理するが、¹⁴問題が教えとか名 称 とか諸君の律法に關するものならば、自分たちで解決するがよい。わたしは、そんなことの審判者になるつもりはない。」¹⁵そして、彼らを法廷から追い出した。¹⁶すると、群 衆 は会 堂 長 のソステネを捕まえて、法廷の前で殴りつけた。しかし、ガリオンはそれに 全 く 心 を留めなかつた。

パウロ、アンティオキアに戻る

あいだ たいざい きやうだい わか つ ふね しゆう たびだ どうこう
¹⁷パウロは、なおしばらくの 間 ここに滞在したが、やがて 兄 弟たちに別れを告げて、船でシリア 州 へ旅立った。プリスキラとアキラも同行した。パウロは せいがん た せいかく おし 〔バプテスマ〕 し かいどう だいたん おし はじ き じん ろん あ
誓願を立てていたので、ケンクレアイで髪を切った。¹⁸一行がエフェソに到 着 したとき、パウロは二人をそこに残して自分だけ会堂に入り、ユダヤ人と論じ合 った。¹⁹人々はもうしばらく滞 在するように願 ったが、パウロはそれを 断 り、²⁰「神の御 心 ならば、また戻って来ます」と言って別れを告げ、エフェソから船出 した。²¹カイサリアに到 着 して、教 会 に挨拶をするためにエルサレムへ上り、アンティオキアに下った。²²パウロはしばらくここで過ごした後、また旅に出て、 ガラテヤやフリギアの地方を次々に 巡 回し、すべての弟子たちを 力 づけた。

アポロ、エフェソで宣教する

う じん せいしよ くわ ゆうべんか き かれ しゆ みち う い
²³さて、アレクサンドリア生まれのユダヤ人で、聖書に詳しいアポロという雄弁家が、エフェソに来た。²⁴彼は主の道を受け入れており、イエスのことについて ねつしん かた せいかく おし 〔バプテスマ〕 し かいどう だいたん おし はじ き かんれ
熱心に語り、正確に教えていたが、ヨハネの 洗 礼 し しか知らなかつた。²⁵このアポロが会堂で大胆に教え始めた。これを聞いたプリスキラとアキラは、彼を まね せいかく かみ みち せつめい しゆう わた のぞ きやうだい はげ ち でし
招いて、もっと正確に神の道を説明した。²⁶それから、アポロがアカイア 州 に渡ることを望んでいたので、兄 弟たちはアポロを励まし、かの地の弟子たちに かれ かんげい てがみ か つ すで めぐ しん ひとびと おお たす かれ せいしよ ちと
彼を歓迎してくれるようにと手紙を書いた。アポロはそこへ着くと、既に恵みによって信じていた人々を大いに助けた。²⁷彼が聖書に基づいて、メシアはイエ スであると公然と立 証 し、激しい語 調 でユダヤ人たちを説き伏せたからである。

19

「アポロがコリントにいたときのことである。パウロは、内陸の地方を通してエフェソに下って来て、何人かの弟子に出会い、¹彼らに、「信仰に入ったとき、聖霊を受けましたか」と言うと、彼らは、「いいえ、聖霊があるかどうか、聞いたこともありません」と言った。²パウロが、「それなら、どんな洗礼を受けたのですか」と言うと、「ヨハネの洗礼です」と言った。⁴そこで、パウロは言った。「ヨハネは、自分の後から来る方、つまりイエスを信じるようにと、民に告げて、悔い改めの洗礼を授けたのです。」⁵人々はこれ聞いて主イエスの名によって洗礼を受けた。⁶パウロが彼らの上に手を置くと、聖霊が降り、その人たちは異言を話したり、預言をしたりした。⁷この人たちは、皆で十二人ほどであった。

⁸パウロは会堂に入って、三か月間、神の国のことについて大胆に論じ、人々を説得しようとした。⁹しかしある者たちが、かたくなで信じようとはせず、会衆の前でこの道を非難したので、パウロは彼らから離れ、弟子たちをも退かせ、ティラノという人の講堂で毎日論じていた。¹⁰このようなことが二年も続いたので、アジア州に住む者は、ユダヤ人であれギリシア人であれ、だれもが主の言葉を聞くことになった。

ユダヤ人の祈禱師たち

¹¹神は、パウロの手を通して目覚ましい奇跡を行われた。¹²彼が身に着けていた手ぬぐいや前掛けを持って行って病人に当たると、病気はいやされ、悪霊どもも出て行くほどであった。¹³ところが、各地を巡り歩くユダヤ人の祈禱師たちの中にも、悪霊どもに取りつかれている人々に向かい、試みに、主イエスの名を唱えて、「パウロが宣べ伝えているイエスによって、お前たちに命じる」と言う者があった。¹⁴ユダヤ人の祭司長スケワという者の七人の息子たちがこんなことをしていた。¹⁵悪霊は彼らに言い返した。「イエスのことは知っている。パウロのこともよく知っている。だが、いったいお前たちは何者だ。」¹⁶そして、悪霊に取りつかれている男が、この祈禱師たちに飛びかかって押さえつけ、ひどい目に遭わせたので、彼らは裸にされ、傷つけられて、その家から逃げ出した。¹⁷このことがエフェソに住むユダヤ人やギリシア人すべてに知れ渡ったので、人々は皆恐れを抱き、主イエスの名は大いにあがめられるようになった。¹⁸信仰に入った大勢の人が来て、自分たちの悪行をはっきり告白した。¹⁹また、魔術を行っていた多くの者も、その書物を持って来て、皆の前で焼き捨てた。その値段を見積もってみると、銀貨五万枚にもなった。²⁰このようにして、主の言葉はますます勢いよく広まり、力を増していった。

エフェソでの騒動

²¹このようなことがあった後、パウロは、マケドニア州とアカイア州を通りエルサレムに行こうと決心し、「わたしはそこへ行った後、ローマも見なくてはならない」と言った。²²そして、自分に仕えている者の中から、テモテとエラストの二人をマケドニア州に送り出し、彼自身はしばらくアジア州にとどまっていた。

²³そのころ、この道のことでただならぬ騒動が起こった。²⁴そのいきさつは次のとおりである。デメトリオという銀細工師が、アルテミスの神殿の模型を銀で造り、職人たちにかなり利益を得させていた。²⁵彼は、この職人たちや同じような仕事をしている者たちを集めて言った。「諸君、御承知のように、この仕事のお陰で、我々はまだもうけているのだが、²⁶諸君が見聞きしているとおり、あのパウロは『手で造ったものなどは神ではない』と言って、エフェソばかりでなくアジア州のほとんど全地域で、多くの人を説き伏せ、たぶらかしている。²⁷これでは、我々の仕事の評判が悪くなってしまうおそれがあるばかりでなく、偉大な女神アルテミスの神殿もないがしろにされ、アジア州全体、全世界があがめるこの女神の御威光さえも失われてしまうだろう。」

²⁸これを聞いた人々はひどく腹を立て、「エフェソ人のアルテミスは偉い方」と呼びだした。²⁹そして、町中が混乱してしまった。彼らは、パウロの同行者であるマケドニア人ガイオとアリストルコを捕らえ、一団となって野外劇場になだれ込んだ。³⁰パウロは群衆の中へ入っていきこうとしたが、弟子たちはそうさせなかった。³¹他方、パウロの友人でアジア州の祭儀をつかさどる高官たちも、パウロに使いをやって、劇場に入らないようにと頼んだ。³²さて、群衆はあれやこれやとわめき立てた。集会は混乱するだけで、大多数の者は何のために集まったのかさえ分からなかった。³³そのとき、ユダヤ人が前へ押し出したアレクサンドロという男に、群衆の中のある者たちが話すように促したので、彼は手で制し、群衆に向かって弁明しようとした。³⁴しかし、彼がユダヤ人であると知った群衆は一斉に、「エフェソ人のアルテミスは偉い方」と二時間ほども叫び続けた。³⁵そこで、町の書記官が群衆をなだめて言った。「エフェソの諸君、エフェソの町が、偉大なアルテミスの神殿と天から降って来た御神体との守り役であることを、知らない者はないのだ。³⁶これを否定することはできないのだから、静かにしなさい。決して無謀なことをしてはならない。³⁷諸君がここへ連れて来た者たちは、神殿を荒らしたのでも、我々の女神を冒瀆したのでもない。³⁸デメトリオと仲間、職人が、だれかを訴え出たいのなら、決められた日に法廷は開かれるし、地方総督もいることだから、相手を訴え出なさい。³⁹それ以外のことで更に要求があるなら、正式な会議で解決してもらうべきである。⁴⁰本日のこの事態に関して、我々は暴動の罪に問われるおそれがある。この無秩序な集会のことで、何一つ弁解する理由はないからだ。」こう言って、書記官は集会を解散させた。

パウロ、マケドニア州とギリシアに行く

20

¹この騒動が収まった後、パウロは弟子たちを呼び集めて励まし、別れを告げてからマケドニア州へと出発した。²そして、この地方を巡り歩き、言葉を尽くして人々を励ましながら、ギリシアに来て、³そこで三か月を過ごした。パウロは、シリア州に向かって船出しようとしていたとき、彼に対するユダヤ人の陰謀があったので、マケドニア州を通して帰ることにした。⁴同行した者は、ピロの子でベレア出身のソパトロ、テサロニケのアリストルコとセクンド、デルベのガイオ、テモテ、それにアジア州出身のティキコとトロフィモであった。⁵この人たちは、先に出発してトロアスでわたしたちを待っていたが、⁶わたしたちは、じょうきさいのちふなでいつかきかれおあなのかかんたいざい除酵祭の後フィリピから船出し、五日でトロアスに来て彼らと落ち合い、七日間そこに滞在した。

パウロ、若者を生き返らせる

7 週の初めの日、わたしたちがパンを裂くために集まっていると、パウロは翌日出発する予定で人々に話をしたが、その話は夜中まで続いた。8 わたしたちが集まっていた階上の部屋には、たくさんのともし火がついていた。9 エウティコという青年が、窓に腰を掛けていたが、パウロの話が長々と続いたので、ひどく眠気を催し、眠りこけて三階から下に落ちてしまった。起こしてみると、もう死んでいた。10 パウロは降りて行き、彼の上にかがみ込み、抱きかかえて言った。「騒ぐな。まだ生きている。」11 そして、また上に行つて、パンを裂いて食べ、夜明けまで長い間話し続けてから出発した。12 人々は生き返った青年を連れて帰り、大いに慰められた。

トロアスからミレトスまでの船旅

13 さて、わたしたちは先に船に乗り込み、アソスに向けて船出した。パウロをそこから乗船させる予定であった。これは、パウロ自身が徒歩で旅行するつもりで、そう指示しておいたからである。14 アソスでパウロと落ち合ったので、わたしたちは彼を船に乗せてミティレネに着いた。15 翌日、そこを船出し、キオス島の沖を過ぎ、その次の日サモス島に寄港し、更にその翌日にはミレトスに到着した。16 パウロは、アジア州で時を費やさないように、エフェソには寄らないで航海することに決めていたからである。できれば五旬祭にはエルサレムに着いていたかったので、旅を急いだのである。

エフェソの長老たちに別れを告げる

17 パウロはミレトスからエフェソに人をやつて、教会の長老たちを呼び寄せた。18 長老たちが集まつて来たとき、パウロはこう話した。「アジア州に来た最初の日以来、わたしがあなたがたと共にどのように過ごしてきたかは、よくご存じです。19 すなわち、自分を全く取るに足りない者と思い、涙を流しながら、また、ユダヤ人の数々の陰謀によってこの身にふりかかつてきた試練に遭いながらも、主にお仕えしてきました。20 役に立つことは一つ残らず、公衆の面前でも方々の家でも、あなたがたに伝え、また教えてきました。21 神に対する悔い改めと、わたしたちの主イエスに対する信仰とを、ユダヤ人にもギリシア人にも力強く証してきたのです。22 そして今、わたしは、`霊に促されてエルサレムに行きます。そこでどんなことがこの身に起こるか、何も分かりません。23 ただ、投獄と苦難とがわたしを待ち受けているということだけは、聖霊がどこの町でもはっきり告げてくださっています。24 しかし、自分の決められた道を走りとおし、また、主イエスからいただいた、神の恵みの福音を力強く証するという任務を果たすことができさえすれば、この命すら決して惜しいとは思いません。

25 そして今、あなたがたが皆もう二度とわたしの顔を見ることがないとわたしには分かっています。わたしは、あなたがたの間を巡回して御国を宣べ伝えたのです。26 だから、特に今日はっきり言います。だれの血についても、わたしには責任がありません。27 わたしは、神の御計画をすべて、ひるむことなくあなたがたに伝えたからです。28 どうか、あなたがた自身と群れ全体とに気を配ってください。聖霊は、神が御子の血によって御自分のものとなさった神の教会の世話をさせるために、あなたがたをこの群れの監督者に任命なさったのです。29 わたしが去つた後に、残忍な狼どもがあなたがたのところへ入り込んで来て群れを荒らすことが、わたしには分かっています。30 また、あなたがた自身の中からも、邪説を唱えて弟子たちを従わせようとする者が現れます。31 だから、わたしが三年間、あなたがた一人一人に夜も昼も涙を流して教えてきたことを思い起こして、目を覚ましていなさい。32 そして今、神とその恵みの言葉とにあなたがたをゆだねます。この言葉は、あなたがたを造り上げ、聖なる者とされたすべての人々と共に恵みを受け継がせることができるのです。33 わたしは、他人の金銀や衣服をむさぼったことはありません。34 ご存じのとおり、わたしはこの手で、わたし自身の生活のためにも、共にいた人々のためにも働いたのです。35 あなたがたもこのように働いて弱い者を助けるように、また、主イエス御自身が『受けるよりは与える方が幸いである』と言われた言葉を思い出すようにと、わたしはいつも身をもって示してきました。」

36 このように話してから、パウロは皆と一緒にひざまずいて祈った。37 人々は皆激しく泣き、パウロの首を抱いて接吻した。38 特に、自分の顔をもう二度と見ることはあるまいとパウロが言ったので、非常に悲しんだ。人々はパウロを船まで見送りに行つた。

パウロ、エルサレムへ行く

21

39 わたしたちは人々に別れを告げて船出し、コス島に直航した。翌日ロドス島に着き、そこからパタラに渡り、40 フェニキアに行く船を見つけたので、それに乗つて出発した。41 やがてキプロス島が見えてきたが、それを左にして通り過ぎ、シリア州に向かって船旅を続けてティルス港に着いた。ここで船は、荷物をりくあ陸揚げすることになっていたのである。42 わたしたちは弟子たちを探し出して、そこに七日間泊まつた。彼らは`霊に動かされ、エルサレムへ行かないようにと、パウロに繰り返して言った。43 しかし、滞在期間が過ぎたとき、わたしたちはそこを去つて旅を続けることにした。彼らは皆、妻や子供を連れて、町外れまで見送りに来てくれた。そして、共に浜辺にひざまずいて祈り、44 互いに別れの挨拶を交わし、わたしたちは船に乗り込み、彼らは自分の家に戻つて行つた。

わたしたちは、ティルスから航海を続けてブトレマイスに着き、兄弟たちに挨拶して、彼らのところで一日を過ごした。⁸翌日そこをたつてカイサリアに赴き、例の七人の一人である福音宣教師フィリポの家に行き、そこに泊まった。⁹この人には預言をする四人の未婚の娘がいた。¹⁰幾日か滞在していたとき、ユダヤからアガボという預言する者が下つて来た。¹¹そして、わたしたちのところに来て、パウロの帯を取り、それで自分の手足を縛つて言った。「聖霊がこうお告げになっている。『エルサレムでユダヤ人は、この帯の持ち主をこのように縛つて異邦人の手に引き渡す。』」¹²わたしたちはこれを聞き、土地の人と一緒に なつて、エルサレムへは上らないようにと、パウロにしきりに頼んだ。¹³そのとき、パウロは答えた。「泣いたり、わたしの心をくじいたり、いったいこれはどういうことですか。主イエスの名のためならば、エルサレムで縛られることばかりか死ぬことさえも、わたしは覚悟しているのです。」¹⁴パウロがわたしたちの勧めを聞き入れようとしないので、わたしたちは、「主の御心が行われますように」と言つて、口をつぐんだ。¹⁵数日たつて、わたしたちは旅の準備をしてエルサレムに上つた。¹⁶カイサリアの弟子たちも数人同行して、わたしたちがムナソンという人の家に泊まれるように案内してくれた。ムナソンは、キプロス島の出身で、ずっと以前から弟子であつた。

パウロ、ヤコブを訪ねる

わたしたちがエルサレムに着くと、兄弟たちは喜んで迎えてくれた。¹⁸翌日、パウロはわたしたちを連れてヤコブを訪ねたが、そこには長老が皆集まつていた。¹⁹パウロは挨拶を済ませてから、自分の奉仕を通して神が異邦人の間で行われたことを、詳しく説明した。²⁰これを聞いて、人々は皆神を賛美し、パウロに言った。「兄弟よ、ご存じのように、幾万人ものユダヤ人が信者になつて、皆熱心に律法を守っています。²¹この人たちがあなたについて聞かされているところによると、あなたは異邦人の間にいる全ユダヤ人に対して、『子供に割礼を施すな。慣習に従うな』と言つて、モーセから離れるように教えているとのことですよ。²²いったい、どうしたらよいでしょうか。彼らはあなたの来られたことをきつと耳にします。²³だから、わたしたちの言うとおりにしてください。わたしたちの中に誓願を立てた者が四人います。²⁴この人たちを連れて行つて一緒に身を清めてもらい、彼らのために頭をそる費用を出してください。そうすれば、あなたについて聞かされていることが根も葉もなく、あなたは律法を守つて正しく生活している、ということがみんなに分かります。²⁵また、異邦人で信者になつた人たちについては、わたしたちは既に手紙を書き送りました。それは、偶像に献げた肉と、血と、絞め殺した動物の肉とを口にしないように、また、みだらな行いを避けるようにという決定です。」²⁶そこで、パウロはその四人を連れて行つて、翌日一緒に清めの式を受けて神殿に入り、いつ清めの期間が終わつて、それぞれのために供え物を献げることができるかを告げた。

パウロ、神殿の境内で逮捕される

七日の期間が終わろうとしていたとき、アジア州から来たユダヤ人たちが神殿の境内でパウロを見つけ、全群衆を扇動して彼を捕らえ、²⁸こう叫んだ。「イスラエルの人たち、手伝つてくれ。この男は、民と律法とこの場所を無視することを、至るところでだれにでも教えている。その上、ギリシア人を境内に連れ込んで、この聖なる場所を汚してしまつた。」²⁹彼らは、エフェソ出身のトロフィモが前に都でパウロと一緒にいたのを見かけたので、パウロが彼を境内に連れ込んだのだと思つたからである。³⁰それで、都全体は大騒ぎになり、民衆は駆け寄つて来て、パウロを捕らえ、境内から引きずり出した。そして、門はどれもすぐに閉ざされた。³¹彼らがパウロを殺そうとしていたとき、エルサレム中が混乱状態に陥つていゝという報告が、守備大隊の千人隊長のもとにとど届いた。³²千人隊長は直ちに兵士と百人隊長を率いて、その場に駆けつけた。群衆は千人隊長と兵士を見ると、パウロを殴るのをやめた。³³千人隊長は近寄つてパウロを捕らえ、二本の鎖で縛るように命じた。そして、パウロが何者であるのか、また、何をしたのかと尋ねた。³⁴しかし、群衆はあれやこれやと叫び立てていた。千人隊長は、騒々しくて真相をつかむことができないので、パウロを兵営に連れて行くように命じた。³⁵パウロが階段にさしかかつたとき、群衆の暴行を避けるために、兵士たちは彼を担いで行かなければならなかつた。³⁶大勢の民衆が、「その男を殺してしまえ」と叫びながらついて来たからである。

パウロ、弁明する

³⁷パウロは兵営の中に連れて行かれそうになつたとき、「ひと言お話してもよいでしょうか」と千人隊長に言つた。すると、千人隊長が尋ねた。「ギリシア語が話せるのか。³⁸それならお前は、最近反乱を起こし、四千人の暗殺者を引き連れて荒野へ行つた、あのエジプト人ではないのか。」³⁹パウロは言つた。「わたしは確かにユダヤ人です。キリキヤ州のれつきとした町、タルソスの市民です。どうか、この人たちに話をさせてください。」⁴⁰千人隊長が許可したので、パウロは階段の上に立ち、民衆を手で制した。すっかり静かになつたとき、パウロはヘブライ語で話し始めた。

22「兄弟であり父である皆さん、これから申し上げる弁明を聞いてください。」²パウロがヘブライ語で話すのを聞いて、人々はますます静かになつた。パウロは言つた。³「わたしは、キリキヤ州のタルソスで生まれたユダヤ人です。そして、この都で育ち、ガマリエルのもとで先祖の律法について厳しい教育を受け、今日の皆さんと同じように、熱心に神に仕えていました。⁴わたしはこの道を迫害し、男女を問わず縛り上げて獄に投じ、殺すことさえしたのです。⁵このことについては、大祭司も長老会全体も、わたしのために証言してくれます。実は、この人たちからダマスコにいる同志にあてた手紙までもらい、その地に

パウロ、自分の回心を話す

(使徒9 1—19・26 12—18)

「旅を続けてダマスコに近づいたときのこと、真昼ごろ、突然、天から強い光がわたしの周りを照らしました。⁷わたしは地面に倒れ、『サウル、サウル、な

ぜ、わたしを迫害するの か』と言う声を聞いたのです。『主よ、あなたはどなたですか』と尋ねると、『わたしは、あなたが迫害しているナザレのイエスである』と答えがありました。『一緒にいた人々は、その光は見たのですが、わたしに話しかけた方の声は聞きませんでした。』『主よ、どうしたらよいでしょうか』と申しますと、主は、『立ち上がってダマスコへ行け。しなければならぬことは、すべてそこで知らされる』と言われました。『わたしは、その光の輝きのために目が見えなくなっていましたので、一緒にいた人たちに手を引かれて、ダマスコに入りました。』

ダマスコにはアナニアという人がいました。律法に従って生活する信仰深い人で、そこに住んでいるすべてのユダヤ人の中で評判の良い人でした。この人がわたしのところに来て、そばに立ってこう言いました。『兄弟サウル、元どおり見えるようになりなさい。』するとそのとき、わたしはその人が見えるようになったのです。『アナニアは言いました。『わたしたちの先祖の神が、あなたをお選びになった。それは、御心を悟らせ、あの正しい方に会わせて、その口からの声を聞かせるためです。』あなたは、見聞きしたことについて、すべての人に対してその方の証人となる者だからです。』今、何をためらっているのです。立ち上がりなさい。その方の名を唱え、洗礼を受けて罪を洗い清めなさい。』

パウロ、異邦人のための宣教師となる

さて、わたしはエルサレムに帰って来て、神殿で祈っていたとき、我を忘れた状態になり、主にお会いしたのです。主は言われました。『急げ。すぐエルサレムから出て行け。わたしについてあなたが証しすることを、人々が受け入れないからである。』わたしは申しました。『主よ、わたしが会堂から会堂へと回って、あなたを信じる者を投獄したり、鞭で打ちたたいたりしていたことを、この人々は知っています。』また、あなたの証人ステファノの血が流されたとき、わたしもその場にいてそれに賛成し、彼を殺す者たちの上着の番もしたのです。』すると、主は言われました。『行け。わたしがあなたを遠く異邦人のために遣わすのだ。』

パウロと千人隊長

パウロの話をごきまで聞いた人々は、声を張り上げて言った。「こんな男は、地上から除いてしまえ。生かしてはおけない。」彼らがわめき立てて上着を投げつけ、砂埃を空中にまき散らすほどだったので、千人隊長はパウロを兵営に入れるように命じ、人々がどうしてこれほどパウロに対してわめき立てるのかを知るため、鞭で打ちたたいて調べるようにと言った。パウロを鞭で打つため、その両手を広げて縛ると、パウロはそばに立っていた百人隊長に言った。「ローマ帝国の市民権を持つ者を、裁判にかけずに鞭で打つてもよいのですか。」これを聞いた百人隊長は、千人隊長のところへ行って報告した。「どうなさいますか。あの男はローマ帝国の市民です。」千人隊長はパウロのところへ来て言った。「あなたはローマ帝国の市民なのか。わたしに言いなさい。」パウロは、「そうです」と言った。千人隊長が、「わたしは、多額の金を出してこの市民権を得たのだ」と言うと、パウロは、「わたしは生まれながらローマ帝国の市民です」と言った。そこで、パウロを取り調べようとしていた者たちは、直ちに手を引き、千人隊長もパウロがローマ帝国の市民であること、そして、彼を縛ってしまったことを知って恐ろしくなった。

パウロ、最高法院で取り調べを受ける

翌日、千人隊長は、なぜパウロがユダヤ人から訴えられているのか、確かなことを知りたいと思い、彼の鎖を外した。そして、祭司長たちと最高法院全体の召集を命じ、パウロを連れ出して彼らの前に立たせた。

そこで、パウロは最高法院の議員たちを見つめて言った。「兄弟たち、わたしは今日に至るまで、あくまでも良心に従って神の前で生きてきました。」すると、大祭司アナニアは、パウロの近くに立っていた者たちに、彼の口を打つように命じた。パウロは大祭司に向かって言った。「白く塗った壁よ、神があなたをお打ちになる。あなたは、律法に従ってわたしを裁くためにそこに座つていながら、律法に背いて、わたしを打て、と命令するのですか。」近くに立っていた者たちが、「神の大祭司をののしる気か」と言った。パウロは言った。「兄弟たち、その人が大祭司だとは知りませんでした。確かに『あなたの民の指導者を悪く言うな』と書かれています。」

パウロは、議員の一部がサドカイ派、一部がファリサイ派であることを知って、議場で声を高めて言った。「兄弟たち、わたしは生まれながらのファリサイ派です。死者が復活するという望みを抱いていることで、わたしは裁判にかけられているのです。」パウロがこう言ったので、ファリサイ派とサドカイ派との間に論争が生じ、最高法院は分裂した。サドカイ派は復活も天使も霊もないと言い、ファリサイ派はこのいずれをも認めているからである。そこで、騒ぎは大きくなった。ファリサイ派の数人の律法学者が立ち上がって激しく論じ、「この人には何の悪い点も見いだせない。霊か天使かが彼に話しかけたのだろうか」と言った。こうして、論争が激しくなったので、千人隊長は、パウロが彼らに引き裂かれてしまうのではないかと心配し、兵士たちに、下りていった人々の中からパウロを力ずくで助け出し、兵営に連れて行くように命じた。

その夜、主はパウロのそばに立って言われた。「勇気を出せ。エルサレムでわたしのことを力強く証したように、ローマでも証しをしなければならない。」

パウロ暗殺の陰謀

夜が明けると、ユダヤ人たちは陰謀をたくらみ、パウロを殺すまでは飲み食いしないという誓いを立てた。このたくらみに加わった者は、四十人以上もいた。彼らは、祭司長たちや長老たちのところへ行つて、こう言った。「わたしたちは、パウロを殺すまでは何も食べないと、固く誓いました。ですから今、パウロについてもっと詳しく調べるといふ口実を設けて、彼をあなたがたのところへ連れて来るように、最高法院と組んで千人隊長に願い出てください。わたしたちは、彼がここへ来る前に殺してしまう手はずを整えています。」しかし、この陰謀をパウロの姉妹の子が聞き込み、兵営の中に入って来て、パウロに

し 知らせた。17それで、パウロは 百 人 隊 長 の一人を呼んで言った。「この若者を千人隊 長 のところへ連れて行ってください。何か知らせることがあるそうで す。」18そこで 百 人 隊 長 は、若者を千人隊 長 のもとに連れて行き、こう言った。「囚 人 パウロがわたしを呼んで、この若者をこちらに連れて来るようにと 頼みました。何か話したいことがあるそうです。」19千人隊 長 は、若者の手を取って人のいない 所 へ行き、「知らせたいこととは何か」と尋ねた。20若 者は言 った。「ユダヤ人たちは、パウロのことをもっと詳しく 調べると言う口実で、明日パウロを最 高 法 院 に連れて来るようにと、あなたに願ひ出ることに決めていま す。21どうか、彼らの言いなりにならないでください。彼らのうち四十人以上 が、パウロを殺すまでは飲み食いしなないと誓ひ、陰 謀 をたくらんでいるのです。そし て、今その手はずを 整 えて、御 承 諾 を待っているのです。」22そこで千人隊 長 は、「このことをわたしに知らせたとは、だれにも言うな」と命じて、若 者を 帰した。

パウロ、総督フェリクスのもとへ護送される
23千人隊 長 は 百 人 隊 長 二人を呼び、「今夜九時カイサリアへ 出 発できるように、歩兵二百名、騎兵七十名、補助兵二百名を 準 備せよ」と言った。24ま た、馬を用意し、パウロを乗せて、総 督フェリクスのもとへ無事に護送するように命じ、25次のような内 容の手紙を書いた。26「クラウディウス・リシアが総 督 フェリクス閣下に御挨拶申し上げます。27この者がユダヤ人に捕らえられ、殺されようとしていたのを、わたしは兵士たちを率いて救い出しました。ローマ帝 国 の市民 権を持つ者であることが分かったからです。28そして、告 発されている理由を知ろうとして、最 高 法 院 に連行しました。29ところが、彼が告 発されている のは、ユダヤ人の律法に関する問題であって、死刑や投 獄 に相当する理由はないことが分かりました。30しかし、この者に対する陰 謀 があるという報 告を受け ましたので、直ちに閣下のもとに護送いたします。告 発人たちには、この者に関する件を閣下 に 訴 え出るようにと、命じておきました。」
31さて、歩兵たちは、命 令どおりにパウロを引き取って、夜のうちにアンティパトリスまで連れて行き、32翌日、騎兵たちに護送を任せて兵 営へ戻った。33騎兵 たちはカイサリアに 到 着 すると、手紙を総 督に届け、パウロを引き渡した。34総 督は手紙を読んでから、パウロがどの 州 の 出 身であるかを尋ね、キリキア 州 の 出 身だと分かったと、35「お前を告 発する者たちが到 着 してから、尋 問することにする」と言った。そして、ヘロデの官邸にパウロを 留 置しておくよう に命じた。

パウロ、フェリクスの前で 訴 えられる
24
いつ か のち だいさいし ちょうろうすうめい べんごし もの つ くだ き そうとく うった で よ だ
'五日の後、大祭司アナニアは、長 老 数 名と弁 護 士テルティロという者を連れて下 っ て来 て、総 督にパウロを 訴 え出た。2-3パウロが呼び出されると、テルティ ロは告 発を始めた。「フェリクス閣下、閣下のお陰で、私 どもは 十 分に平和を 享 受しております。また、閣下の御配慮によって、いろいろな改 革がこの 国で進められています。私 どもは、あらゆる面 で、至るところで、このことを認めて 称 賛申し上げ、また 心 から感謝しているしだいです。4さて、これ以 上 御迷惑にならないよう手 短 に申し上げます。御寛容をもってお聞きください。5実は、この 男 は疫 病 のような人間で、世界 中 のユダヤ人の 間 に騒 動 を引き起こしている者、『ナザレ人の分派』の主 謀 者であります。6この 男 は神殿さえも汚 さん じとしたので逮捕いたしました。7閣下御自身でこの者をお 調べくだされば、私 どもの告 発したことがすべてお分かりになるかと存じます。」8他のユダヤ人たちもこの告 発を支持し、そのとおりであると申し立てた。

パウロ、フェリクスの前で弁明する
9総 督が、発言するように合図したので、パウロは答弁した。「私 は、閣下が多年この国民の裁 判をつかさどる方であることを、存じ上げておりますの で、私 自身のことを 喜 んで弁明いたします。10確かめていただければ分かることですが、私 が礼拝のためエルサレムに上 っ てから、まだ十二日しかたつてい ません。11神殿でも会堂でも町の中でも、この 私 がだれかと論 争したり、群 衆を扇 動したりするのを、だれも見た者はありません。12そして彼らは、私 を 告 発している件に関し、閣下に対して何の 証 拠も挙げることができません。13しかしここで、はっきり申し上げます。私 は、彼らが『分派』と呼んでいるこ の道に 従 っ て、先祖の神を礼拝し、また、律法に則 したことと預 言 者の書に書いてあることを、ことごとく 信じています。14更に、正しい者も正しくない者 もやがて復活するという希望を、神に対して抱 えています。この希望は、この人たち自身も同じように抱 えています。15こういうわけで 私 は、神に対して も人に対しても、責められることのない 良 心を絶えず保つように努めています。16さて、私 は、同胞に 救 援金を渡すため、また、供え物を献 げるために、何年ぶりかで戻 ってきました。17私 が清めの式にあ ず かってから、神殿で供え物を献 げているところを、人に見られたのですが、別に群 衆 もいませんし、騒 動 もありませんでした。18ただ、アジア 州 から来た数人のユダヤ人はいました。もし、私 を 訴 えるべき理由があるというのであれば、この人たちこそ閣下 のところに 出 頭して告 発すべきだったのです。20さもなければ、ここにいる人たち自身が、最 高 法 院 に 出 頭していた 私 にどんな不正を見つけたか、今言 う べきです。21彼らの中に立 っ て、『死者の復活』のことで、私 は今日あなたがたの前で裁 判にかけられているのだ』と叫んだだけなのです。」
22フェリクスは、この道についてかなり詳しく知 っ ていたので、「千人隊 長 リシアが下 っ て来るのを待 っ て、あなたたちの申し立てに対して判 決を下すことに する」と言 っ て裁 判を延期した。23そして、パウロを監 禁するように、百 人 隊 長 に命じた。ただし、自由をある程度与 え、友人たちが彼の世話を するのを 妨 げないようにさせた。

パウロ、カイサリアで監禁される
24数日の後、フェリクスはユダヤ人である妻のドルシラと一 緒に来て、パウロを呼び出し、キリスト・イエスへの信 仰について 話 を聞いた。25しかし、パウロが 正義や節 制や来るべき裁きについて話 すと、フェリクスは恐ろしくなり、「今回はこれで帰 っ てよらしい。また適 当な機会に呼び出 すことにする」と言 っ

た。²⁶だが、パウロから金をもらおうとする下 心 もあったので、度々呼び出しては話し合っていた。

²⁷さて、二年たつて、フェリクスの後任者としてボルキウス・フェストウスが赴任したが、フェリクスは、ユダヤ人に気に入られようとして、パウロを監禁したままにしておいた。

パウロ、皇帝に上 訴する

25

¹フェストウスは、総督として 着 任して三日たつてから、カイサリアからエルサレムへ上った。²祭司 長 たちやユダヤ人のおもだった人々は、パウロを 訴 えて、彼をエルサレムへ送り返すよう計らっていただきたいと、フェストウスに頼んだ。途 中 で殺そうと陰謀をたくらんでいたのである。³ところがフェストウスは、パウロはカイサリアで監禁されており、自分も間もなくそこへ帰るつもりであると答え、⁴「だから、その 男 に不都合なところがあるというのなら、あなたたちのうちの有 力 者が、わたしと一緒に下って行つて、告発すればよいではないか」と言つた。

⁵フェストウスは、八日から十日ほど彼らの 間 で過ごしてから、カイサリアへ下り、翌日、裁判の席に着いて、パウロを引き出すように命令した。⁶パウロが 出 廷すると、エルサレムから下つて来たユダヤ人たちが彼を取り囲んで、重い罪 状 をあれこれ言い立てたが、それを立 証 することはできなかった。⁷パウロは、「わたくし じん りつぼう たい しん でん たい こうてい たい なに つみ おか べんめい じん 私 は、ユダヤ人の律法に対しても、神殿に対しても、皇帝に対しても何も罪を犯したことはありません」と弁明した。⁸しかし、フェストウスはユダヤ人に気に入られようとして、パウロに言つた。「お前は、エルサレムに上つて、そこでこれらのことについて、わたしの前で裁判を受けたいと思うか。」⁹パウロは言つた。「 私 は、皇帝の法廷に 出 頭しているのですから、ここで裁判を受けるのが当然です。よくご存じのとおり、 私 はユダヤ人に対して何も悪いことをしていません。」「もし、悪いことをし、何か死罪に当たることをしたのであれば、決して死を 免 れようとは思いません。しかし、この人たちの 訴 えが事実無根なら、だれも 私 を彼らに引き渡すような取り計らいはできません。 私 は皇帝に 上 訴します。」¹²そこで、フェストウスは陪 審 の人々と 協 議してから、「皇帝に 上 訴したのだから、皇帝のもとに 出 頭するように」と答えた。

パウロ、アグリッパ王の前に引き出される

¹³数日たつて、アグリッパ王とベルニケが、フェストウスに敬意を 表 するためにカイサリアに来た。¹⁴彼らが幾日もそこに滞在していたので、フェストウスはパウロの件を王に持ち出して言つた。「ここに、フェリクスが 囚 人として残していた 男 がいます。¹⁵わたしがエルサレムに行ったときに、祭司 長 たちやユダヤ人の 長 老たちがこの 男 を 訴 え出て、有罪の判決を下すように要 求 したのです。¹⁶わたしは彼らに答えました。『被告が告発されたことについて、原告の 面前で弁明する機会も与えられず、引き渡されるのはローマ人の 慣 習 ではない』と。¹⁷それで、彼らが連れ立って当地へ来ましたから、わたしはすぐにその翌日、裁判の席に着き、その 男 を 出 廷させるように命令しました。¹⁸告 発 者 たちは立ち上がりましたが、彼について、わたしが予想していたような罪 状 は何一つ指摘できませんでした。¹⁹パウロと言い 争 っている問題は、彼ら自身の 宗 教 に関することと、死んでしまったイエスとかいう者のことです。このイエスが生きていると、パウロは主 張 しているのです。²⁰わたしは、これらのことの 調 査の方法が分からなかったので、『エルサレムへ行き、そこでこれらの件に関して裁判を受けたくないか』と言いました。²¹しかしパウロは、皇帝陛下の判決を受けるときまで、ここにとどめておいてほしいと願ひ出しましたので、皇帝のもとに護送するまで、彼をとどめておくように命令しました。」²²そこで、アグリッパがフェストウスに、「わたしも、その 男 の言うことを聞いてみたいと思います」と言つた。

²³翌日、アグリッパとベルニケが盛装して到 着 し、千人隊 長 たちや町のおもだった人々と共に謁見室に入ると、フェストウスの命令でパウロが引き出された。²⁴そこで、フェストウスは言つた。「アグリッパ王、ならびに列席の諸君、この 男 を御覧なさい。ユダヤ人がこぞつてもう生かしておくべきではないと叫び、エルサレムでもこの地でもわたしに 訴 え出ているのは、この 男 のことです。²⁵しかし、彼が死罪に相当するようなことは何もしていないということが、わたしには分かりました。ところが、この者自身が皇帝陛下に 上 訴したので、護送することに決定しました。²⁶しかし、この者について確実なことは、何も陛下に書き送ることができません。そこで、諸君の前に、特にアグリッパ王、貴下の前に彼を引き出しました。よく取り調べてから、何か書き送るようにしたいのです。²⁷囚 人を護送するのに、その罪 状 を示さないのは理に合わない」と、わたしには思われるからです。」

パウロ、アグリッパ王の前で弁明する

26

¹アグリッパはパウロに、「お前は自分のことを話してよい」と言つた。そこで、パウロは手を差し伸べて弁明した。²「アグリッパ王よ、 私 がユダヤ人たちに 訴 えられていることすべてについて、今日、王の前で弁明させていただけるのは 幸 いであると思います。³王は、ユダヤ人の 慣 習 も論争点もみなよくご存じだからです。それで、どうか忍耐をもって、 私 の申すことを聞いてくださるようにな、お願いいたします。⁴さて、 私 の若いころからの生活が、同胞の 間 であれ、またエルサレムの中であれ、最初のころからどうであつたかは、ユダヤ人ならだれでも知っています。⁵彼らは以前から 私 を知っているのです。だから、私 たちの 宗 教 の中でいちばん厳格な派である、ファリサイ派の一員として 私 が生活していたことを、彼らは 証 言しようと思えば、 証 言できるのです。⁶今、 私 がここに立つて裁判を受けているのは、神が 私 たちの先祖にお与えになった約束の実現に、望みをかけているからです。⁷私 たちの十二部族は、夜も昼も熱心に神に仕え、その約束の実現されることを望んでいます。王よ、 私 はこの希望を抱いているために、ユダヤ人から 訴 えられているのです。⁸神が死者を復活させてくださるということを、あなたがたはなぜ信じ 難いとお 考 えになるのでしょうか。⁹実は 私 自身も、あのナザレの人イエスの名に大いに反対すべきだと 考 えていました。¹⁰そして、それをエルサレムで実行に移し、この 私 が祭司 長 たちから権限を受けて多くの聖なる者たちを牢に入れた、彼らが死刑になるときは、賛成の意思 表 示をしたのです。¹¹また、至るところの会堂で、しばしば彼らを罰してイエスを冒瀆するように 強 制し、彼らに

たい はげ いか くる がいいく まち はくがい て の
対して激しく 怒り狂い、外国の町にまでも 迫害の手を伸ばしたのです。」

じ ぶん かいいしん かた
パウロ、自分の回心を語る

(使徒9 1—19・22 6—16)

¹²「こうして、 私 は祭司 長 たちから権限を委任されて、¹³ダマスコへ向かったのですが、¹⁴その途 中、真昼の事です。王よ、私 は天からの 光 を見たのです。それは太陽より明るく 輝 いて、私 とまた同行していた者との周りを照らしました。¹⁵私 たちが皆地に倒れたとき、『サウル、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか。とげの付いた棒をけると、ひどい目に遭う』と、私 にヘブライ語で語りかける声を聞きました。¹⁶私 が、『主よ、あなたはどなたですか』と申しますと、主は言われました。『わたしは、あなたが迫害しているイエスである。¹⁷起き上がれ。自分の足で立て。わたしがあなたに 現 れたのは、あなたがわたしを見たこと、そして、これからわたしが示そうとすることについて、あなたを奉仕者、また 証 人にするためである。』わたしは、あなたをこの民と異邦人の中から救い出し、彼らのもとに遣わす。¹⁸それは、彼らの目を開いて、闇から 光 に、サタンの支配から神に立ち帰らせ、こうして彼らがわたしへの信 仰 によって、罪の赦しを得、聖なる者とされた人々と共に恵みの分け前にあずかるようになるためである。』」

せんきよう ないよう
パウロの宣 教 の内容

¹⁹「アグリッパ王よ、こういう次第で、私 は天から示されたことに背かず、²⁰ダマスコにいる人々を初めとして、エルサレムの人々とユダヤ全土の人々、そして異邦人に対して、悔い 改 めて神に立ち帰り、悔い 改 めにふさわしい 行 いをするようにと伝えました。²¹そのためにユダヤ人たちは、神殿の境内にいた私 を捕らえて殺そうとしたのです。²²ところで、私 は神からの助けを今日までいただいて、固く立ち、小さな者にも大きな者にも証しをしてきましたが、よげんしゃ かなら いかい なにひと の わたくし くる う ししゃ なか さいしよ ふつかつ 預言者たちやモーセが 必 ず起こると語ったこと以外には、何一つ述べていません。²³つまり 私 は、メシアが苦しみを受け、また、死者の中から最初に復活して、民にも異邦人にも 光 を語り告げることになると述べたのです。」

おう しんこう すす
パウロ、アグリッパ王に信仰を勧める

²⁴パウロがこう弁 明していると、フェストゥスは大声で言った。「パウロ、お前は 頭 がおかしい。学問のしすぎで、おかしくなったのだ。」²⁵パウロは言った。「フェストゥス閣下、わたしは 頭 がおかしいわけではありません。真 実で理にかなったことを話しているのです。²⁶王はこれらのことについてよくご存じです。で、はっきりと申し上げます。このことは、どこかの片 隅で起こったではありません。ですから、一つとしてご存じないものはないと、確 信しております。²⁷アグリッパ王よ、預言者たちを信じておられますか。信じておられることと思います。」²⁸アグリッパはパウロに言った。「短 い時間でわたしを説き伏せて、クリスト 信者にしてしまうつもりか。」²⁹パウロは言った。「短 い時間であろうと長い時間であろうと、王ばかりでなく、今日この 話 を聞いてくださるすべての方が、私 のようになってくださることを神に祈ります。このように 鎖 につながれることは別ですが。」³⁰そこで、王が立ち上がり、総 督もベルニケや陪 席の者も立ち上がった。³¹彼らは退 場してから、「あの 男 は、死刑や投 獄に当たるようなことは何もしない」と話し合った。³²アグリッパ王はフェストゥスに、「あの 男 は皇帝に 上 訴さえしていなければ、釈 放してもらえただろうに」と言った。

む ふなで
パウロ、ローマへ向かって船出する

27

¹わたしたちがイタリアへ向かって船出することに決まったとき、パウロと他の数名の 囚 人は、皇帝 直 属部隊の 百 人隊 長 ユリウスという者に引き渡された。²わたしたちは、アジア 州 沿岸の各地に寄港することになっている、アドラミティオン港の船に乗って 出 港した。テサロニケ 出 身のマケドニア人アリスタルコも一緒であった。³翌 日シドンに着いたが、ユリウスはパウロを親切に 扱 い、友人たちのところへ行ってもなしを受けることを許してくれた。⁴そこから船 出したが、向かい風のためキプロス島の陰を航行し、⁵キリキア 州 とパンフィリア 州 の沖を過ぎて、リキア 州 のミラに着いた。⁶ここで 百 人隊 長 は、イタリアに行くアレクサンドリアの船を見つけて、わたしたちをそれに乗り込ませた。⁷幾 日もの 間、船足ははかどらず、ようやくクニドス港に近づいた。ところが、風 に行く手を阻まれたので、サルモネ 岬 を回ってクレタ島の陰を航行し、⁸ようやく島の岸に沿って進み、ラサヤの町に近い「良い 港 」と呼ばれる 所 に着いた。

⁹かなりの時がたって、既に断 食日も過ぎていたので、航海はもう危険であった。それで、パウロは人々に 忠 告した。¹⁰「皆さん、わたしの見るところでは、この航海は積み荷や船 体ばかりでなく、わたしたち自身にも危険と多大の損失をもたらすことになります。」¹¹しかし、 百 人隊 長 は、パウロの言ったことよりも、船 長 や船主の方を信用した。¹²この 港 は冬を越すのに適していなかった。それで、大多数の者の意見により、ここから船出し、できるならばクレタ島で南西と北西に面しているフェニクス港に行き、そこで冬を過ごすことになった。

ほうふう おそ
暴風に襲われる

¹³ときに、南 風が静かに吹いて来たので、人々は望みどおりに事が運ぶと 考 えて 錨 を上げ、クレタ島の岸に沿って進んだ。¹⁴しかし、間もなく「エウラキロン」と呼ばれる暴 風が、島の方から吹き降ろして来た。¹⁵船はそれに巻き込まれ、風に逆らって進むことができなかったので、わたしたちは流されるにまかせた。¹⁶やがて、カウダという小島の陰に来たので、やっとのことで小舟をしっかりと引き寄せることができた。¹⁷小舟を船に引き上げてから、船体には綱を巻きつけ、シルティスの浅瀬に乗り上げるのを恐れて海 錨 を降ろし、流されるにまかせた。¹⁸しかし、ひどい暴 風に悩まされたので、翌日には人々は積み荷を海に捨

はじめ、¹⁹三日目には自分たちの手で船具を投げ捨ててしまった。²⁰幾日もの間、太陽も星も見えず、暴風が激しく吹くさぶので、ついに助かる望みは全く消えうせようとしていた。

²¹人々は長い間、食事をとっていなかった。そのとき、パウロは彼らの中に立って言った。「皆さん、わたしの言ったとおり、クレタ島から船出していなければ、こんな危険や損失を避けられたにちがいません。²²しかし今、あなたがたに勧めます。元気を出しなさい。船は失うが、皆さんのうちだれ一人として命を失う者はないのです。²³わたしが仕え、礼拝している神からの天使が昨夜わたしのそばに立って、²⁴こう言われました。『パウロ、恐れるな。あなたは皇帝の前に出頭しなければならぬ。神は、一緒に航海しているすべての者を、あなたに任せてくださったのだ。』²⁵ですから、皆さん、元気を出しなさい。わたしは神を信じています。わたしに告げられたことは、そのとおりになります。²⁶わたしたちは、必ずどこかの島に打ち上げられるはずです。」

²⁷十四日目の夜になったとき、わたしたちはアドリア海を漂流していた。真夜中ごろ船員たちは、どこかの陸地に近づいているように感じた。²⁸そこで、水の深さを測てみると、二十オルギアあることが分かった。もう少し進んでまた測てみると、十五オルギアであった。²⁹船が暗礁に乗り上げることを恐れて、船員たちは船尾から錨を四つ投げ込み、夜の明けるのを待ちわびた。³⁰ところが、船員たちは船から逃げ出そうとし、船首から錨を降ろす振りをして小舟を海に降ろしたので、³¹パウロは百人隊長と兵士たちに、「あの人たちが船にとどまっていなければ、あなたがたは助からない」と言った。³²そこで、兵士たちは綱を断ち切つて、小舟を流れるにまかせた。

³³夜が明けたころ、パウロは一同に食事をするように勧めた。「今日で十四日もの間、皆さんは不安のうちに全く何も食わずに、過ごしてきました。³⁴だから、どうぞ何か食べてください。生き延びるために必要だからです。あなたがたの頭から髪の毛一本もなくなることはありません。」³⁵こう言ってパウロは、一同の前でパンを取つて神に感謝の祈りをささげてから、それを裂いて食べ始めた。³⁶そこで、一同も元気づいて食事をした。³⁷船にいたわたしたちは、全部で二百七十六人であった。³⁸十分に食べてから、穀物を海に投げ捨てて船を軽くした。

なんば難破する

³⁹朝になって、どこかの陸地であるか分らなかったが、砂浜のある入り江を見つけたので、できることなら、そこへ船を乗り入れようということになった。⁴⁰そこで、錨を切り離して海に捨て、同時に舵の綱を解き、風に船首の帆を上げて、砂浜に向かって進んだ。⁴¹ところが、深みに挟まれた浅瀬にぶつかって船を乗り上げてしまい、船首がめり込んで動かなくなり、船尾は激しい波で壊れだした。⁴²兵士たちは、囚人たちが泳いで逃げないように、殺そうと計ったが、⁴³百人隊長はパウロを助けたいと思ったので、この計画を思いとどませた。そして、泳げる者がまず飛び込んで陸に上がり、⁴⁴残りの者は板切れや船の乗組員につかまって泳いで行くように命令した。このようにして、全員が無事に上陸した。

マルタ島で

28

¹わたしたちが助かったとき、この島がマルタと呼ばれていることが分かった。²島の住民は大変親切にしてくれた。降る雨と寒さをしのぐためにたき火をたいて、わたしたち一同をもてなしてくれたのである。³パウロが一束の枯れ枝を集めて火にくべると、一匹の蝮が熱気のために出て来て、その手に絡みついた。⁴住民は彼の手にぶら下がっているこの生き物を見て、互いに言った。「この人はきっと人殺しにちがいない。海では助かったが、『正義の女神』はこの人を生かしておかないのだ。」⁵ところが、パウロはその生き物を火の中に振り落とし、何の害も受けなかった。⁶体がはれ上がるか、あるいは急に倒れて死ぬだろうと、彼らはパウロの様子をうかがっていた。しかし、いつまでたつても何も起こらないのを見て、考えを変え、「この人は神様だ」と言った。⁷さて、この場所の近くに、島の長官でプブリウスという人の所有地があった。彼はわたしたちを歓迎して、三日間、手厚くもてなしてくれた。⁸ときに、プブリウスの父親が熱病と下痢で床についていたので、パウロはその家に行って祈り、手を置いていやした。⁹このことがあったので、島のほかの病人たちもやって来て、いやしてもらった。¹⁰それで、彼らはわたしたちに深く敬意を表し、船出のときには、わたしたちに必要な物を持って来てくれた。

ローマ到着

¹¹三か月後、わたしたちは、この島で冬を越していたアレクサンドリアの船に乗って出航した。ディオスクロイを船印とする船であった。¹²わたしたちは、シラクサに寄港して三日間そこに滞在し、¹³ここから海岸沿いに進み、レギオンに着いた。一日たつと、南風が吹いて来たので、二日でブテオリに人港した。¹⁴わたしたちはそこで兄弟たちを見つけ、請われるままに七日間滞在した。こうして、わたしたちはローマに着いた。¹⁵ローマからは、兄弟たちがわたしたちのことを聞き伝えて、アピイフォルムとトレス・タベルネまで迎えに来てくれた。パウロは彼らを見て、神に感謝し、勇気づけられた。

¹⁶わたしたちがローマに入つたとき、パウロは番兵を一人つけられたが、自分だけで住むことを許された。

パウロ、ローマで宣教する

¹⁷三日の後、パウロはおもだつたユダヤ人たちを招いた。彼らが集まって来たとき、こう言った。「兄弟たち、わたしは、民に対しても先祖の慣習に対しても、背くようなことは何一つしていないのに、エルサレムで囚人としてローマ人の手に引き渡されてしまいました。¹⁸ローマ人はわたしを取り調べたのですが、死刑に相当する理由が何も無かったので、釈放しようと思ったのです。¹⁹しかし、ユダヤ人たちが反対したので、わたしは皇帝に上訴せざるをえませんでした。これは、決して同胞を告発するためではありません。²⁰だからこそ、お会いして話し合いたいと、あなたがたにお願いしたのです。イスラエルが希望していることのために、わたしはこのように鎖でつながれているのです。」²¹すると、ユダヤ人たちが言った。「私どもは、あなたのことについてユダヤから何の書

めん う と
面も受け取ってはおりませんし、また、ここに来た 兄 弟のだれ一人として、あなたについて何か悪いことを報告したことも、話したこともありませんで
た。²²あなたの かんが 考 えておられることを、 ちよくせつ き 直 接お聞きしたい。この分派については、至るところで反 対があることを耳にしているのです。」
²³そこで、ユダヤ人たちは日を決めて、大勢でパウロの 宿 舎にやって来た。パウロは、朝から晩まで説 明を続けた。神の国について 力 強く証しし、モーセ
の律法や預言 者の書を引用して、イエスについて説得しようとしたのである。²⁴ある者はパウロの言うことを受け入れたが、他の者は信じようとはしなかった。²⁵
かれ たが いけん いっち た さ ことつき い せいれい よげんしや とお じつ ただ
彼らが互いに意見が一致しないまま、立ち去ろうとしたとき、パウロはひと言 次のように言った。「聖 霊は、預言 者イザヤを通して、実に正しくあなたがたの
せん ぞ かた 先祖に、²⁶語られました。

たみ い い
この民のところへ行って言え。

き き けつ り かい
私たちは聞くには聞くが、決して理解せず、

み けつ みと
には見るが、決して認めない。

たみ ころ にぶ
民の心 は鈍り、

とお
は遠くなり、

と
は閉じてしまった。

かれ め み
として、彼らは目で見ることなく、

みみ き
耳で聞くことなく、

う り かい た かえ
で理解せず、立ち帰らない。

かれ
は彼らをいやさない。』

²⁸だから、このことを知っていただきたい。この神の救いは異邦 人に向けられました。彼らこそ、これに聞き 従 うのです。」十
じ ひ か いえ まる ねんかん す ほうもん もの かんげい まつた じゆう なん さまた かみ くに の つた しゅ
³⁰パウロは、自費で借りた家に丸二年間住んで、訪 問する者はだれかれとなく歓 迎し、³¹全 く自由に何の 妨 げもなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリ
ストについて教え続けた。

底本に節が欠けている個所の異本による訳文

8³⁷ フィリポが、「真 心 から信じておられるなら、差し支えありません」と言うと、宦 官は、「イエス・キリストは神の子であると信じます」と答えた。

15³⁴ しかし、シラスはそこにとどまることにした。

24^{6b-8a} そして、私 どもの律法によって裁こうとしたところ、千人隊 長 リシアがやって来て、この 男 を無理やり 私 どもの手から引き離し、告 発人たちに
かつ か く めい
は、閣下のところに来るようにと命じました。

28²⁹ パウロがこのようなことを語ったところ、ユダヤ人たちは大いに論じ合いながら帰って行つた。

ローマの信徒への手紙

[1章](#) [2章](#) [3章](#) [4章](#) [5章](#)

[6章](#) [7章](#) [8章](#) [9章](#) [10章](#)

[11章](#) [12章](#) [13章](#) [14章](#) [15章](#)

[16章](#)

[【戻る】](#)

しんと てがみ
ローマの信徒への手紙

あいさつ
挨拶
1

「キリスト・イエスの 僕、神の福音のために選び出され、召されて使徒となったパウロから、――この福音は、神が既に聖書の中で預言者を通して約束されたもので、御子に関するものです。御子は、肉によればダビデの子孫から生まれ、聖なる霊によれば、死者の中からの復活によって力ある神の子と定められたのです。この方が、わたしたちの主イエス・キリストです。°わたしたちはこの方により、その御名を広めてすべての異邦人を信仰による従順へと導くために、恵みを受けて使徒とされました。°この異邦人の中に、イエス・キリストのものとなるように召されたあなたがたもいるのです。――神に愛され、召されて聖なる者となったローマの人たち一同へ。わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように。」

ローマ訪問の願い
°まず初めに、イエス・キリストを通して、あなたがた一同についてわたしの神に感謝します。あなたがたの信仰が全世界に言い伝えられているからです。°わたしは、御子の福音を宣べ伝えながら心から神に仕えています。その神が証ししてくださることですが、わたしは、祈るときにはいつもあなたがたのことを思い起こし、°何とかしていつかは神の御心によってあなたがたのところへ行ける機会があるように、願っています。°あなたがたにぜひ会いたいのは、°霊の賜物をいくらかでも分け与えて、力になりたいからです。°あなたがたのところで、あなたがたとわたしが互いに持っている信仰によって、励まし合いたいのです。°兄弟たち、ぜひ知ってもらいたい。ほかの異邦人のところと同じく、あなたがたのところでも何か実りを得たいと望んで、何回もそちらに行こうと企てながら、今日まで妨げられているのです。°わたしは、ギリシア人にも未開の人にも、知恵のある人にもない人にも、果たすべき責任があります。°それで、ローマに

福音の力
°わたしは福音を恥としない。福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです。°福音には、神の義が啓示されていますが、それは、初めから終わりまで信仰を通して実現されるのです。「正しい者は信仰によって生きる」と書いてあるとおりです。

人間の罪
°不義によって真理の働きを妨げる人間のあらゆる不信心と不義に対して、神は天から怒りを現されます。°なぜなら、神について知りうる事柄は、彼らにも明らかだからです。神がそれを示されたのです。°世界が造られたときから、目に見えない神の性質、つまり神の永遠の力と神性は被造物に現れており、これを通して神を知ることができます。従って、彼らには弁解の余地がありません。°なぜなら、神を知りながら、神としてあがめることも感謝することもせず、かえって、むなしい思いにふけり、心が鈍く暗くなったからです。°自分では知恵があると吹聴しながら愚かになり、°滅びることのない神の栄光を、滅び去る人間や鳥や獣や這うものなどに似せた像と取り替えたのです。°そこで神は、彼らが心の欲望によって不潔なことをするにまかせられ、そのため、彼らは互いにその体を辱めました。°神の真理を偽りに替え、造り主の代わりに造られた物を拝んでこれに仕えたのです。造り主こそ、永遠にほめたたえられるべき方です、アーメン。°それで、神は彼らを恥ずべき情欲にまかせられました。女は自然の関係を自然にもとるものに変え、°同じく男も、女との自然の関係を捨てて、互いに情欲を燃やし、男どうして恥ずべきことを行い、その迷った行いの当然の報いを身に受けています。°彼らは神を認めようとしなかったのも、神は彼らは無価値な思いに渡され、そのため、彼らはしてはならないことをするようになりました。°あらゆる不義、悪、むさぼり、悪意に満ち、ねたみ、殺意、不和、欺き、邪念にあふれ、陰口を言い、°人をそしり、神を憎み、人を侮り、高慢であり、大言を吐き、悪事をたくらみ、親に逆らい、°無知、不誠実、無情、無慈悲です。°彼らは、このようなことを行う者が死に値するという神の定めを知っていながら、自分でそれを行っただけではなく、他人の同じ行為をも是認しています。

神の正しい裁き

2

°だから、すべて人を裁く者よ、弁解の余地はない。あなたは、他人を裁きながら、実は自分自身を罪に定めている。あなたも人を裁いて、同じことをしているからです。°神はこのようなことを行う者を正しくお裁きになると、わたしたちは知っています。°このようなことをする者を裁きながら、自分でも同じことをしている者よ、あなたは、神の裁きを逃れられると思うのですか。°あるいは、神の憐れみがあなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かな慈愛と寛容と忍耐とを軽んじるのですか。°あなたは、かたくなで心を改めようとせず、神の怒りを自分のために蓄えています。この怒りは、神が正しい裁きを行われる怒りの日に現れるでしょう。°神はおのおのの行いに従ってお報いになります。°すなわち、忍耐強く善を行い、栄光と誉れと不滅のものを求める者には、永遠の命をお与えになり、°反抗心にかられ、真理ではなく不義に従う者には、怒りと憤りをお示しになります。°すべて悪を行う者には、ユダヤ人はもとよりギリシア人にも、苦しめと悩みが下り、°すべて善を行う者には、ユダヤ人はもとよりギリシア人にも、栄光と誉れと平和が与えられます。°神は人を分け隔てなさいません。°律法を知らないで罪を犯した者は皆、この律法と関係なく滅び、また、律法の下にあつて罪を犯した者は皆、律法によって裁かれます。°律法を聞く者が神の前で正しいのではなく、これを実行する者が、義とされるからです。°たとえ律法を持たない異邦人も、律法の命じるとこ

ろを自然に 行 えば、律法を持たなくとも、自分自身が律法なのです。¹⁵ こういう人 々は、律法の要 求 する事柄がその 心 に記されていることを示していま
す。彼らの 良 心もこれを証しており、また 心 の思いも、互いに責めたり弁明し合って、同じことを示しています。¹⁶ そのことは、神が、わたしの福 音の告
げるとおり、人々の隠れた事柄をキリスト・イエスを通して裁かれる日に、明らかに becoming でしょう。

ユダヤ人と律法

¹⁷ところで、あなたはユダヤ人と名乗り、律法に頼り、神を誇りとし、¹⁸その御 心 を知り、律法によって教えられて何をなすべきかをわきまえています。¹⁹⁻²⁰ ま
た、律法の中に、知識と真理が具体的に示されていると 考 え、盲人の案内者、闇の中にいる者の 光、無知な者の 導 き手、未 熟 な者の 教 師であると自
負しています。²¹ それならば、あなたは他人には教えながら、自分には教えないのですか。「盗むな」と説きながら、盗むのですか。²² 「姦淫するな」と言いなが
ら、姦淫を 行 うのですか。偶像を忌み嫌いながら、神殿を荒らすのですか。²³ あなたは律法を誇りとしながら、律法を破って神を 侮 っている。²⁴ 「あなたた
ちのせいで、神の名は異邦人の中で汚されている」と書いてあるとおりです。²⁵ あなたが受けた割 礼も、律法を守ればこそ意味があり、律法を破れば、それは割
礼を受けていないのと同じです。²⁶ だから、割 礼を受けていない者が、律法の要 求 を実行すれば、割 礼を受けていなくても、受けた者と見なされるのではない
ですか。²⁷ そして、 体 に割 礼を受けていなくても律法を守る者が、あなたを裁くでしょう。あなたは律法の文字を所有し、割 礼を受けていながら、律法を破
っているのですから。²⁸ 外 見 上 のユダヤ人がユダヤ人ではなく、また、肉に 施 された外 見 上 の割 礼が割 礼ではありません。²⁹ 内面がユダヤ人である者こそ
ユダヤ人であり、文字ではなく、霊 によって 心 に 施 された割 礼こそ割 礼なのです。その誉れは人からではなく、神から来るのです。

3

¹では、ユダヤ人の優れた点は何か。割 礼の利益は何か。²それはあらゆる面からいろいろ指摘できます。まず、彼らは神の言葉をゆだねられたのです。³それは
いったいどういうことか。彼らの中に不誠実な者たちがいたにせよ、その不誠実のせいで、神の誠実が無にされるとでもいうのですか。⁴決してそうではない。
人はすべて 偽 り者であるとしても、神は真実な方であるとすべきです。

「あなたは、言葉を述べるとき、正しいとされ、
裁きを受けるとき、勝 利を得られる」
と書いてあるとおりです。⁵しかし、わたしたちの不義が神の義を明らかにするとしたら、それに対して何と言うべきでしょう。人間の論 法に 従 って言いますが、
怒りを発する神は正しくないのですか。⁶決してそうではない。もしそうだとしたら、どうして神は世をお裁きになることができましょう。⁷ またもし、わたしの 偽
りによって神の真実がいつそう明らかにされて、神の栄光となるのであれば、なぜ、わたしはなおも罪人として裁かれねばならないのでしょうか。⁸それに、もしそ
うであれば、「善が 生 じるために悪をしよう」とも言えるのではないのでしょうか。わたしたちがこう主 張 していると 中 傷 する人々がありますが、こういう者た
ちが罰を受けるのは当然です。

正しい者は一人もいない
⁹では、どうなのか。わたしたちには優れた点があるのでしょうか。 全 くありません。既に指摘したように、ユダヤ人もギリシア人も皆、罪の下にあるので
す。¹⁰ 次のように書いてあるとおりです。

Eしい者はいない。一人もいない。

者もなく、

を探し求める者もない。

い、だれもかれも役に立たない者となった。

を 行 う者はいない。

の一人もいない。

ののどは開いた墓のようであり、

うは舌で人を 欺 き、

くちびる まむし どく
唇 には 蝮 の 毒がある。

のろ にがみ み
呪いと苦味で満ち、

ち なが はや
血を流すのに速く、

みち はかい ひさん
道には破壊と悲愴がある。

へいわ みち し
は平和の道を知らない。

め かみ おそ
の目には神への畏れがない。」

19さて、わたしたちが知っているように、すべて律法の言うところは、律法の下にいる人々に向けられています。それは、すべての人の口がふさがれて、全世界
が神の裁きに服するようになるためなのです。20なぜなら、律法を実行することによつては、だれ一人神の前で義とされないからです。律法によつては、罪の自
覚しか 生 じないのです。

しんこう ぎ
信仰による義
21ところが今や、律法とは関係なく、しかも律法と預言者によつて立 証 されて、神の義が示されました。22すなわち、イエス・キリストを信じることにより、
信じる者すべてに与えられる神の義です。そこには何の差別もありません。23人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、24ただキリスト・イ
エスによる 贖 いの業を通して、神の恵みにより無 償 で義とされるのです。25神はこのキリストを立て、その血によつて信じる者のために罪を 償 う供え物とな
さいました。それは、今まで人が犯した罪を見逃して、神の義をお示しになるためです。26このように神は忍耐してこられたが、今この時に義を示されたのは、
御自分が正しい方であることを明らかにし、イエスを信じる者を義となさるためです。

27では、人の誇りはどこにあるのか。それは取り除かれました。どんな法則によつてか。行 いの法則によるのか。そうではない。信仰の法則によつてで
す。28なぜなら、わたしたちは、人が義とされるのは律法の 行 いによるのではなく、信仰によると 考 えるからです。29それとも、神はユダヤ人だけの神でしょう
か。異邦人の神でもないのですか。そうです。異邦人の神でもあります。30実に、神は唯一だからです。この神は、割礼のある者を信仰のゆえに義とし、割礼
のない者をも信仰によつて義としてくださるのです。31それでは、わたしたちは信仰によつて、律法を無にするのか。決してそうではない。むしろ、律法を確立
するのです。

あブラハムの模範

4
1では、肉によるわたしたちの先祖アブラハムは何を得たと言うべきでしょうか。2もし、彼が 行 いによつて義とされたのであれば、誇つてもよいが、神の前ではそ
れはできません。3聖書には何と書いてありますか。「アブラハムは神を信じた。それが、彼の義と認められた」とあります。4ところで、 働 く者に対する報 酬
は恵みではなく、当然支払われるべきものと見なされています。5しかし、不信心な者を義とされる方を信じる人は、 働 きがなくても、その信 仰が義と認めら
れます。6同じようにダビデも、 行 いによらずに神から義と認められた人の 幸 いを、次のようにたたえています。

えう ゆる つみ おお かく ひとびと
去が赦され、罪を覆い隠された人々は、

さいわ
幸 いである。

つみ み ひと
ら罪があると見なされない人は、

さいわ
幸 いである。」

9では、この 幸 いは、割礼を受けた者だけに与えられるのですか。それとも、割礼のない者にも及びますか。わたしたちは言います。「アブラハムの信仰が義と
みと 認められた」のです。10どのようにしてそう認められたのでしょうか。割礼を受けてからですか。それとも、割礼を受ける前ですか。割礼を受けてからではなく、
割礼を受ける前のことです。11アブラハムは、割礼を受ける前に信仰によつて義とされた証しとして、割礼の 印 を受けたのです。こうして彼は、割礼のないま
まに信じるすべての人の父となり、彼らも義と認められました。12更にまた、彼は割礼を受けた者の父、すなわち、単に割礼を受けているだけでなく、わたした

ちの父アブラハムが割礼以前に持っていた信仰の模範に従う人々の父ともなったのです。

信仰によって実現される約束

¹³神はアブラハムやその子孫に世界を受け継がせることを約束されたが、その約束は、律法に基づいてではなく、信仰による義に基づいてなされたのです。¹⁴律法に頼る者が世界を受け継ぐのであれば、信仰はもはや無意味であり、約束は廃止されたことになります。¹⁵実に、律法は怒りを招くものであり、律法のな
いところには違反ありません。¹⁶従って、信仰によってこそ世界を受け継ぐ者となるのです。恵みによって、アブラハムのすべての子孫、つまり、単に律法に
頼る者だけでなく、彼の信仰に従う者も、確実に約束にあずかるのです。彼はわたしたちすべての父です。¹⁷「わたしはあなたを多くの民の父と定めた」
と書いてあるとおりです。死者に命を与え、存在していないものを呼び出して存在させる神を、アブラハムは信じ、その御前でわたしたちの父となったので
す。¹⁸彼は希望するすべもなかったときに、なおも望みを抱いて、信じ、「あなたの子孫はこうになる」と言われていたとおりに、多くの民の父となりました
た。¹⁹そのころ彼は、およそ百歳になっていて、既に自分の体が衰えており、そして妻サラの体も子を宿せない知りながらも、その信仰が弱まりはしませ
んでした。²⁰彼は不信仰に陥って神の約束を疑うようなことはなく、むしろ信仰によって強められ、神を賛美しました。²¹神は約束したことを実現させる
力も、お持ちの方だと、確信していたのです。²²だからまた、それが彼の義と認められたわけです。²³しかし、「それが彼の義と認められた」という言葉は、アブ
ラハムのためだけに記されているのではなく、²⁴わたしたちのためにも記されているのです。わたしたちの主イエスを死者の中から復活させた方を信じれば、わたし
たちも義と認められます。²⁵イエスは、わたしたちの罪のために死に渡され、わたしたちが義とされるために復活させられたのです。

信仰によって義とされて

5

¹このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、²このキリストのお陰で、今
の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています。³そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているので
す、苦難は忍耐を、⁴忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。⁵希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神
の愛がわたしたちの心に注がれているからです。⁶実にキリストは、わたしたちがまだ弱かったころ、定められた時に、不信心な者のために死んでくださった。⁷
正しい人のために死ぬ者はほとんどいません。善い人のために命を惜しまない者ならいるかもしれません。⁸しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリス
トがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。⁹それで今や、わたしたちはキリストの血によって義とされたの
ですから、キリストによって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。¹⁰敵であったときでさえ、御子の死によって神と和解させていただいたのであれば、
和解させていただいた今は、御子の命によって救われるのはなおさらです。¹¹それだけでなく、わたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちは神を誇り
としています。今やこのキリストを通して和解させていただいたからです。

アダムとキリスト

¹²このようなわけで、一人の人によって罪が世に入り、罪によって死が入り込んだように、死はすべての人に及んだのです。すべての人が罪を犯したからで
す。¹³律法が与えられる前にも罪は世にあったが、律法がなければ、罪は罪と認められないわけです。¹⁴しかし、アダムからモーセまでの間にも、アダムの違反
と同じような罪を犯さなかった人の上にさえ、死は支配しました。実にアダムは、来るべき方を前もって表す者だったのです。
¹⁵しかし、恵みの賜物は罪とは比較になりません。一人の罪によって多くの人が死ぬことになったとすれば、なおさら、神の恵みと一人の人イエス・キリスト
の恵みの賜物とは、多くの人に豊かに注がれるのです。¹⁶この賜物は、罪を犯した一人によってもたらされたようなものではありません。裁きの場合は、一つの
罪でも有罪の判決が下されますが、恵みが働くときには、いかに多くの罪があっても、無罪の判決が下されるからです。¹⁷一人の罪によって、その一人を通
して死が支配するようになったとすれば、なおさら、神の恵みと義の賜物とを豊かに受けている人は、一人のイエス・キリストを通して生き、支配するようにな
るのです。¹⁸そこで、一人の罪によってすべての人に有罪の判決が下されたように、一人の正しい行為によって、すべての人が義とされて命を得ることになっ
たのです。¹⁹一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたように、一人の従順によって多くの人が正しい者とされるのです。²⁰律法が入り込んで来
たのは、罪が増し加わるためでありました。しかし、罪が増したところには、恵みはなおいつそう満ちあふれました。²¹こうして、罪が死によって支配していたよう
に、恵みも義によって支配しつつ、わたしたちの主イエス・キリストを通して永遠の命に導くのです。

罪に死に、キリストに生きる

6

¹では、どういことなるのか。恵みが増すようにと、罪の中にとどまるべきだろうか。²決してそうではない。罪に対して死んだわたしたちが、どうして、なおも
罪の中に生きることができでしよう。³それともあなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスに結ばれるために、洗礼を受けたわたしたちが皆、またその
死にあずかるために、洗礼を受けたことを。⁴わたしたちは、洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが
御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。⁵もし、わたしたちがキリストと一体になってその死
の姿にあやかるならば、その復活の姿にもあやかれるでしょう。⁶わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅
ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。⁷死んだ者は、罪から解放されています。⁸わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリスト

とも い しん ししや なか ふっかつ し し しはい
と共に生きることにとなると信じます。°そして、死者の中から復活させられたキリストはもはや死ぬことがない、と知っています。死は、もはやキリストを支配し
し どつみ たい し い かみ たい い じ
ません。°キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、生きておられるのは、神に対して生きておられるのです。°このように、あなたがたも自
ぶん つみ たい し すすむ かみ たい い かんが
分は罪に対して死んでいるが、キリスト・イエスに結ばれて、神に対して生きているのだと 考 えなさい。
した が し からだ つみ しはい からだ よくほう したが ごたい ふぎ どうぐ
° 従 って、あなたがたの死ぬべき 体 を罪に支配させて、 体 の欲望に 従 うようなことがあつてはなりません。°また、あなたがたの五体を不義のための道具と
つみ まか じぶんじしん ししや なか い かえ もの かみ ささ ごたい ぎ どうぐ かみ ささ
して罪に任せてはなりません。かえって、自分自身を死者の中から生き返った者として神に献げ、また、五体を義のための道具として神に献げなさい。°なぜな
ら、罪は、もはや、あなたがたを支配することはないからです。あなたがたは律法の下ではなく、恵みの下にいるのです。

ぎ どうい
義の奴隷

°では、どうなのか。わたしたちは、律法の下ではなく恵みの下にいるのだから、罪を犯してよいということでしょうか。決してそうではない。°知らないのです
か。あなたがたは、だれかに奴隷として 従 えば、その 従 っている人の奴隷となる。つまり、あなたがたは罪に仕える奴隷となつて死に至るか、神に 従 順 に
つか どうい ぎ いた つみ つか どうい し いた かみ じゅうじゆん
仕える奴隷となつて義に至るか、どちらかなのです。°しかし、神に感謝します。あなたがたは、かつては罪の奴隷でしたが、今は伝えられた教えの規範を受け
い こころ したが つみ かいほう ぎ つか にく よわ こうりよ わ せつめい
入れ、それに 心 から 従 うようになり、°罪から解放され、義に仕えるようになりました。°あなたがたの肉の弱さを考慮して、分かりやすく説明しているので
す。かつて自分の五体を汚れと不法の奴隷として、不法の中に生きていたように、今これを義の奴隷として献げて、聖なる生活を送りなさい。°あなたがたは、
つみ どうい ぎ たい じゆう み のみ いたま は おも
罪の奴隷であつたときは、義に対しては自由の身でした。°では、そのころ、どんな実がありましたか。あなたがたが今では恥ずかしいと思うものです。それら
い つ し いま つみ かいほう かみ どうい せい せいかつ み むす い つ えいえん
の行き着くところは、死にほかならない。°あなたがたは、今は罪から解放されて神の奴隷となり、聖なる生活の実を結んでいます。行き着くところは、永遠の
いのち つみ しはら ほうしゅう し かみ たまもの しゆ えいえん いのち
命 です。°罪が支払う報 酬 は死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の 命 なのです。

けっこん ひ め
結婚の比喩

°
きょうだい りつぼう し ひとびと はな りつぼう ひと い あいだ しはい し
'それとも、兄 弟たち、わたしは律法を知っている人々に話しているのですが、律法とは、人を生きている 間 だけ支配するものであることを知らないのです
けっこん おんな おつと せいぞんちゆう りつぼう おつと むす おつと し じぶん おつと むす つ りつぼう かいほう
か。°結婚した 女 は、夫 の生存 中 は律法によつて 夫 に結ばれているが、夫 が死ねば、自分を 夫 に結び付けていた律法から解放されるのです。° 従 つ
おつと せいぞんちゆう た おとこ いっしょ かんつう おんな おつと し りつぼう じゆう た おとこ いっしょ かんつう おんな
て、夫 の生存 中、他の 男 と一緒になれば、姦 通の 女 と言われますが、夫 が死ねば、この律法から自由なので、他の 男 と一緒になつても姦 通の 女 と
はなりません。°ところで、兄 弟たち、あなたがたも、キリストの 体 に結ばれて、律法に対しては死んだ者となつています。それは、あなたがたが、他の方、つ
ししや なか ふっかつ かた かみ たい み むす にく したが い
まり、死者の中から復活させられた方のものとなり、こうして、わたしたちが神に対して実を結ぶようになるためなのです。°わたしたちが肉に 従 つて生きてい
あいだ つみ さそ よくじょう りつぼう ごたい なか はたら し いた み むす いま じぶん しば りつぼう たい し
る 間 は、罪へ誘う欲 情 が律法によつて五体の中に 働 き、死に至る実を結んでいました。°しかし今は、わたしたちは、自分を縛っていた律法に対して死ん
ものの りつぼう かいほう けつか もじ したが ふる い かた れい したが あたら い かた つか
だ者となり、律法から解放されています。その結果、文字に 従 う古い生き方ではなく、°「**霊**」に 従 う 新 しい生き方で仕えるようになっているのです。

ないざい つみ もんだい
内在する罪の問題

°では、どういうことになるのか。律法は罪であろうか。決してそうではない。しかし、律法によらなければ、わたしは罪を知らなかつたでしょう。たとえば、
りつぼう い し つみ おきて きかい え しゆるい
律法が「むさばるな」と言わなかつたら、わたしはむさぼりを知らなかつたでしょう。°ところが、罪は 掟 によつて機会を得、あらゆる種類のむさぼりをわたしの
うち お りつぼう つみ し りつぼう い おきて どうじょう つみ い
内に起こしました。律法がなければ罪は死んでいるのです。°わたしは、かつては律法とかかわりなく生きていました。しかし、 掟 が登 場 したとき、罪が生き
かえ し いのち おきて し みちび わ つみ おきて きかい え あざむ
返つて、°わたしは死にました。そして、 命 をもたらずはずの 掟 が、死に 導 くものであることが分かりました。°罪は 掟 によつて機会を得、わたしを 欺 き、そ
し おきて ころ りつぼう せい おきて せい ただ よ
して、 掟 によつてわたしを殺してしまつたのです。°こういうわけで、律法は聖なるものであり、 掟 も聖であり、正しく、そして善いものなのです。

°それでは、善いものがわたしにとつて死をもたらすものとなつたのだろうか。決してそうではない。実は、罪がその 正 体を 現 すために、善いものを通してわ
し つみ かぎ じゃあく おきて とお しめ りつぼう れいてき
たしに死をもたらしたのです。このようにして、罪は限りなく邪悪なものであることが、 掟 を通して示されたのでした。°わたしたちは、律法が靈的なものであ
し にく ひと つみ う わた じぶん わ じぶん のぞ じつこう
ると知っています。しかし、わたしは肉の人であり、罪に売り渡されています。°わたしは、自分のしていることが分かりません。自分が望むことは実行せず、か
えって憎んでいることをするからです。°もし、望まないことを 行 っているとすれば、律法を善いものとして認めているわけになります。°そして、そういうことを
おこな なか す つみ じぶん うち にく ぜん す し
行 っているのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪なのです。°わたしは、自分の内には、つまりわたしの肉には、善が住んでいないことを知つ
ぜん いし じつこう じぶん のぞ ぜん おこな のぞ あく おこな
ています。善をなさうという意志はありますが、それを実行できないからです。°わたしは自分の望む善は 行 わず、望まない悪を 行 っている。°もし、わたしが
のぞ なか す つみ ぜん おも じぶん
望まないことをしているとすれば、それをしているのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪なのです。°それで、善をなさうと思う自分には、いつ
あく つ ほうそく き うち ひと かみ りつぼう よろこ ごたい ほうそく こころ ほうそく
も悪が付きまといつていう法則に気づきます。°「内なる人」としては神の律法を 喜 んでいますが、°わたしの五体にはもう一つの法則があつて 心 の法則
たたか ごたい うち つみ ほうそく わ みじ にんげん し さだ からだ
と 戦 い、わたしを、五体の内にある罪の法則のとりこにしているのが分かります。°わたしはなんと惨めな人間なのでしょう。死に定められたこの 体 から、だ
れがわたしを救つてくれるでしょうか。°わたしたちの主イエス・キリストを通して神に感謝いたします。このように、わたし自身は 心 では神の律法に仕えてい
にく つみ ほうそく つか しん こころ かみ りつぼう つか
ますが、肉では罪の法則に仕えているのです。

れい いのち
霊による 命

°
したが いま むす もの つみ さだ いのち れい ほうそく つみ し
° 従 つて、今や、キリスト・イエスに結ばれている者は、罪に定められることはありません。°キリスト・イエスによつて 命 をもたらず霊の法則が、罪と死との

ほうそく かいぼう にく よわ りつぼう かみ つみ と のぞ み こ つみぶか
法則からあなたを解放したからです。³肉の弱さのために律法がなしえなかったことを、神はしてくださったのです。つまり、罪を取り除くために御子を罪深い
にく おな すがた よ おく にく つみ つみ しょだん にく れい したが あゆ のぞ りつぼう ようきゆう み
肉と同じ 姿 でこの世に送り、その肉において罪を罪として処断されたのです。⁴それは、肉ではなく 霊に 従 って歩わたしたちの内に、律法の要求 が満た
にく したが あゆ もの にく ぞく かんが れい したが あゆ もの れい ぞく かんが にく おも し れい おも
されるためでした。⁵肉に 従 って歩む者は、肉に属することを 考え、霊に 従 って歩む者は、霊に属することを 考えます。⁶肉の思いは死であり、霊の思い
いのち へいわ にく おも したが もの かみ できたい かみ りつぼう したが したが にく しはいか にく しはいか
は 命 と平和であります。⁷なぜなら、肉の思いに 従 う者は、神に敵対しており、神の律法に 従 っていないからです。従 いえないのです。⁸肉の支配下にある
もの かみ よろこ にく れい したが もの かみ うち やど にく れい しはいか にく れい も
者は、神に 喜 ばれるはずがありません。⁹神の霊があなたがたの内に宿っているかぎり、あなたがたは、肉ではなく 霊の支配下にいます。キリストの霊を持たな
いのち へいわ にく ぞく にく うち からだ つみ し れい りつぼう したが したが にく しはいか にく しはいか
い者は、キリストに属していません。¹⁰キリストがあなたがたの内におられるならば、体 は罪によって死んでいても、`霊`は義によって 命 となっています。¹¹も
し、イエスを死者の中から復活させた方の霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリストを死者の中から復活させた方は、あなたがたの内に宿っているそ
れい し からだ い
の霊によって、あなたがたの死ぬはずの 体 をも生かしてくださるでしょう。

きょうだい にく したが い にく たい ぎむ にく したが
¹²それで、兄 弟たち、わたしたちには一つの義務がありますが、それは、肉に 従 って生きなければならないという、肉に対する義務ではありません。¹³肉に 従
いて 生きら なら、あなたがたは死にます。しかし、霊によって 体 の仕業を絶つならば、あなたがたは生きます。¹⁴神の霊によって 導 かれる者は皆、神の子なので
ひと どれい ふたた おそ おかしい れい かみ こ れい う れい ちち よ
す。¹⁵あなたがたは、人を奴隷として 再 び恐れに 陥 れる霊ではなく、神の子とする霊を受けたのです。この霊によってわたしたちは、「アッバ、父よ」と呼ぶ
れい かみ こども れい いっしょ あか こども そうぞくにな
のです。¹⁶この霊こそは、わたしたちが神の子供であることを、わたしたちの霊と一緒に 証ししてくださいます。¹⁷もし子供であれば、相続人でもありま
かみ そうぞくにな きょうどう そうぞくにな とも くる とも えいこう う
す。神の相続人、しかもキリストと 共 同の相続人です。キリストと共に苦しむなら、共にその栄光をも受けるからです。

しょうらい えいこう
将 来の栄光
げんざい くる しょうらい あらわ えいこう くら と た おも ひぞうぶつ かみ こ あらわ せつ ま
¹⁸現在の苦しみは、将 来わたしたちに 現 されるはずの栄光に比べると、取るに足りないといわたしは思います。¹⁹被造物は、神の子たちの 現 れるのを切に待
のぞ ひぞうぶつ きよむ ふく じぶん いし ふくじゅう かた いし どうじ きぼう も
ち望んでいます。²⁰被造物は虚無に服していますが、それは、自分の意志によるものではなく、服 従 させた方の意志によるものであり、同時に希望も持っていま
ひぞうぶつ ほろ れいぞく かいほう かみ こども えいこう かがや じゅう ひぞうぶつ こんにち とも
す。²¹つまり、被造物も、いつか滅びへの隷属から解放されて、神の子供たちの栄光に 輝 く自由にあずかれるからです。²²被造物がすべて今日まで、共にうめ
とも う くる あじ し ひぞうぶつ れい はつぽ かみ こ
き、共に産みの苦しみを味わっていることを、わたしたちは知っています。²³被造物だけでなく、`霊`の初穂をいただいているわたしたちも、神の子とされるこ
からだ あがな こころ なか ま のぞ きぼう すく み たい
と、つまり、体 の 贖 われることを、心 の中でうめきながら待ち望んでいます。²⁴わたしたちは、このような希望によって救われているのです。見えるものに対
きぼう きぼう げん み のぞ め み のぞ にんたい ま のぞ
する希望は希望ではありません。現に見ているものをだれがなお望むでしょうか。²⁵わたしたちは、目に見えないものを望んでいるなら、忍耐して待ち望むので
す。

どうよう れい よわ たす いの し れい みずか ことば あらわ と
²⁶同様に、`霊`も弱いわたしたちを助けてくださいます。わたしたちはどう祈るべきかを知りませんが、`霊` 自 らが、言葉に 表 せないうめきをもって執
な ひと こころ みぬ かた れい おも なん し れい かみ みこころ したが せい もの
り成してくださるからです。²⁷人 の 心 を見抜く方は、`霊` の 思いが何であるかを知っておられます。`霊` は、神の御 心 に 従 って、聖なる者たちのために
と な かみ あい もの こけいかく したが め もの ばんじ えき とも はたら
執り成してくださるからです。²⁸神を愛する者たち、つまり、御計画に 従 って召された者たちには、万事が益となるように共に 働 くということを、わたしたち
し かみ まえ し もの み こ すがた に さだ み こ おお きょうだい なか ちょうし
は知っています。²⁹神は前もって知っておられた者たちを、御子の 姿 に似たものにしようとあらかじめ定められました。それは、御子が多く の 兄 弟の中で 長 子
と なるためです。³⁰神はあらかじめ定められた者たちを召し出し、召し出した者たちを義とし、義とされた者たちに栄光をお与えになったのです。

かみ かい
神の愛
なん い かみ みかた てきたい
³¹では、これらのことについて 何と言ったらよいだろうか。もし神がわたしたちの味方であるならば、だれがわたしたちに敵対できますか。³²わたしたちすべての
み こ お し わた かた み こ いっしょ たまわ かみ えら もの
ために、その御子をさえ惜まず死に渡された方は、御子と一緒にすべてのものをわたしたちに 賜 らないはずがありません。³³だれが神に選ばれた者たちを
うった ひと ぎ かみ つみ さだ し かた いな ふつかつ かた
訴 えるでしょう。人を義としてくださるのは神なのです。³⁴だれがわたしたちを罪に定めることができましよう。死んだ方、否、むしろ、復活させられた方であ
かみ みぎ すわ と な あい ひ はな
るキリスト・イエスが、神の右に座っていて、わたしたちのために執り成してくださるのです。³⁵だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができましょ
かんなん くる はくが い う はだか きけん つるぎ
う。艱難か。苦しみか。迫害か。飢えか。裸 か。危険か。剣 か。

たしたちは、あなたのために

にちじゅうし
一日 中 死にさらされ、
ぼふ ひつじ み
屠られる 羊 のように見られている」
か
と書いてあるとおりです。³⁷しかし、これらすべてのことにおいて、わたしたちは、わたしたちを愛してくださる方によって 輝 かしい 勝 利を収めています。³⁸わた
かくしん し いのち てんし しはい げんざい みらい ちから たか とこころ ひく とこころ
しは確信しています。死も、命 も、天使も、支配するものも、現在のもものも、未来のもものも、力 あるものも、³⁹高い 所 にいるものも、低い 所 にいるもの
た ひぞうぶつ しゅ しめ かみ あい ひ はな
も、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。

えら
イスラエルの選び
9
むす もの しんじつ かた いつわ い りょうしん せいれい あか ふか かな
⁴⁰わたしはキリストに結ばれた者として真実を語り、偽 りは言わない。わたしの 良 心も聖霊によって証ししていますが、⁴¹わたしは深い悲しみがあり、
こころ た ま いた じしん きょうだい にく どうほう はな かみ みす もの
わたしの 心 には絶え間ない痛みがあります。⁴²わたし自身、兄 弟たち、つまり肉による同胞のためならば、キリストから離され、神から見捨てられた者となつ
おも かれ たみ かみ こ みぶん えいこう けいやく りつぼう れいはい やくぞく かれ せんぞ かれ
てもよいとさえ思っています。⁴³彼らはイスラエルの民です。神の子としての身分、栄光、契約、律法、礼拝、約束は彼らのものです。⁴⁴先祖たちも彼らのもの

でにあり、肉によればキリストも彼らから出られたのです。キリストは、万物の上におられる、永遠にほめたたえられる神、アーメン。

ところで、神の言葉は決して効力かれ でを失ったわけではありません。イスラエルから出た者が皆、イスラエル人ということにはならず、また、アブラハムの子孫だからといって、皆がその子供ということにはならない。かえって、「イサクから生まれる者が、あなたの子孫と呼ばれる。」⁹すなわち、肉による子供が神の子供なのではなく、約束に従って生まれる子供が、子孫と見なされるのです。⁹約束の言葉は、「来年の今ごろに、わたしは来る。そして、サラには男の子が生まれる」というものでした。¹⁰それだけではなく、リベカが、一人の人、つまりわたしたちの父イサクによって身ごもった場合にも、同じことが言えます。¹¹⁻¹²その子供たちがまだ生まれもせず、善いことも悪いこともしていないのに、「兄は弟に仕えるであろう」とリベカに告げられました。それは、自由な選**び**による神の計画が人の行いにはよらず、お召しになる方によって進められるためでした。

わたしはヤコブを愛し、

「ウを憎んだ」
と書いてあるとおりです。

¹⁴では、どういうことになるのか。神に不義があるのか。決してそうではない。¹⁵神はモーセに、

わたしは自分が憐れもうと思う者を憐れみ、

しもうと思う者を慈しむ」
と言っておられます。¹⁶従って、これは、人の意志や努力ではなく、神の憐れみによるものです。¹⁷聖書にはファラオについて、「わたしがあなたを立てたのは、あなたによってわたしの力を現し、わたしの名を全世界に告げ知らせるためである」と書いてあります。¹⁸このように、神は御自分が憐れみたいと思う者を憐れみ、かたくなにしたいと思う者をかたくなにされるのです。

神の怒りと憐れみ
¹⁹ところで、あなたは言うでしょう。「ではなぜ、神はなおも人を責められるのだろうか。だれが神の御心に逆らうことができようか」と。²⁰人よ、神に口答えするとは、あなたは何者か。造られた物が造った者に、「どうしてわたしをこのように造ったのか」と言えるでしょうか。²¹焼き物師は同じ粘土から、一つを貴いことに用いる器に、一つを貴くないことに用いる器に造る権限があるのではないか。²²神はその怒りを示し、その力を知らせようとしておられたが、怒りの器として滅びることになっていた者たちを寛大な心で耐え忍ばれたとすれば、²³それも、憐れみの器として栄光を与えようと準備しておられた者たちに、御自分の豊かな栄光をお示しになるためであつたとすれば、どうでしょう。²⁴神はわたしたちを憐れみの器として、ユダヤ人からだけでなく、異邦人の中からも召し出してくださいました。²⁵ホセアの手紙にも、次のように述べられています。

わたしは、自分の民でない者をわたしの民と呼び、

されなかった者を愛された者と呼ぶ。

なたたちは、わたしの民ではない』

と言われたその場所で、

うは生ける神の子らと呼ばれる。」

²⁷また、イザヤはイスラエルについて、叫んでいます。「たとえイスラエルの子らの数が海辺の砂のようであっても、残りの者が救われる。²⁸主は地上において完全に、しかも速やかに、言われたことを行われる。」²⁹それはまた、イザヤがあらかじめこう告げていたとおりです。

主の軍の主がわたしたちに子孫を残されなかつたら、

：私たちはソドムのようになり、

ミラのようにされたであろう。」

イスラエルと福音

³⁰では、どういうことになるのか。義を求めなかった異邦人が、義、しかも信仰による義を得ました。³¹しかし、イスラエルは義の律法を追い求めていたのに、その律法に達しませんでした。³²なぜですか。イスラエルは、信仰によってではなく、行いによって達せられるかのように、考えたからです。彼らはつまずきの石につまずいたのです。

よ、わたしはシオンに、

いし　さまた　いわ　お
つまずきの石、妨げの岩を置く。

しん　もの　しつぽう
しを信じる者は、失望することがない」

いてあるとおりです。

10

きょうだい　かれ　すく　　こころ　ねが　かれ　かみ　いの　　かれ　ねっしん　かみ　つか　　あか
「兄弟たち、わたしは彼らが救われることを心から願い、彼らのために神に祈っています。¹わたしは彼らが熱心に神に仕えていることを証しますが、この
ねっしん　ただ　にんしき　もと　　かみ　ぎ　し　　じぶん　ぎ　もと　　かみ　ぎ　したが　　りっ
熱心さは、正しい認識に基づくものではありません。²なぜなら、神の義を知らず、自分の義を求めようとして、神の義に従わなかったからです。⁴キリストは律
ぽう　もくひょう　しん　もの　　ぎ
法の目標であります、信じる者すべてに義をもたらすために。

ばんにん　すく
万人の救い
　　りっぽう　　ぎ　　おきて　まも　ひと　おきて　　い　　しる　　しんこう　　ぎ　　の　　こころ
「モーセは、律法による義について、「掟を守る人は掟によって生きる」と記しています。⁵しかし、信仰による義については、こう述べられています。「心
なか　　てん　のぼ　　い　　ひ　　お　　　そこ　　ふち　　くだ　　い
の中で『だれが天に上るか』と言ってはならない。」これは、キリストを引き降ろすことにほかなりません。⁷また、「『だれが底なしの淵に下るか』と言ってもな
　　し　　し　　な　　か　　ひ　　あ　　なん　　い
らない。」これは、キリストを死者の中から引き上げることになります。⁸では、何と言われているのだろうか。

いことば　　ちか
「言葉はあなたの近くにあり、

　　くち　　こころ
「たの口、あなたの心にある。」
　　の　　つた　　しんこう　ことば　　くち　　しゅ　　おおやけ　　い　　あらわ　　こころ　　かみ　　し　　し　　なか　　ふつかつ　　しん
これは、わたしたちが宣べ伝えている信仰の言葉なのです。⁹口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信
すく　　じつ　　ひと　　こころ　　しん　　ぎ　　くち　　おおやけ　　い　　あらわ　　すく　　せいし　　しゅ　　しん　　もの
じるなら、あなたは救われるからです。¹⁰実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。¹¹聖書にも、「主を信じる者は、だれも
しつぽう　　か　　じん　　じん　　くべつ　　ひと　　おな　　しゅ　　こじぶん　　よ　　もと　　ひと　　ゆた　　めぐ
失望することがない」と書いてあります。¹²ユダヤ人とギリシア人の区別はなく、すべての人に同じ主がおられ、御自分を呼び求めるすべての人を豊かに恵み
　　しゅ　　な　　よ　　もと　　もの　　すく
になるからです。¹³「主の名を呼び求める者はだれでも救われる」のです。

しん　　しん　　かた　　よ　　もと　　き　　かた　　しん　　の　　つた　　ひと　　き
「ところで、信じたことのない方を、どうして呼び求められよう。聞いたことのない方を、どうして信じられよう。また、宣べ伝える人がなければ、どうして聞
　　つか　　の　　つた　　よ　　し　　つた　　もの　　あし　　うつく　　か
くことができよう。¹⁵遣わされないで、どうして宣べ伝えることができよう。「良い知らせを伝える者の足は、なんと美しいことか」と書いてあるとおりです。¹⁶し
　　ひと　　ふくいん　　したが　　しゅ　　き　　しん　　い　　じつ　　しんこう　　き
かし、すべての人が福音に従ったではありません。イザヤは、「主よ、だれがわたしたちから聞いたことを信じましたか」と言っています。¹⁷実に、信仰は聞
　　ことば　　き　　はじ　　たず　　たず　　き　　き
くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。¹⁸それでは、尋ねよう。彼らは聞いたことがなかったのだろうか。もちろん聞いたので
す。

こえ　ぜんち　ひび　わた
「の声は全地に響き渡り、

ことば　せかい　は　　およ
「言葉は世界の果てにまで及ぶ」

　　たず　　わ
のです。¹⁹それでは、尋ねよう。イスラエルは分からなかったのだろうか。このことについては、まずモーセが、

　　たみ　　もの
「わたしは、わたしの民でない者のことで

　　お
あなたがたにねたみを起こさせ、

　　たみ　　おこ
かな民のことであなたがたを怒らせよう」

　　だいたん
「ています。²⁰イザヤも大胆に、

「わたしは、

　　さが　　もの　　み
わたしを探さなかった者たちに見いだされ、

しを尋ねなかった者たちに自分を現した」

と言っています。²¹しかし、イスラエルについては、「わたしは、不従順で反抗する民に、一日中手を差し伸べた」と言っています。

イスラエルの残りの者

11

¹では、尋ねよう。神は御自分の民を退けられたのであろうか。決してそうではない。わたしもイスラエル人で、アブラハムの子孫であり、ベニヤミン族の者です。²神は、前もって知っておられた御自分の民を退けたりなさいませんでした。それとも、エリヤについて聖書に何と書いてあるか、あなたがたは知らないのですか。彼は、イスラエルを神にこう訴えています。「主よ、彼らはあなたの預言者たちを殺し、あなたの祭壇を壊しました。そして、わたしだけが残りました。が、彼らはわたしの命をねらっています。」³しかし、神は彼に何と告げているか。「わたしは、バアルにひざまずかなかった七千人を自分のために残しておいた」と告げておられます。⁴同じように、現に今も、恵みによって選ばれた者が残っています。⁵もしそれが恵みによらずれば、行いにはよりません。もしそうでなければ、恵みはもはや恵みではなくなります。⁷では、どうなのか。イスラエルは求めているものを得ないで、選ばれた者がそれを得たのです。他の者はかたくなにされたのです。

は、彼らに鈍い心、見えない目、

ええない耳を与えられた、今日に至るまで」
と書いてあるとおりです。⁸ダビデもまた言っています。

友らの食卓は、

自分たちの罾となり、網となるように。

ずきとなり、罰となるように。

の目はくらんで見えなくなるように。

うの背をいつも曲げておいてください。」

異邦人の救い

¹¹では、尋ねよう。ユダヤ人がつまずいたとは、倒れてしまったということなのか。決してそうではない。かえって、彼らの罪によって異邦人に救いがもたらされる結果になりましたが、それは、彼らにねたみを起こさせるためだったのです。¹²彼らの罪が世の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのであれば、まして彼らが皆救いにあずかるとすれば、どんなにかすばらしいことでしょう。

¹³では、あなたがた異邦人に言います。わたしは異邦人のための使徒であるので、自分の務めを光栄に思います。¹⁴何とかして自分の同胞にねたみを起こさせ、その幾人かでも救いたいのです。¹⁵もし彼らの捨てられることが、世界の和解となるならば、彼らが受け入れられることは、死者の中からの命でなくて何でしょう。¹⁶麦の初穂が聖なるものであれば、練り粉全体もそうであり、根が聖なるものであれば、枝もそうです。

¹⁷しかし、ある枝が折り取られ、野生のオリーブであるあなたが、その代わりに接ぎ木され、根から豊かな養分を受けるようになったからといって、¹⁸折り取られた枝に対して誇ってはなりません。誇ったところで、あなたが根を支えているのではなく、根があなたを支えているのです。¹⁹すると、あなたは、「枝が折り取られたのは、わたしが接ぎ木されるためだった」と言うでしょう。²⁰そのとおりです。ユダヤ人は、不信仰のために折り取られましたが、あなたは信仰によって立っています。思い上がってはなりません。むしろ恐れなさい。²¹神は、自然に生えた枝を容赦されなかったとすれば、恐らくあなたをも容赦されないでしょう。²²だから、神の慈しめと厳しさを考えなさい。倒れた者たちに対しては厳しさがあり、神の慈しみにとどまるかぎり、あなたに対しては慈しみがあるのです。もしとどまらないなら、あなたも切り取られるでしょう。²³彼らも、不信仰にとどまらないならば、接ぎ木されるでしょう。神は、彼らを再び接ぎ木することがおできになるのです。²⁴もしあなたが、もともと野生であるオリーブの木から切り取られ、元の性質に反して、栽培されているオリーブの木に接ぎ木されたとすれば、まして、元からこのオリーブの木に付いていた枝は、どれほどたやすく元の木に接ぎ木されることでしょう。

イスラエルの再興

25 兄 弟 たち、自分 を 賢 い 者 と う ぬ げ れ な い よ う に、次 の よ う な 秘 め ら れ た 計 画 を ぜ ひ 知 っ て も ら い た い。す な わ ち、一 部 の イ ス ラ エ ル 人 が か た く な っ た の は、異 邦 人 全 体 が 救 い に 達 す る ま で で あ り、26 こ う し て 全 イ ス ラ エ ル が 救 わ れ る と い う こ と で す。次 の よ う に 書 い て あ る と お り で す。

く かた き
な う 方 が シ オ ン か ら 来 て、

17 づ か ら 不 信 心 を 遠 さ け る。

こ そ、わ た し が、彼 ら の 罪 を 取 り 除 く と き に、

ら と 結 ぶ わ た し の 契 約 で あ る。」

28 福 音 に つ い て 言 え ば、イ ス ラ エ ル 人 は、あ な た が た の た め に 神 に 敵 対 し て い ま す が、神 の 選 び に つ い て 言 え ば、先 祖 た ち の お 陰 で 神 に 愛 さ れ て い ま す。29 神 の 賜 物 と 招 き と は 取 り 消 さ れ な い も の の で す。30 あ な た が た は、か つ て は 神 に 不 従 順 で し た が、今 は 彼 ら の 不 従 順 に よ っ て 憐 れ み を 受 け て い ま す。31 そ れ と 同 じ よ う に、彼 ら も、今 は あ な た が た が 受 け た 憐 れ み に よ っ て 不 従 順 に な っ て い ま す が、そ れ は、彼 ら 自 身 も 今 憐 れ み を 受 け る た め な の で す。32 神 は す べ て の 人 を 不 従 順 の 状 態 に 閉 じ 込 め ら れ ま し た が、そ れ は、す べ て の 人 を 憐 れ む た め だ っ た の で す。

33 ああ、神の富と知恵と知識のなんと深いことか。だれが、神の定めを究め尽くし、神の道を理解し尽くせよう。

つ た い だ れ が 主 の 心 を 知 っ て い た で あ ろ う か。

18 主 が 主 の 相 談 相 手 で あ っ た だ ろ う か。

が ま ず 主 に 与 え て、

報 い を 受 け る で あ ろ う か。」

38 す べ て の も の は、神 か ら 出 て、神 に よ っ て 保 た れ、神 に 向 か っ て い る の で す。栄 光 が 神 に 永 遠 に あ り ま す よ う に、ア ー メ ン。

キ リ ス ト に お け る 新 し い 生 活

12

1 こ う い う わ け で、兄 弟 たち、神 の 憐 れ み に よ っ て あ な た が た に 勧 め ま す。自 分 の 体 を 神 に 喜 ば れ る 聖 な る 生 け る い け に え と し て 献 げ な さ い。こ れ こ そ、あ な た が た の な す べ き 礼 拝 で す。2 あ な た が た は こ の 世 に 倣 っ て は な り ま せ ん。む し ろ、心 を 新 た に し て 自 分 を 変 え て い た だ き、何 が 神 の 御 心 で あ る か、何 が 善 い こ と で、神 に 喜 ば れ、ま た 完 全 な こ と で あ る か を わ き ま え る よ う に な り な さ い。

3 わ た し に 与 え ら れ た 恵 み に よ っ て、あ な た が た 一 人 一 人 に 言 い ま す。自 分 を 過 大 に 評 価 し て は な り ま せ ん。む し ろ、神 が 各 自 に 分 け 与 え て く だ さ っ た 信 仰 の 度 合 い に 応 じ て 慎 み 深 く 評 価 す べ き で す。4 と い う の は、わ た し た ち の 一 つ の 体 は 多 く の 部 分 か ら 成 り 立 っ て い て も、す べ て の 部 分 が 同 じ 働 き を し て い な い よ う に、5 わ た し た ち も 数 は 多 い が、キ リ ス ト に 結 ば れ て 一 つ の 体 を 形 づ く っ て お り、各 自 は 互 い に 部 分 な の で す。6 わ た し た ち は、与 え ら れ た 恵 み に よ っ て、そ れ ぞ れ 異 な っ た 賜 物 を 持 っ て い ま す か ら、預 言 の 賜 物 を 受 け て い れ ば、信 仰 に 応 じ て 預 言 し、7 奉 仕 の 賜 物 を 受 け て い れ ば、奉 仕 に 専 念 し な さ い。ま た、教 え る 人 は 教 え に、8 勧 め る 人 は 勧 め に 精 を 出 し な さ い。施 し を す る 人 は 惜 し ま ず 施 し、指 導 す る 人 は 熱 心 に 指 導 し、慈 善 を 行 う 人 は 快 く 行 い な さ い。

キ リ ス ト 教 的 生 活 の 規 範

9 愛 に は 偽 り が あ っ て は な り ま せ ん。惡 を 憎 み、善 か ら 離 れ ず、10 兄 弟 愛 を も っ て 互 い に 愛 し、尊 敬 を も っ て 互 い に 相 手 を 優 れ た 者 と 思 い な さ い。11 怠 ら ず 励 み、靈 に 燃 え て、主 に 仕 え な さ い。12 希 望 を も っ て 喜 び、苦 難 を 耐 え 忍 び、た ゆ ま ず 祈 り な さ い。13 聖 な る 者 た ち の 貧 し さ を 自 分 の も の と し て 彼 ら を 助 け、旅 人 を も て な す よ う 努 め な さ い。14 あ な た が た を 迫 害 す る 者 の た め に 祝 福 を 祈 り な さ い。祝 福 を 祈 る の で あ っ て、呪 っ て は な り ま せ ん。15 喜 ぶ 人 と 共 に 喜 び、泣 く 人 と 共 に 泣 き な さ い。16 互 い に 思 い を 一 つ に し、高 ぶ ら ず、身 分 の 低 い 人 々 と 交 わ り な さ い。自 分 を 賢 い 者 と う ぬ げ れ て は な り ま せ ん。17 だ れ に 対 し て も 惡 に 惡 を 返 さ ず、す べ て の 人 の 前 で 善 を 行 う よ う に 心 が け な さ い。18 で き れ ば、せ め て あ な た が た は、す べ て の 人 と 平 和 に 暮 ら し な さ い。19 愛 す る 人 た ち、自 分 で 復 讐 せ ず、神 の 怒 り に 任 せ な さ い。「『復 讐 は わ た し の す る こ と、わ た し が 報 復 す る』と 主 は 言 わ れ る」と 書 い て あ り ま す。20 「あ な た の 敵 が 飢 え て い た ら 食 べ さ せ、渴 い て い た ら 飲 ま せ よ。そ う す れ ば、燃 え る 炭 火 を 彼 の 頭 に 積 む こ と に な る。」21 惡 に 負 け る こ と な く、善 を も っ て 惡 に 勝 ち な さ い。

支 配 者 へ の 従 順

13

ひと みな うえ た けん い したが けん い さか もの
'人は皆、上に立つ權威に 従 うべきです。神に由来しない權威はなく、今ある權威はすべて神によって立てられたものだからです。'² 従 って、權威に逆らう者は、神の定めに背くことになり、背く 者は自分の身に裁きを招くでしょう。'³ 実際、支配者は、善を 行 う者にはそうではないが、悪を 行 う者には恐ろしい存在です。あなたは權威者を恐れないことを願っている。それなら、善を 行 いなさい。そうすれば、權威者からほめられるでしょう。'⁴ 權威者は、あなたに善を行 わせるために、神に仕える者なのです。しかし、もし悪を 行 えば、恐れなければなりません。權威者はいたずらに 剣 を帯びているのではなく、神に仕える者として、悪を 行 う者に怒りをもって報いるのです。'⁵ だから、怒りを逃れるためだけでなく、良 心のためにも、これに 従 うべきです。'⁶ あなたがたが 貢 を納めているのもそのためです。權威者は神に仕える者であり、そのことに励んでいるのです。'⁷ すべての人々に対して自分の義務を果たしなさい。貢 を納めるべき人には 貢 を納め、税を納めるべき人には税を納め、恐るべき人は恐れ、敬 うべき人は 敬 いなさい。

りんじんあい
隣人愛
たが あい あ
⁸ 互いに愛し合うことのほかは、だれに対しても借りがあつてはなりません。人を愛する者は、律法を 全 うしているのです。'⁹ 「姦淫するな、殺すな、盗むな、むさぼるな」、そのほかどんな 掟 があっても、「隣人を自分のように愛しなさい」という言葉に要約されます。'¹⁰ 愛は隣人に悪を 行 いません。だから、愛は律法を 全 うするものです。

すく ちか
救いは近づいている
さら いま とき し ねむ さ とき すで き いま しんこう はい
¹¹ 更に、あなたがたは今がどんな時であるかを知っています。あなたがたが眠りから覚めるべき時が既に来ています。今や、わたしたちが信仰に入ったところよりも、救いは近づいているからです。'¹² 夜は更け、日は近づいた。だから、闇の 行 いを脱ぎ捨てて 光 の武具を身に着けましょう。'¹³ 日 中 を歩むように、品位をもって歩もうではありませんか。酒宴と酩酊、淫乱と好 色 、争 いとねたみを捨て、'¹⁴ 主イエス・キリストを身にまといなさい。欲望を満足させようとして、肉に 心 を用いてはなりません。

きょうだい さば
兄弟を裁いてはならない
14
しんこう やわ ひと う い かんが ひはん なに た しん ひと やわ ひと やさい た
'信仰の弱い人を受け入れなさい。その 考 えを批判してはなりません。'² 何を食べてもよいと信じている人もいますが、弱い人は野菜だけを食べているのです。'³ 食べる人は、食べない人を輕蔑してはならないし、また、食べない人は、食べる人を裁いてはなりません。神はこのような人をも受け入れられたからです。'⁴ 他人の召し使いを裁くとは、いったいあなたは何者ですか。召し使いが立つのも倒れるのも、その主人によるのです。しかし、召し使いは立ちます。主は、その人を立たせることがおできになるからです。'⁵ ある日を他の日よりも 尊 ぶ人もいれば、すべての日を同じように 考 える人もいます。それは、各自が自分の 心 の確信に基づいて決めるべきことです。'⁶ 特定の日を重んじる人は主のために重んじる。食べる人は主のために食べる。神に感謝しているからです。また、食べない人も、主のために食べない。そして、神に感謝しているのです。'⁷ わたしたちの中には、だれ一人自分のために生きる人はなく、だれ一人自分のために死ぬ人もいません。'⁸ わたしたちは、生きるすれば主のために生き、死ぬすれば主のために死ぬのです。従 って、生きるにしても、死ぬにしても、わたしたちは主のもです。'⁹ キリストが死に、そして生きたのは、死んだ人にも生きている人にも主となられるためです。'¹⁰ それなのに、なぜあなたは、自分の 兄 弟を裁くのですか。また、なぜ 兄 弟を 侮 るのですか。わたしたちは皆、神の裁きの座の前に立つのです。'¹¹ こう書いてあります。

ゆ い
Eは言われる。

い
わたしは生きている。

まえ
ゐてのひさはわたしの前にかがみ、

した かみ
ゐての舌が神をほめたてる』と。」「
ひとりひとりが じぶん かみ もう の
¹² それで、わたしたちは一人一人、自分のことについて神に申し述べることになるのです。

きょうだい つみ さそ
兄弟を罪に誘ってはならない
した が さば あ
¹³ 従 って、もう互いに裁き合わないにしよう。むしろ、つまずきとなるものや、妨 げとなるものを、兄 弟の前に置かないように決心しなさい。'¹⁴ それ自体で汚れたものは何もないと、わたしは主イエスによって知り、そして確信しています。汚れたものだと思うならば、それは、その人にだけ汚れたものです。'¹⁵ あなたの食べ物について 兄 弟が 心 を痛めるならば、あなたはもはや愛に 従 って歩んでいません。食べ物のことで 兄 弟を滅ぼしてはなりません。キリストはあなたの 兄 弟のために死んでくださったのです。'¹⁶ ですから、あなたがたにとって善いことがそりの種にならないようにしなさい。'¹⁷ 神の国は、飲み食いではなく、聖霊によって与えられる義と平和と 喜 びなのです。'¹⁸ このようにしてキリストに仕える人は、神に 喜 ばれ、人々に信頼されます。'¹⁹ だから、平和や互いの向 上

やくだ お もと
に役立つことを追い求めようではありませんか。²⁰食べ物のために神の 働 きを無にしてはなりません。すべては清いのですが、食べて人を罪に誘う者には悪い物
にく た しゅ の きょうだい つみ さそ のぞ じぶん いだ かくしん かみ みまえ
となります。²¹肉も食べなければぶどう酒も飲まず、そのほか 兄 弟を罪に誘うようなことをしないのが望ましい。²²あなたは自分が抱いている確信を、神の御前
こころ うち も じぶん けっしん かん ひと さいわ うたが た ひと かくしん もと こうどう つみ さだ
で 心 の内に持つていなさい。自分の決心にやましさを感じない人は 幸 いです。²³疑 いながら食べる人は、確信に基づいて行動していないので、罪に定めら
れれます。確信に基づいていないことは、すべて罪なのです。

じぶん りんじん よろこ
自分ではなく隣人を 喜 ばせる

15

つよ もの つよ もの よわ にな じぶん まんぞく もと ぜん おこな りんじん よろこ たが こうじょう
‘わたしたち強い者は、強くない者の弱さを担うべきであり、自分の満 足を求めるべきではありません。²おのおの善を 行 って隣人を 喜 ばせ、互いの向 上 に
つと ご じぶん まんぞく もと
努めるべきです。³キリストも御自分の満 足はお求めになりませんでした。「あなたをそしる者のそしりが、わたしにふりかかった」と書いてあるとおりです。⁴かつ
か ことがら おし みちび せいしよ にんたい なぐさ まな きぼう も つつ
て書かれた事柄は、すべてわたしたちを教え 導 くためのものです。それでわたしたちは、聖 書から忍 耐と 慰 めを学んで希望を持ち続けることができるので
にんたい なぐさ みなもと かみ なら たが おな おも いだ こころ あ こえ しゅ
す。⁵忍 耐と 慰 めの 源 である神が、あなたがたに、キリスト・イエスに倣って互いに同じ思いを抱かせ、⁶心 を合わせ声をそろえて、わたしたちの主イエ
かみ ちち かた
ス・キリストの神であり、父である方をたたえさせてくださいますように。

ふくいん じん い ほうじん
福音はユダヤ人と異邦人のためにある

かみ えいこう う い たが あいて う い い かみ
‘だから、神の栄 光のためにキリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに相手を受け入れなさい。⁷わたしは言う。キリストは神の
しんじつ あらわ かつれい もの つか もの せんぞ たい やくそく かくしやう い ほうじん かみ あわ
真 実を 現 すために、割 礼ある者たちに仕える者となられたのです。それは、先祖たちに対する約 束を確 証 されるためであり、⁸異邦 人が神をその憐れみのゆ
えにたたえるようになるためです。

い ほうじん なか
‘のため、わたしは異邦 人の中であなたがたをたたえ、

な うた
‘たの名をほめ歌おう」

いてあるとおりです。¹⁰また、

ほうじん しゅ たみ とも よろこ
異邦人よ、主の民と共に 喜 べ」

さら
‘れ、¹¹更に、

い ほうじん しゅ
‘べての異邦 人よ、主をたたえよ。

たみ しゅ さんび
‘ての民は主を賛美せよ」

い い
と言われています。¹²また、イザヤはこう言っています。

ね め あらわ
‘ツサイの根から芽が 現 れ、

うじん おさ た あ
‘人を治めるために立ち上がる。

うじん かれ のぞ
‘人は彼に望みをかける。」
きぼう みなもと かみ しんこう え よろこ へいわ み せいれい ちから きぼう み
¹³希望の 源 である神が、信 仰によって得られるあらゆる 喜 びと平和とであなたがたを満たし、聖 霊の 力 によって希望に満ちあふれさせてくださるよう。

せんきやうしや し めい
宣 教 者パウロの使 命

きやうだい じしん ぜんい み ちしき み たが いまし あ かくしん きおく あら
¹⁴兄 弟たち、あなたがた自身は善意に満ち、あらゆる知識で満たされ、互いに 戒 め合うことができると、このわたしは確信しています。¹⁵記憶を新たにしても
てがみ おも き か かみ めぐ い ほうじん つか もの
らおうと、この手紙ではところどころかなり思い切って書きました。それは、わたしが神から恵みをいただいて、¹⁶異邦 人のためにキリスト・イエスに仕える者と
かみ ふくいん さいし やく つと い ほうじん せいれい せい かみ よろこ そな もの
なり、神の福 音のために祭司の役を務めているからです。そしてそれは、異邦 人が、聖 霊によって聖なるものとされた、神に 喜 ばれる供え物となるためにほ
かみ はたら ほこ おも とお はたら いがい
かなりません。¹⁷そこでわたしは、神のために 働 くことをキリスト・イエスによって誇りに思っています。¹⁸キリストがわたしを通して 働 かれたこと以外は、あえ

なに もう いほうじん かみ したが こと ば おこな とお きせき ちから かみ れい ちから はたら
て何も申しません。キリストは異邦人を神に 従 わせるために、わたしの言葉と 行 いを通して、¹⁹また、しるしや奇跡の 力 、神の霊の 力 によって 働 かれま
した。こうしてわたしは、エルサレムからイリリコン 州 まで巡って、キリストの福 音をあまねく 宣べ伝えました。²⁰このようにキリストの名がまだ知られていない
ところ ふくいん つ し ねつしん つと たにん きず どだい うえ た
所 で福 音を告げ知らせようと、わたしは熱心に努めてきました。それは、他人の築いた土台の上に建てたりしないためです。

つ ひとびと み
のことを告げられていなかった人々が見、

ひとびと さと
いなかった人々が悟るであろう」
か
と書いてあるとおりです。

ほうもん けいかく
ローマ訪問の計画
22 こういうわけで、あなたがたのところに何度も行こうと思ひながら、 妨 げられてきました。²³しかし今は、もうこの地方に 働 く場所がなく、その上、何 年 も
まえ 前からあなたがたのところにいきたいと切 望していたので、²⁴イスパニアに行くとき、訪ねたいと思います。途 中 であなたがたに会い、まず、しばらくの 間 で
も、あなたがたと共にいる 喜 びを味わってから、イスパニアへ向けて送り出してもらいたいのです。²⁵しかし今は、聖なる者たちに仕えるためにエルサレムへ行き
ます。²⁶マケドニア 州 とアカイア 州 の人々が、エルサレムの聖なる者たちの中の貧しい人々を援助することに 喜 んで同意したからです。²⁷彼らは 喜 んで同
意しましたが、実はそうする義務もあるのです。異邦人はその人たちの霊的なものにあずかったのですから、肉のもので彼らを助ける義務があります。²⁸それで、
わたしはこのことを済ませてから、つまり、募金の成果を確実に手渡した後、あなたがたのところを経てイスパニアに行きます。²⁹そのときには、キリストの 祝 福
をあふれるほど持つて、あなたがたのところにいくことになると思っています。

きょうだい しゆ れい あた あい ねが いつしよ
³⁰ 兄 弟たち、わたしたちの主イエス・キリストによって、また、`霊` が与えてくださる愛によってお願いします。どうか、わたしのために、わたしと一緒に
かみ ねつしん いの ふしん もの まも たい ほうし せい もの かんげい
神に熱心に祈ってください、³¹わたしがユダヤにいる不信の者たちから守られ、エルサレムに対するわたしの奉仕が聖なる者たちに歓迎されるように、³²こうし
て、神の御 心 によって 喜 びのうちにそちらへ行き、あなたがたのもて憩うことができるように。³³平和の 源 である神があなたがた一同と共におられるよう
に、アーメン。

こじんてき あいさつ
個人的な挨拶

16

きょうかい ほうししや しまい しょうかい せい もの しゆ むす もの かの
1 ケンクレアイの 教 会の奉仕者でもある、わたしたちの姉妹フェベを 紹 介します。²どうか、聖なる者たちにふさわしく、また、主に結ばれている者らしく彼
じょ むか い たす ひつよう たす
女を迎え入れ、あなたがたの助けを必要とするなら、どんなことでも助けてあげてください。彼女は多くの人々の援助者、特にわたしの援助者です。

むす きょうりよくしや いのち せい もの
³キリスト・イエスに結ばれてわたしの 協 力 者となっている、プリスカとアクラによろしく。⁴命 がけでわたしの 命 を守ってくれたこの人たちに、わたしだけ
いほうじん きょうかい かんしや かれ いえ あつ きょうかい ひとびと つた あい
でなく、異邦人のすべての 教 会が感謝しています。⁵また、彼らの家に集まる 教 会の人々にもよろしく伝えてください。わたしの愛するエパイネトによろし
く。彼はアジア 州 でキリストに献げられた初穂です。⁶あなたがたのために非 常 に苦勞したマリアによろしく。⁷わたしの同胞で、一緒に捕らわれの身となった
ことのある、アンドロニコとユニアスによろしく。この二人は使徒たちの中で目立っており、わたしより前にキリストを信じる者になりました。⁸主に結ばれている
あい 愛するアンブリアトによろしく。⁹わたしたちの 協 力 者としてキリストに仕えているウルバノ、および、わたしの愛するスタキスによろしく。¹⁰真のキリスト信
じゃ け ひとびと どうほう け なか しゆ しん ひとびと しゆ
者アペレによろしく。アリストプロ家の人々によろしく。¹¹わたしの同胞ヘロディオンによろしく。ナルキソ家の中で主を信じている人々によろしく。¹²主のため
くろう はたら しゆ ひじょう くろう あい しゆ むす えら もの
に苦勞して 働 いているトリファイナとトリフォサによろしく。主のために非 常 に苦勞した愛するペルシスによろしく。¹³主に結ばれている選ばれた者ルフォ
ス、およびその母によろしく。彼女はわたしにとっても母なのです。¹⁴アシンクリト、フレゴン、ヘルメス、パトロバ、ヘルマス、および彼らと一緒にいる 兄 弟
たちによろしく。¹⁵フィロロゴとユリアに、ネレウスとその姉妹、またオリンパ、そして彼らと一緒にいる聖なる者たち一同によろしく。¹⁶あなたがたも、聖なる
くち たが あいさつ か きょうかい い
口づけによって互いに挨拶を交わしなさい。キリストのすべての 教 会があなたがたによろしくと言っています。

きょうだい すず まな おし はん ふわ ひとびと けいかい かれ とお
¹⁷ 兄 弟たち、あなたがたに勧めます。あなたがたの学んだ教えに反して、不和やつまずきをもたらす人々を警戒しなさい。彼らから遠ざかりなさい。¹⁸こうい
ひとびと しゆ つか じぶん はら つか ことば ことば じゆんぼく ひとびと ころ あざむ
う人々は、わたしたちの主であるキリストに仕えないで、自分の腹に仕えている。そして、うまい言葉やへつらいの言葉によって 純 朴な人々の 心 を 欺 いて
いるのです。¹⁹あなたがたの 従 順 は皆に知られています。だから、わたしはあなたがたのことを 喜 んでいます。なおその上、善にさとく、悪には疎くあること
のぞ へいわ みなもと かみ ま あし した う くだ しゆ めぐ とも
を望みます。²⁰平和の 源 である神は間もなく、サタンをあなたがたの足の下で打ち砕かれるでしょう。わたしたちの主イエスの恵みが、あなたがたと共にある
ように。

きょうりよくしや どうほう い てがみ ひつき
²¹わたしの 協 力 者テモテ、また同胞のルキオ、ヤソン、ソシパトロがあなたがたによろしくと言っています。²²この手紙を筆記したわたしテルティオが、キリス
むす もの あいさつ きょうかいぜんたい せ わ いえ しゆじん しん けい
トに結ばれている者として、あなたがたに挨拶いたします。²³わたしとこちらの 教 会全体が世話になっている家の主人ガイオが、よろしくとのことです。市の経
りがかかり きょうだい い
理 係 エラストと 兄 弟のクアルトが、よろしくと言っています。†

かみ きんぴ
神への賛美

かみ ふくいん せんきょう つよ ふくいん よ よ かく
²⁵神は、わたしの福 音すなわちイエス・キリストについての宣 教 によって、あなたがたを強めることがおできになります。この福 音は、世々にわたって隠され
ひ けいかく けいじ けいかく いま あらわ えいえん かみ めいれい よげんしや か もの とお しんこう じゅうじゆん
ていた、秘められた計 画を啓示するものです。²⁶その計 画は今や 現 されて、永 遠の神の命 令のままに、預言者たちの書き物を通して、信仰による 従 順に

みちび　いほうじん　し
導くため、すべての異邦人に知られるようになりました。²⁷この知恵ある唯一の神に、イエス・キリストを通して栄光が世々限りなくありますように、アーメン。

底本に節が欠けている個所の異本による訳文

16²⁴　わたしたちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがた一同と共にあるように。

[1章](#) [2章](#) [3章](#) [4章](#) [5章](#)

[6章](#) [7章](#) [8章](#) [9章](#) [10章](#)

[11章](#) [12章](#) [13章](#) [14章](#) [15章](#)

[16章](#)

[【戻る】](#)

しんと てがみ
コリントの信徒への手紙 一

あいさつ かんしゃ
挨拶と感謝

1

かみ み ころも め し と きょうだい かみ きょうかい いた
'神の御 心 によって召されてキリスト・イエスの使徒となったパウロと、 兄 弟ソステネから、²コリントにある神の 教 会へ、すなわち、至るところでわたしたち
の主イエス・キリストの名を呼び求めているすべての人と共に、キリスト・イエスによって聖なる者とされた人々、召されて聖なる者とされた人々へ。イエス・
キリストは、この人たちとわたしたちの主であります。³わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように。
⁴わたしは、あなたがたがキリスト・イエスによって神の恵みを受けたことについて、いつもわたしの神に感謝しています。⁵あなたがたはキリストに結ばれ、あら
ゆる言葉、あらゆる知識において、すべての点で豊かにされています。⁶こうして、キリストについての証しがあるあなたがたの間 で確かなものとなったので、⁷その結
果、あなたがたは賜物に何一つ欠けるところがなく、わたしたちの主イエス・キリストの 現 れを待ち望んでいます。⁸主も最後まであなたがたをしつかり支え
て、わたしたちの主イエス・キリストの日に、非のうちどころのない者にしてくださいます。⁹神は真実な方です。この神によって、あなたがたは神の子、わたし
たちの主イエス・キリストとの交わりに招き入れられたのです。

いつち すず
一致の勧め

きょうだい しゆ な かんこく みな かつて い なか ころも おも
¹⁰さて、兄 弟たち、わたしたちの主イエス・キリストの名によってあなたがたに 勧 告します。皆、勝手なことを言わず、仲たがいせず、心 を一つにし 思いを
一つにして、固く 結び合いなさい。"わたしの 兄 弟たち、実はあなたがたの間 に 争 いがあると、クロエの家の人たちから知らされました。¹²あなたがたはめいめ
い、「わたしはパウロにつく」「わたしはアポロに」「わたしはケファに」「わたしはキリストに」などと言い合っているとのこと。す。¹³キリストは幾つにも分けら
れてしまったのですか。パウロがあなたがたのために 十 十字架につけられたのですか。あなたがたはパウロの名によって 洗礼 を受けたのですか。¹⁴クリスボとガイ
オ以外に、あなたがたのだれにも 洗礼 を授けなかったことを、わたしは神に感謝しています。¹⁵だから、わたしの名によって 洗礼 を受けたなどと、だれも
言えないはず。す。¹⁶もつとも、ステファナの家の人たちにも 洗礼 を授けましたが、それ以外はだれにも授けた覚えはありません。¹⁷なぜなら、キリストがわた
しを遣わされたのは、 洗礼 を授けるためではなく、福音 を告げ知らせるためであり、しかも、キリストの 十 十字架がむなしいものになってしまわぬように、言
葉の知恵によらないで告げ知らせるためだからです。

かみ ちから かみ ちえ
神の力、神の知恵であるキリスト

じゅうじ か ことば ほろ もの おろ すく もの かみ ちから か
¹⁸十 十字架の言葉は、減んでいく 者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる 者には神の 力 です。¹⁹それは、こう書いてあるからです。

ちえ もの ちえ ほろ
わたしは知恵ある者の知恵を減ぼし、

もの かしこ い み
い者の 賢 さを意味のないものにする。」

ちえ ひと がくしゃ よ ろんきやく かみ よ ちえ おろ よ じぶん ちえ かみ し
²⁰知恵のある人はどこにいる。学 者はどこにいる。この世の論 客 はどこにいる。神は世の知恵を愚かなものにされたではないか。²¹世は自分の知恵で神を知ること
ができませんでした。それは神の知恵になっっています。そこで神は、宣 教 という愚かな手段によって信じる者を救おうと、お 考 えになったのです。²²ユダヤ
人はしるしを求め、ギリシア人は知恵を探しますが、²³わたしたちは、十 十字架につけられたキリストを宣べ伝えています。すなわち、ユダヤ人にはつまずかせるも
の、異邦人には愚かなものですが、²⁴ユダヤ人であろうがギリシア人であろうが、召された者には、神の 力、神の知恵であるキリストを宣べ伝えているのです。²⁵
神の愚かさとは人よりも 賢 く、神の弱さは人よりも強いからです。

きょうだい め おも お にんげんてき み ちえ もの おお のうりよく もの いえがら
²⁶兄 弟たち、あなたがたが召されたときのことを、思い起こしてみなさい。人 間的に見て知恵のある者が多かったわけではなく、能 力 のある者や、家柄のよ
い者が多かったわけでもありません。²⁷ところが、神は知恵ある者に恥 をかかせるため、世の無学な者を選び、力 ある者に恥 をかかせるため、世の無 力 な者を
選ばれました。²⁸また、神は地位のある者を無 力 な者とするため、世の無に等しい者、身分の卑しい者や見下げられている者を選ばれたのです。²⁹それは、だれ
ひとり 神の前で誇る事がなくするようにするためです。³⁰神によってあなたがたはキリスト・イエスに結ばれ、このキリストは、わたしたちにとって神の知恵とな
り、義と聖と 贖 いとなられたのです。³¹「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりになるためです。

じゅうじ か の つた
十 十字架につけられたキリストを宣べ伝える

2

きょうだい い かみ ひ けいかく の つた すぐ ことば ちえ もち あいだ
¹兄 弟たち、わたしもそちらに行つたとき、神の秘められた計 画を宣べ伝えるのに 優れた言葉や知恵を用いませませんでした。²なぜなら、わたしはあなたがたの間
で、イエス・キリスト、それも 十 十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと 心 に決めていたからです。³そちらに行つたとき、わたしは衰 弱 していて、恐
れに取りつかれ、ひどく不安でした。⁴わたしの言葉もわたしの宣 教 も、知恵にあふれた言葉によらず、⁵「霊」と 力 の 証 明によるものでした。⁶それは、あなた
がたが人の知恵によってではなく、神の 力 によって信じるようになるためでした。

神の霊による啓示
しかし、わたしたちは、信仰に成熟した人たちの間では知恵を語ります。それはこの世の知恵ではなく、また、この世の滅びゆく支配者たちの知恵でもありません。わたしたちが語るのは、隠されていた、神秘としての神の知恵であり、神がわたしたちに栄光を与えるために、世界の始まる前から定めておられたものです。この世の支配者たちはだれ一人、この知恵を理解しませんでした。もし理解していたら、栄光の主を十字架につけはしなかったでしょう。しかし、このことは、

目が見もせず、耳が聞きもせず、

心 に思い浮かびもしなかったことを、

御自分を愛する者たちに準備された」
と書いてあるとおりです。わたしたちには、神が「霊」によってそのことを明らかに示してくださいました。「霊」は一切のことを、神の深みさえも究めます。人の内にある霊以外に、いったいだれが、人のことを知るでしょうか。同じように、神の霊以外に神のことを知る者はいません。わたしたちは、世の霊ではなく、神からの霊を受けました。それでわたしたちは、神から恵みとして与えられたものを知るようになったのです。そして、わたしたちがこれについて語るのも、人の知恵に教えられた言葉によるのではなく、「霊」に教えられた言葉によっています。つまり、霊的なものによって霊的なことを説明するのです。自然の人は神の霊に属する事柄を受け入れません。その人にとって、それは愚かなことであり、理解できないのです。霊によって初めて判断できるからです。霊の人は一切を判断しますが、その人自身はだれからも判断されたりしません。

れが主の思いを知り、

を教えるというのか。」

しかし、わたしたちはキリストの思いを抱いています。

3
兄弟たち、わたしはあなたがたには、霊の人に対するように語ることができず、肉の人、つまり、キリストとの関係では乳飲み子である人々に対するように語りました。わたしはあなたがたに乳を飲ませて、固い食物は与えませんでした。まだ固い物を口にすることができなかったからです。いや、今でもできません。相変わらず肉の人だからです。お互いの間にねたみや争いが絶えない以上、あなたがたは肉の人であり、ただの人として歩んでいる、ということになりはしませんか。ある人が「わたしはパウロにつく」と言い、他の人が「わたしはアポロに」などと言っているとすれば、あなたがたは、ただの人にすぎないではありませんか。アポロとは何者か。また、パウロとは何者か。この二人は、あなたがたを信仰に導くためにそれぞれ主がお与えになった分に応じて仕えた者です。わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です。植える者と水を注ぐ者とは一つですが、それぞれが働きに応じて自分の報酬を受け取ることになります。わたしたちは神のために力を合わせて働く者であり、あなたがたは神の畑、神の建物なのです。

わたしは、神からいただいた恵みによって、熟練した建築家のように土台を据えました。そして、他の人がその上に家を建てています。ただ、おのおの、どのように建てるかに注意すべきです。イエス・キリストという既に据えられている土台を無視して、だれもほかの土台を据えることはできません。この土台の上に、だれかが金、銀、宝石、木、草、わらで家を建てる場合、おのおのの仕事は明るみに出されます。かの日にそれは明らかにされるのです。なぜなら、かの日が火と共に現れ、その火はおのおのの仕事がどんなものであるかを吟味するからです。だれかがその土台の上に建てた仕事が残れば、その人は報いを受けますが、燃え尽きてしまえば、損害を受けます。ただ、その人は、火の中をくぐり抜けて来た者のように、救われます。あなたがたは、自分が神の神殿であり、神の霊が自分たちの内に住んでいることを知らないのですか。神の神殿を壊す者がいれば、神はその人を滅ぼされるでしょう。神の神殿は聖なるものだからです。あなたがたはその神殿なのです。

だれも自分を欺いてはなりません。もし、あなたがたのだれかが、自分はこの世で知恵のある者だと考えているなら、本当に知恵のある者となるために愚かな者になりなさい。この世の知恵は、神の前では愚かなものだからです。

事は、知恵のある者たちを

その悪賢さによって捕らえられる」
と書いてあり、また、

ゆ し
Eは知っておられる、

、もの ろんご
「のある者たちの論議がむなしいことを」

とも書いてあります。²¹ですから、だれも人間を誇ってはなりません。すべては、あなたがたのものです。²²パウロもアポロもケファも、世界も生も死も、今起こつて
しょうらいお いっさい かみ
ていることも 将 来起こることも。一切はあなたがたのもの、²³あなたがたはキリストのもの、キリストは神のものなのです。

し と しめい
使徒の使命

4

、こういうわけですから、人はわたしたちをキリストに仕える者、神の秘められた計画をゆだねられた管理者と考 えるべきです。²この場合、管理者に要 求 さ
ちゅうじつ さば じぶん なに ぎ さば しゅ じぶん
れるのは 忠 実であることです。³わたしにとっては、あなたがたから裁かれようと、人間の法廷で裁かれようと、少しも問題ではありません。わたしは、自分で
自分 裁くことすらしません。⁴自分には何もやましいところはないが、それでわたしが義とされているわけではありません。わたしを裁くのは主なのです。⁵ですか
しゅ こ さきばし なに さば しゅ やみ なか かく ひみつ あか だ ひと こころ くわだ あき
ら、主が来られるまでは、先走って何も裁いてはいけません。主は闇の中に隠されている秘密を明るみに出し、人の 心 の 企 てをも明らかにされます。そのと
かみ
き、おのおのは神からおほめにあずかります。

。きょうだい おも じしん あ の れい か
。兄 弟たち、あなたがたのために思い、わたし自身とアポロに当てはめて、このように述べてきました。それは、あなたがたがわたしたちの例から、「書かれて
いじよう で まな ひとり も あ ひとり たか
いるもの以 上 に出ない」ことを学ぶためであり、だれも、一人を持ち上げてほかの一人をないがしろにし、高ぶることがないようにするためです。⁷あなたをほかの
もの すぐ もの も
者たちよりも、優れた者としたのは、だれです。いったいあなたの持っているもので、いまだかなかったものがあるでしょうか。もしいただいたのなら、なぜいただ
かお たか すで まんぞく すで おおがねも ぬ かつて おうさま
かなかったような顔をして高ぶるのですか。⁸あなたがたは既に満足し、既に大金持ちになっており、わたしたちを抜きにして、勝手に王 様になっています。いや
いっさい おうさま おも じしん じぶん
実際、王 様になっていてくれたらと思います。そうしたら、わたしたちも、あなたがたと一緒に王 様になれたはずですから。⁹考 えてみると、神はわたしたち使
と しけいしゅう さいご ひ だ もの せかいじゅう てんし ひと み もの し
徒を、まるで死刑 囚 のように最後に引き出される者となさいました。わたしたちは世界 中 に、天使にも人にも、見せ物となりましたからです。¹⁰わたしたちはキリス
おろ もの しん かしこ もの よわ つよ ぜんけい
トのために愚 かな者となっているが、あなたがたはキリストを信じて 賢 い者となっています。わたしたちは弱いが、あなたがたは強い。あなたがたは尊 敬されてい
ぶじよく いま いま う かわ き もの ぎやくたい み よ ところ くらう じぶん て かせ
るが、わたしたちは侮 辱 されています。¹¹今の今までわたしたちは、飢え、渇き、着る物がなく、 虐 待され、身を寄せる 所 もなく、¹²苦 労して自分の手で稼い
ぶじよく しゅくふく はくがい た のし やさ ことば かせ いま いた よ くず
でいます。侮 辱 されては 祝 福 し、迫害されては耐え忍び、¹³ののしられては優しい言葉を返しています。今に至るまで、わたしたちは世の屑、すべてのものの
かす
滓とされています。

。か はじ あい じぶん こども さと みちび よういくがかり まん
。こんなことを書くのは、あなたがたに恥をかかせるためではなく、愛する自分の子供として諭すためなのです。¹⁴キリストに 導 く養 育 係 があなたがたに一万
にん ちちおや おおぜい ふくいん とお すす
人いたとしても、父 親が大 勢いるわけではない。福音を通し、キリスト・イエスにおいてわたしがあなたがたをもうけたのです。¹⁵そこで、あなたがたに勧めま
なら もの つか くれ あい こ しゅ ちゅうじつ もの いた
す。わたしに倣う者になりなさい。¹⁷テモテをそちらに遣わしたのは、このことのためです。彼は、わたしの愛する子で、主において 忠 実な者であり、至るところ
きょうかい おし むす い かた おも お
のすべての 教 会でわたしが教えているとおり、キリスト・イエスに結ばれたわたしの生き方を、あなたがたに思い起こさせることでしよう。¹⁸わたしがもう一
ど い み たか もの しゅ みこころ い
度あなたがたのところへ行 くようなことはないを見て、高ぶっている者がいるそうです。¹⁹しかし、主の御 心 であれば、すぐにでもあなたがたのところに行こう。そ
たか ひと ことば ちから み かみ くに ことば ちから のぞ
して、高ぶっている人たちの、言葉ではなく 力 を見せてもらおう。²⁰神の国は言葉ではなく 力 にあるのですから。²¹あなたがたが望むのはどちらですか。わたし
むち も い あい にゆうわ ころう い
があなたがたのところへ鞭を持って行くことですか、それとも、愛と 柔 和な 心 で行くことですか。

ふどうとく ひとびと こうさい
不道德な人々との交際

5

げん き あいだ おこな いほうじん あいだ おこな ひと ちち つま
。現に聞くとところによると、あなたがたの 間 にみだらな 行 いがあり、しかもそれは、異邦人の 間 にもないほどのみだらな 行 いで、ある人が父の妻をわがもの
としていたとことです。²それにもかかわらず、あなたがたは高ぶっているのか。むしろ悲しんで、こんなことをする者を自分たちの 間 から除外すべきではな
からだ はな れい たか かな もの のすで さば
かったのですか。³わたしは 体 では離れていても霊ではそこにて、現に居合わせた者のように、そんなことをした者を既に裁いてしまっています。⁴つまり、わた
しゅ な しゅ ちから れい あつ もの にく ぼろ ひ
したちの主イエスの名により、わたしたちの主イエスの 力 をもって、あなたがたとわたしの霊が集まり、⁵このような者を、その肉が滅ぼされるようにサタンに引
わた しゅ ひ くれ れい すく ぼこ だね ね こぜんたい ふく し
き渡したのです。それは主の日に彼の霊が救われるためです。⁶あなたがたが誇っているのは、よくない。わずかなパン種が練り粉全体を影らませることを、知ら
あたら ね こ ふる だね と のぞ げん だね はい もの
ないのですか。⁷いつも 新 しい練り粉のままでいられるように、古いパン 種をきれいに取り除きなさい。現に、あなたがたはパン 種の人っていない者なのです。キ
すぎこし こひつじ ぼふ ふる だね あくい じゃあく だね もち だね はい じゆんすい しん
リストが、わたしたちの過 越の小 羊 として屠られたからです。⁸だから、古いパン 種や悪意と邪 惡のパン 種を用いないで、パン 種の人っていない、純 粋で真
じつ すぎこしさい いわ
実のパンで過 越祭を祝おうではありませんか。

。いぜん てがみ もの こうさい か い み よ もの ごうよく もの ひと もの うば もの ごうぞう
。わたしは以前手紙で、みだらな者と交 際してはいけなと書きましたが、¹⁰その意味は、この世のみだらな者とか強 欲な者、また、人の物を奪う者や偶 像を
れいはい もの いっさい よ なか て い
礼 拝する者たちと一切つきあつてはならない、ということではありません。もし、そうだとしたら、あなたがたは世の中から出て行かねばならないでしょう。¹¹わた
か きょうだい よ ひと もの ごうよく もの ごうぞう れいはい もの ひと わる い もの さけ もの ひと もの うば もの
しが書いたのは、兄 弟と呼ばれる人で、みだらな者、強 欲な者、偶 像を礼 拝する者、人を悪く言う者、酒におぼれる者、人の物を奪う者がいれば、つきあ
ひと いっしょ しょくじ がいふ ひとびと さば つと ないふ ひとびと
うな、そのような人とは一緒に 食 事もするな、ということだったのです。¹²外部の人々を裁くことは、わたしの務めでしょうか。内部の人々をこそ、あなたがた
さば がいふ ひとびと かみ さば なか わる もの のぞ さ
は裁くべきではありませんか。¹³外部の人 々は神がお裁きになります。「あなたがたの中から悪い者を除き去りなさい。」

信仰のない人々に訴え出てはならない

6

あなたがたの間で、一人が仲間の者と争いを起こしたとき、聖なる者たちに訴え出ないで、正しくない人々に訴え出るようなことを、なぜするのです。²あなたがたは知らないのですか。聖なる者たちが世を裁くのです。世があなたがたによって裁かれるはずなのに、あなたがたにはささいな事件すら裁く力がないのですか。³わたしたちが天使たちさえ裁く者だということを、知らないのですか。まして、日常の生活にかかわる事は言うまでもありません。⁴それなのに、あなたがたは、日常の生活にかかわる争いがあると、教会では疎んじられている人たちを裁判官の席に着かせるのですか。⁵あなたがたを恥じ入らせるために、わたしは言っています。あなたがたの中には、兄弟を仲裁できるような知恵のある者が、一人もないのですか。⁶兄弟が兄弟を訴えるのですか。しかも信仰のない人々の前で。⁷そもそも、あなたがたの間に裁判さたがあること自体、既にあなたがたの負けです。なぜ、むしろ不義を甘んじて受けないのです。なぜ、むしろ奪われるままでないのです。⁸それどころか、あなたがたは不義を行い、奪い取っています。しかも、兄弟たちに対してそういうことをしている。⁹正しくない者が神の国を受け継がないことを、知らないのですか。思い違いをしてはいけません。みだらな者、偶像を礼拝する者、姦通する者、男娼、男色をする者、¹⁰泥棒、強欲な者、酒におぼれる者、人を悪く言う者、人の物を奪う者は、決して神の国を受け継ぐことができません。¹¹あなたがたの中にはそのような者もいました。しかし、主イエス・キリストの名とわたしたちの神の霊によって洗われ、聖なる者とされ、義とされています。

聖霊の住まいである体

¹²「わたしには、すべてのことが許されている。」しかし、すべてのことが益になるわけではない。「わたしには、すべてのことが許されている。」しかし、わたしは何事にも支配されはしない。¹³食物は腹のため、腹は食物のためにあるが、神はそのいずれをも滅ぼされます。体はみだらな行いのためではなく、主のためであり、主は体のためにおられるのです。¹⁴神は、主を復活させ、また、その力によってわたしたちをも復活させてくださいます。¹⁵あなたがたは、自分の体がキリストの体の一部だとは知らないのか。キリストの体の一部を娼婦の体の一部としてもよいのか。決してそうではない。¹⁶娼婦と交わる者はその女と一つの体となる、ということを知らないのですか。「二人は一体となる」と言われています。¹⁷しかし、主に結び付く者は主と一つの霊となるのです。¹⁸みだらな行いを避けなさい。人が犯す罪はすべて体の外にあります。しかし、みだらな行いをする者は、自分の体に対して罪を犯しているのです。¹⁹知らないのですか。あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです。²⁰あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。だから、自分の体で神の栄光を現しなさい。

結婚について

7

「そちらから書いてよこしたことについて言えば、男は女に触れない方がよい。²しかし、みだらな行いを避けるために、男はめいめい自分の妻を持ち、また、女はめいめい自分の夫を持ちなさい。³夫は妻に、その務めを果たし、同様に妻も夫にその務めを果たしなさい。⁴妻は自分の体を意のままにする権利を持たず、夫がそれを持っています。同じように、夫も自分の体を意のままにする権利を持たず、妻がそれを持っていますのです。⁵互いに相手を拒んではいけません。ただ、納得しあつたうえで、専ら祈りに時を過ごすためにしばらく別れ、また一緒にするというなら話は別です。あなたがたが自分を抑制する力がないのに乗じて、サタンが誘惑しないとかがざらないからです。⁶もつとも、わたしは、そうしても差し支えないと言うのであつて、そうしなさい、と命じるつもりはありません。⁷わたしとしては、皆がわたしのように独りでいてほしい。しかし、人はそれぞれ神から賜物をいただいているのですから、人によって生き方が違います。⁸未婚者やともめに言いますが、皆わたしのように独りでいるのがよいでしょう。⁹しかし、自分を抑制できなければ結婚しなさい。情欲に身を焦がすよりは、結婚した方がまだからです。¹⁰更に、既婚者に命じます。妻は夫と別れてはいけません。こう命じるのは、わたしではなく、主です。¹¹――既に別れてしまったのなら、再婚せずにいるか、夫のもとに帰りなさい。――また、夫は妻を離縁してはいけません。¹²その他の人たちに対しては、主ではなくわたしが言うのです。が、ある信者に信者でない妻がいて、その妻と一緒に生活を続けたいと思っている場合、彼女を離縁してはいけません。¹³また、ある女に信者でない夫がいて、その夫と一緒に生活を続けたいと思っている場合、彼を離縁してはいけません。¹⁴なぜなら、信者でない夫は、信者である妻のゆえに聖なる者とされ、信者でない妻は、信者である夫のゆえに聖なる者とされているからです。そうでなければ、あなたがたの子供たちは汚れていることになりますが、実際には聖なる者です。¹⁵しかし、信者でない相手が離れていくなら、去るにまかせなさい。こうした場合に信者は、夫であろうと妻であろうと、結婚に縛られてはいけません。平和な生活を送るようにと、神はあなたがたを召されたのです。¹⁶妻よ、あなたは夫を救えるかどうか、どうして分かるのか。夫よ、あなたは妻を救えるかどうか、どうして分かるのか。

主が定めた生き方

¹⁷「おのおの主から分け与えられた分に応じ、それぞれ神に召されたときの身分のままで歩みなさい。これは、すべての教会でわたしが命じていることです。¹⁸割礼を受けている者が召されたのなら、割礼の跡を無くそうとしてはいけません。割礼を受けていない者が召されたのなら、割礼を受けようとしてはいけません。¹⁹割礼の有無は問題ではなく、大切なのは神の掟を守ることです。²⁰おのおの召されたときの身分にとどまっていなさい。²¹召されたときに奴隷であつた人も、そのことを気にしてはいけません。自由の身になることができるとしても、むしろそのままいなさい。²²というのは、主によって召された奴隷は、主によって自由の身にされた者だからです。同様に、主によって召された自由な身分の者は、キリストの奴隷なのです。²³あなたがたは、身代金を払って買い取られたのです。人の奴隷となつてはいけません。²⁴兄弟たち、おのおの召されたときの身分のまま、神の前にとどまっていなさい。

みこん ひと
未婚の人たちとやもめ

みこん ひと しゅ しじ う しゅ あわ しんにん え もの いけん の いまき き せま じょうたい
未婚の人たちについて、わたしは主の指示を受けてはいませんが、主の憐れみにより信任を得ている者として、意見を述べます。28 今危機が迫っている 状態

にあるので、こうするのがよいとわたしは 考えます。つまり、人は現 状にとどまっているのがよいのです。27 妻と結ばれているなら、そのつながりを解こうとせず、妻と結ばれていないなら妻を求めてはいけません。28 しかし、あなたが、結婚しても、罪を犯すわけではなく、未婚の 女が結婚しても、罪を犯したわけではありません。ただ、結婚する人たちはその身に苦勞を負うことになるでしょう。わたしは、あなたがたにそのような苦勞をさせたくないのです。29 兄弟たち、わたしはこう言いたい。定められた時は迫っています。今からは、妻のある人はない人のように、30 泣く人は泣かない人のように、喜ぶ人は 喜ばない人のように、物を買う人は持たない人のように、31 世の事にかかわっている人は、かかわりのない人のようにすべきです。この世の有様は過ぎ去るからです。32 思い煩わないでほしい。独身の 男は、どうすれば主に 喜ばれるかと、主のことに 心を遣いますが、33 結婚している 男は、どうすれば妻に 喜ばれるかと、世の事に 心を遣い、34 心が二つに分かれてしまいます。独身の 女や未婚の 女は、体も霊も聖なる者になろうとして、主のことに 心を遣いますが、結婚している 女は、どうすれば 夫に 喜ばれるかと、世の事に 心を遣います。35 このようにわたしが言うのは、あなたがたの ためを思つてのことで、決してあなたがたを束縛するためではなく、品位のある生活をさせて、ひたすら主に仕えさせるためなのです。

ひと じぶん あいて むすめ たい じょうねつ つよ ちか
もし、ある人が自分の相手である 娘に対して、情熱が強くなり、その誓いにふさわしくないふるまいをしかねないと感じ、それ以上 自分を抑制できないと思うなら、思いどおりにしなさい。罪を犯すことにはなりません。二人は結婚しなさい。37 しかし、心にしっかりとした信念を持ち、無理に思いを抑えつけたりせずに、相手の 娘をそのままにしておこうと決心した人は、そうしたらよいでしょう。38 要するに、相手の 娘と結婚する人はそれで差し支えありませんが、結婚しない人の方がもっとよいのです。

つま おつと い あいだ おつと むす おつと し のぞ ひと さいこん あいて しゅ むす もの かぎ
妻は 夫が生きている 間は 夫に結ばれていますが、夫が死ねば、望む人と再婚してもかまいません。ただし、相手は主に結ばれている者に限りま

す。39 しかし、わたしの 考えによれば、そのままにいる方がずっと幸福です。わたしも神の霊を受けていると思います。

ぐうぞう そな にく
偶像に供えられた肉

8

ぐうぞう そな にく い われわれ みな ちしき も たし ちしき ひと たか あい つく あ じぶん なに
'偶像に供えられた肉について言えば、「我々は皆、知識を持っている」ということは確かです。ただ、知識は人を高ぶらせるが、愛は造り上げる。2 自分は何

か知っていると思う人がいたら、その人は、知らねばならぬことをまだ知らないのです。3 しかし、神を愛する人がいれば、その人は神に知られているのです。4 所で、偶像に供えられた肉を食べることについてですが、世の中に偶像の神ではなく、また、唯一の神以外にいかなる神もないことを、わたしたちは知っています。5 現に多くの神々、多くの主がいると思われているように、たとえ天や地に神々と呼ばれるものがいっても、わたしたちにとっては、唯一の神、父である神がおられ、万物はこの神から出、わたしたちはこの神へ帰って行くのです。また、唯一の主、イエス・キリストがおられ、万物はこの主によって存在し、わたしたちもこの主によって存在しているのです。

ちしき ひと いま ぐうぞう しゅうかん にく た さい ぐうぞう そな
しかし、この知識がだれにでもあるわけではありません。ある人たちは、今までの偶像になじんできた 習慣にとらわれて、肉を食べる際に、それが偶像に供えられた肉だということが念頭から去らず、良 心が弱いために汚されるのです。6 わたしたちを神のもとに 導くのは、食物ではありません。食べないからといって、何かを 失うわけではなく、食べたからといって、何かを得るわけではありません。7 ただ、あなたがたのこの自由な態度が、弱い人々を罪に誘うことにならないように、気をつけなさい。8 知識を持っているあなたが偶像の神殿で 食事の席に着いているのを、だれかが見ると、その人は弱いのに、その 良心が強められて、偶像に供えられたものを食べるようにならないだろうか。9 そうなると、あなたの知識によって、弱い人が滅びてしまいます。その 兄弟のためにもキリストが死んでくださったのです。12 このようにあなたがたが、兄弟たちに対して罪を犯し、彼らの弱い 良心を傷つけるのは、キリストに対して罪を犯すことなのです。13 それだから、食物のことがわたしの 兄弟をつまずかせるくらいなら、兄弟をつまずかせないために、わたしは今後決して肉を口にしません。

しと けんり
使徒の権利

9

じゅう もの しと しゅ み しゅ はたら え せい か た
'わたしは自由な者ではないか。使徒ではないか。わたしたちの主イエスを見たではないか。あなたがたは、主のためにわたしが 働いて得た成果ではないか。2 他の人たちにとってわたしは使徒でないにしても、少なくともあなたがたにとっては使徒なのです。あなたがたは主に結ばれており、わたしが使徒であることの生きたように 証 拠だからです。

ひはん ひと べんめい た の けんり まった た しと しゅ
わたしを批判する人たちには、こう弁明します。3 わたしたちには、食べたり、飲んだりする権利が 全 くないのですか。4 わたしたちには、他の使徒たちや主の兄弟たちやケファのように、信者である妻を連れて歩く 権利がないのですか。5 あるいは、わたしとバルナバだけには、生活の資を得るための仕事をしなくてもよいという 権利がないのですか。6 そもそも、いったいだれが自費で戦争に行きますか。ぶどう 畑を作つて、その実を食べない者がいますか。7 羊の群れを飼つて、その乳を飲まない者がいますか。8 わたしがこう言うのは、人間の思いからでしょうか。律法も言っているではないですか。9 モーセの律法に、「脱穀している牛に口籠をはめてはならない」と書いてあります。神が 心にかけておられるのは、牛のことですか。10 それとも、わたしたちのために言つておられるのでしょうか。もちろん、わたしたちのためにそう書かれているのです。耕す者が望みを持って 耕し、脱穀する者が分け前にあずかることを期待して 働くのは当然です。11 わたしたちがあなたがたに霊的なものを蒔いたのなら、あなたがたから肉のものを刈り取ることは、行き過ぎでしょうか。12 他の人たちが、あなたがたに対するこの権利を持っているとすれば、わたしたちはなおさらそうではありませんか。

けんり も けんり もち ふくいん すこ さまた た しの し
しかし、わたしたちはこの権利を用いませんでした。かえってキリストの福音を少しでも 妨げてはならないと、すべてを耐え忍んでいます。13 あなたがたは知ら

ないのですか。神 殿 で 働 く 人 たち は 神 殿 から 下 が る 物 を 食 べ、 祭 壇 に 仕 え る 人 たち は 祭 壇 の 供 え 物 の 分 け 前 に あ ず か り ま す。¹⁴同 じ よ う に、 主 は、 福 音 を 宣 べ 伝 え る 人 たち に は 福 音 に よ っ て 生 活 の 資 を 得 る よ う に と、 指 示 さ れ ま し た。¹⁵し か し、 わ た し は こ の 権 利 を 何 一 つ 利 用 し た こ と は あ り ま せ ん。 こ う 書 い た の は、 自 分 も そ の 権 利 を 利 用 し た い か ら で は な い。 そ れ く ら い な ら、 死 ん だ 方 が ま し で す.....。 だ れ も、 わ た し の こ の 誇 り を 無 意 味 な も の に し て は な ら な い。¹⁶も つ と も、 わ た し が 福 音 を 告 げ 知 ら せ て も、 そ れ は わ た し の 誇 り に は な り ま せ ん。 そ う せ ず に は い ら れ な い こ と だ か ら で す。 福 音 を 告 げ 知 ら せ な い な ら、 わ た し は 不 幸 な の で す。¹⁷自 分 か ら そ う し て い る な ら、 報 酬 を 得 る で し ょ う。 し か し、 強 い ら れ て す る な ら、 そ れ は、 ゆ だ ね ら れ て い る 務 め な の で す。¹⁸で は、 わ た し の 報 酬 と は 何 で し ょ う か。 そ れ は、 福 音 を 告 げ 知 ら せ る と き に そ れ を 無 報 酬 で 伝 え、 福 音 を 伝 え る わ た し が 当 然 持 っ て い る 権 利 を 用 い な い と い う こ と で す。

¹⁹わ た し は、 だ れ に 対 し て も 自 由 な 者 で す が、 す べ て の 人 の 奴 隸 に な り ま し た。 で き る だ け 多 く の 人 を 得 る た め で す。²⁰ユダヤ人に対しては、ユダヤ人のように な り ま し た。 ユダヤ人 を 得 る た め で す。 律 法 に 支 配 さ れ て い る 人 に 対 し て は、 わ た し 自 身 は そ う で は な い の で す が、 律 法 に 支 配 さ れ て い る 人 の よ う に な り ま し た。 律 法 に 支 配 さ れ て い る 人 を 得 る た め で す。²¹また、 わ た し は 神 の 律 法 を 持 っ て い な い わ け で は な く、 キ リ ス ト の 律 法 に 従 っ て い る の で す が、 律 法 を 持 た な い 人 に 対 し て は、 律 法 を 持 た な い 人 の よ う に な り ま し た。 律 法 を 持 た な い 人 を 得 る た め で す。²²弱い人に対しては、弱い人のようになりました。弱い人を得るためです。すべての人に対してすべてのものになりました。何とかなして何人かでも救うためです。²³福 音 の た め な ら、 わ た し は ど ん な こ と で も し ま す。 そ れ は、 わ た し が 福 音 に 共 に あ ず か る 者 と な る た め で す。

²⁴あなたがたは知らないのですか。 競 技 場 で 走 る 者 は 皆 走 る け れ ど も、 賞 を 受 け る の は 一 人 だ け で す。 あ な た が た も 賞 を 得 る よ う に 走 り な さ い。²⁵競 技 を す る 人 は 皆、 す べ て に 節 制 し ま す。 彼 ら は 朽 ち る 冠 を 得 る た め に そ う す る の で す が、 わ た し た ち は、 朽 ち な い 冠 を 得 る た め に 節 制 す る の で す。²⁶だ か ら、 わ た し と し て は、 や み く も に 走 っ た り し な い し、 空 を 打 っ よ う な 拳 闘 も し ま せ ん。²⁷む し ろ、 自 分 の 体 を 打 ち た た い て 服 従 さ せ ま す。 そ れ は、 他 の 人 々 に 宣 教 し て お き な が ら、 自 分 の 方 が 失 格 者 に な っ て し ま わ な い た め で す。

偶像への礼拝に対する警告

10

きょうだい つぎ し せんぞ みな くも し た みな うみ とお ぬ みな くも なか うみ なか ぞく
¹ 兄 弟 たち、次 のことはぜひ知っておいてほしい。わたしたちの先祖は皆、雲の下におり、皆、海を通り抜け、² 皆、雲の中、海の中で、モーセに属するものと
(バプテスマ) さす みな おな れいてき しょくもつ た みな おな れいてき の もの の かれ の じぶん はな き れいてき いわ
なる 洗礼 を授けられ、³ 皆、同じ霊的な食物を食べ、⁴ 皆が同じ霊的な飲み物を飲みました。彼らが飲んだのは、自分たちに離れずについて来た霊的な岩
からでしたが、この岩こそキリストだったのです。⁵ しかし、彼らの大部分は神の御心に適わず、荒れ野で滅ぼされてしまいました。⁶ これらの出来事は、わたし
たちを戒める前例として起こったのです。彼らが悪をむさばったように、わたしたちが悪をむさばることのないために。⁷ 彼らの中のある者がしたように、偶像
を礼拝してはいけな。「民は座って飲み食いし、立って踊り狂った」と書いてあります。⁸ 彼らの中のある者がしたように、みだらなことをしないようにしよ
う。みだらなことをした者は、一日で二万三千人倒れて死にました。⁹ また、彼らの中のある者がしたように、キリストを 試 みないようにしよう。試 みた者
は、蛇にかまれて滅びました。¹⁰ 彼らの中には不平を言う者がいたが、あなたがたはそうに不平を言うてはいけな。不平を言った者は、滅ぼす者に滅ぼさ
れました。¹¹ これらのことは前例として彼らに起こったのです。それが書き伝えられているのは、時の終わりに 直 面しているわたしたちに警告するためなの
です。¹² だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい。¹³ あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかつたはずで
す。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださ
います。

あい ひと ぐうぞう れいはい さ ふんべつ もの かんが はな い じぶん
「わたしの愛する人たち、こういうわけですから、偶像礼拝を避けなさい。¹⁴ わたしはあなたがたを分別ある者と考 えて話します。わたしの言うことを自分で
はんたん かん さんび さんび さかすき ち さ からだ
判断しなさい。¹⁵ わたしたちが神を賛美する賛美の 杯 は、キリストの血にあずかることではないか。わたしたちが裂くパンは、キリストの 体 にあずかることでは
ないか。¹⁷ パンは一つだから、わたしたちは大勢でも一つの 体 です。皆が一つのパンを分けて食べるからです。¹⁸ 肉によるイスラエルの人々のことを考 えてみな
さい。供え物を食べる人は、それが供えてあつた祭壇とかかわる者になるのではありませんか。¹⁹ わたしは何を言おうとしているのか。偶像に供えられた肉が何
い み も ぐうぞう なに い み も なく い ぐうぞう ささ そな の
か意味を持つということでしょうか。それとも、偶像が何か意味を持つということでしょうか。²⁰ いや、わたしが言おうとしているのは、偶像に献げる供え物は、
かみ あくれい ささ 点 あくれい なかま しゅ さかすき あくれい さかすき りょうほう の
神ではなく悪霊に献げている、という点なのです。わたしは、あなたがたに悪霊の仲間になってほしくありません。²¹ 主の 杯 と悪霊の 杯 の 両 方を飲むこ
とはできなish、主の 食 卓と悪霊の 食 卓の 両 方に着くことはできません。²² それとも、主にねたみを起こさせるつもりなのですか。わたしたちは、主より強
い者でしょうか。

かみ えいこう
すべてを神の栄光のために

ゆる えき ゆる つく
「²³ すべてが許されている。」しかし、すべてのことが益になるわけではない。「すべてが許されている。」しかし、すべてのことがわたしたちを造
あ じぶん りえき たにん りえき お もと いちば う りょうしん もんだい せんさく なん
り上げるわけではない。²⁴ だれでも、自分の利益ではなく他人の利益を追い求めなさい。²⁵ 市場で売っているものは、良 心の問題としていちいち詮索せず、何で
た しゅ しんこう も ひと しょうたい おう ばあい じぶん まえ
も食べなさい。²⁶ 「地とそこに満ちているものは、主のもの」だからです。²⁷ あなたがたが、信仰を持っていない人から 招 待され、それに応じる場合、自分の前に
出されるものは、良 心の問題としていちいち詮索せず、何でも食べなさい。²⁸ しかし、もしだれかがあなたがたに、「これは偶像に供えられた肉です」と言うな
ら、その人のため、また、良 心のために食べてはいけません。²⁹ わたしがこの場合、「良 心」と言うのは、自分の良 心ではなく、そのように言う他人の良 心
のことです。どうしてわたしの自由が、他人の良 心によって左右されることがありましよう。³⁰ わたしが感謝して食べているのに、そのわたしが感謝しているも
のについて、なぜ悪口を言われるわけがあるのです。³¹ だから、あなたがたは食べるにしろ飲むにしろ、何をするにしても、すべて神の栄光を 現 すためにしな
さい。³² ユダヤ人にも、ギリシア人にも、神の 教 会にも、あなたがたは人を惑わす原因にならないようにしなさい。³³ わたしも、人々を救うために、自分の益では
なく多くの人の益を求めて、すべての点ですべての人を 喜 ばそうとしているのですから。

なら もの なら もの
11 わたしがキリストに倣う者であるように、あなたがたもこのわたしに倣う者となりなさい。

れいはい もの
礼拝でのかぶり物

なに おも だ つた つた おし まも りつぱ おも
² あなたがたが、何かにつけわたしを思い出し、わたしがあなたがたに伝えたとおりに、伝えられた教えを守っているのは、立派だと思ひます。³ ここであなたが
し おとこ かしら おんな かしら おとこ かしら かみ おとこ いの よげん
たに知っておいてほしいのは、すべての 男 の 頭 はキリスト、女 の 頭 は男、そしてキリストの 頭 は神であるということです。⁴ 男 はだれでも祈ったり、預言
したりする際に、頭 に物をかぶるなら、自分の 頭 を侮辱 することになります。⁵ 女 はだれでも祈ったり、預言したりする際に、頭 に物をかぶらないなら、
その 頭 を侮辱 することになります。それは、髪の毛をそり落としたのと同じだからです。⁶ 女 が 頭 に物をかぶらないなら、髪の毛を切つてしまひなさい。女
にとつて髪の毛を切ったり、そり落としたりするのが恥ずかしいことなら、頭 に物をかぶるべきです。⁷ 男 は神の 姿 と栄光を映す者ですから、頭 に物をかぶ
るべきではありません。しかし、女 は 男 の栄光を映す者です。⁸ というのは、男 が 女 から出て来たのではなく、女 が 男 から出て来たのだし、⁹ 男 が 女 の
ために造られたのではなく、女 が 男 のために造られたのだからです。¹⁰ だから、女 は天使たちのために、頭 に 力 の 印 をかぶるべきです。¹¹ いずれにせよ、
主においては、男 なしに 女 はなく、女 なしに 男 はありません。¹² それは 女 が 男 から出たように、男 も 女 から生まれ、また、すべてのものが神から出て
るからです。¹³ 自分で判断しなさい。女 が 頭 に何もかぶらないで神に祈るのが、ふさわしいかどうか。¹⁴⁻¹⁵ 男 は長い髪が恥であるのに対し、女 は長い髪が
ほま しぜん おし なが かみ もの か おんな あた てる いろん
誉れとなることを、自然そのものがあなたがたに教えていないでしょうか。長い髪は、かぶり物の代わりに 女 に与えられているのです。¹⁶ この点について異論を
とな ひと しゅうかん かみ きょうかい
唱えたい人がいるとしても、そのような 習 慣は、わたしたちにも神の 教 会にもありません。

しゅ ばんざん しじ
主の晩餐についての指示

つぎ しじ あつ よ けつ か わる けつ か まね
¹⁷ 次のことを指示するにあたって、わたしはあなたがたをほめるわけにはいきません。あなたがたの集まりが、良い結果よりは、むしろ悪い結果を招いているから
です。¹⁸ まず第一に、あなたがたが 教 会で集まる際、お互いの 間に 仲間割れがあると聞いています。わたしもある 程度そういうことがあろうかと思ひます。¹⁹ あ

あなたがたの間で、だれが適格者かはつきりするためには、仲間争いも避けられないかもしれません。²⁰それでは、一緒に集まっても、主の晩餐を食べることに
ならないのです。²¹なぜなら、食事のとき各自が勝手に自分の分を食べてしまい、空腹の者がいるかと思えば、酔っている者もいるという始末だからです。²²あ
なたがたには、飲んだり食べたりする家がないのですか。それとも、神の教会を見くびり、貧しい人々に恥をかかせようというのですか。わたしはあなたがたに
何と言ったらよいのだろう。ほめることにしようか。この点については、ほめるわけにはいきません。

主の晩餐の制定

(マタ26:26—29、マコ14:22—25、ルカ22:14—20)

²³わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそ
れを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。²⁵また、食事の後で、杯も同じ
ようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。²⁶だか
ら、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。

主の晩餐にあずかるには
²⁷従って、ふさわしくないままで主のパンを食べたり、その杯を飲んだりする者は、主の体と血に対して罪を犯すことになります。²⁸だれでも、自分をよく
確かめうえて、そのパンを食べ、その杯から飲むべきです。²⁹主の体のことをわきまえずに飲み食いする者は、自分自身に対する裁きを飲み食いしているの
です。³⁰そのため、あなたがたの間に弱者や病人がたくさんおり、多くの者が死んだのです。³¹わたしたちは、自分をわきまえていれば、裁かれはしません。³²
裁かれるとすれば、それは、わたしたちが世と共に罪に定められることがないようにするための、主の懲らしめなのです。³³わたしの兄弟たち、こういうわけです
から、食事のために集まるときには、互いに待ち合わせなさい。³⁴空腹の人は、家で食事を済ませなさい。裁かれるために集まる、というようなことにならな
いために。その他のことについては、わたしがそちらに行ったときに決めましょう。

霊的な賜物
12
兄弟たち、霊的な賜物については、次のことはぜひ知っておいてほしい。²あなたがたがまだ異教徒だったころ、誘われるままに、ものの言えない偶像のもと
に連れて行かれたことを覚えているでしょう。³ここであなたがたに言っておきたい。神の霊によって語る人は、だれも「イエスは神から見捨てられよ」とは言わな
いし、また、聖霊によらなければ、だれも「イエスは主である」とは言えないのです。
⁴賜物にはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です。⁵務めにはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ主です。⁶働きにはいろいろ
ありますが、すべての場合にすべてのことをなさるのは同じ神です。⁷一人一人に「霊」の働きが現れるのは、全体の益となるためです。⁸ある人には「霊」に
よって知恵の言葉、ある人には同じ「霊」によって知識の言葉が与えられ、⁹ある人にはその同じ「霊」によって信仰、ある人にはこの唯一の「霊」によつて
病気をいやす力、¹⁰ある人には奇跡を行う力、ある人には預言する力、ある人には霊を見分ける力、ある人には種々の異言を語る力、ある人には異
言を解釈する力が与えられています。¹¹これらすべてのことは、同じ唯一の「霊」の働きであって、「霊」は望むままに、それを一人一人に分け与えてくだ
さるのです。

一つの体、多くの部分
¹²体は一つでも、多くの部分から成り、体のすべての部分の数は多くても、体は一つであるように、キリストの場合も同様である。¹³つまり、一つの霊に
よって、わたしたちは、ユダヤ人であろうとギリシア人であろうと、奴隷であろうと自由な身分の者であろうと、皆一つの体となるために洗礼を受け、皆
一つの霊をのませてもらったのです。¹⁴体は、一つの部分ではなく、多くの部分から成っています。¹⁵足が、「わたしは手ではないから、体の一部ではない」と
言ったところで、体の一部でなくなるでしょうか。¹⁶耳が、「わたしは目ではないから、体の一部ではない」と言ったところで、体の一部でなくなるでし
ょうか。¹⁷もし体全体が目だったら、どこで聞きますか。もし全体が耳だったら、どこでおいをかぎますか。¹⁸そこで神は、御自分の望みのままに、体一つ一つ
の部分置かれたのです。¹⁹すべてが一つの部分になってしまったら、どこに体というものがあるでしょう。²⁰だから、多くの部分があっても、一つの体なので
す。²¹目が手に向かって「お前は要らない」とは言えず、また、頭が足に向かって「お前たちは要らない」とも言えません。²²それどころか、体の中でほかよりも
弱く見える部分が、かえって必要なのです。²³わたしたちは、体の中でほかよりも恰好が悪いと思われる部分を覆って、もっと恰好よくしようとし、見苦しい
部分をもっと見栄えよくしようとします。²⁴見栄えのよい部分には、そうする必要はありません。神は、見劣りのする部分をいつそう引き立たせて、体を組み立て
られました。²⁵それで、体に分裂が起こらず、各部分が互いに配慮し合っています。²⁶一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ば
れれば、すべての部分が共に喜ぶのです。

²⁷あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です。²⁸神は、教会の中にいろいろな人をお立てになりました。第一に使徒、第二に預言者
、第三に教師、次に奇跡を行う者、その次に病気をいやす賜物を持つ者、援助する者、管理する者、異言を語る者などです。²⁹皆が使徒であろうか。皆
が預言者であろうか。皆が教師であろうか。皆が奇跡を行う者であろうか。³⁰皆が病気をいやす賜物を持つているだろうか。皆が異言を語るだろうか。皆
がそれを解釈するだろうか。³¹あなたがたは、もっと大きな賜物を受けるよう熱心に努めなさい。

そこで、わたしはあなたがたに最高の道を教えます。¹³たとえ、人々の異言、天使たちの異言を語ろうとも、愛がなければ、わたしは騒がしいどら、やかししいシンバル。²たとえ、預言する賜物を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようとも、たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持っていようとも、愛がなければ、無に等しい。³全財産を貧しい人々のために使い尽くそうとも、誇ろうとしてわが身を死に引き渡そうとも、愛がなければ、わたしに何の益もない。

⁴愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。⁵礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。⁶不義を喜ばず、真実を喜ぶ。⁷すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

⁸愛は決して滅びない。預言は廃れ、異言はやみ、知識は廃れよう、わたしたちの知識は一部分、預言も一部分だから。¹⁰完全なものが来たときには、部分的なものは廃れよう。¹¹幼子だったとき、わたしは幼子のように話し、幼子のように思い、幼子のように考えていた。成人した今、幼子のことを棄てた。¹²わたしたちは、今は、鏡におぼろに映ったものを見ている。だがそのときには、顔と顔を合わせて見ることになる。わたしは、今は一部しか知らなくとも、そのときには、はっきり知られているようにはっきり知ることになる。¹³それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。

¹⁴愛を追い求めなさい。霊的な賜物、特に預言するための賜物を熱心に求めなさい。²異言を語る者は、人に向かってではなく、神に向かって語っています。それはだれにも分かりません。彼は霊によって神秘を語っているのです。³しかし、預言する者は、人に向かって語っているので、人を造り上げ、励まし、慰めます。⁴異言を語る者が自分を造り上げるのに対して、預言する者は教会を造り上げます。⁵あなたがた皆が異言を語れるにこしたことはないと思いますが、それ以上には、預言できればと思います。異言を語る者がそれを解釈するのでなければ、教会を造り上げるためには、預言する者の方がまさっています。

⁶だから兄弟たち、わたしがあなたがたのところに行って異言を語ったとしても、啓示か知識か預言か教えかによって語らなければ、あなたがたに何の役に立つでしょう。⁷笛であれ豎琴であれ、命のない楽器も、もしその音に変化がなければ、何を吹き、何を弾いているのか、どうして分かるでしょう。⁸ラッパがはつきりした音を出さなければ、だれが戦いの準備をしますか。⁹同じように、あなたがたも異言で語って、明確な言葉を口にしなければ、何を話しているか、どうして分かってもらえましょう。空に向かって語ることになるからです。¹⁰世にはいろいろな種類の言葉があり、どれ一つ意味を持たないものはありません。¹¹だから、もしその言葉の意味が分からなくなれば、話し手にとってわたしは外国人であり、わたしにとってその話し手も外国人であることになります。¹²あなたがたの場合も同じで、霊的な賜物を熱心に求めているのですから、教会を造り上げるために、それをますます豊かに受けるように求めなさい。¹³だから、異言を語る者は、それを解釈できるように祈りなさい。¹⁴わたしが異言で祈る場合、それはわたしの霊が祈っているのですが、理性は実を結びません。¹⁵では、どうしたらよいのでしょうか。霊で祈り、理性でも祈ることにしましょう。霊で賛美し、理性でも賛美することにしましょう。¹⁶さもなければ、仮にあなたが霊で賛美の祈りを唱えても、教会に来て間もない人は、どうしてあなたの感謝に「アーメン」と言えるでしょうか。あなたが何を言っているのか、彼には分からないからです。¹⁷あなたが感謝するのは結構ですが、そのことで他の人が造り上げられるわけではありません。¹⁸わたしは、あなたがたのだれよりも多くの異言を語れることを、神に感謝します。¹⁹しかし、わたしは他の人たちをも教えるために、教会では異言で一万の言葉を語るより、理性によって五つの言葉を語る方をとります。

²⁰兄弟たち、物の判断については子供となつてはいけません。悪事については幼子となり、物の判断については大人になってください。²¹律法にこう書いてあります。

「異国の言葉を語る人々によって、

異国の言葉で

：民に語るが、

でも、彼らはわたしに耳を傾けないだろう」

と主は言われる。」²²このように、異言は、信じる者のためではなく、信じていない者のためのしるしですが、預言は、信じていない者のためではなく、信じる者のためのしるしです。²³教会全体が一緒に集まり、皆が異言を語っているところへ、教会に来て間もない人か信者でない人が入って来たら、あなたがたのことを気が変だとは言わないでしょうか。²⁴反対に、皆が預言しているところへ、信者でない人か、教会に来て間もない人が入って来たら、彼は皆から非を悟られ、皆から罪を指摘され、²⁵心の内に隠していたことが明るみに出され、結局、ひれ伏して神を礼拝し、「まことに、神はあなたがたの内におられます」と皆の前で言い表すことになるでしょう。

きょうだい
26 兄 弟たち、それではどうすればいいだろうか。あなたがたは集まったとき、それぞれ詩編の歌をうたい、教え、啓示を語り、異言を語り、それを解 釈 する
の ですが、すべてはあなたがたをつく あ づかるためにすべきです。27異言を語る者がいれば、二人かせいぜい三人が 順 番に語り、一人に解 釈 させなさい。28解
釈 する者がいなければ、教 会では黙っていて、自分自身と神に対して語りなさい。29預言する者の場合は、二人か三人が語り、他の者たちはそれを検討し
なさい。30座っている他の人に啓示が与えられたら、先に語りだしていた者は黙りなさい。31皆が共に学び、皆が共に励まされるように、一人一人が皆、預言
できるようにしなさい。32預言者に 働 きかける霊は、預言者の意に服するはずです。33神は無秩序の神ではなく、平和の神だからです。
聖なる者たちのすべての 教 会でそうであるように、34婦人たちは、 教 会では黙っていないさい。婦人たちには語ることが許されていません。律法も言っている
ように、婦人たちは 従 う者でありなさい。35何か知りたいことがあつたら、家で自分の 夫 に聞きなさい。婦人にとって 教 会の中で発言するのは、恥ずべきこ
とです。36それとも、神の言葉はあなたがたから出て来たのでしょうか。あるいは、あなたがたにだけ来たのでしょうか。
37自分は預言する者であるとか、霊の人であると思っている者がいれば、わたしがここに書いてきたことは主の命 令であると認めなさい。38それを認めない者
は、その人もまた認められないでしょう。39わたしの 兄 弟たち、こういうわけですから、預言することを熱心に求めなさい。そして、異言を語ることが禁じては
なりません。40しかし、すべてを適切に、秩序正しく 行 いなさい。

キリストの復活

15

きょうだい
1 兄 弟たち、わたしがあなたがたに告知知らせた福音を、ここでもう一度知らせます。これは、あなたがたが受け入れ、生活のよりどころとしている福音にほかな
りません。2どんな言葉でわたしが福音を告知知らせたか、しっかりと覚えていれば、あなたがたはこの福音によって救われます。さもないと、あなたがたが信じた
こと自体が、無駄になってしまいうでしょう。3最 も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に
書いてあるとおりわたしたちの罪のために死んだこと、4葬 られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと、5ケファに 現 れ、その後十二人に
現 れたことです。6次いで、五百人以上 もの 兄 弟たちに同時に 現 れました。そのうちの何人かは既に眠りについたにしろ、大部分は今なお生き残っていま
す。7次いで、ヤコブに 現 れ、その後すべての使徒に 現 れ、8そして最後に、月足らずで生まれたようなわたしにも 現 れました。9わたしは、神の 教 会を迫害し
たのですから、使徒たちの中でもいちばん小さな者であり、使徒と呼ばれる値打ちのない者です。10神の恵みによって今日のわたしがあるのです。そして、わたし
に与えられた神の恵みは無駄にならず、わたしは他のすべての使徒よりずっと多く 働 きました。しかし、 働 いたのは、実はわたしではなく、わたしと共にある
神の恵みなのです。11とにかく、わたしにしても彼らにしても、このように宣べ伝えているのですし、あなたがたはこのように信じたのでした。

死者の復活

12キリストは死者の中から復活した、と宣べ伝えられているのに、あなたがたの中のある者が、死者の復活などない、と言っているのはどういうわけですか。13
死者の復活がなければ、キリストも復活しなかったはずです。14そして、キリストが復活しなかったのなら、わたしたちの宣 教は無駄であるし、あなたがたの信
仰も無駄です。15更に、わたしたちは神の偽 証 人とさえ見なされます。なぜなら、もし、本当に死者が復活しないのなら、復活しなかったはずのキリストを神が
復活させたと言って、神に反して証しをしたことになるからです。16死者が復活しないのなら、キリストも復活しなかったはずです。17そして、キリストが復活し
なかったのなら、あなたがたの信 仰はむなく、あなたがたは今もなお罪の中にあることになります。18そうだとすると、キリストを信じて眠りについた人々も滅
んでしまったわけです。19この世の生活でキリストに望みをかけているだけだとすれば、わたしたちはすべての人の中で 最 も惨めな者です。
20しかし、実際、キリストは死者の中から復活し、眠りについた人たちの初穂となられました。21死が一人の人によって来たのだから、死者の復活も一人の人
によって来るのです。22つまり、アダムによってすべての人が死ぬことになったように、キリストによってすべての人が生かされることになるのです。23ただ、一人一
人にそれぞれ 順 序があります。最初にキリスト、次いで、キリストが来られるときに、キリストに属している人たち、24次いで、世の終わりが来ます。そのとき、
キリストはすべての支配、すべての権威や勢 力 を滅ばし、父である神に国を引き渡されます。25キリストはすべての敵を御自分の足の下に置くまで、国を支配
されることになっているからです。26最後の敵として、死が滅ばされます。27「神は、すべてをその足の下に服 従 させた」からです。すべてが服 従 させられたと
い 言われるとき、すべてをキリストに服 従 させた方自身が、それに含まれていないことは、明らかです。28すべてが御子に服 従 するとき、御子自身も、すべてを御
自分に服 従 させてくださった方に服 従 されます。神がすべてにおいてすべてとなられるためです。

29そうでなければ、死者のために 洗 礼 を受ける人たちは、何をしようとするのか。死者が決して復活しないのなら、なぜ死者のために 洗 礼 など受ける
のですか。30また、なぜわたしたちはいつも危険を冒しているのですか。31 兄 弟たち、わたしたちの主キリスト・イエスに結ばれてわたしが持つ、あなたがたに対
する誇りにかけて言えば、わたしは日々死んでいます。32単に人間的な動機からエフェソで野 獣 と 闘 ったとしたら、わたしに何の得があつたでしょう。もし、
死者が復活しないとしたら、

：
の
むべたり飲んだりしようではないか。

あす し み
「せ明日は死ぬ身ではないか」
ということになります。33思い違いをしてはいけない。

る よ しゅうかん だい
息つきあいは、良い 習 慣を台なしにする」
しょう き み ただ つみ おか かみ なに し ひと い は い
のです。³⁴ 正 気になって身を正しなさい。罪を犯してはならない。神について何も知らない人がいるからです。わたしがこう言うのは、あなたがたを恥じ入らせるためです。

ふつかつ からだ
復活の 体
ししや ふつかつ からだ く き もの おろ ひと ま し いのち
³⁵しかし、死者はどんなふうに復活するのか、どんな 体 で来るのか、と聞く 者がいるかもしれませんが。³⁶愚かな人だ。あなたが蒔くものは、死ななければ 命 を得ないではありませんか。³⁷あなたが蒔くものは、後でできる 体 ではなく、麦であれ他の穀物であれ、ただの種粒です。³⁸神は、御 心 のままに、それに 体 を与え、一つ一つの種にそれぞれ 体 をお与えになります。³⁹どの肉も同じ肉だというわけではなく、人間の肉、 獣 の肉、鳥の肉、 魚 の肉と、それぞれ違います。⁴⁰また、天 上 の 体 と地 上 の 体 があります。しかし、天 上 の 体 の 輝 きと地 上 の 体 の 輝 きとは異なっています。⁴¹太陽の 輝 き、月の 輝 き、星の 輝 きがあつて、それぞれ違いますし、星と星との 間 の 輝 きにも違いがあります。

ししや ふつかつ おな ま く ふつかつ ま いや かがや ふつかつ ま
⁴²死者の復活もこれと同じです。蒔かれるときは朽ちるものでも、朽ちないものに復活し、⁴³蒔かれるときは卑しいものでも、 輝 かしいものに復活し、蒔かれるときには弱いものでも、 力 強いものに復活するのです。⁴⁴つまり、自然の 命 の 体 が蒔かれて、霊の 体 が復活するのです。自然の 命 の 体 があるのですから、霊の 体 もあるわけです。⁴⁵「最初の人アダムは 命 のある生き物となった」と書いてありますが、最後のアダムは 命 を与える霊となったのです。⁴⁶最初に霊の 体 があつたわけではありません。自然の 命 の 体 があり、次いで霊の 体 があるのです。⁴⁷最初の人土ででき、地に属する者であり、第二の人は天に属する者です。⁴⁸土からできた者たちはすべて、土からできたその人に等しく、天に属する者たちはすべて、天に属するその人に等しいのです。⁴⁹わたしたちは、土からできたその人の似 姿 となっているように、天に属するその人の似 姿 にもなるのです。

きょうだい い にく ち かみ くに う つ く う つ
⁵⁰兄 弟たち、わたしはこう言いたいのです。肉と血は神の国を受け継ぐことはできず、朽ちるものが朽ちないものを受け継ぐことはできません。⁵¹わたしはあなたがたに神秘を告げます。わたしたちは皆、眠りにつくわけではありません。わたしたちは皆、今とは異なる 状 態に変えられます。⁵²最後のラッパが鳴るとともに、たちまち、一 瞬 のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は復活して朽ちない者とされ、わたしたちは変えられます。⁵³この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを 必 ず着ることになります。⁵⁴この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを着るとき、次のように書かれている言葉が実現するのです。

しょうり こ
は 勝 利にのみ込まれた。

まえ しょうり
、お前の 勝 利はどこにあるのか。

まえ
：、お前のとげはどこにあるのか。」

し つみ つみ ちから りつぼう しゅう しょうり たまわ かみ かんしや あい きょうだい
⁵⁶死のとげは罪であり、罪の 力 は律法です。⁵⁷わたしたちの主イエス・キリストによってわたしたちに 勝 利を 賜 する神に、感謝しよう。⁵⁸わたしの愛する兄 弟たち、こういうわけですから、動かされないようにしっかり立ち、主の業に常に励みなさい。主に結ばれているならば自分たちの苦労が決して無駄にならないこととを、あなたがたは知っているはずです。

きょうがい しんと ぼ きん
エルサレム 教 会の信徒のための募金

16

せい もの ぼ きん しきょうかい し じ じっこう つ はじ ぼ きん
¹聖なる者たちのための募金については、わたしがガラテヤの諸 教 会に指示したように、あなたがたも実行しなさい。²わたしがそちらに着いてから初めて募金が行われることのないように、 週 の初めの日にはいつも、各自 収 入 に応じて、幾らかずつでも手もとに取って置きなさい。³そちらに着いたら、あなたがたからしょうにん ひと てがみ も おく もの とど い ぼう ひと いっしょ い
承 認された人たちに手紙を持たせて、その贈り物を届けにエルサレムに行かせましょう。⁴わたしも行く 方がよければ、その人たちはわたしと一緒に行くことになるでしょう。

りょこう けいかく
旅行の計画
けいけい ゆ い しゅう とお たいざい ぼ あい ふゆ こ
⁵わたしは、マケドニア経由でそちらへ行きます。マケドニア 州 を通りますから、⁶たぶんあなたがたのところに滞在し、場合によっては、冬を越すことになるかもしれません。そうなれば、次にどこに出かけるにしろ、あなたがたから送り出してもらえますでしょう。⁷わたしは、今、旅のついでにあなたがたに会うようなことはしたくない。主が許してくだされば、しばらくあなたがたのところに滞在したいと思っています。⁸しかし、五 旬 祭まではエフェソに滞在します。⁹わたしの働 きのために大きな門が開かれているだけでなく、反 対 者もたくさんいるからです。

つ しんばい す せわ どうよう かれ しゅう しごと かれ
¹⁰テモテがそちらに着いたら、あなたがたのところで心 配 なく 過 ごせるようお世話 ください。わたしと同 様 、彼 は主の仕事をしているのです。¹¹だれも彼をないがしろにしてはならない。わたしのところに来るときには、安 心 して来られるように送り出してください。わたしは、彼が 兄 弟たちと一緒に来るのを、待っているのです。

きょうだい いっしょ い すす かれ いまい い し まつた よ きかい
¹²兄 弟アポロについては、兄 弟 たちと一緒にあなたがたのところに行くようにと、しきりに勧めたのですが、彼は今行く意志は 全 くありません。良い機会がくれば、行くことでしよう。

め さ しんこう もと た おお つよ い なにごと あい おこな
13目を覚ましていなさい。信仰に基づいてしっかり立ちなさい。雄々しく強く生きなさい。14何事も愛をもって行いなさい。
きょうだい ねが し
15兄弟たち、お願いします。あなたがたも知っているように、ステファナの一家は、アカイア州の初穂で、聖なる者たちに対して労を惜しまず世話をしてく
れしました。16どうか、あなたがたもこの人たちや、彼らと一緒に働き、労苦してきたすべての人々に従ってください。17ステファナ、フォルトナト、アカイコが
き たいへん おも ひと ひと か つと げんき
来てくれたので、大変うれしく思っています。この人たちは、あなたがたのいないときに、代わりを務めてくれました。18わたしとあなたがたを元気づけてくれた
のです。このような人たちを重んじてください。
しゅう しよきょうかい い いえ あつ きょうかい ひとびと とも しゅ
19アジア州の諸教会があなたがたによろしくと言っています。アキラとプリスカが、その家に集まる教会の人々と共に、主においてあなたがたにくれぐれ
もよろしくとのことです。20すべての兄弟があなたがたによろしくと言っています。あなたがたも、聖なる口づけによって互いに挨拶を交わしなさい。
じぶん て あいさつ しる しゅ あい もの かみ みす しゅ き しゅ めぐ
21わたしパウロが、自分の手で挨拶を記します。22主を愛さない者は、神から見捨てられるがいい。マラナ・タ（主よ、来てください）。23主イエスの恵みが、
とも あい いちどう とも
あなたがたと共にあるように。24わたしの愛が、キリスト・イエスにおいてあなたがた一同と共にあるように。

コリントの信徒への手紙 二

[1章](#) [2章](#) [3章](#) [4章](#) [5章](#)

[6章](#) [7章](#) [8章](#) [9章](#) [10章](#)

[11章](#) [12章](#) [13章](#)

[【戻る】](#)

しんと てがみ
コリントの信徒への手紙 二

あいさつ
挨拶
1

かみ み ころ し と きょうだい かみ きょうかい しゅう ぜん ちほう す せい もの
神の御 心 によってキリスト・イエスの使徒とされたパウロと、兄 弟テモテから、コリントにある神の 教 会と、アカイア 州 の全地方に住むすべての聖なる者
たちへ。わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように。

く なん かんしや
苦難と感謝

しゅう ちち かみ じあい み ちち なぐさ ゆた かみ かん さい
わたしたちの主イエス・キリストの父である神、慈愛に満ちた父、慰 めを豊かにくださる神がほめたたえられますように。神は、あらゆる苦難に際してわた
なぐさ なぐさ かみ なぐさ くん なか ひとびと なぐさ くる
したちを慰 めてくださるので、わたしたちも神からいただくこの 慰 めによって、あらゆる苦難の中にある人々を 慰 めることができます。キリストの苦しみが
み およ おな う なぐさ み なや くる
満ちあふれてわたしたちにも及んでいるのと同じように、わたしたちの受ける 慰 めもキリストによって満ちあふれているからです。わたしたちが悩み苦しむとき、
なぐさ すく なぐさ なぐさ くる おな くる
それはあなたがたの 慰 めと救いになります。また、わたしたちが 慰 められるとき、それはあなたがたの 慰 めになり、あなたがたがわたしたちの苦しみと同じ苦
た いた きぼう ゆ くる とも
しみに耐えることができるのです。あなたがたについてわたしたちが抱いている希望は揺るぎません。なぜなら、あなたがたが苦しみを共にしてくれているよう
なぐさ とも し
に、慰 めをも共にしていると、わたしたちは知っているからです。
きょうだい しゅう こうむ くん し た あつぱく い のぞ うしな
兄 弟たち、アジア 州 でわたしたちが 被 った苦難について、ぜひ知っていてほしい。わたしたちは耐えられないほどひどく 圧 迫されて、生きる望みさえ 失 っ
てしまいました。わたしたちとしては死の宣告を受けた思いでした。それで、自分を頼りにすることなく、死者を復活させてくださる神を頼りにするようになり
かみ おお し きけん すく じぶん たよ ししや ふつかつ かみ たよ
ました。神は、これほど大きな死の危険からわたしたちを救ってくださったし、また救ってくださることでしょ。これからも救ってくださるにちがいないと、わ
かみ きぼう いた えんじょ おお ひと かげ あた めぐ おお ひと
たしたちは神に希望をかけています。あなたがたも祈りで援助してください。そうすれば、多くの人のお陰でわたしたちに与えられた恵みについて、多くの 人
びと かんしや
々がわたしたちのために感謝をささげてくれるようになるのです。

ほうもん えん き
コリント訪問の延期

よ なか たい にんげん ち え かみ う じゅんしん せいじつ かみ めぐ もと こうどう
わたしたちは世の中で、とりわけあなたがたに対して、人間の知恵によってではなく、神から受けた 純 真と誠実によって、神の恵みの下に行 動してきました
た。このことは、良 心も証しするところで、わたしたちの誇りです。13-14わたしたちは、あなたがたが読み、また理解できること以外何も書いていません。あなた
がたは、わたしたちをある程度理解しているのですから、わたしたちの主イエスの来られる日に、わたしたちにとってもあなたがたが誇りであるように、あなたがた
にとってもわたしたちが誇りであることを、十 分に理解してもらいたい。
かくしん ささ どめぐ う い けいかく た
15このような確信に支えられて、わたしは、あなたがたがもう一度恵みを受けるようにと、まずあなたがたのところへ行く計 画を立てました。16そして、そちらを
けいゆ しゅう おもむ しゅう ふたた もど おく だ かんが けいかく た
經由してマケドニア 州 に 赴 き、マケドニア 州 から 再 びそちらに戻って、ユダヤへ送り出してもらおうと 考 えたのでした。17このような計 画を立てたのは、
かる けいかく にんげんてき かんが しか しか どうじ いな いな
軽はずみだったのでしょうか。それとも、わたしが計 画するのは、人間的な 考 えによることで、わたしにとって「然り、然り」が同時に「否、否」となるので
かみ しんじつ かつ む ことば しか どうじ いな
しょうか。18神は真実な方です。だから、あなたがたに向けたわたしたちの言葉は、「然り」であると同時に「否」であるというものではありません。19わたした
ち、つまり、わたしとシルワノとテモテが、あなたがたの 間 で宣べ伝えた神の子イエス・キリストは、「然り」と同時に「否」となったような方ではありませ
ん。この方においては「然り」だけが実現したのです。20神の約束は、ことごとくこの方において「然り」となったからです。それで、わたしたちは神をたたえる
ため、この方を通して「アーメン」と唱えます。21わたしたちとあなたがたとをキリストに固く 結び付け、わたしたちに 油 を注いでくださったのは、神です。22神
はまた、わたしたちに 証 印を押して、保 証 としてわたしたちの 心 に“霊”を与えてくださいました。
かみ しやうにん た いのち ちか い おも しん
23神を 証 人に立てて、命 にかけて誓いますが、わたしがまだコリントに行かずにいるのは、あなたがたへの思いやりからです。24わたしたちは、あなたがたの信
こう しはい よろこ きやうりよく もの しんこう もと た
仰を支配するつもりはなく、むしろ、あなたがたの 喜 びのために 協 力 する者です。あなたがたは信仰に基づいてしっかり立っているからです。

ふたた かな けつしん かな かな
2そこでわたしは、そちらに行くことで 再 びあなたがたを悲しませるようなことはすまい、と決心しました。もしあなたがたを悲しませるとすれば、わたしが悲
ひと いがい よろこ か い よろこ ひと かな
しませる人以外のいったいだれが、わたしを 喜 ばせてくれるでしょう。あのようなことを書いたのは、そちらに行つて、喜 ばせてもらえるはずの人たちから悲し
おも よろこ よろこ うちどう かくしん かな
い思いをさせられたくなかったからです。わたしの 喜 びはあなたがたすべての 喜 びでもあると、あなたがた一同について確信しているからです。わたしは、悩
うれ み ころ なみだ てがみ か かな たい いた あい し
みと愁いに満ちた 心 で、涙 ながらに手紙を書きました。あなたがたを悲しませるためではなく、わたしがあなたがたに対してあふれるほど抱いている愛を知つ
てもらうためでした。

いはんしや ゆる
違反者を赦す

かな げんいん ひと ひと かな おお ひょうげん ひか ていど かな
悲しみの原因となった人がいれば、その人はわたしを悲しませたのではなく、大げさな 表 現は控えますが、あなたがたすべてをある程度悲しませたので
ひと たすう もの う ばつ じゅうぶん ひと かな う ゆる ちから かな
す。その人には、多数の者から受けたあの罰で 十 分です。むしろ、あなたがたは、その人が悲しみに打ちめされてしまわないように、赦して、力 づけるべ
きです。そこで、ぜひともその人を愛するようにしてください。わたしに手紙を書いたのも、あなたがたが万事について 従 順 であるかどうかを試すため
な に ゆる あいて ゆる なに ひと ゆる まえ ゆる
した。10あなたがたが何かのことで赦す相手は、わたしも赦します。わたしが何かのことで人を赦したとすれば、それは、キリストの前であなたがたのために赦し
たのです。11わたしたちがそうするのは、サタンにつけ込まれないためです。サタンのやり口は 心 得ているからです。

パウロの不安と安心

「わたしは、キリストの福音を伝えるためにトロアスに行ったとき、主によってわたしのために門が開かれていましたが、¹²兄弟テトスに会えなかったので、不安の心を抱いたまま人々に別れを告げて、マケドニア州に出発しました。
「神に感謝します。神は、わたしたちをいつもキリストの勝利の行進に連らせ、わたしたちを通じて至るところに、キリストを知るとい知識の香りを漂わせてくださいます。¹³救いの道をたどる者にとっても、滅びの道をたどる者にとっても、わたしたちはキリストによって神に献げられる良い香りです。¹⁴滅びる者には死から死に至らせる香りであり、救われる者には命から命に至らせる香りです。このような務めにだれがふさわしいでしょうか。」わたしたちは、多くの人々のように神の言葉を売り物にせず、誠実に、また神に属する者として、神の御前でキリストに結ばれて語っています。

新しい契約の奉仕者

3

「わたしたちは、またもや自分を推薦し始めているのでしょうか。それとも、ある人々のように、あなたがたへの推薦状、あるいはあなたがたからの推薦状が、わたしたちに必要なののでしょうか。¹わたしたちの推薦状は、あなたがた自身です。それは、わたしたちの心に書かれており、すべての人々から知られ、読まれています。²あなたがたは、キリストがわたしたちを用いてお書きになった手紙として公にされています。墨ではなく生ける神の霊によって、石の板ではなく人の心の板に、書きつけられた手紙です。
「わたしたちは、キリストによってこのような確信を神の前で抱いています。³もちろん、独りで何かできるなどと思う資格が、自分にあるということではありません。わたしたちの資格は神から与えられたものです。⁴神はわたしたちに、新しい契約に仕える資格、文字ではなく霊に仕える資格を与えてくださいました。文字は殺しますが、霊は生かします。

「ところで、石に刻まれた文字に基づいて死に仕える務めさえ栄光を帯びて、モーセの顔に輝いていたつかの間の栄光のために、イスラエルの子らが彼の顔を見つめえないほどであったとすれば、⁵霊に仕える務めは、なおさら、栄光を帯びているはずではありませんか。⁶人を罪に定める務めが栄光をまとうていたとすれば、人を義とする務めは、なおさら、栄光に満ちあふれています。⁷そして、かつて栄光を与えられたものも、この場合、はるかに優れた栄光のために、栄光が失われています。⁸なぜなら、消え去るべきものが栄光を帯びていたのなら、永続するものは、なおさら、栄光に包まれているはずだからです。

⁹このような希望を抱いているので、わたしたちは確信に満ちあふれてふるまっており、¹⁰モーセが、消え去るべきものの最後をイスラエルの子らに見られまいとして、自分の顔に覆いを掛けたようなことはしません。¹¹しかし、彼らの考えは鈍くなってしまいました。今日に至るまで、古い契約が読まれる際に、この覆いは除かれずに掛かったままなのです。それはキリストにおいて取り除かれるものだからです。¹²このため、今日に至るまでモーセの書が読まれるときは、いつでも彼らの心には覆いが掛かっています。¹³しかし、主の方に向き直れば、覆いは取り去られます。¹⁴ここでのいう主とは、「霊」のことですが、主の霊のおられるところに自由があります。¹⁵わたしたちは皆、顔の覆いを除かれて、鏡のように主の栄光を映し出しながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられていきます。これは主の霊の働きによることです。

4

「こういうわけで、わたしたちは、憐れみを受けた者としてこの務めをゆだねられているのですから、落胆しません。¹かえって、卑劣な隠れた行いを捨て、悪賢く歩まず、神の言葉を曲げず、真理を明らかにすることにより、神の御前で自分自身をすべての人の良心にゆだねます。²わたしたちの福音に覆いが掛かっているとするなら、それは、滅びの道をたどる人々に対して覆われているのです。³この世の神が、信じようとはしないこの人々の心の目をくらまし、神の似姿であるキリストの栄光に関する福音の光が見えないようにしたのです。⁴わたしたちは、自分自身を宣べ伝えるのではなく、主であるイエス・キリストをのべ宣べ伝えています。わたしたち自身は、イエスのためにあなたがたに仕える僕なのです。⁵「闇から光が輝き出よ」と命じられた神は、わたしたちの心の内に輝いて、イエス・キリストの御顔に輝く神の栄光を悟る光を与えてくださいました。

「ところで、わたしたちは、このような宝を土の器に納めています。この並外れて偉大な力が神のものであって、わたしたちから出たものでないことが明らかにするために。⁶わたしたちは、四方から苦しめられても行き詰まらず、途方に暮れても失望せず、⁷虐げられても見捨てられず、打ち倒されても滅ぼされな

い。⁸わたしたちは、いつもイエスの死を体にとっています、イエスの命がこの体に現れるために。」わたしたちは生きている間、絶えずイエスのために死にさらされています、死ぬはずのこの身にイエスの命が現れるために。⁹こうして、わたしたちの内には死が働き、あなたがたの内には命が働いていることになります。¹⁰「わたしは信じた。それで、わたしは語った」と書いてあるとおり、それと同じ信仰の霊を持っているので、わたしたちも信じ、それだからこそ語つてもいます。¹¹主イエスを復活させた神が、イエスと共にわたしたちをも復活させ、あなたがたと一緒に御前に立たせてくださると、わたしたちは知っています。¹²すべてこれらのことは、あなたがたのためであり、多くの人々が豊かに恵みを受け、感謝の念に満ちて神に栄光を帰すようになるためです。

信仰に生きる

「だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの「外なる人」は衰えていくとしても、わたしたちの「内なる人」は日々新たにされていきます。」わたしたちの一時の軽い艱難は、比べものにならないほど重みのある永遠の栄光をもたらしてくれます。¹³わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。

5

わたしたちの地 上 の住みかである幕屋が減びても、神によって建物が備えられていることを、わたしたちは知っています。人の手で造られたものではない天にある永遠の住みかです。わたしたちは、天から与えられる住みかを上に着たいと切に願って、この地 上 の幕屋にあって苦しみもだえています。それを脱いで、わたしたちは 裸 のままではおりません。この幕屋に住むわたしたちは重荷を負ってうめいておりませんが、それは、地 上 の住みかを脱ぎ捨てたいからではありません。死ぬはずのものが 命 に飲み込まれてしまうために、天から与えられる住みかを上に着たいからです。わたしたちを、このようになるのにふさわしい者としてくださったのは、神です。神は、その保証 として、霊を 与えてくださったのです。

それで、わたしたちはいつも 心 強いのですが、 体 を住みかとしているかぎり、主から離れていることも知っています。目に見えるものによらず、信仰によって歩んでいるからです。わたしたちは、心 強い。そして、 体 を離れて、主のもとに住むことをむしろ望んでいます。だから、 体 を住みかとしていても、 体 を離れているにしても、ひたすら主に 喜ばれる者でありたい。なぜなら、わたしたちは皆、キリストの裁きの座の前に立ち、善であれ悪であれ、めいめい 体 を住みかとしていたときに 行 ったことに応じて、報いを受けねばならないからです。

和解させる任務
主に対する畏れを知っているわたしたちは、人々の説得に努めます。わたしたちは、神にはありのままに知られています。わたしは、あなたがたの良 心にもありのままに知られたいと思います。わたしたちは、あなたがたにもう一度自己推薦をしようというわけではありません。ただ、内面ではなく、外面を誇っているひとびと おう 人々に応じられるように、わたしたちのことを誇る機会をあなたがたに提供しているのです。わたしたちが正 気でないとするなら、それは神のためであつたし、正 気であるなら、それはあなたがたのためです。なぜなら、キリストの愛がわたしたちを駆り立てているからです。わたしたちはこう 考えます。すなわち、ひとり 一人の方がすべての人のために死んでくださった以上、すべての人も死んだことになります。その一人の方はすべての人のために死んでくださった。その目的は、生きている人たちが、もはや自分自身のために生きるのではなく、自分たちのために死んで復活してくださった方のために生きることなのです。

それで、わたしたちは、今後だれをも肉に 従 って知ろうとはしません。肉に 従 ってキリストを知っていたとしても、今はもうそのように知ろうとはしません。だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが 生 じた。これらはすべて神から出ることであつて、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。ですから、神がわたしたちを通して勧めておられるので、わたしたちはキリストの使者の務めを果たしています。キリストに代わってお願いします。神と和解させていただきなさい。罪と何のかかわりもない方を、神はわたしたちのために罪となさいました。わたしたちはその方によって神の義を得ることができたのです。

6

わたしたちはまた、神の協力者としてあなたがたに勧めます。神からいただいた恵みを無駄にしてはいけません。なぜなら、

恵みの時に、わたしはあなたの願いを聞き入れた。

ひの日に、わたしはあなたを助けた」
と神は言っておられるからです。今や、恵みの時、今こそ、救いの日。わたしたちはこの奉仕の務めが非難されないように、どんな事にも人に罪の機会を与えず、あらゆる場合に神に仕える者としてその実を示しています。大いなる忍耐をもって、苦難、欠乏、行き詰まり、鞭打ち、監禁、暴動、労苦、不眠、飢餓においても、純 真、知識、寛容、親切、聖霊、偽りのない愛、真理の言葉、神の力によってそうしています。左右の手に義の武器を持ち、栄誉を受けるときも、辱 めを受けるときも、悪 評 を浴びるときも、好 評 を博するときにもそうしているのです。わたしたちは人を欺 いているようでいて、誠実であり、人に知られていないようでいて、よく知られ、死にかかっているようで、このように生きており、罰せられているようで、殺されてはならず、悲しんでいるようで、常に 喜 び、貧しいようで、多くの人を富ませ、無一物のようで、すべてのものを所有しています。

コリントの人たち、わたしたちはあなたがたに率直に語り、心を広く開きました。わたしたちはあなたがたを広い心で受け入れていますが、あなたがたは自分で心を狭くしています。子供たちに語るようにわたしは言いますが、あなたがたも同じように心を広くしてください。

生ける神の神殿
あなたがたは、信仰のない人々と一緒に不釣り合いな軛につながれてはなりません。正義と不法とにどんなにかかわりがありますか。光と闇とに何のつながりがありますか。キリストとベリアルにどんな調和がありますか。信仰と不信仰に何の関係がありますか。神の神殿と偶像にどんな一致がありますか。わたしたちは生ける神の神殿なのです。神がこう言われているとおりです。

わたしは彼らの間に住み、巡り歩く。

て、彼らの神となり、

うはわたしの民となる。

ら、あの者どもの中から出て行き、

ざるように』と主は仰せになる。

して、汚れたものに触れるのをやめよ。

すれば、わたしはあなたがたを受け入れ、

なり、

あなたがたはわたしの息子、娘 となる。』

能の主はこう仰せられる。」

7 愛する人たち、わたしたちは、このような約束を受けているのですから、肉と霊のあらゆる汚れから自分を清め、神を畏れ、完全に聖なる者となりましょう。

教会の悔い改めを喜び
わたしたちに心を開いてください。わたしたちはだれにも不義を行わず、だれをも破滅させず、だれからもだまし取ったりしませんでした。あなたがたを責めるつもりで、こう言っているわけではありません。前にも言ったように、あなたがたはわたしたちの心の中にいて、わたしたちと生死を共にしているのです。わたしはあなたがたに厚い信頼を寄せており、あなたがたについて大いに誇っています。わたしは慰めに満たされており、どんな苦難のうちにあっても喜びに満ちあふれています。

マケドニア州に着いたとき、わたしたちの身には全く安らぎがなく、ことごとに苦しんでいました。外には戦い、内には恐れがあったのです。しかし、気落ちした者を力づけてくださる神は、テトスの到着によってわたしたちを慰めてくださいました。テトスが来てくれたことによってだけでなく、彼があなたがたから受けた慰めによっても、そうしてくださったのです。つまり、あなたがたがわたしを慕い、わたしのために嘆き悲しみ、わたしに対して熱心であることが彼が伝えてくれたので、わたしはいつそう喜んだのです。あの手紙によってあなたがたを悲しませたとしても、わたしは後悔しません。確かに、あの手紙がいつときにもせよ、あなたがたを悲しませたことは知っています。たとえ後悔したとしても、今は喜んでいます。あなたがたがただ悲しんだからではなく、悲しんで悔い改めたからです。あなたがたが悲しんだのは神の御心に適ったことなので、わたしたちからは何の害も受けずに済みました。神の御心に適った悲しみは、取り消されることのない救いに通じる悔い改めを生じさせ、世の悲しみは死をもたらします。神の御心に適ったこの悲しみが、あなたがたにどれほどの熱心、弁明、憤り、恐れ、あこがれ、熱意、懲らしめをもたらしたことでしょう。例の事件に関しては、あなたがたは自分がすべての点で潔白であることを示しました。ですから、あなたがたに手紙を送ったのは、不義を行った者のためでも、その被害者のためでもなく、わたしたちに対するあなたがたの熱心を、神の御前であなたがたに明らかにするためでした。こういうわけでわたしたちは慰められたのです。

この慰めに加えて、テトスの喜ぶさまを見て、わたしたちはいつそう喜びました。彼の心があなたがた一同のお陰で元気づけられたからです。あなたがたのことをテトスに少し誇りましたが、そのことで恥をかかずに済みました。それどころか、わたしたちはあなたがたにすべて真実を語ったように、テトスの前で誇ったことも真実となったのです。テトスは、あなたがた一同が従順で、どんなに恐れおのいて歓迎してくれたかを思い起こして、ますますあなたがたに心を寄せています。わたしは、すべての点であなたがたを信頼できることを喜んでいます。

自発的な施し

兄弟たち、マケドニア州の諸教会に与えられた神の恵みについて知らせましょう。彼らは苦しみによる激しい試練を受けていたのに、その満ち満ちた喜びと極度の貧しさがあふれ出て、人に惜しまず施す豊かさとなったということです。わたしは証しますが、彼らは力に应じて、また力以上に、自分から進んで、聖なる者たちを助けるための慈善の業と奉仕に参加させてほしいと、しきりにわたしたちに願ひ出たのでした。また、わたしたちの期待以上に、彼らはまず主に、次いで、神の御心にそってわたしたちにも自分自身を献げたので、わたしたちはテトスに、この慈善の業をあなたがたの間で始めたからには、やり遂げるようにと勧めました。あなたがたは信仰、言葉、知識、あらゆる熱心、わたしたちから受ける愛など、すべての点で豊かなのですから、この慈善の業においても豊かな者となりなさい。

「わたしは命令としてこう言っているのではありません。他の人々の熱心に照らしてあなたがたの愛の純粋さを確かめようとして言うのです。」あなたがたは、わたしたちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は豊かであつたのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、主の貧しさによって、あなたがたが豊かになるためだったのです。¹⁰この件についてわたしの意見を述べておきます。それがあなたがたの益になるからです。あなたがたは、このことを去年から他に先がけて実行したばかりでなく、実行したいと願つてもいました。¹¹だから、今それをやり遂げなさい。進んで実行しようと思つたとおりに、自分が持っているものでやり遂げることです。¹²進んで行 う気持ちがあれば、持たないものではなく、持っているものに应じて、神に受け入れられるのです。¹³他の人々には樂をさせて、あなたがたに苦勞をかけるということではなく、釣り合いがとれるようにするわけです。¹⁴あなたがたの現在のゆとりが彼らの欠乏を補えば、いつか彼らのゆとりもあなたがたの欠乏を補うことになり、こうして釣り合いがとれるのです。

く集めた者も、余ることはなく、

「しかし集めなかつた者も、

不足することはなかつた」
と書いてあるとおりです。

諸教会からの使者

「あなたがたに対してわたしたちが抱いているのと同じ熱心を、テトスの心にも抱かせてくださった神に感謝します。¹⁷彼はわたしたちの勸告を受け入れ、ますます熱心に、自ら進んでそちらに赴こうとしているからです。¹⁸わたしたちは一人の兄弟を同伴させます。福音のことで至るところの教会で評判の高い人です。¹⁹そればかりではありません。彼はわたしたちの同伴者として諸教会から任命されたのです。それは、主御自身の栄光と自分たちの熱意を現すようにわたしたちが奉仕している、この慈善の業に加わるためでした。²⁰わたしたちは、自分が奉仕しているこの惜しまず提供された募金について、だれからも非難されないようにしています。²¹わたしたちは、主の前だけではなく、人の前でも公明正大にふるまうように心がけています。²²彼らにもう一人わたしたちの兄弟を同伴させます。この人が熱心であることは、わたしたちがいろいろな機会にしばしば実際に認めたところです。今、彼はあなたがたに厚い信頼を寄せ、ますます熱心になっています。²³テトスについて言えば、彼はわたしの同志であり、あなたがたのために協力する者です。これらの兄弟について言えば、彼らは諸教会の使者であり、キリストの栄光となっています。²⁴だから、あなたがたの愛の証しと、あなたがたのことでわたしたちが抱いている誇りの証しとを、諸教会の前で彼らに見せてください。

エルサレムの信徒のための献金

「聖なる者たちへの奉仕について、これ以上書く必要はありません。²わたしはあなたがたの熱意を知っているのので、アカイア州では去年から準備ができています」と言つて、マケドニア州の人々にあなたがたのことを誇りました。あなたがたの熱意は多くの人々を奮い立たせたのです。³わたしが兄弟たちを派遣するのは、あなたがたのことでわたしたちが抱いている誇りが、この点で無意味なものにならないためです。また、わたしが言つたとおり用意してもらいたいためです。⁴そうでない、マケドニア州の人々がわたしと共に行つて、まだ用意のできていないのを見たら、あなたがたはもちろん、わたしたちも、このように確信しているだけに、恥をかくことになりかねないからです。⁵そこで、この兄弟たちに頼んで一足先にそちらに行つて、以前あなたがたが約束した贈り物の用意をしてもらうことが必要だと思ひました。渋りながらではなく、惜しまず差し出したものとして用意してもらうためです。⁶つまり、こういうことです。惜しんでわずかし種を蒔かない者は、刈り入れもわずかで、惜しまず豊かに蒔く人は、刈り入れも豊かなのです。⁷各自、不承不承ではなく、強制されてでなく、こうしようと心に決めたとおりにしなさい。喜んで与える人を神は愛してくださるからです。⁸神は、あなたがたがいつもすべての点ですべてのものに十分で、あらゆる善い業に満ちあふれるように、あらゆる恵みをあなたがたに満ちあふれさせることがおできになります。

は惜しみなく分け与え、貧しい人に施した。

り慈しみは永遠に続く」

と書いてあるとおりです。¹⁰種を蒔く人に種を与え、パンを糧としてお与えになる方は、あなたがたに種を与えて、それを増やし、あなたがたの慈しみが結ぶ実を成長させてくださいます。¹¹あなたがたはすべてのことに富む者とされて惜しまず施すようになり、その施しは、わたしたちを通じて神に対する感謝の念を引き出します。¹²なぜなら、この奉仕の働きは、聖なる者たちの不足しているものを補うばかりでなく、神に対する多くの感謝を通してますます盛んになるからです。¹³この奉仕の業が実際に行われた結果として、彼らは、あなたがたがキリストの福音を従順に公言していること、また、自分たちや他のすべての人々に惜しまず施しを分けてくれることで、神をほめたたえます。¹⁴更に、彼らはあなたがたに与えられた神のこの上なくすばらしい恵みを見て、あなたがたを慕い、あなたがたのために祈るのです。¹⁵言葉では言い尽くせない贈り物について神に感謝します。

10

‘さて、あなたがたの間で面と向かつては弱腰だが、離れていると強硬な態度に出る、と思われている、このわたしパウロが、キリストの優しさと心の広さをもって、あなたがたに願います。’わたしたちのことを肉に従って歩んでいると見なししている者たちに対しては、勇敢に立ち向かうつもりです。わたしがそちらに行くときには、そんな強硬な態度をとらずに済むようにと願っています。’わたしたちは肉において歩んでいます、肉に従って戦うではありません。’わたしたちの戦いの武器は肉のものではなく、神に由来する力であって要塞も破壊するに足ります。わたしたちは理屈を打ち破り、’神の知識に逆らうあらゆる高慢を打ち倒し、あらゆる思惑をとりこにしてキリストに従わせ、’また、あなたがたの従順が完全なものになるとき、すべての不従順を罰する用意ができています。

’あなたがたは、うわべのことだけ見えています。自分がキリストのものだと信じきっている人がいれば、その人は、自分と同じくわたしたちもキリストのものであることを、もう一度考えてみるがよい。’あなたがたを打ち倒すためではなく、造り上げるために主がわたしたちに授けてくださった権威について、わたしがいささか誇りすぎたとしても、恥にはならないでしょう。’わたしは手紙であなたがたを脅していると思われたくない。’わたしのことを、「手紙は重々しく力強いが、実際に会ってみると弱々しい人で、話もつまらない」と言う者たちがいるからです。’そのような者は心得ておくがよい。離れていて手紙で書くわたしたちと、その場に居合わせてふるまうわたしたちとに変わりはありません。

’わたしたちは、自己推薦する者たちと自分を同列に置いたり、比較したりしようなどとは思いません。彼らは仲間どうしで評価し合い、比較し合っています。’が、愚かなことです。’わたしたちは限度を超えては誇らず、神が割り当ててくださった範囲内で誇る、つまり、あなたがたのところまで行ったということで誇るのです。’わたしたちは、あなたがたのところまでは行かなかったかのように、限度を超えようとしているではありません。実際、わたしたちはキリストの福音を携えてだれよりも先にあなたがたのもとを訪れたのです。’わたしたちは、他人の労苦の結果を限度を超えて誇るようなことはしません。ただ、わたしたちが希望しているのは、あなたがたの信仰が成長し、あなたがたの間でわたしたちの働きが定められた範囲内でますます増大すること、’あなたがたを越えた他の地域にまで福音が告げ知らされるようになること、わたしたちが他の人々の領域で成し遂げられた活動を誇らないことです。’「誇る者は主を誇れ。」’自己推薦する者ではなく、主から推薦される人こそ、適格者として受け入れられるのです。

11

’わたしの少しばかりの愚かさを我慢してくれたらよいが。いや、あなたがたは我慢してくれています。’あなたがたに対して、神が抱いておられる熱い思いをわたしも抱いています。なぜなら、わたしはあなたがたを純潔な処女として一人の夫と婚約させた、つまりキリストに献げたからです。’ただ、エバが蛇の悪だくみで欺かれたように、あなたがたの思いが汚されて、キリストに対する真心と純潔とからそれてしまうのではないかと心配しています。’なぜなら、あなたがたは、だれかがやって来てわたしたちが宣べ伝えたのとは異なったイエスを宣べ伝えても、あるいは、自分たちが受けたことのない違った霊や、受け入れたことのない違った福音を受けることになっても、よく我慢しているからです。’あの大使徒たちと比べて、わたしは少しも引けは取らないと思う。’たとえ、話し振りは素人でも、知識はそうではない。そして、わたしたちはあらゆる点あらゆる面で、このことをあなたがたに示してきました。

’それとも、あなたがたを高めるため、自分を低くして神の福音を無報酬で告げ知らせたからといって、わたしは罪を犯したことになるでしょうか。’わたしは、他の諸教会からかすめ取るようにしてまでも、あなたがたに奉仕するための生活費を手に入れました。’あなたがたのもで生活に不自由したとき、だれにも負担をかけませんでした。マケドニア州から来た兄弟たちが、わたしの必要を満たしてくれました。そして、わたしは何事においてもあなたがたに負担をかけないようにしてきたし、これからもそうするつもりです。’わたしの内にあるキリストの真実にかけて言います。このようにわたしが誇るのを、アカイア地方で妨げられることは決してありません。’なぜだろうか。わたしがあなたがたを愛していないからだろうか。神がご存じです。

’わたしは今していることを今後も続けるつもりです。それは、わたしたちと同様に誇れるようにと機会をねらっている者たちから、その機会を断ち切るためです。’こういう者たちは偽使徒、ずる賢い働き手であって、キリストの使徒を装っているのです。’だが、驚くには当たりません。サタンでさえ光の天使を装うのです。’だから、サタンに仕える者たちが、義に仕える者を装うことなど、大したことではありません。彼らは、自分たちの業に応じた最期を遂げるでしょう。

’もう一度言います。だれもわたしを愚か者と思わないでほしい。しかし、もしあなたがたがそう思うなら、わたしを愚か者と見なすがよい。そうすれば、わたしも少しは誇ることができる。’わたしがこれから話すことは、主の御心に従ってではなく、愚か者のように誇れると確信して話すのです。’多くの者が肉に従って誇っているので、わたしも誇ることにしよう。’賢いあなたがたのことだから、喜んで愚か者たちを我慢してくれるでしょう。’22実際、あなたがたはだれかに奴隷にされても、食べ物にされても、取り上げられても、横柄な態度に出られても、顔を殴りつけられても、我慢しています。’言うのも恥ずかしいことですが、わたしたちの態度は弱すぎたのです。だれかが何かのことであえて誇ろうとするなら、愚か者になったつもりで言いますが、わたしもあえて誇ろう。’22彼らはヘブライ人なのか。わたしもそうです。イスラエル人なのか。わたしもそうです。アブラハムの子孫なのか。わたしもそうです。’23キリストに仕える者なのか。気が変になったように言いますが、わたしは彼ら以上にならずにいます。苦勞したことはずっと多く、投獄されたこともずっと多く、鞭打たれたことは比較できないほど多く、死ぬような目に遭ったことも度々でした。’24ユダヤ人から四十に一つ足りない鞭を受けたことが五度。’25鞭で打たれたことが三度、石を投げつけられたこ

ど　なんせん　ど　ちゅうやかいじょう　ただよ　とが一度、難船したことが三度。一　昼　夜　海　上　に　漂　ったこともありました。²⁸しばしば旅をし、川の難、盗賊の難、同胞からの難、異邦人からの難、町でのなん　あ　の　なん　かいじょう　なん　にせ　きょうだい　なん　あ　くろう　ほねお　ねむ　す　う　かわ　さむ　ご難、荒れ野での難、海上の難、偽の兄弟たちからの難に遭い、²⁷苦勞し、骨折って、しばしば眠らずに過ごし、飢え渴き、しばしば食べずにおり、寒さに凍はだか　え、裸　でいたこともありました。²⁹このほかにもまだあるが、その上に、日々わたしに迫るやつかい事、あらゆる　教　会　について的心配事があります。²⁹だれかがよわ　弱っているなら、わたしは弱らないでいられるでしょうか。だれかがつまずくなら、わたしが　心　を燃やさないでいられるでしょうか。ほこ　ひつよう　よわ　ことがら　ほこ　しゅ　ちち　かみ　えいえん　かた　いつわ　い³⁰誇る必要があるなら、わたしの弱さにかかわる事柄を誇りましょう。³¹主イエスの父である神、永遠にほめたたえられるべき方は、わたしが　偽　りを言っていないことをご存じです。³²ダマスコでアレタ王の代官が、わたしを捕らえようとして、ダマスコの人たちの町を見張っていたとき、³³わたしは、窓から籠で　城　壁づたいにつり降ろされて、彼の手を逃れたのでした。

しゅ　しめ　こと　主から示された事
12　ほこ　ほこ　むえき　しゅ　み　こと　けいじ　こと　かた　むす
'わたしは誇らずにいられません。誇っても無益ですが、主が見せてくださった事と啓示してくださった事について語りましょう。¹わたしは、キリストに結ばれていた一人の人を知っていますが、その人は十四年前、第三の天にまで引き上げられたのです。体　のままか、体　を離れてかは知りません。神がご存じです。²わたしはそのような人を知っています。体　のままか、体　を離れてかは知りません。神がご存じです。⁴彼は樂園にまで引き上げられ、人が口にするのを許されない、言い　表　しえない言葉を耳にしたのです。⁵このような人のことをわたしは誇りましょう。しかし、自分自身については、弱さ以外には誇るつもりはありません。⁶仮にわたしが誇る気になったとしても、真実を語るのだから、愚か者にはならないでしょう。だが、誇るまい。わたしのことを見たり、わたしから　話　を聞いたりする以　上　に、わたしを過大　評　価する人がいるかもしれないし、⁷また、あの啓示された事があまりにもすばらしいからです。それで、そのために思い上がることの無いようにと、わたしの身に一つのとげが与えられました。それは、思い上がらないように、わたしを痛めつけるために、サタンから送られた使いです。⁸この使いについて、離れ去らせてくださるように、わたしは三度主に願いました。⁹すると主は、「わたしの恵みはあなたに　十　分である。　力　は弱さの中でこそ　十　分に発揮されるのだ」と言われました。だから、キリストの　力　がわたしの内に宿るように、むしろ大いに　喜　んで自分の弱さを誇りましょう。¹⁰それゆえ、わたしは弱さ、侮　辱　、窮　乏　、迫　害　、そして行き詰まりの　状　態にあっても、キリストのために満　足　しています。なぜなら、わたしは弱いときにこそ強いからです。

きょうかい　たい　こころづか　コリントの教　会　に対するパウロの心　遣い
　　おろ　もの　む　り　すいせん
　　"わたしは愚か者になってしまいました。あなたがたが無理にそうさせたのです。わたしが、あなたがたから推　薦　してもらうべきだったのです。わたしは、たとえと　た　た　もの　だ　いし　と　くら　すこ　ひ　と　し　と　ふ　し　ぎ　わ　ざ　き　せ　き
取るに足りない者だとしても、あの大使徒たちに比べて少しも引けは取らなかったからです。¹²わたしは使徒であることを、するしや、不思議な業や、奇跡によつにんたいづよ　あいだ　じっしやう　た　しよきやうかい　おと　てん　なん　ふたん
て、忍耐強くあなたがたの　間　で実　証　しています。¹³あなたがたが他の諸　教　会よりも劣っている点は何でしょう。わたしが負担をかけなかったことだけではないですか。この不当な点をどうか許してほしい。¹⁴わたしはそちらに三度目の訪問をしようと　準　備しているのですが、あなたがたに負担はかけません。わたしが求めていのは、あなたがたの持ち物ではなく、あなたがた自身だからです。子は親のために財　産　を　蓄　える必要はなく、親が子のために　蓄　えなければならないのです。¹⁵わたしはあなたがたの　魂　のために大いに　喜　んで自分の持ち物を使い、自分自身を使い果たしめししょう。あなたがたを愛すれば愛するほど、わたしのほう　たましい　あい　ふたん　わがしこ　と　あい　あい
方はますます愛されなくなるのでしょうか。¹⁶わたしが負担をかけなかったとしても、悪　賢　くて、あなたがたからだまし取ったということになっています。¹⁷そちらに派遣した人々の中のだれによって、あなたがたをだましたでしょうか。¹⁸テトスにそちらに行くように願い、あの　兄　弟を同伴させましたが、そのテトスがあなたがたをだましたでしょうか。わたしたちは同じ　霊　に　導　かれ、同じ模範に倣って歩んだのではなかったのですか。

¹⁹あなたがたは、わたしたちがあなたがたに対し自己弁　護　をしているのだと、これまでずっと　思　ってきたのです。わたしたちは神の御前で、キリストに結ばれてかた　あい　ひと　つく　あ　しんばい　い　き　たい
語っています。愛する人たち、すべてはあなたがたを造り上げるためなのです。²⁰わたしは心配しています。そちらに行ってみると、あなたがたがわたしの期待していたような人々ではなく、わたしの方もあなたがたの期待どおりの人者ではない、ということにならないだろうか。争　い、ねたみ、怒り、党派心、そしり、陰ぐち　こうまん　そどう　ふた　い　かみ　まえ　めんぼく　うしな　か
口、高慢、騒動などがあるのではないだろうか。²¹再　びそちらに行くとき、わたしの神があなたがたの前でわたしに面　目　を　失　わせるようなことはなさらないだろうか。いぜん　つみ　おか　おお　ひとびと　しぶん　おこな　ふけつ　おこな　おこな　く　あらた　なげ　かな
以前に罪を犯した多くの人々が、自分たちの　行　った不潔な　行　い、みだらな　行　い、ふしだらな　行　いを悔い　改　めずにいるのを、わたしは嘆き悲しむことになるのではないだろうか。

むす　ことば　結びの言葉
13　い　どめ　ふたり　にん　しょうにん　くち　かくてい　いぜんつみ　おか　ひと
'わたしがあなたがたのところに行くのは、これで三度目です。すべてのことは、二人ないし三人の　証　人の口によって確　定　されるべきです。¹以前罪を犯した人た　ひとびと　どめ　たいざいちゆう　まえ　い　はな　いま　い　こんど　い　よう
と、他のすべての人　々　に、そちらでの二度目の滞　在　中　に前もって言っておいたように、離れている今もあらかじめ言っておきます。今度そちらに行ったら、容　赦　しません。²なぜなら、あなたがたはキリストがわたしによって語っておられる　証　拠を求めているからです。キリストはあなたがたに対しては弱い方でなく、あなたがたの　間　で強い方です。⁴キリストは、弱さのゆえに　十　字架につけられましたが、神の　力　によって生きておられるのです。わたしたちもキリストに結ばれたもの　よわ　もの　たい　かみ　ちから　とも　い　むす
者として弱い者ですが、しかし、あなたがたに対しては、神の　力　によってキリストと共に生きています。⁵しんこう　も　い　しぶん　はんせい　しぶん　ぎんみ　しぶんじしん　わ
　　⁶信　仰　を持って生きているかどうか自分を反省し、自分を吟味しなさい。あなたがたは自分自身のことが分からないのですか。イエス・キリストがあなたがたのうち　しっかくしゃ　べつ　しっかくしゃ　し　わが
内におられることが。あなたがたが失　格　者なら別ですが.....。⁸わたしたちが失　格　者でないことを、あなたがたが知るようにと　願　っています。⁷わたしたちは、あなたがたがどんな悪も　行　わないようにと、神に祈っています。それはわたしたちが、適　格　者と見なされたいからではなく、たとえ失　格　者と見えようとも、あなたがたが善　を　行　うためなのです。⁹わたしたちは、何　事　も真理に逆らってはできませんが、真理のためならばできます。¹⁰わたしたちは自分が弱くても、あなたがたが

つよ よろこ かんぜん もの 強いれば 喜 びます。あなたがたが完 全な者になることをも、わたしたちは祈 っています。¹⁰ 遠くにいてこのようなことを書き送るのは、わたしがそちらに行つたと
こわ つく あ しゅ あた けん い きび たい ど す
き、壊すためではなく 造 り上げるために主がお与えくださつた権威によつて、厳しい態度をとらなくても済むようにするためです。
お きょうだい よろこ かんぜん もの はげ あ おも へいわ たも あい へいわ かみ
"終わりに、兄 弟たち、喜 びなさい。完 全な者になりなさい。励まし合いなさい。思いを一つにきなさい。平和を保ちなさい。そうすれば、愛と平和の神が
とも せい くち たが あいさつ か せい もの
あなたがたと共にいてくださいます。¹² 聖なる口づけによつて互いに挨拶を交わしなさい。すべての聖なる者があなたがたによろしくとのことです。
しゅ めぐ かみ あい せいれい まじ いちどう とも
¹³ 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。

ガラテヤの信徒への手紙

[1章](#) [2章](#) [3章](#) [4章](#) [5章](#)
[6章](#)

[【戻る】](#)

しんとてがみ
ガラテヤの信徒への手紙

あいさつ
挨拶
1

ひとびとひととお
'人々からでもなく、人を通してでもなく、イエス・キリストと、キリストを死者の中から復活させた父である神とによって使徒とされたパウロ、'ならびに、わたし
いっしょきょうだいいちどうちほうしよきょうかい
しと一緒にいる兄弟一同から、ガラテヤ地方の諸教会へ。'わたしたちの父である神と、主イエス・キリストの恵みと平和が、あなたがたにあるように。'キ
かみちちかたみこころしたがあくよすくだごじしんつみささ
リストは、わたしたちの神であり父である方の御心に従い、この悪の世からわたしたちを救い出そうとして、御自身をわたしたちの罪のために献げてくださっ
かみちちかたよよかぎえいこう
たのです。'わたしたちの神であり父である方に世々限りなく栄光がありますように、アーメン。

ふくいん
ほかの福音はない
めぐまねかたはやはなふくいんのかは
'キリストの恵みへ招いてくださった方から、あなたがたがこんなにも早く離れて、ほかの福音に乗り換えようとしていることに、わたしはあきれ果てていま
ふくいんべつふくいんひとびとまどふくいんくつがえ
す。'ほかの福音といっても、もう一つ別の福音があるわけではなく、ある人々があなたがたを惑わし、キリストの福音を覆そうとしているにすぎないので
じしんてんしつしはんふくいんつし
す。'しかし、たとえわたしたち自身であれ、天使であれ、わたしたちがあなたがたに告げ知らせたものに反する福音を告げ知らせようとするならば、呪われるがよ
まえいいまくかえいはんふくいんつしもの
い。'わたしたちが前にも言っておいたように、今また、わたしは繰り返して言います。あなたがたが受けたものに反する福音を告げ知らせる者がいれば、呪われ
るがよい。
いいまひととい
'こんなことを言つて、今わたしは人に取り入ろうとしているのでしょうか。それとも、神に取り入ろうとしているのでしょうか。あるいは、何とかして人の氣に
いいまひときいしもべ
入ろうとあくせくしているのでしょうか。もし、今なお人の氣に入ろうとしているなら、わたしはキリストの僕ではありません。

しとえらしだい
パウロが使徒として選ばれた次第
きょうだい
'兄弟たち、あなたがたにはつきり言います。わたしが告げ知らせた福音は、人によるものではありません。'
ふくいんひとうおし
わたしはこの福音を人から受けたのでも教えられ
たのでもなく、イエス・キリストの啓示によって知らされたのです。
きょうとき
'あなたがたは、わたしがかつてユダヤ教徒としてどのようにふるまっていたかを聞いています。わたしは、徹底的に神の教会を迫害し、滅ぼそうとしてい
せんぞでんしようまもひといちばいねつしんどうぼうあいだおなとしおおもものきょうてつ
ました。'
せんぞでんしようまもひといちばいねつしんどうぼうあいだおなとしおおもものきょうてつ
また、先祖からの伝承を守るのに人一倍熱心で、同胞の間では同じ年ごろの多くの者よりもユダヤ教に徹しようとしていました。'
はいたない
しかし、わ
たしを母の胎内にあるときから選び分け、恵みによって召し出してくださいだった神が、御心のままに、'
めだめこしめふくいんいほうじんつし
御子をわたしに示して、その福音を異邦人に告げ知らせる
けつにくそうだん
ようにされたとき、わたしは、すぐ血肉に相談するようなことはせず、'
のぼさきしとめひとい
また、エルサレムに上って、わたしより先に使徒として召された人たちのもとに行くこと
しりぞふたたもど
もせず、アラビアに退いて、そこから再びダマスコに戻ったのです。
ねんごしあのぼにちかんかれたいざいしとあしゆきょうだい
'それから三年後、ケファと知り合いになろうとしてエルサレムに上り、十五日間彼のもとに滞在しましたが、'
あかみみまえだんげん
ほかの使徒にはだれにも会わず、ただ主の兄弟
ヤコブにだけ会いました。'
かかみみまえだんげん
わたしがこのように書いていることは、神の御前で断言しますが、うそをついているわけではありません。'
ご
その後、わたしはシリアおよび
ちほういむす
キリキアの地方へ行きました。'
かおみしかれ
キリストに結ばれているユダヤの諸教会の人々とは、顔見知りではありませんでした。'
われわれはくがい
ただ彼らは、「かつて我々を迫害した
とうじほろしんこういまふくいんつしき
ものが、あの当時滅ぼそうとしていた信仰を、今は福音として告げ知らせている」と聞いて、'
かみ
わたしのことで神をほめたたえておりました。

しと
使徒たち、パウロを受け入れる

2

ごねん
'その後十四年たってから、わたしはバルナバと一緒にエルサレムに再び上りました。その際、テトスも連れて行きました。'
いっしょふたたのぼさいついのぼけいじ
エルサレムに上ったのは、啓示による
じぶんいほうじんのつたふくいんひとびとひとこじんてきはなじぶんむだはし
ものでした。わたしは、自分が異邦人に宣べ伝えている福音について、人々に、とりわけ、おもだった人々には個人的に話して、自分は無駄に走っているの
はし
ではないか、あるいは走ったのではないかと意見を求めました。'
めどもと
しかし、わたしと同行したテトスでさえ、ギリシア人であったのに、割礼を受けることを強
もぐこきにせきょうだい
制されませんでした。'
きょうせい
潜り込んで来た偽の兄弟たちがいたのに、強
かれ
制されなかったのです。彼らは、わたしたちを奴隷にしようとして、わたしたちがキリスト・
えじゆうつ
イエスによって得ている自由を付けねらい、こっそり入り込んで来たのでした。'
ふくいんしんり
福音の真理が、あなたがたのもとにいつもとどまっているように、わたしたちは、
かた
片ときもそのような者たちに屈服して譲歩するようなことはしませんでした。'
ひと
おもだった人たちからも強
きょうせい
制されませんでした。――この人たちがそもそもどんな
かみひとわへだじっさいひとぎむお
人であったにせよ、それは、わたしにはどうでもよいことです。神は人を分け隔てなさいません。――実際、そのおもだった人たちは、わたしにどんな義務も負わせ
かれ
ませんでした。'
かつれいう
それどころか、彼らは、ペトロには割礼を受けた人々に対する福音が任されたように、わたしには割礼を受けていない人々に対する福音が任
し
されていることを知りました。'
かつれいうひとびとたいしとにんむはたらかた
割礼を受けた人々に対する使徒としての任務のためにペトロに働
いほうじんたいしとにんむ
きかけた方は、異邦人に対する使徒としての任務のためにわた
はたら
しにも働
かれ
きかけられたのです。'
あためぐみと
また、彼らはわたしに与えられた恵みを認め、ヤコブとケファとヨハネ、つまり柱と目されるおもだった人たちは、わたしとバ
みきてさ
ルナバに一致のしるしとして右手を差し出しました。それで、わたしたちは異邦人へ、彼らは割礼を受けた人々のところに行くことになったのです。'
いっつ
ただ、わた
まずひとわす
したちが貧しい人たちのことを忘れないようにとのことでしたが、これは、ちょうどわたしも心
こころてん
がけてきた点です。

ひなん
パウロ、ペトロを非難する
きひなん
'さて、ケファがアンティオキアに来たとき、非難すべきところがあつたので、わたしは面と向かって反対しました。'
めんむはんたい
なぜなら、ケファは、ヤコブのもとからある

人々が来るまでは、異邦人と一緒に食事をしていたのに、彼らがやって来ると、割礼を受けている者たちを恐れてしり込みし、身を引こうとしたからです。¹³そして、ほかのユダヤ人も、ケファと一緒にこのような心にもないことを行い、バルナバさえも彼らの見せかけの行いに引きずり込まれてしまいました。¹⁴しかし、わたしは、彼らが福音の真理にのっとってまっすぐ歩いていないのを見たとき、皆の前でケファに向かってこう言いました。「あなたはユダヤ人でありながら、ユダヤ人らしい生き方をしないで、異邦人のように生活しているのに、どうして異邦人にユダヤ人のように生活することを強要するのですか。」

すべての人は信仰によって義とされる

¹⁵わたしたちは生まれながらのユダヤ人であって、異邦人のような罪人ではありません。¹⁶けれども、人は律法の実行ではなく、ただイエス・キリストへの信仰によって義とされると知って、わたしたちもキリスト・イエスを信じました。これは、律法の実行ではなく、キリストへの信仰によって義としていただくためでした。なぜなら、律法の実行によっては、だれ一人として義とされないからです。¹⁷もしわたしたちが、キリストによって義とされるように努めながら、自分自身も罪人であるなら、キリストは罪に仕える者ということになるのでしょうか。決してそうではない。¹⁸もし自分で打ち壊したものを再び建てるのであれば、わたしは自分が違反者であると証明することになります。¹⁹わたしは神に対して生きるために、律法に対しては律法によって死んだのです。わたしは、キリストと共に十字架につけられています。²⁰生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです。²¹わたしは、神の恵みを無にはしません。もし、人が律法のお陰で義とされるとすれば、それこそ、キリストの死は無意味になってしまいます。

律法によるか、信仰によるか

3

「ああ、物分りの悪いガラテヤの人たち、だれがあなたがたを惑わしたのか。目の前に、イエス・キリストが十字架につけられた姿ではっきり示されたではないか。²あなたがたに一つだけ確かめたい。あなたがたが「霊」を受けたのは、律法を行ったからですか。それとも、福音を聞いて信じたからですか。³あなたがたは、それほど物分りが悪く、「霊」によって始めたのに、肉によって仕上げようとするのですか。⁴あれほどのことを体験したのは、無駄だったのですか。無駄であつたはずはないでしょうに……。⁵あなたがたに「霊」を受け、また、あなたがたの間で奇跡を行われる方は、あなたがたが律法を行ったから、そうなるのでしょうか。それとも、あなたがたが福音を聞いて信じたからですか。⁶それは、「アブラハムは神を信じた。それは彼の義と認められた」と言われているとおりです。

⁷だから、信仰によって生きる人々こそ、アブラハムの子であるとわきまなさい。⁸聖書は、神が異邦人を信仰によって義となさることを見越して、「あなたのゆえに異邦人は皆祝福される」という福音をアブラハムに予告しました。⁹それで、信仰によって生きる人々は、信仰の人アブラハムと共に祝福されています。¹⁰律法の実行に頼る者はだれでも、呪われています。「律法の書に書かれているすべての事を絶えず守らない者は皆、呪われている」と書いてあるからです。¹¹律法によってはだれも神の御前で義とされないことは、明らかです。なぜなら、「正しい者は信仰によって生きる」からです。¹²律法は、信仰をよりどころとしていません。「律法の定めを果たす者は、その定めによって生きる」のです。¹³キリストは、わたしたちのために呪いとなって、わたしたちを律法の呪いから贖い出してくださいました。「木にかけられた者は皆呪われている」と書いてあるからです。¹⁴それは、アブラハムに与えられた祝福が、キリスト・イエスにおいて異邦人に及ぶためであり、また、わたしたちが、約束された「霊」を信仰によって受けるためでした。

律法と約束

¹⁵兄弟たち、分かりやすく説明しましょう。人の作った遺言でさえ、法的に有効となつたら、だれも無効にしたり、それに追加したりはできません。¹⁶ところで、アブラハムとその子孫に対して約束が告げられましたが、その際、多くの人を指して「子孫たちとに」とは言わず、一人の人を指して「あなたの子孫とに」と言われています。この「子孫」とは、キリストのことです。¹⁷わたしが言いたいのは、こうです。神によってあらかじめ有効なものと定められた契約を、それから四百三十年後にできた律法が無効にして、その約束を反故にすることはないということです。¹⁸相続が律法に由来するものなら、もはや、それは約束に由来するものではありません。しかし神は、約束によってアブラハムにその恵みをお与えになつたのです。¹⁹では、律法とはいったい何か。律法は、約束を与えられたあの子孫が来られるときまで、違反を明らかにするために付け加えられたもので、天使たちを通し、仲介者の手を経て制定されたものです。²⁰仲介者というものは、一人で事を行う場合には要りません。約束の場合、神はひとりです事を運ばれたのです。

奴隷ではなく神の子である

²¹それでは、律法は神の約束に反するものなのでしょうか。決してそうではない。万一人を生かすことができる律法が与えられたとするなら、確かに人は律法によって義とされたでしょう。²²しかし、聖書はすべてのものを罪の支配下に閉じ込めたのです。それは、神の約束が、イエス・キリストへの信仰によって、信じる人々に与えられるようになるためでした。

²³信仰が現れる前には、わたしたちは律法の下で監視され、この信仰が啓示されるようになるまで閉じ込められていました。²⁴こうして律法は、わたしたちをキリストのもとへ導く養育係となつたのです。わたしたちが信仰によって義とされるためです。²⁵しかし、信仰が現れたので、もはや、わたしたちはこのような養育係の下にはいません。

²⁶あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。²⁷洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。²⁸そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つ

だからです。²⁸あなたがたは、もしキリストのものだとするなら、とりもなおさず、アブラハムの子孫であり、約束による相続人です。

4

「つまり、こういうことです。相続人は、未成年である間、は、全財産の所有者であっても、僕と何ら変わるどころがなく、²父親が定めた期日までは後見人や管理人の監督の下にいます。³同様にわたしたちも、未成年であったときは、世を支配する諸霊に奴隷として仕えていました。⁴しかし、時が満ちると、神は、その御子を女から、しかも律法の下に生まれた者としてお遣わしになりました。⁵それは、律法の支配下にある者を贖い出して、わたしたちを神の子となさるためでした。⁶あなたがたが子であることは、神が、「アツパ、父よ」と叫ぶ御子の霊を、わたしたちの心に送ってくださった事実から分かります。⁷ですから、あなたはもはや奴隷ではなく、子です。子であれば、神によって立てられた相続人でもあるのです。

キリストがあなたがたの内に形づくられるまで

「ところで、あなたがたはかつて、神を知らずに、もともと神でない神々に奴隷として仕えていました。⁸しかし、今は神を知っている、いや、むしろ神から知られているのに、なぜ、あの無力で頼りにならない支配する諸霊の下に逆戻りし、もう一度改めて奴隷として仕えようとしているのですか。⁹あなたがたは、いろいろな日、月、時節、年などを守っています。¹⁰あなたがたのために苦労したのは、無駄になったのではなかったかと、あなたがたのことが心配です。¹¹わたしもあなたがたのようになったのですから、あなたがたもわたしのようになってください。兄弟たち、お願いします。あなたがたは、わたしに何一つ不当な仕打ちをしませんでした。¹²知つてのとおり、この前わたしは、体が弱くなったことがきっかけで、あなたがたに福音を告げ知らせました。¹³そして、わたしの身には、あなたがたにとって試練ともなるようなことがあったのに、さげすんだり、忌み嫌ったりせず、かえって、わたしを神の使いであるかのように、また、キリスト・イエスでもあるかのように、受け入れてくれました。¹⁴あなたがたが味わっていた幸福は、いったいどこへ行行ってしまったのか。あなたがたのために証言しますが、あなたがたは、できることなら、自分の目をえぐり出してもわたしに与えようとしたのです。¹⁵すると、わたしは、真理を語ったために、あなたがたの敵となったのですか。¹⁶あの者たちがあなたがたに対して熱心になるのは、善意からではありません。かえって、自分たちに対して熱心にならせようとして、あなたがたを引き離したいのです。¹⁷わたしがあなたがたのもとにいる場合だけに限らず、いつでも、善意から熱心に慕われるのは、よいことです。¹⁸わたしの子供たち、キリストがあなたがたの内に形づくられるまで、わたしは、もう一度あなたがたを産もうと苦しんでいます。²⁰できることなら、わたしは今あなたがたのもとに居合わせ、語調を変えて話したい。あなたがたのことで途方に暮れているからです。

ふたり おんな
二人の女のたとえ

「わたしに答えてください。律法の下にいたいと思っている人たち、あなたがたは、律法の言うことに耳を貸さないのですか。²²アブラハムには二人の息子があり、一人は女奴隷から生まれ、もう一人は自由な身の女から生まれたと聖書に書いてあります。²³ところで、女奴隷の子は肉によって生まれたのに対し、自由な女から生まれた子は約束によって生まれたのです。²⁴これには、別の意味が隠されています。すなわち、この二人の女とは二つの契約を表しています。このどれい みぶん う ほう ざん ゆらい けいやく あらわ
子を奴隷の身分に産む方は、シナイ山に由来する契約を表していて、これがハガルです。²⁵このハガルは、アラビアではシナイ山のことで、今のエルサレムに当たります。なぜなら、今のエルサレムは、その子供たちと共に奴隷となっているからです。²⁶他方、天のエルサレムは、いわば自由な身の女であって、これはわたしたちの母です。²⁷なぜなら、次のように書いてあるからです。

ろこ こ う ふにん おんな
喜べ、子を産まない不妊の女よ、

こ え さけ
びの声をあげて叫べ、

くる し おんな
の苦しみを知らない女よ。

り と のこ おんな おつと おんな
人取り残された女が夫ある女よりも、

こ う
くの子を産むから。」

²⁸ところで、兄弟たち、あなたがたは、イサクの場合のように、約束の子です。²⁹けれども、あのとき、肉によって生まれた者が、`霊`によって生まれた者を迫害したように、今も同じようなことが行われています。³⁰しかし、聖書に何と書いてありますか。「女奴隷とその子を追い出せ。女奴隷から生まれた子は、断じて自由な身の女から生まれた子と一緒に相続人になるてはならないからである」と書いてあります。³¹要するに、兄弟たち、わたしたちは、女奴隷の子ではなく、自由な身の女から生まれた子なのです。

5 この自由を得させるために、キリストはわたしたちを自由の身にしてくださったのです。だから、しっかりしなさい。奴隷の軛に二度とつながれてはなりません。

しや じゆう
キリスト者の自由

ここで、わたしパウロはあなたがたに断言します。もし割礼を受けるなら、あなたがたにとってキリストは何の役にも立たない方になります。割礼を受ける人すべてに、もう一度はつきり言います。そういう人は律法全体を行 う義務があるのです。律法によって義とされようとするなら、あなたがたはだれであろうと、キリストとは縁もゆかりもない者とされ、いただいた恵みも 失 います。わたしたちは、義とされた者の希望が実現することを、霊により、信仰に基づいて切に待ち望んでいるのです。キリスト・イエスに結ばれていれば、割礼の有無は問題ではなく、愛の実践を 伴 う信仰こそ大切です。

あなたがたは、よく走っていました。それなのに、いったいだれが邪魔をして真理に 従 わないようにさせたのですか。このような誘いは、あなたがたを召し出しておられる方からのものではありません。わずかなパン種が練り粉全体を膨らませるのです。あなたがたが決して別な 考 えを持つことはない、わたしは主をよりどころとしてあなたがたを信頼しています。あなたがたを惑わす者は、だれであろうと、裁きを受けます。兄弟たち、このわたしが、今なお割礼を宣べ伝えているとするならば、今なお迫害を受けているのは、なぜですか。そのようなことを宣べ伝えれば、十字架のつまりずきもなくなっていたことでしょう。あなたがたをかき乱す者たちは、いつそのこと 自 ら去勢してしまえばよい。

兄弟たち、あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせずに、愛によって互いに仕えなさい。律法全体は、「隣人を自分のように愛しなさい」という一句によって 全 うされるからです。だが、互いにかみ合い、共食いしているのなら、互いに滅ぼされないように 注 意しなさい。

霊の実と肉の業

わたしが言いたいのは、こういうことです。霊の 導 きに 従 って歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。肉の望むところは、霊に反し、霊の望むところは、肉に反するからです。肉と霊とが対立し合っている、あなたがたは、自分のしたいと思うことができないのです。しかし、霊に 導 かれているなら、あなたがたは、律法の下にはいません。肉の業は明らかです。それは、姦淫、わいせつ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、怒り、利己心、不和、仲間争い、ねたみ、泥酔、酒宴、その他このたぐいのものです。以前言っておいたように、ここでも前もって言いますが、このようなことを 行 う者は、神の国を受け継ぐことはできません。

これに対して、霊の結ぶ実 は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。これらを禁じる掟はありません。キリスト・イエスのものとなった人たちは、肉を欲情や欲望もろとも 十字架につけてしまったのです。わたしたちは、霊の 導 きに 従 って生きているなら、霊の 導 きに 従 ってまた前進しましょう。うぬばれて、互いに挑み合ったり、ねたみ合ったりするのはやめましょう。

信仰に基づいた助け合い

6

兄弟たち、万 一だれかが不注意にも何かの罪に 陥 ったなら、霊に 導 かれて生きているあなたがたは、そういう人を 柔和な心 で正しい道に立ち帰らせなさい。あなた自身も誘惑されないように、自分に気を付けなさい。互いに重荷を担いなさい。そのようにしてこそ、キリストの律法を 全 うすることになるのです。実際には何者でもないのに、自分をひとかどの者だと思 う人がいるなら、その人は自分自身を 欺 いています。各自で、自分の 行 いを吟味してみなさい。そうすれば、自分に対してだけは誇れるとしても、他人に対しては誇ることができないでしょう。めいめいが、自分の重荷を担うべきです。御言葉を教えてもらう人は、教えてくれる人と持ち物をすべて分かち合いなさい。思い違いをしてはいけません。神は、人から 侮 られることはありません。人は、自分の 誇 りたいものを、また刈り取ることになるのです。自分の肉に 蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、霊に 蒔く者は、霊から永遠の 命 を刈り取ります。たゆまず善を行 いましょう。飽きずに 励 んでいれば、時が来て、実を刈り取ることになります。ですから、今、時のある 間 に、すべての人に対して、特に信仰によって家族になった人々に対して、善を 行 いましょう。

結びの言葉

このとおり、わたしは今こんなに大きな字で、自分の手であなたがたに書いています。肉において人からよく 思 われたがっている者たちが、ただキリストの十字架のゆえに迫害されたくないばかりに、あなたがたに無理やり割礼を受けさせようとしています。割礼を受けている者自身、実は律法を守っていませんが、あなたがたの肉について誇りたいために、あなたがたにも割礼を 望 んでいます。しかし、このわたしには、わたしたちの主イエス・キリストのほかに、誇るものが決してあつてはなりません。この 十字架によって、世はわたしに対し、わたしは世に対してはりつけにされているのです。割礼の有無は問題ではなく、大切なのは、新 しく創造されることです。このような原理に 従 って生きていく人の上に、つまり、神のイスラエルの上に平和と憐れみがあるように。

これからは、だれもわたしを 煩 わさないでほしい。わたしは、イエスの焼き印を身に受けているのです。

兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊と共にあるように、アーメン。

エフェソの信徒への手紙

[1章](#) [2章](#) [3章](#) [4章](#) [5章](#)
[6章](#)

[【戻る】](#)

しんとてがみ
エフェソの信徒への手紙

あいさつ
挨拶

1

かみ み ころ し と せい もの しん ひと ちち かみ
'神の御 心 によってキリスト・イエスの使徒とされたパウロから、エフェソにいる聖なる者たち、キリスト・イエスを信ずる人たちへ。わたしたちの父である神と
しゆ めぐ へいわ
主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように。

かみ めぐ み
神の恵みはキリストにおいて満ちあふれる

わたしたちの主イエス・キリストの父である神は、ほめたたえられますように。神は、わたしたちをキリストにおいて、天のあらゆる霊的な 祝 福で満たしてく
だしました。天地創造の前に、神はわたしたちを愛して、御自分の前で聖なる者、汚れない者にしようと、キリストにおいてお選びになりました。イエ
ス・キリストによって神の子にしようと、御 心 のままに前もってお定めになったのです。神がその愛する御子によって与えてくださった 輝 かしい恵みを、わた
したちがたたえるためです。わたしたちはこの御子において、その血によって 贖 われ、罪を赦されました。これは、神の豊かな恵みによるものです。神はこの恵
みをわたしたちの上にあふれさせ、すべての知恵と理解とを与えて、秘められた計 画をわたしたちに知らせてくださいました。これは、前もってキリストにおいて
お決めになった神の御 心 によるものです。こうして、時が満ちるに及んで、救いの業が完成され、あらゆるものが、頭 であるキリストのもとに一つにまとめら
れます。天にあるものも地にあるものもキリストのもとに一つにまとめられるのです。キリストにおいてわたしたちは、御 心 のままにすべてのことを 行 われる方
の御計画によって前もって定められ、約束されたものの相続者とされました。それは、以前からキリストに希望を置いていたわたしたちが、神の栄光をたたえ
るためです。あなたがたもまた、キリストにおいて、真理の言葉、救いをもたらす福音を聞き、そして信じて、約束された聖霊で 証 印を押されたのです。この
聖霊は、わたしたちが御国を受け継ぐための保 証 であり、こうして、わたしたちは 贖 われて神のものとなり、神の栄光をたたえることになるのです。

いの
パウロの祈り

こういうわけで、わたしも、あなたがたが主イエスを信じ、すべての聖なる者たちを愛していることを聞き、祈りの度に、あなたがたのことを思い起こし、絶
えず感謝しています。どうか、わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の 源 である御父が、あなたがたに知恵と啓示との霊を与え、神を深く知ること
ができるようにし、心 の目を開いてくださるように。そして、神の招きによってどのような希望が与えられているか、聖なる者たちの受け継ぐものがどれほど
豊かな栄光に 輝 いているか悟らせてくださるように。また、わたしたち信仰者に対して絶大な 働 きをなさる神の 力 が、どれほど大きなものであるか、悟
らせてくださるように。神は、この 力 をキリストに 働 かせて、キリストを死者の中から復活させ、天において御自分の右の座に着かせ、すべての支配、権
威、勢 力、主 権の上に置き、今の世ばかりでなく、来るべき世にも唱えられるあらゆる名の上に置かれました。神はまた、すべてのものをキリストの足もとに
したが、う え かしら きょうかい あた きょうかい からだ み かた
従 わせ、キリストをすべてのものの上にある 頭 として 教 会にお与えになりました。教 会はキリストの 体 であり、すべてにおいてすべてを満たしている方
の 満ちておられる場です。

し いのち
死から 命 へ

2

さて、あなたがたは、以前は自分の 過 ちと罪のために死んでいたのです。この世を支配する者、かの空 中 に勢 力を持つ者、すなわち、不 従 順 な者たちの
内に今も 働 く霊に従い、過 ちと罪を犯して歩んでいました。わたしたちも皆、こういう者たちの中にいて、以前は肉の欲望の 赴 くまに生活し、肉や
心 の欲するままに行動していたのであり、ほかの人々と同じように、生まれながら神の怒りを受けるべき者でした。しかし、憐れみ豊かな神は、わたしたちを
この上なく愛してくださり、その愛によって、罪のために死んでいたわたしたちをキリストと共に生かし、あなたがたの救われたのは恵みによるのですキリ
スト・イエスによって共に復活させ、共に天の王座に着かせてくださいました。こうして、神は、キリスト・イエスにおいてわたしたちにお示しになった 慈 しみ
により、その限りなく豊かな恵みを、来るべき世に 現 そうとされたのです。事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自
らの 力 によるのではなく、神の賜物です。行 によるものではありません。それは、だれも誇ることがないためなのです。なぜなら、わたしたちは神に造られた
ものであり、しかも、神が前もって 準 備してくださった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を 行 って歩
むのです。

キリストにおいて一つとなる

だから、心 に留めておきなさい。あなたがたは以前には肉によれば異邦人であり、いわゆる手による割礼を身に受けている人々からは、割礼のない者と呼ば
れていました。また、そのころは、キリストとかかわりなく、イスラエルの民に属さず、約束を含む契約と関係なく、この世の中で希望を持たず、神を知らず
に生きていました。しかしあなたがたは、以前は遠く離れていたが、今や、キリスト・イエスにおいて、キリストの血によって近い者となったのです。
実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、規則と戒律ずくめの律法を
廃棄されました。こうしてキリストは、双方を御自分において一人の 新 しい人に造り上げて平和を実現し、十 十字架を通して、両 者をつの 体 として神
と和解させ、十 十字架によって敵意を滅ばされました。キリストはおいでになり、遠く離れているあなたがたにも、また、近くにいる人々にも、平和の福音を告

げ知らされました。¹⁸それで、このキリストによってわたしたち 両 方の者が一つの霊に結ばれて、御父に近づくことができます。¹⁹ 従 って、あなたがたはもはや、外国 人でも寄 留 者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族であり、²⁰使徒や預言 者という土台の上に建てられています。そのかなめ石はキリスト・イエス御自身であり、²¹キリストにおいて、この建物全体は組み合わせられて成 長 し、主における聖なる神殿となります。²²キリストにおいて、あなたがたも共に建てられ、霊の 働 きによって神の住まいとなるのです。

異邦人のためのパウロの 働 き

3

「こういうわけで、あなたがた異邦人のためにキリスト・イエスの 囚 人となっているわたしパウロは.....²あなたがたのために神がわたしに恵みをお与えになった次第について、あなたがたは聞いたにちがいません。³初めに手 短 に書いたように、秘められた計 画が啓示によってわたしに知らされました。⁴あなたがたは、それを読めば、キリストによって実現されるこの計 画を、わたしがどのように理解しているかが分かります。⁵この計 画は、キリスト以前の時代には人の子らに知らされていませんでしたが、今や『霊』によって、キリストの聖なる使徒たちや預言 者たちに啓示されました。⁶すなわち、異邦人が福音によってキリスト・イエスにおいて、約 束されたものをわたしたちと一緒に受け継ぐ者、同じ 体 に属する者、同じ約 束にあずかる者となるということです。⁷神は、その 力 を 働 かせてわたしに恵みを 賜 り、この福音に仕える者としてくださいました。⁸この恵みは、聖なる者たちすべての中で 最 もつまらない者であるわたしに与えられました。わたしは、この恵みにより、キリストの計り知れない富について、異邦人に福音を告げ知らせており、⁹すべてのものをお造りになった神の内に世の初めから隠されていた秘められた計 画が、どのように実現されるのかを、すべての人々に説き明かしています。¹⁰こうして、いろいろの 働 きをする神の知恵は、今や 教 会によって、天 上 の支配や権威に知らされるようになったのですが、¹¹これは、神がわたしたちの主キリスト・イエスによって実現された永 遠 の計 画に沿うものです。¹²わたしたちは主キリストに結ばれており、キリストに対する信仰により、確信をもって、大胆に神に近づくことができます。¹³だから、あなたがたのためにわたしが受けている苦難を見て、落胆しないでください。この苦難はあなたがたの栄 光 なのです。

キリストの愛を知る

¹⁴こういうわけで、わたしは御父の前にひざまずいて祈ります。¹⁵御父から、天と地にあるすべての家族がその名を与えられています。¹⁶どうか、御父が、その豊かな栄光に 従 い、その霊により、 力 をもってあなたがたの内なる人を強めて、¹⁷信仰によってあなたがたの 心 の内にキリストを住まわせ、あなたがたを愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者としてくださるように。¹⁸また、あなたがたがすべての聖なる者たちと共に、キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し、¹⁹人の知識をはるかに超えるこの愛を知るようになり、そしてついには、神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、それによって満たされるように。²⁰わたしたちの内に 働 く御 力 によって、わたしたちが求めたり、思ったりすることすべてを、はるかに超えてかなえることのおできになる方に、²¹ 教 会により、また、キリスト・イエスによって、栄光が世々限りなくありますように、アーメン。

キリストの体 は一つ

4

「そこで、主に結ばれて 囚 人となっているわたしはあなたがたに勧めます。神から招かれたのですから、その招きにふさわしく 歩み、²一切 高ぶることなく、 柔和で、寛容の 心 を持ちなさい。愛をもって互いに忍耐し、³平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように努めなさい。⁴ 体 は一つ、霊は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです。⁵主は一人、信仰は一つ、 洗 礼 は一つ、⁶すべてのものの父である神は唯一であって、すべてのものの上にあり、すべてのものを通して 働 き、すべてのものの内におられます。⁷しかし、わたしたち一人一人に、キリストの賜物のはかりに 従 って、恵みが与えられています。⁸そこで、

哥い 所 に昇るとき、捕らわれ人を連れて行き、

々に賜物を分け与えられた」

と言われています。

「『昇った』というのですから、低い 所、地 上 に降りておられたのではないのでしょうか。¹⁰この降りて来られた方が、すべてのものを満たすために、もろもろの天よりも更に高く昇られたのです。¹¹そして、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣 教 者、ある人を牧者、 教 師とされたのです。¹²こうして、聖なる者たちは奉仕の業に適した者とされ、キリストの 体 を造り上げてゆき、¹³ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成 熟 した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成 長 するのです。¹⁴こうして、わたしたちは、もはや未 熟 な者ではなくなり、人々を 誤 りに 導 こうとする悪 賢 い人間の、風のように変わりやすい教えに、もてあそばれたり、引き回されたりすることなく、¹⁵むしろ、愛に根ざして真理を語り、あらゆる面で、 頭 であるキリストに向かって成 長 していきます。¹⁶キリストにより、 体 全体は、あらゆる節々が 補 い合うことによってしっかりと組み合わせられ、結び合わされて、おのおのの部分は分に応じて 働 いて 体 を成 長 させ、 自 ら愛によって造り上げられてゆくのです。

ふる い かた す
古い生き方を捨てる

しゅ つよ すす いほうじん おな あゆ かれ おろ かんが したが あゆ ちせい くら かれ
"そこで、わたしは主によって強く勧めます。もはや、異邦人と同じように歩んではなりません。彼らは愚かな考 えに 従 って歩み、¹⁸知性は暗くなり、彼ら
なか むち こころ かみ いのち とお はな む かんかく ほうじゅう せいかつ おこな
の中にある無知とその 心 のかたくなさのために、神の 命 から遠く離れています。¹⁹そして、無感覚になって放 縦 な生活をし、あらゆるふしだらな 行 いにふ
けてとどまるところを知りません。²⁰しかし、あなたがたは、キリストをこのように学んだではありません。²¹キリストについて聞き、キリストに結ばれて教えら
れ、真理がイエスの内にあるとおりに学んだはずです。²²だから、以前のような生き方をして 情 欲に迷われ、滅びに向かっている古い人を脱ぎ捨て、²³心 の
そこ あら かみ つく あたら ひと み つ しんり もと ただ きよ せいかつ おく
底から新たにされて、²⁴神にかたどって造られた 新 しい人を身に着け、真理に基づいた正しく清い生活を送るようにしなければなりません。

あたら い かた
新しい生き方

いつわ す りんじん たい しんじつ かた たが からだ いちぶ いか つみ おか
²⁵だから、偽 りを捨て、それぞれ隣人に対して真 実を語りなさい。わたしたちは、互いに 体 の一部なのです。²⁶怒ることがあっても、罪を犯してはなりませ
ん。日が暮れるまで怒ったままでいてはいけません。²⁷悪魔にすきを与えてはなりません。²⁸盗みを 働 いていた者は、今からは盗んではいけません。むしろ、労苦
して自分の手で正当な 収 入を得、困っている人々に分け与えるようにしなさい。²⁹悪い言葉を一切口にしてはなりません。ただ、聞く 人に恵みが与えられる
ように、その人を造り上げるのに役立つ言葉を、必要に応じて語りなさい。³⁰神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、聖霊により、贖 いの日に対
して保 証 されているのです。³¹無慈悲、憤 り、怒り、わめき、そしりなどすべてを、一切の悪意と一緒に捨てなさい。³²互いに親 切にし、憐れみの 心 で接
し、神がキリストによってあなたがたを赦してくださったように、赦し合いなさい。

5あなたがたは神に愛されている子供ですから、神に倣う者となりなさい。²キリストがわたしたちを愛して、御自分を香りのよい供え物、つまり、いけにえと
してわたしたちのために神に 献 げてくださったように、あなたがたも愛によって歩みなさい。³あなたがたの 間 では、聖なる者にふさわしく、みだらなことやいろ
いろの汚れたこと、あるいは貪欲なことを口にしてはなりません。⁴卑わいな言葉や愚かな 話 、下品な 冗 談もふさわしいものではありません。それよりも、感
謝を 表 しなさい。⁵すべてみだらな者、汚れた者、また貪欲な者、つまり、偶像礼拝者は、キリストと神との国を受け継ぐことはできません。このことをよく
わきまえなさい。

ひかり こ い
光の子として生きる

ことば まど おこな かみ いか ふじゅうじゅん もの くだ かれ なかま ひ い
"むなしい言葉に惑わされてはなりません。これらの 行 いのゆえに、神の怒りは不 従 順 な者たちに下るのです。⁷だから、彼らの仲間に取り入れられないよう
にしなさい。⁸あなたがたは、以前には暗闇でしたが、今は主に結ばれて、 光 となっています。光 の子として歩みなさい。⁹―― 光 から、あらゆる 善意と正義と
真 実とが 生 じるのです。――¹⁰何が主に 喜 ばれるかを吟味しなさい。¹¹実を結ばない暗闇の業に加わらないで、むしろ、それを明るみに出しなさい。¹²彼らがひ
そかに 行 っているのは、口にするのも恥ずかしいことなのです。¹³しかし、すべてのものは 光 にさらされて、明らかにされます。¹⁴明らかにされるものはみな、
光 となるのです。それで、こう言われています。

む もの お
冥りについている者、起きよ。

や なか た あ
音の中から立ち上がれ。

て
すれば、キリストはあなたを照らされる。」

おろ もの かしこ もの こま き くば あゆ とき もち いま わる じだい むふんべつ もの
¹⁵愚かな者としてではなく、賢 い者として、細かく気を配って歩みなさい。¹⁶時をよく用いなさい。今は悪い時代なのです。¹⁷だから、無分別な者とならず、
しゅ みこころ なん ざと しかて よ み も くず れい み しへん さんか れいてき うた
主の御 心 が何であるかを悟りなさい。¹⁸酒に酔いしれてはなりません。それは身を持ち崩すもとです。むしろ、霊に満たされ、¹⁹詩編と賛歌と霊的な歌によって
かた あ しゅ む こころ うた しゅ な ちち かみ かんしや
語り合い、主に向かつて 心 からほめ歌いなさい。²⁰そして、いつも、あらゆることについて、わたしたちの主イエス・キリストの名により、父である神に感謝し
なさい。

つま おつと
妻と夫

たい おそ たが つか あ つま しゅ つか じぶん おつと つか きょうかい かしら みずか
²¹キリストに対する畏れをもって、互いに仕え合いなさい。²²妻たちよ、主に仕えるように、自分の 夫 に仕えなさい。²³キリストが 教 会の 頭 であり、自 ら
その 体 の救い主であるように、夫 は妻の 頭 からです。²⁴また、教 会がキリストに仕えるように、妻もすべての面で 夫 に仕えるべきです。²⁵夫 たちよ、
キリストが 教 会を愛し、教 会のために御自分をお与えになったように、妻を愛しなさい。²⁶キリストがそうなさったのは、言葉を 伴 う水の洗いによって、
教 会を清めて聖なるものとし、²⁷しみやしわやそのたぐいのものは何一つない、聖なる、汚れない、栄光に 輝 く 教 会を御自分の前に立たせるためでし
た。²⁸そのように 夫 も、自分の 体 のように妻を愛さなくてはなりません。妻を愛する人は、自分自身を愛しているのです。²⁹わが身を憎んだ者は一人もおら
ず、かえて、キリストが 教 会になさったように、わが身を 養 い、いたわるものです。³⁰わたしたちは、キリストの 体 の一部なのです。³¹「それゆえ、人は父と
母を離れてその妻と結ばれ、二人は一体となる。」³²この神秘は偉大です。わたしは、キリストと 教 会について述べているのです。³³いずれにせよ、あなたがた
も、それぞれ、妻を自分のように愛しなさい。妻は 夫 を 敬 いなさい。

こ おや
子と親

子ども しゆ むす もの りょうしん したが ただ ちち はは うやま やくそく ともしよ さいしよ おきて
子供たち、主に結ばれている者として 両親に 従いなさい。それは正しいことです。²「父と母を 敬いなさい。」これは約束を 伴う最初の 掟です。³「そう
すれば、あなたは幸福になり、地 上 で長く生きることができる」という約束です。⁴父親たち、子供を怒らせてはなりません。主がしつけ諭されるように、育て
なさい。

どれい しゆじん
奴隷と主人
どれい したが おそ まごころ こ にく しゆじん したが ひと つか
奴隷たち、キリストに 従うように、恐れおののき、真 心 を込めて、肉による主人に 従いなさい。⁵人にへつらおうとして、うわべだけで仕えるのではなく、
キリストの奴隷として、心 から神の御 心 を 行い、⁷人ではなく主に仕えるように、喜 んで仕えなさい。⁶あなたがたも知っているとおり、奴隷であつても自
由な身分の者であつても、善いことを 行えば、だれでも主から報いを受けるのです。⁸主人たち、同じように奴隷を 扱いなさい。彼らを脅すのはやめなさい。
あなたがたも知っているとおり、彼らにもあなたがたにも同じ主人が天におられ、人を分け隔てなさらないのです。

あく たたか
悪と戦え
さいご い しゆ よ たの いだい ちから つよ あくま さくりやく たいこう た かみ ぶぐ み つ
⁹最後に言う。主に依り頼み、その偉大な 力 によって強くなりなさい。¹¹悪魔の策 略 に対 抗して立つことができるように、神の武具を身に着けなさい。¹²わた
したちの 戦 いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸 霊を相手にするものなのです。¹³だから、邪 悪な日に
よく 抵抗し、すべてを成し遂げて、しっかりと立つことができるように、神の武具を身に着けなさい。¹⁴立って、真理を 帯として腰に締め、正義を胸当てとして着
け、¹⁵平和の福 音を告げる 準 備を履物としなさい。¹⁶なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことがで
きるのです。¹⁷また、救いを 兜 としてかぶり、霊の 剣、すなわち神の言葉を取りなさい。¹⁸どのような時にも、¹⁹霊 に助けられて祈り、願い求め、すべての
聖なる者たちのために、絶えず目を覚まして根気よく 祈り続けなさい。¹⁹また、わたしが適切な言葉を用いて話し、福音の神秘を大胆に示すことができるよう
に、わたしのためにも祈ってください。²⁰わたしはこの福 音の使者として 鎖 につながれていますが、それでも、語るべきことは大胆に話せるように、祈ってくだ
さい。

むす ことば
結びの言葉
ようす なに し はな かれ しゆ むす あい
²¹わたしがどういう様子でいるか、また、何をしているか、あなたがたにも知ってもらうために、ティキコがすべて話すことでしょう。彼は主に結ばれた、愛す
る 兄 弟であり、忠 実に仕える者です。²²彼をそちらに送るのは、あなたがたがわたしたちの様子を知り、彼から 心 に励ましを得るためなのです。
²³平和と、信仰を 伴う愛が、父である神と主イエス・キリストから、兄 弟たちにあるように。²⁴恵みが、変わらぬ愛をもってわたしたちの主イエス・キリス
トを愛する、すべての人と共にあるように。

フィリピの信徒への手紙

[1章](#) [2章](#) [3章](#) [4章](#)

[【戻る】](#)

しんと てがみ
フィリピの信徒への手紙

あいさつ
挨拶
1

しもべ むす せい もの かんとか ほうししゃ
「キリスト・イエスの 僕 であるパウロとテモテから、フィリピにいて、キリスト・イエスに結ばれているすべての聖なる者たち、ならびに監督たちと奉仕者たちへ。わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように。」

しんと いの
フィリピの信徒のための祈り

「わたしは、あなたがたのことを思い起こす度に、わたしの神に感謝し、あなたがた一同のために祈る度に、いつも喜びをもって祈っています。それは、あなたがたが最初の日から今日まで、福音にあずかっているからです。あなたがたの中で善い業を始められた方が、キリスト・イエスの日までに、その業を成し遂げてくださると、わたしは確信しています。わたしがあなたがた一同についてこのように考えるのは、当然です。というのは、監禁されているときも、福音を弁明し立証するときも、あなたがた一同のことを、共に恵みにあずかる者と思って、心に留めているからです。わたしが、キリスト・イエスの愛の心で、あなたがた一同のことをどれほど思っているかは、神が証ししてください。わたしは、こう祈ります。知る力と見抜く力とを身に着けて、あなたがたの愛がますます豊かになり、¹⁰本当に重要なことを見分けられるように。そして、キリストの日に備えて、清い者、とがめられるところのない者となり、¹¹イエス・キリストによって与えられる義の実をあふれるほどに受けて、神の栄光と誉れをとたたえることができるように。」

い
わたしにとって、生きるとはキリストを生きること

¹²兄弟たち、わたしの身に起こったことが、かえって福音の前進に役立ったと知ってほしい。¹³つまり、わたしが監禁されているのはキリストのためであると、兵営全体、その他のすべての人々に知れ渡り、¹⁴主に結ばれた兄弟たちの中で多くの者が、わたしの捕らわれているのを見て確信を得、恐れることなくますます勇敢に、御言葉を語るようになったのです。

¹⁵キリストを宣べ伝えるのに、ねたみと争いの念にかられてする者もいれば、善意でする者もあります。¹⁶一方は、わたしが福音を弁明するために捕らわれているのを知って、愛の動機からそうするのですが、¹⁷他方は、自分の利益を求めて、獄中のわたしをいつそう苦しめようという不純な動機からキリストを告げ知らせているのです。¹⁸だが、それがなんであろう。口実であれ、真実であれ、とにかく、キリストが告げ知らされているのですから、わたしはそれを喜んでいます。これからも喜びます。¹⁹というのは、あなたがたの祈りと、イエス・キリストの霊の助けとによって、このことがわたしの救いになると知っているからです。²⁰そして、どんなことにも恥をかかず、これまでのように今も、生きるにも死ぬにも、わたしの身によってキリストが公然とあがめられるようにと切に願い、希望しています。²¹わたしにとって、生きるとはキリストであり、死ぬことは利益なのです。²²けれども、肉において生き続ければ、実り多い働きができ、どちらを選ぶべきか、わたしには分かりません。²³この二つのことの間で、板挟みの状態です。一方では、この世を去って、キリストと共にいたいと熱望しており、この方がはるかに望ましい。²⁴だが他方では、肉にとどまる方が、あなたがたのためにもっと必要です。²⁵こう確信していますから、あなたがたの信仰を深めて喜びをもたらすように、いつもあなたがた一同と共にいることになるでしょう。²⁶そうなれば、わたしが再びあなたがたのもとに姿を見せるとき、キリスト・イエスに結ばれているというあなたがたの誇りは、わたしゆえに増し加わることになります。

²⁷ひたすらキリストの福音にふさわしい生活を送りなさい。そうすれば、そちらに行つてあなたがたに会うにしても、離れているにしても、わたしは次のことを聞けるでしょう。あなたがたは一つの霊によってしっかりと立ち、心を合わせて福音の信仰のために共に戦っており、²⁸どんなことがあっても、反対者たちに脅されてたじろぐことはないのだと。このことは、反対者たちに、彼ら自身の滅びとあなたがたの救いを示すものです。これは神によることです。²⁹つまり、あなたがたには、キリストを信じるだけでなく、キリストのために苦しむことも、恵みとして与えられているのです。³⁰あなたがたは、わたしの戦いをかつて見、今またそれについて聞いています。その同じ戦いをあなたがたは戦っているのです。

もはん
キリストを模範とせよ

2

「そこで、あなたがたに幾らかでも、キリストによる励まし、愛の慰め、¹「霊」による交わり、それに慈しみや憐れみの心があるなら、²同じ思いとなり、同じ愛を抱き、心を合わせ、思いを一つにして、わたしの喜びを満たしてください。³何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、⁴めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい。⁵互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです。⁶キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、⁷かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、⁸へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。⁹このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。¹⁰こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、¹¹すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。」

とも よろこ
共に喜ぶ

「だから、わたしの愛する人たち、いつも従順であつたように、わたしが共にいるときだけでなく、いない今はなおさら従順でいて、恐れおののきつつ自

ぶん すく たっせい つと うち はたら みころ のぞ おこな かみ なにごと ふへい りくつ
分の救いを達成するように努めなさい。¹³あなたがたの内に 働 いて、御 心のままに望ませ、行 わせておられるのは神であるからです。¹⁴何事も、不平や理屈
い おこな きよ もの ま しだい なか ひ かみ こ よ
を言わずに 行 いなさい。¹⁵そうすれば、とがめられるところのない清い者となり、よこしまな曲がった時代の中で、非のうちどころのない神の子として、世にあつ
ほし かがや いのち ことば たも じぶん はし むだ ろうく むだ
て星のように 輝 き、¹⁶ 命 の言葉をしっかりと保つでしょう。こうしてわたしは、自分が走ったことが無駄でなく、労苦したことも無駄ではなかったと、キリストの
ひ ぼこ さら しんこう もと ささ れいはい おこな さい ち そそ かくしん よろこ
日に誇ることができるでしょう。¹⁷更に、信仰に基づいてあなたがたがいけにえを献げ、礼拝を行 う際に、たとえわたしの血が注がれるとしても、わたしは 喜
びます。あなたがた一同と共に 喜 びます。¹⁸同様に、あなたがたも 喜 びなさい。わたしと一緒に 喜 びなさい。

テモテとエバフロディトを送る

¹⁹さて、わたしはあなたがたの様子を知って 力 づけられたいので、間もなくテモテをそちらに遣わすことを、主イエスによって希望しています。²⁰テモテのように
おな おも いだ しん み こころ もの た ひと みな じぶん
わたしと同じ思いを抱いて、親身になってあなたがたのことを 心 にかけている者はほかにいないのです。²¹他の人は皆、イエス・キリストのことではなく、自分
お もと たし じんぶつ みと むすこ ちち つか かれ とも ふくいん つか
のことを追い求めています。²²テモテが確かな人物であることはあなたがたが認めるところであり、息子が父に仕えるように、彼はわたしと共に福音に仕えまし
た。²³そこで、わたしは自分のことの見通しがつきしだいすぐ、テモテを送りたいと願っています。²⁴わたし自身も間もなくそちらに行けるものと、主によって確信
しています。

²⁵ところでわたしは、エバフロディトをそちらに帰さねばならないと 考 えています。彼はわたしの 兄 弟、協 力 者、戦友であり、また、あなたがたの使者と
きゅうぼう ほうししゃ いちどう あ じぶん びょうき し こころぐる
して、わたしの 窮 乏のとき奉仕者となつてくれましたが、²⁶しきりにあなたがた一同と会いたがつており、自分の 病 気があなたがたに知られたことを 心 苦しく
おも じつさい かれ し じゅうびょう かみ かれ あわ かれ かな かさ
思っているからです。²⁷実際、彼はひん死の 重 病 にかかりましたが、神は彼を憐れんでくださいました。彼だけでなく、わたしをも憐れんで、悲しみを重ねず
す おおいそ かれ おく さいかい よろこ かな やわ
に済むようにしてくださいました。²⁸そういうわけで、大急ぎで彼を送ります。あなたがたは再会を 喜 ぶでしょうし、わたしも悲しみが和らぐでしょう。²⁹だか
ら、主に結ばれている者として大いに歓迎してください。そして、彼のような人々を 敬 いなさい。³⁰わたしに奉仕することであなたがたのできない分を果たそう
と、彼はキリストの業に 命 をかけ、死ぬほどの目に遭ったのです。

キリストを信じるとは

³¹では、わたしの 兄 弟たち、主において 喜 びなさい。同じことをもう一度書きますが、これはわたしには 煩 わしいことではなく、あなたがたにとって安全なこと
なのです。

³²あの犬どもに 注 意しなさい。よこしまな 働 き手たちに気をつけなさい。切り傷にすぎない割礼を持つ者たちを警戒しなさい。³³彼らではなく、わたしたちこ
しん かつれい う もの かに れいはい ぼこ にく たよ おも
そ真の割礼を受けた者です。わたしたちは神の霊によって礼拝し、キリスト・イエスを誇りとし、肉に頼らないからです。³⁴とはいえ、肉にも頼ろうと思えば、
たよ にく たよ おも ひと う ようかめ かつれい う
わたしは頼れなくはない。だれかほかに、肉に頼れると思う人がいるなら、わたしはなおおらのことです。³⁵わたしは生まれて八日目に割礼を受け、イスラエルの
たみ ぞく ぞく しゅつしん じん なか じん りつぼう かん は いちいん ねつしん てん きょうかい ばくがいしゃ りつぼう ぎ
民に属し、ベニヤミン族の 出 身で、ヘブライ人の中のヘブライ人です。律法に関してはファリサイ派の一員、³⁶熱心さの点では 教 会の迫害者、律法の義
ひ もの ゆうり そんしつ み
については非のうちどころのない者でした。³⁷しかし、わたしにとって有利であつたこれらのことを、キリストのゆえに損失と見なすようになったのです。³⁸そればか
りか、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています。キリストのゆえに、わたしはすべてを 失 いました
しん ちり み え うち りつぼう しょう じぶん ぎ
が、それらを塵あくたと見なしています。キリストを得、³⁹キリストの内にいる者と認められるためです。わたしには、律法から 生 じる自分の義ではなく、キリス
しんこう ぎ しんこう もと かみ あた ぎ ふつつ ちから し くる し すがた
トへの信仰による義、信仰に基づいて神から与えられる義があります。⁴⁰わたしは、キリストとその復活の 力 とを知り、その苦しみにあずかつて、その死の 姿
なん ししや なか ふつつ かつ たつ
にあやかりながら、⁴¹何とかして死者の中からの復活に達したいのです。

もくひょう め ぎ
目 標 を目指して

⁴²わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完 全な者となつているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリス
と きょうだい じしん すで と おも うし わす まえ
ト・イエスに捕らえられているからです。⁴³兄 弟たち、わたし自身は既に捕らえたとは思っていません。なすべきことはただ一つ、後ろのものを忘れ、前のものに
ぜんしん む かみ うえ め あた しょう え もくひょう め ぎ はし
全身を向けつつ、⁴⁴神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる 賞 を得るために、目 標 を目指してひたすら走ることです。⁴⁵だから、わたしたちの
なか かんぜん もの かんが なに べつ かんが かみ あき
中で完全な者はだれでも、このように 考 えるべきです。しかし、あなたがたに何か別の 考 えがあるなら、神はそのことをも明らかにしてください。⁴⁶いず
れにせよ、わたしたちは到達したところに基づいて進むべきです。

⁴⁷兄 弟たち、皆一緒にわたしに倣う者となりなさい。また、あなたがたと同じように、わたしたちを模範として歩んでいる人々に目を向けなさい。⁴⁸何度も言
いま なみだ い じゅうじ か てきたい あゆ もの おお かれ い つ ほろ かれ はら かみ
つてきたし、今また 涙 ながらに言いますが、キリストの 十 字架に敵対して歩んでいる者が多いのです。⁴⁹彼らの行き着くところは滅びです。彼らは腹を神と
は ぼこ よ かんが ほんごく てん しゅ すく ぬし こ
し、恥ずべきものを誇りとし、この世のことしか 考 えていません。⁵⁰しかし、わたしたちの本国は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来ら
ま ばんぶつ しはいか お ちから いや からだ ご じぶん えいこう からだ おな
れるのを、わたしたちは待っています。⁵¹キリストは、万物を支配下に置くことさえできる 力 によって、わたしたちの卑しい 体 を、御自分の栄光ある 体 と同じ
かたち か
形 に変えてくださるのです。

4

⁵²だから、わたしが愛し、慕っている 兄 弟たち、わたしの 喜 びであり、冠 である愛する人たち、このように主によってしっかりと立ちなさい。

すす ことば
勧めの言葉

すす すす しゅ おな おも いだ しんじつ きょうりよくしゃ ねが ふたり
⁵³わたしはエボディアに勧め、またシンティケに勧めます。主において同じ思いを抱きなさい。⁵⁴なお、真実の 協 力 者よ、あなたにも願います。この二人

ふじん ささ ふたり いのち しよ な しる た きょうりよくしゃ ちから あ ふくいん とも たたか
の婦人を支えてあげてください。二人は、命の書に名を記されているクレメンスや他の協力者たちと力を合わせて、福音のためにわたしと共に戦つてく
れたのです。主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。あなたがたの広い心がすべての人に知られるようになさい。主はすぐ近くにおられ
ます。どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あら
ゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。
終わりに、兄弟たち、すべて真実なこと、すべて気高いこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて名誉なことを、また、徳や
称賛に値することがあれば、それを心に留めなさい。わたしから学んだこと、受けたこと、わたしについて聞いたこと、見たことを実行しなさい。そうすれ
ば、平和の神はあなたがたと共におられます。

おく もの かんしゃ
贈り物への感謝
きかい
10 さて、あなたがたがわたしへの心遣いを、ついにまた表してくれたことを、わたしは主において非常に喜びました。今までは思いはあつても、それを表
す機会がなかったのでしょうか。11 物欲しさにこう言っているのではありません。わたしは、自分の置かれた境遇に満足することを習い覚えたのです。12 貧しく暮ら
すすべも、豊かに暮らすすべも知っています。満腹していても、空腹であっても、物が有り余つていても不足していても、いついかなる場合にも対処する秘訣を
授かっています。13 わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です。14 それにしても、あなたがたは、よくわたしと苦しみを共にしてくれまし
た。

きかい
15 フィリビの人たち、あなたがたも知っているとおり、わたしが福音の宣教の初めにマケドニア州を出たとき、もののやり取りでわたしの働きに参加した
教会はあなたがたのほかにも一つありませんでした。16 また、テサロニケにいたときにも、あなたがたはわたしの窮乏を救おうとして、何度も物を送ってくれま
した。17 贈り物を当てにして言うわけではありません。むしろ、あなたがたの益となる豊かな実を望んでいます。18 わたしはあらゆるものを受けており、豊かに
なっています。そちらからの贈り物をエパフロディトから受け取つて満ち足りています。それは香ばしい香りであり、神が喜んで受けてくださるいけにえで
す。19 わたしの神は、御自分の栄光の富に応じて、キリスト・イエスによって、あなたがたに必要なものをすべて満たしてくださいます。20 わたしたちの父である
神に、栄光が世々限りなくありますように、アーメン。

むす ことば
結びの言葉
むす
21 キリスト・イエスに結ばれているすべての聖なる者たちに、よろしく伝えてください。わたしと一緒にいる兄弟たちも、あなたがたによろしくと言っていま
す。22 すべての聖なる者たちから、特に皇帝の家の人たちからよろしくとのことです。23 主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊と共にあるように。

コロサイの信徒への手紙

[1章](#) [2章](#) [3章](#) [4章](#)

[【戻る】](#)

しんと てがみ
コロサイの信徒への手紙

あいさつ
挨拶

1

かみ み ころ し と きょうだい せい もの むす ちゅうじつ きょうだい
'神の御 心 によってキリスト・イエスの使徒とされたパウロと 兄 弟テモテから、'コロサイにいる聖なる者たち、キリストに結ばれている 忠 実な 兄 弟たちへ。
わたしたちの父である神からの恵みと平和が、あなたがたにあるように。

かみ かんしや
神への感謝

いの しゅ ちち かみ かんしや も
'わたしたちは、いつもあなたがたのために祈り、わたしたちの主イエス・キリストの父である神に感謝しています。'あなたがたがキリスト・イエスにおいて持つ
ている信仰と、すべての聖なる者たちに対して抱えている愛について、聞いたからです。°それは、あなたがたのために天に 蓄 えられている希望に基づくもので
あり、あなたがたは既にこの希望を、福音という真理の言葉を通して聞きました。°あなたがたにまで伝えられたこの福音は、世界 中 至るところでそうであるよ
うに、あなたがたのところで、神の恵みを聞いて真に悟った日から、実を結んで成 長 しています。'あなたがたは、この福音を、わたしたちと共に仕えている
仲間、愛するエバフラスから学びました。彼は、あなたがたのためにキリストに 忠 実に仕える者であり、°また、°'霊' に基づくあなたがたの愛を知らせてくれ
た人です。

み こ そうぞう わかい
御子キリストによる創造と和解

き た いの ねが れい ち え りかい
'°こういうわけで、そのことを聞いたときから、わたしたちは、絶えずあなたがたのために祈り、願っています。どうか、°'霊' によるあらゆる知恵と理解によつ
て、神の御 心 を 十 分 悟り、°'すべての点で主に 喜 ばれるように主に 従 って歩み、あらゆる善い業を 行 って実を結び、神をますます深く知るように。°'そし
て、神の栄光の 力 に 従 い、あらゆる 力 によって強められ、どんなことも根気強く耐え忍ぶように。° 喜 びをもって、°'光 の中にある聖なる者たちの相 続 分
に、あなたがたがあずかれるようにしてください。°'御父は、わたしたちを闇の 力 から救い出して、その愛する御子の支配下に移してく
ださいました。°'わたしたちは、この御子によって、贖 い、すなわち罪の赦しを得ているのです。°'御子は、見えない神の 姿 であり、すべてのものが造られる前に
う 生まれました。°'天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、王座も主 権も、支配も権威も、万物は御子において造られたからです。つま
り、万物は御子によって、御子のために造られました。°'御子はすべてのものよりも先におられ、すべてのものは御子によって支えられています。°'また、御子はそ
の 体 である 教 会 の 頭 です。御子は初めの者、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、すべてのことにおいて第一の者となられたのです。°'神は、御
心 の ままに、満ちあふれるものを余すところなく御子の内に宿らせ、°'その 十 字架の血によって平和を打ち立て、地にあるものであれ、天にあるものであれ、万
物をただ御子によって、御自分と和解させられました。

いぜん かみ はな わる おこな こころ なか かみ てきたい いま かみ み こ にく からだ し
'°あなたがたは、以前は神から離れ、悪い 行 いによって 心 の中で神に敵対していました。°'しかし 今や、神は御子の肉の 体 において、その死によってあな
たがたと和解し、御自身の前に聖なる者、きずのない者、とがめるところのない者としてくださいました。°'ただ、揺るぐことなく 信 仰に踏みとどまり、あなたが
たが聞いた福音の希望から離れてはなりません。この福音は、世界 中 至るところの人々に宣べ伝えられており、わたしパウロは、それに仕える者とされまし
た。

あた つと
パウロに与えられた務め

いま くる よろこ からだ きょうかい くる か み み ひと
'°'今やわたしは、あなたがたのために苦しむことを 喜 びとし、キリストの 体 である 教 会のために、キリストの苦しみの欠けたところを身をもって満たしていま
す。°'神は御言葉をあなたがたに余すところなく 伝えるという務めをわたしにお与えになり、この務めのために、わたしは 教 会に仕える者となりました。°'世の
はじめから代々にわたって隠されていた、秘められた計画が、今や、神の聖なる者たちに明らかにされたのです。°'この秘められた計画が異邦人にとってどれほ
ど栄光に満ちたものであるかを、神は彼らに知らせようとされました。その計画とは、あなたがたの内におられるキリスト、栄光の希望です。°'このキリストを、
わたしたちは宣べ伝えており、すべての人がキリストに結ばれて完全な者となるように、知恵を尽くしてすべての人を諭し、教えています。°'このために、わたし
は労苦しており、わたしの内に 力 強く 働 く、キリストの 力 によって 闘 っています。

2

ひとびと ちやくせつかお あ ひと ろうく たたか
'わたしは、あなたがたとラオディキアにいる人々のために、また、わたしとまだ 直 接 顔を合わせたことのないすべての人のために、どれほど労苦して 闘 ってい
るか、分かってほしい。°'それは、この人々々が 心 を励まされ、愛によって結び合わされ、理解 力 を豊かに与えられ、神の秘められた計画であるキリストを悟る
ようになるためです。°'知恵と知識の 宝 はすべて、キリストの内に隠れています。°'わたしがこう言うのは、あなたがたが巧みな議論にだまされないようにするため
です。°'わたしは 体 では離れていても、霊ではあなたがたと共にいて、あなたがたの正しい秩序と、キリストに対する固い信仰とを見て 喜 んでいます。

むす せいかつ
キリストに結ばれた生活

しゅ う い むす あゆ ね お つく あ おし しん
'°あなたがたは、主キリスト・イエスを受け入れたのですから、キリストに結ばれて歩みなさい。°'キリストに根を下ろして造り上げられ、教えられたとおりの信
仰をしつかり守って、あふれるばかりに感謝しなさい。°'人間の言い伝えにすぎない哲学、つまり、むなしいだまし事によって人のとりこにされないように気をつ
けなさい。それは、世を支配する霊に 従 っており、キリストに 従 うものではありません。°'キリストの内には、満ちあふれる神性が、余すところなく、見える

るのは、あなたがたがわたしたちの様子を知り、彼によつて 心 が励まされるためなのです。°また、あなたがたの一人、 忠 実な愛する 兄 弟オネシモを一 緒に行かせます。彼らは、こちらの事 情 をすべて知らせるでしょう。

°わたしと一 緒に捕らわれの身となっているアリストアルコが、そしてバルナバのいとこマルコが、あなたがたによろしくと言っています。このマルコについては、もしそちらに行ったら迎えるようにとの指示を、あなたがたは受けているはずです。"ユストと呼ばれるイエスも、よろしくと言っています。割 礼を受けた者では、この三人だけが神の国のために共に 働 く者であり、わたしにとって 慰 めとなった人々です。°あなたがたの一人、キリスト・イエスの 僕 エパfrasが、あなたがたによろしくと言っています。彼は、あなたがたが完 全な者となり、神の御 心 をすべて確 信しているようにと、いつもあなたがたのために熱 心に祈っています。°わたしは 証 言しますが、彼はあなたがたのため、またラオディキアとヒエラポリスの人々のために、非 常 に労苦しています。°愛する医者ルカとデマスも、あなたがたによろしくと言っています。°ラオディキアの 兄 弟たち、および、ニンファと彼女の家にある 教 会の人々によろしく伝えてください。°この手紙があなたがたのところで読まれたら、ラオディキアの 教 会でも読まれるように、取り計らってください。また、ラオディキアから回って来る手紙を、あなたがたも読んでください。°アルキボに、「主 に結ばれた者としてゆだねられた務めに意を用い、それをよく果たすように」と伝えてください。

°わたしパウロが、自分の手で挨拶を記します。わたしが捕らわれの身であることを、 心 に留めてください。恵みがあなたがたと 共にあるように。

[1章](#) [2章](#) [3章](#) [4章](#) [5章](#)

[【戻る】](#)

しんと てがみ
テサロニケの信徒への手紙 一

あいさつ
挨拶

1

ちち かみ しゅ むす きょうかい めぐ へいわ
パウロ、シルワノ、テモテから、父である神と主イエス・キリストとに結ばれているテサロニケの 教 会へ。恵みと平和が、あなたがたにあるように。

しゅ なら もの
主に倣う者

わたしたちは、祈りの度に、あなたがたのことを思い起こして、あなたがた一同のことをいつも神に感謝しています。あなたがたが信仰によって 働 き、愛の
ために 労 苦 し、また、わたしたちの主イエス・キリストに対する、希望を持って 忍 耐 していることを、わたしたちは絶えず父である神の御前で 心 に留めているの
です。神に愛されている 兄 弟 たち、あなたがたが神から選ばれたことを、わたしたちは知っています。わたしたちの福音があなたがたに伝えられたのは、ただ
言葉だけによらず、力 と、聖霊と、強い確 信 とによったからです。わたしたちがあなたがたのところで、どのようにあなたがたのために 働 いたかは、御 承 知の
とおりです。そして、あなたがたはひどい苦しみの中で、聖霊による 喜 びをもって御言葉を受け入れ、わたしたちに倣う者、そして主に倣う者となり、マケド
ニア 州 とアカイア 州 にいるすべての信者の模範となるに至ったのです。主の言葉があなたがたのところから出て、マケドニア 州 やアカイア 州 に響き渡った
ばかりでなく、神に対するあなたがたの信仰が至るところで伝えられているので、何も付け加えて言う必要はないほどです。彼ら自身がわたしたちについて言
い広めているからです。すなわち、わたしたちがあなたがたのところでどのように迎えられたか、また、あなたがたのように偶像から離れて神に立ち帰り、生
けるまことの神に仕えるようになったか、¹更にまた、どのように御子が天から来られるのを待ち望むようになったかを。この御子こそ、神が死者の中から復活さ
せた方で、来るべき怒りからわたしたちを救ってくださるイエスです。

せんきょう
テサロニケでのパウロの宣 教

2

兄 弟 たち、あなたがた自身が知っているように、わたしたちがそちらへ行ったことは無駄ではありませんでした。無駄ではなかったどころか、知つてのとおり、わ
たしたちは以前フィリビで苦しめられ、辱 められたけれども、わたしたちの神に勇気づけられ、激しい苦闘の中であなたがたに神の福音を語ったのでし
た。わたしたちの宣 教 は、迷いや不 純 な動機に基づくものでも、また、ごまかしによるものでもありません。わたしたちは神に認められ、福音をゆだねられ
ているからこそ、このように語っています。人に 喜 ばれるためではなく、わたしたちの 心 を吟味される神に 喜 んでいただくためです。あなたがたが知っている
とおり、わたしたちは、相手にへつらったり、口 実 を設けてかすめ取ったりはしませんでした。そのことについては、神が証ししてくださいます。また、あなたが
たからもほかの人たちからも、人間の誉れを求めませんでした。わたしたちは、キリストの使徒として権威を主 張 することができたのです。しかし、あなたがた
の間 で 幼 子 になりました。ちょうど母親がその子供を大事に育てるように、わたしたちはあなたがたをいとおしく思っていたので、神の福音を伝える
ばかりでなく、自分の 命 さえ 喜 んで与えたいと願ったほどです。あなたがたはわたしたちにとって愛する者となったからです。兄 弟 たち、わたしたちの労苦
と骨折りを覚えているでしょう。わたしたちは、だれにも負担をかけまいとして、夜も昼も 働 きながら、神の福音をあなたがたに宣べ伝えたのでした。¹⁰あなた
がた信者に対して、わたしたちがどれほど敬虔に、正しく、非難されることのないようにふるまったか、あなたがたが証しし、神も証ししてくださいます。¹¹あな
たがたが知っているとおり、わたしたちは、父親がその子供に対するように、あなたがた一人一人に¹²呼びかけて、神の御 心 にそって歩むように励まし、慰
め、強く勧めたのでした。御自身の国と栄光にあずからせようと、神はあなたがたを招いておられます。

¹³このようなわけで、わたしたちは絶えず神に感謝しています。なぜなら、わたしたちから神の言葉を聞いたとき、あなたがたは、それを人の言葉としてではな
く、神の言葉として受け入れたからです。事実、それは神の言葉であり、また、信じているあなたがたの中に現に 働 いているものです。¹⁴兄 弟 たち、あなたが
たは、ユダヤの、キリスト・イエスに結ばれている神の諸 教 会に倣う者となりました。彼らがユダヤ人たちから苦しめられたように、あなたがたもまた同胞か
ら苦しめられたからです。¹⁵ユダヤ人たちは、主イエスと預言者たちを殺したばかりでなく、わたしたちをも激しく 迫 害 し、神に 喜 ばれることをせず、あらゆる
ひとびとに 敵 対 し、¹⁶異邦人が救われるようにわたしたちが語るのを 妨 げています。こうして、いつも自分たちの罪をあふれんばかりに増やしているのです。しか
し、神の怒りは余すところなく彼らの上に臨みます。

さいほう わが
テサロニケ再訪の願い

兄 弟 たち、わたしたちは、あなたがたからしばらく引き離されていたので、—顔を見ないというだけで、心 が離れていたわけではないのですが—なおさら、
あなたがたの顔を見たいと切に望みました。¹⁸だから、そちらへ行こうと思いました。殊に、わたしパウロは一度ならず行こうとしたのですが、サタンによって 妨
げられました。¹⁹わたしたちの主イエスが来られるとき、その御前でいったいあなたがた以外のだれが、わたしたちの希望、喜 び、そして誇るべき 冠 でしょう
か。²⁰実に、あなたがたこそ、わたしたちの誉れであり、喜 びなのです。

3

そこで、もはや我慢できず、わたしたちだけがアテネに残ることにし、²わたしたちの 兄 弟 で、キリストの福音のために 働 く神の 協 力 者テモテをそちらに派
遣しました。それは、あなたがたを励まして、信仰を強め、³このような苦難に遭っていても、だれ一人動揺することのないようにするためでした。わたしたちが
苦難を受けるように定められていることは、あなたがた自身がよく知っています。⁴あなたがたのもとにいたとき、わたしたちがやがて苦難に遭うことを、何度も予

告しましたが、あなたがたも知っているように、事実そのとおりになりました。⁵そこで、わたしも、もはやじっとしていられなくなって、誘惑する者があなたがたを惑わし、わたしたちの労苦が無駄になってしまうのではないかとこの心配から、あなたがたの信仰の様子を知るために、テモテを派遣したのです。

⁶ところで、テモテがそちらからわたしたちのもとに今帰って来て、あなたがたの信仰と愛について、うれしい知らせを伝えてくれました。また、あなたがたがいとも好意をもってわたしたちを覚えていてくれること、更に、わたしたちがあなたがたにぜひ会いたいと望んでいるように、あなたがたもわたしたちにしきりに会いながら、あなたがたの信仰によって励まされまし

⁷それで、兄弟たち、わたしたちは、あらゆる困難と苦難に直面しながらも、あなたがたの信仰によって喜ばれています。⁸あなたがたが主にしっかりと結ばれているなら、今、わたしたちは生きていえるからです。⁹わたしたちは、神の御前で、あなたがたのことで喜びにあふれています。この大きな喜びに対して、どのような感謝を神にささげたらよいでしょうか。¹⁰顔を合わせて、あなたがたの信仰に必要なものを補いたいと、夜も昼も切に祈っています。

¹¹どうか、わたしたちの父である神御自身とわたしたちの主イエスとが、わたしたちにそちらへ行く道を開いてくださいますように。¹²どうか、主があなたがたを、お互いの愛とすべての人への愛とで、豊かに満ちあふれさせてくださいますように、わたしたちがあなたがたを愛しているように。¹³そして、わたしたちの主イエスが、御自身に属するすべての聖なる者たちと共に来られるとき、あなたがたの心を強め、わたしたちの父である神の御前で、聖なる、非のうちどころのない者としてくださるよう、アーメン。

神に喜ばれる生活

¹さて、兄弟たち、主イエスに結ばれた者としてわたしたちは更に願ひ、また勧めます。あなたがたは、神に喜ばれるためにどのように歩むべきかを、わたしたちから学びました。そして、現にそのように歩んでいますが、どうか、その歩みを今後も更に続けてください。²わたしたちが主イエスによってどのようにに命令したか、あなたがたはよく知っているはずです。³実に、神の御心は、あなたがたが聖なる者となることです。すなわち、みだらな行いを避け、⁴おのおの汚れない心と尊敬の念をもって妻と生活するように学ばねばならず、⁵神を知らない異邦人のように情欲におぼれてはならないのです。⁶このようなことで、兄弟を踏みつけたり、欺いたりしてはいけません。わたしたちが以前にも告げ、また厳しく戒めておいたように、主はこれらすべてのことについて罰をお与えになるからです。⁷神がわたしたちを招かれたのは、汚れた生き方ではなく、聖なる生活をさせるためです。⁸ですから、これらの警告を拒む者は、人を拒むのではなく、御自分の聖霊をあなたがたの内に与えてくださる神を拒むことになるのです。

⁹兄弟愛については、あなたがたに書く必要はありません。あなたがた自身、互いに愛し合うように、神から教えられているからです。¹⁰現にあなたがたは、マケドニア州全土に住むすべての兄弟に、それを実行しています。しかし、兄弟たち、なおいつそう励むように勧めます。¹¹そして、わたしたちが命じておいたように、落ち着いた生活をし、自分の仕事に励み、自分の手で働くように努めなさい。¹²そうすれば、外部の人々に対して品位をもって歩み、だれにも迷惑をかけないで済むでしょう。

¹³兄弟たち、既に眠りについた人々については、希望を持たないほかの人々のように嘆き悲しまないために、ぜひ次のことを知っておいてほしい。¹⁴イエスが死んで復活されたと、わたしたちは信じています。神は同じように、イエスを信じて眠りについた人々たちをも、イエスと一緒に導き出してくださいます。¹⁵主の言葉に基づいて次のことを伝えます。主が来られる日まで生き残るわたしたちが、眠りについた人々たちより先になることは、決してありません。¹⁶すなわち、合図の号令がかかり、大天使の声が聞こえて、神のラッパが鳴り響くと、主御自身が天から降って来られます。すると、キリストに結ばれて死んだ人々たちが、まず最初に復活し、¹⁷それから、わたしたち生き残っている者が、空中で主と出会うために、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられます。このようにして、わたしたちはいつまでも主と共にいることになります。¹⁸ですから、今述べた言葉によって励まし合いなさい。

¹兄弟たち、その時と時期についてあなたがたには書き記す必要はありません。²盗人が夜やって来るように、主の日は来るということを、あなたがた自身よく知っているからです。³人々が「無事だ。安全だ」と言っているそのやさきに、突然、破壊が襲うのです。ちょうど妊婦に産みの苦しみがやって来るのと同じで、⁴決してそれから逃れられません。⁵しかし、兄弟たち、あなたがたは暗闇の中にいるのではありません。ですから、主の日が、盗人のように突然あなたがたを襲うことはないのです。⁶あなたがたはすべて光の子、屋の子だからです。わたしたちは、夜にも暗闇にも属していません。⁷従って、ほかの人々のように眠っていないで、目を覚まし、身を慎んでみましょう。⁸眠る者は夜眠り、酒に酔う者は夜酔います。⁹しかし、わたしたちは昼に属していますから、信仰と愛を胸当てとして着け、救いの希望を兜としてかぶり、身を慎んでみましょう。¹⁰神は、わたしたちを怒りに定められたのではなく、わたしたちの主イエス・キリストによる救いにあずからせるように定められたのです。¹¹主は、わたしたちのために死なれましたが、それは、わたしたちが、目覚めていても眠っていても、主と共に生きるようになるためです。¹²ですから、あなたがたは、現にそうしているように、励まし合い、お互いの向上に心がけなさい。

結びの言葉

¹²兄弟たち、あなたがたにお願いします。あなたがたの間で労苦し、主に結ばれた者として導き戒めている人々を重んじ、¹³また、そのように働いてくれるのですから、愛をもって心から尊敬しなさい。互いに平和に過しなさい。¹⁴兄弟たち、あなたがたに勧めます。怠けている者たちを戒めなさい。気落ちしている者たちを励ましなさい。弱い者たちを助けなさい。すべての人に対して忍耐強く接しなさい。¹⁵だれも、悪をもって悪に報いることのないように気をつけなさい。お互いの間でも、すべての人に対しても、いつも善を行うよう努めなさい。

よろこ
16いつも 喜んでいなさい。17絶えず祈りなさい。18どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられること
かんしや
す。19 霊の火を消してはいけません。20預言を軽んじてはいけません。21すべてを吟味して、良いものを大事にしなさい。22あらゆる悪いものから遠ざかりな
さ
い。
へいわ かみごじしん まつた せい もの
23どうか、平和の神御自身が、あなたがたを 全 く 聖なる者としてくださいますように。また、あなたがたの 霊も 魂 も 体 も何一つ欠けたところのないものと
れい たましい からだ なにひと か
して守り、わたしたちの主イエス・キリストの来られるとき、非のうちどころのないものとしてくださいますように。24あなたがたをお招きになった方は、真実で、
まも しゆ こ ひ まね かた しんじつ
かなら 必ずそのとおりにしてくださいます。
きようだい いの
25 兄 弟たち、わたしたちのためにも祈ってください。
きようだい せい くち あいさつ てがみ きようだい よ き しゆ つよ めい
26すべての 兄 弟たちに、聖なる口づけによって挨拶をしなさい。27この手紙をすべての 兄 弟たちに読んで聞かせるように、わたしは主によって強く 命じま
す。
しゆ めぐ とも
28わたしたちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがたと共にあるように。

[1章](#) [2章](#) [3章](#)

[【戻る】](#)

しんと てがみ
テサロニケの信徒への手紙 二

あいさつ
挨拶
1

パウロ、シルワノ、テモテから、わたしたちの父である神と主イエス・キリストに結ばれているテサロニケの教会へ。わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように。

らいりん さば
キリスト来臨と裁き

兄弟たち、あなたがたのことをいつも神に感謝せずにはられません。また、そうするのが当然です。あなたがたの信仰が大いに成長し、お互いに対する一人一人の愛が、あなたがたすべての間で豊かになっているからです。それで、わたしたち自身、あなたがたが今、受けているありとあらゆる迫害と苦難の中で、忍耐と信仰を示していることを、神の諸教会の間で誇りに思っています。これは、あなたがたを神の国にふさわしい者とする、神の判定が正しいという証拠です。あなたがたも、神の国のために苦しみを受けているのです。神は正しいことを行われます。あなたがたを苦しめている者には、苦しみをもって報い、また、苦しみを受けているあなたがたには、わたしたちと共に休息をもって報いてくださるのです。主イエスが力強い天使たちを率いて天から来られるとき、神はこの報いを実現なさいます。主イエスは、燃え盛る火の中を来られます。そして神を認めない者や、わたしたちの主イエスの福音に聞き従わない者に、罰をお与えになります。彼らは、主の面前から退けられ、その栄光に輝く力から切り離されて、永遠の破滅という刑罰を受けるでしょう。かの日、主が来られるとき、主は御自分の聖なる者たちの間であがめられ、また、すべて信じる者たちの間でほめたたえられるのです。それは、あなたがたがわたしたちのもたらした証しを信じたからです。このことのためにも、いつもあなたがたのために祈っています。どうか、わたしたちの神が、あなたがたを招きにふさわしいものとしてくださり、また、その御力で、善を求めるあらゆる願いと信仰の働きを成就させてくださるように。それは、わたしたちの神と主イエス・キリストの恵みによって、わたしたちの主イエスの名があなたがたの間であがめられ、あなたがたも主によって誉れを受けるようになるためです。

ふほう もの
不法の者についての警告

さて、兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストが来られることと、そのみもとにわたしたちが集められることについてお願いしたい。霊や言葉によって、あるいは、わたしたちから書き送られたという手紙によって、主の日は既に来てしまったかのように言う者がいても、すぐに動揺して分別を無くしたり、慌てふためいたりしないでほしい。だれがどのような手段を用いても、だまされてはいけません。なぜなら、まず、神に対する反逆が起こり、不法の者、つまり、滅びの子が出現しなければならぬからです。この者は、すべて神と呼ばれたり拝まれたりするものに反抗して、傲慢にふるまい、ついには、神殿に座り込み、自分こそは神であると宣言するのです。まだわたしがあなたがたのもとにいたとき、これらのことを繰り返して語っていたのを思い出しませんか。今、彼を抑えているものがあることは、あなたがたも知っているとおりです。それは、定められた時に彼が現れるためなのです。不法の秘密の力は既に働いています。ただそれは、今のところ抑えている者が、取り除かれるまでのことです。その時が来ると、不法の者が現れますが、主イエスは彼を御自分の口から吐く息で殺し、来られるときの御姿の輝かしい光で滅ぼしてしまわれます。不法の者は、サタンの働きによって現れ、あらゆる偽りの奇跡としるしと不思議な業とを行い、そして、あらゆる不義を用いて、滅びていく人々を欺くのです。彼らが滅びるのは、自分たちの救いとなる真理を愛そうとしなかったからです。それで、神は彼らに惑わす力を送られ、その人たちは偽りを信じるようになります。こうして、真理を信じないで不義を喜んでいた者は皆、裁かれるのです。

すく えら もの い かた
救いに選ばれた者の生き方

しかし、主に愛されている兄弟たち、あなたがたのことについて、わたしたちはいつも神に感謝せずにはられません。なぜなら、あなたがたを聖なる者とする霊の力と、真理に対するあなたがたの信仰とによって、神はあなたがたを、救われるべき者の初穂としてお選びになったからです。神は、このことのために、すなわち、わたしたちの主イエス・キリストの栄光にあずからせるために、わたしたちの福音を通して、あなたがたを招かれたのです。ですから、兄弟たち、しっかり立って、わたしたちが説教や手紙で伝えた教えを固く守り続けなさい。わたしたちの主イエス・キリスト御自身、ならびに、わたしたちを愛して、永遠の慰めと確かな希望とを恵みによって与えてくださる、わたしたちの父である神が、どうか、あなたがたの心を励まし、また強め、いつも善い働きをし、善い言葉を語る者としてくださるように。

いの
わたしたちのために祈ってください

3
終わりに、兄弟たち、わたしたちのために祈ってください。主の言葉が、あなたがたのところでそうであったように、速やかに宣べ伝えられ、あがめられるように、また、わたしたちが道に外れた悪人どもから逃れられるように、と祈ってください。すべての人に、信仰があるわけではないのです。しかし、主は真実な方です。必ずあなたがたを強め、悪い者から守ってください。そして、わたしたちが命令することを、あなたがたは現に実行しており、また、これからもしっかりと実行してくれることと、主によって確信しています。どうか、主が、あなたがたに神の愛とキリストの忍耐とを深く悟らせてくださるように。

たいだ　せいかつ　いまし
怠惰な生活を戒める

きょうだい
°兄 弟たち、わたしたちは、わたしたちの主イエス・キリストの名によって命じます。怠惰な生活をして、わたしたちから受けた教えに従わないでいるすべての兄 弟を避けなさい。’あなたがた自身、わたしたちにどのように倣えばよいか、よく知っています。わたしたちは、そちらにいたとき、怠惰な生活をしませんでした。°また、だれからもパンをただでもらって食べたりはしませんでした。むしろ、だれにも負担をかけまいと、夜昼大変苦労して、働 き続けたのです。°援助を受ける権利がわたしたちになかったからではなく、あなたがたがわたしたちに倣うように、身をもつて模範を示すためでした。°実際、あなたがたのもとにいたとき、わたしたちは、「働 きたくない者は、食べてはならない」と命じていました。°ところが、聞くところによると、あなたがたの中には怠惰な生活をし、少しも働 かず、余計なことをしている者がいるということです。°そのような者たちに、わたしたちは主イエス・キリストに結ばれた者として命じ、勧めます。自分で得たパンを食べるように、落ち着いて仕事をしなさい。°そして、兄 弟たち、あなたがたは、たゆまず善いことをしなさい。°もし、この手紙でわたしたちの言うことに従 わない者がいれば、その者には特に気をつけて、かわわりを持たないようにしなさい。そうすれば、彼は恥じ入るでしょう。°しかし、その人を敵とは見なさず、兄 弟として警告しなさい。

むす　ことば
結びの言葉

へいわ　しゅごじしん　ばあい　へいわ　あた　しゅ　いちどう　とも
°どうか、平和の主御自身が、いついかなる場合にも、あなたがたに平和をお与えくださるように。主があなたがた一同と共におられるように。
°わたしパウロが、自分の手で挨拶を記します。これはどの手紙にも記す 印 です。わたしはこのように書きます。°わたしたちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがた一同と共にあるように。

[1章](#) [2章](#) [3章](#) [4章](#) [5章](#)
[6章](#)

[【戻る】](#)

てがみ
テモテへの手紙 一

あいさつ
挨拶

1

わたしたちの救い主である神とわたしたちの希望であるキリスト・イエスによって任命され、キリスト・イエスの使徒となったパウロから、²信仰によるまことの子テモテへ。父である神とわたしたちの主キリスト・イエスからの恵み、憐れみ、そして平和があるように。

こと おし
異なる教えについての警告

³マケドニア州に出発するときに頼んでおいたように、あなたはエフェソにとどまって、ある人々に命じなさい。異なる教えを説いたり、⁴作り話や切りのない系図に心を奪われたりしないようにと。このような作り話や系図は、信仰による神の救いの計画の実現よりも、むしろ無意味な詮索を引き起こします。⁵わたしのこの命令は、清い心と正しい良心と純真な信仰とから生じる愛を目指すものです。⁶ある人々はこれらのものからそれて、無益な議論の中に迷い込みました。⁷彼らは、自分の言っていることも主張している事柄についても理解していないのに、律法の教師でありたいと思っています。

⁸しかし、わたしたちは、律法は正しく用いるならば良いものであることを知っています。⁹すなわち、次のことを知って用いれば良いものです。律法は、正しい者のために与えられているのではなく、不法な者や不従順な者、不信心な者や罪を犯す者、神を畏れぬ者や俗悪な者、父を殺す者や母を殺す者、人を殺す者、¹⁰みだらな行いをする者、男色をする者、誘拐する者、偽りを言う者、偽証する者のために与えられ、そのほか、健全な教えに反することがあれば、そのために与えられているのです。¹¹今述べたことは、祝福に満ちた神の栄光の福音に一致しており、わたしはその福音をゆだねられています。

かみ あわ たい かんしゃ
神の憐れみに対する感謝

¹²わたしを強くくださった、わたしたちの主キリスト・イエスに感謝しています。この方が、わたしを忠実な者と見なして務めに就かせてくださったからです。¹³以前、わたしは神を冒瀆する者、迫害する者、暴力を振るう者でした。しかし、信じていないとき知らずに行ったことなので、憐れみを受けました。¹⁴そして、わたしたちの主の恵みが、キリスト・イエスによる信仰と愛と共に、あふれるほど与えられました。¹⁵「キリスト・イエスは、罪人を救うために世に來られた」という言葉は真実であり、そのまま受け入れるに値します。わたしは、その罪人の中で最たる者です。¹⁶しかし、わたしが憐れみを受けたのは、キリスト・イエスがまずそのわたしに限りない忍耐をお示しになり、わたしがこの方を信じて永遠の命を得ようとしている人々の手本となるためでした。¹⁷永遠の王、不滅で目に見えない唯一の神に、誉れと栄光が世々限りなくありますように、アーメン。

¹⁸わたしの子テモテ、あなたについて以前預言されたことに従って、この命令を与えます。その預言に力づけられ、雄々しく戦いなさい、¹⁹信仰と正しい良心とを持って。ある人々は正しい良心を捨て、その信仰は挫折してしまいました。²⁰その中には、ヒメナイとアレクサンドロがいます。わたしは、神を冒瀆してはならないことを学ばせるために、彼らをサタンに引き渡しました。

いの かん おし
祈りに関する教え

2

¹そこで、まず第一に勧めます。願いと祈りと執り成しと感謝とをすべての人々のためにささげなさい。²王たちやすべての高官のためにもささげなさい。わたしたちが常に信心と品位を保ち、平穏で落ち着いた生活を送るためです。³これは、わたしたちの救い主である神の御前に良いことであり、喜ばれることです。⁴神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます。⁵神は唯一であり、神と人との間の仲介者も、人であるキリスト・イエスただおひとりなのです。⁶この方はすべての人の贖いとして御自身を献げられました。これは定められた時になされた証しです。⁷わたしは、その証しのために宣教者また使徒として、すなわち異邦人に信仰と真理を説く教師として任命されたのです。わたしは真実を語っており、偽りは言っていません。

⁸だから、わたしが望むのは、男は怒らず争わず、清い手を上げてどこでも祈ることです。⁹同じように、婦人はつつましい身なりをし、慎みと貞淑をもって身を飾るべきであり、髪を編んだり、金や真珠や高価な着物を身に着けたりしてはなりません。¹⁰むしろ、善い業で身を飾るのが、神を敬うと公言する婦人にふさわしいことです。¹¹婦人は、静かに、全く従順に学ぶべきです。¹²婦人が教えたり、男の上に立ったりするのを、わたしは許しません。むしろ、静かにしているべきです。¹³なぜならば、アダムが最初に造られ、それからエバが造られたからです。¹⁴しかし、アダムはだまされませんでした、女はだまされて、罪を犯してしまいました。¹⁵しかし婦人は、信仰と愛と清さを保ち続け、貞淑であるならば、子を産むことによって救われます。

³この言葉は真実です。

かんたく しかく
監督の資格

「監督の職を求める人がいれば、その人は良い仕事を望んでいる。」²だから、監督は、非のうちどころがなく、一人の妻の夫であり、節制し、分別があり、礼儀正しく、客を親切にもてなし、よく教えることができなければなりません。³また、酒におぼれず、乱暴でなく、寛容で、争いを好まず、金銭に執着せず、⁴自分の家庭をよく治め、常に品位を保って子供たちを従順な者に育てている人でなければなりません。⁵自分の家庭を治めることを知らない者に、どうして神の教会の世話ができるでしょうか。⁶監督は、信仰に入って間もない人ではいけません。それでは高慢になって悪魔と同じ裁きを受けかねないからです。⁷更に、監督は、教会以外の人々からも良い評判を得ている人でなければなりません。そうでなければ、中傷され、悪魔の罠に陥りかねない

からです。

ほうししゃ　しかく
奉仕者の資格

おな　　ほうししゃ　　ひんい　　ひと　　にまいじた　つか　　おおざけ　の　　は　　りえき　　きよ　　りょうしん　　なか　　しんこう　　ひ
"同じように、奉仕者たちも品位のある人でなければなりません。二枚舌を使わず、大酒を飲まず、恥ずべき利益をむさぼらず、⁹清い良 心の中に信仰の秘
められた真理を持っている人でなければなりません。¹⁰この人々もまず審査を受けるべきです。その上で、非難される点が無ければ、奉仕者の務めに就かせな
い。"¹¹婦人の奉仕者たちも同じように品位のある人でなければなりません。中　傷　せず、節制し、あらゆる点で忠　実な人でなければなりません。¹²奉仕者は一
人の妻の　夫　で、子供たちと自分の家庭をよく治める人でなければなりません。¹³というのも、奉仕者の仕事を立派に果たした人々は、良い地位を得、キリス
ト・イエスへの信仰によって大きな確信を得るようになるからです。

しんじん　　ひ　　しんり
信心の秘められた真理

ま　　い　　おも　　てがみ　　か　　い　　おく　　ばあい　　かみ　　いえ　　せいかつ　　し
"わたしは、間もなくあなたのところへ行きたいと思いながら、この手紙を書いています。¹⁴行くのが遅れる場合、神の家でどのように生活すべきかを知ってもら
いたいです。神の家とは、真理の柱　であり土台である生ける神の　教　会です。¹⁵信心の秘められた真理は確かに偉大です。すなわち、

にく　　あらわ
！ストは肉において　現　れ、

い　　ぎ
霊において義とされ、

シ　　み
妻たちに見られ、

うじん　　あいだ　　の　　つた
♫人の　間　で宣べ伝えられ、

いじゆう　　しん
✠中　で信じられ、

う　　あ
光のうちに上げられた。

はいきよう　　よこく
背教の予告

4

れい　　つぎ　　めいかく　　つ　　お　　とき　　まど　　れい　　あくれい　　おし　　ところ　　うば　　しんこう　　だつらく　　もの
"しかし、¹「**霊**」は次のように明確に告げておられます。終わりの時には、惑わす霊と、悪霊どもの教えとに心　を奪われ、信仰から脱落する者がいます。²こ
のことは、偽　りを語る者たちの偽善によって引き起こされるのです。彼らは自分の良　心に焼き印を押されており、³結　婚を禁じたり、ある種　の食　物を断つこ
とを命じたりします。しかし、この食　物は、信仰を持ち、真理を認識した人たちが感謝して食べるようにと、神がお造りになったものです。⁴というのは、神
がお造りになったものはすべて良いものであり、感謝して受けるならば、何一つ捨てるものはないからです。⁵神の言葉と祈りによって聖なるものとされるので
す。

りつぱ　　ほうししゃ
キリスト・イエスの立派な奉仕者

きょうだい　　おし　　しんこう　　ことば　　まも　　よ　　おし　　ことば　　やしな　　りつぱ　　ほうししゃ
"これらのことを兄　弟たちに教えるならば、あなたは、信仰の言葉とあなたが守ってきた善い教えの言葉とに　養　われて、キリスト・イエスの立派な奉仕者に
なります。⁷俗悪で愚にもつかない作り　話は　退　けなさい。信心のために自分を鍛えなさい。⁸体　の鍛錬も多　少　は役に立ちますが、信心は、この世と来るべ
き世での　命　を約束するので、すべての点で益となるからです。⁹この言葉は真実であり、そのまま受け入れるに　値　します。¹⁰わたしたちが労苦し、奮闘するの
は、すべての人、特に信じる人々の救い主である生ける神に希望を置いているからです。

めい　　おし　　とし　　わか　　から　　ことば　　こうどう　　あい　　しんこう　　じゅんけつ　　てん
"¹¹これらのことを命じ、教えなさい。¹²あなたは、年が若いということで、だれからも軽んじられてはなりません。むしろ、言葉、行動、愛、信仰、純　潔の点
で、信じる人々の模範となりなさい。¹³わたしが行くときまで、聖書の朗読と勧めと教えに専念しなさい。¹⁴あなたの内にある恵みの賜物を軽んじてはなりま
せん。その賜物は、長　老たちがあなたがあなたに手置いたとき、預言によって与えられたものです。¹⁵これらのことに努めなさい。そこから離れてはなりません。そうす
れば、あなたの進歩はすべての人に明らかになるでしょう。¹⁶自分自身と教えとに気を配りなさい。以　上　のことをしっかりと守りなさい。そうすれば、あなたは
自分自身と、あなたの言葉を聞く人々々とを救うことになります。

きょうかい　　ひとびと　　たい
教会の人々に対して

5

ろうじん　　しか　　じ　　ぶん　　ちちおや　　おも　　さと　　わか　　おとこ　　きょうだい　　おも　　とし　　お　　ふじん　　ははおや　　おも　　わか　　じよせい　　つね　　きよ
"老人を叱ってはなりません。むしろ、自分の父親とと思って諭しなさい。若い　男　は兄　弟と思ひ、²年老いた婦人は母親と思ひ、若い女性には常に清らかな

心こころで姉妹しまいと思おもって論ろんしなさい。

身み寄よりのないやもめを大事だいじにしてあげなさい。

やもめに子こや孫まごがいるならば、これらの者ものに、まず自分の家族を大切たいせつにし、親おやに恩返おんがえしをすることを学まなばせるべきです。それは神かみに喜よろこばれることだからです。

身み寄よりがなく独ひとり暮ぐらしのやもめは、神かみに希望きぼうを置き、昼ひるも夜よるも願ねがいと祈いのりを続つづけますが、放ほう縦じゅうな生活せいかつをしているやもめは、生きていても死しんでいると同どう然ぜんです。

やもめたちが非難ひなんされたりしないように、次のことつぎも命めいじなさい。

自分の親族しんぞく、特に家族の世話せわをしない者ものがいれば、その者は信仰しんこうを捨てたことになり、信者しんじゃでない人にも劣おとっています。

やもめとして登録とうろくするのは、六十歳未満さいみまんの者ではなく、一人の夫ひとりの妻おつとであった人つま、善よい行いいで評判ひょうばんの良い人よでなければなりません。

子供こどもを育て上げたとか、旅人きょりくを親切しんせつにもてなしたとか、聖なる者たちの足あしを洗あらったとか、苦くるしんでいる人々ひとびとを助たすけたとか、あらゆる善い業よに励はげんだ者でなければなりません。

11年若いやもめは登録とうろくしてはなりません。というのは、彼女たちは、情欲かのじょかられてキリストから離はなれると、結婚けっこんしたがるようになり、12前まえにした約束やくそくを破やぶったという非難ひなんを受けることになるからです。

13その上、彼女たちは家から家へと回り歩うくうちに怠おそけ癖くせがつき、更に、ただ怠おそけるだけでなく、おしゃべりで詮索せんさく好きになり、話はなしてはならないことまで話はなしだします。

14だから、わたしが望むのぞのは、若いやもめは再婚さいこんし、子供こどもを産うみ、家事かじを取りしきり、反対者はんたいしやに悪口あくこうの機会きかいを一切いっさい与あたえないことです。

15既に道みちを踏ふみ外はずし、サタンについて行いったやもめもいるからです。

16信者しんじゃの婦人ふじんで身内みうちにやもめがいれば、その世話をすべきであり、教せわ会かいに負担ふたんをかけてはなりません。そうすれば教きょう会かいは身寄りのないやもめの世話をすることができます。

17よく指導しどうしている長老ちょうろうたち、特に御言葉みことばと教えのために労苦ろうくしている長老ちょうろうたちは二倍ばいの報酬ほうしゅうを受けるにふさわしい、と考かんがえるべきです。

18聖書せいしょには、「脱穀だつこしている牛うしに口籠くつこをはめてはならない」と、また「働はたらく者ものが報酬ほうしゅうを受けるのは当然とうぜんである」と書かかれています。

19長老ちょうろうに反対はんたいする訴うえは、二人あるいは三人の証人しやうにんがいなければ、受理うりしてはなりません。

20罪を犯つみしている者に対しては、皆の前みなでとがめなさい。そうすれば、ほかの者も恐れを抱いだくようになります。

21神かみとキリスト・イエスと選ばれた天使たちとの前まえで、厳おごかに命めいじる。偏見へんけんを持たずにこれらの指示しじに従したがいなさい。何事なにごとをするにも、えこひいきはなりません。

22性急せいきゅうにだれにでも手を置いてはなりません。他人の罪てに加わつてもなりません。いつも潔白けつぱくでいなさい。

23これからは水ばかり飲のみまないで、胃のためいに、また、度々たびたび起おくる病氣びょうきのために、ぶどう酒しゅすこを少し用もちいなさい。

24ある人々の罪は明白ひとびとでたちまち裁かれますが、ほかの人々の罪は後あとになって明らかになります。

25同じように、良い行あきいも明白おなです。そうでない場合でも、隠めいばくれたままのことはありません。

26

くびきのもと、どれい、みぶん、ひと、みな、じぶん、しゅじん、じゅうぶんそんけい、かんが、かみ、みな、おし、ぼうとく、

1 軛くの下にある奴隷もとの身分どれいの人みぶんは皆、自分の主人ひとを十分みな尊敬じぶんすべきものと考かんがえなければなりません。それは、神の御名しゅじんとわたしたちの教えが冒瀆しんじゃされないようにするためです。

2主人かみが信者みである場合は、自分の信仰おし上ぼうとくの兄弟しんこうであるからといって軽んぜず、むしろ、いっそう熱心えきに仕えるべきです。その奉仕ほうしから益えきを受ける主人しゅじんは信者しんじゃであり、神に愛かみされている者だからです。

おお、りとか、

大きな利得

これらのことを教え、勧めなさい。

3異なる教えを説き、わたしたちの主イエス・キリストの健全な言葉おしにも、信心すすに基づく教えにも従ことわない者がいれば、4その者は高慢おしで、何も分したからず、議論したがや口論ものに病みつきになっています。そこから、ねたみ、争あらそい、中傷ちやうしやう、邪推じゃすい、絶え間ない言い争たいが生あらそじるので、5これらは、精神しんじんが腐り、真理みに背みを向け、信心たを利得ものの道きと考ものえる者の間おで起おこるものです。

6もつとも、信心しんじんは、満ち足りることを知る者には、大きな利得おおの道きです。

7なぜならば、わたしたちは、何も持たたず世に生まれ、世を去るときは何も持もって行くことができないからです。

8食くべる物きと着ものる物があれば、わたしたちはそれで満足まんぞくすべきです。

9金持ちになろうとする者は、誘惑かねも、畏もの、無分別ゆうわくで有害なさまざまの欲望むふんべつに陥ゆうがいります。その欲望よくぼうが、人を滅亡よくぼうと破滅はめつに陥おとしれます。

10金銭きんせんの欲よくは、すべての悪の根です。金銭あくを追い求めるうちに信仰きんせんから迷い出おて、さまざまのひどい苦しみで突き刺もされた者もいます。

しんこう、たたか、

信仰の戦い

11しかし、神の人かみよ、あなたはこれらのことを避けなさい。正義ひと、信心さ、信仰せいぎ、愛しんじん、忍耐しんこう、柔和あいを追い求めなさい。

12信仰の戦いしんこうを立派たたかに戦りい抜き、永遠えいの命えいを手にに入れなさい。

命えんを得るために、あなたは神から召いのちされ、多くの証人かみの前めで立派おおに信仰しょうにんを表ま明えしたのです。

13万物ばんぶつに命いのちをお与あたえになる神の御前かみで、そして、ポンティオ・ピラトの面前めんぜんで立派な宣言りつぱによって証しをなされたキリスト・イエスの御前せんげんで、あなたに命あかじます。

14わたしたちの主イエス・キリストが再び来ふたられるときまで、おちどなく、非難こされないように、この掟ひなんを守りなさい。

15神は、定められた時にキリストを現おきてしてください。神は、祝福かみに満ちた唯一しゆくふくの主権者み、王の王み、主の主かみ、16唯一しんこうの不死ふしの存在そんざい、近寄り難い光ちかの中に住がまわれる方かり、だれ一人見たことがなく、見ることのできない方です。

この神に誉かみれと永遠えいの支配しがありますように、アーメン。

17この世で富よとんでいる人々ひとびとに命めいじなさい。高慢こうまんにならず、不確ふたかな富とみに望のぞみを置おくのではなく、わたしたちにすべてのものを豊ふたかに与あたえて楽らくしませてくださる神に望かみみを置おくように。

18善ぜんを行おこない、良い行よいに富ものみ、物惜ものしみをせず、喜よろこんで分け与わえるように。

19真の命しんを得るために、未来いのちに備ええて自分のために堅固けんこな基礎きそを築きずくようにと。

20テモテ、あなたにゆだねられているものを守り、俗悪まもな無駄ぞくあく話むだばなしと、不当ふとうにも知識ちしきと呼ばれている反対論はんたいろんとを避けなさい。

21その知識しを鼻はなにかけ、信仰しんこうの道みちを踏ふみ外はずしてしまった者もいます。

恵めぐみがあなたがたと共ともにあるように。

[1章](#) [2章](#) [3章](#) [4章](#)

[【戻る】](#)

てがみ
テモテへの手紙 二

あいさつ
挨拶
1

「キリスト・イエスによって与えられる命の約束を宣べ伝えるために、神の御心によってキリスト・イエスの使徒とされたパウロから、愛する子テモテへ。父である神とわたしたちの主キリスト・イエスからの恵み、憐れみ、そして平和があるように。」

ゆだねられているものを守る

「わたしは、昼も夜も祈りの中で絶えずあなたを思い起こし、先祖に倣い清い良心をもって仕えている神に、感謝しています。わたしは、あなたの涙を忘れることができず、ぜひあなたに会って、喜びで満たされたいと願っています。そして、あなたが抱いている純真な信仰を思い起こしています。その信仰は、まずあなたの祖母ロイスと母エウニケに宿りましたが、それがあなたにも宿っていると、わたしは確信しています。そういうわけで、わたしが手を置いたことによってあなたに与えられている神の賜物を、再び燃えたとさせるように勧めます。」神は、おくびょうの霊ではなく、力と愛と思慮分別の霊をわたしたちにくださったのです。だから、わたしたちの主を証しすることも、わたしが主の囚人であることも恥じてはなりません。むしろ、神の力に支えられて、福音のためにわたしと共に苦しみを忍んでください。神がわたしたちを救い、聖なる招きによって呼び出してくださったのは、わたしたちの行いによるのではなく、御自身の計画と恵みによるのです。この恵みは、永遠の昔にキリスト・イエスにおいてわたしたちのために与えられ、¹⁰今や、わたしたちの救い主キリスト・イエスの出現によって明らかにされたものです。キリストは死を滅ばし、福音を通して不滅の命を現してくださいました。¹¹この福音のために、わたしは宣教者、使徒、教師に任命されました。¹²そのために、わたしはこのような苦しみを受けているのですが、それを恥じていません。というのは、わたしは自分が信頼している方を知っており、わたしにゆだねられているものを、その方がかの日まで守ることがおできになると確信しているからです。¹³キリスト・イエスによって与えられる信仰と愛をもって、わたしから聞いた健全な言葉を手本としなさい。¹⁴あなたにゆだねられている良いものを、わたしたちの内に住まわれる聖霊によって守りなさい。

¹⁵あなたも知っているように、アジア州の人々は皆、わたしから離れ去りました。その中にはフィゲロとヘルモゲネスがいます。¹⁶どうか、主がオネシフォロの家族を憐れんでくださいますように。彼は、わたしをしばしば励まし、わたしが囚人の身であることを恥とも思わず、¹⁷ローマに着くとわたしを熱心に探し、見つけ出してくれたのです。¹⁸どうか、主がかの日に、主のもとで彼に憐れみを授けてくださいますように。彼がエフェソでどれほどわたしに仕えてくれたか、あなたがだれよりもよく知っています。

キリスト・イエスの兵士として

2

「そこで、わたしの子よ、あなたはキリスト・イエスにおける恵みによって強くなりなさい。²そして、多くの証人の面前でわたしから聞いたことを、ほかの人々にも教えることのできる忠実な人たちにゆだねなさい。³キリスト・イエスの立派な兵士として、わたしと共に苦しみを忍びなさい。⁴兵役に服している者は生計を立てるための仕事に煩わされず、自分を召集した者の氣に入ろうとします。⁵また、競技に参加する者は、規則に従って競技をしないならば、栄冠を受けることができません。⁶労苦している農夫こそ、最初に収穫の分け前にあずかるべきです。わたしの言うことをよく考えてみなさい。主は、あなたがすべてのことを理解できるようにしてくださるからです。」

「イエス・キリストのことを思い起こしなさい。わたしの宣べ伝える福音によれば、この方は、ダビデの子孫で、死者の中から復活されたのです。⁹この福音のためにわたしは苦しみを受け、ついに犯罪人のように鎖につながれています。しかし、神の言葉はつながれていません。¹⁰だから、わたしは、選ばれた人々のために、あらゆることを耐え忍んでいます。彼らもキリスト・イエスによる救いを永遠の栄光と共に得るためです。¹¹次の言葉は真実です。」

「わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、

キリストと共に生きようになる。

しの
忍ぶなら、

キリストと共に支配するようになる。

「ストを否むなら、

いな
キリストもわたしたちを否まれる。

せいじつ
したちが誠実でなくても、

つね しんじつ
キリストは常に真実であられる。

ごじしん
「ストは御自身を

いな
否むことができないからである。」

てきかくしゃ みと はたら て
適格者と認められた 働き手

ひとびと おも お ことば かみ みまえ おごそ めい なん やく た き もの はめつ
「これらのことを人々に思い起こさせ、言葉をあげつらわれないようにと、神の御前で 厳かに命じなさい。そのようなことは、何の役にも立たず、聞く者を破滅
させるのです。」「あなたは、適格者と認められて神の前に立つ者、恥じるところのない 働き手、真理の言葉を正しく伝える者となるように努めなさい。」「俗悪
な無駄話を避けなさい。そのような話を する者はますます不信心になっていき、」その言葉は悪いはれ物のように広がります。その中には、ヒメナイとフィレ
トがいます。」「彼らは真理の道を踏み外し、復活はもう起こったと言って、ある人々の信仰を 覆しています。」「しかし、神が据えられた堅固な基礎は揺るぎま
せん。そこには、「主は御自分の者たちを知っておられる」と、また「主の名を呼ぶ者は皆、不義から身を引くべきである」と刻まれています。」「さて、大きな家
には金や銀の器だけではなく、木や土の器もあります。一方は 貴いことに、他方は普通のことに用いられます。」「だから、今述べた諸悪から自分を清める
人は、 貴いことに用いられる器になり、聖なるもの、主人に役立つもの、あらゆる善い業のために備えられたものとなるのです。」「若いころの情欲から遠ざ
かり、清い心で主を呼び求める人々と共に、正義と信仰と愛と平和を追い求めなさい。」「愚かで無知な議論を避けなさい。あなたも知っているとおり、そのよ
うな議論は争いのもとになります。」「主の僕たる者は争わず、すべての人に 柔和に接し、教えることができ、よく忍び、」「反抗する者を優しく教え導か
ねばなりません。神は彼らを悔い改めさせ、真理を認識させてくださるかもしれないのです。」「こうして彼らは、悪魔に生け捕りにされてその意のままになってい
ても、いつか目覚めてその罠から逃れるようになるでしょう。」

お とき ひとびと ありさま
終わりの時の人々の有様

3
しかし、終わりの時には困難な時期が来ることを悟りなさい。」「そのとき、人々は自分自身を愛し、金銭を愛し、ほらを吹き、高慢になり、神をあざけり、両親に
従わず、恩を知らず、神を畏れなくなります。」「また、情けを知らず、和解せず、中傷し、節度がなく、残忍になり、善を好まず、人を裏切り、軽率
になり、思い上がり、神よりも快楽を愛し、」「信心を装いながら、その実、信心の力を否定するようになります。こういう人々を避けなさい。」「彼らの中に
は、他人の家に入り込み、愚かな女どもをたぶらかしている者がいるのです。彼女たちは罪に満ち、さまざまの情欲に駆り立てられており、いつも学んでい
ながら、決して真理の認識に達することができません。」「ヤンネとヤンブレがモーセに逆らったように、彼らも真理に逆らっています。彼らは精神の腐った人間
で、信仰の失格者です。」「しかし、これ以上はびこらないでしょう。彼らの無知がすべての人々にあらわになるからです。ヤンネとヤンブレの場合もそうでし
た。」

さいご すす
最後の勧め

おし こうどう い と しんこう かんよう あい にんたい なら はくがいの
「しかしあなたは、わたしの教え、行動、意図、信仰、寛容、愛、忍耐に倣い、」「アンティオキア、イコニオン、リストラでわたしにふりかかったような迫害
と苦難をもちといたしませんでした。そのような迫害にわたしは耐えました。そして、主がそのすべてからわたしを救い出してくださったのです。」「キリスト・イエスに
結ばれて信心深く生きようとする人は皆、迫害を受けます。」「悪人や詐欺師は、惑わし惑わされながら、ますます悪くなっていきます。」「だがあなたは、自分が
学んで確信したことから離れてはなりません。あなたは、それをだれから学んだかを知っており、」「また、自分が 幼い日から聖書に親しんできたことをも知って
いるからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いに導く知恵を、あなたに与えることができます。」「聖書はすべて神の霊の導きの下に書
かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。」「こうして、神に仕える人は、どのような善い業をも 行うことができるよう
に、十分に整えられるのです。」

4
「神の御前で、そして、生きている者と死んだ者を裁くために来られるキリスト・イエスの御前で、その出現とその御国とを思いつつ、厳かに命じます。」「御言
葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても励みなさい。とがめ、戒め、励ましなさい。忍耐強く、十分に教えるのです。」「だれも健全な教えを聞こうとし
ない時が来ます。そのとき、人々は自分に都合の良いことを聞こうと、好き勝手に教師たちを寄せ集め、」「真理から耳を背け、作り話の方にそれて行くようにな
ります。」「しかしあなたは、どんな場合にも身を慎み、苦しみを耐え忍び、福音宣教師の仕事に励み、自分の務めを果たしなさい。」「わたし自身は、既にいけにえとして献げられています。世を去る時が近づきました。」「わたしは、戦いを立派に戦い抜き、決められた道を走りとおし、信仰

ま ぬ いま ぎ えいかん う ただ しんばんしゃ しゅ ひ さす
を守り抜きました。°⁸今や、義の栄冠を受けるばかりです。正しい審判者である主が、かの日にそれをわたしに授けてくださるのです。しかし、わたしだけでなく、主が来られるのをひたすら待ち望む人には、だれにでも授けてくださいます。

こじんできしじ 個人的指示
いそ いま ぎ えいかん う ただ しんばんしゃ しゅ ひ さす
°⁹ぜひ、急いでわたしのところへ来てください。¹⁰デマスはこの世を愛し、わたしを見捨ててテサロニケに行ってしまう、クレスケンスはガラテヤに、テトスはグルマティアに行っているからです。¹¹ルカだけがわたしのところにいます。マルコを連れて来てください。彼はわたしの務めをよく助けてくれるからです。¹²わたしはティキコをエフェソに遣わしました。¹³あなたが来るときには、わたしがトロアスのカルボのところに置いてきた外套を持って来てください。また書物、特に羊皮紙のものを持ってきてください。¹⁴銅細工人アレクサンドロがわたしをひどく苦しめました。主は、その仕業に応じて彼にお報いになります。¹⁵あなたも彼には用心しなさい。彼はわたしたちの語ることに激しく反対したからです。
さいしょ べんめい たす みな みす かれ せ お とお ふくいん
°¹⁶わたしの最初の弁明のときには、だれも助けてくれず、皆わたしを見捨てました。彼らにその責めが負わされませんように。¹⁷しかし、わたしを通して福音があまねく宣べ伝えられ、すべての民族がそれを聞くようになるために、主はわたしのそばにいて、力づけてくださいました。そして、わたしは獅子の口から救われました。¹⁸主はわたしをすべての悪い業から助け出し、天にある御自分の国へ救い入れてくださいます。主に栄光が世々限りなくありますように、アーメン。

むす ことば 結びの言葉
いえ ひとびと つた びょうき
°¹⁹プリスカとアキラに、そしてオネシフォロの家の人々によろしく伝えてください。²⁰エラストはコリントにとどまりました。トロフィモは病気なのでミレトスに残してきました。²¹冬になる前にぜひ来てください。エウプロ、ブデンス、リノス、クラウドシア、およびすべての兄弟があなたによろしくと言っています。²²主があなたの霊と共にいてくださるように。恵みがあなたがたと共にあるように。

テトスへの手紙

[1章](#) [2章](#) [3章](#)

[【戻る】](#)

てがみ
テトスへの手紙

あいさつ
挨拶

1

かみ しもべ し と し と かみ えらひとびと しんこう たす かれ しんじん いっち しん り にんしき みちび
'神の 僕、イエス・キリストの使徒パウロから―わたしが使徒とされたのは、神に選ばれた人々の信仰を助け、彼らを信心に一致する真理の認識に導くため
えいえん いのち きぼう もと いつわ かみ えいえん むかし いのち やくそく かみ さだ としき せんきよう
です。²これは永遠の命の希望に基づくもので、偽ることのない神は、永遠の昔にこの命を約束してくださいました。³神は、定められた時に、宣教を
とお みことば あき すく ぬし かみ めいれい せんきよう しんこう とも こ
通して御言葉を明らかにされました。わたしたちの救い主である神の命令によって、わたしはその宣教をゆだねられたのです。―信仰を共にするまことの子
ちち かみ すく ぬし めぐ へいわ
テトスへ。父である神とわたしたちの救い主キリスト・イエスからの恵みと平和とがあるように。

しごと
クレタでのテトスの仕事

のこ し し じ のこ しごと せいり まち ちょうろう た ちょうろう ひなん
⁴あなたをクレタに残してきたのは、わたしが指示しておいたように、残っている仕事を整理し、町ごとに長老たちを立ててもらうためです。⁵長老は、非難
てん ひとり つま おっと こども しんじゃ ほうとう せ ふじゅうじゆん かんとく かみ にんめい
される点がなく、一人の妻の夫であり、その子供たちも信者であって、放蕩を責められたり、不従順であったりしてはなりません。⁷監督は神から任命され
かんりしや ひなん てん おこ さけ らんぼう は りえき
た管理者であるので、非難される点があってはならないのです。わがままでなく、すぐに怒らず、酒におぼれず、乱暴でなく、恥ずべき利益をむさばらず、⁸か
きやく しんせつ ぜん あい ふんべつ ただ きよ じぶん せい おし かな しんらい ことば まち ひと
えて、客を親切にもてなし、善を愛し、分別があり、正しく、清く、自分を制し、⁹教えに合う信頼すべき言葉をしっかりと守る人でなければなりません。
けんぜん おし したが すす はんたいしや しゆちよう ろんば
そうでないと、健全な教えに従って勧めたり、反対者の主張を論破したりすることもできないでしょう。
じつ ふじゅうじゆん もの むえき はなし もの ひと まど もの おお とく かつれい う ひと なか もの もの ちんもく
¹⁰実は、不従順な者、無益な話をする者、人を惑わす者が多いのです。特に割礼を受けている人たちの中に、そういう者がいます。¹¹その者たちを沈黙
かれ は りえき え おし おし かずかず かてい くつがえ かれ ひとり よげんしやじしん つぎ
させねばなりません。彼らは恥ずべき利益を得るために、教えてはならないことを教え、数々の家庭を覆しています。¹²彼らのうちの一人、預言者自身が次
い
のように言いました。

じん
¹クレタ人はいつもそつき、

わる けもの たいだ たいしょくかん
悪い獣、怠惰な大食漢だ。」

ことば あ かれ きび いまし しんこう けんぜん たも じん つく ばなし しんり せ む もの おきて ころう うば
¹³この言葉は当たっています。だから、彼らを厳しく戒めて、信仰を健全に保たせ、¹⁴ユダヤ人の作り話や、真理に背を向けている者の掟に心を奪われな
きよ ひと きよ けが もの しん もの なにひと きよ ちせい りょうしん けが
いようにさせなさい。¹⁵清い人には、すべてが清いのです。だが、汚れている者、信じない者には、何一つ清いものはなく、その知性も良心も汚れていま
もの かみ し こうげん おこな ひてい けん お にんげん はんこうてき いっさい よ わざ しつ
す。¹⁶こういう者たちは、神を知っていると公言しながら、行いではそれを否定しているのです。嫌悪すべき人間で、反抗的で、一切の善い業については失
かくしや
格者です。

けんぜん おし
健全な教え

2

けんぜん おし かな かた とし お おとこ せつせい ひんい たも ふんべつ しんこう あい にんたい てん けんぜん
¹しかし、あなたは、健全な教えに合うことを語りなさい。²年老いた男には、節制し、品位を保ち、分別があり、信仰と愛と忍耐の点で健全であるように
すす おな とし お おんな せい つと は もの ちゆうしやう おおぎけ よ おし もの
勧めなさい。³同じように、年老いた女には、聖なる務めを果たす者にふさわしくふるまい、中傷せず、大酒のとりこにならず、善いことを教える者となる
すす かのじょ わか おんな さと おつと あい こども あい ふんべつ ていけつ か じ ぜんりやう おつと したが
ように勧めなさい。⁴そうすれば、彼女たちは若い女を諭して、夫を愛し、子供を愛し、⁵分別があり、貞潔で、家事にいそしみ、善良で、夫に従うよう
かみ ことば けが おな ばんじ わか おとこ しりよぶか すす じしん
にさせることができます。これは、神の言葉が汚されないためです。⁶⁻⁷同じように、万事につけ若い男には、思慮深くふるまうように勧めなさい。あなた自身
よ おこな もはん おし せいれん ひんい たも ひなん よち けんぜん ことば かた てきたいしや
、良い行いの模範となりなさい。教えるときには、清廉で品位を保ち、⁸非難の余地のない健全な言葉を語りなさい。そうすれば、敵対者は、わたしたちにつ
なん あつこう い は い どれい てん じぶん しゆじん ふくじゆう よろこ はんこう ぬす
いて何の悪口も言うことができず、恥じ入るでしょう。⁹奴隷には、あらゆる点で自分の主人に服従して、喜ばれるようにし、反抗したり、¹⁰盗んだりせず、
つね ちゆうじつ ぜんりやう しめ すす すく ぬし かみ おし てん かがや
常に忠実で善良であることを示すように勧めなさい。そうすれば、わたしたちの救い主である神の教えを、あらゆる点で輝かすことになります。
じつ ひとびと すく かみ めぐ あらわ めぐ ふしんじん げんせでき よくぼう す よ しりよぶか ただ
¹¹実に、すべての人々に救いをもたらす神の恵みが現れました。¹²その恵みは、わたしたちが不信心と現世的な欲望を捨てて、この世で、思慮深く、正し
しんじんぶか せいかつ おし しゆくふく み きぼう いだい かみ すく ぬし えいこう あらわ ま
く、信心深く生活するように教え、¹³また、祝福に満ちた希望、すなわち偉大なる神であり、わたしたちの救い主であるイエス・キリストの栄光の現れを待
のぞ おし ごじしん ささ ふほう あがな だ よ おこな ねつしん たみ ごじ
ち望むように教えています。¹⁴キリストがわたしたちのために御自身を献げられたのは、わたしたちをあらゆる不法から贖い出し、良い行いに熱心な民を御自
ぶん きよ じゆうぶん けんい かた すす いまし あなど
分のものとして清めるためだったのです。¹⁵十分な権威をもってこれらのことを語り、勧め、戒めなさい。だれにも侮られてはなりません。

よ おこな すす
善い行いの勧め

3

ひとびと つぎ おも お しはいしや けんいしや ふく したが よ わざ おこな ようい
¹人々に、次のことを思い起こさせなさい。支配者や権威者に服し、これに従い、すべての善い業を行う用意がなければならないこと、²また、だれをもそしら
あらそ この かんよう ひと ころう やき せつ じしん むふんべつ ふじゅうじゆん みち まよ しゆ
ず、争いを好まず、寛容で、すべての人に心から優しく接しなければならないことを。³わたしたち自身もかつては、無分別で、不従順で、道に迷い、種
じゆ じょうよく かいらく あくい いだ く い きら にく あ すく ぬし かみ いづく にん
々の情欲と快楽のとりことなり、悪意とねたみを抱いて暮らし、忌み嫌われ、憎み合っていたのです。⁴しかし、わたしたちの救い主である神の慈しみと、人
げん たい あい あらわ かみ おこな ぎ わざ ごじぶん あわ すく
間に対する愛とが現れたときに、⁵神は、わたしたちが行った義の業によってではなく、御自分の憐れみによって、わたしたちを救ってくださいました。この

すく　せいれい　あた　う　あら　つく　あら　とお　じつげん　かみ　すく　ぬし　とお　せいれい
救いは、聖霊によって新　しく生まれさせ、新たに造りかえる洗いを通して実現したのです。⁶神は、わたしたちの救い主イエス・キリストを通して、この聖霊
をわたしたちに豊かに注いでくださいました。⁷こうしてわたしたちは、キリストの恵みによって義とされ、希望どおり永遠の　命　を受け継ぐ者とされたのです。
⁸この言葉は真実です。あなたがこれらのことを　力　強く　主　張　するように、わたしは望みます。そうすれば、神を信じるようになった人々が、良い　行　いに励
もうと　心　がけるようになります。これらは良いことであり、人々に有益です。⁹愚かな議論、糸図の詮索、争　い、律法についての論議を避けなさい。それは無
益で、むなしものだからです。¹⁰分裂を引き起こす人には一、二度訓　戒し、　従　わなければ、かわりを持たないようにしなさい。¹¹あなたも知っているとおり、
このような人は　心　がすっかりゆがんでいて、　自　ら悪いと知りつつ罪を犯しているのです。

むす　ことば
結びの言葉
¹²アルテマスかティキコをあなたのもとへ遣わしたら、急いで、ニコポリスにいるわたしのところへ来ててください。わたしはそこで冬を越すことにしたからです。¹³
法　律家ゼナスとアポロとを、何も不自由しないように、よく世話をして、送り出してください。¹⁴わたしたちの仲間も、実際に必要な物を　賄　うために、良い　行
いに励むことを学ばねばなりません。寒を結ばない者とならないためです。
¹⁵わたしと一緒にいる者たちが皆、あなたによろしくと言っています。わたしたちを愛している信　仰の友人たちによろしく　伝えてください。恵みがあなたがた
一　同と共にあるように。

フィレモンへの手紙

[1章](#)

[【戻る】](#)

てがみ
フィレモンへの手紙

あいさつ
挨拶

しゅうじん きょうだい あい きょうりよくしゃ し まい せんゆう

「キリスト・イエスの 囚 人パウロと 兄 弟テモテから、わたしたちの愛する 協 力 者フィレモン、²姉妹アフィア、わたしたちの戦 友アルキポ、ならびにあなた

いえ きょうかい ちち かみ しゅ めぐ へいわ

の家にある 教 会へ。³わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように。

あい しんこう
フィレモンの愛と信仰

いの たび おも お かみ かんしゃ しゅ たい しんこう せい もの

⁴わたしは、祈りの度に、あなたのことを思い起こして、いつもわたしの神に感謝しています。⁵というのは、主イエスに対するあなたの信仰と、聖なる者たち

いちどう たい あい き あいだ よ しんこう

一同に対するあなたの愛とについて聞いているからです。⁶わたしたちの 間 でキリストのためになされているすべての善いことを、あなたが知り、あなたの信仰の

まじ かっぱつ いの きょうだい あい おお よろこ なぐさ え せい もの ところ かず げん き

交わりが活発になるようにと祈っています。⁷ 兄 弟よ、わたしはあなたの愛から大きな 喜 びと 慰 めを得ました。聖なる者たちの 心 があなたのお陰で元気づ

けられたからです。

と な
パウロ、オネシモのために執り成す

な えんりょ めい あい うった ねが とし お いま

⁸それで、わたしは、あなたのなすべきことを、キリストの名によって遠慮なく命じてもよいのですが、⁹むしろ愛に 訴 えてお願いします、年老いて、今はまた、

しゅうじん かんきんちゅう こ たの かれ い ぜん やく

キリスト・イエスの 囚 人となつている、このパウロが。¹⁰監 禁 中 にもうけたわたしの子オネシモのことで、頼みがあるのです。¹¹彼は、以前はあなたにとって役

た もの いま やくだ もの ところ おく かえ ほんとう

に立たない者でしたが、今は、あなたにもわたしにも役立つ者となつています。¹²わたしの 心 であるオネシモを、あなたのもとに送り帰します。¹³本当は、わたし

ひ と ふくいん かんきん あいだ か つか おも しょうたく なに

のもとに引き止めて、福音のゆえに監禁されている 間 、あなたの代わりに仕えてもらってもよいと思つたのですが、¹⁴あなたの 承 諾なしには何もしたくありま

よ おこな し じはつてき おも おそ かれ ひ

せん。それは、あなたのせつかくの善い 行 いが、強いられたかたちでなく、自発的になされるようにと思ふからです。¹⁵恐らく彼がしばらくあなたのもとから引き

はな かれ じぶん お ばあい どれい どれい い じょう もの あい

離されていたのは、あなたが彼をいつまでも自分のもとに置いたためであつたかもしれません。¹⁶その場合、もはや奴隷としてではなく、奴隷以 上 の者、つまり愛

きょうだい とく ひとり にんげん しゅ しん もの あい きょう

する 兄 弟としてです。オネシモは特にわたしにとってそうですが、あなたにとってはなおさらのこと、一人の人間としても、主を信じる者としても、愛する 兄

だい

弟であるはずです。

なかま み おも むか い かれ なに そんがい あた ふ さい お

¹⁷だから、わたしを仲間と見なしてくれるのでしたら、オネシモをわたしと思つて迎え入れてください。¹⁸彼があなたに何か損害を与えたり、負債を負つたりし

か じ ひつ か じ ぶん し はら じ しん お

ていたら、それはわたしの借りにしておいてください。¹⁹わたしパウロが自筆で書いています。わたしが自分で支払いましょう。あなたがあなた自身を、わたしに負

きょうだい しゅ よろこ ところ げん き

うていることは、よいとしましょう。²⁰そうです。 兄 弟よ、主によって、あなたから 喜 ばせてもらいたい。キリストによって、わたしの 心 を元気づけてくださ

い。

き い しん てがみ か い い じょう しゅくはく ようい

²¹あなたが聞き入れてくれると信じて、この手紙を書いています。わたしが言う以 上 のことさえもしてくれるでしょう。²²ついでに、わたしのため 宿 泊の用意を

たの いの い きぼう

頼みます。あなたがたの祈りによって、そちらに行かせていただけるように希望しているからです。

むす ことば
結びの言葉

とも と い きょうりよくしゃ

²³キリスト・イエスのゆえにわたしと共に捕らわれている、エパfrasがよろしくと言っています。²⁴わたしの 協 力 者たち、マルコ、アリストアルコ、デマス、ル

しゅ めぐ れい とも

カからもよろしくとのことです。²⁵主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊と共にあるように。

ヘブライ人への手紙

- [1章](#) [2章](#) [3章](#) [4章](#) [5章](#)
- [6章](#) [7章](#) [8章](#) [9章](#) [10章](#)
- [11章](#) [12章](#) [13章](#)

[【戻る】](#)

じん て がみ
へ ブライ 人 へ の 手 紙

かみ み こ かた
神は御子によって語られた

1

かみ よげんしや おお おお せんぞ かた お じだい み こ かた
'神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、²この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました。
かみ み こ ばんぶつ そうぞくしや さだ み こ せかい そうぞう み こ かみ えいこう はんえい かみ ほんしつ かんぜん あらわ
神は、この御子を万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました。³御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであって、
ばんぶつ ご じ ぶん ちから ことば ささ ひとびと つみ きよ のち てん たか ところ おお かた みぎ ざ つ み
万物を御自分の力ある言葉によって支えておられますが、人々の罪を清められた後、天の高い所におられる大いなる方の右の座にお着きになりました。⁴御
こ てんし すぐ もの てんし な すぐ な う つ
子は、天使たちより優れた者となりました。天使たちの名より優れた名を受け継がれたからです。

み こ てんし
御子は天使にまさる

かみ てんし
ったい神は、かつて天使のだれに、

こ
うなたはわたしの子、

きょう う
しは今日、あなたを産んだ」
い さら
と言われ、更にまた、

かれ ちち
うたしは彼の父となり、

こ
まわたしの子となる」
い さら かみ ちょうし せかい おく
と言われたでしょうか。⁵更にまた、神はその長子をこの世界に送るとき、

み てんし みな かれ れいはい
申の天使たちは皆、彼を礼拝せよ」
い てんし かん
と言われました。⁷また、天使たちに関しては、

み てんし かぜ
申は、その天使たちを風とし、

いぶん つか もの も ほのお
自分仕える者たちを燃える炎とする」
い いっぼう み こ む い
と言われ、⁸一方、御子に向かつては、こう言われました。

み ぎよくざ えいえん つづ
申よ、あなたの玉座は永遠に続き、

こうせい しゃく みくに しゃく
は、公正の笏が御国の笏である。

ぎ あい ふほう にく
は義を愛し、不法を憎んだ。

かみ かみ よろこ あぶら
ゆえ、神よ、あなたの神は、喜びの油を、

なかま そそ おお そそ
わたの仲間に注ぐよりも多く、あなたに注いだ。」

い
、こうも言われています。

ゆ　はじ　だい　ち　も　とい　す
に　よ、あなたは初めて大地の　基　を据えた。

う　も　ろ　の　てん　は、あなたの　て　わ　ざ　の手　の　業　である。

ら　の　も　の　は、やがて　ほ　ろ　滅びる。

ゐ、あなたはいつまでも　い　生きている。

ゑ　て　の　も　の　は、　ころ　も　　ふ　る　　す　た　衣　の　よ　う　に　古　び　廃　れる。

ゑ　た　が　が　い　と　う　　ま　外套　の　よ　う　に　巻　くと、

ゐ　ら　の　も　の　は、　ころ　も　　か　衣　の　よ　う　に　変　わ　つ　て　し　ま　う　。

ゐ　し、あなた　は　か　は　変　わ　る　こ　と　な　く、

ゑ　た　の　とし　　つ　年　は　尽　き　る　こ　と　が　な　い　。」

ゐ、かつて　てん　し　の　だ　れ　に　向　か　つ　て、

ゐ　た　し　が　あ　な　た　の　で　き　敵　を　あ　な　た　の　あ　し　だ　い　足　台　と　す　る　ま　で、

ゐ　し　の　み　ぎ　　す　わ　右　に　座　つ　て　い　な　さ　い　」

ゐ　と　言　わ　れ　た　こ　と　が　あ　る　で　し　よ　う　か　。¹⁴天　使　た　ち　は　皆、奉　仕　す　る　い　ん　ぎ　で　あ　つ　て、救　い　を　受　け　継　ぐ　こ　と　に　な　つ　て　い　る　人　々　に　仕　え　る　た　め　に、　つ　か　　つ　か　　遭　わ　さ　れ　た　の　で　は　な　か　つ　た　で　す　か　。

お　お　　す　く　大　い　な　る　救　い

2

ゐ　だ　か　ら、わ　た　し　た　ち　は　聞　い　た　こ　と　に　い　つ　そ　う　注　意　を　払　わ　ね　ば　な　り　ま　せ　ん　。　そ　う　で　な　い　と、押　し　流　さ　れ　て　し　ま　い　ま　す　。²も　し、天　使　た　ち　を　通　し　て　語　ら　れ　た　言　葉　が　効　り　よ　く　は　つ　　い　は　ん　　ふ　じ　ゆ　う　じ　ゆ　ん　　と　う　ぜ　ん　　ば　つ　　う　　お　お　　す　く　　たい　　ば　つ　　力　を　発　し、す　べ　て　の　違　犯　や　不　　従　　順　　が　当　然　な　罰　を　受　け　た　と　す　る　な　ら　ば、³ま　し　て　わ　た　し　た　ち　は、こ　れ　ほ　ど　大　き　な　救　い　に　対　し　て　む　と　ん　ち　ゃ　く　で　い　て、ど　う　し　て　罰　を　の　が　　す　く　　し　ゆ　　さい　し　ょ　　か　た　　き　　ひ　と　び　と　　た　し　　し　め　　さ　ら　　か　み　　ふ　し　逃　れ　る　こ　と　が　で　き　ま　し　よ　う　。　こ　の　救　い　は、主　が　最　初　に　語　ら　れ、そ　れ　を　聞　い　た　人　々　に　よ　つ　て　わ　た　し　た　ち　に　確　か　な　も　の　と　し　て　示　さ　れ、⁴更　に　神　も　ま　た、し　る　し、不　思　ぎ　　わ　ざ　　き　　せ　き　　せ　い　れ　い　　た　ま　も　の　　み　こ　ころ　　し　た　が　　わ　　あ　た　　あ　か　議　な　業、さ　ま　ざ　ま　な　奇　跡、聖　霊　の　賜　物　を　御　心　に　　従　　つ　て　分　け　与　え　て、証　し　し　て　お　ら　れ　ま　す　。

す　く　　そ　う　し　し　や　救　い　の　創　始　者

ゐ　か　み　　か　た　　き　た　　せ　　かい　　てん　し　　し　た　が　　か　し　ょ　　つ　ぎ　　あ　か　⁵神　は、わ　た　し　た　ち　が　語　つ　て　い　る　来　る　べ　き　世　界　を、天　使　た　ち　に　　従　　わ　せ　る　よ　う　な　こ　と　は　な　さ　ら　な　か　つ　た　の　で　す　。⁶あ　る　個　所　で、次　の　よ　う　に　は　つ　き　り　証　し　さ　れ　て　い　ま　す　。

ゐ　な　が　　こ　ころ　　と　　に　ん　げ　ん　　な　に　も　の　　あなたが　心　に　留　め　ら　れ　る　人　間　と　は、何　者　な　の　か　。

ゐ、あなたが　か　え　り　　ひ　と　　こ　　な　に　も　の　　顧　み　ら　れ　る　人　の　子　と　は、何　者　な　の　か　。

ゐ　は　か　れ　　てん　し　　彼は　を　天　使　た　ち　よ　り　も、

ゐ　わ　ず　か　の　あ　い　だ　　ひ　く　　も　の　　間　、低　い　者　と　さ　れ　た　が、

う えいよ かんむり さず
光と栄誉の 冠 を授け、

てのものを、その足の下に 従 わせられました。」
「すべてのものを彼に 従 わせられた」と言われている以 上、この方に 従 わないものは何も残っていないはずで。しかし、わたしたちはいまだに、すべてのものがこの方に 従 っている様子を見ていません。ただ、「天使たちよりも、わずかの 間、低い者とされた」イエスが、死の苦しみのゆえに、「栄光と栄誉の冠 を授けられた」のを見ています。神の恵みによって、すべての人のために死んでくださったのです。
「¹⁰というのは、多くの子らを栄光へと 導 くために、彼らの救いの創始者を数々の苦しみを通して完全な者とされたのは、万物の目 標 であり 源 である方に、ふさわしいことであつたからです。」¹¹事実、人を聖なる者となさる方も、聖なる者とされる人たちも、すべて一つの 源 から出ているのです。それで、イエスは彼らを 兄 弟と呼ぶことを恥としないで、

たしは、あなたの名を

わたしの 兄 弟たちに知らせ、

会の中であなたを賛美します」

い、¹²また、

わたしは神に信 頼 します」

い、更にまた、

ここに、わたしと、

神がわたしに与えてくださった子らがいます」
と言われます。¹⁴ところで、子らは血と肉を備えているので、イエスもまた同 様に、これらのものを備えられました。それは、死をつかさどる者、つまり悪魔を御自分の死によって滅ぼし、¹⁵死の 恐 怖のために一 生 涯、奴隷の 状 態にあった者たちを解放なさるためでした。¹⁶確かに、イエスは天使たちを助けず、アブラハムの子孫を助けられるのです。¹⁷それで、イエスは、神の御前において憐れみ深い、 忠 実な大祭司となって、民の罪を 償 うために、すべての点で 兄 弟たちと同じようにならねばならなかったのです。¹⁸事実、御自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練を受けている人たちを助けることがおできになるのです。

イエスはモーセにまさる

3
「だから、天の召しにあずかっている聖なる 兄 弟たち、わたしたちが 公 に言い 表 している使者であり、大祭司であるイエスのことを 考 えなさい。²モーセが神の家全体の中で 忠 実であつたように、イエスは、御自身を立てた方に 忠 実であられました。³家を建てる人が家そのものよりも 尊 ばれるように、イエスはモーセより大きな栄光を受けるにふさわしい者とされました。⁴どんな家でもだれかが造るわけです。万物を造られたのは神なのです。⁵さて、モーセは 将 来語られるはずのことを証しするために、仕える者として神の家全体の中で 忠 実でしたが、⁶キリストは御子として神の家を 忠 実に治められるのです。もし確信と希望に満ちた誇りとを持ち続けるならば、わたしたちこそ神の家なのです。

神の民の安息

から、聖霊がこう言われるとおりです。

今日、あなたたちが神の声を聞くなら、

の しれん う
野で試練を受けたころ、

かみ はんこう
神に反抗したときのように、

う
をかたくなにしてはならない。

の せん そ
1野であなたたちの先祖は

の ところ ため
わたしを試み、験し、

ねん あいだ わざ み
1年の間わたしの業を見た。

い じだい もの たい
ら、わたしは、その時代の者たちに対して

いきどお い
憤ってこう言った。

れ ところ まよ
ばらばらいつも心が迷っており、

の みち みと
しの道を認めなかった。』

い か ちか
ため、わたしは怒って誓った。

れ けつ あんそく
ばらを決してわたしの安息に

あずからせはしない』と。」
きょうだい しんこう わる ところ いだ い かみ はな もの ちゆうい ひとり つみ
12兄弟たち、あなたがたのうちに、信仰のない悪い心を抱いて、生ける神から離れてしまう者がないように注意なさい。13あなたがたのうちだれ一人、罪
まど に惑わされてかたくなにならないように、「今日」という日のうちに、日々励まし合いなさい。――“わたしたちは、最初の確信を最後までしっかりと持ち続けるな
つら もの つぎ い
ら、キリストに連なる者となるのです。――”5それについては、次のように言われています。

よう かみ こえ き
今日、あなたがたが神の声を聞くなら、

はんこう
こ反抗したときのように、

の ところ
心をかたくなにしてはならない。」

16いったいだれが、神の声を聞いたのに、反抗したのか。モーセを指導者としてエジプトを出たすべての者ではなかったか。17いったいだれに対して、神は四十年
かんいきどお つみ おか しがい あ の もの たい たい ごじぶん あんそく ちか
間憤られたのか。罪を犯して、死骸を荒れ野にさらした者に対してではなかったか。18いったいだれに対して、御自分の安息にあずからせはしないと、誓われ
したか したが もの たい かれ あんそく ふしんこう
たのか。従わなかった者に対してではなかったか。19このようにして、彼らが安息にあずかることができなかったのは、不信仰のせいであつたことがわたしたちに
わ
分かるのです。

4

かみ あんそく やくそく つづ と のこ おも もの で き
1だから、神の安息にあずかる約束がまだ続いているのに、取り残されてしまったと思われる者があなたがたのうちから出ないように、気をつけましょう。2とい
か れ どうよう ふくいん つ し か れ き ことば やく た ことば き ひとひと
のは、わたしたちにも彼ら同様に福音が告げ知らされているからです。けれども、彼らには聞いた言葉は役に立ちませんでした。その言葉が、それを聞いた人々
しんこう しんこう むす つ しん あんそく
と、信仰によって結び付かなかつたためです。3信じたわたしたちは、この安息にあずかることができるのです。

いか　　ちか
わたしは怒って誓ったように、

れ　　けつ　　あんそく
をらを決してわたしの安息に

あずからせはしない』」
い　　かみ　わざ　てんちそうぞう　ときいらい　すで　　で　　あ　　かしよ　　なのかめ　　かみ　　なのかめ
と言われたとおりです。もつとも、神の業は天地創造の時以来、既に出来上がっていたのです。⁴なぜなら、ある個所で七日目のことについて、「神は七日目に
わざ　　お　　やす　　い　　かしよ　　あらた　　かれ　　けつ　　あんそく　　い
すべての業を終えて休まれた」と言われているからです。⁵そして、この個所でも改めて、「彼らを決してわたしの安息にあずからせはしない」と言われていま
あんそく　　ひとびと　　のこ　　さき　　ふくいん　　つ　　し　　ひとびと　　ふじゅうじゅん
す。⁶そこで、この安息にあずかるはずの人々がまだ残っていることになり、また、先に福音を告げ知らされた人々が、不従順のためにあずからなかったので
ふたた　　かみ　　ひ　　きょう　　き　　とき　　のち　　すで　　いんよう
すから、⁷再び、神はある日を「今日」と決めて、かなりの時がたった後、既に引用したとおり、

よう　　かみ　　こえ　　き
今日、あなたたちが神の声を聞くなり、

を　　かたく　　なにしてはならない」
とお　　かた　　かれ　　あんそく　　あた　　かみ　　のち　　た　　ひ　　かた
とダビデを通して語られたのです。⁸もしヨシュアが彼らに安息を与えたとするのなら、神は後になって他の日について語られることはなかったでしょう。⁹それ
あんそく　　び　　やす　　かみ　　たみ　　のこ　　かみ　　あんそく　　もの　　かみ　　みわざ　　お　　やす　　じぶん　　わざ　　お　　やす
で、安息日の休みが神の民に残されているのです。¹⁰なぜなら、神の安息にあずかった者は、神が御業を終えて休まれたように、自分の業を終えて休んだから
あんそく　　どりよく　　おな　　ふじゅうじゅん　　れい　　なら　　だらく　　もの　　で
です。¹¹だから、わたしたちはこの安息にあずかるように努力しようではありませんか。さもないと、同じ不従順の例に倣って墮落する者が出るかもしれませ
ん。
かみ　　ことば　　い　　ちから　　はつき　　もろは　　つるぎ　　す　　せいしん　　れい　　かんせつ　　こつずい　　き　　はな　　さ　　とお　　ところ　　おも
¹²というのは、神の言葉は生きており、力を發揮し、どんな両刃の剣よりも鋭く、精神と霊、関節と骨髓とを切り離すほどに刺し通して、心の思いや
かんが　　み　　わ　　さ　　かみ　　みまえ　　かく　　ひぞうぶつ　　かみ　　め　　はだか　　だ
考えを見分けることができるからです。¹³更に、神の御前では隠れた被造物は一つもなく、すべてのものが神の目には裸であり、さらけ出されているのです。こ
かみ　　たい　　い　　じぶん　　もう　　の
の神に対して、わたしたちは自分のことを申し述べねばなりません。

いだい　　だいさいし
偉大な大祭司イエス
てん　　つか　　い　　だい　　だいさいし　　かみ　　こ　　あた　　おおやけ　　い　　あらわ　　しんこう
「さて、わたしたちには、もろもろの天を通過された偉大な大祭司、神の子イエスが与えられているのですから、わたしたちの公に言い表している信仰を
たも　　だいさいし　　よわ　　どうじょう　　かた　　つみ　　おか　　てん
しっかり保とうではありませんか。¹⁴この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかったが、あらゆる点において、わたしたちと
どうよう　　しれん　　あ　　あわ　　う　　めぐ　　じぎ　　たす　　だいたん　　めぐ　　ざ　　ちか
同様に試験に遭われたのです。¹⁵だから、憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜になかった助けをいただくために、大胆に恵みの座に近づくではありません
か。

5
だいさいし　　にんげん　　なか　　えら　　つみ　　そな　　もの　　ささ　　ひとびと　　かみ　　つか　　しよく　　にんめい　　だいさいし　　じぶんじしん
大祭司はすべて人間の中から選ばれ、罪のための供え物やいけにえを献げるよう、人々のために神に仕える職に任命されています。²大祭司は、自分自身
よわ　　み　　むち　　ひと　　まよ　　ひと　　おも　　よわ　　たみ　　じぶんじしん
も弱さを身にまとっているのです、無知な人、迷っている人を思いやることのできるのです。³また、その弱さのゆえに、民のためだけでなく、自分自身のために
つみ　　あがな　　そな　　もの　　ささ　　こうえい　　にんむ　　じぶん　　え　　かみ　　め
も、罪の贖いのために供え物を献げねばなりません。⁴また、この光栄ある任務を、だれも自分で得るのではなく、アロンもそうであったように、神から召され
う
て受けるのです。
おな　　だいさいし　　えいよ　　ごじぶん　　え
⁵同じようにキリストも、大祭司となる栄誉を御自分で得たのではなく、

こ
あなたはわたしの子、

きょう　　う
しは今日、あなたを産んだ」
い　　かた　　あた　　かみ　　た　　かしよ
と言われた方が、それをお与えになったのです。⁶また、神は他の個所で、

えいえん
あなたはこそ永遠に、

おな　　さいし
キゼデクと同じような祭司である」
い　　にく　　い　　はげ　　さけ　　ごえ　　なみだ　　なが　　ごじぶん　　し　　すく　　ちから　　かた　　いの　　ねが
と言われています。⁷キリストは、肉において生きておられたとき、激しい叫び声をあげ、涙を流しながら、御自分を死から救う力のある方に、祈りと願いと
おそ　　うやま　　たいど　　き　　い　　み　　こ　　おお　　くる　　じゅうじゅん　　まな　　かん
をささげ、その恐れ敬う態度のゆえに聞き入れられました。⁸キリストは御子であるにもかかわらず、多くの苦しみによって従順を学ばれました。⁹そして、完
ぜん　　もの　　ごじぶん　　じゅうじゅん　　ひとびと　　たい　　えいえん　　すく　　みなもと　　かみ　　おな　　だいさいし　　よ
全な者となられたので、御自分に従順であるすべての人々に対して、永遠の救いの源となり、¹⁰神からメルキゼデクと同じような大祭司と呼ばれたので
す。

いちにんまえ　　しゃ　　せいかつ
一人前のキリスト者の生活

「このことについては、話すことがたくさんあるのですが、あなたがたの耳が鈍くなっているので、容易に説明できません。¹²実際、あなたがたは今ではもう教師となつてはいるはずなのに、再びだれかに神の言葉の初歩を教えてもらわねばならず、また、固い食物の代わりに、乳を必要とする始末だからです。¹³乳を飲んでゐる者はだれでも、幼子ですから、義の言葉を理解できません。¹⁴固い食物は、善悪を見分ける感覚を経験によって訓練された、一人前の大人のためのものです。

6

¹⁻²だからわたしたちは、死んだ行いの悔い改め、神への信仰、種々の洗礼についての教え、手を置く儀式、死者の復活、永遠の審判などの基本的な教えを学び直すようなことはせず、キリストの教えの初歩を離れて、成熟を目指して進みましょう。³神がお許しになるなら、そうすることにしましょう。⁴一度光に照らされ、天からの賜物を味わい、聖霊にあずかるようになり、⁵神のすばらしい言葉と来るべき世の力とを体験しながら、⁶その後に墮落した者の場合には、再び悔い改めに立ち帰らせることはできません。神の子を自分の手で改めて十字架につけ、侮辱する者だからです。⁷土地は、度々その上に降る雨を吸い込んで、耕す人々に役立つ農作物をもたらすなら、神の祝福を受けます。⁸しかし、茨やあざみを生えさせると、役に立たなくなり、やがて呪われ、ついいには焼かれてしまいます。

⁹しかし、愛する人たち、こんなふうに話してはいても、わたしたちはあなたがたについて、もっと良いこと、救いにかかわることがあると確信しています。¹⁰神は不義な方ではないので、あなたがたの働きや、あなたがたが聖なる者たちに以前も今も仕えることによって、神の名のために示したあの愛をお忘れになるようなことはありません。¹¹わたしたちは、あなたがたのおのが最後まで希望を持ち続けるために、同じ熱心さを示してもらいたいと思います。¹²あなたがたが怠け者とならず、信仰と忍耐とによって、約束されたものを受け継ぐ人たちを見做う者となつてほしいのです。

神の確かな約束

¹³神は、アブラハムに約束をする際に、御自身より偉大な者にかけて誓えなかつたので、御自身にかけて誓い、「¹⁴わたしは必ずあなたを祝福し、あなたの子孫を大いに増やす」と言われました。¹⁵こうして、アブラハムは根気よく待つて、約束のものを得たのです。¹⁶そもそも人間は、自分より偉大な者にかけて誓うのであつて、その誓いはあらゆる反対論にけりをつける保証となります。¹⁷神は約束されたものを受け継ぐ人々に、御自分の計画が変わらないものであることを、いっそうはつきり示したいと考え、それを誓いによって保証なさつたのです。¹⁸それは、目指す希望を持ち続けようとして世を逃れて来たわたしたちが、二つの不変の事柄によって力強く励まされるためです。この事柄に関して、神が偽ることはありません。¹⁹わたしたちが持っているこの希望は、魂にとつて頼りになる、安定した錨のようなものであり、また、至聖所の垂れ幕の内側に入つて行くものなのです。²⁰イエスは、わたしたちのために先駆者としてそこへ入つて行き、永遠にメルキゼデクと同じような大祭司となられたのです。

メルキゼデクの祭司職

7

¹このメルキゼデクはサレムの王であり、いと高き神の祭司でしたが、王たちを滅ぼして戻つて来たアブラハムを出迎え、そして祝福しました。²アブラハムは、メルキゼデクにすべてのものの十分の一を分け与えました。メルキゼデクという名の意味は、まず「義の王」、次に「サレムの王」、つまり「平和の王」です。³彼には父もなく、母もなく、系図もなく、また、生涯の初めもなく、命の終わりもなく、神の子に似た者であつて、永遠に祭司です。⁴この人がどんなに偉大であつたかを考えてみなさい。族長であるアブラハムさえ、最上の戦利品の中から十分の一を献げたのです。⁵ところで、レビの子らの中で祭司の職を受ける者は、同じアブラハムの子孫であるにもかかわらず、彼らの兄弟である民から十分の一を取るように、律法によって命じられています。⁶それなのに、レビ族の血統以外の者が、アブラハムから十分の一を受け取つて、約束を受けている者を祝福したのです。⁷さて、下の者が上の者から祝福を受けるのは、当然なことです。⁸更には、一方では、死ぬはずの人間が十分の一を受けているのですが、他方では、生きてゐる者と証しされてゐる者が、それを受けてゐるのです。⁹そこで、言つてみれば、十分の一を受けるはずのレビですら、アブラハムを通して十分の一を納めたことになります。¹⁰なぜなら、メルキゼデクがアブラハムを出迎えたとき、レビはまだこの父の腰の中にいたからです。

¹¹ところで、もし、レビの系統の祭司制度によって、人が完全な状態に達することができたとすれば、——というのは、民はその祭司制度に基づいて律法を与えられているのですから——いったいどうして、アロンと同じような祭司ではなく、メルキゼデクと同じような別の祭司が立てられる必要があるでしょう。¹²祭司制度に変更があれば、律法にも必ず変更があるはずす。¹³このように言われている方は、だれも祭壇の奉仕に携わつたことのない他の部族に属しておられます。¹⁴というのは、わたしたちの主がユダ族出身であることは明かですが、この部族についてはモーセは、祭司に關することを何一つ述べていないからです。¹⁵このことは、メルキゼデクと同じような別の祭司が立てられたことによって、ますます明かです。¹⁶この祭司は、肉の掟の律法によらず、朽ちることのない命の力によって立てられたのです。¹⁷なぜなら、

あなたがたこそ永遠に、

メルキゼデクと同じような祭司である」
と証しされているからです。¹⁸その結果、一方では、以前の掟が、その弱く無益なために廃止されました。——¹⁹律法が何一つ完全なものになかつたからです——しかし、他方では、もっと優れた希望がもたらされました。わたしたちは、この希望によって神に近づくのです。

また、これは誓いによらないで 行 われたではありません。レビの系統の祭司たちは、誓いによらないで祭司になっているのですが、²¹この方は、誓いによつて祭司となられたのです。神はこの方に対してこう言われました。

「²²はこう誓われ、

「²³御 心 を変えられることはない。

「²⁴なたこそ、永遠に祭司である。』」

²⁵このようにして、イエスはいつそう優れた契約の保証 となられたのです。²⁶また、レビの系統の祭司たちの場合には、死というものがあるので、務めをいつまでも続けることができず、多くの人たちが祭司に任命されました。²⁷しかし、イエスは永遠に生きているので、変わることもない祭司 職 を持つておられるのです。²⁸それでまた、この方は常に生きていて、人々のために執り成しておられるので、御自分を通して神に近づく人たちを、完全に救うことがおできになります。

²⁹このように聖であり、罪なく、汚れなく、罪人から離され、もろもろの天よりも高くされている大祭司こそ、わたしたちにとって必要な方なのです。³⁰この方は、ほかの大祭司たちのように、まず自分の罪のため、次に民の罪のために毎日いけにえを献げる必要はありません。というのは、このいけにえはただ一度、御自身を献げることによって、成し遂げられたからです。³¹律法は弱さを持った人間を大祭司に任命しますが、律法の後になされた誓いの御言葉は、永遠に完全な者とされておられる御子を大祭司としたのです。

「³²あた 新 しい、優れた約束の大祭司

³³今述べていることの要点は、わたしたちにはこのような大祭司が与えられていて、天におられる大いなる方の 玉 座の右の座に着き、³⁴人間ではなく 主がお建てになった聖所また真の幕屋で、仕えておられるということです。³⁵すべて大祭司は、供え物といけにえとを献げるために、任命されています。それで、この方も、何か献げる物を持つておられなければなりません。³⁶もし、地上 におられるのだとすれば、律法に従 っ て供え物を献げる祭司たちが現にいる以上、この方は決して祭司ではありえなかったでしょう。³⁷この祭司たちは、天にあるものの写しであり影であるものに仕えており、そのことは、モーセが幕屋を建てようとしたときに、お告げを受けたとおりです。神は、「見よ、山で示された型どおりに、すべてのものを作れ」と言われたのです。³⁸しかし、今、わたしたちの大祭司は、それよりはるかに優れた務めを得ておられます。更にまさった約束に基づいて制定された、更にまさった契約の 仲 介 者になられたからです。³⁹もし、あの最初の契約が欠けたところのないものであったなら、第二の契約の余地はなかったでしょう。⁴⁰事実、神はイスラエルの人々を非難して次のように言われています。

「⁴¹見よ、わたしがイスラエルの家、またユダの家と、

「⁴²しい契約を結ぶ時が来る』と、

「⁴³は言われる。

「⁴⁴は、わたしが彼らの先祖の手を取って、

「⁴⁵プトの地から 導 き出した日に、

「⁴⁶うと結んだ契約のようなものではない。

「⁴⁷はわたしの契約に 忠 実でなかったので、

「⁴⁸しも彼らを 顧 みなかった』と、

「⁴⁹は言われる。

ひ のち
れらの日の後、わたしが

いえ むす けいやく
イスラエルの家と結ぶ契約はこれである』と、

い
は言われる。

りつぼう かれ おも お
「なわち、わたしの律法を彼らの思いに置き、

こころ か
らの 心 にそれを書きつけよう。

かれ かみ
しは彼らの神となり、

たみ
うはわたしの民となる。

じぶん どうほう
はそれぞれ自分の同胞に、

じぶん きょうだい
それぞれ自分の 兄 弟に、

ゆ し い おし ひつよう
Eを知れ」と言って教える必要はなくなる。

もの おお もの いた
小さな者から大きな者に至るまで

し
うはすべて、わたしを知るようになり、

かれ ふ ぎ ゆる
しは、彼らの不義を赦し、

かれ つみ おも だ
「や彼らの罪を思い出しはしないからである。』」

かみ あたら い い さいしょ けいやく ふる せんげん とし へ ふる ま き
¹³神は「新しいもの」と言われることによって、最初の契約は古びてしまったと宣言されたのです。年を経て古びたものは、間もなく消えうせます。

ちじょう せいじょ てん せいじょ
地上の聖所と天の聖所

9

さいしょ けいやく れいはい きてい ちじょう せいじょ だい まくや もう なか しょくだい つくえ そな もの お
¹さて、最初の契約にも、礼拝の規定と地上の聖所とがありました。²すなわち、第一の幕屋が設けられ、その中には 燭 台、机、そして供え物のパンが置か
れていました。この幕屋が聖所と呼ばれるものです。³また、第二の垂れ幕の後ろには、至聖所と呼ばれる幕屋がありました。⁴そこには金の香壇と、すっかり金
でおお けいやく はこ なか はい きん つば め だ つえ けいやく せきばん はこ うえ えいこう すがた
で覆われた契約の箱とがあって、この中には、マンナの入っている金の壺、芽を出したアロンの杖、契約の石板があり、⁵また、箱の上では、栄光の姿のケ
つくな ざ おお いま かた
ルビムが 償いの座を覆っていました。こういうことについては、今はいちいち語ることはできません。

いじょう もう さいし れいはい おこな だい まくや はい だい まくや ねん ど だいさいし
⁶以上のものがこのように設けられると、祭司たちは礼拝を行うために、いつも第一の幕屋に入ります。⁷しかし、第二の幕屋には年に一度、大祭司だけが
はい じぶんじしん たみ かしつ ささ ち かなら たずさ い せいれい だい まくや そんぞく せい
入りますが、自分自身のためと民の過失のために献げる血を、必ず携えて行きます。⁸このことによって聖霊は、第一の幕屋がなお存続しているかぎり、聖
じょ みち ひら しめ まくや いま とし ひ ゆ そな もの ささ れいはい もの
所への道はまだ開かれていないことを示しておられます。⁹この幕屋とは、今という時の比喩です。すなわち、供え物といけにえが献げられても、礼拝をする者
りょうしん かんぜん た もの の もの しゅじゅ あら きよ かん かいかく とし か にく きてい
の良心を完全にすることができないのです。¹⁰これらは、ただ食べ物や飲み物や種々の洗い清めに関するもので、改革の時まで課せられている肉の規定にすぎ
ません。

すで じつげん めぐ だいさいし にんげん て つく よ
¹¹けれども、キリストは、既に実現している恵みの大祭司としておいでになったのですから、人間の手で造られたのではない、すなわち、この世のものではな
さら おお さら かんぜん まくや とお おや ぎ わか おうし ち ごじしん ち どせいじょ はい えいえん あがな な と
い、更に大きく、更に完全な幕屋を通り、¹²雄山羊と若い雄牛の血によらないで、御自身の血によって、ただ一度聖所に入って永遠の贖いを成し遂げられたの
おや ぎ おうし ち めうし はい けが もの ふ かれ せい もの み きよ えいえん
です。¹³なぜなら、もし、雄山羊と雄牛の血、また雌牛の灰が、汚れた者たちに振りかけられて、彼らを聖なる者とし、その身を清めるならば、¹⁴まして、永遠の

「¹⁵霊」によって、御自身をきずらないものとして神に献げられたキリストの血は、わたしたちの 良 心を死んだ業から清めて、生ける神を礼拝するようにさせないでしょう。

「¹⁶こうい

うわけで、キリストは 新 しい契約の 仲 介 者なのです。それは、最初の契約の下で犯された罪の 贖 いとして、キリストが死んでくださったので、召 された者たちが、既に約 束されている永 遠の財産を受け継ぐためにほかなりません。¹⁷遺 言の場合には、遺 言 者が死んだという 証 明が必要です。¹⁸遺言は人が死んで初めて有効になるのであって、遺言者が生きている 間 は効 力 がありません。¹⁹だから、最初の契約もまた、血が流されずに成立したのではありません。²⁰というのは、モーセが律法に 従 ってすべての 掟 を民 全体に告げたとき、水や緋色の羊毛やヒソブと共に若い雄牛と雄山羊の血を取って、契約の書自 体と民全体とに振りかけ、²¹「これは、神があなたがたに対して定められた契約の血である」と言ったからです。²²また彼は、幕屋と礼拝のために用いるあらゆる器具にも同様に血を振りかけました。²³こうして、ほとんどすべてのものが、律法に 従 って血で清められており、血を流すことなしには罪の赦しはありえないのです。

「²⁴このように、天にあるものの写しは、これらのものによって清められねばならないのですが、天にあるもの自体は、これらよりもまさったいけにえによって、清められねばなりません。²⁵なぜならキリストは、まことのものの写しにすぎない、人間の手で造られた聖所ではなく、天そのものに入り、今やわたしたちのために神の御前に 現 れてくださったからです。²⁶また、キリストがそうなされたのは、大祭司が年ごとに自分のものでない血を 携 えて聖所に入るように、度々御自身をお献げになるためではありません。²⁷もしそうだとすれば、天地創造の時から度々 苦しまねばならなかったはずで

す。ところが実際は、世の終わりにただ一度、御自身をいけにえとして 献 げて罪を取り去るために、現 れてくださいました。²⁸また、人間にはただ一度死ぬことと、その後

に裁きを受けることが定まっ

ているように、²⁹キリストも、多くの人の罪を負うためにただ一度身をお献げられた後、二度目には、罪を負うためではなく、御自分を待望している人たちに、救いをもたらすために 現 れてくださるのです。

10

「¹いったい、律法には、やがて来る良いことの影があるばかりで、そのものの実 体はありません。 従 って、律法は年ごとに絶えず献げられる同じいけにえによつて、神に近づく人たちを完全な者にすることはできません。²もしできたとするなら、礼 拝する者たちは一度清められた者として、もはや罪の自覚がなくなるはずですから、いけにえを献げることは 中 止されたはずではありませんか。³ところが実際は、これらのいけにえによって年ごとに罪の記憶がよみがえって来るのです。⁴雄牛や雄山羊の血は、罪を取り除くことができないからです。⁵それで、キリストは世に來られたときに、次のように言われたのです。

「あなたは、いけにえや献げ物を望まず、

ろ、わたしのために

からだ そな 体 を備えてくださいました。

「⁶よ、焼き尽くす献げ物や、焼き尽くす献げ物、罪を 贖 うためのいけにえ、つまり律法に 従 って献げられるものを望みもせず、好まれもしなかった」と言われ、⁷次いで、「御覧ください。わたしは來ました。御 心 を 行 うために」と言われています。第二のものを立てるために、最初のものを廃止されるのです。⁸この御 心 に基づいて、ただ一度イエス・キリストの 体 が献げられたことにより、わたしたちは聖なる者とされたのです。⁹すべての祭司は、毎日 礼 拝を献げるために立ち、決して罪を除くことのできない同じいけにえを、繰り返して献げます。¹⁰しかしキリストは、罪のために唯

「¹¹ここで、まず、「あなたはいけにえ、献げ物、焼き尽くす献げ物、罪を 贖 うためのいけにえ、つまり律法に 従 って献げられるものを望みもせず、好まれもしなかった」と言われ、¹²次いで、「御覧ください。わたしは來ました。御 心 を 行 うために」と言われています。第二のものを立てるために、最初のものを廃止されるのです。¹³この御 心 に基づいて、ただ一度イエス・キリストの 体 が献げられたことにより、わたしたちは聖なる者とされたのです。¹⁴すべての祭司は、毎日 礼 拝を献げるために立ち、決して罪を除くことのできない同じいけにえを、繰り返して献げます。¹⁵しかしキリストは、罪のために唯

「¹⁶ここで、まず、「あなたはいけにえ、献げ物、焼き尽くす献げ物、罪を 贖 うためのいけにえ、つまり律法に 従 って献げられるものを望みもせず、好まれもしなかった」と言われ、¹⁷次いで、「御覧ください。わたしは來ました。御 心 を 行 うために」と言われています。第二のものを立てるために、最初のものを廃止されるのです。¹⁸この御 心 に基づいて、ただ一度イエス・キリストの 体 が献げられたことにより、わたしたちは聖なる者とされたのです。¹⁹すべての祭司は、毎日 礼 拝を献げるために立ち、決して罪を除くことのできない同じいけにえを、繰り返して献げます。²⁰しかしキリストは、罪のために唯

「²¹ここで、まず、「あなたはいけにえ、献げ物、焼き尽くす献げ物、罪を 贖 うためのいけにえ、つまり律法に 従 って献げられるものを望みもせず、好まれもしなかった」と言われ、²²次いで、「御覧ください。わたしは來ました。御 心 を 行 うために」と言われています。第二のものを立てるために、最初のものを廃止されるのです。²³この御 心 に基づいて、ただ一度イエス・キリストの 体 が献げられたことにより、わたしたちは聖なる者とされたのです。²⁴すべての祭司は、毎日 礼 拝を献げるために立ち、決して罪を除くことのできない同じいけにえを、繰り返して献げます。²⁵しかしキリストは、罪のために唯

「²⁶ここで、まず、「あなたはいけにえ、献げ物、焼き尽くす献げ物、罪を 贖 うためのいけにえ、つまり律法に 従 って献げられるものを望みもせず、好まれもしなかった」と言われ、²⁷次いで、「御覧ください。わたしは來ました。御 心 を 行 うために」と言われています。第二のものを立てるために、最初のものを廃止されるのです。²⁸この御 心 に基づいて、ただ一度イエス・キリストの 体 が献げられたことにより、わたしたちは聖なる者とされたのです。²⁹すべての祭司は、毎日 礼 拝を献げるために立ち、決して罪を除くことのできない同じいけにえを、繰り返して献げます。³⁰しかしキリストは、罪のために唯

「³¹ここで、まず、「あなたはいけにえ、献げ物、焼き尽くす献げ物、罪を 贖 うためのいけにえ、つまり律法に 従 って献げられるものを望みもせず、好まれもしなかった」と言われ、³²次いで、「御覧ください。わたしは來ました。御 心 を 行 うために」と言われています。第二のものを立てるために、最初のものを廃止されるのです。³³この御 心 に基づいて、ただ一度イエス・キリストの 体 が献げられたことにより、わたしたちは聖なる者とされたのです。³⁴すべての祭司は、毎日 礼 拝を献げるために立ち、決して罪を除くことのできない同じいけにえを、繰り返して献げます。³⁵しかしキリストは、罪のために唯

「³⁶ここで、まず、「あなたはいけにえ、献げ物、焼き尽くす献げ物、罪を 贖 うためのいけにえ、つまり律法に 従 って献げられるものを望みもせず、好まれもしなかった」と言われ、³⁷次いで、「御覧ください。わたしは來ました。御 心 を 行 うために」と言われています。第二のものを立てるために、最初のものを廃止されるのです。³⁸この御 心 に基づいて、ただ一度イエス・キリストの 体 が献げられたことにより、わたしたちは聖なる者とされたのです。³⁹すべての祭司は、毎日 礼 拝を献げるために立ち、決して罪を除くことのできない同じいけにえを、繰り返して献げます。⁴⁰しかしキリストは、罪のために唯

ただ もの しんこう い
しの正しい者は信仰によって生きる。

ひるむようなことがあれば、

もの ところ かな
)者はわたしの 心 に 適合わない。」

38しかし、わたしたちは、ひるんで滅びる者ではなく、信仰によって 命 を確保する者です。

しんこう
信仰

11

しんこう のぞ ことがら かくしん み じじつ かくにん むかし ひと しんこう かみ みと
1信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。2昔の人たちは、この信仰のゆえに神に認められました。

しんこう せかい かみ ことば そうぞう したが み め み わ
3信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉によって創造され、従って見えるものは、目に見えているものからできたのではないことが分かります。

しんこう すぐ かみ ささ しんこう ただ もの しょうめい かみ かれ ささ もの みと
4信仰によって、アベルはカインより優れたいけにえを神に献げ、その信仰によって、正しい者であると証明されました。神が彼の献げ物を認められたから

です。アベルは死にましたが、信仰によってまだ語っています。5信仰によって、エノクは死を経験ないように、天に移されました。神が彼を移されたので、

み うつ まえ かみ よろこ しょうめい しんこう かみ よろこ かみ ちか
見えなくなったのです。移される前に、神に喜ばれていたことが証明されていたからです。6信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく

ものは かみ そんざい かみ ごじぶん もと もの むく かた しん ねんれい さか
者は、神が存在しておられること、また、神は御自分を求める者たちに報いてくださる方であることを、信じていなければならないからです。7信仰によって、

しんこう みる ことがら かみ つ う おそ じぶん かぞく すく はこぶね つく しんこう せかい つみ さだ
ノアはまだ見ていない事柄について神のお告げを受けたとき、恐れかしこみながら、自分の家族を救うために箱舟を造り、その信仰によって世界を罪に定め、

また信仰に基づく義を受け継ぐ者となりました。

しんこう もと ぎ う つ もの
8信仰によって、アブラハムは、自分が財産として受け継ぐことになる土地に出て行くように召し出されると、これに服従し、行き先も知らずに出発したので

す。9信仰によって、アブラハムは他国に宿るようにして約束の地に住み、同じ約束されたものを共に受け継ぐ者であるイサク、ヤコブと一緒に幕屋に住みまし

た。10アブラハムは、神が設計者であり建設者である堅固な土台を持つ都を待望していたからです。11信仰によって、不妊の女サラ自身も、年齢が盛りを

過ぎていたの子をもうける力を得ました。約束をなされた方は真実な方であると、信じていたからです。12それで、死んだも同様の一人の人から空の星のよ

うに、また海辺の数えきれない砂のように、多くの子孫が生まれたのです。

しんこう ひと みな しんこう いた し やくそく み よろこ こえ じぶん ちじょう もの
13この人たちは皆、信仰を抱いて死にました。約束されたものを手に入れませんでした。はるかにそれを見て喜びの声をあげ、自分たちが地上ではよ者

であり、仮住まいの者であることを公に言い表したのです。14このように言う人たちは、自分が故郷を探し求めていることを明らかに表しているの

です。15もし出て来た土地のことを思っていたのなら、戻るのは良い機会もあったかもしれません。16ところが実際は、彼らは更にまされた故郷、すなわち天の故

郷を熱望していたのです。だから、神は彼らの神と呼ばれることを恥となさいません。神は、彼らのために都を準備されていたからです。

しんこう しれん う ささ やくそく う もの ひと ご ささ ひと ご
17信仰によって、アブラハムは、試練を受けたとき、イサクを献げました。つまり、約束を受けていた者が、独り子を献げようとしたのです。18この独り子につ

いては、「イサクから生まれる者が、あなたの子孫と呼ばれる」と言われていました。19アブラハムは、神が人を死者の中から生き返らせることもおできになると

信じたのです。それで彼は、イサクを返してもらいましたが、それは死者の中から戻してもらったも同然です。20信仰によって、イサクは、将来のことについて

も、ヤコブとエサウのために祝福を祈りました。21信仰によって、ヤコブは死に臨んで、ヨセフの息子たちの一人一人のために祝福を祈り、杖の先に寄りか

かって神を礼拝しました。22信仰によって、ヨセフは臨終のとき、イスラエルの子らの脱出について語り、自分の遺骨について指示を与えました。

23信仰によって、モーセは生まれてから三か月間、両親によって隠されました。その子の美しさを見、王の命令を恐れなかったからです。24信仰によって、

モーセは成人したとき、ファラオの王女の子と呼ばれることを拒んで、25はかない罪の楽しみにふけるよりは、神の民と共に虐待される方を選び、26キリストの

ゆえに受けるあざけりをエジプトの財宝よりまさる富と考えました。与えられる報いに目を向けていたからです。27信仰によって、モーセは王の怒りを恐れず、

エジプトを立ち去りました。目に見えない方を見ているようにして、耐え忍んでいたからです。28信仰によって、モーセは滅ぼす者が長子たちに手を下すことがな

いように、超越の食事をし、小羊の血を振りかけました。29信仰によって、人々はまるで陸地を通るように紅海を渡りました。同じように渡ろうとしたエジ

プト人たちは、おぼれて死にました。30信仰によって、エリコの城壁は、人々が周りを七日間回った後、崩れ落ちました。31信仰によって、娼婦ラハブは、

様子を探りに来た者たちを穏やかに迎え入れたために、不従順な者たちと一緒に殺されなくて済みました。

32これ以上、何を話そう。もしギデオン、バラク、サムソン、エフタ、ダビデ、サムエル、また預言者たちのことを語るなら、時間が足りないでしょう。33信仰

によって、この人たちは国々を征服し、正義を行い、約束されたものを手に入れ、獅子の口をふさぎ、34燃え盛る火を消し、剣の刃を逃れ、弱かったのに強

い者とされ、戦いの勇者となり、敵軍を敗走させました。35女たちは、死んだ身内を生き返らせてもらいました。他の人たちは、更にまされたよみがえりに

達するために、釈放を拒み、拷問にかけられました。36また、他の人たちはあざけられ、鞭打たれ、鎖につながれ、投獄されるという目に遭いました。37彼ら

は石で打ち殺され、のこぎりで引かれ、剣で切り殺され、羊の皮や山羊の皮を着て放浪し、暮らしに事欠き、苦しめられ、虐待され、38荒野、山、岩穴

、地の割れ目をさまよい歩きました。世は彼らにふさわしくなかったのです。

39ところで、この人たちはすべて、その信仰のゆえに神に認められながらも、約束されたものを手に入れませんでした。40神は、わたしたちのために、更にま

されたものを計画してくださったので、わたしたちを除いては、彼らは完全な状態に達しなかったのです。

しゆ たんれん
主による鍛錬

12

「こういうわけで、わたしたちもまた、このようにおびたしい証人の群れに囲まれている以上、すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか、²信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、御自身の前にある喜びを捨て、恥をもいとわないで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになったのです。³あなたがたが、氣力を失い疲れ果ててしまわないように、御自分に対する罪人たちのこのような反抗を忍耐された方のことを、よく考えなさい。

⁴あなたがたはまだ、罪と戦って血を流すまで抵抗したことはありません。⁵また、子供たちに対するようにあなたがたに話されている次の勧告を忘れていません。

「が子よ、主の鍛錬を軽んじてはいけない。

「から懲らしめられても、

「力を落としてはいけない。

「なら、主は愛する者を鍛え、

「:して受け入れる者を皆、

「鞭打たれるからである。」

⁷あなたがたは、これを鍛錬として忍耐しなさい。神は、あなたがたを子として取り扱っておられます。いったい、父から鍛えられない子があるでしょうか。⁸もしだれもが受ける鍛錬を受けていないとすれば、それこそ、あなたがたは庶子であって、実の子ではありません。⁹更にまた、わたしたちには、鍛えてくれる肉の父があり、その父を尊敬していました。それなら、なおさら、霊の父に服従して生きるのが当然ではないでしょうか。¹⁰肉の父はしばらくの間、自分の思うままに鍛えてくれましたが、霊の父はわたしたちの益となるように、御自分の神聖にあずからせる目的でわたしたちを鍛えられるのです。¹¹「およそ鍛錬というものは、当座は喜ばしいものではなく、悲しいものと思われるのですが、後になるとそれで鍛え上げられた人々に、義という平和に満ちた実を結ばせるのです。

¹²だから、萎えた手と弱くなったひざをまっすぐにしなさい。¹³また、足の不自由な人が踏み外すことなく、むしろいやされるように、自分の足でまっすぐな道を歩きなさい。

「キリスト者にふさわしい生活の勧告

¹⁴「すべての人との平和を、また聖なる生活を追い求めなさい。聖なる生活を抜きにして、だれも主を見ることはできません。¹⁵神の恵みから除かれることのないように、また、苦い根が現れてあなたがたを悩まし、それによって多くの人が汚れることのないように、気をつけなさい。¹⁶また、だれであれ、ただ一杯の食物のために長子の権利を譲り渡したエサウのように、みだらな者や俗悪な者とならないよう気をつけるべきです。¹⁷あなたがたも知っているとおり、エサウは後になって祝福を受け継ぎたいと願ったが、拒絶されたからです。涙を流して求めたけれども、事態を変えてもらうことができなかつたのです。

¹⁸⁻¹⁹あなたがたは手で触れることができるものや、燃える火、黒雲、暗闇、暴風、ラッパの音、更に、聞いた人々がこれ以上語ってもらいたくないと願ったような言葉の声に、近づいたではありません。²⁰彼らは、「たとえ獣でも、山に触れれば、石を投げつけて殺さなければならない」という命令に耐えられなかつたのです。²¹また、その様子があまりにも恐ろしいものだったので、モーセすら、「わたしはおびえ、震えている」と言っただけです。²²しかし、あなたがたが近づいたのは、シオンの山、生ける神の都、天のエルサレム、無数の天使たちの祝いの集まり、²³天に登録されている長子たちの集会、すべての人の審判者である神、完全なものとされた正しい人たちの霊、²⁴新しい契約の仲介者イエス、そして、アベルの血よりも立派に語る注がれた血です。

²⁵あなたがたは、語っている方を拒むことのないように気をつけなさい。もし、地上で神の御旨を告げる人を拒む者たちが、罰を逃れられなかつたとするなら、天から御旨を告げる方に背を向けるわたしたちは、なおさらそうではありませんか。²⁶あのときは、その御声が地を揺り動かしましたが、今は次のように約束しておられます。「わたしはもう一度、地だけではなく天をも揺り動かそう。」²⁷この「もう一度」は、揺り動かされないものが存続するために、揺り動かされるものが、造られたものとして取り除かれることを示しています。²⁸このように、わたしたちは揺り動かされることのない御国を受けているのですから、感謝しよう。感謝の念をもって、畏れ敬いながら、神に喜ばれるように仕えていこう。²⁹実に、わたしたちの神は、焼き尽くす火です。

「神に喜ばれる奉仕

13

「兄弟としていつも愛し合いなさい。²旅人をもてなすことを忘れてはいけません。そうすることで、ある人たちは、気づかずに天使たちをもてなしました。³自分も一緒に捕らわれているつもりで、牢に捕らわれている人たちを思いやり、また、自分も体を持って生きているのですから、虐待されている人たちのことを思

いやりなさい。⁴結婚はすべての人に 尊 ばれるべきであり、夫婦の関 係は汚してはなりません。神は、みだらな者や姦 淫する者を裁かれるのです。⁵金 銭に 執 着 しない生活をし、今持っているもので満 足しなさい。神御自身、「わたしは、決してあなたから離れず、決してあなたを置き去りにはしない」と言われまし た。⁶だから、わたしたちは、はばからずに次のように言うことができます。

Eはわたしの助 け手。

Fは恐 れない。

まわたしに何ができるだろう。」
⁷あなたがたに神の言葉 を語 った指 導 者たちのことを、思 い出 しなさい。彼らの 生 涯の終 わりをし っ かり見 て、その信 仰を見 倣 いなさい。⁸イエス・キリスト は、きのうも 今日も、また永 遠に 変 わることのない方 です。⁹いろいろ異 なった教 えに迷 わされては な りません。食 べ物ではなく、恵 みによ っ て 心 が強 められる のはよいこと です。食 物 の規 定 に 従 っ て生 活 した者 は、益 を受 け ませんでし た。¹⁰わたしたちには一 つの祭 壇 があります。幕 屋 に仕 えてい る人 たちは、それか ら食 べ物を取 っ て食 べる権 利 があり ません。¹¹な ぜなら、罪 を 贖 うた めの動 物 の血 は、大 祭 司 によ っ て聖 所 に運 び入 れられま す が、そ の 体 は 宿 営 の外 で焼 か れるから です。¹²それ で、イエスも また、御 自 分 の血 で民 を聖 なる者 とす るた めに、門 の外 で苦 難 に遭 われた ので す。¹³だから、わたしたちは、イエスが 受 けられた 辱 めを担 い、宿 営 の外 に出 て、そのみ もとに 赴 こうでは あり せんか。¹⁴わたしたちはこの地 上 に永 続 する 都 を持 っ てお らず、来 るべき 都 を探 し求 めてい るので す。¹⁵だから、イエスを通 じ て賛 美 のい けにえ、すなわ ち御 名 をた たえ る 唇 の実 を、絶 え ず神 に献 げま しょう。¹⁶善 い 行 いと 施 しとを忘 れないでく ださい。このようない けにえこそ、神はお 喜 びに な ります。
¹⁷指 導 者 たちの言 うこ とを聞 き入 れ、服 従 しなさい。この人 たちは、神 に申 し述 べる者 とし て、あな がたの 魂 のた めに 心 を配 っ てい ます。彼ら を嘆 か せ ず、喜 んで ぞうす るよ うにさ せなさい。そう でない と、あな がたに 益 と な り せん。
¹⁸わたしたちのた めに 祈 っ てく だ さい。わたしたちは、明 らかな 良 心 を持 っ てい ると確 信 し てお り、すべ てのこ とにお いて、立 派 にふ るま いたい と 思 っ てい ます。¹⁹特 にお 願 い します。どうか、わ た し があな がたの と ころへ早 く 帰 れるよ うに、祈 っ てく だ さい。

²⁰永 遠の契 約 の血 による 羊 の大 牧 者、わたしたちの主 イエスを、死 者の中 から引 き上 げられた 平 和の神 が、²¹御 心 に 適 うこ とをイエス・キリストによ っ て わ たし たち にし てく だ さ り、御 心 を 行 うた めに、すべ ての良 いも のを あな がたに 備 えてく だ さ るよ うに。栄 光 が世 々 限 りなくキリストに あり ますよ うに、アーメ ン。
²²兄 弟 たち、どうか、以 上 のよ うな 勧 めの言 葉 を受 け入 れてく だ さい、実 際、わ た し は手 短 に書 いた ので すから。²³わたしたちの 兄 弟 テモテ が 釈 放 され た こ とを、お 知 ら せ します。もし彼 が早 く 来 れば、一 緒 にわ た し はあな がたに 会 えるで しょ う。
²⁴あな がたのすべ ての指 導 者 たち、またすべ ての聖 なる者 たちによ る じ く。イタリ ア 出 身 の人 たち が、あな がたによ る じ くと言 っ てい ます。²⁵恵 みがあな がた一 同 と 共 にあ るよ うに。

ヤコブの手紙

[1章](#) [2章](#) [3章](#) [4章](#) [5章](#)

[【戻る】](#)

てがみ
ヤコブの手紙

あいさつ
挨拶

1

かみ しゅ しもべ りさん ぶぞく ひと あいさつ
「神と主イエス・キリストの 僕 であるヤコブが、離散している十二部族の人たちに挨拶いたします。

しんこう ちえ
信仰と知恵

きょうだい しれん で あ うえ よろこ おも しんこう ため にんたい しょう し
「わたしの 兄 弟たち、いろいろな試練に出会うときは、この上ない 喜 びと思いなさい。³信仰が試されることで忍耐が 生 じると、あなたがたは知っていま
す。⁴あくまでも忍耐しなさい。そうすれば、完全で申し分なく、何一つ欠けたところのない人になります。⁵あなたがたの中で知恵の欠けている人がいれば、だ
れにでも惜しみなくとがめだてしないでお与えになる神に願いなさい。そうすれば、与えられます。⁶いささかも 疑 わず、信仰をもつて願いなさい。疑 う者は、
かぜ ふ ゆ うご うみ なみ に ひと しゅ なに おも ころろ さだ い かたげんたい あんてい か ひと
風に吹かれて揺れ動く 海の波に似ています。⁷そういう人は、主から何かいただけると 思 ってはなりません。⁸ 心 が定まらず、生き方全体に安定を欠く 人です。

まず もの と もの
貧しい者と富んでいる者

きょうだい じぶん たか ほこ おも と もの じぶん ひく ほこ おも と もの くさばな
⁹貧しい 兄 弟は、自分が高められることを 誇 りに思いなさい。¹⁰また、富んでいる者は、自分が低くされることを 誇 りに思いなさい。富んでいる者は草花のよ
うに滅び去るからです。¹¹日が昇り熱風が吹きつけると、草は枯れ、花は散り、その 美 しさは失せてしまいます。同じように、富んでいる者も、人生の半ばで消
えうせるのです。

しれん ゆうわく
試練と誘惑

しれん た の ひと さいわ ひと てきかくしや みと かみ あい ひとびと やくそく いのち かんむり ゆうわく あ
「試練を耐え忍ぶ人は 幸 いです。その人は適格者と認められ、神を愛する人々に約束された 命 の 冠 をいただくからです。¹³誘惑に遭うとき、だれも、
かみ ゆうわく い かみ あく ゆうわく う かた ご じぶん ひと ゆうわく
「神に誘惑されている」と言っはなりません。神は、悪の誘惑を受けるような方ではなく、また、御自分でも人を誘惑したりなさらないからです。¹⁴むしろ、
ひと じぶん じしん よくぼう ひ そそのか ゆうわく おちい よくぼう つみ う つみ じゆく し う
人はそれぞれ、自分自身の欲望に引かれ、 唆 されて、誘惑に 陥 るのです。¹⁵そして、欲望ははらんで罪を生み、罪が 熟 して死を生みます。
あい きょうだい おも ちが よ おく もの かんぜん たまもの うえ ひかり みなもと おんちち く おんちち
¹⁶わたしの愛する 兄 弟たち、思い違いをしてはいけません。¹⁷良い贈り物、完全な賜物はみな、上から、光 の 源 である御父から来るのです。御父には、
うつ か てんたい うご しょう がぜ おんちち みころろ しんり ことば う
移り変わりも、天体の動きにつれて 生 ずる陰もあります。¹⁸御父は、御 心 のままに、真理の言葉によってわたしたちを生んでくださいました。それは、わた
つく はつほ
したちを、いわば造られたものの初穂となるためです。

かみ ことば き じっせん
神の言葉を聞いて実践する

あい きょうだい き はや はな おそ おこ おそ ひと いか かみ ぎ じつ
¹⁹わたしの愛する 兄 弟たち、よくわきまえていなさい。だれでも、聞くのに早く、話すのに遅く、また怒るのに遅いようにしなさい。²⁰人の怒りは神の義を 実
げん けが あく すなお す さ ころろ う つ みことば う い みことば
現しないからです。²¹だから、あらゆる汚れやあふれるほどの悪を素直に捨て去り、 心 に植え付けられた御言葉を受け入れなさい。この御言葉は、あなたがたの
たましい すく
魂 を救うことができます。
みことば おこな ひと じぶん あざむ き お もの みことば き おこな もの ひと う
²²御言葉を行 う人になりなさい。自分を 欺 いて、聞くだけで終わる者になってはいけません。²³御言葉を聞くだけで行 わない者がいれば、その人は生まれつ
かお かがみ うつ なが ひと に かがみ うつ じぶん すがた なが た さ わす
きの顔を 鏡 に映して眺める人に似ています。²⁴ 鏡 に映った自分の 姿 を眺めても、立ち去ると、それがどのようであつたか、すぐに忘れてしまいます。²⁵しか
じゆう かんぜん りつぼう いっしん み まも ひと き わす ひと おこな ひと ひと おこな しあわ
し、自由をもたらず完全な律法を一心に見つめ、これを守る人は、聞いて忘れてしまう人ではなく、行 う人です。このような人は、その 行 いによって 幸 せ
になります。
じぶん しんじんぶか もの おも した せい じぶん ころろ あざむ ひと しんじん むい み こま
²⁶自分は信心深い者だと思っても、舌を制することができず、自分の 心 を 欺 くならば、そのような人の信心は無意味です。²⁷みなしごや、やもめが困ってい
せわ せわ よ けが そ じぶん まも ちち かみ みまえ きよ けが しんじん おか
るときに世話をし、世の汚れに染まらないように自分を守ること、これこそ父である神の御前に清く汚れない信心です。

ひと わ へだ
人を分け隔てしてはならない

2

きょうだい えいこう み しゅ しん ひと わ へだ あつ きん ゆびわ
「わたしの 兄 弟たち、栄光に満ちた、わたしたちの主イエス・キリストを信じながら、人を分け隔てしてはなりません。²あなたがたの集まりに、金の指輪をはめ
りつば み ひと はい き きたな ふくそう まず ひと はい く りつば み ひと とくべつ め と
た立派な身なりの人が入って来、また、汚 らしい服装の貧しい人も入って来るとします。³その立派な身なりの人に 特別に目を留めて、「あなたは、こちらの
せき か い まず ひと た あし すわ い じぶん
席にお掛けください」と言い、貧しい人には、「あなたは、そこに立っているか、わたしの足もとに座るかしていなさい」と言うなら、あなたがたは、自分たちの
なか きべつ あやま かんが もと はんだん くだ
中で差別をし、誤 った考 えに基づいて判断を下したことになるではありませんか。

あい きょうだい き かみ よ まず ひと えら しんこう と ごじしん あい もの やくそく くに う つ もの
⁴わたしの愛する 兄 弟たち、よく聞きなさい。神は世の貧しい人たちをあえて選んで、信仰に富ませ、御自身を愛する者に約束された国を、受け継ぐ者とな
さったではありませんか。⁵だが、あなたがたは、貧しい人を 辱 めた。富んでいる者たちこそ、あなたがたをひどい目に遭わせ、裁判所へ引つ張って行くではあ
かれ あた どうと な ぼうとく せいしょ したが りんじん じぶん
りませんか。⁷また彼らこそ、あなたがたに与えられたあの 尊 い名を、冒 瀆しているではありませんか。⁸もしあなたがたが、聖書に 従 って、「隣人を自分のよう
あい もつと とうと りつぼう じっこう けっこう ひと わ へだ つみ おか りつ
に愛しなさい」という 最 も 尊 い律法を実行しているのなら、それは結構なことです。⁹しかし、人を分け隔てするなら、あなたがたは罪を犯すことになり、律
ぼう いはんしゃ だんてい りつぼうぜんたい まも てん けん とうざい かんいん
法によって違犯者と断定されます。¹⁰律法全体を守ったとしても、一つの点でおちどがあるなら、すべての点について有罪となるからです。¹¹「姦淫するな」と
い かた ころ い かんいん ひとごろ りつぼう いはんしゃ じゆう りつぼう
言われた方は、「殺すな」とも言われました。そこで、たとえ姦淫はしなくても、人殺しをすれば、あなたは律法の違犯者になるのです。¹²自由をもたらず律法

によっていずれは裁かれる者として、語り、またふるまいなさい。¹³ 人に憐れみをかけない者には、憐れみのない裁きが下されます。憐れみは裁きに打ち勝つのです。

おこな か しんこう し
行 いを欠く信仰は死んだもの

「わたしの 兄 弟たち、自分は信仰を持っていると言う者がいても、行 いが 伴 わなければ、何の役に立つでしょうか。そのような信仰が、彼を救うことができようか。¹⁵もし、兄 弟あるいは姉妹が、着る物もなく、その日の食べ物にも事欠いているとき、¹⁶あなたがたのだれかが、彼らに、「安心して行きなさい。温 まりなさい。満腹するまで食べなさい」と言うだけで、体 に必要なものを何一つ与えないなら、何の役に立つでしょう。¹⁷信仰もこれと同じです。行 いが 伴 わないなら、信仰はそれだけでは死んだものです。

¹⁸しかし、「あなたには信仰があり、わたしには 行 いがある」と言う人がいるかもしれません。行 いの 伴 わないあなたの信仰を見せなさい。そうすれば、わたしは 行 いによって、自分の信仰を見せましょう。¹⁹あなたは「神は唯一だ」と信じている。結構なことだ。悪霊どももそう信じて、おののいています。²⁰ああ、愚かな者よ、行 いの 伴 わない信仰が役に立たない、ということを知りたいのか。²¹神がわたしたちの父アブラハムを義とされたのは、息子のイサクを祭壇の上に献げるという 行 いによってではなかったですか。²²アブラハムの信仰がその 行 いと共に 働 き、信仰が 行 いによって完成されたことが、これで分かるでしょう。²³「アブラハムは神を信じた。それが彼の義と認められた」という聖書の言葉が実現し、彼は神の友と呼ばれたのです。²⁴これであなたがたも分かるように、人は 行 いによって義とされるのであって、信仰だけによるものではありません。²⁵同様に、娼 婦ラハブも、あの使いの者たちを家に迎え入れ、別の道から送り出してやるという 行 いによって、義とされたではありませんか。²⁶魂 のない肉体が死んだものであるように、行 いを 伴 わない信仰は死んだものです。

した せいぎよ
舌を制御する

「わたしの 兄 弟たち、あなたがたのうち多くの人が 教師 になってはなりません。わたしたち 教師がほかの人たちより厳しい裁きを受けることになる、あなたがたは知っています。²わたしたちは皆、度々 過 ちを犯すからです。言葉で 過 ちを犯さないなら、それは自分の全身を制御できる完全な人です。³馬を御するには、口にくつわをはめれば、その 体 全体を意のままに動かすことができます。⁴また、船を御覧なさい。あのように大きくて、強 風に吹きまわられている船も、舵取りは、ごく小さい舵で意のままに 操 ります。⁵同じように、舌は小さな器官ですが、大言 壮語するのです。⁶御覧なさい。どんなに小さな火でも大きい森を燃やしてしまう。⁷舌は火です。舌は「不義の世界」です。わたしたちの 体 の器官の一つで、全身を汚し、移り変わる人生を焼き尽くし、自 らも地獄の火によって燃やされます。⁸あらゆる種類の 獣 や鳥、また這うものや海の生き物は、人間によって制御されていますし、これまでも制御されてきました。⁹しかし、舌を制御できる人は一人もいません。舌は、疲れを知らない悪で、死をもたらず毒に満ちています。¹⁰わたしたちは舌で、父である主を賛美し、また、舌で、神にかたどって造られた人間を呪います。¹¹同じ口から賛美と呪いが出て来るのです。わたしの 兄 弟たち、このようなことがあってはなりません。¹²泉 の同じ穴から、甘い水と苦い水がわき出るでしょうか。¹³わたしの 兄 弟たち、いちじくの木がオリーブの実を結び、ぶどうの木がいちじくの実を結ぶことができるでしょうか。塩水が甘い水を作ることもできません。

うえ ちえ
上からの知恵

「あなたがたの中で、知恵があり分別があるのはだれか。その人は、知恵にふさわしい 柔 和な 行 いを、立派な生き方によって示しなさい。¹⁴しかし、あなたがたは、内心ねたみ深く利己的であるなら、自慢したり、真理に逆らうそをついたりしてはなりません。¹⁵そのような知恵は、上から出たものではなく、地上のもの、この世のもの、悪魔から出たものです。¹⁶ねたみや利己心のあるところには、混乱やあらゆる悪い 行 いがあるからです。¹⁷上から出た知恵は、何よりもまず、純 真で、更に、温和で、優しく、従 順 なものです。憐れみと良い実に満ちています。偏見はなく、偽善的でもありません。¹⁸義の実は、平和を実現する人たちによって、平和のうちに蒔かれるのです。

かみ ふくじゅう
神に服従しなさい

「何が原因で、あなたがたの 間 に 戦 いや 争 いが起こるのですか。あなたがた自身の内部で 争 い合う欲望が、その原因ではありませんか。²あなたがたは、欲しても得られず、人を殺します。また、熱望しても手に入れることができず、争 ったり 戦 ったりします。得られないのは、願ひ求めないからで、³願ひ求めても、与えられないのは、自分の楽しみのために使おうと、間違った動機で願ひ求めるからです。⁴神に背いた者たち、世の友となることが、神の敵となることだとは知らないのか。世の友になりたいと願う人はだれでも、神の敵になるのです。⁵それとも、聖書に次のように書かれているのは意味がないと思うのですか。」「神はわたしたちの内に住ませた霊を、ねたむほどに深く 愛しておられ、⁶もっと豊かな恵みをくださる。」それで、こう書かれています。

み こうまん もの てき
#は、高慢な者を敵とし、

「遜な者には恵みをお与えになる。」
「だから、神に服 従 し、悪魔に反 抗しなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げて行きます。⁸神に近づきなさい。そうすれば、神は近づいてくださいます。

す。罪人たち、手を清めなさい。心 の定まらない者たち、心 を清めなさい。°悲しみ、嘆き、泣きなさい。笑いを悲しみに変え、喜 びを愁いに変えなさい。°

主の前にへりくだりなさい。そうすれば、主があなたがたを高めてくださいます。

°兄 弟を裁くな

°兄 弟たち、悪口を言い合ってはなりません。兄 弟の悪口を言ったり、自分の兄 弟を裁いたりする者は、律法の悪口を言い、律法を裁くことになりま

す。もし律法を裁くなら、律法の実践者ではなくて、裁き手です。°律法を定め、裁きを行 う方は、おひとりだけです。この方が、救うことも滅ぼすことも

おできになるのです。隣人を裁くあなたは、いったい何者なのですか。

°よく聞きなさい。「今日か明日、これこれの町へ行って一年間滞在し、商 売をして金もうけをしよう」と言う人たち、°あなたがたには自分の命 がどうな

るか、明日のことは分からないのです。あなたがたは、わずかの間 現 れて、やがて消えて行く霧にすぎません。°むしろ、あなたがたは、「主の御心 であれば、

生き永らえて、あのことやこのことをしよう」と言うべきです。°ところが、実際は、誇り高ぶっています。そのような誇りはすべて、悪いことです。°人がなすべ

き善を知りながら、それを 行 わないのは、その人にとって罪です。

°富んでいる人たちに対して

°富んでいる人たち、よく聞きなさい。自分にふりかかってくる不幸を思つて、泣きわめきなさい。°あなたがたの富は朽ち果て、衣服には虫が付き、°金銀もさびて

しまいます。このさびこそが、あなたがたの罪の証 拠となり、あなたがたの肉を火のように食い尽くすでしょう。あなたがたは、この終わりの時のために 宝 を

蓄 えたのでした。°御覧なさい。畑を刈り入れた労働者にあなたがたが支払わなかった賃金が、叫び声をあげています。刈り入れをした人々の叫びは、万軍

の主の耳に達しました。°あなたがたは、地 上 でぜいたくに暮らして、快樂にふけり、屠られる日に備え、自分の心 を太らせ、°正しい人を罪に定めて、殺し

た。その人は、あなたがたに抵抗していません。

°忍耐と祈り

°兄 弟たち、主が来られるときまで忍耐しなさい。農夫は、秋の雨と春の雨が降るまで忍耐しながら、大地の尊 い実りを待つのです。°あなたがたも忍耐し

なさい。心 を固く保ちなさい。主が来られる時が迫っているからです。°兄 弟たち、裁きを受けないようにするためには、互いに不平を言わぬことです。裁く

方が戸口に立っておられます。°兄 弟たち、主の名によって語った預言者たちを、辛抱と忍耐の模範としなさい。°忍耐した人たちは 幸 せだと、わたしたち

は思います。あなたがたは、ヨブの忍耐について聞き、主が最後にどのようにしてくださったかを知っています。主は 慈 しみ深く、憐れみに満ちた方だからで

す。

°わたしの兄 弟たち、何よりもまず、誓いを立ててはなりません。天や地を指して、あるいは、そのほかどんな誓い方によつてであろうと。裁きを受けないよう

にするために、あなたがたは「然り」は「然り」とし、「否」は「否」としなさい。

°あなたがたの中で苦しんでいる人は、祈りなさい。喜 んでいる人は、賛美の歌をうたいなさい。°あなたがたの中で病 気の人は、教 会の長 老を招い

て、主の名によってオリーブ油を塗り、祈ってもらいなさい。°信仰に基づく祈りは、病 人を救い、主がその人を起き上がらせてくださいます。その人が罪を

犯したのであれば、主が赦してください。°だから、主にいやしていただくために、罪を告白し合い、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、大きな

力 があり、効果をもたらします。°エリヤは、わたしたちと同じような人間でしたが、雨が降らないようにと熱心に祈ったところ、三年半にわたって地 上 に雨

が降りませんでした。°しかし、再 び祈ったところ、天から雨が降り、地は実をみのらせました。

°わたしの兄 弟たち、あなたがたの中に真理から迷い出た者がいて、だれかがその人を真理へ連れ戻すならば、°罪人を迷いの道から連れ戻す人は、その罪

人の魂 を死から救い出し、多くの罪を覆うことになると、知るべきです。

[1章](#) [2章](#) [3章](#) [4章](#) [5章](#)

[【戻る】](#)

てがみ
ペトロの手紙 一

あいさつ
挨拶
1

イエス・キリストの使徒ペトロから、ポントス、ガラテヤ、カパドキア、アジア、ビティニアの各地に離散して仮住まいをしている選ばれた人たちへ。あなたがたは、父である神があらかじめ立てられた御計画に基づいて、霊によって聖なる者とされ、イエス・キリストに従い、また、その血を注ぎかけていただくために選ばれたのです。恵みと平和が、あなたがたにますます豊かに与えられるように。

いきいきとした希望

わたしたちの主イエス・キリストの父である神が、ほめたたえられますように。神は豊かな憐れみにより、わたしたちを新たに生まれさせ、死者の中からのイエス・キリストの復活によって、生き生きとした希望を与え、また、あなたがたのために天に蓄えられている、朽ちず、汚れず、しばまない財産を受け継ぐ者としてくださいました。あなたがたは、終わりの時に現されるように準備されている救いを受けるために、神の力により、信仰によって守られています。それゆえ、あなたがたは、心から喜んでいるのです。今しばらくの間、いろいろな試練に悩まねばならないかもしれませんが、あなたがたの信仰は、その試練によって本物と証明され、火で精錬されながらも朽ちるほかない金よりはるかに尊くて、イエス・キリストが現れるときには、称賛と栄光と誉れとをもたりますのです。あなたがたは、キリストを見たことがないのに愛し、今見なくても信じており、言葉では言い尽くせないすばらしい喜びに満ちあふれています。それは、あなたがたが信仰の実りとして魂の救いを受けているからです。

この救いについては、あなたがたに与えられる恵みのことをあらかじめ語った預言者たちも、探求し、注意深く調べました。預言者たちは、自分たちの内におられるキリストの霊が、キリストの苦難とそれに続く栄光についてあらかじめ証しされた際、それがだれを、あるいは、どの時期を指すのか調べたのです。彼らは、それらのことが、自分たちのためではなく、あなたがたのためであるとの啓示を受けました。それらのことは、天から遣わされた聖霊に導かれて福音をあなたがたに告知知らせた人たちが、今、あなたがたに告知らせており、天使たちも見て確かめたいと願っているものなのです。

聖なる生活をしよう

だから、いつでも心を引き締め、身を慎んで、イエス・キリストが現れるときに与えられる恵みを、ひたすら待ち望みなさい。無知であったころの欲望に引きずられることなく、従順な子となり、めだせしめられたいと願うあなたがた自身も生活のすべての面で聖なる者となりなさい。「あなたがたは聖なる者となれ。わたしは聖なる者だからである」と書いてあるからです。また、あなたがたは、人それぞれの行いに応じて公平に裁かれる方を、「父」と呼びかけているのですから、この地上に仮住まいする間、その方を畏れて生活すべきです。知ってのとおり、あなたがたが先祖伝来のむなしい生活から贖われたのは、金や銀のような朽ち果てるものにはならず、きずや汚れのない小羊のようなキリストの尊い血によるのです。キリストは、天地創造の前からあらかじめ知られていましたが、この終わりの時代に、あなたがたのために現れてくださいました。あなたがたは、キリストを死者の中から復活させて栄光をお与えになった神を、キリストによって信じています。従って、あなたがたの信仰と希望とは神にかかっているのです。

あなたがたは、真理を受け入れて、魂を清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、清い心で深く愛し合いなさい。あなたがたは、朽ちる種からではなく、朽ちない種から、すなわち、神の変わることをない生きた言葉によって新たに生まれたのです。こう言われているからです。

みなくさは皆、草のようで、

華やかさはすべて、草の花のようだ。

枯れ、

散る。

し、主の言葉は永遠に変わることがない。」

これこそ、あなたがたに福音として告知知らせた言葉なのです。

生きた石、聖なる国民

2

だから、悪意、偽り、偽善、ねたみ、悪口をみな捨て去って、生まれたばかりの乳飲み子のように、混じりけのない霊の乳を慕い求めなさい。これを飲んで成長し、救われるようになるためです。あなたがたは、主が恵み深い方だということを味わいました。この主のもとに來なさい。主は、人々からは見捨てられたのですが、神にとっては選ばれた、尊い、生きた石なのです。あなたがた自身も生きた石として用いられ、霊的な家に造り上げられるようにしなさい。そして聖なる祭司となって神に喜ばれる霊的ないけにえを、イエス・キリストを通して献げなさい。聖書にこう書いてあるからです。

よ、わたしは、選ばれた尊いかなめ石を、

ンに置く。

しを信じる者は、決して失望することはない。」
従って、この石は、信じているあなたがたには掛けがえのないものですが、信じない者たちにとっては、

えを建てる者の捨てた石、

し隅の親石となった」

り、また、

まずきの石、

げの岩」
なのです。彼らは御言葉を信じないのでつまりくのですが、実は、そうなるように以前から定められているのです。

しかし、あなたがたは、選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なる国民、神のものとなった民です。それは、あなたがたを暗闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある業を、あなたがたが広く伝えるためなのです。あなたがたは、

いつては神の民ではなかったが、

は神の民であり、

しみを受けなかったが、

は憐れみを受けている」

。

神の僕として生きよ
愛する人たち、あなたがたに勧めます。いわば旅人であり、仮住まいの身なのですから、魂に戦いを挑む肉の欲を避けなさい。また、異教徒の間で立派に生活しなさい。そうすれば、彼らはあなたがたを悪人呼ばわりしてはいても、あなたがたの立派な行いをよく見て、訪れの日に神をあがめるようになります。
主のために、すべて人間の立てた制度に従いなさい。それが、統治者としての皇帝であろうと、あるいは、悪を行う者を処罰し、善を行う者をほめるために、皇帝が派遣した総督であろうと、服従しなさい。善を行って、愚かな者たちの無知な発言を封じることが、神の御心だからです。自由な人として生活しなさい。しかし、その自由を、悪事を覆い隠す手だてとせず、神の僕として行動しなさい。すべての人を敬い、兄弟を愛し、神を畏れ、皇帝を敬いなさい。

召し使いたちへの勧め

め　つか　　こころ　　うやま　　しゅじん　　したが　　ぜんりよう　　かんだい　　しゅじん　　む　じ　ひ　　しゅじん　　ふとう　　くる　　う
¹⁸召し使いたち、心　からおそれ　敬　って主人に　従　いなさい。善　良　で寛大な主人にだけでなく、無慈悲な主人にもそうしなさい。¹⁹不当な苦しみを受けるこ
とになっても、神がそうお望みだとわきまえて苦痛を耐えるなら、それは御　心　に　適うことなのです。²⁰罪を犯して打ちたたかれ、それを耐え忍んでも、何の誉れ
になるでしょう。しかし、善を　行　って苦しみを受け、それを耐え忍ぶなら、これこそ神の御　心　に　適うことです。²¹あなたがたが召されたのはこのためです。とい
うのは、キリストもあなたがたのために苦しみを受け、その足跡に続くようにと、模範を残されたからです。

かた　　つみ　　おか
の方は、罪を犯したことがなく、

くち　　いつわ
口には　偽　りがなかった。」
かえ　　くる　　ひと　　おど　　ただ　　さば　　かた　　まか　　じゅうじ　　か　　みずか　　み
²²ののしられてもののしり返さず、苦しめられても人を脅さず、正しくお裁きになる方にお任せになりました。²⁴そして、十　字架にかかって、自　らその身にわた
したちの罪を担ってくださいました。わたしたちが、罪に対して死んで、義によって生きようになるためです。そのお受けになった傷によって、あなたがたはい
ひつじ　　い　　たましい　　ぼくしや　　かんとくしや　　かた　　もど　　き
やされました。²⁵あなたがたは　羊　のようにさまよっていましたが、今は、　魂　の牧者であり、監　督　者である方のところへ戻って来たのです。

つま　　おつと
妻と　夫
3
おな　　つま　　じぶん　　おつと　　したが　　おつと　　みことば　　しん　　ひと　　つま　　むごん　　おこな　　しんこう　　みちび
'同じように、妻たちよ、自分の　夫　に　従　いなさい。夫　が御言葉を信じない人であっても、妻の無言の　行　いによって信仰に　導　かれるようになるためです。²
かみ　　おそ　　じゅんしん　　せいかつ　　み　　よそお　　あ　　かみ　　きん　　かざ　　は　　で　　いふく　　がいめんでき
神を畏れるあなたがたの　純　真な生活を見るからです。³あなたがたの　装　いは、編んだ髪や金の飾り、あるいは派手な衣服といった外面的なものであつてはなり
にゆうわ　　きだ　　く　　かざ　　ないめんでき　　ひとがら　　よそお　　かみ　　みまえ　　か
ません。⁴むしろそれは、柔　和でしとやかな気立てという朽ちないもので飾られた、内面的な人柄であるべきです。このような　装　いこそ、神の御前でまことに価
ち　　むかし　　かみ　　のぞ　　たく　　せい　　ふじん　　よそお　　じぶん　　おつと　　したが　　しゅじん　　よ
値があるのです。⁵その　昔　、神に望みを託した聖なる婦人たちも、このように　装　って自分の　夫　に　従　いました。⁶たとえばサラは、アブラハムを主人と呼んで、
かれ　　ふくじゅう　　ぜん　　おこな　　なにごと　　おそ　　むすめ
彼に服　従　しました。あなたがたも、善を　行　い、また何事も恐れないなら、サラの　娘　となるのです。
おな　　おつと　　つま　　じぶん　　よわ　　せいかつ　　とも　　いのち　　めぐ　　とも　　う　　つ　　もの　　そんけい
⁷同じように、夫　たちよ、妻を自分よりも弱いものだとかきまえて生活を共にし、命　の恵みを共に受け継ぐ者として尊敬しなさい。そうすれば、あなたがた
いの　　さまた
の祈りが　妨　げられることはありません。

ただ　　くる
正しいことのために苦しむ
お　　みなこころ　　どうじよう　　あ　　きょうだい　　あい　　あわ　　ぶか　　けんきよ　　あく　　あく　　ぶじよく　　ぶじよく　　むく
'終わりに、皆　心　を一つに、同　情し合い、兄　弟を愛し、憐れみ深く、謙虚になりなさい。⁸悪をもって悪に、侮　辱　をもって侮　辱　に報いてはなりません。
しゅくふく　　いの　　しゅくふく　　う　　つ　　め
かえって　祝　福を祈りなさい。祝　福を受け継ぐためにあなたがたは召されたのです。

いち　　あい
を愛し、

う　　ひ　　す　　ひと
せな日々を過ごしたい人は、

せい　　あく　　い
を制して、悪を言わず、

ふる　　と　　いつわ　　かた
を閉じて、　偽　りを語らず、

とお　　ぜん　　おこな
ら遠ざかり、善を　行　い、

わ　　ねが　　お　　もと
を願って、これを追い求めよ。

め　　ただ　　もの　　そそ
目は正しい者に注がれ、

みみ　　かれ　　いの　　かたむ
り耳は彼らの祈りに　傾　けられる。

かお　　あくじ　　はたら　　もの　　たい　　む
り顔は悪事を　働　く者に対して向けられる。」

　　よ　　ねつしん　　が　い　　くわ　　ぎ　　くる　　う　　さいわ　　ひとびと　　おそ
¹³もし、善いことに熱心であるなら、だれがあなたがたに害を加えるでしょう。¹⁴しかし、義のために苦しみを受けるのであれば、幸　いです。人々を恐れたり、
こころ　　みだ　　こころ　　なか　　しゅ　　いだ　　きぼう　　せつめい　　ようきゅう　　ひと　　べんめい
心　を乱したりしてはいけません。¹⁵心　の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説　明　を要　求　する人には、いつでも弁　明　でき

そな おだ けい い ただ りょうしん べんめい よ せい
るように備えていなさい。¹⁶それも、穏やかに、敬意をもって、正しい 良 心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生
かつ もの あつこう い は い かみ み ころ ぜん おこな くる ほう あく おこな くる
活をのしる者たちは、悪口を言ったことで恥じ入るようになるのです。¹⁷神の御 心 によるのであれば、善を 行 って苦しむ方が、悪を 行 って苦しむよりはよ
い。¹⁸キリストも、罪のためにただ一度苦しめました。正しい方が、正しくない者たちのために苦しまれたのです。あなたがたを神のもとへ 導 くためです。キ
リストは、肉では死に渡されましたが、霊では生きる者とされたのです。¹⁹そして、霊においてキリストは、捕らわれていた霊たちのところへ行行って宣 教 されまし
た。²⁰この霊たちは、ノアの時代に箱舟が作られていた 間、神が忍耐して待つておられたのに 従 わなかった者です。この箱舟に乗り込んだ数人、すなわち八
にん みず なか とお すく みず まえ あらわ 〔バプテスマ〕 いま ふつかつ すく 〔バプテスマ〕
人だけが水の中を 通って救われました。²¹この水で前もって 表 された 洗礼 は、今やイエス・キリストの復活によってあなたがたをも救うのです。 洗礼
にく けが とりぞ かみ ただ りょうしん ねが もと てん のぼ かみ みぎ てんし けんい せいりよく
は、肉の汚れを取り除くことではなくて、神に正しい 良 心を願い求めることです。²²キリストは、天に上って神の右におられます。天使、また権威や勢 力
は、キリストの支配に服しているのです。

かみ めぐ よ かんりしや
神の恵みの善い管理者

4

にく くる う おな ころがま ぶそう にく くる う もの つみ た もの
キリストは肉に苦しみを お受けになったのですから、あなたがたも同じ 心 構えて武装しなさい。肉に苦しみを 受けた者は、罪とのかかわりを絶った者なので
す。²それは、もはや人間の欲望 ではなく神の御 心 に 従 って、肉における残りの 生 涯を生きるようになるためです。³かつてあなたがたは、異邦 人が好むよ
うなことを 行 い、好 色 、情 欲、泥酔、酒宴、暴飲、律法で禁じられている偶像礼 拝などにふけていたのですが、もうそれで 十 分です。⁴あの者たち
は、もはやあなたがたがそのようなひどい乱 行に加わらなくなったので、不審に思い、そしめるのです。⁵彼らは、生きている者と死んだ者とを裁こうとしておられ
る方に、申し開きをしなければなりません。⁶死んだ者にも福音が告げ知らされたのは、彼らが、人間の 見方からすれば、肉において裁かれて死んだようでも、
かみ かんけい れい い
神との関係で、霊において生きるようになるためなのです。
ばんぶつ お せま しりよぶか み つつし いの なに ころが こ あい あ あい おお つみ
⁷万物の終わりが迫っています。だから、思慮深くふるまい、身を 慎 んで、よく祈りなさい。⁸何よりもまず、心 を込めて愛し合いなさい。愛は多くの罪を
おお ふへい い あ たまもの さず かみ めぐ よ かんりしや
覆うからです。⁹不平を言わずにもてなし合いなさい。¹⁰あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その
たまもの い たが つか かた もの かみ ことば かた かた ほうし ひと かみ あた ちから おう ほうし
賜物を生かして互いに仕えなさい。¹¹語る者は、神の言葉を語るにふさわしく語りなさい。奉仕をする人は、神がお与えになった 力 に応じて奉仕しなさい。
それは、すべてのことにおいて、イエス・キリストを通して、神が栄光をお受けになるためです。栄光と 力 とが、世々限りなく神にありますように、アーメン。

しや くる う
キリスト者として苦しみを 受ける
あい ひと ころが み ひ しれん なに おも しょう おどろ あや
¹²愛する人たち、あなたがたを 試 みるために身にふりかかる火のような試練を、何か思いがけないことが 生 じたかのように、驚 き怪しんではなりません。¹³む
しろ、キリストの苦しみにあずかればあずかるほど 喜 びなさい。それは、キリストの栄光が 現 れるときにも、喜 びに満ちあふれるためです。¹⁴あなたがたはキリ
ストの名のために非難されるなら、幸 いです。栄光の霊、すなわち神の霊が、あなたがたの上にとどまってくださるからです。¹⁵あなたがたのうちだれも、人殺
し、泥棒、悪者、あるいは、他人に干 渉 する者として、苦しみを 受けることがないようにしなさい。¹⁶しかし、キリスト者として苦しみを 受けるのなら、決して
恥じてはなりません。むしろ、キリスト者の名で呼ばれることで、神をあがめなさい。¹⁷今こそ、神の家から裁きが始まる時です。わたしたちがまず裁きを受ける
のかとすれば、神の福音に 従 わない者たちの行く末は、いったい、どんなものになるだろうか。

い ひと すく
しい人がやっと救われるのなら、

んじん ひと つみぶか ひと
心な人や罪深い人はどうなるのか」
い かみ み ころが くる う ひと よ おこな つづ しんじつ そうぞうしゆ じぶん たましい
と言われているとおりです。¹⁸だから、神の御 心 によって苦しみを 受ける人は、善い 行 いをし 続 けて、真実であられる創造 主に自分の 魂 をゆだねなさい。

ちょうろう すず
長 老たちへの勧め

5

ちょうろう ひと り じゆなん しょうにん あらわ えいこう もの ちょうろう すず
さて、わたしは 長 老の一人として、また、キリストの受難の 証 人、やがて 現 れる栄光にあずかる者として、あなたがたのうちの 長 老たちに勧めます。²あ
なたがたにゆだねられている、神の 羊 の群れを牧しなさい。強 制されてではなく、神に 従 って、自 ら進んで世話をしなさい。卑しい利得のためにはなく
けんしんてき ひとびと たい けんい ふ まわ む ちはん だいぼくしや み
献身的にしなさい。³ゆだねられている人々に対して、権威を振り回してもいけません。むしろ、群れの模範になりなさい。⁴そうすれば、大牧 者がお見えになる
とき、あなたがたはしばむことのない栄冠を受けることになります。
おな わか ひと ちょうろう したが みなたが けんそん み つ
⁵同じように、若い人たち、長 老に 従 いなさい。皆互いに謙遜を身に着けなさい。なぜなら、

み こうまん もの てき
は、高慢な者を敵とし、

ん もの めぐ あた
遜な者には恵みをお与えになる」

す。
かみ ちからづよ み て もと じぶん ひく とき たか おも わずら なに かみ まか かみ
だから、神の 力 強い御手の下で自分を低くしなさい。そうすれば、かの時には高めていただけます。7 思い 煩 いは、何もかも神にお任せしなさい。神が、
あなたがたのことを 心 にかけていてくださるからです。
み つつし め さ てき あくま しし く つ さが まわ しんこう ふ
身を 慎 んで目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています。8 信仰にしっかり踏み
とどまって、悪魔に抵抗しなさい。あなたがたと信仰を同じくする 兄 弟たちも、この世で同じ苦しみ zu 遭っているのです。それはあなたがたも知っているとおり
です。10 しかし、あらゆる恵みの 源 である神、すなわち、キリスト・イエスを通してあなたがたを永遠の栄光へ招いてくださった神御自身が、しばらくの 間
苦しんだあなたがたを完全な者とし、強め、 力 づけ、揺らぐことがないようにしてくださいます。11 力 が世々限りなく神にありますように、アーメン。

むす ことば
結びの言葉
ちゆうじつ きょうだい みと みじか てがみ か かんこく かみ めぐ あか
12 わたしは、 忠 実な 兄 弟と認めているシルワノによって、あなたがたにこのように 短 く手紙を書き、勸告をし、これこそ神のまことの恵みであることを証
しました。この恵みにしっかり踏みとどまりなさい。13 共に選ばれてバビロンにいる人々と、わたしの子マルコが、よろしくと言っています。14 愛の口づけによつ
たが あいさつ か むす いちどう へいわ
て互いに挨拶を交わしなさい。キリストと結ばれているあなたがた一同に、平和があるように。

[1章](#) [2章](#) [3章](#)

[【戻る】](#)

てがみ
ペトロの手紙 二

あいさつ
挨拶
1

「イエス・キリストの 僕 であり、使徒であるシメオン・ペトロから、わたしたちの神と救い主イエス・キリストの義によって、わたしたちと同じ 尊 い信 仰を受け
た人たちへ。²神とわたしたちの主イエスを知ることによって、恵みと平和が、あなたがたにますます豊かに与えられるように。

神のすばらしい約束
³主イエスは、御自分の持つ神の 力 によって、 命 と信 心とにかかわるすべてのものを、わたしたちに与えてくださいました。それは、わたしたちを御自身の栄
光と 力 ある業とで召し出してくださいました方を認 識させることによるです。⁴この栄 光と 力 ある業とによって、わたしたちは 尊 くすばらしい約 束を与えられ
ています。それは、あなたがたがこれらによって、 情 欲に染まったこの世の退 廃を 免 れ、神の本性にあずからせていただくようになるためです。⁵だから、あな
たがたは、 力 を尽くして信 仰には徳を、徳には知識を、⁶知識には自制を、自制には忍 耐を、忍 耐には信 心を、⁷信 心には 兄 弟愛を、 兄 弟愛には愛を加
えなさい。⁸これらのものが備わり、ますます豊かになるならば、あなたがたは怠 惰で実を結ばない者とはならず、わたしたちの主イエス・キリストを知ることにな
るでしょう。⁹これらを備えていない者は、視 力 を 失 っています。近くのものしか見えず、以前の罪が清められたことを忘れてしています。¹⁰だから 兄 弟たち、召
されていること、選ばれていることを確かなものとするように、いっそう努めなさい。これらのことを実践すれば、決して罪に 陥 りません。¹¹こうして、わたした
ちの主、救い主イエス・キリストの永 遠の御国に確かに入ることができるようになります。

¹²従 って、わたしはいつも、これらのことをあなたがたに思い出させたいのです。あなたがたは既に知っているし、授 かった真理に基づいて生 活しているのです
が。¹³わたしは、自分がこの 体 を仮の宿としている 間、あなたがたにこれらのことを思い出させて、奮 起させるべきだと 考 えています。¹⁴わたしたちの主イエ
ス・キリストが示してくださったように、自分がこの仮の宿を間もなく 離れなければならないことを、わたしはよく 承 知しているからです。¹⁵自分が世を去った後
もあなたがたにこれらのことを絶えず思い出してもらうように、わたしは努めます。

キリストの栄光・預言の言葉
¹⁶わたしたちの主イエス・キリストの 力 に満ちた来 臨を知らせるのに、わたしたちは巧みな作り 話 を用いたわけではありません。わたしたちは、キリストの威
光を目撃したのです。¹⁷荘 厳な栄 光の中から、「これはわたしの愛する子。わたしの 心 に適 う者」というような声があつて、主イエスは父である神から誉 れ
と栄 光をお受けになりました。¹⁸わたしたちは、聖なる山にイエスといたとき、天から響いてきたこの声を聞いたのです。¹⁹こうして、わたしたちには、預 言の言
葉はいっそう確かなものとなっています。夜が明け、明けの 明 星 があなたがたの 心 の中に昇るときまで、暗い 所 に 輝 くともし火として、どうかこの預 言の
ことば りゆうい なに ころ え せいしよ よげん なにひと じぶんかつて かいしやく よげん
言葉に 留 意してください。²⁰何よりもまず 心 得てほしいのは、聖 書の預 言は何一つ、自分勝手に解 釈 すべきではないということです。²¹なぜなら、預 言
は、決して人間の意志に基づいて語られたのではなく、人々が聖 霊に 導 かれて神からの言葉を語ったものだからです。

にせきょうし
偽 教師についての警告

(ユダ3—13)

2

¹「かつて、民の中に偽 預 言 者がいました。同じように、あなたがたの中にも偽 教 師が 現 れるにちがひありません。彼らは、滅 びをもたらす異 端をひそかに持ち
込み、自分たちを 贖 ってくださいと主を拒否しました。自分の身に速やかな滅 びを招いており、²しかも、多くの人が彼らのみだらな楽しみを見做っています。
彼らのために真理の道はそしられるのです。³彼らは欲が深く、うそ 偽 りであなたがたを食物にします。このような者たちに対する裁きは、昔 から 怠 りな
くなされていて、彼らの滅 びも 滞 ることはありません。
⁴神は、罪を犯した天使たちを容 赦せず、暗 闇という縄で縛って地 獄に引き渡し、裁きのために閉じ込められました。⁵また、神は 昔 の人々を容 赦しない
で、不 信 心な者たちの世界に洪水を引き起こし、義を説いていたノアたち八人を保護なさったのです。⁶また、神はソドムとゴモラの町を灰にし、滅 ばし尽くして
罰し、それから後の不 信 心な者たちへの見せしめとなさいました。⁷しかし神は、不 道 徳な者たちのみだらな言 動によって悩まされていた正しい人ロトを、助け
出されました。⁸なぜなら、この正しい人は、彼らの中で生活していたとき、毎日よこしまな行 為を見聞きして正しい 心 を痛めていたからです。⁹主は、信 仰の
あつい人を試練から救い出す一方、正しくない者たちを罰し、裁きの日まで閉じ込めておくべきだと 考 えておられます。¹⁰特に、汚れた 情 欲の 赴 くままに
肉に 従 って歩み、権 威を 侮 る者たちを、そのように 扱 われるのです。

彼らは、厚かましく、わがままで、栄 光ある者たちをそしってはばかりません。¹¹天使たちは、 力 も権 威もはるかにまさっているにもかかわらず、主の御前で
彼らをそしったり 訴 え出たりはしません。¹²この者たちは、捕らえられ、殺されるために生まれてきた理性のない動物と同じで、知りもしないことをそしるので
す。そういった動物が減るように、彼らも滅んでしまいます。¹³不 義を 行 う者は、不 義にふさわしい報いを受けます。彼らは、昼間から 享 楽にふけるのを楽
しみにしています。彼らは汚れやきずのようなもので、あなたがたと宴 席に連なるとき、はめを外して騒ぎます。¹⁴その目は絶えず姦 通の相手を求め、飽くこと
なく罪を重ねています。彼らは 心 の定まらない人々を誘惑し、その 心 は強 欲におぼれ、呪いの子になっています。¹⁵彼らは、正しい道から離れてさまよい
歩き、ボソルの子バラムが歩んだ道をたどったのです。バラムは不 義のもうけを好み、¹⁶それで、その 過 ちに対するとがめを受けました。ものを言えないろばが人

げん こえ はな よげんしゃ じょうき いっ おこな
間の声で話して、この預言者の常軌を逸した行いをやめさせたのです。
この者たちは、干上がった泉、嵐に吹き払われる霧であって、彼らには深い暗闇が用意されているのです。¹⁷彼らは、無意味な大言壮語をします。また、
迷いの生活からやっと抜け出て来た人たちを、肉の欲やみだらな楽しみで誘惑するのです。¹⁸その人たちに自由を与えると約束しながら、自分自身は滅亡の奴
隷です。人は、自分を打ち負かした者に服従するものです。²⁰わたしたちの主、救い主イエス・キリストを深く知って世の汚れから逃れても、それに再び巻き
込まれて打ち負かされるなら、そのような者たちの後の状態は、前よりずっと悪くなります。²¹義の道を知っていながら、自分たちに伝えられた聖なる掟から
離れ去るよりは、義の道を知らなかった方が、彼らのためによかったであろうに。²²ことわざに、

ぬ じぶん は もの もど く
ぐは、自分の吐いた物のところへ戻って来る」

た からだ あら だろ なか ころ まわ
ぎは、体を洗って、また、泥の中を転げ回る」
い かれ み お
と言われているとおりのことが彼らの身に起こっているのです。

しゅ らいりん やくそく
主の来臨の約束
3
あい ひと だめ てがみ か てがみ きおく よ お じゅんしん ころ ふる た
「愛する人たち、わたしはあなたがたに二度目の手紙を書いています。それは、これらの手紙によってあなたがたの記憶を呼び起こして、純真な心を奮い立た
せたいからです。²聖なる預言者たちがかつて語った言葉と、あなたがたの使徒たちが伝えた、主であり救い主である方の掟を思い出してもらうためです。³ま
ず、次のことを知っていなさい。終わりの時には、欲望の赴くままに生活してあざける者たちが現れ、あざけて、「こう言います。「主が来るという約束
は、いったいどうなったのだ。父たちが死んでこのかた、世の中のことは、天地創造の初めから何一つ変わらないではないか。」⁶彼らがそのように言うのは、次
のことを認めようとしなからです。すなわち、天は大昔から存在し、地は神の言葉によって水を元として、また水によってできたのですが、⁸当時の世界は、
その水によって洪水に押し流されて滅んでしまいました。⁷しかし、現在の天と地とは、火で滅ぼされるために、同じ御言葉によって取っておかれ、不信心な者
たちが裁かれて滅ぼされる日まで、そのままにしておかれるのです。

あい ひと わす しゅ にち ねん ねん にち ひと おそ かんが
「愛する人たち、このことだけは忘れないでほしい。主のもとでは、一日は千年のようで、千年は一日のようです。⁹ある人たちは、遅いと考えているようです
が、主は約束の実現を遅らせておられるのではありません。そうではなく、一人も滅びないで皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐しておられる
のです。¹⁰主の日は盗人のようにやって来ます。その日、天は激しい音をたてながら消えうせ、自然界の諸要素は熱に熔け尽くし、地とそこで造り出されたもの
は暴かれてしまいます。¹¹このように、すべてのものは滅び去るのですから、あなたがたは聖なる信心深い生活を送らなければなりません。¹²神の日の来るのを待
ち望み、また、それが来るのを早めるようにすべきです。その日、天は焼け崩れ、自然界の諸要素は燃え尽き、熔け去ることでしょう。¹³しかしわたしたちは、義
の宿る新しい天と新しい地とを、神の約束に従って待ち望んでいるのです。

あい ひと ま のぞ けが なにひと へいわ す かみ みと はげ
「だから、愛する人たち、このことを待ち望みながら、きずや汚れが何一つなく、平和に過ごしていると神に認めていただけるように励みなさい。¹⁴また、わた
したちの主の忍耐深さを、救いと考えなさい。それは、わたしたちの愛する兄弟パウロが、神から授かった知恵に基づいて、あなたがたに書き送ったことで
もあります。¹⁶彼は、どの手紙の中でもこのことについて述べています。その手紙には難しく理解しにくい個所があって、無学な人や心の定まらない人は、そ
れを聖書のほかの部分と同様に曲解し、自分の滅びを招いています。」それで、愛する人たち、あなたがたはこのことをあらかじめ知っているのですから、不
道徳な者たちに唆されて、堅固な足場を失わないように注意しなさい。¹⁸わたしたちの主、救い主イエス・キリストの恵みと知識において、成長しな
さい。このイエス・キリストに、今も、また永遠に栄光がありますように、アーメン。

[1章](#) [2章](#) [3章](#) [4章](#) [5章](#)

[【戻る】](#)

てがみ
ヨハネの手紙 一

いのち ことば
命 の 言

1

はじ きの め み み て ふ つた いのち ことば いのち あらわ
'初めからあったもの、わたしたちが聞いたもの、目で見たもの、よく見て、手で触れたものを伝えます。すなわち、命 の 言 について。――この 命 は 現 れまし
た。御 父 と共にあったが、わたしたちに 現 れたこの永 遠の 命 を、わたしたちは見て、あなたがたに証しし、伝えるのです。――わたしたちが見、また聞いたこと
を、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたもわたしたちとの交わりを持つようになるためです。わたしたちの交わりは、御 父 と御子イエス・キリストとの交わり
です。‘わたしたちがこれらのことを書くのは、わたしたちの 喜 びが満ちあふれるようになるためです。’

かみ ひかり
神は 光

すで き つた し かみ ひかり かみ やみ まつた かみ まじ
‘わたしたちがイエスから既に聞いていて、あなたがたに伝える知らせとは、神は 光 であり、神には闇が 全 くないということです。‘わたしたちが、神との交わ
りを持っていて言いながら、闇の中を歩むなら、それはうそをついているのであり、真理を 行 ってはいません。’しかし、神が 光 の中におられるように、わた
したちが 光 の中を歩むなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血によってあらゆる罪から清められます。‘自分に罪がないと言うなら、自 らを 欺 いており、
真理はわたしたちの内にありません。‘自分の罪を 公 に言い 表 すなら、神は真実で正しい方ですから、罪を赦し、あらゆる不義からわたしたちを清めてくだ
さいます。’罪を犯したことがないと言うなら、それは神を 偽 り者とすることであり、神の言葉はわたしたちの内にありません。

べんごしや
弁護者キリスト

2

こ か つみ おか つみ おか おんちち ベんごしや ただ かた
'わたしの子たちよ、これらのことを書くのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。たとえ罪を犯しても、御 父 のもとに弁護者、正しい方、イエス・
キリストがおられます。’この方こそ、わたしたちの罪、いや、わたしたちの罪ばかりでなく、全世界の罪を 償 ういけにえです。’わたしたちは、神の 掟 を守る
なら、それによって、神を知っていることが分かります。’「神を知っている」と言いながら、神の 掟 を守らない者は、偽 り者で、その人の内には真理はあり
ません。’しかし、神の言葉を守るなら、まことにその人の内には神の愛が実現しています。これによって、わたしたちが神の内にいることが分かります。’神の
内にいつもいると言う人は、イエスが歩まれたように 自 らも歩まなければなりません。

あたらし おきて
新しい 掟

あい もの か あたらし おきて はじ う ふる おきて ふる おきて
'愛する者たち、わたしがあなたがたに書いているのは、新 しい 掟 ではなく、あなたがたが初めから受けていた古い 掟 です。この古い 掟 とは、あなたがたが
既に聞いたことのある言葉です。’しかし、わたしは 新 しい 掟 として書いています。そのことは、イエスにとってもあなたがたにとっても真実です。闇が去つ
て、既にまことの 光 が 輝 いているからです。’「光 の中にいる」と言いながら、兄 弟を憎む者は、今もなお闇の中にいます。’兄 弟を愛する人は、いつも
光 の中におり、その人にはつまずきがありません。’しかし、兄 弟を憎む者は闇の中におり、闇の中を歩み、自分がどこへ行くかを知りません。闇がこの人
の目を見えなくしたからです。

か
ちよ、わたしがあなたがたに書いているのは、

な
：スの名によって

つみ ゆる
あなたがたの罪が赦されているからである。

か
ちよ、わたしがあなたがたに書いているのは、

はじ そんざい かた
：たがたが、初めから存 在なさる方を

し
知っているからである。

の か
者たちよ、わたしがあなたがたに書いているのは、

わたがたが悪い者に打ち勝ったからである。

たちよ、わたしがあなたがたに書いているのは、

わたがたが御父を知っているからである。

ちよ、わたしがあなたがたに書いているのは、

わたがたが、初めから存在なさる方を

知っているからである。

者たちよ、わたしがあなたがたに書いているのは、

わたがたが強く、

り言葉があなたがたの内にいつもあり、

わたがたが悪い者に打ち勝ったからである。

¹⁵世も世にあるものも、愛してはいけません。世を愛する人がいれば、御父への愛はその人の内にありません。¹⁶なぜなら、すべて世にあるもの、肉の欲、目の欲、生活のおごりは、御父から出ないで、世から出るからです。¹⁷世も世にある欲も、過ぎ去って行きます。しかし、神の御心を行う人は永遠に生き続けます。

¹⁸子供たちよ、終わりの時が来ています。反キリストが来ると、あなたがたがかねて聞いていたとおり、今や多くの反キリストが現れています。これによって、終わりの時が来ていると分かります。¹⁹彼らはわたしたちから去って行きましたが、もともと仲間ではなかったのです。仲間なら、わたしたちのもとにとどまっていたでしょう。しかし去って行き、だれもわたしたちの仲間ではないことが明らかになりました。²⁰しかし、あなたがたは聖なる方から油を注がれているので、皆、真理を知っています。²¹わたしがあなたがたに書いているのは、あなたがたが真理を知らないからではなく、真理を知り、また、すべて偽りは真理から生じないことを知っているからです。²²偽り者とは、イエスがメシアであることを否定する者でなくて、だれでありましょう。御父と御子を認めない者、これこそ反キリストです。²³御子を認めない者はだれも、御父に結ばれていません。御子を公に言い表す者は、御父にも結ばれています。²⁴初めから聞いていたことを、心にとどめなさい。初めから聞いていたことが、あなたがたの内にいつもあるならば、あなたがたも御子の内に、また御父の内にいつもいるでしょう。²⁵これこそ、御子がわたしたちに約束された約束、永遠の命です。

²⁶以上、あなたがたを惑わせようとしている者たちについて書いてきました。²⁷しかし、いつもあなたがたの内には、御子から注がれた油がありますから、だれからも教えを受ける必要がありません。この油が万事について教えます。それは真実であって、偽りではありません。だから、教えられたとおり、御子の内にとどまりなさい。

²⁸さて、子たちよ、御子の内にいつもとどまりなさい。そうすれば、御子の現れるとき、確信を持つことができ、御子が来られるとき、御前で恥じ入るようなことがありません。²⁹あなたがたは、御子が正しい方だと知っているなら、義を行う者も皆、神から生まれていることが分かるはずです。³⁰御父がどれほどわたしたちを愛してくださるか、考えなさい。それは、わたしたちが神の子と呼ばれるほどで、事実また、そのとおりです。世がわたしたちを知らないのは、御父を知らなかったからです。³¹愛する者たち、わたしたちは、今既に神の子ですが、自分がどのようになるかは、まだ示されていません。しかし、御子が現れるとき、御子に似た者となるということを知っています。なぜなら、そのとき御子をありのままに見るからです。³²御子にこの望みをかけている人は皆、御子が清いように、自分を清めます。³³罪を犯す者は皆、法にも背くのです。罪とは、法に背くことです。³⁴あなたがたも知っているように、御子は罪を除くために現れました。御子には罪がありません。³⁵御子の内にもいつもうる人は皆、罪を犯しません。罪を犯す者は皆、御子を見たこともなく、知ってもいません。³⁶子たちよ、だれにも惑わされないようにしなさい。義を行う者は、御子と同じように、正しい人です。³⁷罪を犯す者は悪魔に属します。悪魔は初めから罪を犯しているからです。悪魔の働きを滅ぼ

かみ こ あらわ し う ひと みな つみ おか かみ たね ひと うち
すためにこそ、神の子が 現 れたのです。⁹神から生まれた人は皆、罪を犯しません。神の種がこの人の内にいつもあるからです。この人は神から生まれたので、
つみ おか かみ こ あくま こ くべつ あき ただ せいかつ もの みな かみ ぞく ひと かみ う
罪を犯すことができません。¹⁰神の子たちと悪魔の子たちの区別は明らかです。正しい生活をしない者は皆、神に属していません。自分の 兄 弟を愛さない者
どうよう
も同様です。

たが あい あ
互いに愛し合いなさい
たが あい あ はじ き おし かれ わる もの ぞく きょうだい
"なぜなら、互いに愛し合うこと、これがあなたがたの初めから聞いている教えだからです。¹²カインのようになってはなりません。彼は悪い者に属して、兄 弟
ころ ころ じぶん おこな わる きょうだい おこな ただ きょうだい よ にく おどろ
を殺しました。なぜ殺したのか。自分の 行 いが悪く、兄 弟の 行 いが正しかったからです。¹³だから 兄 弟たち、世があなたがたを憎んでも、驚 くことはあり
ません。¹⁴わたしたちは、自分が死から 命 へと移ったことを知っています。兄 弟を愛しているからです。愛することのない者は、死にとどまったままです。¹⁵兄
だい にく もの みな ひとごろ し ひとごろ えいえん いのち いのち す
弟を憎む者は皆、人殺しです。あなたがたの知っているとおり、すべて人殺しには永遠の 命 がとどまっています。¹⁶イエスは、わたしたちのために、 命 を捨
ててくださいました。そのことによって、わたしたちは愛を知りました。だから、わたしたちも 兄 弟のために 命 を捨てるべきです。¹⁷世の富を持ちながら、兄 弟
ひつよう もの ことか み どうじよう もの かみ あい もの うち こ ことば くちさき おこな
が必要な物に事欠くのを見て同 情 しない者があれば、どうして神の愛がそのような者の内にとどまるでしょう。¹⁸子たちよ、言葉や口先だけではなく、 行 い
をもちて誠実に愛し合おう。

かみ しんらい
神への信頼
じぶん しんり ぞく し かみ みまえ あんしん ころろ せ かみ ころろ
¹⁹これによって、わたしたちは自分が真理に属していることを知り、神の御前で安心できます、²⁰心 に責められることがあろうとも。神は、わたしたちの 心 よ
りも大きく、すべてをご存じだからです。²¹愛する者たち、わたしたちは心 に責められることがなければ、神の御前で確 信を持つことができ、²²神に願うことは
なん かみ おきて まも みこころ かな おこな おきて かみ こ な しん かた
何でもかなえられます。わたしたちが神の 掟 を守り、御 心 に 適うことを行 っているからです。²³その 掟 とは、神の子イエス・キリストの名を信じ、この方が
めい たが あい あ かみ おきて まも ひと かみ うち かみ ひと うち
わたしたちに命じられたように、互いに愛し合うことです。²⁴神の 掟 を守る人は、神の内にもとどまり、神もその人の内にとどまってくださいます。神が
うち かみ あた れい わ
わたしたちの内にとどまってくださいすることは、神が与えてくださった「霊」によって分かります。

いつわ れい しんじつ れい
偽 りの霊と真実の霊
4
あい もの れい しん かみ で れい たし にせよげんしゃ おおぜいよ で き にく
¹愛する者たち、どの霊も信じるのではなく、神から出た霊かどうかを確かめなさい。偽預言者が大勢世に出て来ているからです。²イエス・キリストが肉となつ
こ おおやけ い あらわ れい かみ で かみ れい わ おおやけ い
て来られたということを 公 に言い 表 す霊は、すべて神から出たものです。このことによって、あなたがたは神の霊が分かります。³イエスのことを 公 に言い
あらわ れい かみ で はん れい れい く き いま すで よ き
表 さない霊はすべて、神から出ていません。これは、反キリストの霊です。かねてあなたがたは、その霊がやって来ると聞いていましたが、今や既に世に来てい
こ かみ ぞく にせよげんしゃ う か うち かた よ もの つよ
ます。⁴子たちよ、あなたがたは神に属しており、偽預言者たちに打ち勝ちました。なぜなら、あなたがたの内におられる方は、世にいる者よりも強いからです。⁵
にせよげんしゃ よ ぞく よ はな よ かれ みみ かたむ かみ ぞく もの かみ し ひと みみ
偽預言者たちは世に属しており、そのため、世のことを話し、世は彼らに耳を 傾 けます。⁶わたしたちは神に属する者です。神を知る人は、わたしたちに耳を
かたむ かみ ぞく もの みみ かたむ しんり れい ひと まど れい みわ
傾 けますが、神に属していない者は、わたしたちに耳を 傾 けません。これによって、真理の霊と人を惑わす霊とを見分けることができます。

かみ あい
神は愛
あい もの たが あい あ あい かみ で あい もの みな かみ う かみ し あい もの かみ し
¹愛する者たち、互いに愛し合いましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。²愛することのない者は神を知り
かみ あい かみ ひと ご よ つか かた い かみ あい
ません。神は愛だからです。³神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きようになるためです。ここに、神の愛がわたした
うち しめ かみ あい かみ あい つみ つぐな み こ つか
ちの内を示されました。⁴わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を 償 ういけにえとして、御子をお遣わしになりまし
た。ここに愛があります。⁵愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。⁶いまだかつて神を見た者
はいません。わたしたちが互いに愛し合うならば、神はわたしたちの内にとどまってください、神の愛がわたしたちの内 で 全 うされているのです。
かみ こじぶん れい わ あた かみ うち かみ うち
⁷神はわたしたちに、御自分の霊を分け与えてくださいました。このことから、わたしたちが神の内にとどまり、神もわたしたちの内にとどまってくださいること
わ おんちち み こ よ すく ぬし つか み あか かみ こ おおやけ
が分かります。⁸わたしたちはまた、御父が御子を世の救い主として遣わされたことを見、またそのことを証しています。⁹イエスが神の子であることを 公 に
い あらわ ひと かみ ひと うち ひと かみ うち たい かみ あい し しん
言い 表 す人はだれでも、神がその人の内にとどまってください、その人も神の内にとどまります。¹⁰わたしたちは、わたしたちに対する神の愛を知り、また信じ
ています。
かみ あい あい ひと かみ うち かみ ひと うち あい うち まつと
神は愛です。愛にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってくださいます。¹¹こうして、愛がわたしたちの内に 全 うされているので、
さば ひ かくしん ち よ あい おそ かんぜん あい おそ し だ
裁きの日に確 信を持つことができます。この世でわたしたちも、イエスのようであるからです。¹²愛には恐れがない。完全な愛は恐れを締め出します。なぜなら、
おそ ばつ とみな おそ もの あい まつと あい かみ あい かみ あい
恐れは罰を 伴 い、恐れる者には愛が 全 うされていないからです。¹³わたしたちが愛するのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからです。²⁰「神を愛し
い きょうだい にく もの いつわ もの め み きょうだい あい もの め み かみ あい
ている」と言いながら 兄 弟を憎む者がいれば、それは 偽 り者です。目に見える 兄 弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することができません。²¹神を愛す
ひと きょうだい あい かみ う おきて
る人は、兄 弟をも愛すべきです。これが、神から受けた 掟 です。

あく よ う か しんこう
悪の世に打ち勝つ信仰
5
しん ひと みな かみ う もの う かた あい ひと みな かた う もの あい
¹イエスがメシアであると信じる人は皆、神から生まれた者です。そして、生んでくださった方を愛する人は皆、その方から生まれた者をも愛します。²このこと
あき かみ あい おきて まも かみ こども あい かみ あい かみ おきて まも かみ おきて
から明らかなように、わたしたちが神を愛し、その 掟 を守るときはいつも、神の子供たちを愛します。³神を愛するとは、神の 掟 を守ることです。神の 掟 は

むずか しいものではありません。⁴神から生まれた人は皆、世に打ち勝つからです。世に打ち勝つ 勝 利、それはわたしたちの信 仰です。⁵だれが世に打ち勝つか。イエス さんが神の子であると信じる者ではありませんか。

イエス・キリストについての証し

⁶この方は、水と血を通して来られた方、イエス・キリストです。水だけではなく、水と血とによって来られたのです。そして、⁷“霊”はこのことを証しする方です。⁸“霊”は真理だからです。⁹証しするのは三者で、¹⁰“霊”と水と血です。この三者は一致しています。¹¹わたしたちが人の証しを受け入れるのであれば、神の証しは更にまっています。神が御子についてなさった証し、これが神の証しだからです。¹²神の子を信じる人は、自分の内にこの証しがあり、神を信じない人は、神が御子についてなさった証しを信じていないため、神を 偽 り者にしてしまっています。¹³その証しとは、神が永遠の 命 をわたしたちに与えられたこと、そして、この 命 が御子の内にあるということです。¹⁴御子と結ばれている人にはこの 命 があり、神の子と結ばれていない人にはこの 命 がありません。

えいえん いのち
永遠の 命

¹⁵神の子の名を信じているあなたがたに、これらのことを書き送るのは、永遠の 命 を得ていることを悟らせたいからです。¹⁶何事でも神の御 心 に 適 うことをわたしたちが願うなら、神は聞き入れてくださる。これが神に対するわたしたちの確 信 です。¹⁷わたしたちは、願ひ事は何でも聞き入れてくださるということが分かるなら、神に願ったことは既にかなえられていることも分かります。

¹⁸死に至らない罪を犯している 兄 弟を見たら、その人のために神に願ひなさい。そうすれば、神はその人に 命 をお与えになります。これは、死に至らない罪を犯している人々の場合です。死に至る罪があります。これについては、神に願うようにとは言いません。¹⁹不義はすべて罪です。しかし、死に至らない罪もあります。

²⁰わたしたちは知っています。すべて神から生まれた者は罪を犯しません。神からお生まれになった方が、その人を守ってください、悪い者は手を触れることができません。²¹わたしたちは知っています。わたしたちは神に属する者ですが、この世全体が悪い者の支配下にあるのです。²²わたしたちは知っています。神の子が来て、真実な方を知る 力 を与えてくださいました。わたしたちは真実な方の内に、その御子イエス・キリストの内にいるのです。この方こそ、真実の神、永遠の 命 です。²³子たちよ、偶像を避けなさい。

て がみ
ヨハネの手紙 二

あいさつ 挨拶
ちょうろう ちょうろう えら ふじん こ しん あい しん り し ひと
「長老のわたしから、選ばれた婦人とその子たちへ。わたしは、あなたがたを真に愛しています。わたしばかりでなく、真理を知っている人はすべて、あなたが
あい
たを愛しています。²それは、いつもわたしたちの内にある真理によることで、真理は永遠にわたしたちと共にあります。³父である神と、その父の御子イエス・キ
めぐ あわ へいわ しん り あい とも
リストからの恵みと憐れみと平和は、真理と愛のうちにわたしたちと共にあります。」

しん り あい
真理と愛
こども なか おんちち う おきて しん り あゆ ひと し たいへん おも ふじん
「あなたの子供たちの中に、わたしたちが御父から受けた掟どおりに、真理に歩んでいる人がいるのを知って、大変うれしく思いました。⁴さて、婦人よ、あな
ねが か あたり おきて はじ も おきて たが あい あ あい
たにお願いしたいことがあります。わたしが書くのは新しい掟ではなく、初めからわたしたちが持っていた掟、つまり互いに愛し合うということです。⁵愛と
おんちち おきて したが あゆ おきて はじ き あい あゆ か ひと まど もの
は、御父の掟に従って歩むことであり、この掟とは、あなたがたが初めから聞いていたように、愛に歩むことです。⁶このように書くのは、人を惑わす者が
おおぜいよ で き かれ にく こ おおやけ い あらわ もの ひと まど もの はん
大勢世に出て来たからです。彼らは、イエス・キリストが肉となって来られたことを公に言い表そうとしません。こういう者は人を惑わす者、反キリストで
き どりよく え うしな ゆた むく う おし こ
す。⁷気をつけて、わたしたちが努力して得たものを失うことなく、豊かな報いを受けるようにしなさい。⁸だれであろうと、キリストの教えを越えて、これにとど
もの かみ むす おし ひと おんちち み こ おし たずさ く もの
まらない者は、神に結ばれていません。その教えにとどまっている人にこそ、御父も御子もおられます。⁹この教えを携えずにあなたがたのところに来る者は、
いえ い あいさつ もの あいさつ ひと わる おこな くわ
家に入れてはなりません。挨拶してもなりません。¹⁰そのような者に挨拶する人は、その悪い行いに加わるのです。」

むす ことば
結びの言葉
か かみ か おも よろこ み い
¹¹あなたがたに書くことはまだいろいろありますが、紙とインクで書こうとは思いません。わたしたちの喜びが満ちあふれるように、あなたがたのところに行つて
した はな あ しまい えら ふじん こども い
親しく話し合いたいものです。¹²あなたの姉妹、選ばれた婦人の子供たちが、あなたによろしくと言っています。」

てがみ
ヨハネの手紙 三

あいさつ
挨拶
ちょうろう
長老のわたしから、あい
しん あい
しん あい
¹ 長老のわたしから、愛するガイオへ。わたしは、あなたを真に愛しています。
あい もの たましい めぐ
² 愛する者よ、あなたの 魂 が恵まれているように、あなたがすべての面で恵まれ、健康であるようにと祈っています。³ 兄弟たちが来ては、あなたが真理に
あゆ あか ひじょう よろこ じっさい しん り あゆ
歩んでいることを証してくれるので、わたしは非 常に 喜んでいます。実際、あなたは真理に歩んでいるのです。⁴ 自分の子供たちが真理に歩んでいると聞く
ほど、うれしいことはありません。

ぜん おこな もの あく おこな もの
善を行 う者、悪を行 う者
あい もの きょうだい
⁵ 愛する者よ、あなたは、兄 弟たち、それも、よそから来た人たちのために誠意をもって尽くしています。⁶ 彼らは 教 会でああなたの愛を証しました。どう
かみ よろこ かれ おく だ ひと みな たび で ひと いほうじん なに
か、神に 喜 ばれるように、彼らを送り出してください。⁷ この人たちは、御名のために旅に出た人で、異邦人からは何ももらっていません。⁸ だから、わたしたち
はこのような人たちを助けるべきです。そうすれば、真理のために共に 働 く者となるのです。

きょうかい すこ か おく しどうしゃ う い
わたしは 教 会に少しばかり書き送りました。ところが、指導 者になりたがっているディオトレフェスは、わたしたちを受け入れません。⁹ だから、そちらに行つ
かれ かれ してき おも かれ あく い み ことば きょうだい う い う い ひと
たとき、彼のしていることを指摘しようと思います。彼は、悪意に満ちた言葉でわたしたちをそしるばかりか、兄 弟たちを受け入れず、受け入れようとする人た
ちの邪魔をし、教 会から追い出しています。

あい もの わる よ みなら ぜん おこな もの かみ ぞく ひと あく おこな もの かみ み ひと
¹¹ 愛する者よ、悪いことではなく、善いことを見倣ってください。善を行 う者は神に属する人であり、悪を行 う者は、神を見たことのない人です。¹² デメト
リオについては、あらゆる人と真理そのものの証しがあります。わたしたちもまた証します。そして、あなたは、わたしたちの証しが真実であることを知ってい
ます。

むす ことば
結びの言葉
か か おも ちか め した はな あ
¹³ あなたに書くことはまだいろいろありますが、インクとペンで書こうとは思いません。¹⁴ それよりも、近いうちにお目にかかつて親しく話し合いたいもので
す。¹⁵ あなたに平和があるように。友人たちがよろしくと言っています。そちらの友人一人一人に、よろしく伝えてください。

ユダの手紙

[1章](#)

[【戻る】](#)

てがみ
ユダの手紙

あいさつ
挨拶

しもべ きょうだい ちち かみ あい まも め ひと あわ へいわ あい
イエス・キリストの 僕 で、ヤコブの 兄 弟であるユダから、父である神に愛され、イエス・キリストに守られている召された人たちへ。² 憐れみと平和と愛が、あなたがたにますます豊かに与えられるように。

にせきようし けいこく
偽教師についての警告

(二ペト21—17)

あい ひと とも すく か おく ねが てがみ か せい もの ひとたびつた
³愛する人たち、わたしたちが共にあずかる救いについて書き送りたいと、ひたすら願っておりました。あなたがたに手紙を書いて、聖なる者たちに一度伝えられた信仰のために戦うことを、勧めなければならないと思ったからです。⁴ なぜなら、ある者たち、つまり、次のような裁きを受けると昔から書かれている不信心な者たちが、ひそかに紛れ込んで来て、わたしたちの神の恵みをみだらな楽しみに変え、また、唯一の支配者であり、わたしたちの主であるイエス・キリストを否定しているからです。

ばんじ こころ え おも だ しゅ たみ ひとたび ち すく だ あと しん もの ぼろ いっぽう
⁵あなたがたは万事心 得ていますが、思い出してほしい。主は民を一度エジプトの地から救い出し、その後、信じなかった者たちを滅ぼされたのです。⁶ 一方、自分の領分を守らないで、その住まいを見捨ててしまった天使たちを、大いなる日の裁きのために、永遠の鎖で縛り、暗闇の中に閉じ込められました。⁷ ソドムやゴモラ、またその周辺の町は、この天使たちと同じく、みだらな行いにふけり、不自然な肉の欲の満足を追い求めたので、永遠の火の刑罰を受け、見せしめにされています。

おな むそうか み けが けんい みと えいこう もの だいてんし いたい
⁸しかし、同じようにこの夢想家たちも、身を汚し、権威を認めようとはせず、栄光ある者たちをあざけるのです。⁹ 大天使ミカエルは、モーセの遺体のことで悪魔と言い争ったとき、あえてののしって相手を裁こうとはせず、「主がお前を懲らしめてくださるように」と言いました。¹⁰ この夢想家たちは、知らないことをののしり、分別のない動物のように、本能的に知っている事柄によって自滅します。¹¹ 不幸な者たちです。彼らは「カインの道」をたどり、金もうけのために「バラムの迷い」に陥り、「コラの反逆」によって滅んでしまうのです。¹² こういう者たちは、厚かましく食事に割り込み、わが身を養い、あなたがたの親ばくの食事を汚すしみ、風に追われて雨を降らさぬ雲、実らず根こぎにされて枯れ果ててしまった晩秋の木、¹³ わが身の恥を泡に吹き出す海の荒波、永遠に暗闇が待ちもうける迷い星です。

かぞ だいいめ あ かれ よげん み しゅ かずし せい もの ひ つ こ
¹⁴アダムから数えて七代目に当たるエノクも、彼らについてこう預言しました。「見よ、主は数知れない聖なる者たちを引き連れて来られる。¹⁵ それは、すべての人を裁くため、また不信心な生き方をした者たちのすべての不信心な行い、および、不信心な罪人が主に対して口にしたすべての暴言について皆を責めるためである。」¹⁶ こういう者たちは、自分の運命について不平不満を鳴らし、欲望のままにふるまい、大言壮語し、利益のために人にこびへつらいます。

けいこく ばいば
警告と励まし

あい ひと しゅ し と まえ かた ことば おも だ かれ い お とし
¹⁷愛する人たち、わたしたちの主イエス・キリストの使徒たちが前もって語った言葉を思い出しなさい。¹⁸ 彼らはあなたがたにこう言いました。「終わりの時には、あざける者どもが現れ、不信心な欲望のままにふるまう。」¹⁹ この者たちは、分裂を引き起こし、この世の命のままに生き、霊を持たない者です。²⁰ しかし、愛する人たち、あなたがたは最も聖なる信仰をよりどころとして生活しなさい。聖霊の導きの下に祈りなさい。²¹ 神の愛によって自分を守り、永遠の命へ導いてくださる、わたしたちの主イエス・キリストの憐れみを待ち望みなさい。²² 疑いを抱いている人たちを憐れみなさい。²³ ほかの人たちを火の中から引き出して助けなさい。また、ほかの人たちを用心しながら憐れみなさい。肉によって汚れてしまった彼らの下着さえも忌み嫌いなさい。

さんび いの
賛美の祈り

つみ おちい まも よろこ ひ もの えいこう かがや みまえ た かた
²⁴あなたがたを罪に陥らないように守り、また、喜びにあふれて非のうちどころのない者として、栄光に輝く御前に立たせることができる方、²⁵ わたしたちの救い主である唯一の神に、わたしたちの主イエス・キリストを通して、栄光、威厳、力、権威が永遠の昔から、今も、永遠にいつまでもありますように、アーメン。

ヨハネの黙示録

[1章](#) [2章](#) [3章](#) [4章](#) [5章](#)

[6章](#) [7章](#) [8章](#) [9章](#) [10章](#)

[11章](#) [12章](#) [13章](#) [14章](#) [15章](#)

[16章](#) [17章](#) [18章](#) [19章](#) [20章](#)

[21章](#) [22章](#)

[【戻る】](#)

ヨハネの黙示録

序文と挨拶

1

「イエス・キリストの黙示。この黙示は、すぐにも起こるはずのことを、神がその僕たちに示すためキリストにお与えになり、そして、キリストがその天使を送つて僕ヨハネにお伝えになったものである。²ヨハネは、神の言葉とイエス・キリストの証し、すなわち、自分の見たすべてのことを証した。³この預言の言葉を朗読する人と、これを聞いて、中に記されたことを守る人たちとは幸いである。時が迫っているからである。

⁴⁵ヨハネからアジア州にある七つの教会へ。今おられ、かつておられ、やがて来られる方から、また、玉座の前におられる七つの霊から、更に、証人、誠実な方、死者の中から最初に復活した方、地上の王たちの支配者、イエス・キリストから恵みと平和があなたがたにあるように。

わたしたちを愛し、御自分の血によって罪から解放してくださった方に、⁶わたしたちを王とし、御自身の父である神に仕える祭司としてくださった方に、栄光と力が世々限りなくありますように、アーメン。

、その方が雲に乗って来られる。

すべての人の目が彼を仰ぎ見る、

に、彼を突き刺した者どもは。

上の諸民族は皆、彼のために嘆き悲しむ。

、アーメン。
⁷神である主、今おられ、かつておられ、やがて来られる方、全能者がこう言われる。「わたしはアルファであり、オメガである。」

天上におられるキリストの姿
⁸わたしは、あなたがたの兄弟であり、共にイエスと結ばれて、その苦難、支配、忍耐にあずかっているヨハネである。わたしは、神の言葉とイエスの証しのゆえに、パトモスと呼ばれる島にいた。¹⁰ある主の日のこと、わたしは「霊に満たされていたが、後ろの方でラッパのように響く大声を聞いた。¹²その声はこう言った。「あなたの見ていることを巻物に書いて、エフェソ、スミルナ、ペルガモン、ティアティラ、サルディス、フィラデルフィア、ラオディキアの七つの教会に送れ。」

¹³わたしは、語りかける声の主を見ようとして振り向いた。振り向くと、七つの金の燭台が見え、¹⁴燭台の中央には、人の子のような方がおり、足まで届く衣を着て、胸には金の帯を締めておられた。¹⁵その頭、その髪の毛は、白い羊毛に似て、雪のように白く、目はまるで燃え盛る炎、¹⁶足は炉で精錬されたしんちゆうのように輝き、声は大水のとどろきのようであった。¹⁸右の手に七つの星を持ち、口からは鋭い両刃の剣が出て、顔は強く照り輝く太陽のようであった。

¹⁷わたしは、その方を見ると、その足もとに倒れて、死んだようになった。すると、その方は右手をわたしの上に置いて言われた。「恐れるな。わたしは最初の者にして最後の者、¹⁸また生きている者である。一度は死んだが、見よ、世々限りなく生きて、死と陰府の鍵を持っている。¹⁹さあ、見たことを、今あることを、今後起ころうとしていることを書き留めよ。²⁰あなたは、わたしの右の手に七つの星と、七つの金の燭台とを見たが、それらの秘められた意味はこうだ。七つの星は七つの教会の天使たち、七つの燭台は七つの教会である。

エフェソにある教会にあてた手紙

2

「エフェソにある教会の天使にこう書き送れ。
『右の手に七つの星を持つ方、七つの金の燭台の間を歩く方が、次のように言われる。²「わたしは、あなたの行いと労苦と忍耐を知っており、また、あなたが悪者どもに我慢できず、自ら使徒と称して実はそうでない者どもを調べ、彼らのうそを見抜いたことも知っている。³あなたはよく忍耐して、わたしの名のために我慢し、疲れ果てることがなかった。⁴しかし、あなたに言うべきことがある。あなたは初めのころの愛から離れてしまった。⁵だから、どこから落ちたかを思い出し、悔い改めて初めのころの行いに立ち戻れ。もし悔い改めなければ、わたしはあなたのところへ行つて、あなたの燭台をその場所から取りのけてしまおう。⁶だが、あなたには取り柄もある。ニコライ派の者たちの行いを憎んでいることだ。わたしもそれを憎んでいる。⁷耳ある者は、「霊」が諸教会に告げることを聞くがよい。勝利を得る者には、神の楽園にある命の木の実を食べさせよう。』」

スミルナにある 教会に於て手紙

『スミルナにある 教会の天使にこう書き送れ。』

『最初の者にして、最後の者である方、一度死んだが、また生きた方が、次のように言われる。『わたしは、あなたの苦難や貧しさを知っている。だが、本当はあなたは豊かなのだ。自分はユダヤ人であると言う者どもが、あなたを非難していることを、わたしは知っている。実は、彼らはユダヤ人ではなく、サタン』の集いに属している者どもである。』あなたは、受けようとしている苦難を決して恐れてはいけない。見よ、悪魔が 試みるために、あなたがたの何人かを牢に投げ込もうとしている。あなたがたは、十日の間 苦しめられるであろう。死に至るまで 忠実であれ。そうすれば、あなたに 命の冠を授けよう。』耳ある者は、『霊』が諸教会に告げることを聞くがよい。勝利を得る者は、決して第二の死から害を受けることはない。』』

ベルガモンにある 教会に於て手紙

『ベルガモンにある 教会の天使にこう書き送れ。』

『鋭い両刃の剣を持っている方が、次のように言われる。』『わたしは、あなたの住んでいる所を知っている。そこにはサタンの王座がある。しかし、あなたはわたしの名をしっかりと守って、わたしの 忠実な証人アンティパスが、サタンの住むあなたがたの所で殺されたときでさえ、わたしに対する信仰を捨てなかった。』しかし、あなたに対して少しばかり言うべきことがある。あなたのところには、バラムの教えを奉ずる者がいる。バラムは、イスラエルの子らの前につまずきとなるものを置くようにバラクに教えた。それは、彼らに偶像に献げた肉を食べさせ、みだらなことをさせるためだった。』同じように、あなたのところにもニコライ派の教えを奉ずる者たちがいる。』だから、悔い改めよ。さもなければ、すぐにあなたのところへ行行って、わたしの口の剣でその者どもと戦おう。』耳ある者は、『霊』が諸教会に告げることを聞くがよい。勝利を得る者には隠されていたマンナを与えよう。また、白い小石を与えよう。その小石には、これを受ける者のほかににはだれにも分からぬ新しい名が記されている。』』

ティアティラにある 教会に於て手紙

『ティアティラにある 教会の天使にこう書き送れ。』

『目は燃え盛る炎のようで、足はしんちゅうのように輝いている神の子が、次のように言われる。』『わたしは、あなたの行い、愛、信仰、奉仕、忍耐を知っている。更に、あなたの近ごろの行いが、最初のころの行いにまさっていることも知っている。』しかし、あなたに対して言うべきことがある。あなたは、あのイゼベルという女のすることを大目に見ている。この女は、自ら預言者と称して、わたしの僕たちを教え、また惑わして、みだらなことをさせ、偶像に献げた肉を食べさせている。』わたしは悔い改める機会を与えたが、この女はみだらな行いを悔い改めようとしな。』見よ、わたしはこの女を床に伏せさせよう。この女と共にみだらなことをする者たちも、その行いを悔い改めないなら、ひどい苦しみに遭わせよう。』また、この女の子供たちも打ち殺そう。こうして、全教会は、わたしが人の思いや判断を見通す者だということを悟るようになる。わたしは、あなたがたが行ったことに応じて、一人一人に報いよう。』ティアティラの人たちの中にいて、この女の教えを受け入れず、サタンのいわゆる奥深い秘密を知らないあなたがたに言う。わたしは、あなたがたに別の重荷を負わせない。』ただ、わたしが行くときまで、今持っているものを固く守れ。』勝利を得る者に、わたしの業を終わりまで守り続ける者に、

わたしは、諸国の民の上に立つ権威を授けよう。

は鉄の杖をもって彼らを治める、土の器を打ち砕くように。

』同じように、わたしも父からその権威を受けたのである。勝利を得る者に、わたしも明けの明星を与える。』耳ある者は、『霊』が諸教会に告げることを聞くがよい。』』

サルディスにある 教会に於て手紙

『サルディスにある 教会の天使にこう書き送れ。』

『神の七つの霊と七つの星とを持っている方が、次のように言われる。』『わたしはあなたの行いを知っている。あなたが生きていたとは名ばかりで、実は死んでいる。』目を覚ませ。死にかけている残りの者たちを強めよ。わたしは、あなたの行いが、わたしの神の前に完全なものと認めない。』だから、どのように受け、また聞いたか思い起こして、それを守り抜き、かつ悔い改めよ。もし、目を覚ましていないなら、わたしは盗人のように行くであろう。わたしがいつあなたのところへ行くか、あなたには決して分からない。』しかし、サルディスには、少数ながら衣を汚さなかった者たちがいる。彼らは、白い衣を着てわたしと共に歩くであろう。そうするにふさわしい者たちだからである。』勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。わたしは、彼の名を決して命の書から消すとはなく、彼の名を父の前と天使たちの前で公に言い表す。』耳ある者は、『霊』が諸教会に告げることを聞くがよい。』』

フィラデルフィアにある 教会に於て手紙

『フィラデルフィアにある 教会の天使にこう書き送れ。』

い かた しんじつ かた
眞なる方、眞実な方、

かぎ も かた
ヰの鍵を持つ方、

かた あ と
ゝ方が開けると、だれも閉じることなく、

あ
ゝると、だれも開けることがない。

かた つぎ い おこな し み まえ もん ひら し
その方が次のように言われる。°「わたしはあなたの 行 いを知っている。見よ、わたしはあなたの前に門を開いておいた。だれもこれを閉めることはできない。あ
なたは 力 が弱かったが、わたしの言葉を守り、わたしの名を知らないと言わなかった。°見よ、サタンの集いに属して、自分はユダヤ人であると言う者たちには、
こうしよう。実は、彼らはユダヤ人ではなく、 偽 っているのだ。見よ、彼らがあなたの足もとに来てひれ伏すようにし、わたしがあなたを愛していることを彼ら
に知らせよう。°あなたは忍耐についてのわたしの言葉を守った。それゆえ、地 上 に住む人々を試すため全世界に来ようとしている試練の時に、わたしもあなた
を守ろう。°わたしは、すぐに来る。あなたの栄冠をだれにも奪われないように、持っているものを固く 守りなさい。°勝 利を得る者を、わたしの神の神殿の
はしら 柱 にしよう。彼はもう決して外へ出ることはない。わたしはその者の上に、わたしの神の名と、わたしの神の 都 、すなわち、神のもとから出て天から下つて
く あたら な あたら な か しる みみ もの れい しよきようかい つ き
来る 新 しいエルサレムの名、そして、わたしの 新 しい名を書き記そう。°耳ある者は、 `靈々` が諸 教 会に告げることを聞くがよい。」』

きようかい てがみ
ラオディキアにある 教 会にあてた手紙

きようかい てん し か おく
°ラオディキアにある 教 会の天使にこう書き送れ。
かた せいじつ しんじつ しやうにん かみ そうそう ばんぶつ みなもと かた つぎ い おこな し
『アーメンである方、誠実で眞実な 証 人、神に創造された万物の 源 である方が、次のように言われる。°「わたしはあなたの 行 いを知っている。あなた
は、冷たくもなく熱くもない。むしろ、冷たいか熱いか、どちらかであってほしい。°熱くもなく冷たくもなく、なまぬるいので、わたしはあなたを口から吐き出そう
としている。°あなたは、『わたしは金持ちだ。満ち足りている。何一つ必要な物はない』と言っているが、自分が慥めな者、衰れな者、貧しい者、目の見えな
い者、 裸 の者であることが分かっていない。°そこで、あなたに勧める。裕福になるように、火で精錬された金をわたしから買うがよい。 裸 の恥をさらさない
ように、身に着ける白い 衣 を買い、また、見えるようになるために、目に塗る 薬 を買うがよい。°わたしは愛する者を皆、叱ったり、鍛えたりする。だから、熱
心に努めよ。悔い 改 めよ。°見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に
食 事をし、彼もまた、わたしと共に 食 事をするであろう。°勝 利を得る者を、わたしは自分の座に共に座らせよう。わたしが 勝 利を得て、わたしの父と共に
その 玉 座に着いたのと同じように。°耳ある者は、 `靈々` が諸 教 会に告げることを聞くがよい。」』°

てんじやう れいはい
天上 の礼拝

4

ご み み ひら もん てん ひび かた き さいしよ こえ い
°その後、わたしが見ていると、見よ、開かれた門が天にあった。そして、ラツパが響くようにわたしに語りかけるのが聞こえた、あの最初の声と言った。「ここ
のぼ こ のちながら お しめ れい み み てん ぎよくざ もう ぎよくざ
へ上つて来い。この後 必 ず起こることをあなたに示そう。」°わたしは、たちまち `靈々` に満たされた。すると、見よ、天に 玉 座が設けられていて、その 玉 座
うえ すわ かた かた へきぎよく あか ぎよくざ まわ にじ かがや ぎよくざ まわ
の上に座っている方がおられた。°その方は、碧 玉 や赤めのうのようであり、 玉 座の周りにはエメラルドのような虹が 輝 いていた。°また、 玉 座の周りに二
ざ ざ うえ しろ ころも き あたま きん かんむり にん ちょうろう すわ ぎよくざ いなすま おと かみなり
十四の座があつて、それらの座の上には白い 衣 を着て、 頭 に金の 冠 をかぶった二十四人の 長 老が座っていた。°玉 座からは、稲妻、さまざまな音、 雷
お ぎよくざ まえ しめ も かみ れい ぎよくざ まえ すいしやう に うみ
が起こった。また、 玉 座の前には、七つのともし火が燃えていた。これは神の七つの霊である。°また、 玉 座の前は、水 晶 に似たガラスの海のようにであつた。
ぎよくざ ちゆうおう まわ い もの まえ うし いちめん め だい い もの しし だい い もの わか おうし
この 玉 座の 中 央とその周りに四つの生き物がいたが、前にも後ろにも一面に目があつた。°第一の生き物は獅子のようであり、第二の生き物は若い雄牛の
ようで、第三の生き物は人間のような顔を持ち、第四の生き物は空を飛ぶ鷲のようであつた。°この四つの生き物には、それぞれ六つの 翼 があり、その周りにも
うちがわ いちめん め かれ ひる よる た ま い つづ
内 側にも、一面に目があつた。彼らは、昼も夜も絶え間なく言い続けた。

い せい せい
眞なるかな、聖なるかな、聖なるかな、

うしや かみ しゆ
龍者である神、主、

いま こ かた
ゝておられ、今おられ、やがて来られる方。」

ぎよくざ すわ よよかぎ い かた い もの えいこう ほま かんしや にん ちょうろう ぎよくざ つ
°玉 座に座つておられ、世々限りなく生きておられる方に、これらの生き物が、栄光と誉れをたたえて感謝をささげると、°二十四人の 長 老は、 玉 座に着いて
かた まえ ふ よよかぎ お かた れいはい じぶん かんむり ぎよくざ まえ な だ い
おられる方の前にひれ伏して、世々限りなく生きておられる方を礼拝し、自分たちの 冠 を 玉 座の前に投げ出して言った。

よ、わたしたちの神よ、

またこそ、

栄光と誉れと 力 とを受けるにふさわしい方。

または万物を造られ、

心 によって万物は存在し、

また創造されたからです。」

小羊こそ巻物を開くにふさわしい

5

「またわたしは、玉座に座っておられる方の右の手に巻物があるのを見た。表にも裏にも字が書いてあり、七つの封印で封じられていた。また、一人の力強い天使が、「封印を解いて、この巻物を開くの にふさわしい者はだれか」と大声で告げるのを見た。しかし、天にも地にも地の下にも、この巻物を開くことのできる者、見ることのできる者は、だれもいなかった。この巻物を開くにも、見るにも、ふさわしい者がだれも見当たらなかったので、わたしは激しく泣いていた。すると、長老の一人がわたしに言った。「泣くな。見よ。ユダ族から出た獅子、ダビデのひこばえが勝利を得たので、七つの封印を開いて、その巻物を開くことができる。」

「わたしはまた、玉座と四つの生き物の間、長老たちの間に、屠られたような小羊が立っているのを見た。小羊には七つの角と七つの目があった。この七つの目は、全地に遣わされている神の七つの霊である。小羊は進み出て、玉座に座っておられる方の右の手から、巻物を受け取った。巻物を受け取ったとき、四つの生き物と二十四人の長老は、おのおの、豎琴と、香のいっぱい入った金の鉢とを手に持って、小羊の前にひれ伏した。この香は聖なる者たちの祈りである。そして、彼らは新しい歌をうたった。

あなたは、巻物を受け取り、

封印を開くの にふさわしい方です。

また、屠られて、

ゆる種族と言葉の違う民、

ゆる民族と国民の中から、

自分の血で、神のために人々を贖われ、

をわたしたちの神に仕える王、

また、祭司となさったからです。

うは地上を統治します。」

「また、わたしは見た。そして、玉座と生き物と長老たちとの周りに、多くの天使の声を聞いた。その数は万の数万倍、千の数千倍であった。天使たちは大声でこう言った。

ふ　こひつじ
屠られた小羊は、

、富、知恵、威力、

えいこう さんび
り、栄光、そして賛美を

う かた
受けるにふさわしい方です。

13 また、わたしは、天と地と地の下と海にいるすべての被造物、そして、そこにいるあらゆるものがこう言うのを聞いた。

よくぞ すわ かた こひつじ
玉座に座っておられる方と小羊とに、

美、^{ほま}誉れ、^{えいこう}栄光、そして^{けんりよく}権力が、

：かぎ
、限りなくありますように。」

¹⁴四つの生き物は「アーメン」と言い、長老たちはひれ伏して礼拝した。

ふういん ひら
六つの封印が開かれる

6

また、わたしが見ていると、小羊が七つの封印の一つを開いた。すると、四つの生き物の一つが、雷のような声で「出て来い」と言うのを、わたしは聞いた。²そして見ていると、見よ、白い馬が現れ、乗っている者は、弓を持っていた。彼は冠を与えられ、勝利の上に更に勝利を得ようと出て行った。

小羊が第二の封印を開いたとき、第二の生き物が「出て来い」と言うのを、わたしは聞いた。すると、火のように赤い別の馬が現れた。その馬に乗っている者には、地上から平和を奪い取って、殺し合いをさせる力が与えられた。また、この者には大きな剣が与えられた。

小羊が第三の封印を開いたとき、第三の生き物が「出て来い」と言うのを、わたしは聞いた。そして見ていると、見よ、黒い馬が現れ、乗っている者は、

手にはかりもいものあいだでこえいきこむぎのおおむぎ
手に秤はかりを持っていた。＊わたしは、四つの生き物いものの間あいだから出る声こえのようなものが、こう言うのを聞いた。「小麦こむぎは一コイニクスで一デナリオン。大麦おおむぎは三コイニ
クスで一デナリオン。オリーブ油ゆとぶどう酒しゅとを損そこなうな。」

こひつじ　だい　ふういん　ひら　　　　　で　こ　　　い　だい　い　もの　こえ　　　　　き　　　　　み　　　　　み　あおじろ　うま　あらわ　の　もの
 小羊が第四の封印を開いたとき、「出て来い」と言う第四の生き物の声を、わたしは聞いた。*そして見ていると、見よ、青白い馬が現れ、乗っている者の
 名は「死」といい、これに陰府が従っていた。彼らには、地上の四分の一を支配し、剣と飢饉と死をもって、更に地上の野獣で人を滅ぼす権威が与えら
 れた。

こつひつ　だい　ふういん　ひら　かみ　ことば　じぶん　あか　ころ　ひとびと　たましい　さいだん　した　み　かれ　おおごえ　さけ
小羊が第五の封印を開いたとき、神の言葉と自分たちがたてた証しのために殺された人々の魂を、わたしは祭壇の下に見た。¹⁰彼らは大声でこう叫
しんじつ　せい　しゅ　さば　おこな　ち　す　もの　ち　ふくしゅう　しる　ころも　あた
だ。「真実で聖なる主よ、いつまで裁きを行わず、地に住む者にわたしたちの血の復讐をなさらないのですか。」¹¹すると、その一人一人に、白い衣が与え
じぶん　おな　ころ　きょうだい　なかま　しもべ　もの　かず　み　しず　ま　つ
られ、また、自分たちと同じように殺されようとしている兄弟であり、仲間の僕である者たちの数が満ちるまで、なお、しばらく静かに待つようにと告げられ
た。

¹²また、^み見ていると、^{こひつじ}小羊が^{だい}第六の^{ふういん}封印を開いた。^{ひら}そのとき、^{おおじしん}大地震が^お起きて、^{たいよう}太陽は^け毛の粗い^{あら}布地の^{ぬのじ}ように^{くら}暗くなり、^{つき}月は^{ぜんたい}全体が^ち血のようになつて、^{てん}天
^{ほし}の星は^{ちちよう}地上に^お落ちた。まるで、^{あお}いちじくの^み青い^{おお}実が、^お大風に^お揺さぶられて^ゆ振り落とされるようだった。^ふ“天は^お巻物が^{てん}巻き取られるように^{まきもの}消え去り、^{まきもの}山も^さ島も、^さみ
^{ばしょ}な^{うつ}その場所から^{ちじよう}移された。^{おう}“地上の^{こうかん}王、^{せん}高官、^{にんたいちよう}千人隊長、^と富める者、^{もの}力ある者、^{ちから}また、^{もの}奴隷も^{どれい}自由な身分の^{じゆう}者も^{みぶん}ことごとく、^{もの}洞穴や^{ほら}山の^{あな}岩間に^{やま}隠れ、^{いわ}
^{やま}山と^い岩に向かつて、^む「わたしたちの^{うえ}上に^お覆いかぶさつて、^{ぎよく}玉座に^さ座つて^{すわ}おられる^{かた}方の^か顔と^お小羊の^{こひつじ}怒りから、^{いか}わたしたちを^いかくまつてくれ」と^{かみ}言った。^こ“神と小
^{ひつじ}羊の^い怒りの^お大なる^ひ日^きが来たからである。だれがそれに^た耐えられるであろうか。

こくいん お こ
刻印を押されたイスラエルの子ら

7 のち だいち よすみ にん てんし た み かれ だいち よすみ ふ かぜ お だいち うみ き ふ
 'この後、わたしは大地の四隅に四人の天使が立っているのを見た。彼らは、大地の四隅から吹く風をしっかりと押さえ、大地にも海にも、どんな木にも吹きつけ
 ないようにしていた。'わたしはまた、もう一人の天使が生ける神の刻印を持って、太陽の出る方角から上って来るのを見た。この天使は、大地と海とを損なう
 ことを許されている四人の天使に、大声で呼びかけて、こう言った。「我々が、神の僕たちの額に刻印を押してしまふまでは、大地も海も木も損なつては
 ならない。」'わたしは、刻印を押された人々の数を聞いた。それは十四万四千人で、イスラエルの子らの全部族の中から、刻印を押されていた。

族の中から一万二千人が刻印を押され、

ミン族の中から一万二千人、

ミ族の中から一万二千人、

エル族の中から一万二千人、

メタリ族の中から一万二千人、

メセ族の中から一万二千人、

モン族の中から一万二千人、

ミ族の中から一万二千人、

ミカル族の中から一万二千人、

レン族の中から一万二千人、

メフ族の中から一万二千人、

ミヤミン族の中から一万二千人が

刻印を押された。

白い衣を着た大群衆が、白い衣を身につけて、えだもぎよくぎまへこひつじまへたおおごえさけに着け、手になつめやしの枝を持ち、玉座の前と小羊の前に立って、¹⁰大声でこう叫んだ。

「救いは、玉座に座っておられるわたしたちの神と、小羊とのものである。」

¹¹また、天使たちは皆、玉座、長老たち、そして四つの生き物を囲んで立っていたが、玉座の前にひれ伏し、神を礼拝して、¹²こう言った。

「アーメン。賛美、栄光、知恵、感謝、

力、威力が、

限りなくわたしたちの神にありますように、

「アーメン。」

¹³すると、長老の一人がわたしに問いかけた。「この白い衣を着た者たちは、だれか。また、どこから来たのか。」¹⁴そこで、わたしが、「わたしの主よ、それはあなたの方がご存じです」と答えると、長老はまた、わたしに言った。「彼らは大きな苦難を通して来た者で、その衣を小羊の血で洗って白くしたのである。

ゆえ、彼らは神の玉座の前にいて、

よる しんでん かみ つか
も夜もその神 殿で神に仕える。

ざ すわ かた
座に座っておられる方が、

もの うえ まくや は
者たちの上に幕屋を張る。

う かわ
は、もはや飢えることも渴くこともなく、

う あつ
湯も、どのような暑さも、

おそ
うを襲うことはない。

ざ ちゅうおう こひつじ かれ ぼくしゃ
巫の 中 央におられる小 羊 が彼らの牧 者となり、

みず いずみ みちび
の水の 泉 へ 導 き、

かれ め なみだ
が彼らの目から 涙 をことごとく

ぬぐわれるからである。」

だい ふういん ひら
第七の封印が開かれる

8

こひつじ だい ふういん ひら てん ほんじかん ちんもく つつ にん てんし かみ みまえ た み かれ
'小 羊 が第七の封印を開いたとき、天は半時間ほど沈黙に包まれた。²そして、わたしは七人の天使が神の御前に立っているのを見た。彼らには七つのラッパが
あた
与えられた。

べつ てんし き て きん こうろ も さいだん た てんし おお こう わた せい もの いの そ ぎよくざ まえ
³また、別の天使が来て、手に金の香炉を持って祭壇のそばに立つと、この天使に多くの香が渡された。すべての聖なる者たちの祈りに添えて、玉座の前に
きん さいだん ささ こう けむり てんし て せい もの いの とも かみ みまえ た のぼ てんし こうろ と さい
ある金の祭壇に献げるためである。⁴香の 煙 は、天使の手から、聖なる者たちの祈りと共に神の御前へ立ち上った。⁵それから、天使が香炉を取り、それに祭
だん ひ み ちじょう な かみなり おと いなずま じしん お
壇の火を満たして地 上 へ投げつけると、 雷 、さまざまな音、稲妻、地震が起こった。

てんし わざわ
天使のラッパと 災 い

も にん てんし ふ ようい
⁵さて、七つのラッパを持っている七人の天使たちが、ラッパを吹く用意をした。

だい てんし ふ ち ま ひょう ひ しょう ちじょう な い ちじょう ぶん や き ぎ ぶん や
⁶第一の天使がラッパを吹いた。すると、血の混じった 雹 と火とが 生 じ、地 上 に投げ入れられた。地 上 の三分の一が焼け、木々の三分の一が焼け、すべての
あおくさ や
青 草も焼けてしまった。

だい てんし ふ ひ も おお やま うみ な い うみ ぶん ち か ひぞうぶつ うみ す
⁷第二の天使がラッパを吹いた。すると、火で燃えている大きな山のようなものが、海に投げ入れられた。海の三分の一が血に変わり、⁸また、被造物で海に住む
い もの ぶん し ふね ふね ぶん こわ
生き物の三分の一は死に、船という船の三分の一が壊された。

だい てんし ふ たいよう ぶん も おお ほし てん お き かわ かわ ぶん すいげん うえ お
⁹第三の天使がラッパを吹いた。すると、松明のように燃えている大きな星が、天から落ちて来て、川という川の三分の一と、その水源の上に落ちた。¹⁰この
ほし な にが みず ぶん にが にが おお ひと し
星の名は「苦よもぎ」といい、水の三分の一が苦よもぎのように苦くなって、そのために多くの人が死んだ。

だい てんし ふ たいよう ぶん つき ぶん ほし ぶん そこ ぶん くら ひる
¹¹第四の天使がラッパを吹いた。すると、太陽の三分の一、月の三分の一、星という星の三分の一が損なわれたので、それぞれ三分の一が暗くなって、昼はそ
ひかり ぶん うしな よる おな
の 光 の三分の一を 失 い、夜も同じようになった。

み わ わし そらたか と おおごえ い き ふこう ふこう ふこう ちじょう す もの にん てんし ふ
¹²また、見ていると、一羽の鷲が空高く飛びながら、大声でこう言うのが聞こえた。「不幸だ、不幸だ、不幸だ、地 上 に住む者たち。なお三人の天使が吹こう
ひび
としているラッパの響きのゆえに。」

9

だい てんし ふ ほし てん ちじょう お く み ほし そこ ふち つう あな ひら かぎ あた そこ
'第五の天使がラッパを吹いた。すると、一つの星が天から地 上 へ落ちて来るのが見えた。この星に、底なしの淵に通じる穴を開く 鍵が与えられ、²それが底な
ふち あな ひら おお で けむり あな た のぼ たいよう そら あな けむり くら けむり なか む
しの淵の穴を開くと、大きなかまどから出るような 煙 が穴から立ち上り、太陽も空も穴からの 煙 のために暗くなった。³そして、煙 の中から、いなごの群れ
ちじょう で き ち す も ちから あた ち くさ あおもの き そこ
が地 上 へ出て来た。このいなごには、地に住むさそりが持っているような 力 が与えられた。⁴いなごは、地の草やどんな青物も、またどんな木も損なってはなら
ひたい かみ こくいん お ひと がいい わた ころ げつ あいだ くる ゆる
ないが、ただ、額 に神の刻印を押されていない人には害を加えてもよい、と言い渡された。⁵殺してはいけないが、五か月の 間 、苦しめることは許されたので

ある。いなごが与える苦痛は、さそりが人を刺したときの苦痛のようであった。°この人々は、その期間、死にたいと思っても死ぬことができず、切に死を望んでも、死の方が逃げて行く。

さて、いなごの姿は、出陣の用意を整えた馬に似て、頭には金の冠に似たものを着け、顔は人間の顔のようであった。°また、髪は女の髪のように、歯は獅子の歯のようであった。°また、胸には鉄の胸当てのようなものを着け、その羽の音は、多くの馬に引かれて戦場に急ぐ戦車の響きのようであった。°更に、さそりのように、尾と針があつて、この尾には、五か月の間、人に害を加える力があつた。°いなごは、底なしの淵の使いを王としていただいている。その名は、ヘブライ語でアバドンといい、ギリシア語の名はアポリオンという。

°第一の災いが過ぎ去った。見よ、この後、更に二つの災いがやって来る。

°第六の天使がラッパを吹いた。すると、神の御前にある金の祭壇の四本の角から一つの声が聞こえた。°“その声は、ラッパを持っている第六の天使に向かつてこう言った。「大きな川、ユーフラテスのほとりにつながれている四人の天使を放してやれ。」°四人の天使は、人間の三分の一を殺すために解き放された。この天使たちは、その年、その月、その日、その時間のために用意されていたのである。°その騎兵の数は二億、わたしはその数を聞いた。°“わたしは幻の中で馬とそれに乗っている者たちを見たが、その様子はこうであった。彼らは、炎、紫、および硫黄の色の胸当てを着けており、馬の頭は獅子の頭のようで、口からは火と煙と硫黄とを吐いていた。°“その口から吐く火と煙と硫黄、この三つの災いで人間の三分の一が殺された。°馬の力は口と尾にあつて、尾は蛇に似て頭があり、この頭で害を加えるのである。

°これらの災いに遭つても殺されずに残った人間は、自分の手で造つたものについて悔い改めず、なおも、悪霊どもや、金、銀、銅、石、木それぞれで造つた偶像を礼拝することをやめなかった。このような偶像は、見ることも、聞くことも、歩くこともできないものである。°“また彼らは人を殺すこと、まじない、みだらな行い、盗みを悔い改めなかった。

天使が小さな巻物を渡す

10

°わたしはまた、もう一人の力強い天使が、雲を身にまとい、天から降つて来るのを見た。頭には虹をいただき、顔は太陽のようで、足は火の柱のようであり、手には開いた小さな巻物を持っていた。そして、右足で海を、左足で地を踏まえて、獅子がほえるような大声で叫んだ。天使が叫んだとき、七つの雷がそれぞれの声で語つた。°七つの雷が語つたとき、わたしは書き留めようとした。すると、天から声があつて、「七つの雷が語つたことは秘めておけ。それを書き留めてはいけない」と言うのが聞こえた。°すると、海と地の上に立つのをわたしが見たあの天使が、

手を天に上げ、°世々限りなく生きておられる方にかけて誓つた。

すなわち、天とそこにあるもの、地とそこにあるもの、海とそこにあるものを創造された方にかけてこう誓つた。「もはや時がない。°第七の天使がラッパを吹くとき、神の秘められた計画が成就する。それは、神が御自分の僕である預言者たちに良い知らせとして告げられたとおりである。」

°すると、天から聞こえたあの声が、再びわたしに語りかけて、こう言った。「さあ行つて、海と地の上に立っている天使の手にある、開かれた巻物を受け取れ。°“そこで、天使のところへ行き、「その小さな巻物をください」と言つた。すると、天使はわたしに言った。「受け取つて、食べてしまえ。それは、あなたの腹には苦いが、口には蜜のように甘い。」°わたしは、その小さな巻物を天使の手から受け取つて、食べてしまった。それは、口には蜜のように甘かったが、食べると、わたしの腹は苦くなった。°“すると、わたしにこう語りかける声が聞こえた。「あなたは、多くの民族、国民、言葉の違う民、また、王たちについて、再び預言しなければならない。」

二人の証人

11

°それから、わたしは杖のような物差しを与えられて、こう告げられた。「立つて神の神殿と祭壇とを測り、また、そこで礼拝している者たちを数えよ。°しかし、神殿の外の庭はそのままにしておけ。測つてはいけない。そこは異邦人に与えられたからである。彼らは、四十二か月の間、この聖なる都を踏みにするであろう。°わたしは、自分の二人の証人に粗布をまとわせ、千二百六十日の間、預言させよう。°“この二人の証人とは、地上の主の御前に立つ二本のオリーブの木、また二つの燭台である。°この二人に害を加えようとする者があれば、彼らの口から火が出て、その敵を滅ぼすであろう。この二人に害を加えようとする者があれば、必ずこのように殺される。°彼らには、預言をしている間ずっと雨が降らないように天を閉じる力がある。また、水を血に変える力があつて、望みのままに何度でも、あらゆる災いを地に及ぼすことができる。°二人がその証しを終えると、一匹の獣が、底なしの淵から上つて来て彼らと戦つて勝ち、二人を殺してしまう。°彼らの死体は、たとえてソドムとかエジプトとか呼ばれる大きな都の大通りに取り残される。この二人の証人の主も、その都で十字架につけられたのである。°さまたまの民族、しゅぞく、ことば、ちが、たみ、こくみん、ぞく、ひとびと、みつかはん、あいだ、かれ、したい、なが、はか、ほうむ、ゆる、ちじょう、ひとびと、かれ、種族、言葉の違う民、国民に属する人々は、三日半の間、彼らの死体を眺め、それを墓に葬ることは許さないであろう。°地上の人々は、彼らのことでおおよろこぶもの、と、ふたり、よげんしゃ、ちじょう、ひとびと、くる、みつかはん、いのち、いき、かみ、で、ふたり、大いに喜び、贈り物をやり取りするであろう。この二人の預言者は、地上の人々を苦しめたからである。°三日半たつて、命の息が神から出て、この二人はい、かれ、た、あ、み、ひとびと、おお、おそ、ふたり、でん、おお、こえ、のぼ、こ、い、き、くもの、に入つた。彼らが立ち上がると、これを見た人々は大いに恐れた。°二人は、天から大きな声があつて、「ここを上つて来い」と言うのを聞いた。そして雲に乗つて天に上つた。彼らの敵もそれを見た。°そのとき、大地震が起り、都の十分の一が倒れ、この地震のために七千人が死に、残つた人々は恐れを抱いて

てん かみ えいこう
天の神の栄光をたたえた。

だい わざわ す さ み だい わざわ すみ く
14第二の災いが過ぎ去った。見よ、第三の災いが速やかにやって来る。

だい てんし ふ
第七の天使がラツパを吹く

だい てんし ふ てん おおごえ い
15さて、第七の天使がラツパを吹いた。すると、天にさまざまな大声があつて、こう言った。

よ くに われ しゅ
この世の国は、我らの主と、

メシアのものとなった。

よ よ かぎ どうち
ま世々限りなく統治される。」

かみ みまえ ざ つ にん ちょうろう ふ かみ れいはい い
16神の御前で、座に着いていた二十四人の長老は、ひれ伏して神を礼拝し、17こう言った。

ま かた
「おられ、かつておられた方、

うしや かみ しゅ かんしや
能者である神、主よ、感謝いたします。

ちから ふ どうち
いなる力を振るつて統治されたからです。

じん いか くる
人たちは怒り狂い、

いか あらわ
「たも怒りを現された。

や さば とき き
首の裁かれる時が来ました。

しもべ よげんしや せい もの
「たの僕、預言者、聖なる者、

おそ もの
「を畏れる者には、

もの おお もの
大きな者にも大きな者にも

あた
いをお与えになり、

ほろ もの
「滅ぼす者どもを

とき き
「まされる時が来ました。」

てん かみ しんでん ひら しんでん なか けいやく はこ み いなずま おと かみなり じしん お おおつぶ ひょう ふ
18そして、天にある神の神殿が開かれて、その神殿の中にある契約の箱が見え、稲妻、さまざまな音、雷、地震が起こり、大粒の雹が降った。

おんな りゅう
女と竜

12

てん おお あらわ ひとり おんな み たいよう つき あし した あたま ほし かんむり おんな み こ
1「また、天に大きなしるしが現れた。一人の女が身に太陽をまとい、月を足の下にし、頭には十二の星の冠をかぶっていた。2女は身ごもっていたが、子

う いた くる さけ てん あらわ み ひ あか おお りゅう あたま ほん つの
を産む痛みと苦しみのため叫んでいた。3また、もう一つのしるしが天に現れた。見よ、火のように赤い大きな竜である。これには七つの頭と十本の角があつ

あたま かんむり りゅう お てん ほし ぶん は よ ちじょう な りゅう こう おんな まえ た
て、その頭に七つの冠をかぶっていた。4竜の尾は、天の星の三分の一を掃き寄せて、地上に投げつけた。そして、竜は子を産もうとしている女の前に立

わたしはまた、一匹の 獣 が海の中から上って来るのを見た。これには十本の角と七つの 頭 があつた。それらの角には十の王冠があり、 頭 には神を冒瀆する
さまざまの名が記されていた。²わたしが見たこの 獣 は、 豹 に似ており、足は熊の足のようで、口は獅子の口のものであつた。 竜 はこの 獣 に、自分の 力 と
王座と大きな権威とを与えた。³この 獣 の 頭 の一つが傷つけられて、死んだと思われたが、この致命的な傷も治ってしまった。そこで、全地は 驚 いてこの
獣 に服 従 した。⁴ 竜 が自分の権威をこの 獣 に与えたので、人々は 竜 を拝んだ。人々はまた、この 獣 をも拝んでこう言った。「だれが、この 獣 と肩を
並べることができようか。だれが、この 獣 と 戦 うことができようか。」
⁵この 獣 にはまた、大言と冒瀆の言葉を吐く口が与えられ、四十二か月の 間 、活動する権威が与えられた。⁶そこで、 獣 は口を開いて神を冒瀆し、神の
名と神の幕屋、天に住む者たちを冒瀆した。⁷ 獣 は聖なる者たちと 戦 い、これに勝つことが許され、また、あらゆる種族、民族、言葉の違う民、国民を支
配する権威が与えられた。⁸地 上 に住む者で、天地創造の時から、屠られた小 羊 の 命 の書にその名が記されていない者たちは皆、この 獣 を拝むであろ
う。

る者は、聞け。

もの
われるべき者は、

い
われて行く。

もの
で殺されるべき者は、

もの
で殺される。

ここに、聖なる者たちの忍耐と信仰が必要である。

"わたしはまた、もう一匹の 獣 が地 中 から上って来るのを見た。この 獣 は、小 羊 の角に似た二本の角があつて、 竜 のようにものを言っていた。12この 獣 は、先の 獣 が持っていたすべての権 力 をその 獣 の前で振るい、地とそこに住む人々に、致命的な傷が治ったあの先の 獣 を拝ませた。13そして、大きなしるしを行 つて、人々の前で天から地 上 へ火を降らせた。14更に、先の 獣 の前で 行 うことを許されたしるしによつて、地 上 に住む人々を惑わせ、また、 剣 で傷を負つたがなお生きている先の 獣 の像を造るように、地 上 に住む人に命じた。15第二の 獣 は、 獣 の像に息を吹き込むことを許されて、 獣 の像がものを言うことさえできるようにし、 獣 の像を拝もうとしない者があれば、皆殺しにさせた。16また、小さな者にも大きな者にも、富める者にも貧しい者にも、自由な身分の者にも奴隷にも、すべての者にその右手か 額 に刻印を押させた。17そこで、この刻印のある者でなければ、物を買うことも、売ることもしないようになった。この刻印とはあの 獣 の名、あるいはその名の数字である。18ここに知恵が必要である。賢い人は、 獣 の数字にどのような意味があるかを 考 えるがよい。数字は人間を指している。そして、数字は六百六十六である。

十四万四千人の歌

14

'また、わたしが見ていると、見よ、小 羊 がシオンの山に立っており、小 羊 と共に十四万四千人の者たちがいて、その 額 には小 羊 の名と、小 羊 の父の名とがしる。2わたしは、大水のとどろくような音、また激しい 雷 のような音が天から響くのを聞いた。わたしが聞いたその音は、琴を弾く者たちが豎琴をひ弾いているようであつた。3彼らは、玉 座の前、また四つの生き物と 長 老たちの前で、新 しい歌のたぐいをうたつた。この歌は、地 上 から 贖 われた十四万四千人の者たちのほかは、覚えることができなかった。4彼らは、女に触れて身を汚したことのない者である。彼らは童貞だからである。この者たちは、小 羊 の行くところへは、どこへでも 従 つて行く。この者たちは、神と小 羊 に献げられる初穂として、人々の中から 贖 われた者たちで、5その口には 偽 りがなく、とがめられるところのない者たちである。

三人の天使の言葉

6わたしはまた、別の天使が空 高く飛ぶのを見た。この天使は、地 上 に住む人々、あらゆる国民、種 族、言葉の違う民、民族に告げ知らせるために、永遠の福音を 携 えて来て、7大声で言つた。「神を畏れ、その栄光をたたえなさい。神の裁きの時が来たからである。天と地、海と水の 源 を創造した方を礼拝しなさい。」8また、別の第二の天使が続いて来て、こう言つた。「倒れた。大バビロンが倒れた。怒りを招くみだらな 行 いのぶどう酒を、諸国の民に飲ませたこの都が。」9また、別の第三の天使も続いて来て、大声でこう言つた。「だれでも、 獣 とその像を拝み、 額 や手にこの 獣 の刻印を受ける者があれば、10その者自身も、神の怒りの 杯 に混ぜものなしに注がれた、神の怒りのぶどう酒を飲むことになり、また、聖なる天使たちと小 羊 の前で、火と硫黄で苦しめられることになる。11その苦しみの 煙 は、世々限りなく立ち上り、 獣 とその像を拝む者たち、また、だれでも 獣 の名の刻印を受ける者は、昼も夜も安らぐことはない。」12ここに、神の 掟 を守り、イエスに対する信仰を守り続ける聖なる者たちの忍耐が必要である。13また、わたしは天からこう告げる声聞いた。「書き記せ。『今から後、主に結ばれて死ぬ人は 幸 いである』と。』`霊`も言う。「然り。彼らは労苦を解かれて、安らぎを得る。その 行 いが報われるからである。」

鎌が地に投げ入れられる

"また、わたしが見ていると、見よ、白い雲が 現 れて、人の子のような方がその雲の上に座っており、 頭 には金の 冠 をかぶり、手には 鋭 い鎌を持つておられた。14すると、別の天使が神殿から出て来て、雲の上に座っておられる方に向かって大声で叫んだ。「鎌を入れて、刈り取ってください。刈り入れの時が来ました。地 上 の穀物は実っています。」15そこで、雲の上に座っておられる方が、地に鎌を投げると、地 上 では刈り入れが 行 われた。16また、別の天使が天にある神殿から出て来たが、この天使も手に 鋭 い鎌を持つていた。17すると、祭壇のところから、火をつかさどる権威を持つ別の天使が出て来て、 鋭 い鎌を持つ天使に大声でこう言つた。「その 鋭 い鎌を入れて、地 上 のぶどうの房を取り入れよ。ぶどうの実は既に 熟 している。」18そこで、その天使は、地に鎌を投げ入れて地 上 のぶどうを取り入れ、これを神の怒りの大きな搾り桶に投げ入れた。19搾り桶は、 都 の外で踏まれた。すると、血が搾り

おけ　なが　で　うま　とど　ひろ
桶から流れ出て、馬のくつわに届くほどになり、千六百スタディオンにわたって広がった。

さいご　わざわ
最後の七つの 災 い

15

てん　おお　おどろ　み　にん　てんし　さいご　わざわ　たずさ　わざわ　かみ　いか　きわ　たつ
‘わたしはまた、天にもう一つの大きな 驚 くべきしるしを見た。七人の天使が最後の七つの 災 いを 携 えていた。これらの 災 いで、神の怒りがその極みに達するのである。

ひ　ま　うみ　み　さら　けもの　か　ぞう　か　な　すうじ　か　もの　み　かれ　かみ　たてごと
‘わたしはまた、火が混じったガラスの海のようなものを見た。更に、 獣 に勝ち、その像に勝ち、またその名の数字に勝った者たちを見た。彼らは神の 豎 琴を
て　うみ　きし　た　かれ　かみ　しもべ　うた　こひつじ　うた
手にして、このガラスの海の岸に立っていた。’
‘彼らは、神の 僕 モーセの歌と小 羊 の歌とをうたった。

んのうしや　かみ　しゆ
能 者である神、主よ、

わざ　いだい
‘たの業は偉大で、

く　くべきもの。

く　たみ　おう
国の民の王よ、

みち　ただ　しんじつ
‘たの道は正しく、また、真 実なもの。

な　おそ
、だれがあなたの名を 畏れず、

えずにおられましょうか。

かた
なる方は、あなただけ。

こくみん　き
‘ての国 民が、来て、

まえ　ふ
あなたの前にひれ伏すでしょう。

ただ　さば
‘たの正しい裁きが、

うかになったからです。」

のち　み　てん　あか　まくや　しんでん　ひら　しんでん　わざわ　たずさ　にん　てんし　で　き　てんし
‘この後、わたしが見ていると、天にある証しの幕屋の神殿が開かれた。’そして、この神殿から、七つの 災 いを 携 えた七人の天使が出て来た。天使たち
かがや　きよ　あまぬの　ころも　き　むね　きん　おび　し　い　もの　なか　よ　よかぎ　い　かみ　いか　も　きん
は、輝 く 清い亜麻布の 衣 を着て、胸に金の帯を締めていた。’そして、四つの生き物の中の一つが、世々限りなく生きておられる神の怒りが盛られた七つの金
はち　にん　てんし　わた　しんでん　かみ　えいこう　ちから　た　のぼ　けむり　み　にん　てんし　わざわ　お　しんでん
の鉢を、この七人の天使に渡した。’この神殿は、神の栄光とその 力 とから立ち上る 煙 で満たされ、七人の天使の七つの 災 いが終わるまでは、だれも神殿
なか　はい
の中に入るができなかった。

かみ　いか　ち　はち
神の怒りを盛った七つの鉢

16

おお　こえ　しんでん　で　にん　てんし　い　き　い　はち　も　かみ　いか　ちじょう　そそ
‘また、わたしは大きな声が神殿から出て、七人の天使にこう言うのを聞いた。「行つて、七つの鉢に盛られた神の怒りを地 上 に注ぎなさい。」

だい　てんし　で　い　はち　なかみ　ちじょう　そそ　けもの　こくいん　お　にんげん　けもの　ぞう　れいはい　もの　あくせい　もの
‘そこで、第一の天使が出て行つて、その鉢の中身を地 上 に注ぐと、 獣 の刻印を押されている人間たち、また、 獣 の像を礼拝する者たちに悪性ののはれ物
ができた。

だい　てんし　はち　なかみ　うみ　そそ　うみ　しにん　ち　なか　い　もの　し
‘第二の天使が、その鉢の中身を海に注ぐと、海は死人の血のようになって、その中の生き物はすべて死んでしまった。

だい　てんし　はち　なかみ　かわ　みず　みなもと　そそ　みず　ち　みず　てんし　い　き
‘第三の天使が、その鉢の中身を川と水の 源 に注ぐと、水は血になった。’そのとき、わたしは水をつかさどる天使がこう言うのを聞いた。

ま
おられ、かつておられた聖なる方、

ただ かた
わたしは正しい方です。

さば
のような裁きをしてくださったからです。

の
子どもは、聖なる者たちと

よげんしゃ ち なが
預言者たちとの血を流しましたが、

かれ ち の
わたしは彼らに血をお飲ませになりました。

とうぜん
いは当然なことです。」

さいだん い き
わたしはまた、祭壇がこう言うのを聞いた。

か ぜんのうしや かみ しゆ
まり、全能者である神、主よ、

さば しんじつ ただ
わたの裁きは真実で正しい。」
だい てんし はち なかみ たいよう そそ たいよう にんげん ひ や ゆる にんげん はげ ねつ や わざわ しはい けんい も かみ
「第四の天使が、その鉢の中身を太陽に注ぐと、太陽は人間を火で焼くことを許された。人間は、激しい熱で焼かれ、この災いを支配する権威を持つ神の
な ぼうとく く あらた かみ えいこう
名を冒瀆した。そして、悔い改めて神の栄光をたたえることをしなかった。

だい てんし はち なかみ けもの おうざ そそ けもの しはい くに やみ おお ひとびと くる じぶん した くつう もの
「第五の天使が、その鉢の中身を獣の王座に注ぐと、獣が支配する国は闇に覆われた。人々は苦しみもだえて自分の舌をかみ、
てん かみ ぼうとく おこな く あらた
「苦痛とはれ物のゆえに
天の神を冒瀆し、その行いを悔い改めようとはしなかった。

だい てんし はち なかみ おお かわ みず ひ で ぼうがく く おう みち りゆう うち
「第六の天使が、その鉢の中身を大きな川、ユーフラテスに注ぐと、川の水がかれて、日の出る方角から来る王たちの道ができた。
けもの うち にせよげんしや うち かえる けが れい で く み おこな あくれい れい ぜん せかい
「わたしはまた、竜の口から、獣の口から、そして、偽預言者の口から、蛙のような汚れた三つの霊が出て来るのを見た。
おう で い ぜんのうしや かみ おお ひ たたか そな かれ あつ み ぬすびと く はだか
「これはしるしを行 う悪霊どもの霊であつて、全世界の王たちのところへ出て行つた。それは、全能者である神の
ある み はじ め さ ころも み つ ひと さいわ けが れい ご よ
「戦いに備えて、彼らを集めるためである。
「見よ、わたしは盗人のように来る。裸で歩くのを見られて恥をかかないように、目を覚まし、衣を身に着けている人は幸いである。
「汚れた霊どもは、ヘブライ語で「ハルマゲドン」と呼ばれるところ
おう あつ
「に、王たちを集めた。

だい てんし はち なかみ こうちゆう そそ しんでん ぎよくざ おおごえ き こと じょうじゆ い いなずま おと かみなり お
「第七の天使が、その鉢の中身を空中に注ぐと、神殿の玉座から大声が聞こえ、
だい じしん お にんげん ちじょう あらわ いらい おおじしん おお みやこ ひ さ
「事は成就した」と言つた。
「そして、稲妻、さまざまな音、雷が起
こり、また、大きな地震が起きた。それは、人間が地上に現れて以来、いまだかつてなかったほどの大地震であつた。
しよく たみ ぼうぼう まち たお かみ だい おも だ ごじぶん はげ いか しゆ さかずき あた しま に さ やま
「あゝの大きな都が三つに引き裂かれ、諸国の民の方々の町が倒れた。神は大バビロンを思い出して、御自分の激しい怒りのぶどう酒の杯をこれにお与えになつた。
やま き おも おおつぶ ひょう てん ひとびと うえ ふ ひとびと ひょう がい う かみ ぼうとく ひが
「すべての島は逃げ去り、山々も消えうせた。
「タラントンの重さほどの大粒の雹が、天から人々の上に降つた。人々は雹の害を受けたので、神を冒瀆した。その被害があまりにも
はなは
「甚だしかったからである。

だいいんぶ さば
大淫婦が裁かれる

17

はち も にん てんし ひとり き かた き おお みず うえ すわ だいいんぶ たい さば み ちじょう
「さて、七つの鉢を持つ七人の天使の一人が来て、わたしに語りかけた。「ここへ来なさい。多くの水の上に座っている大淫婦に対する裁きを見せよう。
おう おんな けもの ちじょう す ひとびと おんな おこな しゆ よ てんし れい み
「地上の王たちは、この女とみだらなことをし、地上に住む人々は、この女のみだらな行いのぶどう酒に酔つてしまつた。」
あ の つ い あか けもの ひとり おんな み けもの ぜんしんいた かみ ぼうとく かずかず な おお
「そして、この天使は、
「霊に満たされたわたしを荒れ野に連れて行つた。わたしは、赤い獣にまたがっている一人の女を見た。この獣は、全身至るところ神を冒瀆する数々の名で覆われてお
あたま ぼん つの おんな むらさき あか ころも き きん ほうせき しんじゆ み かざ い じぶん おこな けが み きん
「その女は、紫と赤の衣を着て、金と宝石と真珠で身を飾り、忌まわしいものや、自分のみだらな行いの汚れで満ちた金
さかずき て も ひたい ひ い み な しる だい おんな ちじょう い もの はは
「の杯を手持っていた。
「その額には、秘められた意味の名が記されていたが、それは、
な おんな せい もの ち しょうにん ち よ み
「大バビロン、みだらな女たちや、地上の忌まわしい者たちの母」という名である。
「わたしは、この女が聖なる者たちの血と、イエスの証人たちの血に酔いしれているのを見た。

おんな み おお おどろ てんし い おどろ おんな ひ い み おんな の けもの
「この女を見て、わたしは大いに驚いた。
「天使がわたしにこう言つた。
あたま ぼん つの けもの ひ い み し み けもの いぜん いま そこ ふち のぼ く
「なぜ驚くのか。わたしは、この女の秘められた意味と、女を乗せた獣、七つの頭と十本の角がある獣の秘められた意味とを知らせよう。
ほろ ちじょう す もの てんちそうぞう とき いのち しょ な しる もの いぜん いま けもの く み おどろ
「あなたが見た獣は以前はいたが、今はいない。やがて底なしの淵から上つて来るが、ついには滅びてしまう。
地上に住む者で、天地創造の時から命の書にその名が記されていない者たちは、以前いて今はいないこの獣が、やがて来るのを見て驚

くであろう。°ここに、知恵のある 考 えが必要である。七つの 頭 とは、この 女 が座っている七つの丘のことである。そして、ここに七人の王がいる。°五人は
すで たお ひとり いまおう くらい た ひとり あらわ おう あらわ くらい みじか きかん いぜん
既に倒れたが、一人は今王の 位 についている。他の一人は、まだ 現 れていないが、この王が 現 れても、 位 にとどまるのはごく 短 い期間だけである。°11以前
いて、今はいない 獣 は、第八の者で、またそれは先の七人の中の一人なのだが、やがて滅びる。°12また、あなたが見た十本の角は、十人の王である。彼らはま
だ国を治めていないが、ひとときの 間 、 獣 と共に王の権威を受けるであろう。°13この者どもは、 心 を一つにしており、自分たちの 力 と権威を 獣 にゆだね
る。°14この者どもは小 羊 と 戦 うが、小 羊 は主の主、王の王だから、彼らに打ち勝つ。小 羊 と共にいる者、召された者、選ばれた者、 忠 実な者たちもま
た、 勝 利を収める。」
°15天使はまた、わたしに言った。「あなたが見た水、あの淫婦が座っている 所 は、さまざまの民族、群 衆 、国民、言葉の違う民である。°16また、あなたが見
た十本の角とあの 獣 は、この淫婦を憎み、身に着けた物をはぎ取って 裸 にし、その肉を食い、火で焼き尽くすであろう。°17神の言葉が 成 就するときまで、神
は彼らの 心 を動かして御 心 を 行 わせ、彼らが 心 を一つにして、自分たちの支配 権を 獣 に与えるようにされたからである。°18あなたが見た 女 とは、地 上
の王たちを支配しているあの大きな 都 のことである。」

18
°19その後、わたしは、大きな権威を持っている別の天使が、天から降って来るのを見た。地 上 はその栄光によって 輝 いた。°2天使は 力 強い声で叫んだ。

お だい たお
割れた。大バビロンが倒れた。

てんし あくれい す
て、そこは悪 霊 どもの住みか、

けが れい そうくつ
ゆる汚れた霊の巢 窟 、

けが とり そうくつ
ゆる汚れた鳥の巢 窟 、

けが い けもの そうくつ
ゆる汚れた忌まわしい 獣 の巢 窟 となった。

くに たみ
ての国の民は、

まね かのじょ おこな しゅ の
りを招く彼女のみだらな 行 いのぶどう酒を飲み、

よう おう かのじょ
上 の王たちは、彼女とみだらなことをし、

よう しょうにん
上 の 商 人 たちは、

よ ごうせい
女の豪 勢 なぜいたくによって

とみ きず
富を築いたからである。」
てん べつ こえ い き
°わたしはまた、天から別の声がこう言うのを聞いた。

たみ かのじょ はな さ
つたしの民よ、彼女から離れ去れ。

つみ くわ
罪に加わったり、

わざわ ま こ
災 いに巻き込まれたりしないようにせよ。

つみ つ かさ てん とど
の罪は積み重なって天にまで届き、

ふ ぎ おぼ
まその不義を覚えておられるからである。

がしたとおりに、

よ し かえ
女に仕返しせよ、

よ し わざ おう ばい かえ
女の仕業に応じ、倍にして返せ。

よ そそ さかずき
女が注いだ 杯 に、

ばい そそ
10倍も注いでやれ。

たか
がおごり高ぶって、

く
ぜいたくに暮らしていたのと、

くる かな
ごだけの苦しみと悲しみを、

よ あた
女に与えよ。

よ ころ なか い
女は 心 の中でこう言っているからである。

じょおう ぎ つ
わたしは、女王の座に着いており、

めなどではない。

かな め あ
『て悲しい目に遭いはしない。』

にち わざわ
ゆえ、一日のうちに、さまざまの 災 いが、

かな う かのじょ おそ
悲しみと飢えとが彼女を襲う。

かのじょ ひ や
2、彼女は火で焼かれる。

よ さば かみ
女を裁く神は、

ある主だからである。」

かのじょ く ちじょう おう かのじょ や けむり み な かな かのじょ くる み おそ とお た
9彼女とみだらなことをし、ぜいたくに暮らした地 上 の王たちは、彼女が焼かれる 煙 を見て、そのために泣き悲しみ、¹⁰彼女の苦しみを見て恐れ、遠くに立
ってこう言う。

、こう　ふこう　おお　みやこ
「幸だ、不幸だ、大いなる　都　、

うだい　みやこ
大な　都　バビロン、

え　　あいだ　さば
「は、ひとときの　間　に裁かれた。」
ちじょう　しょうにん　かのじょ　　な　　かな　　かれ　　しょうひん　　か　　もの　　しょうひん　　きん　　ぎん　　ほうせき　　しんじゆ　　あさ　　ぬの
"地　上　の　商　人たちは、彼女のために泣き悲しむ。もはやだれも彼らの　商　品を買う者がいないからである。¹²その　商　品とは、金、銀、宝　石、真　珠、麻の布
むらさき　ぬの　きぬじ　あか　ぬの　　こう　　き　　ぞうげざいく　　こう　か　　もくざい　　せいどう　　てつ　　だいらせき
、　紫　の布、絹地、赤い布、あらゆる香ばしい木と象牙細工、そして、高価な木材や、青銅、鉄、大理石などでできたあらゆる　器　、¹³肉桂、香　料　、香、
こうゆ　　にゅうこう　　しゆ　　ゆ　　むぎこ　　こむぎ　　かちく　　ひつじ　　うま　　ばしや　　どれい　　にんげん
香油、乳　香、ぶどう酒、オリーブ油、麦粉、小麦、家畜、　羊　、馬、馬車、奴隸、人間である。

　　のぞ　　くだもの
の望んでやまない果物は、

え　　とお　　い
「から遠のいて行き、

　　もの　　もの
「な物、きらびやかな物はみな、

え　　き
「のところから消えうせて、

　　けつ　　み
「や決して見られない。
しょうひん　あつか　　かのじょ　　とみ　　え　　しょうにん　　かのじょ　　くる　　み　　おそ　　とお　　た　　な　　かな　　い
¹⁵このような　商　品を　扱　って、彼女から富を得ていた　商　人たちは、彼女の苦しみを見て恐れ、遠くに立つて、泣き悲しんで、¹⁶こう言う。

、こう　ふこう　おお　　みやこ
「幸だ、不幸だ、大いなる　都　、

ぬの　　むらさき　ぬの　あか　ぬの
り布、また、　紫　の布や赤い布をまとい、

　　ほうせき　しんじゆ　かざ　　つ　　みやこ
と宝　石と真　珠の飾りを着けた　都　。

　　とみ　　あいだ
ほどの富が、ひとときの　間　に、

あ　　は
「荒れ果ててしまうとは。」
せんちょう　えんがん　こうかい　　もの　　ふなの　　うみ　　はたら　　もの　　とお　　た　　かのじょ　　や　　けむり　　み
また、すべての船　長、沿岸を航海するすべての者、船乗りたち、海で　働　いているすべての者たちは、遠くに立ち、¹⁸彼女が焼かれる　煙　を見て、「これほど
おお　　みやこ　　さけ　　かれ　　あたま　　ちり　　な　　かな　　さけ
大きい　都　がほかにあっただろうか」と叫んだ。¹⁹彼らは　頭　に塵をかぶり、泣き悲しんで、こう叫んだ。

、こう　ふこう　おお　　みやこ
「幸だ、不幸だ、大いなる　都　、

ふね　も　もの　みな
こ船を持つ者が皆、

みやこ　　こう　か　　もの　　と　　ひ
この　都　で、高価な物を取り引きし、

かになったのに、

　　あいだ　あ　　は
:ときの　間　に荒れ果ててしまうとは。」

みやこ よろこ
、この 都 のゆえに 喜 べ。

もの し と よげんしゃ よろこ
なる 者たち、使徒たち、預言 者たちよ、 喜 べ。

よ、あなたがたのために

みやこ さば
) 都 を裁かれたからである。
ちからづよ てんし おお うす いし と あ うみ な こ い
すると、ある 力 強い天使が、大きいひき白のような石を取り上げ、それを海に投げ込んで、こう言った。

お みやこ
ていなる 都 、バビロンは、

あらあら な だ
)ように荒 々しく投げ出され、

けつ み
とや決して見られない。

こ ひ もの かな ね うた もの こえ
を弾く 者の奏でる音、歌をうたう者の 声、

ふ もの な もの がく ね
を吹く 者やラッパを鳴らす 者の楽の音は、

けつ まえ き
とや決してお前のうちには聞かれない。

ぎじゅつ み つ もの ひとり
ゆる技 術 を身に着けた者たちもだれ一人、

けつ まえ み
とや決してお前のうちには見られない。

うす おと
臼の音もまた、

けつ まえ き
とや決してお前のうちには聞かれない。

び あ
し火の明かりも、

けつ まえ かがや
とや決してお前のうちには 輝 かない。

こ はなよめ こえ
薔や花 嫁の 声も、

けつ まえ き
とや決してお前のうちには聞かれない。

まえ しょうにん
『なら、お前の 商 人たちが

ちじょう けんりよくしゃ
地 上 の権 力 者となったからであり、

まえ まじゅつ
、お前の魔 術 によって

すべての国の民が惑わされ、

者たちと聖なる者たちの血、

上で殺されたすべての者の血が、

都で流されたからである。」

19その後、わたしは、大群衆の大声のようなものが、天でこう言うのを聞いた。

ハレルヤ。

いと栄光と力とは、わたしたちの神のもの。

裁きは真実で正しいからである。

なら行いで

上を墮落させたあの大淫婦を裁き、

自分の僕たちの流した血の復讐を、

女になさったからである。」

、こうも言った。

ハレルヤ。

淫婦が焼かれる煙は、世々限りなく立ち上る。」

そこで、二十四人の長老と四つの生き物とはひれ伏して、玉座に座っておられる神を礼拝して言った。

「アーメン、ハレルヤ。」

小羊の婚宴

また、玉座から声がして、こう言った。

すべて神の僕たちよ、

を畏れる者たちよ、

小さな者も大きな者も、

かみ
わたしたちの神をたたえよ。」
だいぐんしゅう ごえ
わたしはまた、大群衆の声のようなもの、多くの水のとどろきや、激しい雷のようなものが、こう言うのを聞いた。

レルヤ、

うしや
耑者であり、

かみ しゅ おう
わたしたちの神である主が王となられた。

よろこ おお よろこ
私たちは喜び、大いに喜び、

えいこう
り栄光をたたえよう。

つじ こんれい ひ き
羊の婚礼の日が来て、

め ようい ととの
家は用意を整えた。

かがや きよ あさ ころも き
は、輝く清い麻の衣を着せられた。

あさ ころも
麻の衣とは、

せい もの ただ おこな
聖なる者たちの正しい行いである。」
てんし か しる こひつじ こんえん まね もの さいわ い
それから天使はわたしに、「書き記せ。小羊の婚宴に招かれている者たちは幸いです」と言い、また、「これは、神の真実の言葉である」とも言った。¹⁰わたしは天使を拝もうとしてその足もとにひれ伏した。すると、天使はわたしにこう言った。「やめよ。わたしは、あなたやイエスの証しを守っているあなたの兄弟たちと共に、仕える者である。神を礼拝せよ。イエスの証しは預言の霊なのだ。」

はくば きしゆ
白馬の騎手
てん ひら み み しろ うま あらわ の かた せいじつ しんじつ よ せいぎ
¹¹そして、わたしは天が開かれているのを見た。すると、見よ、白い馬が現れた。それに乗っている方は、「誠実」および「真実」と呼ばれて、正義をもって裁き、また戦われる。¹²その目は燃え盛る炎のようで、頭には多くの王冠があった。この方には、自分のほかはだれも知らない名が記されていた。¹³また、血に染まった衣を身にまとい、その名は「神の言葉」と呼ばれた。¹⁴そして、天の軍勢が白い馬に乗り、白く清い麻の布をまとい、この方に従っていた。¹⁵この方の口からは、鋭い剣が出ている。諸国の民をそれで打ち倒すのである。また、自ら鉄の杖で彼らを治める。この方はぶどう酒の搾り桶を踏み、これには全能者である神の激しい怒りが込められている。¹⁶この方の衣と腿のあたりには、「王の王、主の主」という名が記されていた。
ひとり てんし たいよう なか た み てんし おおごえ さけ そらたか と とり い かみ だいえんかい
¹⁷わたしはまた、一人の天使が太陽の中に立っているのを見た。この天使は、大声で叫び、空高く飛んでいるすべての鳥にこう言った。「さあ、神の大宴会に集まれ。¹⁸王の肉、千人隊長の肉、権力者の肉を食べよ。また、馬とそれに乗る者の肉、あらゆる自由な身分の者、奴隷、小さな者や大きな者たちの肉を食べよ。」¹⁹わたしはまた、あの獣と、地上の王たちとその軍勢とが、馬に乗っている方とその軍勢に対して戦うために、集まっているのを見た。²⁰しかし、獣は捕らえられ、また、獣の前でしるしを行った偽預言者も、一緒に捕らえられた。このしるしによって、獣の刻印を受けた者や、獣の像を拝んでいた者どもは、惑わされていたのであった。獣と偽預言者の両者は、生きたまま硫黄の燃えている火の池に投げ込まれた。²¹残りの者どもは、馬に乗っている方の口から出ている剣で殺され、すべての鳥は、彼らの肉を飽きるほど食べた。

ねんかん しはい
千年間の支配
20
ひとり てんし そこ ふち かぎ おお くさり て てん くだ く み てんし あくま とし へ
わたしはまた、一人の天使が、底なしの淵の鍵と大きな鎖とを手にして、天から降って来るのを見た。²この天使は、悪魔でもサタンでもある、年を経たあのへび、つまり竜を取り押さえ、千年の間縛っておき、³底なしの淵に投げ入れ、鍵をかけ、その上に封印を施して、千年が終わるまで、もうそれ以上、諸国の民を惑わさないようにした。その後で、竜はしばらくの間、解放されるはずである。
おお ざ み うえ すわ もの かれ さば ゆる あか かみ ことば
⁴わたしはまた、多くの座を見た。その上には座っている者たちがおり、彼らには裁くことが許されていた。わたしはまた、イエスの証しと神の言葉のために、

くび もの たましい み もの そう おが ひたい て けもの こくいん う かれ い かえ とも
首をはねられた者たちの 魂 を見た。この者たちは、あの 獣 もその像も拝まず、 額 や手に 獣 の刻印を受けなかった。彼らは生き返って、キリストと共に千
ねん あいだとうち た ししや ねん い かえ だいい ふつかつ だいい ふつかつ もの さいわ もの せい もの
年の 間 統治した。°その他の死者は、千年たつまで生き返らなかつた。これが第一の復活である。°第一の復活にあずかる者は、 幸 いな者、聖なる者である。
もの たい だいい だいい し なん ちから かれ かみ さいし ねん あいだ とも とうち
この者たちに対して、第二の死は何の 力 もない。彼らは神とキリストの祭司となつて、千年の 間 キリストと共に統治する。

はいぼく
サタンの敗北

ねん お ろう かいほう ちじょう ほう しょくく たみ まど で い かれ あつ たたか
°この千年が終わると、サタンはその牢から解放され、°地 上 の四方にいる諸国の民、ゴグとマゴグを惑わそうとして出て行き、彼らを集めて 戦 わせようとする。
かず うみ すな おお かれ ちじょう ひろ ばしよ せ のぼ い せい もの じんえい あい みやこ かこ てん ひ くだ
る。その数は海の砂のように多い。°彼らは地 上 の広い場所に攻め上つて行つて、聖なる者たちの陣営と、愛された 都 とを囲んだ。すると、天から火が下つ
き かれ や つ かれ まど あくま ひ いおう いけ な こ けもの にせよげんしや もの ひる
て来て、彼らを焼き尽くした。°そして彼らを惑わした悪魔は、火と硫黄の池に投げ込まれた。そこにはあの 獣 と偽預言 者がいる。そして、この者どもは昼も
よる よよかぎ せ
夜も世々限りなく責めさいなまれる。

さいご さいば
最後の裁き

おお しろ ぎよくご すわ かた み てん ち みまえ に い ゆくえ わ ししや
°わたしはまた、大きな白い 玉 座と、そこに座つておられる方とを見た。天も地も、その御前から逃げて行き、行方が分からなくなつた。°わたしはまた、死者
おお もの ちい もの ぎよくご まえ た み いく しょもつ ひら しょもつ ひら いのち しょ ししや
たちが、大きな者も小さな者も、 玉 座の前に立っているのを見た。幾つかの書物が開かれたが、もう一つの書物も開かれた。それは 命 の書である。死者た
しょもつ か もと かれ おこな おう しば うみ なか ししや そと だ し よみ なか ししや
ちは、これらの書物に書かれていることに基づき、彼らの 行 いに応じて裁かれた。°海は、その中にいた死者を外に出した。死と陰府も、その中にいた死者を
だ かれ じぶん おこな おう しば し よみ ひ いけ な こ ひ いけ だいい し な いのち しょ しる
出し、彼らはそれぞれ自分の 行 いに応じて裁かれた。°死も陰府も火の池に投げ込まれた。この火の池が第二の死である。°その名が 命 の書に記されていない
もの ひ いけ な こ
者は、火の池に投げ込まれた。

あたら てん あたら ち
新 しい天と新 しい地

21

あたら てん あたら ち み さいしょ てん さいしょ ち さ い うみ さら せい みやこ あたら
°わたしはまた、新 しい天と新 しい地を見た。最初の天と最初の地は去つて行き、もはや海もなくなつた。°更にわたしは、聖なる 都 、新 しいエルサレム
おつと きかご はなよめ ようい ととの かみ はな てん くだ く み ぎよくご かた おお こえ き
が、夫 のために着飾つた花嫁のように用意を 整 えて、神のもとを離れ、天から下つて来るのを見た。°そのとき、わたしは 玉 座から語りかける大きな声を聞
み かみ まくや ひと あいだ かみ ひと とも す ひと かみ たみ かみ みずか ひと とも かみ かれ め なみだ
いた。「見よ、神の幕屋が人の 間 にあつて、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は 自 ら人と共にいて、その神となり、°彼らの目の 涙 をことごとく
と し かな なげ ろうく さいしょ す さ
ぬぐい取つてくださる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のものは過ぎ去つたからである。」

ぎよくご すわ かた み ぼんぶつ あたら い か しる ことば しんらい しんじつ い
°すると、 玉 座に座つておられる方が、「見よ、わたしは万物を 新 しくする」と言い、また、°書き記せ。これらの言葉は信頼でき、また真実である。」と言
われた。°また、わたしに言われた。「事は 成 就した。わたしはアルファであり、オメガである。初めであり、終わりでである。渴いている者には、 命 の水の 泉
あたい の しょうり え もの う つ もの かみ もの こ もの ふ
から 価 なしに飲ませよう。°勝利を得る者は、これらのものを受け継ぐ。わたしはその者の神になり、その者はわたしの子となる。°しかし、おくびょうな者、不
しんこう もの い もの ひと ころ もの おこな もの まじゆつ つか もの ぐうぞう おが もの い もの たい むく
信仰な者、忌まわしい者、人を殺す者、みだらな 行 いをする者、魔 術 を使う者、偶像を拝む者、すべてうそを言う者、このような者たちに対する報い
ひ いおう も いけ だいい し
は、火と硫黄の燃える池である。それが、第二の死である。」

あたら
新 しいエルサレム

さいご わざわ み はち も にん てんし なか ひとり き かた い き こひつじ つま
°さて、最後の七つの 災 いの満ちた七つの鉢を持つ七人の天使がいたが、その中の一人が来て、わたしに語りかけてこう言つた。「ここへ来なさい。小 羊 の妻
はなよめ み てんし れい み おお たか やま つ い せい みやこ かみ はな てん くだ
である花嫁を見せてあげよう。」°この天使が、°霊 に満たされたわたしを大きな高い山に連れて行き、聖なる 都 エルサレムが神のもとを離れて、天から下
く み みやこ かみ えいこう かがや かがや さいこう ほうせき す とお へきぎよく みやこ たか おお じょう
つて来るのを見せた。° 都 は神の栄光に 輝 いていた。その 輝 きは、最高の宝 石 のようであり、透き通つた碧 玉 のようであつた。° 都 には、高い大きな 城
へき もん もん にん てんし な きご こ ぶぞく な ひがし もん きた もん
壁と十二の門があり、それらの門には十二人の天使がいて、名が刻みつけてあつた。イスラエルの子らの十二部族の名であつた。° 東 に三つの門、北に三つの門
みなみ もん にし もん みやこ じょうへき はか きん ものさ も みやこ しかく かたち なが はば おな てんし
、南に三つの門、西に三つの門があつた。° 都 の 城 壁には十二の土台があつて、それには小 羊 の 十二使徒の十二の名が刻みつけてあつた。
かた てんし みやこ もん じょうへき はか きん ものさ も みやこ しかく かたち なが はば おな てんし
°わたしに語りかけた天使は、 都 とその門と 城 壁とを測るために、金の物差しを持っていた。°この 都 は四角い 形 で、長さと同じであつた。天使が
ものさ みやこ はか まん なが はば たか おな じょうへき はか にんげん ものさ
物差しで 都 を測ると、一万二千スタディオンあつた。長さも幅も高さも同じである。°また、 城 壁を測ると、百四十四ペキスであつた。これは人間の物差し
はか てんし もち みやこ じょうへき へきぎよく きず みやこ す とお じゆんきん みやこ じょうへき ど
によつて測つたもので、天使が用いたものもこれである。° 都 の 城 壁は碧 玉 で築かれ、 都 は透き通つたガラスのような 純 金であつた。° 都 の 城 壁の土
だいいし ほうせき かご だいい どだいいし へきぎよく だいい せいぎよく だいい せいぎざいしろう だいい あかしま だいい あか
台 石は、あらゆる宝 石 で飾られていた。第一の土台 石は碧 玉、第二はサファイア、第三はめのう、第四はエメラルド、°第五は赤 縞めのう、第六は赤めの
だい せき だいい りよくちゅうせき だいい おうぎよく だいい せいぎよく だいい せいぎざいしろう だいい せいぎざいしろう だいい せいぎざいしろう だいい せいぎざいしろう
う、第七はかんらん 石、第八は 緑 柱 石、第九は黄 玉、第十はひすい、第十一は青 玉、第十二は 紫 水 晶 であつた。°また、十二の門は十二の真珠で
もん もん こ しんじゆ みやこ おおどお す とお じゆんきん
あつて、どの門もそれぞれ一個の真珠でできていた。 都 の 大通りは、透き通つたガラスのような 純 金であつた。

みやこ なか しんでん ぜんのうしや かみ しゆ こひつじ みやこ しんでん みやこ て たいよう つき ひつよう
°わたしは、 都 の中に神殿を見なかつた。全能者である神、主と小 羊 とが 都 の神殿だからである。°この 都 には、それを照らす太陽も月も、必要でな
かみ えいこう みやこ て こひつじ みやこ あ しょくく たみ みやこ ひかり なか ある ちじょう おう じぶん えいこう たずさ
い。神の栄光が 都 を照らしており、小 羊 が 都 の明かりだからである。°諸国の民は、 都 の 光 の中を歩き、地 上 の王たちは、自分たちの栄光を 携 え
みやこ く みやこ もん にちじゅうけつ と よる ひとびと しょくく たみ えいこう ぼま たずさ みやこ く
て、 都 に来る。° 都 の門は、一日 中 決して閉ざされない。そこには夜がないからである。°人々は、諸国の民の栄光と誉れとを 携 えて 都 に来る。°しかし
けが もの い いつわ おこな もの ひとり けつ みやこ はい こひつじ いのち しょ な もの はい
し、汚れた者、忌まわしいことと 偽 りを 行 う者はだれ一人、決して 都 に入れない。小 羊 の 命 の書に名が書いてある者だけが入れる。

22

てんし かみ こひつじ ぎよくご なが で すいしろう かがや いのち みず かわ み かわ みやこ おおどお ちゅうおう なが りょうがん
°天使はまた、神と小 羊 の 玉 座から流れ出て、水 晶 のように 輝 く 命 の水の川をわたしに見せた。°川は、 都 の大通りの 中 央を流れ、その 両 岸には
いのち き ねん かいみ むす まいつきみ き は しょくく たみ やまい なお のろ なにひと かみ こひつじ
命 の木があつて、年に十二回実を結び、毎月実をみのらせる。そして、その木の葉は諸国の民の 病 を治す。°もはや、呪われるものは何一つない。神と小 羊

ぎよく　さ　みやこ　かみ　しもべ　かみ　れいはい　みかお　あお　み　かれ　ひたい　かみ　な　しる　よる　び　ひかり　たいよう
の　玉　座が　都　にあって、神の　僕　たちは神を礼拝し、御顔を仰ぎ見る。彼らの　額　には、神の名が記されている。°もはや、夜はなく、ともし火の　光　も太陽の
ひかり　い　かみ　しゅ　しもべ　て　かれ　よ　よ　かぎ　とうち
光　も要らない。神である主が　僕　たちを照らし、彼らは世々限りなく統治するからである。

キリストの再臨

°そして、天使はわたしにこう言った。「これらの言葉は、信頼でき、また真実である。預言者たちの靈感の神、主が、その天使を送って、すぐにも起こるは
ずのことを、御自分の　僕　たちに示されたのである。°見よ、わたしはすぐに来る。この書物の預言の言葉を守る者は、幸いである。」

°わたしは、これらのことを聞き、また見たヨハネである。聞き、また見たとき、わたしは、このことを示してくれた天使の足もとにひれ伏して、拝もうとし
た。°すると、天使はわたしに言った。「やめよ。わたしは、あなたや、あなたの　兄　弟である預言者たちや、この書物の言葉を守っている人たちと共に、仕える
者である。神を礼拝せよ。」°また、わたしにこう言った。「この書物の預言の言葉を、秘密にしておいてはいけない。時が迫っているからである。°不正を行
う者には、なお不正を行　わせ、汚れた者は、なお汚れるままにしておけ。正しい者には、なお正しいことを　行　わせ、聖なる者は、なお聖なる者とならせよ。
°見よ、わたしはすぐに来る。わたしは、報いを　携　えて来て、それぞれの　行　いに応じて報いる。°わたしはアルファであり、オメガである。最初の者にして、
最後の者。初めてであり、終わりである。

°命　の木に対する権利を与えられ、門を通して　都　に入れるように、自分の　衣　を洗い清める者は　幸いである。°犬のような者、魔術を使う者、みだらな
ことをする者、人を殺す者、偶像を拝む者、すべて　偽　りを好み、また　行　う者は　都　の外にいる。

°わたし、イエスは使いを遣わし、諸　教　会のために以　上　のことをあなたがたに証した。わたしは、ダビデのひこばえ、その一族、輝く明けの　明　星　であ
る。」°霊　と花嫁とが言う。「来てください。」これを聞く者も言うがよい、「来てください」と。渇いている者は来るがよい。　命　の水が欲しい者は、価
なしに飲むがよい。

°この書物の預言の言葉を聞くすべての者に、わたしは証する。これに付け加える者があれば、神はこの書物に書いてある　災　いをその者に加えられる。°ま
た、この預言の書の言葉から何か取り去る者があれば、神は、この書物に書いてある　命　の木と聖なる　都　から、その者が受ける分を取り除かれる。

°以上　すべてを証する方が、言われる。「然り、わたしはすぐに来る。」アーメン、主イエスよ、来てください。

°主イエスの恵みが、すべての者と共にあるように。

日本聖書協会とは

「誰もが自分の言葉で自由に読める聖書を、適正な価格で手にすることができるように」その願いを実現するために、聖書協会の働きは**1804**年に英国で開始されました。日本における聖書普及活動は、**1875**（明治**8**）年、スコットランド聖書協会の日本支社設置に始まりました。翌年米国、英国の聖書協会がそれぞれ日本支社を設置、これらは、**1937**（昭和**12**）年に日本人による組織として合併し、日本聖書協会となりました。**1949**年には「財団法人」として認可されています。

日本聖書協会は、日本国内の諸教会と諸団体のご支援とご協力を得ながら、聖書の翻訳、出版、頒布、普及をして、御言葉^{みことば}を全ての人にお届けすることを目的としています。また日本聖書協会は、聖書協会世界連盟（**United Bible Societies**）の一員として、各国の聖書協会と同一組織・同一理念・同一使命をもって相互に協力しながら、全世界の聖書普及に努めています。